

本関町古墳群 関遺跡(2)

社会資本整備総合交付金事業（活力創出基盤整備）
国道462号（本関拡幅）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

本
関
遺
跡
古
墳
群
(2)

社会資本整備総合交付金事業（活力創出基盤整備）
国道462号（本関拡幅）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一四

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



本関町古墳群 関遺跡（2）

社会資本整備総合交付金事業（活力創出基盤整備）
国道462号（本関拡幅）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2014

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

裾野を大きく広げた雄大な赤城山の姿を北方に望む伊勢崎市の平野部、この地に本関町古墳群と関遺跡があります。南北に貫く国道462号の拡幅工事に伴い、群馬県伊勢崎土木事務所の委託を受けて、平成23年度から平成24年度にかけて公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこの遺跡の発掘調査を実施いたしました。

本関町古墳群は、粕川左岸に沿った細長い分布を示し、一ノ関古墳をはじめ、これまでも発掘調査が行われてきました。この度は南側での調査を行い、その範囲を推定することができました。

関遺跡の調査では、古墳時代の水田、古墳時代から平安時代にかけてのムラの跡、また中世から近世の畑耕作の跡などが発見されました。洪水層が厚く堆積している竪穴住居が見つかったことから、平安時代に洪水に見舞われたことが明らかになりました。そして、洪水被害に遭った後も人々は集落を営み続けていることもわかりました。また、「佐位郡」と刻書した紡輪の出土などから、この遺跡が古代佐位郡域内のムラであったと考えられ、その実態の一端を明らかにすることができました。

最後に、発掘調査から報告書の作成に至るまで、群馬県伊勢崎土木事務所をはじめ、群馬県教育委員会、伊勢崎市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には多大なご指導、ご協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様に心から感謝申し上げて序といたします。

平成26年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 上原訓幸

例 言

1. 本書は、平成23年度・平成24年度社会資本整備総合交付金事業(活力創出基盤整備)国道462号(本関拡幅)に伴う埋蔵文化財の発掘調査委託で実施された発掘調査の成果を、平成25年度社会資本整備総合交付金事業(活力創出基盤整備)国道462号(本関拡幅)に伴う埋蔵文化財の整理委託業務で実施した本関町古墳群、関遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本関町古墳群の所在地は、群馬県伊勢崎市本関町1214-1、1235-2、1235-4、1236-1、1237-2、1237-4、1237-7、1237-8、1237-10、1237-11、1238-1、1243-1、1243-2、1243-4、1243-17、1243-19、1243-20、1256である。
関遺跡の所在地は、群馬県伊勢崎市本関町5-2、5-3、6、12、13、14-1、14-3、16、22-3、25-1、25-3、27-3、27-4、27-5、27-6、28-1、28-4、29-1、30-2である。
3. 事業主体は群馬県伊勢崎土木事務所である。
4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 発掘調査の期間と体制は以下のとおりである。
平成23年度 履行期間 平成23年12月1日～平成24年3月31日
調査期間 平成23年12月1日～平成24年3月31日
担当者 関 晴彦(上席専門員)、友廣哲也(上席専門員)
委託 掘削請負 株式会社測研
遺構測量・デジタル編集業務 アコン測量設計株式会社
火山灰分析およびプラント・オパール分析 株式会社火山灰考古学研究所
平成24年度 履行期間 平成24年4月1日～12月31日
調査期間 平成24年4月1日～10月31日
担当者 友廣哲也(上席専門員)、山中 豊(主任調査研究員)
委託 掘削請負 株式会社測研
遺構測量・デジタル編集業務 株式会社シン技術コンサル
6. 整理事業の期間と体制は以下のとおりである。
平成24年度 履行期間 平成25年2月1日～3月31日
整理期間 平成25年2月1日～3月31日
担当者 須田正久(主任調査研究員)
平成25年度 履行期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
整理期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
担当者 石田典子(主任調査研究員)
7. 本報告書作成の担当者は以下のとおりである。
編集 須田正久、石田典子
デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)
遺物写真撮影 佐藤元彦(補佐(総括))、石田典子
遺物保存処理 関 邦一(補佐(総括))
実測・遺物観察表 縄文土器：谷藤保彦(上席専門員)
土師器・須恵器：徳江秀夫(上席専門員・資料統括)

陶磁器：大西雅広(上席専門員)

石器・石製品：岩崎泰一(上席専門員・資料統括)

金属製品：関 邦一

執筆 第6章第1節 高島英之(群馬県教育委員会文化財保護課)

第6章第3節 坂口 一(主席専門員・資料課長)

上記以外 石田典子

8. 鉄滓・羽口等の鉄関連遺物は笹澤泰史氏(群馬県教育委員会文化財保護課)に鑑定を依頼し、指導・助言を頂いた。
9. 刻書紡輪の分析は高島英之氏(群馬県教育委員会文化財保護課)に依頼した。本書では、紡錘車を「紡輪」と呼称したが、高島氏の前稿については「紡錘車」を用い、統一しなかった。また、第18・19表中の遺構名も本文と統一しなかった。
10. 石材同定は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。
11. 「付図3 本関町古墳群古墳分布図」は平成20年度に刊行した『本関町古墳群』(2008)財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第452集の付図1・2に加筆・訂正を行ったものである。訂正箇所は重田古墳の文字と㊦66-1、㊦66-2の文字を削除した点である。重田古墳は調査担当者への聞き取り等の調査を行ったが、位置が特定できなかったため、また、㊦66-1、㊦66-2の表記は誤りであったため削除した。
12. 記録資料・出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
13. 発掘調査に際しては、発掘現場作業に従事していただいた多くの方々や伊勢崎市をはじめ本遺跡周辺地域の多くの皆様からご支援、ご協力をいただきました。ここにあらためて感謝の意を表します。
14. 発掘調査および整理事業・本報告書の作成には下記の機関・諸氏よりご指導・ご教示を頂きました。記して感謝の意を表します。(敬称略)

群馬県伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、伊勢崎市教育委員会、桜場一寿、須長泰一、勢藤 力、早川隆弘、横澤真一

凡例

1. 本書で使用した座標値は日本測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。遺構図中にある+印とそれに付記される数値は国家座標値X・Y値を表す。なお、遺構図中に標記した数値は国家座標値の下3桁のみを用いて表記した。
2. 遺構図中で使用した北方位はすべて座標北である。なお、真北方向角は+0° 22' 12.95" である。
3. 遺構図・遺物図の縮尺は、各図中にそれぞれ示した。
4. 遺物写真は遺物図とほぼ同じ縮尺で掲載した。
5. 図中で使用したスクリーンパターンおよびマークは以下の通りである。

遺構図	硬化面 	焼土 	炭化物 	灰と焼土 	粘土 
	土器・土製品出土地点 ●	石器・石製品出土地点 ▲	金属製品出土地点 ■	炭化物 ×	
	斜面(急) 	斜面(緩) 			
遺物図	土器 煤 	赤彩 	釉 	黒色処理 	
	石製品	摩耗痕の範囲 	摩耗痕の範囲(断面図) 		
	鉄滓	鉄付着 	熱変質範囲	滓化(ガラス質) 	

6. 竪穴住居の面積は遺構検出面での面積をプランメーターを用いて計測した。
7. 遺構土層注記および土器・土製品の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠している。
8. 本書で使用した地図は下記の通りである。
第1図 国土地理院発行 20万分の1地勢図「長野」平成24年5月1日発行
「宇都宮」平成23年6月1日発行
第2・8図 国土地理院発行 2万5千分の1地形図「大胡」平成22年12月1日発行
「伊勢崎」平成15年2月1日発行
第3図・付図3 伊勢崎市発行 2千5百分の1現況図16・17・22・23 平成22年10月測図
第6図 『群馬県史通史編1』(1990)付図2を使用一部改変
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『喜多町遺跡』(2011)第2図を加筆修正して掲載
第7図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『喜多町遺跡』(2011)第98図を加筆修正して掲載
9. テフラについては以下の略称を用いた。
浅間B テフラ=As-B 天仁元年(1,108年)墳火起源
浅間C 軽石=As-C 3世紀末から4世紀初頭墳火起源
10. 遺構名称の変更について
遺構の性格の見直しにより整理段階で遺構名称の変更したものおよび遺構としての性格を持たないと判断して欠番とした遺構を第1表に掲載した。
11. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団または(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団を以下「群埋文」と表記する。

目次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経過と方法

- 第1節 発掘調査に至る経緯…………… 1
- 第2節 調査区の設定…………… 3
- 第3節 発掘調査の方法…………… 3
- 第4節 基本土層…………… 5
- 第5節 発掘調査の経過…………… 7
- 第6節 整理作業の経過…………… 8

第2章 地理的および歴史的環境

- 第1節 遺跡の位置と周辺の地形…………… 9
- 第2節 遺跡の歴史的環境…………… 10

第3章 本関町古墳群の調査

- 第1節 旧石器時代の遺物…………… 17
 - 1.概要…………… 17
 - 2.出土遺物…………… 18
- 第2節 縄文時代の遺構と遺物…………… 19
 - 1.概要…………… 19
 - 2.土坑…………… 19
 - 3.出土遺物…………… 22
- 第3節 古墳時代の遺構と遺物…………… 25
 - 1.概要…………… 25
 - 2.古墳…………… 25
- 第4節 その他の遺構と遺物…………… 37
 - 1.溝…………… 37
 - 2.土坑…………… 38
 - 3.ピット…………… 41

第4章 関遺跡の調査

- 第1節 縄文時代の遺物…………… 44
- 第2節 古墳時代の遺構と遺物(第3面)…………… 47
 - 1.概要…………… 47
 - 2.水田と大溝…………… 47
 - 3.溝…………… 58
 - 4.土坑…………… 61
 - 5.ピット…………… 64

第3節 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物 (第2面)

- 1.概要…………… 66
- 2.竪穴住居…………… 66
- 3.竪穴状遺構…………… 175
- 4.掘立柱建物と柵…………… 176
- 5.溝…………… 180
- 6.井戸…………… 188
- 7.土坑…………… 189
- 8.ピット…………… 193
- 9.遺物集中地点…………… 203
- 10.遺構外から出土した遺物…………… 208

第4節 中近世の遺構と遺物(第1面)…………… 212

- 1.概要…………… 212
- 2.畑…………… 212
- 3.溝…………… 220
- 4.土坑…………… 221
- 5.焼土…………… 222

第5章 自然科学分析

- 第1節 関遺跡の土層とテフラ…………… 224
- 第2節 関遺跡におけるプラント・オパール分析…………… 227

第6章 総括

- 第1節 伊勢崎市関遺跡出土刻書紡錘車…………… 230
- 第2節 関遺跡の竪穴住居…………… 241
- 第3節 伊勢崎市・本関町古墳群の成立背景
-湧水から河川への転換-…………… 249

本文参考文献…………… 259

土坑・ピット計測表…………… 261

土坑・ピット出土遺物一覧表…………… 267

遺物観察表…………… 269

写真図版

報告書抄録

付図

付図1:本関町古墳群全体図(1:400)

付図2:関遺跡全体図(1:400)

付図3:本関町古墳群古墳分布図(1:2,500)

挿図目次

第1図	本関町古墳群・関遺跡と群馬県の地勢(国土地理院1:200,000地勢図「長野」平成24年5月1日発行、「宇都宮」平成23年6月1日発行使用)……………1	第60図	1区11号竪穴住居と出土遺物……………76
第2図	本関町古墳群・関遺跡位置図(国土地理院1:25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)……………2	第61図	1区12号・13号竪穴住居と12号竪穴住居出土遺物……………77
第3図	遺跡と調査区範囲図(伊勢崎市現況図16・17・22・23 1:2,500平成22年10月測図使用)……………4	第62図	1区14号竪穴住居と出土遺物……………78
第4図	本関町古墳群の基本土層……………5	第63図	1区15号・2区1号竪穴住居と出土遺物……………79
第5図	関遺跡の基本土層……………6	第64図	2区2号竪穴住居と出土遺物……………80
第6図	遺跡周辺の地形(1:200,000)(『群馬県史通史編1』(1990)付図2を使用一部改変、群埋文『喜多町遺跡』(2011)第2図を加筆修正して掲載)……………9	第65図	2区3号竪穴住居と出土遺物……………81
第7図	伊勢崎市北部の地形区分図(群埋文『喜多町遺跡』(2011)第98図を加筆修正して掲載)……………9	第66図	2区4号竪穴住居と出土遺物……………82
第8図	周辺の遺跡位置図(国土地理院1:25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)……………12	第67図	2区5号竪穴住居……………83
第9図	旧石器時代確認調査トレンチ配置図……………17	第68図	2区5号竪穴住居出土遺物……………84
第10図	J区トレンチと土層断面、出土遺物……………18	第69図	2区6号竪穴住居……………84
第11図	H区1号・2号・4号・7号土坑と1号土坑出土遺物……………20	第70図	2区6号竪穴住居掘方・カマドと出土遺物……………85
第12図	H区15号土坑・J区3号土坑……………21	第71図	2区7号竪穴住居と出土遺物……………86
第13図	縄文時代の出土遺物(1)……………22	第72図	2区8-1号竪穴住居出土遺物……………87
第14図	縄文時代の出土遺物(2)……………23	第73図	2区8-1号・8-2号竪穴住居と8-2号竪穴住居出土遺物……………88
第15図	縄文時代の出土遺物(3)……………24	第74図	2区8-1号・8-2号竪穴住居カマド……………89
第16図	古墳時代の遺構配置図……………25	第75図	2区9号竪穴住居と出土遺物……………90
第17図	F区1号墳周堀(C区1号墳平面図は『本関町古墳群』(2008)より再録)……………26	第76図	2区10号竪穴住居……………91
第18図	F区1号墳周堀土層断面(F-F'～J-J'土層断面図と土層注記は『本関町古墳群』(2008)より再録)……………27	第77図	2区10号竪穴住居出土遺物……………92
第19図	F区1号墳周堀出土遺物(1)(2～6は『本関町古墳群』(2008)より再録)……………28	第78図	2区11号竪穴住居……………93
第20図	F区1号墳周堀出土遺物(2)(『本関町古墳群』(2008)より再録)……………29	第79図	2区11号竪穴住居出土遺物……………94
第21図	G区1号墳周堀と出土遺物……………30	第80図	2区12号竪穴住居と出土遺物……………95
第22図	G区1号墳周堀土層断面……………31	第81図	2区13号・14号竪穴住居と出土遺物……………96
第23図	G区2号墳周堀と出土遺物……………32	第82図	2区15号竪穴住居と出土遺物(1)……………97
第24図	H区1号墳周堀……………33	第83図	2区15号竪穴住居カマドと出土遺物(2)……………98
第25図	H区2号墳周堀……………34	第84図	2区16号・17号竪穴住居……………99
第26図	J区1号墳周堀と出土遺物(1)……………35	第85図	2区16号・17号竪穴住居カマドと出土遺物……………100
第27図	J区1号墳周堀出土遺物(2)……………36	第86図	3区1号竪穴住居……………101
第28図	G区1号・2号溝……………37	第87図	3区1号竪穴住居出土遺物……………102
第29図	F区1号・H区5号・6号・8号～10号・12号～14号土坑……………40	第88図	3区2号竪穴住居……………103
第30図	J区1号・2号土坑……………41	第89図	3区2号竪穴住居出土遺物……………104
第31図	G区ピット全体図と1号～15号ピット土層断面……………42	第90図	3区3号竪穴住居と出土遺物(1)……………105
第32図	H区ピット全体図と1号・2号ピット土層断面……………43	第91図	3区3号竪穴住居カマドと出土遺物(2)……………106
第33図	J区ピット全体図と1号・2号ピット土層断面……………43	第92図	3区4号竪穴住居……………107
第34図	関遺跡トレンチ配置図……………44	第93図	3区4号竪穴住居出土遺物……………108
第35図	縄文時代の出土遺物(1)……………45	第94図	3区5号竪穴住居と出土遺物……………109
第36図	縄文時代の出土遺物(2)……………46	第95図	3区6号竪穴住居……………110
第37図	1区水田と土層断面……………48	第96図	3区6号竪穴住居カマドと出土遺物……………111
第38図	2区水田と断面……………49	第97図	3区7号竪穴住居と出土遺物……………112
第39図	2区水田と断面……………50	第98図	3区8号竪穴住居と出土遺物……………113
第40図	3区水田と断面……………51	第99図	3区9号竪穴住居……………114
第41図	4区水田と土層断面……………52	第100図	3区9号竪穴住居掘方と出土遺物(1)……………115
第42図	5区水田と土層断面……………53	第101図	3区9号竪穴住居出土遺物(2)……………116
第43図	6区水田……………54	第102図	3区10号竪穴住居……………117
第44図	水田被覆砂層・大溝出土遺物……………54	第103図	3区11号竪穴住居出土遺物……………117
第45図	1区・2区9号溝と4区2号溝……………59	第104図	3区11号竪穴住居……………118
第46図	5区2号・3号・5号溝……………60	第105図	3区12号竪穴住居と出土遺物……………118
第47図	5区6号～8号・10号～18号土坑……………63	第106図	3区13号・14号竪穴住居出土遺物……………119
第48図	2区ピット全体図と25号ピット土層断面……………64	第107図	3区13号・14号竪穴住居……………120
第49図	3区ピット全体図と47号・51号ピット土層断面……………64	第108図	4区1号竪穴住居……………121
第50図	5区ピット全体図と35号・36号ピット土層断面……………65	第109図	4区1号竪穴住居出土遺物……………122
第51図	1区1号竪穴住居と出土遺物……………67	第110図	4区2号竪穴住居と出土遺物……………122
第52図	1区2号竪穴住居……………68	第111図	4区3号竪穴住居……………123
第53図	1区2号竪穴住居掘方・カマド土層断面と出土遺物……………69	第112図	4区3号竪穴住居カマドと出土遺物……………124
第54図	1区5号竪穴住居と出土遺物(1)……………70	第113図	4区4号竪穴住居……………125
第55図	1区5号竪穴住居出土遺物(2)……………71	第114図	4区4号竪穴住居カマド……………126
第56図	1区6号・7号竪穴住居と6号竪穴住居出土遺物……………72	第115図	4区4号竪穴住居出土遺物……………127
第57図	1区7号竪穴住居出土遺物……………73	第116図	4区5号竪穴住居……………128
第58図	1区8号・9号竪穴住居と出土遺物……………74	第117図	4区5号竪穴住居出土遺物……………129
第59図	1区10号竪穴住居と出土遺物……………75	第118図	5区1号竪穴住居出土遺物……………129
		第119図	5区1号竪穴住居……………130
		第120図	5区2号竪穴住居と出土遺物……………131
		第121図	5区3号竪穴住居……………132
		第122図	5区3号竪穴住居掘方と出土遺物……………133
		第123図	5区4号竪穴住居……………134
		第124図	5区4号竪穴住居出土遺物……………135
		第125図	5区5号竪穴住居と出土遺物……………136
		第126図	5区6号竪穴住居……………137
		第127図	5区6号竪穴住居掘方と出土遺物……………138
		第128図	5区7号竪穴住居と出土遺物……………139
		第129図	5区8号竪穴住居と出土遺物(1)……………140
		第130図	5区8号竪穴住居出土遺物(2)……………141

第131図	5区9号竪穴住居出土遺物	141
第132図	5区9号竪穴住居	142
第133図	5区10号竪穴住居	143
第134図	5区10号竪穴住居出土遺物	144
第135図	5区11号・12号竪穴住居	145
第136図	5区11号・12号竪穴住居掘方と11号竪穴住居出土遺物	146
第137図	5区11号・12号竪穴住居出土遺物	147
第138図	5区12号竪穴住居出土遺物	148
第139図	5区13号竪穴住居	149
第140図	5区13号竪穴住居掘方と出土遺物(1)	150
第141図	5区13号竪穴住居出土遺物(2)	151
第142図	5区14号竪穴住居	152
第143図	5区14号竪穴住居出土遺物	153
第144図	5区15号竪穴住居と出土遺物	154
第145図	5区15号竪穴住居カマド	155
第146図	5区16号竪穴住居と出土遺物	156
第147図	5区16号竪穴住居掘方とカマド	157
第148図	5区16号竪穴住居出土遺物	158
第149図	5区17号竪穴住居と出土遺物	159
第150図	6区1号竪穴住居と出土遺物	160
第151図	6区2号竪穴住居	161
第152図	6区2号竪穴住居出土遺物	162
第153図	6区3号竪穴住居出土遺物(1)	162
第154図	6区3号竪穴住居	163
第155図	6区3号竪穴住居掘方と出土遺物(2)	164
第156図	6区3号竪穴住居カマドと出土遺物(3)	165
第157図	6区3号竪穴住居出土遺物(4)	166
第158図	6区4号竪穴住居出土遺物(1)	166
第159図	6区4号竪穴住居と出土遺物(2)	167
第160図	6区5号竪穴住居と出土遺物、6号竪穴住居出土遺物	168
第161図	6区6号竪穴住居	169
第162図	6区7号竪穴住居	170
第163図	6区8号竪穴住居出土遺物	170
第164図	6区8号竪穴住居	171
第165図	6区9号竪穴住居と出土遺物	172
第166図	6区10号竪穴住居と出土遺物	173
第167図	6区11号竪穴住居	174
第168図	5区1号竪穴状遺構と出土遺物	175
第169図	2区1号掘立柱建物	176
第170図	4区1号掘立柱建物	177
第171図	4区2号掘立柱建物と出土遺物	178
第172図	3区1号柵	179
第173図	2区1号・2号溝と1号溝出土遺物	181
第174図	2区3号・5号～8号溝と3号・6号溝出土遺物	183
第175図	2区～5区4号溝出土遺物	184
第176図	2区～5区4号溝(1)	185
第177図	2区～5区4号溝(2)	186
第178図	4区1号溝・6区1号溝と出土遺物	187
第179図	2区1号・4区1号井戸と出土遺物	188
第180図	2区4号・3区5号・8号・9号・17号・18号・24号～26号・30号・5区1号土坑と3区8号・25号土坑出土遺物	190
第181図	2区2号・3号・3区10号・12号・13号～15号・20号～23号・5区2号・4号土坑と3区21号土坑出土遺物	191
第182図	3区6号・7号・11号・16号・19号・27号～29号4区4号・5区3号・5号・6区1号・2号土坑と3区7号・28号・29号・5区3号土坑出土遺物	192
第183図	1区ピット全体図と1号～15号ピット土層断面	193
第184図	2区ピット全体図(1)と13号・14号・24号ピット土層断面	194
第185図	2区ピット全体図(2)	195
第186図	2区1号・4号～12号・15号～17号ピット土層断面	196
第187図	3区ピット全体図(1)と42号～45号ピット土層断面	196

第188図	3区ピット全体図(2)	197
第189図	3区1号～22号・25号～28号・30号・32号～41号ピット土層断面	198
第190図	4区ピット全体図と4号・6号ピット土層断面	199
第191図	5区ピット全体図(1)と33号・34号ピット土層断面	200
第192図	5区ピット全体図(2)	201
第193図	5区1号～32号ピット土層断面と30号ピット出土遺物	202
第194図	3区遺物集中地点出土遺物(1)	203
第195図	3区遺物集中地点出土遺物(2)	204
第196図	3区遺物集中地点出土遺物(3)	205
第197図	3区遺物集中地点出土遺物(4)	206
第198図	5区遺物集中地点出土遺物	207
第199図	遺構外出土遺物(1)	208
第200図	遺構外出土遺物(2)	209
第201図	遺構外出土遺物(3)	210
第202図	遺構外出土遺物(4)	211
第203図	1区1号畑全体図	212
第204図	2区1号畑全体図	213
第205図	2区2号畑全体図	213
第206図	2区3号畑全体図	214
第207図	2区4号畑全体図	214
第208図	2区5号畑全体図	215
第209図	2区6号畑全体図	215
第210図	3区1号・2号畑全体図	216
第211図	4区1号～4号畑全体図	217
第212図	5区1号～3号畑全体図	218
第213図	6区1号畑全体図と出土遺物	219
第214図	2区・3区畑出土遺物	220
第215図	4区3号溝と出土遺物	220
第216図	2区1号・3区1号～4号土坑と4号土坑出土遺物	222
第217図	2区1号・2号焼土と出土遺物	223
第218図	テフラ検出分析およびプラント・オパール分析の試料採取地点	224
第219図	1区南壁の土層柱状図	225
第220図	1区北壁の土層柱状図	225
第221図	関遺跡におけるプラント・オパール分析結果	228
第222図	植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真	229
第223図	刻書紡錘車	240
第224図	関遺跡洪水層と竪穴住居の時期	242
第225図	竪穴住居時期別変遷(6世紀)	243
第226図	竪穴住居時期別変遷(7世紀)	244
第227図	竪穴住居時期別変遷(8世紀)	245
第228図	竪穴住居時期別変遷(9世紀)	246
第229図	竪穴住居時期別変遷(10世紀)	247
第230図	竪穴住居時期別変遷(11世紀)	248
第231図	本関町古墳群と関遺跡(S=1:7,000)	249
第232図	本関町古墳群と周辺集落の位置図(S=1:25,000、国土地理院地形図『大胡』)	250
第233図	本関町古墳群と周辺集落(S=1:8,000)	250
第234図	本関町古墳群周辺集落の推移(グラフの淡い部分が関遺跡)	250
第235図	周辺集落の竪穴住居分布図(3・4世紀)	252
第236図	周辺集落の竪穴住居分布図(5世紀)	252
第237図	周辺集落の竪穴住居分布図(6世紀)	253
第238図	周辺集落の竪穴住居分布図(7世紀)	253
第239図	関遺跡水田(S=1:1,000)	254
第240図	関遺跡水田被覆洪水層内出土土器(S=1:4)	254
第241図	五日牛清水水田遺跡低地部基本土層模式図	255
第242図	三和工業団地I遺跡谷A谷頭掘削痕・出土遺物	256
第243図	関遺跡水田上位の6世紀後半以降の竪穴住居分布	257
第244図	関遺跡竪穴住居数の推移	258
第245図	本関町古墳群周辺集落の推移	258

表 目 次

第1表	遺構名変更一覧表	8
第2表	周辺の遺跡一覧表	13
第3表	本関町古墳群遺構一覧表	17
第4表	水田区画一覧表	55
第5表	古墳時代～奈良・平安時代の検出遺構一覧表	66
第6表	5区4号竪穴住居ピット計測表	134
第7表	5区6号竪穴住居ピット計測表	138
第8表	5区10号竪穴住居床下土坑計測表	143
第9表	5区11号竪穴住居ピット計測表	145
第10表	6区3号竪穴住居ピット計測表	163

第11表	6区6号竪穴住居ピット計測表	169
第12表	2区1号掘立柱建物ピット計測表	176
第13表	4区1号掘立柱建物ピット計測表	177
第14表	4区2号掘立柱建物ピット計測表	178
第15表	3区1号柵ピット計測表	179
第16表	テフラ検出分析結果	225
第17表	関遺跡におけるプラント・オパール分析結果	228
第18表	上野区域内出土古代刻書紡錘車	236
第19表	武蔵域内出土古代刻書紡錘車	238
第20表	時期別住居数一覧表	242

写真図版目次

PL. 1	1. 本関町古墳群G区・H区全景(南から)		
PL. 2	1. H区6号トレンチ 全景・巨石検出状況(東から) 2. H区6号トレンチ 土層断面・巨石検出状況(南西から) 3. G区3号トレンチ 土層断面(南から) 4. J区1号トレンチ全景(東から) 5. J区1号トレンチ土層断面(南から) 6. J区1号トレンチ剥片(第10図1)出土状態(西から) 7. J区1号トレンチ剥片(第10図1)出土状態(西から)	PL.13	1. 1区水田全景(北から) 2. 1区水田北半分(西から) 3. 1区水田南半分(西から) 4. 1区水田大畦(南から) 5. 1区水田大畦土層断面(南から)
PL. 3	1. H区1号土坑土層断面(南から) 2. H区2号土坑土層断面(南東から) 3. H区4号土坑全景(北西から) 4. H区7号土坑全景(西から) 5. H区15号土坑全景(西から) 6. H区15号土坑土層断面(南西から) 7. J区3号土坑遺物出土状態(東から) 8. J区3号土坑土層断面(北東から)	PL.14	1. 2区・3区水田全景(北から)
PL. 4	1. F区・G区全景(南から) 2. F区全景(南から) 3. F区全景(北から) 4. F区1号墳周堀土層断面A-A' (南から) 5. F区1号墳周堀(左側)土師器壺(第19図1)出土状態(西から)	PL.15	1. 2区・3区水田全景(北から) 2. 2区水田全景(北から) 3. 2区水田畦畔・水口(北から) 4. 2区水田水口(西から) 5. 2区・3区水田調査風景(南から)
PL. 5	1. G区・H区全景(北から) 2. G区全景(北から)	PL.16	1. 3区水田(北東から) 2. 4区水田北部(西から) 3. 4区水田中央部(西から) 4. 4区水田南部(北西から) 5. 4区水田北半分(北から) 6. 5区水田北半分(南から) 7. 5区水田南半分(北から)
PL. 6	1. G区1号墳周堀遺物出土状態(北から) 2. G区1号墳周堀遺物出土状態(北から) 3. G区1号墳周堀土層断面A-A' (東から) 4. G区1号・2号墳周堀土層断面C-C' (南から) 5. G区1号墳周堀土層断面D-D' (東から) 6. G区1号墳周堀土層断面E-E' (西から) 7. G区2号墳周堀土層断面C-C' (南から) 8. G区2号墳周堀土層断面D-D' (北から)	PL.17	1. 5区2号溝全景(南から) 2. 5区3号溝全景(南西から) 3. 5区6号土坑全景(南から) 4. 5区6号土坑土層断面(南から) 5. 5区7号土坑全景(南から) 6. 5区7号土坑土層断面(南から)
PL. 7	1. H区全景(北西から) 2. H区全景(北西から)	PL.18	1. 5区8号土坑全景(南西から) 2. 5区10号土坑全景(南から) 3. 5区10号土坑土層断面(南から) 4. 5区11号土坑全景(西から) 5. 5区11号土坑土層断面(西から) 6. 5区12号土坑全景(南から) 7. 5区12号土坑土層断面(西から) 8. 5区13号土坑全景(南から)
PL. 8	1. H区1号墳周堀土層断面B-B' (西から) 2. H区1号墳周堀土層断面C-C' (北東から) 3. H区1号墳周堀北東三角部3土層断面(西から) 4. H区1号墳周北東三角部2全景(西から) 5. H区1号墳周堀北東三角部2南壁(北から) 6. H区2号墳周堀土層断面B-B' (東から) 7. H区2号墳周堀土層断面C-C' (南東から) 8. H区2号墳周堀土層断面C-C' (南東から)	PL.19	1. 5区13号土坑土層断面(南から) 2. 5区14号土坑全景(南から) 3. 5区14号土坑土層断面(南から) 4. 5区15号土坑全景(南東から) 5. 5区15号土坑土層断面(北東から) 6. 5区16号土坑全景(西から) 7. 5区17号土坑全景(西から) 8. 5区18号土坑全景(南から)
PL. 9	1. J区全景(北から) 2. J区1号墳全景(北から)	PL.20	1. 1区第2面全景(北から) 2. 2区・3区第2面全景(北から)
PL.10	1. J区1号墳周堀(北西から) 2. J区1号墳周堀土層断面A-A' (北西から) 3. J区1号墳周堀土師器杯(第23図1)出土状態(北西から) 4. J区1号墳周堀・1号土坑土層断面B-B' (北西から) 5. J区1号墳周堀・1号土坑土層断面B-B' (北西から) 6. J区1号墳周堀土層断面B-B' (北西から) 7. J区1号墳周堀遺物出土状態(北西から)	PL.21	1. 5区第2面全景北半分(南から) 2. 5区第2面全景南半分(北から)
PL.11	1. G区1号・2号溝全景(西から) 2. G区2号溝遺物出土状態(西から) 3. H区5号土坑全景(北東から) 4. H区6号土坑遺物出土状態(西から) 5. H区14号土坑全景(南西から) 6. J区1号土坑全景(北西から) 7. J区1号土坑土層断面(北西から) 8. J区2号土坑土層断面(北東から)	PL.22	1. 1区1号・2号竪穴住居全景(北東から) 2. 1区1号・2号竪穴住居土層断面(南東から) 3. 1区1号・2号竪穴住居土層断面(東から) 4. 1区1号竪穴住居カマド全景(西から) 5. 1区1号竪穴住居カマド土層断面(北東から) 6. 1区1号竪穴住居カマド遺物出土状態(北西から) 7. 1区1号竪穴住居カマド遺物出土状態(北から) 8. 1区1号竪穴住居床面鉄分の凝集検出状況(北から)
PL.12	1. 調査区遠景(南から) 2. 1区北壁土層断面(南から) 3. 1区北壁土層断面近接(南から) 4. 1区南壁土層断面(北から)	PL.23	1. 1区2号竪穴住居全景(北から) 2. 1区2号竪穴住居土層断面(南東から) 3. 1区2号竪穴住居土層断面(南から) 4. 1区2号竪穴住居(右側)須恵器杯(第53図4)出土状態(北から) 5. 1区2号竪穴住居掘方全景(北から)
		PL.24	1. 1区5号竪穴住居土層断面(南西から) 2. 1区5号竪穴住居掘方全景(南西から) 3. 1区6号竪穴住居全景(南東から) 4. 1区6号竪穴住居土層断面(南から)

5. 1区6号竪穴住居掘方全景(南東から)
- PL.25 1. 1区7号竪穴住居全景(西から)
2. 1区7号竪穴住居土層断面(北東から)
3. 1区7号竪穴住居遺物出土状態(南から)
4. 1区7号竪穴住居掘方全景(南東から)
5. 1区7号竪穴住居掘方土層断面(南東から)
- PL.26 1. 1区8号竪穴住居全景(南西から)
2. 1区8号竪穴住居土層断面(南東から)
3. 1区9号竪穴住居全景(北から)
4. 1区9号竪穴住居土層断面(南東から)
5. 1区9号竪穴住居掘方全景(南から)
- PL.27 1. 1区10号竪穴住居全景(南から)
2. 1区10号竪穴住居土層断面(南から)
3. 1区10号竪穴住居掘方全景(南から)
4. 1区10号竪穴住居掘方全景(南西から)
5. 1区11号竪穴住居土層断面(南西から)
6. 1区11号竪穴住居土層断面(南東から)
7. 1区11号竪穴住居掘方全景(南から)
8. 1区11号竪穴住居掘方土層断面(南東から)
- PL.28 1. 1区12号竪穴住居全景(南から)
2. 1区12号竪穴住居土層断面(南東から)
3. 1区12号竪穴住居掘方全景(南から)
4. 1区13号竪穴住居全景(南から)
5. 1区13号竪穴住居掘方全景(南東から)
- PL.29 1. 1区14号竪穴住居全景(西から)
2. 1区14号竪穴住居土層断面(南東から)
3. 1区14号竪穴住居掘方全景(南から)
4. 1区14号竪穴住居掘方土層断面(南から)
5. 1区15号竪穴住居全景(南東から)
6. 1区15号竪穴住居土層断面(南西から)
7. 1区15号竪穴住居掘方全景(南から)
8. 1区15号竪穴住居掘方土層断面(南西から)
- PL.30 1. 2区1号竪穴住居全景(南から)
2. 2区1号竪穴住居土層断面(南西から)
3. 2区1号竪穴住居土層断面(西から)
4. 2区1号竪穴住居掘方全景(南から)
5. 2区2号竪穴住居全景(南から)
6. 2区2号竪穴住居土層断面(南西から)
7. 2区2号竪穴住居土層断面(南西から)
8. 2区2号竪穴住居掘方全景(南から)
- PL.31 1. 2区3号竪穴住居全景(南から)
2. 2区3号竪穴住居土層断面(南から)
3. 2区3号竪穴住居カマド全景(西から)
4. 2区3号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)
5. 2区4号竪穴住居全景(西から)
- PL.32 1. 2区4号竪穴住居土師器杯(第66図2)出土状態(北から)
2. 2区4号竪穴住居土師器杯(第66図1)出土状態(北から)
3. 2区4号竪穴住居土層断面(南から)
4. 2区4号竪穴住居土層断面(西から)
5. 2区4号竪穴住居カマド土層断面(北西から)
6. 2区4号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
7. 2区4号竪穴住居掘方全景(西から)
8. 2区4号竪穴住居掘方土層断面(南西から)
- PL.33 1. 2区5号竪穴住居全景(西から)
2. 2区5号竪穴住居土層断面(南西から)
3. 2区5号竪穴住居土層断面(西から)
4. 2区5号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
5. 2区5号竪穴住居土師器杯(第68図1・2)出土状態(南から)
- PL.34 1. 2区5号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
2. 2区5号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
3. 2区5号竪穴住居掘方全景(西から)
4. 2区5号竪穴住居掘方土層断面(南西から)
5. 2区6号竪穴住居全景(西から)
- PL.35 1. 2区6号竪穴住居土層断面(西から)
2. 2区6号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
3. 2区6号竪穴住居カマド全景(西から)
4. 2区6号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
5. 2区7号竪穴住居全景(北西から)
6. 2区7号竪穴住居土層断面(南西から)
7. 2区7号竪穴住居掘方全景(南から)
8. 2区7号竪穴住居掘方土師器杯(第71図1)出土状態(南から)
- PL.36 1. 2区8-1号・8-2号竪穴住居全景(西から)
2. 2区8-1号・8-2号竪穴住居土層断面(北西から)
3. 2区8-2号竪穴住居遺物出土状態(南から)
4. 2区8-2号竪穴住居土師器杯(第73図1)出土状態(南から)
5. 2区8-1号・8-2号竪穴住居調査風景(南から)
- PL.37 1. 2区8-2号竪穴住居カマド全景(西から)
2. 2区8-2号竪穴住居土師器杯(第73図6)出土状態(南東から)
3. 2区8-1号竪穴住居カマド全景(西から)
4. 2区8-1号竪穴住居カマド土層断面(南から)
5. 2区8-1号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
6. 2区8-1号竪穴住居カマド掘方土層断面(南から)
7. 2区8-1号・8-2号竪穴住居掘方全景(西から)
8. 2区8-2号竪穴住居掘方土層断面(西から)
- PL.38 1. 2区9号竪穴住居全景(南から)
2. 2区9号竪穴住居土層断面(南西から)
3. 2区9号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
4. 2区9号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
5. 2区9号竪穴住居掘方全景(南から)
- PL.39 1. 2区10号竪穴住居全景(西から)
2. 2区10号竪穴住居土層断面(南から)
3. 2区10号竪穴住居土師器杯(第77図1)出土状態(北から)
4. 2区10号竪穴住居カマド全景(西から)
5. 2区10号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)
- PL.40 1. 2区10号竪穴住居カマド(中央)土師器杯(第77図3)出土状態(南から)
2. 2区10号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
3. 2区10号竪穴住居カマド調査風景(南から)
4. 2区10号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
5. 2区10号竪穴住居掘方全景(西から)
6. 2区10号竪穴住居掘方土層断面(南から)
7. 2区11号竪穴住居全景(西から)
8. 2区11号竪穴住居土層断面(西から)
- PL.41 1. 2区11号竪穴住居カマド・貯蔵穴全景(西から)
2. 2区11号竪穴住居カマド全景(西から)
3. 2区11号竪穴住居(上)土師器杯(第79図1)・(下)須恵器杯(第79図5)出土状態(南から)
4. 2区11号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
5. 2区11号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
6. 2区11号竪穴住居貯蔵穴全景(西から)
7. 2区11号竪穴住居貯蔵穴須恵器杯(第78図7)出土状態(西から)
8. 2区11号竪穴住居掘方全景(西から)
- PL.42 1. 2区12号竪穴住居全景(西から)
2. 2区12号竪穴住居土層断面(南から)
3. 2区12号竪穴住居土層断面(西から)
4. 2区12号竪穴住居床面焼土・灰検出状況(西から)
5. 2区12号竪穴住居床面焼土・灰検出状況(北から)
- PL.43 1. 2区12号竪穴住居カマド全景(西から)
2. 2区12号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
3. 2区12号竪穴住居掘方全景(西から)
4. 2区12号竪穴住居調査風景(南東から)
5. 2区13号竪穴住居全景(南から)
6. 2区13号竪穴住居掘方土層断面(東から)
7. 2区13号竪穴住居カマド全景(南から)
8. 2区13号竪穴住居カマド掘方土層断面(南から)
- PL.44 1. 2区14号竪穴住居全景(南から)
2. 2区14号竪穴住居土層断面(東から)
3. 2区15号竪穴住居全景(南から)
4. 2区15号竪穴住居土層断面(東から)
5. 2区15号竪穴住居遺物出土状態(南から)
6. 2区15号竪穴住居遺物出土状態(南から)
- PL.45 1. 2区15号竪穴住居カマド全景(西から)

	2. 2区15号竪穴住居掘方全景(南から)		PL.55	1. 3区9号竪穴住居全景(西から)
	3. 2区15号竪穴住居カマド土層断面(南西から)			2. 3区9号竪穴住居土層断面(南西から)
	4. 2区16号竪穴住居全景(南から)			3. 3区9号竪穴住居土層断面(南西から)
	5. 2区16号・17号竪穴住居掘方土層断面(東から)			4. 3区9号竪穴住居紡輪(第97図9)出土状態(南から)
	6. 2区16号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)			5. 3区9号竪穴住居掘方調査風景(西から)
PL.46	7. 2区16号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)	PL.56		1. 3区9号竪穴住居カマド全景(西から)
	1. 2区16号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)			2. 3区9号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
	2. 2区16号竪穴住居カマド遺物出土状態(東から)			3. 3区9号竪穴住居カマド土師器甕(第101図21)出土状態(南西から)
	3. 2区16号竪穴住居カマド土層断面(南東から)			4. 3区9号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
	4. 2区16号竪穴住居カマド土層断面(北西から)			5. 3区9号竪穴住居掘方全景(西から)
	5. 2区16号竪穴住居貯蔵穴全景(西から)			6. 3区9号竪穴住居掘方土層断面(南西から)
	6. 2区17号竪穴住居全景(南から)			7. 3区10号竪穴住居全景(南から)
	7. 2区17号竪穴住居カマド全景(西から)			8. 3区10号竪穴住居全景と土層断面(南東から)
PL.47	8. 2区17号竪穴住居カマド土層断面(北東から)	PL.57		1. 3区11号竪穴住居全景(南から)
	1. 3区1号竪穴住居全景(西から)			2. 3区11号竪穴住居掘方全景(南から)
	2. 3区1号竪穴住居全景(南から)			3. 3区11号竪穴住居掘方遺物出土状態(北から)
	3. 3区1号竪穴住居土層断面(北から)			4. 3区11号竪穴住居掘方土師器杯(第104図2・3)出土状態(北から)
	4. 3区1号竪穴住居カマド全景(西から)			5. 3区11号竪穴住居掘方土師器杯(第104図3)出土状態(東から)
	5. 3区1号竪穴住居カマド全景(西から)			6. 3区12号・4号竪穴住居掘方全景(南西から)
	6. 3区1号竪穴住居掘方全景(西から)			7. 3区12号・4号竪穴住居掘方全景(南から)
PL.48	7. 3区1号竪穴住居掘方全景(西から)			8. 3区12号竪穴住居須恵器盤(第105図2)出土状態(南から)
	1. 3区2号竪穴住居全景(西から)	PL.58		1. 3区13号竪穴住居全景(北から)
	2. 3区2号竪穴住居土層断面(南西から)			2. 3区13号竪穴住居土層断面(西から)
	3. 3区2号竪穴住居土層断面(西から)			3. 3区13号竪穴住居掘方全景(北から)
	4. 3区2号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)			4. 3区13号竪穴住居掘方土層断面(西から)
PL.49	5. 3区2号竪穴住居カマド遺物出土状態(北から)			5. 3区14号竪穴住居全景(北から)
	1. 3区2号竪穴住居カマド土層断面(南西から)			6. 3区14号竪穴住居土層断面(西から)
	2. 3区2号竪穴住居カマド掘方土層断面(北から)			7. 3区14号竪穴住居掘方全景(北から)
	3. 3区2号竪穴住居掘方全景(西から)			8. 3区14号竪穴住居掘方土層断面(東から)
	4. 3区2号竪穴住居掘方土層断面(南から)	PL.59		1. 4区1号竪穴住居全景(西から)
	5. 3区3号竪穴住居全景(西から)			2. 4区1号竪穴住居土層断面(南から)
PL.50	1. 3区3号竪穴住居土層断面(南から)			3. 4区1号竪穴住居カマド全景(南西から)
	2. 3区3号竪穴住居須恵器杯(第90図5)出土状態(東から)			4. 4区1号竪穴住居カマド土層断面(南から)
	3. 3区3号竪穴住居遺物出土状態(北から)			5. 4区1号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)
	4. 3区3号竪穴住居カマド全景(西から)	PL.60		1. 4区1号竪穴住居掘方全景(西から)
	5. 3区3号竪穴住居カマド土層断面(南西から)			2. 4区1号竪穴住居掘方土層断面(南から)
	6. 3区3号竪穴住居カマド(中央)土師器甕(第91図7)出土状態(西から)			3. 4区1号竪穴住居床下土坑全景(南から)
	7. 3区3号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(北から)			4. 4区1号竪穴住居床下土坑土層断面(南から)
PL.51	8. 3区3号竪穴住居掘方全景(西から)			5. 4区2号竪穴住居土層断面(西から)
	1. 3区4号竪穴住居全景(南から)			6. 4区2号竪穴住居掘方全景(南から)
	2. 3区4号竪穴住居土層断面(南から)			7. 4区2号竪穴住居土師器杯(第110図1)出土状態(南から)
	3. 3区4号竪穴住居掘方遺物出土状態(北から)	PL.61		1. 4区3号竪穴住居全景(西から)
	4. 3区4号竪穴住居掘方遺物出土状態(北東から)			2. 4区3号竪穴住居土層断面(南から)
	5. 3区4号竪穴住居掘方土師器杯(第93図1)出土状態(北から)			3. 4区3号竪穴住居カマド全景(西から)
PL.52	1. 3区5号竪穴住居全景(西から)			4. 4区3号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
	2. 3区5号竪穴住居土層断面(南から)			5. 4区3号竪穴住居掘方全景(西から)
	3. 3区5号竪穴住居カマド全景(西から)	PL.62		1. 4区4号竪穴住居全景(南から)
	4. 3区5号竪穴住居カマド土層断面(北から)			2. 4区4号竪穴住居土層断面(東から)
	5. 3区5号竪穴住居貯蔵穴全景(西から)			3. 4区4号竪穴住居カマド全景(西から)
	6. 3区5号竪穴住居貯蔵穴土層断面(北から)			4. 4区4号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
	7. 3区5号竪穴住居掘方全景(西から)			5. 4区5号竪穴住居全景(南から)
	8. 3区5号竪穴住居床下土坑土層断面(南から)			6. 4区5号竪穴住居土層断面(南西から)
PL.53	1. 3区6号竪穴住居全景(南西から)			7. 4区5号竪穴住居紡輪(第117図6)出土状態(南から)
	2. 3区6号竪穴住居土層断面(南西から)			8. 4区5号竪穴住居カマド全景(西から)
	3. 3区6号竪穴住居カマド全景(北西から)	PL.63		1. 5区1号竪穴住居全景(北東から)
	4. 3区6号竪穴住居カマド土層断面(南西から)			2. 5区1号竪穴住居土層断面(南から)
	5. 3区6号竪穴住居掘方土層断面(南西から)			3. 5区1号竪穴住居カマド全景と土師器杯(第118図1)出土状態(北東から)
	6. 3区7号竪穴住居全景(南西から)			4. 5区1号竪穴住居カマド土層断面(南東から)
	7. 3区7号竪穴住居土層断面(南から)			5. 5区1号竪穴住居掘方全景(北東から)
	8. 3区7号竪穴住居掘方全景(南西から)	PL.64		1. 5区2号竪穴住居全景(西から)
PL.54	1. 3区8号竪穴住居全景(西から)			2. 5区2号竪穴住居土層断面(南から)
	2. 3区8号竪穴住居土層断面(南西から)			3. 5区2号竪穴住居カマド全景(西から)
	3. 3区8号竪穴住居カマド全景(西から)			4. 5区2号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
	4. 3区8号竪穴住居カマド土層断面(南西から)			
	5. 3区8号竪穴住居掘方全景(西から)			

5. 5区2号竪穴住居掘方全景(西から)
- PL.65 1. 5区3号竪穴住居全景(西から)
2. 5区3号竪穴住居土層断面(南から)
3. 5区3号竪穴住居遺物出土状態(東から)
4. 5区3号竪穴住居遺物出土状態(東から)
5. 5区3号竪穴住居土師器杯(第122図2)出土状態(東から)
- PL.66 1. 5区3号竪穴住居掘方全景(西から)
2. 5区3号竪穴住居掘方土層断面(南から)
3. 5区4号竪穴住居全景(北東から)
4. 5区4号竪穴住居土層断面(西から)
5. 5区4号竪穴住居土層断面(南から)
- PL.67 1. 5区4号竪穴住居遺物出土状態(北東から)
2. 5区4号竪穴住居カマド全景(北東から)
3. 5区4号竪穴住居カマド土層断面(北東から)
4. 5区4号竪穴住居カマド(手前)土師器甕(第124図13)・(奥)土師器杯(第124図4)出土状態(北東から)
5. 5区4号竪穴住居貯蔵穴全景(東から)
6. 5区4号竪穴住居貯蔵穴土層断面(南から)
7. 5区4号竪穴住居掘方全景(北東から)
8. 5区4号竪穴住居掘方土層断面(北西から)
- PL.68 1. 5区5号竪穴住居全景(西から)
2. 5区5号竪穴住居土層断面(北西から)
3. 5区5号竪穴住居掘方全景(西から)
4. 5区5号竪穴住居掘方須恵器杯(第125図1)出土状態(南から)
5. 5区6号竪穴住居全景(南西から)
- PL.69 1. 5区6号竪穴住居土層断面(南西から)
2. 5区6号竪穴住居土層断面(南東から)
3. 5区6号竪穴住居遺物出土状態(北西から)
4. 5区6号竪穴住居棒状礫出土状態(北西から)
5. 5区6号竪穴住居カマド全景(南西から)
6. 5区6号竪穴住居カマド土層断面(南から)
7. 5区6号竪穴住居カマド掘方全景(南西から)
8. 5区6号竪穴住居カマド掘方土層断面(南から)
- PL.70 1. 5区6号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)
2. 5区6号竪穴住居貯蔵穴土層断面(南西から)
3. 5区6号竪穴住居P1全景(南から)
4. 5区6号竪穴住居P2土層断面(南から)
5. 5区6号竪穴住居P3土層断面(南東から)
6. 5区6号竪穴住居P4全景(南から)
7. 5区6号竪穴住居掘方全景(南西から)
8. 5区6号竪穴住居掘方土層断面(南西から)
- PL.71 1. 5区7号竪穴住居全景(南西から)
2. 5区7号竪穴住居土層断面(南西から)
3. 5区7号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
4. 5区7号竪穴住居土師器杯(第128図2)出土状態(南東から)
5. 5区7号竪穴住居土師器杯(第128図1)出土状態(北東から)
- PL.72 1. 5区7号竪穴住居カマド全景(南西から)
2. 5区7号竪穴住居カマド土層断面(南東から)
3. 5区7号竪穴住居掘方全景(南西から)
4. 5区7号竪穴住居掘方土層断面(南西から)
5. 5区8号竪穴住居全景(北西から)
6. 5区8号竪穴住居土層断面(北西から)
7. 5区8号竪穴住居掘方全景(北西から)
8. 5区8号竪穴住居掘方土層断面(北西から)
- PL.73 1. 5区9号竪穴住居全景(西から)
2. 5区9号竪穴住居土層断面(南から)
3. 5区9号竪穴住居土層断面(西から)
4. 5区9号竪穴住居カマド全景(西から)
5. 5区9号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
6. 5区9号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)
7. 5区9号竪穴住居カマド遺物出土状態(東から)
8. 5区9号竪穴住居掘方全景(西から)
- PL.74 1. 5区10号竪穴住居全景(北から)
2. 5区10号竪穴住居土層断面(南から)
3. 5区10号竪穴住居カマド土層断面(北西から)
4. 5区10号竪穴住居カマド掘方全景(北から)
5. 5区10号竪穴住居掘方全景(北から)
- PL.75 1. 5区11号竪穴住居全景(西から)
2. 5区11号竪穴住居土層断面(南から)
3. 5区11号竪穴住居遺物出土状態(西から)
4. 5区11号竪穴住居(手前)須恵器杯(第136図11)・(中央)土師器杯(第136図4)出土状態(西から)
5. 5区11号竪穴住居須恵器杯(第136図10)出土状態(南から)
- PL.76 1. 5区11号竪穴住居カマド全景(西から)
2. 5区11号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
3. 5区11号竪穴住居P1土層断面(南から)
4. 5区11号竪穴住居P2全景(南から)
5. 5区11号竪穴住居P3全景(南から)
6. 5区11号・12号竪穴住居全景(西から)
7. 5区11号・12号竪穴住居掘方全景(西から)
8. 5区11号・12号竪穴住居掘方土層断面(西から)
- PL.77 1. 5区12号竪穴住居土層断面(南から)
2. 5区12号竪穴住居遺物出土状態(西から)
3. 5区12号竪穴住居遺物出土状態(東から)
4. 5区12号竪穴住居掘方礫出土状態(西から)
5. 5区13号竪穴住居全景(南から)
6. 5区13号竪穴住居土層断面(東から)
7. 5区13号竪穴住居カマド全景(南から)
8. 5区13号竪穴住居カマド土層断面(南から)
- PL.78 1. 5区14号竪穴住居全景(北西から)
2. 5区14号竪穴住居土層断面(南から)
3. 5区14号竪穴住居土層断面(西から)
4. 5区14号竪穴住居遺物出土状態(北西から)
5. 5区14号竪穴住居土師器杯(第143図3・7・2)出土状態(北から)
- PL.79 1. 5区14号竪穴住居カマド全景(北西から)
2. 5区14号竪穴住居カマド土層断面(西から)
3. 5区14号竪穴住居カマド土師器甕(第143図9)出土状態(北から)
4. 5区14号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
5. 5区14号竪穴住居貯蔵穴全景(西から)
6. 5区14号竪穴住居貯蔵穴土層断面(西から)
7. 5区14号竪穴住居掘方全景(西から)
8. 5区14号竪穴住居掘方土層断面(南から)
- PL.80 1. 5区15号竪穴住居全景(南から)
2. 5区15号竪穴住居カマド全景(西から)
3. 5区15号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
4. 5区15号竪穴住居掘方全景(南から)
5. 5区15号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
6. 5区15号竪穴住居カマド掘方土層断面(南西から)
- PL.81 1. 5区16号竪穴住居全景(西から)
2. 5区16号竪穴住居土層断面(南東から)
3. 5区16号竪穴住居南壁遺物出土状態(西から)
4. 5区16号竪穴住居須恵器杯(第148図15・14)・須恵器蓋(第148図8)出土状態(東から)
5. 5区16号竪穴住居土師器台付甕(第148図18)出土状態(北から)
- PL.82 1. 5区16号竪穴住居土師器杯(第146図6)出土状態(西から)
2. 5区16号竪穴住居須恵器杯(第148図12)出土状態(南から)
3. 5区16号竪穴住居カマド全景(西から)
4. 5区16号竪穴住居カマド礫検出状況(西から)
5. 5区16号竪穴住居カマド全景(東から)
6. 5区16号竪穴住居カマド土層断面(南西から)
7. 5区16号竪穴住居掘方全景(西から)
8. 5区16号竪穴住居掘方土層断面(西から)
- PL.83 1. 5区17号竪穴住居全景(南から)
2. 5区17号竪穴住居土層断面(東から)
3. 5区17号竪穴住居遺物出土状態(南から)
4. 5区17号竪穴住居遺物出土状態(南から)
5. 5区17号竪穴住居掘方全景(南から)
6. 5区17号竪穴住居土師器台付甕(第149図10)出土状態(西から)
- PL.84 1. 6区1号竪穴住居全景(北から)
2. 6区1号竪穴住居土層断面(西から)

3. 6区1号竪穴住居掘方全景(北から)
4. 6区1号竪穴住居掘方土層断面(西から)
5. 6区2号竪穴住居全景(南から)
- PL.85 1. 6区2号竪穴住居土層断面(南西から)
2. 6区2号竪穴住居土層断面(南西から)
3. 6区2号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)
4. 6区2号竪穴住居カマド土層断面(南から)
5. 6区2号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)
6. 6区2号竪穴住居カマド(上側)土師器甕(第152図4)・(下側)土師器甕(第152図5)出土状態(南西から)
7. 6区2号竪穴住居カマド土師器甕(第152図4)出土状態(南から)
- PL.86 1. 6区2号竪穴住居カマド掘方全景(西から)
2. 6区2号竪穴住居カマド掘方土層断面(北東から)
3. 6区2号竪穴住居掘方全景(南西から)
4. 6区2号竪穴住居掘方土層断面(東から)
5. 6区3号竪穴住居全景(南から)
- PL.87 1. 6区3号竪穴住居土層断面(南から)
2. 6区3号竪穴住居土層断面(南西から)
3. 6区3号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
4. 6区3号竪穴住居遺物出土状態(北東から)
5. 6区3号竪穴住居カマド全景(西から)
6. 6区3号竪穴住居カマド土層断面(北から)
7. 6区3号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)
8. 6区3号竪穴住居掘方全景(南西から)
- PL.88 1. 6区4号竪穴住居全景(北から)
2. 6区4号竪穴住居土層断面(南から)
3. 6区4号竪穴住居土層断面(西から)
4. 6区4号竪穴住居カマド全景(東から)
5. 6区4号竪穴住居カマド土層断面(北東から)
- PL.89 1. 6区4号竪穴住居カマド土師器甕(第159図5・6)出土状態(東から)
2. 6区4号竪穴住居カマド遺物出土状態近景(東から)
3. 6区4号竪穴住居カマド土師器甕(第159図6)出土状態(東から)
4. 6区4号竪穴住居紡輪(第158図4)出土状態(北東から)
5. 6区4号竪穴住居カマド掘方全景(北東から)
6. 6区4号竪穴住居貯蔵穴全景(北東から)
7. 6区4号竪穴住居掘方全景(北から)
8. 6区5号竪穴住居土層断面(北西から)
- PL.90 1. 6区6号・8号竪穴住居全景(南西から)
2. 6区6号竪穴住居土層断面(南東から)
3. 6区6号竪穴住居カマド全景(南東から)
4. 6区6号・8号竪穴住居掘方全景(南西から)
5. 6区7号竪穴住居土層断面(北から)
- PL.91 1. 6区8号竪穴住居土層断面(南から)
2. 6区8号竪穴住居遺物出土状態(西から)
3. 6区8号竪穴住居土師器甕(第163図4)出土状態(西から)
4. 6区8号竪穴住居遺物出土状態(南から)
5. 6区9号竪穴住居全景(南西から)
- PL.92 1. 6区9号竪穴住居土層断面(南西から)
2. 6区9号竪穴住居カマド全景(南西から)
3. 6区9号竪穴住居カマド土層断面(北から)
4. 6区9号竪穴住居掘方土層断面(南から)
5. 6区10号竪穴住居土層断面(西から)
6. 6区10号竪穴住居掘方全景(南西から)
7. 6区10号竪穴住居掘方(左側)土師器小型甕(第166図3)・(中央)土師器小型壺(第166図5)出土状態(北西から)
8. 6区11号竪穴住居土層断面(北西から)
- PL.93 1. 2区1号溝全景(北から)
2. 2区1号溝土層断面(南から)
3. 2区2号溝全景(西から)
4. 2区2号溝土層断面(東から)
5. 2区3号～8号溝全景(北から)
6. 2区3号～8号溝全景(北から)
- PL.94 1. 2区3号溝土層断面(南から)
2. 2区～5区4号溝全景(南から)
3. 2区～5区4号溝全景(北から)
4. 2区～5区4号溝全景(北から)
5. 2区～5区4号溝土層断面(南から)
- PL.95 1. 2区～5区4号溝全景(南から)
2. 2区5号溝全景(南から)
3. 2区5号溝全景(南から)
4. 2区5号溝土層断面(南から)
5. 2区6号・8号溝全景(南から)
6. 2区6号溝土層断面(南西から)
- PL.96 1. 2区7号溝全景(南から)
2. 2区8号溝土層断面(南から)
3. 6区1号溝全景(東から)
4. 6区1号溝全景(東から)
5. 2区1号井戸全景(南から)
6. 2区1号井戸土層断面(南から)
7. 4区1号井戸全景(西から)
8. 4区1号井戸土層断面(東から)
- PL.97 1. 2区2号土坑全景(南から)
2. 2区2号土坑土層断面(南から)
3. 2区3号土坑全景(西から)
4. 2区4号土坑全景(西から)
5. 2区4号土坑土層断面(東から)
6. 3区5号土坑土層断面(東から)
7. 3区6号土坑・8号ピット全景(北から)
8. 3区6号土坑・8号ピット土層断面(南から)
9. 3区7号土坑全景(北から)
10. 2区調査風景(北東から)
- PL.98 1. 3区7号土坑土層断面(南から)
2. 3区8号土坑全景(西から)
3. 3区8号土坑土層断面(南から)
4. 3区9号土坑全景(北から)
5. 3区10号土坑全景(東から)
6. 3区10号土坑土層断面(南から)
7. 3区11号土坑全景(南から)
8. 3区12号土坑土層断面(東から)
9. 3区12号土坑全景(東から)
10. 3区13号土坑全景(南から)
11. 3区13号土坑土層断面(南から)
12. 3区14号土坑全景(西から)
13. 3区14号土坑土層断面(東から)
14. 3区15号土坑土層断面(東から)
- PL.99 1. 3区16号土坑土層断面(南から)
2. 3区17号土坑土層断面(南から)
3. 3区17号土坑全景(南から)
4. 3区18号土坑全景(東から)
5. 3区18号土坑土層断面(西から)
6. 3区19号土坑全景(南から)
7. 3区19号土坑土層断面(南から)
8. 3区20号土坑全景(東から)
9. 3区20号土坑土層断面(東から)
10. 3区21号土坑全景(東から)
11. 3区21号土坑土層断面(南東から)
12. 3区22号土坑全景(西から)
13. 3区22号土坑土層断面(南から)
- PL.100 1. 3区23号土坑全景(東から)
2. 3区24号土坑全景(南から)
3. 3区25号土坑全景(北から)
4. 3区26号土坑土層断面(南から)
5. 3区27号土坑全景(東から)
6. 3区28号土坑全景(東から)
7. 3区28号土坑土層断面(北から)
8. 3区29号土坑全景(東から)
9. 3区30号土坑全景(東から)
10. 3区30号土坑土層断面(南西から)
11. 4区4号土坑全景(南から)

12. 5区1号土坑全景(南西から)
 13. 5区1号土坑土層断面(南西から)
- PL.101 1. 5区2号土坑全景(南から)
 2. 5区2号土坑土層断面(南から)
 3. 5区3号土坑全景(南から)
 4. 5区3号土坑土層断面(南から)
 5. 5区4号土坑全景(南から)
 6. 5区4号土坑土層断面(南から)
 7. 5区5号土坑全景(南西から)
 8. 6区1号土坑土層断面(南から)
 9. 6区2号土坑土層断面(南から)
 10. 2区調査風景
- PL.102 1. 3区遺物集中地点遺物出土状態(南から)
 2. 3区遺物集中地点遺物出土状態(北から)
 3. 3区遺物集中地点遺物出土状態(南西から)
 4. 3区遺物集中地点遺物出土状態(南西から)
 5. 3区遺物集中地点遺物出土状態(南西から)
 6. 3区遺物集中地点遺物出土状態(西から)
 7. 3区遺物集中地点遺物出土状態(北西から)
 8. 3区遺物集中地点遺物出土状態(南西から)
- PL.103 1. 5区遺物集中地点遺物出土状態(東から)
 2. 5区遺物集中地点遺物出土状態(北から)
 3. 5区遺物集中地点(手前)須恵器杯(第198図10)・(奥)土師器杯(第198図5)出土状態(北から)
 4. 5区遺物集中地点土師器杯(左から第198図4・6・2・1・9)出土状態(北西から)
 5. 1区1号畑全景(北から)
 6. 1区1号畑全景(北西から)
 7. 2区1号畑全景(北西から)
 8. 2区3号～5号畑全景南半分(北から)
- PL.104 1. 2区畑全景(北から)
 2. 2区3号～5号畑調査風景(北西から)
 3. 2区3号～5号畑全景南半分(北から)
 4. 2区3号～5号畑調査風景(北西から)
 5. 3区1号・2号畑全景(北から)
- PL.105 1. 4区2号～4号畑全景(南から)
 2. 4区2号～4号畑土層断面(南から)
 3. 5区1号・2号畑全景北西部(南西から)
4. 6区1号畑調査風景(南から)
 5. 4区3号溝全景(西から)
 6. 4区3号溝土層断面(東から)
 7. 2区1号土坑全景(南西から)
- PL.106 1. 3区1号土坑全景(南から)
 2. 3区2号土坑全景(南から)
 3. 3区3号土坑全景(南から)
 4. 3区4号土坑全景(南から)
 5. 2区1号焼土土層断面(北から)
 6. 2区1号焼土(南から)
 7. 2区2号焼土土層断面(南から)
 8. 2区2号焼土遺物出土状態(南から)
- PL.107 本関町古墳群J区1号トレンチ・H区1号土坑出土遺物、縄文時代の遺物
- PL.108 本関町古墳群縄文時代の遺物、F区1号墳(C区1号墳)・G区・J区1号墳出土遺物
- PL.109 関遺跡縄文時代の遺物、1区水田被覆砂層・1区大溝出土遺物
- PL.110 関遺跡1区1号・2号・5号～7号・10号・11号竪穴住居出土遺物
- PL.111 関遺跡1区12号・14号・15号・2区2号～9号竪穴住居出土遺物
- PL.112 関遺跡2区10号・11号・15号～17号・3区1号竪穴住居出土遺物
- PL.113 関遺跡3区2号～7号・9号竪穴住居出土遺物
- PL.114 関遺跡3区9号・11号～13号・4区1号・2号・4号竪穴住居出土遺物
- PL.115 関遺跡4区4号・5号・5区1号～5号竪穴住居出土遺物
- PL.116 関遺跡5区6号～11号竪穴住居出土遺物
- PL.117 関遺跡5区11号～13号竪穴住居出土遺物
- PL.118 関遺跡5区13号～16号竪穴住居出土遺物
- PL.119 関遺跡5区16号・17号・6区2号・3号竪穴住居出土遺物
- PL.120 関遺跡6区3号・4号・6号・8号・10号竪穴住居出土遺物
- PL.121 関遺跡6区9号竪穴住居・5区1号竪穴状遺構・4区2号掘立・2区～5区4号溝・6区1号溝・2区1号井戸・4区1号井戸・3区遺物集中地点出土遺物
- PL.122 関遺跡3区遺物集中地点出土遺物
- PL.123 関遺跡5区遺物集中地点・遺構外出土遺物
- PL.124 関遺跡遺構外・2・3区畑・3区4号土坑出土遺物

第1章 調査の経過と方法

第1節 発掘調査に至る経緯

本関町古墳群・関遺跡は群馬県伊勢崎市本関町に所在し、伊勢崎市街地より北東約3kmに位置する。本関町古墳群から北東約1kmには平成23年3月に全面開通した北関東自動車道伊勢崎インターチェンジおよび国道17号上武道路が走行するなど主要交通網が発達し、沿線では伊勢崎三和工業団地など大規模な開発が進む地域である。

伊勢崎市街地からみどり市大間々町を結ぶ国道462号は、主要交通網である上武国道や北関東自動車道伊勢崎インターチェンジと隣接し、アクセス道として交通量の増加が予想されるため拡幅工事が計画された。

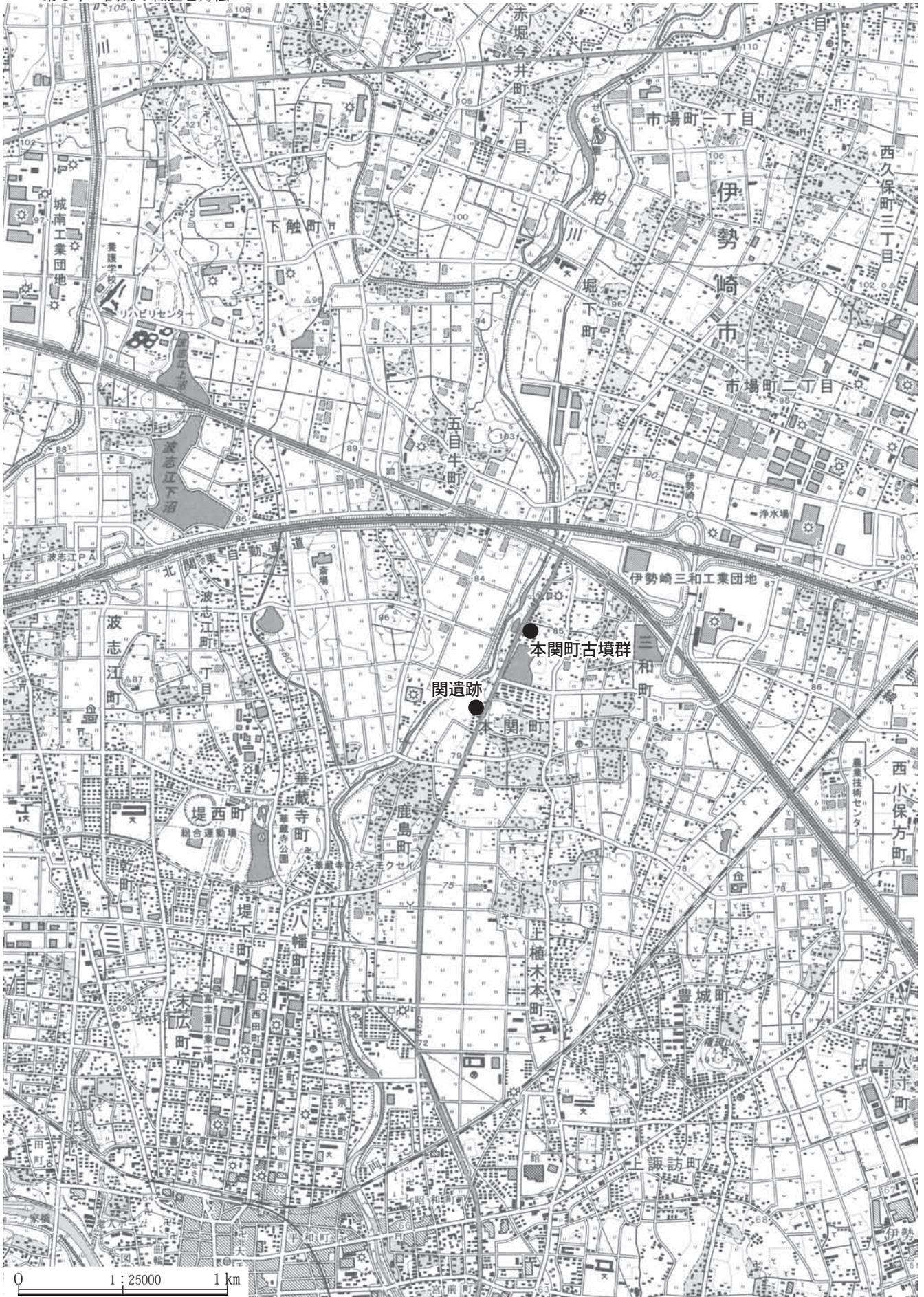
本関町古墳群・関遺跡は、国道462号道路改築工事事業に伴い、平成23年1月18日・19日と同年10月11日・12日に群馬県教育委員会文化財保護課による試掘・確認調査が実施された。この結果、縄文時代の土坑、古墳周堀、

古代の竪穴住居や土坑、溝などの遺構や土師器、須恵器などの遺物が確認され、本調査が必要であると判断された。群馬県中部県民局伊勢崎土木事務所からの委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人に組織改定、以下当事業団と略す)が実施することとなり、平成23年12月1日から平成24年3月31日まで、本関町古墳群F区～J区および関遺跡1区の発掘調査を実施した。さらに、平成24年4月1日から10月31日まで、関遺跡の残りの部分(2区～6区)の発掘調査を行った。

調査対象面積は、本関町古墳群が2,976㎡、関遺跡が4,295㎡である。本関町古墳群の調査では、古墳、縄文時代の土坑のほか、溝、ピットなどの遺構が検出され、旧石器時代の石器および縄文土器、埴輪、土師器などが出土した。また、関遺跡では3面を調査し、第1面では中世から近世と推定される畑、第2面では古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居をはじめ、竪穴状



第1図 本関町古墳群・関遺跡と群馬県の地勢
(国土地理院1:200,000地勢図「長野」平成24年5月1日発行、「宇都宮」平成23年6月1日発行使用)



第2図 本関町古墳群・関遺跡位置図
(国土地理院 1 : 25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)

遺構、掘立柱建物、柵、溝、井戸、土坑、ピット、遺物集中地点を検出し、多量の土師器、須恵器などが出土した。第3面では古墳時代の水田がほぼ調査区全面で検出され、1区では水田に伴う大溝も発見された。

本関町古墳群は、平成23年度の発掘調査に先立ち、平成15年度・平成16年度にも当事業団により発掘調査が実施されていた。平成15年度・平成16年度調査は、今回の発掘調査よりも北側の調査区(A区～E区)を対象とし、古墳時代前期の方形周溝墓6基、後期の円墳20基のほか、縄文時代の竪穴住居や旧石器時代の石器22点が出土した。また、C区2号墳から、全国的にも出土例が少ない「赤玉」(赤色球状未焼成土製品)が出土したことは特筆すべきことである。この調査成果は、平成20年度に報告書として刊行した(群埋文 2008)。

また、本関町古墳群については、特別養護老人ホーム建設に伴い、平成22年度に伊勢崎市教育委員会が新沼東側を発掘調査した。その結果、5世紀末葉から6世紀前葉の古墳群と7世紀後葉の古墳を検出した。主体部が遺存している古墳が多く、2号古墳および5号古墳の主体部からは出土例が少ない短甲が出土した。また、7世紀後葉の古墳からは上植木廃寺と同範の軒丸瓦が出土し注目される(伊勢崎市教委 2011)。

関遺跡は、平成20年度に南端の7区の調査がすでに実施されていた。古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居21棟を中心に、古代の遺構が多数検出された。このほか、中世から近世の遺構も確認された。さらに、古代に竪穴住居を埋める規模の洪水が少なくとも3回発生していたことも明らかになった。この調査成果は平成24年度に『新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡(1)』として刊行した。平成23年度・平成24年度の調査はこれに続くもので、さらに北側を対象としている。平成23年度には1区、平成24年には2区～6区の発掘調査を実施した。

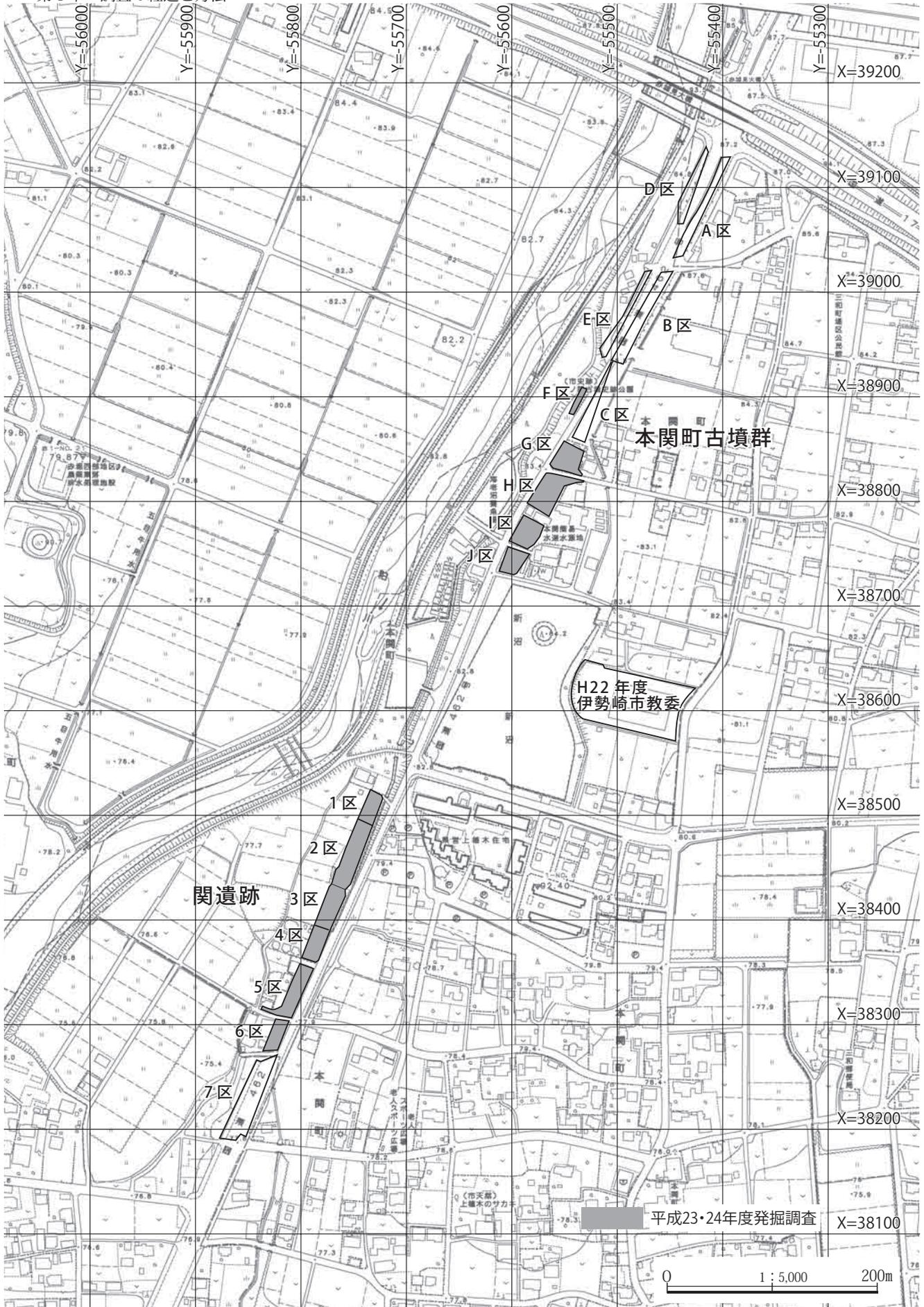
第2節 調査区の設定

本関町古墳群・関遺跡の調査区域は国道462号に沿って南北に帯状に長く、現国道462号からおよそ1～14m幅となる調査区である。発掘調査にあたり、国道462号と交わる市道などを境界として、便宜的に北から南へ順に本関町古墳群F区～J区、関遺跡1区～6区と呼称した。国家座標に基づいたグリッドを用いた付名は行わなかった。測量にあたっては、本関町古墳群との連続性を考慮し、日本測地系を使用した。

第3節 発掘調査の方法

本関町古墳群・関遺跡は西に粕川を臨み、標高はおよそ75～85mのほぼ平坦な地形である。発掘調査前の現況は宅地や畑地であった。発掘調査では、大型掘削重機(バックホー)やダンプなどを使用した表土掘削と掘削土運搬、埋め戻しを調査区内で随時実施した。重機による表土掘削の後は作業員による掘削・削平などの手作業によって遺構検出作業を進めた。遺構を検出した時点で遺構の輪郭や重複を確認し、土層観察用畦を適宜設定して精査を行った。なお、バックホーによる掘削、掘削土の運搬は委託で行われ、人力による掘削は遺跡掘削工事の請負契約による委託で実施した。

遺構番号は遺構の種別ごとに各遺跡・調査区でそれぞれ1番から付けた。遺構断面測量は、測量委託業者と発掘現場作業員の手実測によって行った。また、遺構平面測量については、遺構の種類に合わせて、測量委託業者によりトータルステーションを用いて実施した。遺構写真全般については、デジタルカメラ(Canon EOS Kiss Digital)とペンタックス6×7版モノクロフィルムを併用し、現場担当者が地上撮影およびローリングタワーなどを使用して撮影した。また、遺物の取り上げについては、遺構地点別取り上げおよび調査区一括取り上げ等を測量委託業者によって適宜行った。平成23年度・平成24年度の発掘調査によって出土した遺物はすべて本関町古墳群、関遺跡として注記した。



第3図 遺跡と調査区範囲図
 (伊勢崎市現況図16・17・22・23 1:2,500 平成22年10月測図使用)

第4節 基本土層

1. 本関町古墳群の基本土層(第4図)

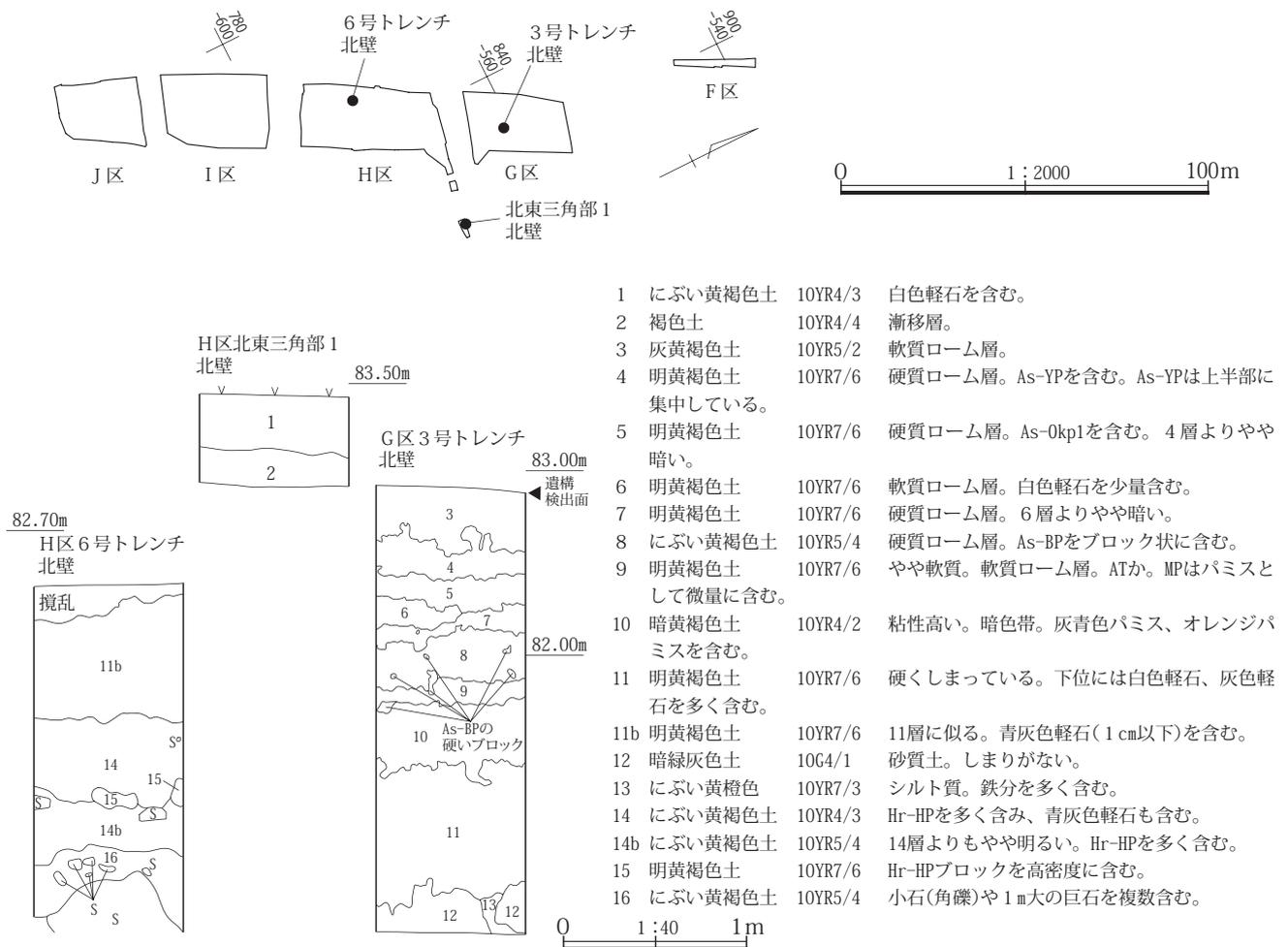
本関町古墳群では表土から約50cmでローム層に至る。遺構検出面はローム層上面である。ローム層中では、浅間板鼻黄色軽石(As-YP)、浅間大窪沢第1軽石(As-0kp1)、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)などがブロック状または粒状で認められた。H区6号トレンチでは、遺構検出面より約1.7m下位で、1m大の巨石が複数検出された。この石は赤城山を起源とする安山岩の角礫である。この巨石の上下の土層では榛名八崎軽石(Hr-HP)が検出されたが、二次堆積と考えられる(PL. 2-1・2)。

周辺住民への聞き取り、および旧石器時代確認調査時の土層観察などから、国道462号建設以前の旧地形は起伏があったことがわかっている。H区6号トレンチ周辺

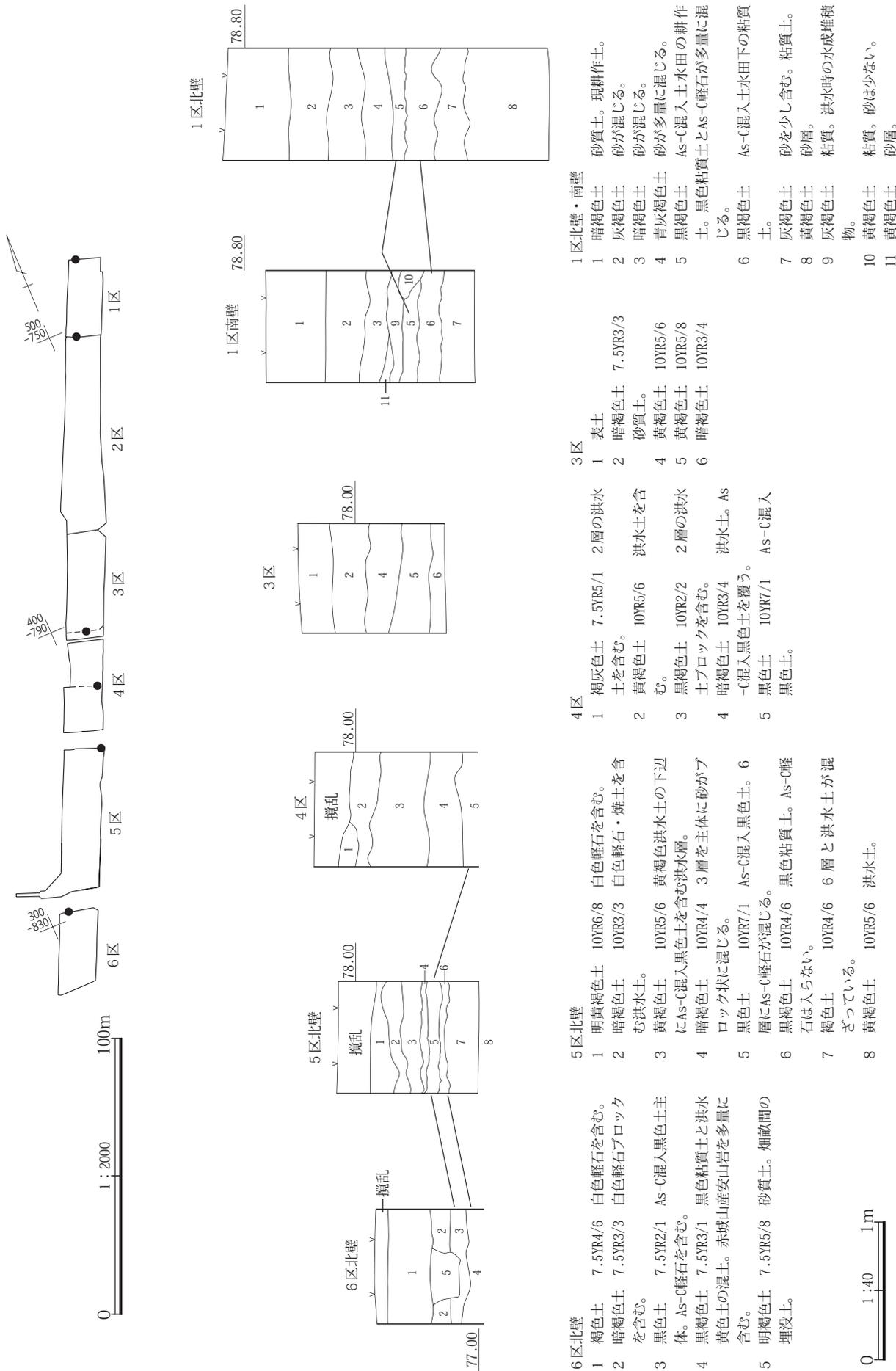
は旧地形が高かったようで、G区3号トレンチで見られる3層～10層、12層・13層に相当する土層は残っていなかった。

2. 関遺跡の基本土層(第5図)

関遺跡は粕川によって形成された自然堤防上に立地している。既に報告書が刊行された関遺跡7区および南に隣接する上西根遺跡、新屋敷遺跡の調査成果から、縄文時代には大規模な洪水により微高地が形成され、さらに古墳時代から古代にかけても複数回洪水が発生していることが明らかになっている(群埋文 2013)。そのため、堆積土層の形成は複雑で、各調査区また同一調査区内でも地点によって堆積土層の特徴が異なる状況であった。そこで、記録した堆積土層を調査所見に従って掲載することとした。1区～6区のうち、北端に位置する1区が最も土層の堆積が良好であった。



第4図 本関町古墳群の基本土層



第5図 関遺跡の基本土層

第5節 発掘調査の経過

発掘調査日誌から調査当時の主な記録を抜粋した。

平成23年度調査(本関町古墳群、関遺跡1区)

- 12.1 本関町古墳群発掘調査開始。F区表土掘削開始。単管パイプ、ロープによる安全柵設置。駐車場の整備。
- 12.5 G区表土掘削開始。古墳周堀確認。
- 12.6 F区1号墳周堀精査。G区古墳2基確認。
- 12.7 H区北東部表土掘削開始。古墳周堀確認。
- 12.8 F区全景写真撮影。
- 12.12 F区埋め戻し。G区古墳周堀精査。I区表土掘削。現代の遺物が多い。
- 12.13 I区礫層確認。ローム層は認められない。遺構がないため、埋め戻しを行う。J区表土掘削開始。
- 12.15 H区遺構確認、精査。
- 12.19 H区土坑精査。J区遺構確認。
- 12.21 G区高所作業車による全景写真撮影。J区古墳周堀精査。
- 12.26 G区旧石器時代の調査開始。
- 1.5 J区縄文時代の土坑精査。
- 1.12 H区・J区高所作業車による全景写真撮影。
- 1.17 H区旧石器時代の調査開始。
- 2.1 関遺跡1区表土掘削開始。
- 2.3 本関町古墳群G区埋め戻し。関遺跡1区表土掘削、遺構確認。
- 2.6 本関町古墳群J区旧石器時代の調査開始。関遺跡1区中近世の畑(第1面)全景写真、平面測量。
- 2.8 本関町古墳群J区黒曜石製の剥片1点出土。関遺跡1区第2面遺構検出。竪穴住居1棟確認。
- 2.13 関遺跡1区遺構精査開始。
- 2.24 関遺跡1区竪穴住居等遺構精査・記録を終了。As-C混土黒色土層上面(第3面)掘削開始。
- 2.28 本関町古墳群H区埋め戻し開始。
- 3.7 本関町古墳群J区埋め戻し。関遺跡1区第3面遺構検出作業。
- 3.8 関遺跡1区第3面水田検出。
- 3.12 関遺跡1区第3面水田全景写真・測量。水田耕土掘り下げ開始。

- 3.13 関遺跡1区第3面東側大溝精査。
- 3.19 関遺跡1区水田耕土下黒色土掘り下げ。縄文土器・弥生土器小片出土。
- 3.27 関遺跡1区、火山灰考古学研究所によるサンプリング。

平成24年度調査(関遺跡2区～6区)

- 4.2 発掘調査準備着手。
- 4.18 伊勢崎土木事務所・文化財保護課ほかとの打ち合わせ。周辺住民へ挨拶。
- 4.20 表土掘削開始。
- 4.24 関遺跡2区・3区遺構確認。3区畑掘り下げ。
- 4.27 3区遺構精査、測量。
- 5.7 2区畑掘り下げ。
- 5.9 2区・3区畑写真撮影。
- 5.11 2区・3区遺構確認作業。遺構精査。
- 5.22 2区・3区竪穴住居精査、写真撮影、測量。
- 5.28 6区表土掘削開始。
- 5.29 6区遺構検出作業。遺構精査。
- 5.31 6区第1面全景写真撮影。第2面遺構確認。
- 6.4 5区表土掘削開始。遺構確認。
- 6.11 6区竪穴住居掘り下げ。
- 6.26 3区水田面検出作業。
- 6.27 2区水田面検出作業。
- 7.3 2区・3区高所作業車で、水田全景写真撮影。
- 7.6 4区表土掘削作業開始。遺構確認。畑掘り下げ。5区竪穴住居精査。水田面検出作業。
- 7.10 4区南側畑、全景写真撮影。南側遺構確認作業。水田・溝の掘り下げ。
- 7.13 2区旧石器時代調査のため、トレンチを設定し掘り下げ開始。4区南側第3面水田・溝全景写真撮影。南側調査区埋め戻し。
- 7.17 4区北側重機による表土掘削開始。第1面遺構確認。畑掘り下げ、全景写真撮影。北側第2面掘り下げ、遺構検出作業。
- 7.18 4区北側第2面ピット掘り下げ、全景写真撮影。北側第3面掘り下げ、遺構確認。
- 7.19 4区北側第3面水田・溝掘り下げ。
- 7.20 4区北側第3面水田・溝全景写真撮影。
- 7.26 6区水田、全景写真撮影。
- 7.30 6区旧石器時代調査のため、トレンチを設定し

第1章 調査の経過と方法

掘り下げ開始。

- 8.1 5区水田面検出作業。溝の掘り下げ。
- 8.10 5区全景写真撮影。
- 8.16 排土運搬路確保のため、5区重機による整地。
- 8.20 6区重機による埋め戻し。
- 8.22 5区北側遺構確認作業。
- 8.27 5区北側竪穴住居精査。
- 9.10 5区北側第2面全景写真撮影。第3面水田検出作業。
- 9.14 5区北側第3面水田全景写真撮影。
- 9.25 5区北側旧石器時代調査のため、トレンチ設定。掘り下げ。北壁基本土層写真撮影。
- 10.1 2区・3区トレンチ掘り下げ。
- 10.9 2区残地表土掘削作業。遺構確認。畑掘り下げ。
- 10.10 2区残地第1面畑全景写真撮影。第2面遺構検出作業。竪穴住居精査。
- 10.11 4区残地表土掘削。遺構確認。第1面畑全景写真撮影。第2面遺構検出作業。竪穴住居精査。
- 10.16 2区残地水田掘り下げ開始。
- 10.17 3区残地表土掘削。遺構確認。竪穴住居精査。
- 10.19 4区残地水田面検出作業。
- 10.25 4区残地水田面全景写真撮影。
- 10.26 発掘機材整理等撤収作業。
- 10.31 各調査区周囲に杭打ち・トラロープ止めの安全対策。

第6節 整理作業の経過

本関町古墳群・関遺跡の整理作業は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団において、平成25年2月1日から3月31日および平成25年4月1日から3月31日まで行われた。

出土した土器、石器、金属製品などの遺物は、それぞれ分類、接合・復元、保存処理などを行った後、報告書掲載遺物の選択、実測図・トレース図作成、採拓、デジタルカメラを使用した遺物写真撮影、遺物観察表作成などを行った。

遺構図については、測量委託業者により納品された図面を用いて報告書掲載のために修正などを行った。その

後、図面のデジタルトレースを行った。また、遺物図についてもトレース図・拓本をスキャニングし、遺物デジタル図版を作成した。

写真については、掲載する遺構写真を選択し、遺構写真、遺物写真のレイアウト編集を行い、デジタル図版を作成した。

デジタルデータでの組版作業と併行して、本文の執筆を行った後、印刷用原稿の校正を行った。上記の整理作業を経て平成26年3月に報告書刊行に至った。

本関町古墳群・関遺跡で出土した遺物・図面・写真等全ての資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納した。

整理作業で遺構図や写真、出土遺物等を確認・再検討をした結果、必要に応じて発掘調査時の遺構名称を変更した。第1表に遺構名変更の一覧を示す。

第1表 遺構名変更一覧表

遺跡・区	変更前	変更後
本関町古墳群III区	3号土坑	欠番
本関町古墳群II区	11号土坑	欠番
関遺跡1区	14号竪穴住居	15号竪穴住居
関遺跡2区	18号竪穴住居	欠番
関遺跡2区	2区4号溝	欠番
関遺跡2区	3号ピット	1号掘立柱建物P7
関遺跡2区	18号ピット	1号掘立柱建物P2
関遺跡2区	19号ピット	1号掘立柱建物P3
関遺跡2区	20号ピット	1号掘立柱建物P4
関遺跡2区	21号ピット	1号掘立柱建物P5
関遺跡2区	22号ピット	1号掘立柱建物P6
関遺跡2区	23号ピット	1号掘立柱建物P1
関遺跡3区	23号ピット	1号柵P2
関遺跡3区	24号ピット	1号柵P1
関遺跡3区	29号ピット	1号柵P3
関遺跡3区	31号ピット	1号柵P4
関遺跡3区	46号ピット	欠番
関遺跡3区	48号ピット	欠番
関遺跡3区	49号ピット	欠番
関遺跡3区	50号ピット	欠番
関遺跡4区	6号竪穴住居	3区1号竪穴住居
関遺跡4区	5号土坑	1号掘立柱建物P3
関遺跡4区	6号土坑	1号掘立柱建物P2
関遺跡4区	7号土坑	1号掘立柱建物P7
関遺跡4区	8号土坑	6号ピット
関遺跡4区	9号土坑	1号掘立柱建物P5
関遺跡4区	10号土坑	1号掘立柱建物P6
関遺跡4区	11号土坑	1号掘立柱建物P4
関遺跡4区	12号土坑	1号掘立柱建物P1
関遺跡4区	1号ピット	2号掘立柱建物P3
関遺跡4区	2号ピット	2号掘立柱建物P2
関遺跡4区	3号ピット	2号掘立柱建物P1
関遺跡4区	5号ピット	2号掘立柱建物P4
関遺跡5区	1号溝	欠番
関遺跡5区	1号仮小穴	6号土坑
関遺跡5区	2号仮小穴	7号土坑
関遺跡5区	3号仮小穴	8号土坑
関遺跡5区	4号仮小穴	10号土坑
関遺跡5区	5号仮小穴	11号土坑
関遺跡5区	6号仮小穴	12号土坑
関遺跡5区	7号仮小穴	13号土坑
関遺跡5区	8号仮小穴	14号土坑
関遺跡5区	9号仮小穴	15号土坑
関遺跡5区	10号仮小穴	16号土坑
関遺跡5区	11号仮小穴	17号土坑
関遺跡5区	12号仮小穴	18号土坑
関遺跡5区	9号土坑	欠番
関遺跡5区	4号溝	5号溝

第2章 地理的および歴史的環境

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

本関町古墳群・関遺跡は、赤城山小沼に源を発し南流して利根川に注ぐ粕川の左岸上に位置する。遺跡の標高はおよそ75～85mで、粕川の現河床面との比高差は5～6mである。粕川の現流路は本関町古墳群で約60～70m西に、関遺跡で約50～200m西に位置する。

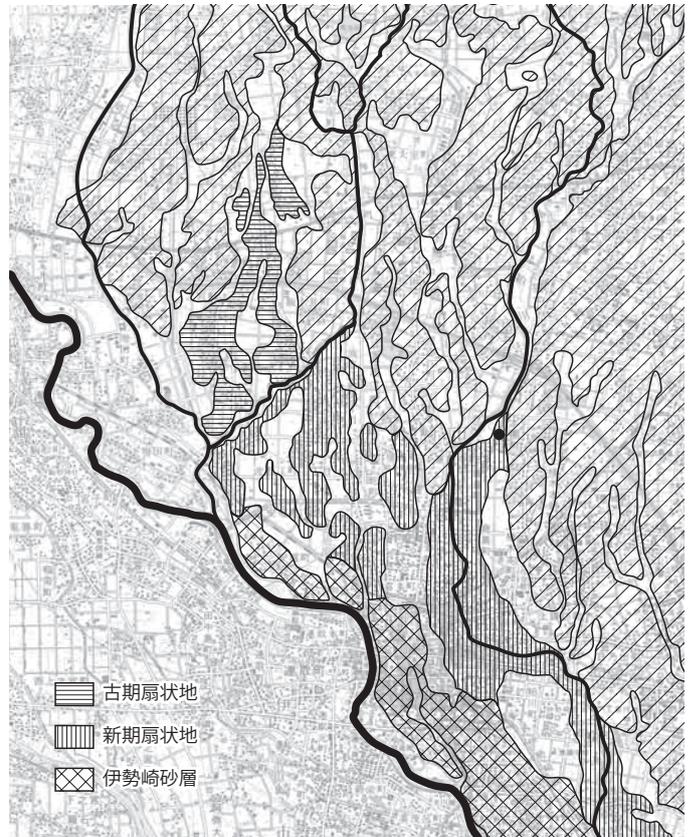
本関町古墳群は地形的には大間々扇状地桐原面西端に位置する。大間々扇状地は渡良瀬川によって形成され、みどり市大間々町を扇頂とし、南北約18km、東西(扇端部)約13kmの規模をもつ(澤口 1984)。大間々扇状地は大きく2つの段丘面(桐原面、藪塚面)からなり、桐原面は藪塚面より古いとされている。このうち、遺跡のある桐原面は、西は粕川から東は早川までの範囲で、約5万年前に離水したと言われている。桐原面では扇状地砂礫層の上に湯ノ口軽石層(Ag-UP)、八崎軽石層(Hr-HP)、鹿沼

軽石層(Ag-KP)などの中部ロームおよび板鼻褐色軽石層(As-BP)などの上部ロームの堆積が確認されている。本関町古墳群で実施した旧石器時代のトレンチ調査では、浅間板鼻黄色軽石(As-YP)、浅間大窪沢第1軽石(As-0kp1)、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)、榛名八崎軽石(Hr-HP)などが確認された。

一方、関遺跡は、縄文時代の洪水によってもたらされた砂が厚く堆積し、この砂層が形成した微高地上に位置している。平成20年度の発掘調査では、縄文時代以降の洪水層が何層も堆積している状況が観察されている(群埋文 2013)。以上のような微高地に、古墳時代になると水田が作られはじめ、古墳時代後期から平安時代には遺構が掘り込まれ、その間にも洪水堆積層が認められる複雑な遺跡の形成過程を示す。度重なる洪水という自然災害による地形改変の過程で人間活動が重ねられてきたことが、関遺跡の地理的環境と言える。



第6図 遺跡周辺の地形(1:200,000)
 (『群馬県史通史編1』(1990)付図2を使用一部改変
 群埋文『喜多町遺跡』(2011)第2図を加筆修正して掲載)



第7図 伊勢崎市北部の地形区分図
 (群埋文『喜多町遺跡』(2011)第98図を加筆修正して掲載)

第2節 遺跡の歴史的環境(第8図、第2表)

本関町古墳群・関遺跡が所在する本関町を中心に、伊勢崎市域の主な遺跡の概略を時代別に記す。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は赤城山南麓地域に点在する。本関町古墳群周辺でもこれまでに旧石器時代の遺跡が調査されている。光仙房遺跡(24)では槍先形尖頭器を含む石器群とホロカ型細石刃核を含む石器群の2つの文化層が調査された。岡屋敷遺跡(41)では少量の剥片を含む4基の礫群が検出され、三和工業団地Ⅰ遺跡(25)ではおもに後期旧石器時代の石器群(環状ブロック)などが検出されている。書上本山遺跡(19)、三和工業団地Ⅱ遺跡(26)、三和工業団地Ⅲ遺跡(27)、三和工業団地Ⅳ遺跡(28)ではA-T層準前後の石器群が調査され、当該期の石器群の様相が明らかになってきている。

本関町古墳群(1)では、平成15年～16年度の調査で尖頭器を含む石器が22点出土した。今回の調査では、As-YPより上位のローム層から黒曜石製の剥片が1点出土している。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、伊勢崎市域において主に広瀬川低地帯東側に分布する。草創期の遺跡では、五目牛新田遺跡(62)で竪穴住居などの調査が行われ、間之山遺跡(37)では土器片が出土している。

早期の遺跡では、波志江中屋敷遺跡(52)で住居2棟が検出され、撚糸文系土器や押型文土器が出土している。このほか、波志江西宿遺跡(55)、大道西遺跡(58)、高山遺跡(31)でも早期の遺物が出土している。

前期の遺跡では、三和工業団地Ⅱ～Ⅳ遺跡(26～28)、舞台遺跡(33)、五目牛清水田遺跡(61)、五目牛南組遺跡(64)、下触牛伏遺跡(69)、下吉祥寺遺跡(30)などで集落の調査が行われ、中西原遺跡(70)では諸磯C式期の竪穴住居や土器などが出土した。

中期の遺跡として、天ヶ堤遺跡(15)で中期後半の集落が確認されている。鯉沼東遺跡(23)、中西原遺跡(70)では、加曾利E式期の竪穴住居の調査が行われている。

後期の遺跡では、配石遺構が検出された八坂遺跡(波志江町)や三和工業団地Ⅱ遺跡(26)、天ヶ堤遺跡(15)などで調査が行われている。本関町古墳群(1)では後期初

頭の柄鏡形敷石住居が1棟のほか土坑や集石遺構などが検出されている。

縄文時代晩期の遺跡では、八坂遺跡(波志江町)が調査され晩期初頭の土器片などが出土している。

今回の発掘調査では、本関町古墳群で縄文時代と推定される土坑を確認し、縄文時代後期の遺物が出土した。また、関遺跡では当該期の遺構は検出されなかったが、トレンチ調査を行い、包含層から縄文時代前期から晩期の土器と石器が出土した。

弥生時代

伊勢崎市域において弥生時代の遺跡は少ない。西太田遺跡(安堀町)では中期3棟、後期1棟の住居、中組遺跡(波志江町)では中期の住居のほか後期の樽式土器などが出土している。間之山遺跡(37)では後期の住居1棟が調査され、五目牛南組遺跡(64)では後期の甕棺墓が検出された。五目牛清水田遺跡(61)では、弥生時代後期以前の粕川の旧河道が検出され、旧河道は5世紀代の洪水起源の粗砂で埋没し、現河道に一本化されたことが調査によって明らかになっている。

古墳時代

伊勢崎市北部から前橋市東部の地域は、群馬県内においても古墳が多く確認されている地域である。『上毛古墳総覧』によると、伊勢崎市三和町、本関町、豊城町など殖蓮地区において338基、三郷地区は105基の古墳が確認されるなど、伊勢崎市内全域にわたり古墳が分布していたとされる。また、古墳時代になると伊勢崎市域における集落の分布も広範囲となる。本関町古墳群・関遺跡周辺でも数多くの遺跡が調査され、古墳のほか集落などが確認され貴重な遺構や遺物が出土している。

前期の遺跡では、上西根遺跡(3)、三和工業団地Ⅱ遺跡(26)、三和工業団地Ⅲ遺跡(27)、三和工業団地Ⅳ遺跡(28)、舞台遺跡(33)、本関町古墳群(1)などで調査が行われ、間之山遺跡(37)では住居と方形周溝墓が検出されている。三和工業団地Ⅰ遺跡(25)では、124棟の竪穴住居のほか掘立柱建物、平地式建物、畑などが検出されている。舞台遺跡(33)では、前期の住居149棟や周溝墓、後期の竪穴住居71棟や円形周溝遺構2基が検出されている。群馬県内でも古い古墳の一つである華蔵寺裏山古墳(14)は、4世紀後半に築造された前方後円墳とみられている。波志江中屋敷西遺跡(53)、波志江中宿遺跡(50)、

波志江中屋敷遺跡(52)などでは水田が調査された。波志江中屋敷東遺跡(54)では木製品などが出土し、波志江中宿遺跡(50)では粘土採掘坑66基とS字状口縁台付甕、採掘に使用した木製品が一括して出土し注目される。

中期の遺跡では、原之城遺跡(59)で竪穴住居、掘立柱建物、豪族居館などが検出されている。古墳では、お富士山古墳(安堀町)は伊勢崎市内で最大規模となる前方後円墳で、長持形石棺が出土した。また、釜ノ口遺跡(75)では5世紀中葉の埴輪工房跡が検出され、赤堀茶臼山古墳に埴輪を供給していたと推定されている。

後期の遺跡では、上西根遺跡(3)、書上本山遺跡(19)、舞台遺跡(33)、下触牛伏遺跡(69)において調査が行われ、岡屋敷遺跡(41)は竪穴住居が100棟以上検出された。後期になると群馬県内において前方後円墳の築造が増加する。地蔵山古墳群(65)や蟹沼東古墳群(43)などは円墳からなる群集墳であり、竪穴式小石槨を主体部とする。さらに横穴式石室が採用された権現山古墳群(60)のほか、伊勢崎市指定史跡の一ノ関古墳(6)などがある。本関町古墳群(1)の過年度の調査では多くの古墳が調査され、C区2号墳からは類例の希少な「赤玉」が出土し注目される。

終末期になると前方後円墳の築造はなくなるが、古墳の造営は続き、下触牛伏遺跡(69)の古墳群や周溝を2重に廻らせ、横穴式石室の基礎に版築技法が施された円墳の祝堂古墳(40)がある。また、伊勢崎市教育委員会が調査を行った本関町古墳群(1)6号墳は、7世紀後半と考えられ、周溝からは上植木廃寺創建期と同範の重圏縁単弁八葉文軒丸瓦が出土し、藤手刀や銅製鍔帯が出土した上原古墳(36)とともに地方豪族と律令体制との関連が注目される。

今回の本関町古墳群の調査では、主体部は確認されなかったものの、6基の円墳を調査した。一方、関遺跡では、古墳時代の水田のほか、古墳時代後期の住居が検出された。本関町古墳群と近接することから、関遺跡はこれらの古墳群築造を支えた集落の一つであった可能性が高い。

古代

伊勢崎市周辺では、広瀬川(旧利根川)より東の地域は古代行政区分の佐位郡にあたると思われる。古代佐位郡の中心と考えられる殖蓮地区に位置する三軒屋遺跡(13)では、礎石建物や掘立柱建物群と八角形的大型礎石建物が発見され、『上野国交替実録帳』の記載と一致す

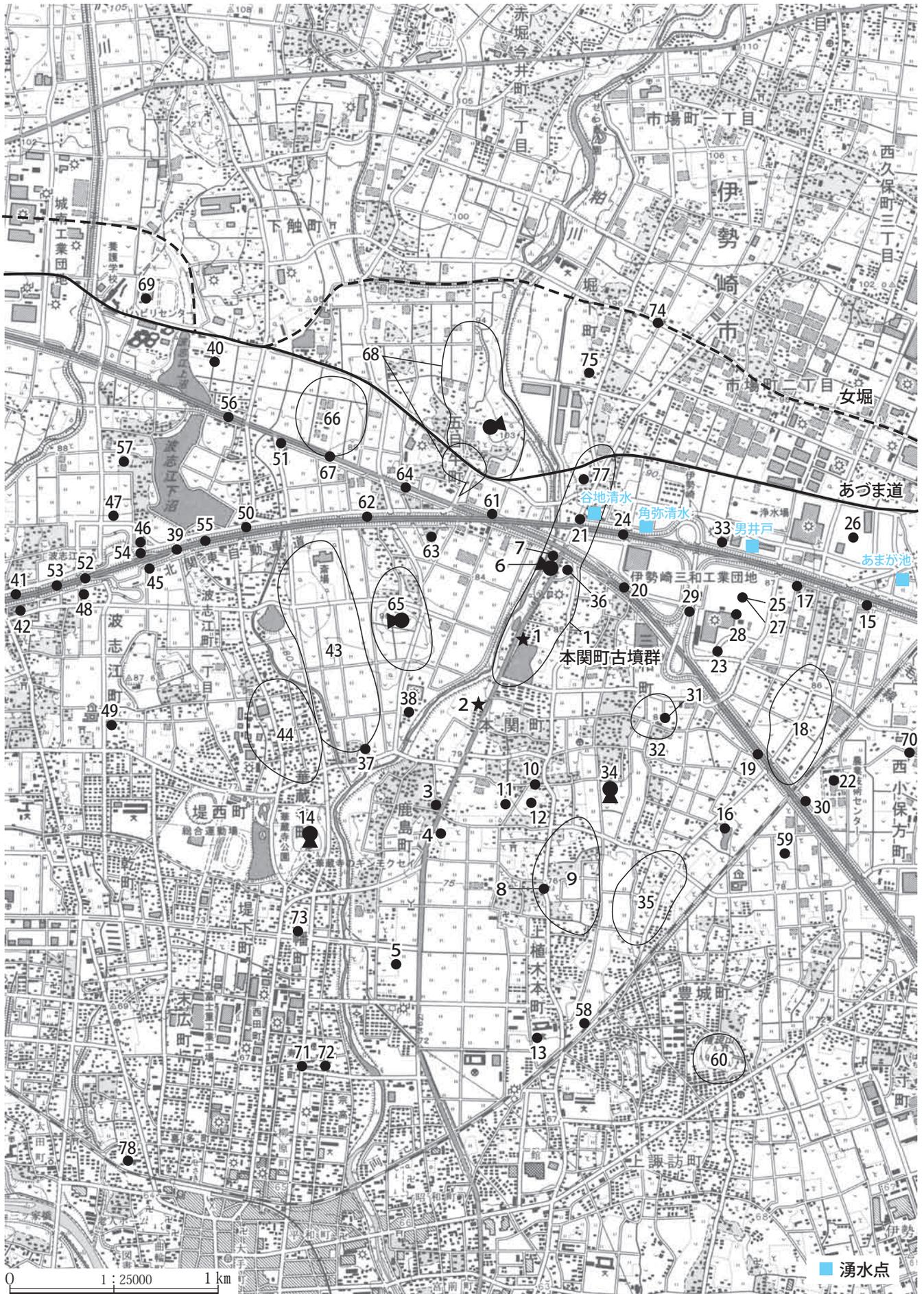
ることから、古代佐位郡正倉跡と断定された。7世紀後半に創建され、他に例を見ない伽藍配置が調査されている上植木廃寺(10)、上植木廃寺創建期の瓦窯である上植木廃寺瓦窯跡(11)などが調査されている。上植木廃寺に隣接する恵下遺跡(8)では集落跡が確認された。また、遺跡より3.5km南には東山道駅路が推定され、南久保遺跡(5)や大道西遺跡(58)では佐位郡衙に関連すると考えられる道路状遺構が検出されている。

関遺跡では奈良・平安時代の竪穴住居が検出され、古墳時代後期から継続して集落が営まれていた。本遺跡の約400m東には上植木廃寺(10)が位置し、その周辺には上植木廃寺瓦窯跡(11)、上植木廃寺周辺遺跡(12)などの遺跡が分布している。また、本遺跡から1.2km南東には古代佐位郡の中心地域である三軒屋遺跡(13)が位置する。本遺跡の古代の遺構は竪穴住居が中心であるが、遺物では「佐位郡」と刻書された紡輪が出土し、これらの遺跡との関連が想定される。

中近世

岡屋敷遺跡(41)では内堀と土塁が確認された外堀の一部を検出し、波志江中屋敷西遺跡(53)や波志江中屋敷遺跡(52)などでも館跡などの調査が行われている。周辺には中世と推定される岡屋敷館址(42)、中屋敷館址(48)などがある。波志江中屋敷遺跡(52)では岡屋敷館址(42)の内郭部分が調査され溝や掘立柱建物などが調査された。天ヶ堤遺跡(15)では、近世後半の礎石を伴う屋敷跡が2棟、壁際に柱穴が廻る土坑2基のほか畑では耕作列が3か所で検出されている。上植木壱町田遺跡(20)では掘立柱建物や溝、火葬跡や土坑墓、井戸、伊勢山遺跡(39)では土坑墓が28基調査されている。下植木壱町田遺跡(29)では中世遺構が数多く検出され、堀で区画された館跡や掘立柱建物群、土坑墓や火葬跡などが調査された。12世紀中頃に前橋市上泉町から伊勢崎市(旧佐波郡東村)国定まで水路として開削された全長約13kmに及ぶ女堀(74)は未完成のまま放棄されたことが調査で明らかになっている。伊勢崎市域北部を東西に走るあづま道(76)は、前橋市から太田市まで延び、東山道駅路と推定されているが、調査によって中世以降に構築された道路であることが明らかとなった。

関遺跡では、中近世と考えられる畑が、一部を除き調査区のほぼ全面で検出された。



第8図 周辺の遺跡位置図 ★1は本関町古墳群のうち今回の調査地点
(国土地理院 1 : 25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行、「伊勢崎」平成15年2月1日発行使用)

第2節 遺跡の歴史的環境

第2表 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	調査	概要	時代	文献番号
1	本関町古墳群 (ほんせきちようこふんぐん)	本関町他	昭和25年度 群馬大学史学研究室、昭和39・43・49年度 伊勢崎市教育委員会、昭和41年度 県立伊勢崎女子高、昭和58年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成15・16年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	粕川左岸に帯状に分布し、主に古墳時代後・終末期の古墳群。前方後円墳も含むが、大部分は円墳である。これまでに45基の古墳が調査された。	旧石器/縄文/古墳	本報告書、8・109
2	関遺跡 (せきいせき)	本関町他	平成20・23年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	本報告書	古墳/奈良・平安	本報告書、1
3	上西根遺跡 (かみにしねいせき)	鹿島町	昭和58年度 伊勢崎市教育委員会平成20年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代中期から後期の住居、方形周溝墓、奈良時代の住居などが調査された(伊勢崎市教委調査)。	古墳/奈良・平安	1・2・3
4	新屋敷遺跡 (あらやしきいせき)	鹿島町他	昭和57年度 伊勢崎市教育委員会平成20年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代前期、平安時代の住居、方形遺構、井戸などが調査された(伊勢崎市教委調査)。	古墳/奈良・平安	1・4・5・6・105
5	南久保遺跡 (みなみくぼいせき)	鹿島町	平成20年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代の住居、古代の畠、水田のほか佐位郡衙から東西に延びる道路状遺構が検出され、中世の溝、土坑、掘立柱建物などが調査された。	古墳/奈良・平安/中世	7
6	一ノ関古墳 (いちのせきこふん)	本関町	昭和43年度・平成8・15年度 伊勢崎市教育委員会	「上毛古墳総覧」記載の殖蓮村71号古墳を平成16年に名称変更、6世紀後半の前方後円墳。	古墳	5・9
7	関山遺跡 (せきやまいせき)	本関町	平成15・17年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代後期の円墳が調査され、家形埴輪をはじめ、多くの形象埴輪、円筒埴輪が出土。	古墳/奈良/平安	10・11
8	恵下遺跡 (えげいせき)	上植木本町	昭和53年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代の住居、溝、古墳3基、奈良・平安時代の住居などが調査された。	古墳/奈良・平安	5・12
9	恵下古墳群(えげこふんぐん)	上植木本町	昭和53・54・平成2年度 伊勢崎市教育委員会	6世紀の円墳。	古墳	5・12
10	上植木廃寺 (かみうえきはいじ)	上植木町他	昭和57～62年度・平成2～5・7・18・20年度 伊勢崎市教育委員会	7世紀後半の寺院跡、伽藍配置や寺院に関連する建物などが調査された。	古墳/奈良・平安	13・14
11	上植木廃寺瓦窯跡 (かみうえきはいじがようあと)	本関町	平成7年度 伊勢崎市教育委員会	上植木廃寺創建期の瓦窯、瓦窯絶遺構の溝などが調査された。	古墳/奈良・平安	15
12	上植木廃寺周辺遺跡 (かみうえきはいじしゅうへんいせき)	上植木町他	昭和59～63年度・平成4・7・10年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代・奈良平安時代の集落。	古墳/奈良・平安	14・15
13	三軒屋遺跡 (さんげんやいせき)	上植木本町	平成14・16・17・18・19・20・21年度 伊勢崎市教育委員会	古代佐位郡衙正倉、掘立柱建物、礎石建物、溝などが調査された。	古墳/奈良・平安	16・17
14	華蔵寺裏山古墳 (けぞうじうらやまこふん)	華蔵寺町	昭和39年度 伊勢崎市教育委員会	4世紀後半の墳丘40mの前方後円墳(前方後方墳の可能性もあり)。	古墳	5
15	天ヶ堤遺跡 (あまがつつみいせき)	三和町	昭和52・平成6～8・10年度 伊勢崎市教育委員会、平成12・13・14年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成17年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代前期、中期の住居や土坑、後期の土坑、古墳時代の住居、平安時代の掘立柱建物、近世の屋敷跡、土坑、畑跡などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/近世	18・19・20
16	天野沼遺跡(あまのぬまいせき)	三和町他	昭和52年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代の住居5棟が調査された。	古墳/奈良・平安	18
17	書上遺跡 (かきあげいせき)	三和町	昭和59・平成12・13・14年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成7年度 伊勢崎市教育委員会	旧石器時代第1から第4文化層の石器群、縄文前期から後期の土器、竪穴状遺構、土坑、古墳時代の住居、畠状遺構、中近世の土坑、溝、井戸などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/中世	21・22
18	書上古墳群 (かきあげこふんぐん)	三和町	昭和58年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	横穴式石室を主体部とする7世紀の円墳。	古墳	5・18・23
19	書上本山遺跡 (かきあげほんざんいせき)	三和町	昭和59年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、縄文時代早期から中期の土器、石器、古墳時代後期の住居、井戸、平安時代の住居、溝、集石遺構、土坑、中世から近世の掘立柱建物、溝などが調査された。		24
20	上植木町田遺跡 (かみうえきいっちょうだいせき)	三和町	昭和58・59年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代から奈良・平安時代の住居、中近世の掘立柱建物、溝、土坑墓、井戸などが調査された。		23
21	上植木光仙房遺跡 (かみうえきこうせんぼういせき)	三和町	昭和58・59・平成12年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器20点、古墳時代の古墳、奈良・平安時代土坑、溝、墓坑、中世の竪穴建物、近世の掘立柱建物、溝、土坑、井戸などが調査されている。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/中世	25・26
22	県園芸試験場第二遺跡 (えんげいしけんじょうだいにいせき)	三和町	昭和49年度 群馬県教育委員会	奈良・平安時代の住居、掘立柱建物。	奈良・平安	5・27
23	鯉沼東遺跡 (こいぬまひがしいせき)	三和町	昭和51年度・平成7・8年度 伊勢崎市教育委員会、昭和58年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代中期、古墳時代、平安時代の住居などが調査された。	縄文/奈良・平安	5・28
24	光仙房遺跡 (こうせんぼういせき)	三和町	平成9～11年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代第1、第2文化層、古墳時代6世紀後半の円墳、集落、粘土採掘坑、平安時代の集落、須恵器窯跡が調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安	5・29
25	三和工業団地Ⅰ遺跡 (さんわこうぎょうだんちいせき)	三和町	平成7・8年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、縄文時代の住居、土坑、陥穴、古墳時代の住居126棟、掘立柱建物8棟、平地式建物1棟、祭祀跡1か所、畑、壺棺墓1基、奈良・平安時代住居20棟、掘立柱建物7棟、井戸7基などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/中世	30・31
26	三和工業団地Ⅱ遺跡 (さんわこうぎょうだんちにいせき)	三和町	平成6～8年度 伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期から後期の住居、屋外埋設土器、土坑、古墳時代の土坑、奈良・平安時代の掘立柱建物、柵列跡、溝、中近世の溝、近現代の道跡、窯跡などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良・平安/中世/近世	32
27	三和工業団地Ⅲ遺跡 (さんわこうぎょうだんちさんいせき)	三和町	平成7～9年度 伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期から中期の住居、土坑、古墳時代の方形周溝墓、住居、掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑、井戸、溝、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、溝、井戸、窯跡、水田などが調査された。	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良・平安	33
28	三和工業団地Ⅳ遺跡 (さんわこうぎょうだんちよんいせき)	三和町	平成9～11年度 伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期の住居、土坑、古墳時代の住居、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、壺棺墓、古墳、道路状遺構、土葬墓、火葬墓、円形周溝状遺構、古代から奈良・平安時代の住居、竪穴状遺構、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、中近世の土坑、溝、井戸、近世の柵列、井戸、溝、道路状遺構などが調査された。	旧石器/縄文/弥生/古墳/奈良・平安/中世/近世	34
29	下植木町田遺跡 (しもうえきいっちょうだいせき)	三和町	平成8・9年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代石器、古墳時代の住居、溝、奈良・平安時代の住居、鍛冶遺構、水田、中世の館跡と掘立柱建物群、土坑墓、火葬跡、堀、入口遺構、井戸、近世の溝、集水遺構などが調査された。		35
30	下吉祥寺遺跡 (しもきちじょうじいせき)	三和町	昭和54・56年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代前期および中期の住居、古墳時代から奈良・平安時代の住居、溝、製鉄遺構などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安	36・37
31	高山遺跡 (たかやまいせき)	三和町	昭和52年度・平成9年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代前期の住居、古墳、方形特殊遺構、溝などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安	5・18
32	高山古墳群 (たかやまこふんぐん)	三和町	昭和52年度 伊勢崎市教育委員会	6世紀に築造された円墳。	古墳	5・18

第2章 地理的および歴史的環境

番号	遺跡名	所在地	調査	概要	時代	文献番号
33	舞台遺跡 (ぶたいいせき)	三和町	平成7～11年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、昭和51年度 伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器群、縄文時代前期の住居、古墳時代前期および後期の住居や後期の円形周溝遺構、奈良・平安時代の住居、平安須恵器窯跡などが調査された。	旧石器/縄文/奈良・平安/中世	38・39・40
34	丸塚山古墳 (まるづかやまこふん)	三和町	昭和30年度 群馬大学史学研究室	5世紀後半に築造された帆立貝式古墳。	古墳	5
35	大道西古墳群 (おおみちにしこふんぐん)	三和町	昭和56・58年度 伊勢崎市教育委員会	大道西1号墳、行者山1,2号墳が調査された。	古墳	5
36	上原古墳 (うへはらこふん)	三和町	昭和41年度 伊勢崎市教育委員会、梅沢重昭	玄室から鉄手刀、青銅製鈿帯などが出土し、築造時期は7世紀末から8世紀初頭と推定されている。	古墳	41・42
37	間之山遺跡 (あいのやまいせき)	波志江町	昭和52年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代草創期土器片、弥生時代の住居、後期土器、古墳時代の住居、方形周溝墓などが調査されている。	縄文/弥生/古墳/奈良・平安	5・43・44
38	間之山東遺跡 (あいのやまひがしいせき)	波志江町	昭和60年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代の集落。	縄文/古墳/奈良・平安	5
39	伊勢山遺跡(いせやまいせき)	波志江町	平成11年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、縄文時代土器・石器、古墳時代前期土師器、近世墓、溝、土坑等が調査された。	旧石器/縄文/古墳/近世	45
40	祝堂古墳 (いわいどうこふん)	波志江町	昭和56年度 伊勢崎市教育委員会	横穴式両袖型石室を主体部とし2重の周溝をもつ終末期の円墳。	古墳	5・46
41	岡屋敷遺跡 (おかやしきいせき)	波志江町	平成10・11年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成11年度伊勢崎市教育委員会、平成22年度 伊勢崎市教育委員会	旧石器時代群4基、古墳時代後期集落、粘土採掘坑群、中世墓、屋敷堀などが調査された。	旧石器/古墳/奈良・平安/中世/近世	47・48
42	岡屋敷館址 (おかやしきやかたあと)	波志江町	平成10年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	ほぼ150m四方とされる館跡。	中世	5・49・50
43	蟹沼東古墳群 (かにぬまひがしこふんぐん)	波志江町	昭和52～55・61年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代の住居、古墳時代の住居、方形周溝墓、約70基の後期・終末期の円墳などが調査された。	古墳	5・44・51・52
44	台所山古墳 (だいどころやまこふん)	波志江町	昭和46年度 伊勢崎市教育委員会	箱式石棺を主体部とする6世紀中頃から後半と推定される円墳。	古墳	5
45	大沼下遺跡 (おおぬましたいせき)	波志江町	昭和51年度 伊勢崎市教育委員会、平成9・10・15年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成10年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代前期、奈良・平安時代の集落、方形周溝状遺構、溝のほか古墳時代、平安時代の水田などが調査された。	古墳/奈良・平安	53・54
46	田中田遺跡(たなかだいせき)	波志江町	平成15年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代の水田、平安時代の水田、古代の水路が調査された。	古墳/奈良・平安	54
47	田中田遺跡Ⅱ (たなかだいせきに)	波志江町	平成18年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代から古代の水田。	古墳/奈良・平安	55
48	中屋敷館址 (なかやしきやかたあと)	波志江町	平成10年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	東西100m南北130mとされる館跡。	中世	5・49・56・57
49	西稲岡遺跡 (にしいなおかいせき)	波志江町	昭和51年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代の溝などが調査された。	古墳/奈良・平安	58
50	波志江中宿遺跡 (はしえなかにじゅくいせき)	波志江町	平成9～11年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、奈良・平安時代の住居、古墳時代前期の粘土採掘坑、木製品、水田、中近世の掘立柱建物、井戸などが調査された。		59
51	波志江中峰岸遺跡 (はしえなかみねがしいせき)	波志江町	昭和60年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	平安時代の水田、溝などが調査された。		60
52	波志江中屋敷遺跡 (はしえなかやしきいせき)	波志江町	平成10年度 伊勢崎市教育委員会、平成10・11年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代早期の住居、集石遺構、古墳時代から平安時代の住居、溝、水田、畠、中近世の環壕屋敷、溝、掘立柱建物、井戸、土坑、近代の屋敷などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安/中世/近世	57
53	波志江中屋敷西遺跡 (はしえなかやしきにしいせき)	波志江町	平成10年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団平成10・12年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代～弥生時代の土坑、古墳時代水田、古墳時代から平安時代の溝、土坑、奈良・平安時代の住居、溝、水田、畠、中世屋敷、堀、溝、掘立柱建物、井戸、土坑、土坑墓、江戸時代以降の溝、土坑等が調査された。	縄文/古墳/中世/近世	61
54	波志江中屋敷東遺跡 (はしえなかやしきひがしいせき)	波志江町	平成9・10年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代の土坑、集石遺構、弥生時代の土器、古墳時代の木製品・木器が出土した水田、溝、中近世の土坑、近世の溝などが調査された。	弥生/古墳/奈良・平安	53・54
55	波志江西宿遺跡 (はしえにしじゅくいせき)	波志江町	平成10～12年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代3時期の石器群、縄文時代石器、弥生時代磨製石鏃などが出土した。古墳時代前期住居19棟、掘立柱建物2棟、土坑等、中近世掘立柱建物1棟、建物跡1棟、井戸24基、溝45条、土坑などが調査された。	旧石器/縄文/弥生/古墳/中世/近世	45・62
56	波志江六反田遺跡 (はしえろくたんだいせき)	波志江町	昭和60年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器、平安時代の住居、水田、近世以降の溝、井戸、土坑、掘立柱建物などが調査された。		63
57	宮貝戸下遺跡 (みやがいとしいせき)	波志江町	昭和52年度 伊勢崎市教育委員会	奈良時代住居、中近世の井戸、墓などが調査された。	古墳/奈良・平安	44
58	大道西遺跡 (おおみちにしいせき)	豊城町	平成20・21年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代前期の住居、土坑、佐佐部衝へ続く古代の道路遺構、平安時代の水田、畠、中近世の溝、土坑などが調査された。	古墳/奈良・平安/中世/近世	64
59	原之城遺跡 (げんのじょういせき)	豊城町	昭和56・58～61年度・平成2年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代後期の住居や掘立柱建物、豪族居館、祭祀跡などが調査された。	古墳	5・36・65
60	権現山古墳群 (ごんげんやまこふんぐん)	豊城町	昭和45年度 伊勢崎市教育委員会	横穴式石室を主体部とする6世紀前半から7世紀前半の4基の円墳が調査された。	古墳	5
61	五目牛清水田遺跡 (ごめうししみずだいせき)	五目牛町	昭和59・60年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代前期初頭の住居、古墳時代の住居、水田、前方後円墳、奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、溝、特殊遺構、祭祀跡、水田、中近世の掘立柱建物、溝、井戸、墓などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安	66・67
62	五目牛新田遺跡 (ごめうししんでんいせき)	五目牛町	平成9～11年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代草創期の住居、土坑、集石遺構、前期の住居、古墳時代前期の住居、古墳時代から近世の掘立柱建物、古代から近現代の土坑や溝などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/奈良/平安	67
63	五目牛東遺跡 (ごめうしひがしいせき)	五目牛町	昭和54年度 赤堀町教育委員会	縄文時代の住居、古墳時代の住居、奈良・平安時代の住居、時期不明の掘立柱建物などが調査された。	縄文/古墳/奈良・平安	68
64	五目牛南組遺跡 (ごめうしみなみぐみいせき)	五目牛町	昭和59・60年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、平成8～11年度 伊勢崎市教育委員会	旧石器時代の石器、縄文時代前期の住居、土坑、陥穴、竪穴遺構、弥生時代後期の糞棺墓、古墳時代前期の住居、後期の円墳、古代の木炭窯、近現代の掘立柱建物、礎石建物、溝、土坑、井戸、畠などが調査された。	旧石器/縄文/古墳/近世/現代	67・69
65	地藏山古墳群 (じぞうやまこふんぐん)	五目牛町	昭和52・53年度 赤堀村教育委員会	古墳時代中期から終末期にかけて築造された円墳、方墳、帆立貝式古墳など43基の古墳が調査された。	古墳	70・71
66	八幡林古墳群 (はちまんばやしこふんぐん)	五目牛町	昭和56年度 赤堀村教育委員会	縄文時代前期の住居4棟、4基の円墳が調査された。	縄文/古墳	72
67	堀下八幡遺跡 (ほりしたはちまんいせき)	五目牛町	昭和59年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代の石器群、縄文時代前期の住居、土坑、平安時代の住居、掘立柱建物、時期不明の溝、井戸などが調査された。	旧石器/縄文/奈良・平安	73

第2節 遺跡の歴史的環境

番号	遺跡名	所在地	調査	概要	時代	文献番号
68	洞山遺跡・洞山古墳群 (どうやまいせき・どうやまこふんぐん)	五日市町	昭和55・57年度 赤堀村教育委員会、平成2年度 赤堀町教育委員会、平成17・18・21年度 伊勢崎市教育委員会	縄文時代の住居(中・後期)・土坑、方形周溝墓、古墳時代・奈良・平安時代の住居などが調査されている。	縄文/古墳/奈良/平安/中世以降	74・75・76・77・78・79
69	下触牛伏遺跡 (しもふれうしぶせいせき)	下触町	昭和57・58年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	旧石器時代第1、第2文化層の石器群、縄文時代の住居、土坑、陥穴、集石、古墳時代後期の住居、終末期の古墳10基などが調査された。	旧石器/縄文/古墳	80
70	中西原遺跡 (なかにしはらいせき)	西小保方町	昭和49年度 群馬県教育委員会、平成7～9年度 東村教育委員会、平成22・23年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	縄文時代前期から中期、古墳時代、平安時代の住居、中近世の土坑、井戸などが調査された。	旧石器/縄文/平安/中世/近現代	81・82・83・84・85・102
71	寿町遺跡 (ことぶきちょういせき)	寿町	平成10・11・18年度 伊勢崎市教育委員会	奈良・平安時代の住居、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、道路状遺構が調査され、皇朝十二銭などが出土した。	古墳/奈良・平安/中世/近世	86・87・88・89
72	宗高遺跡 (むねたかいせき)	宗高町	平成9・10年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代の住居、奈良・平安時代の住居、中近世の溝、土坑墓、道跡などが調査された。	古墳/奈良・平安/中世	86・90
73	八幡町遺跡 (やはたちょういせき)	八幡町	昭和60・62年度・平成元年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代前期から後期の集落、溝、土坑、井戸、平安時代の溝、近世以降の溝などが調査された。	古墳/奈良・平安/近世	91・92・93
74	女堀 (おんなぼり)	前橋市東大室町から伊勢崎市堀下町他	昭和54・56・57・58年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団、昭和54・60年度 赤堀村教育委員会	前橋市上泉町付近から旧佐波郡東村西国定(現伊勢崎市)まで12世紀代に幅15～30m、深さ3～4m、全長およそ13kmにわたり開削された未完成の用水路。	中世	94・95・96
75	釜ノ口遺跡 (かまのくちいせき)	堀下町	平成11年度 赤堀町教育委員会、平成14・15・19年度 伊勢崎市教育委員会	古墳時代中期の埴輪工房跡、後期の円墳のほか、縄文時代、古墳時代、平安時代の遺構と遺物が出土した。	縄文/古墳/平安/近世	97・98・99
76	あづま道(あづまみち)	—	昭和61・62年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	中世以降に構築された道路。	中世以降	100・101
77	東遺跡 (あずまいせき)	三和町	平成14～16年度 伊勢崎教育委員会	6世紀の円墳が検出され、円筒埴輪・多数の埴輪片・土器片などが出土した。	古墳/奈良・平安	103・104・106
78	喜多町遺跡 (きたまちいせき)	曲輪町太田町	平成18年度 伊勢崎市教育委員会、平成19年度 群馬県埋蔵文化財調査事業団	古墳時代前期を中心とした前期から後期の集落。	縄文/古墳/古代/中近世	107・108

第2表参考文献(数字は文献番号と一致する)

- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡(1)』
- 伊勢崎市教育委員会1985『上西根遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会2004『上西根遺跡』
- 須長泰一1986「上植木廃寺周辺遺跡の一調査例」『伊勢崎市史研究』第4号 pp.1-16
- 伊勢崎市1987『伊勢崎市史通史編1』
- 伊勢崎市教育委員会2009『新屋敷遺跡・上植木廃寺周辺遺跡Ⅱ・上植木廃寺』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『南久保遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『本関町古墳群』
- 伊勢崎市教育委員会2005『一ノ関古墳』
- 伊勢崎市教育委員会2005『関山遺跡Ⅱ』
- 伊勢崎市教育委員会2006『平成17年度市内遺跡確認調査報告書』
- 伊勢崎市教育委員会1979『恵下遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会1985『上植木廃寺発掘調査概報Ⅰ』
- 伊勢崎市教育委員会2009『新屋敷遺跡・上植木廃寺周辺遺跡Ⅱ・上植木廃寺』
- 伊勢崎市教育委員会2002『上植木廃寺・上植木廃寺瓦窯』
- 伊勢崎市教育委員会2007『三軒屋遺跡Ⅰ』
- 伊勢崎市教育委員会2010『三軒屋遺跡Ⅱ』
- 伊勢崎市教育委員会1977『高山遺跡・天ヶ堤遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『天ヶ堤遺跡(1)』
- 伊勢崎市教育委員会2006『天ヶ堤遺跡V』
- 伊勢崎市教育委員会2002『平成12年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『書上遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壱町田遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1989『上植木光仙房遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『上植木光仙房遺跡』
- 群馬県教育委員会1974『県園芸試験場第二遺跡・下江田前遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会1977『鯉沼東遺跡・舞台遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『光仙房遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『三和工業団地Ⅰ遺跡(1)』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)』
- 伊勢崎市教育委員会2004『三和工業団地Ⅱ遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会2004『三和工業団地Ⅲ遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会2004『三和工業団地Ⅳ遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『下植木壱町田遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会1982『原之城遺跡・下吉祥寺遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会1980『下吉祥寺遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『舞台遺跡(1)』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『舞台遺跡(2)』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『舞台遺跡(3)』
- 群馬県立伊勢崎女子高等学校地歴部1968『上原古墳発掘報告書』
- 群馬県1981『群馬県史資料編3』
- 伊勢崎市教育委員会1983『西太田遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会1977『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『波志江西宿遺跡Ⅰ・伊勢山遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会1982『牛伏1号古墳・祝堂古墳・大沼上遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『岡屋敷遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会2012『岡屋敷遺跡-第4次調査-』
- 群馬県文化事業振興会1978『群馬県古城址の研究』上巻
- 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
- 伊勢崎市教育委員会1979・1981『蟹沼東古墳群』
- 伊勢崎市教育委員会1980『宮貝戸古墳群・蟹沼東古墳群』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『波志江中屋敷東遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『中屋敷東遺跡・田中田遺跡・大沼下遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会2007『田中田遺跡Ⅱ』
- 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『波志江中屋敷遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会1977『大沼下遺跡・西稲岡遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『波志江中宿遺跡』
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1995『飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡』

第2章 地理および歴史的環境

- 61.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『波志江中屋敷西遺跡』
- 62.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2004『波志江西宿遺跡Ⅱ』
- 63.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡』
- 64.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『大道西遺跡』
- 65.伊勢崎市教育委員会1983『原之城遺跡発掘調査報告書』
- 66.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『五目牛清水田遺跡』
- 67.伊勢崎市教育委員会2005『五目牛新田遺跡、五目牛南組Ⅱ遺跡、五目牛清水田Ⅱ遺跡、柳田Ⅱ遺跡』
- 68.赤堀町教育委員会1979『五目牛東遺跡群及び赤堀町8号墳発掘調査概報』
- 69.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1992『五目牛南組遺跡』
- 70.赤堀村教育委員会1978『赤堀村地蔵山の古墳1』
- 71.赤堀村教育委員会1979『赤堀村地蔵山の古墳2』
- 72.赤堀村教育委員会1982『八幡林古墳群及び縄文住居跡調査概報』
- 73.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1990『堀下八幡遺跡』
- 74.赤堀村教育委員会1980『五目牛洞山遺跡発掘調査概報』
- 75.赤堀村教育委員会1982『洞山古墳群及び北通、鷹巣遺跡発掘調査概報』
- 76.赤堀町教育委員会1990『五目牛地区長堂106号線拡幅工事伴う埋蔵文化財発掘調査概報』
- 77.伊勢崎市教育委員会2006『洞山遺跡Ⅴ』
- 78.伊勢崎市教育委員会2007『洞山遺跡Ⅳ』
- 79.伊勢崎市教育委員会2010『洞山遺跡Ⅵ』
- 80.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1986『下触牛伏遺跡』
- 81.東村1979『東村誌』
- 82.東村教育委員会1996『中西原遺跡Ⅰ』
- 83.東村教育委員会1997『中西原遺跡Ⅱ』
- 84.東村教育委員会1998『中西原遺跡Ⅲ』
- 85.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『年報30』
- 86.伊勢崎市教育委員会2001『平成10年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 87.伊勢崎市教育委員会2001『平成11年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 88.伊勢崎市教育委員会2007『平成18年度伊勢崎市文化財保護年報』
- 89.伊勢崎市教育委員会2012『寿町遺跡―第1～3次調査―』
- 90.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『年報17』
- 91.伊勢崎市教育委員会1987『八幡町遺跡』
- 92.伊勢崎市教育委員会1988『八幡町遺跡(B地区)』
- 93.伊勢崎市教育委員会1999『八幡町遺跡(D地区)』
- 94.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『女堀』
- 95.赤堀村教育委員会1980『川上遺跡、女掘用水遺構発掘調査概報』
- 96.赤堀村教育委員会1986『中畑遺跡、女掘用水遺構発掘調査概報』
- 97.赤堀町教育委員会1999『平成11年度埋蔵文化財発掘調査概報』
- 98.伊勢崎市教育委員会2007『釜ノ口遺跡Ⅳ』
- 99.伊勢崎市教育委員会2011『釜ノ口遺跡3』
- 100.群馬県教育委員会1983『歴史の道調査報告書東山道』
- 101.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1995『今井道上・道下遺跡』
- 102.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『中西原遺跡―縄文時代集落遺跡の調査―』
- 103.伊勢崎市教育委員会2004『平成14年度文化財保護年報』
- 104.伊勢崎市教育委員会2004『平成15年度伊勢崎市文化財保護年報』
- 105.伊勢崎市2013『新屋敷遺跡2』
- 106.伊勢崎市教育委員会2005『平成16年度伊勢崎市文化財保護年報』
- 107.伊勢崎市教育委員会2008『喜多町遺跡』
- 108.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011『喜多町遺跡』
- 109.伊勢崎市教育委員会2011『本関町古墳群』

第3章 本関町古墳群の調査

今回の発掘調査では、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、時期不明の遺構と遺物を確認した。旧石器時代の確認調査ではトレンチ調査を実施し、旧石器時代の石器1点が出土した。縄文時代の調査では、陥穴を含めた土坑6基を確認し、古墳時代では古墳6基を検出した。このほか、時期を特定できない遺構として、溝2条、土坑10基、ピット19基を確認した。

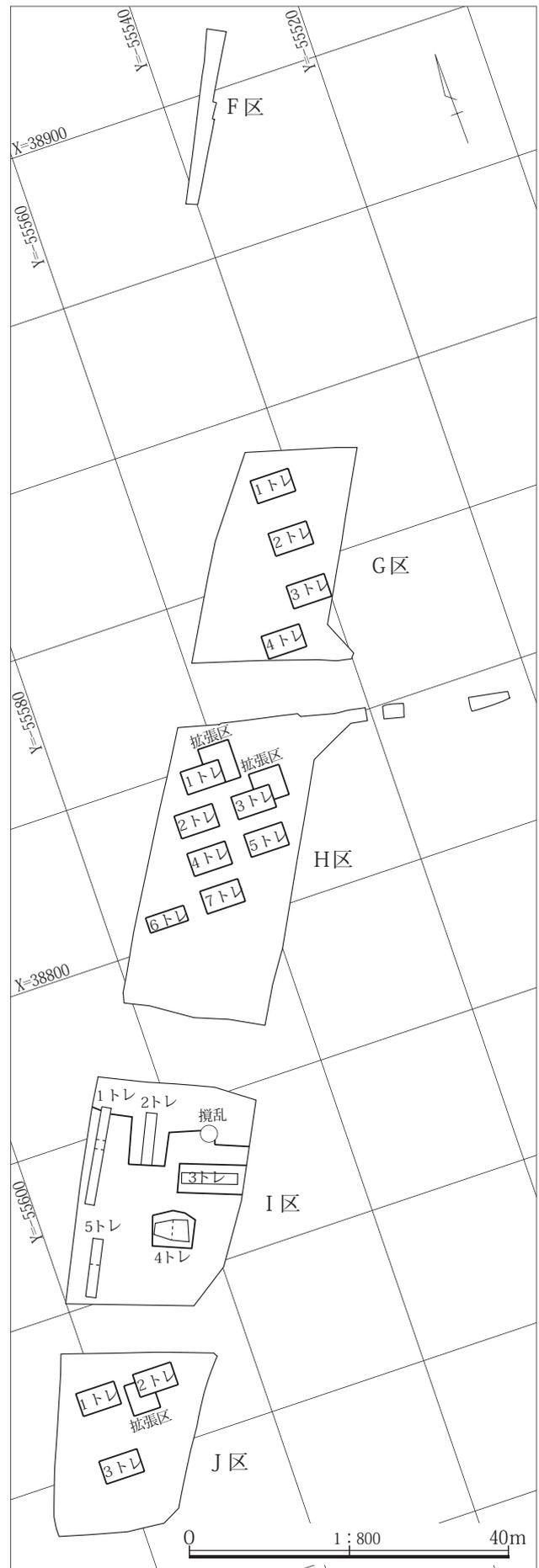
第3表 本関町古墳群遺構一覧表

区	旧石器時代	縄文時代	古墳時代	時期不明			計
	石器	土坑	古墳	溝	土坑	ピット	
F区	0	0	1	0	1	0	2
G区	0	0	2	2	0	15	19
H区	0	5	2	0	7	2	16
I区	0	0	0	0	0	0	0
J区	1	1	1	0	2	2	7
計	1	6	6	2	10	19	44

第1節 旧石器時代の遺物

1. 概要

平成15年度および平成16年度の発掘調査で旧石器時代の遺物が22点出土していたことから、古墳の調査終了後、旧石器時代の確認調査を実施した。調査はトレンチによる調査で、5m×3mのトレンチを基本として、地形などを考慮しながら設定し、必要に応じトレンチの拡張を行った。設定したトレンチはG区が4か所、H区が7か所、I区が5か所、J区が3か所である。F区は調査区が狭いため、トレンチ調査は実施していない。旧石器時代の遺物はJ区1トレンチから出土した剥片1点であった。

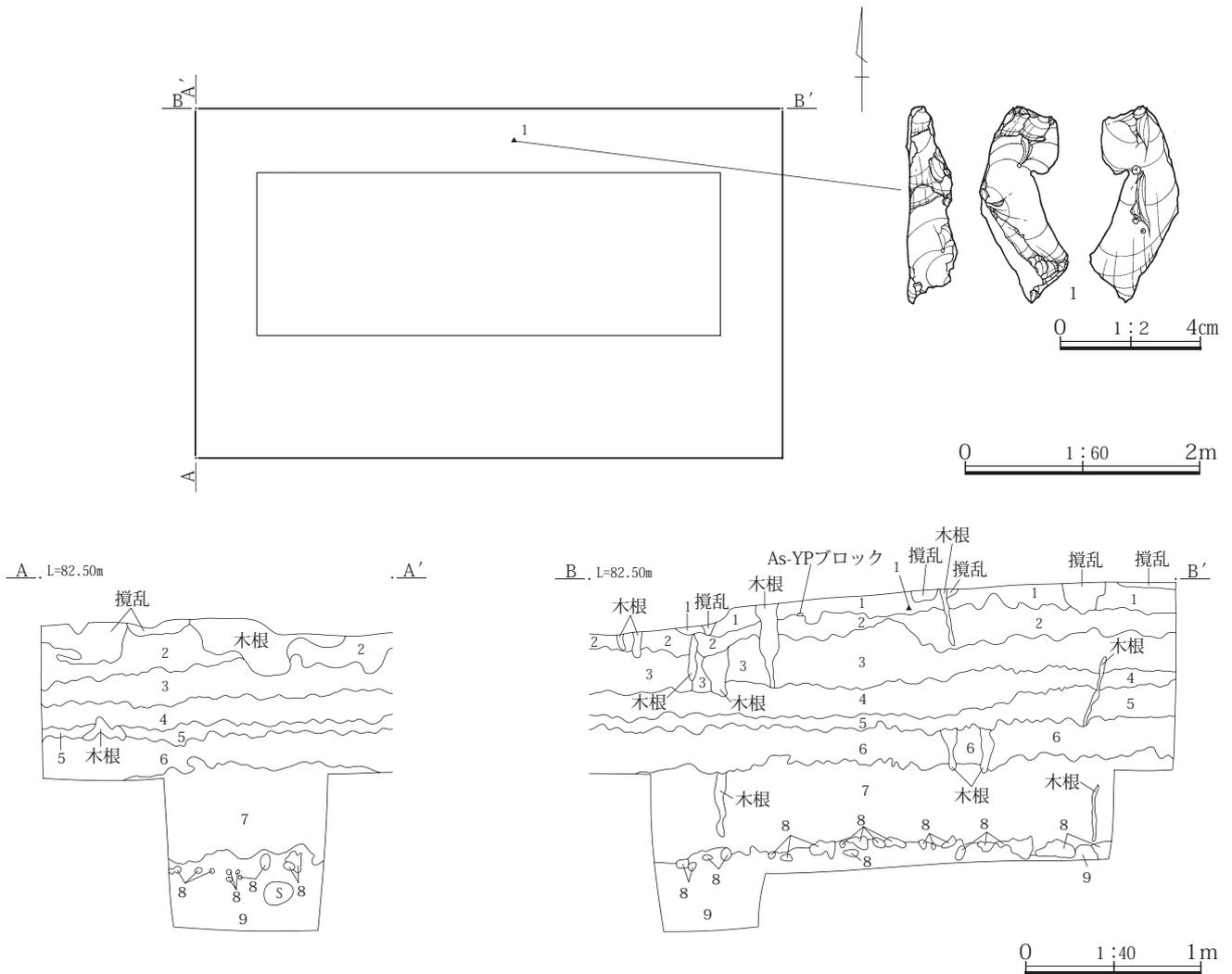


第9図 旧石器時代確認調査トレンチ配置図

2. 出土遺物(第10図 PL.107)

J区1トレンチから、黒曜石製の剥片が1点出土した。出土層位は1層である。1層は軟質ローム層で、上面は縄文時代および古墳時代の遺構検出面である。下位の2

層上面にAs-YPブロックが認められた。1は打面転移を繰り返しながら剥離した剥片で、縁辺には刃こぼれ状の微小剥離痕が認められる。石器自体で時期を特定するのは困難であるが、層位的にはAs-YPより上位のものである。



J区1号トレンチ西面・北面土層 A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 10YR5/2 軟質ローム層。
- 2 明黄褐色土 10YR7/6 硬質黄色ローム層(As-YPを含む)。YPは上半部に集中。
- 3 明黄褐色土 10YR7/6 硬質褐色ローム層(攪拌されたAs-okp1を含む)。2層よりやや暗い。
- 4 にぶい黄褐色土 10YR5/4 暗褐色硬質ローム層(As-BPをブロック状に含む)。

- 5 明黄褐色土 10YR7/6 やや軟質、暗黄褐色軟質ローム層。ATか(MPはパミスとして微量にある)。
- 6 暗黄褐色土 10YR4/2 粘質。暗色帯(灰青色パミス、オレンジパミスを含む)。
- 7 明黄褐色土 10YR7/6 硬くしまっている。上半部にAs-YPを含む。下位には白色軽石・灰色軽石を多く含む。硬くしまっている。
- 8 暗緑灰色土 10G4/1 砂。しまりなし。
- 9 にぶい黄橙色 10YR7/3 シルト。鉄分を多く含む。

第10図 J区トレンチと土層断面、出土遺物

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1. 概要

縄文時代の遺構は土坑7基である。大部分は古墳周堀を検出している際に併せて確認した。形状や埋没土、出土遺物から、縄文時代と判断できたものについてここで取り上げた。時期が判断できなかった土坑は、第4節2項に含めた。

2. 土坑

H区1号土坑(第11図 PL. 3・107)

位置 H区北東部

X=38,813～38,815 Y=-55,552～-55,554

重複 H区1号古墳周堀と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。

形状と規模 平面形は楕円形を呈し、長径1.04m、短径0.92m、遺構検出面から底面までの深さは1.25mである。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、一部オーバーハンクしている。底面は平坦で、中央部にはピットが認められた。ピットは長径30cm、短径25cm、土坑底面からの深さは15cmである。

埋没土 にぶい黄褐色土および暗褐色土、黒褐色土を確認した。下層ほどロームブロックを多く含み、斑状を呈する。

遺物と出土状況 埋没土から、縄文土器15点が出土し、このうち1点を図示した。1は縄文時代後期の深鉢である。

所見 遺構の重複および形状、埋没土の観察から、時期は縄文時代と推定される。

H区2号土坑(第11図 PL. 3)

位置 H区北西部

X=38,820～38,823 Y=-55,562～-55,565

重複 なし

形状と規模 西部は調査区外のため、全体形は不明である。長径1.99m、短径1.75m、遺構検出面から底面までの深さは1.47mである。断面形は逆台形またはU字状を

呈し、開口部は広がっている。底面では直径23cmの円形のピットが1基確認された。土坑底面からの深さは21cmである。

埋没土 ロームブロックを含む土で、2層は斑状を呈する。

遺物と出土状況 埋没土から、縄文時代後期の土器1点が出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 遺構の形状および埋没土の特徴から、縄文時代の陥穴の可能性はある。

H区4号土坑(第11図 PL. 3)

位置 H区北東部

X=38,815～38,817 Y=-55,566～-55,568

重複 なし

形状と規模 平面形は楕円形で、長径1.15m、短径1.02m、遺構検出面から底面までの深さは1.25mである。壁はオーバーハンクし、底面は平坦である。底面中央ではピットが1基確認された。ピットは長径30cm、短径26cmのほぼ円形で、土坑底面からの深さは15cmである。

埋没土 白色軽石を含むにぶい黄褐色土を主体とする。

遺物と出土状況 埋没土から、縄文時代中期末から後期の土器8点が出土したものの、細片のため図示しなかった。

所見 遺構の形状および埋没土の特徴から、時期は縄文時代と考えている。

H区7号土坑(第11図 PL. 3)

位置 H区北部

X=38,815～38,817 Y=-55,557～-55,559

重複 なし

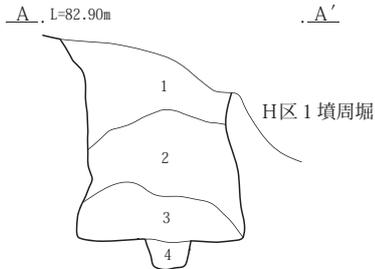
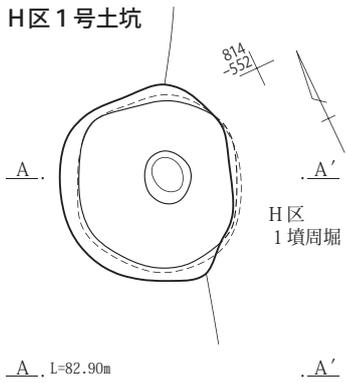
形状と規模 平面形は楕円形で、長径1.06m、短径0.88m、遺構検出面から底面までの深さは0.33mである。断面形は逆台形を呈し、底面にはやや凹凸がある。

埋没土 にぶい黄褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

遺物と出土状況 埋没土から、縄文時代後期の土器3点が出土した。いずれも細片のため図示しなかった。

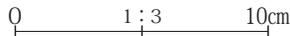
所見 埋没土の特徴および出土遺物から、時期は縄文時代と考えている。性格は不明である。

H区1号土坑

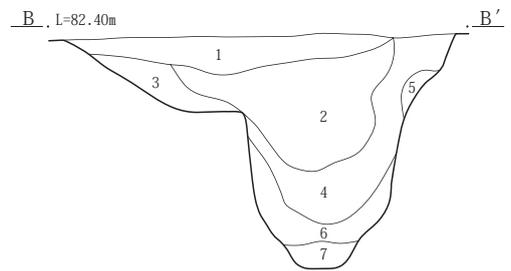
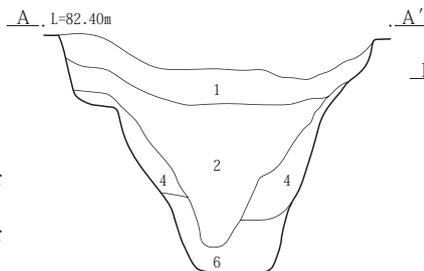
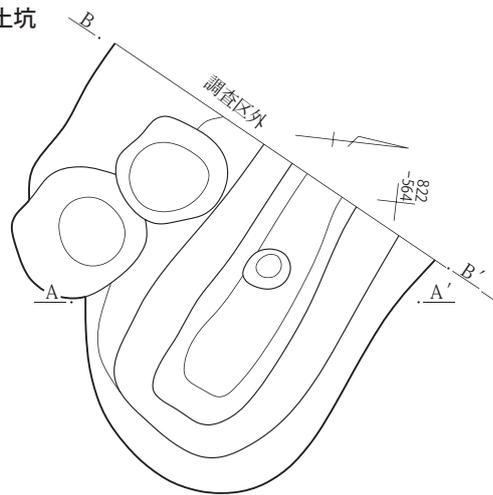


H区1号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄白色軽石を含む。しまっている。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 黄白色軽石を含む。しまりなし。
- 3 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロックを含む。しまっている。
- 4 黒褐色土 10YR3/3 ロームブロックを含む。しまりなし。



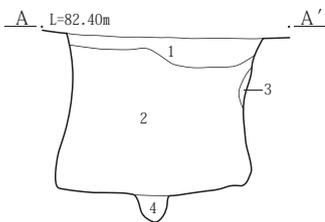
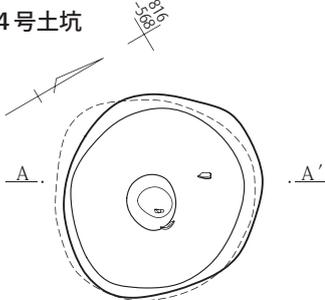
H区2号土坑



H区2号土坑 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色軽石を含む。ロームブロックを斑状に含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/3 黄白色軽石を多く、ロームブロックを含む。しまっている。
- 3 明黄褐色土 10YR6/6 しまりなし。
- 4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄白色軽石を多く、ロームブロックを含む。
- 5 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックを含む。
- 6 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックを多量に含む。
- 7 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロックを含む。暗色帯由来のブロックか。

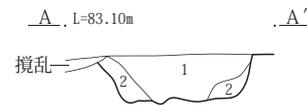
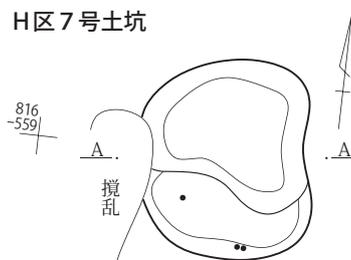
H区4号土坑



H区4号土坑 A-A'

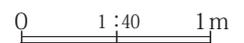
- 1 にぶい黄褐色土 10YR6/3 白色軽石を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色軽石をブロック状に含む。しまりなし。底面付近ではやや黒味強い。
- 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックを含む。しまりなし。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロックを含む。しまりなし。

H区7号土坑



H区7号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色軽石・黒色土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄白色軽石・ロームブロックを含む。



第11図 H区1号・2号・4号・7号土坑と1号土坑出土遺物

H区15号土坑(第12図 PL. 3)

位置 H区北東部

X=38,809 ~ 38,811 Y=-55,552 ~ -55,555

重複 なし

形状と規模 平面形は楕円形で、長径1.26m、短径1.14m、遺構検出面から底面までの深さは1.56mである。壁の立ち上がりは垂直で、南部はオーバーハングしている。底面は南東部でやや緩やかである。底面は平坦で、中央にはピットが1基認められた。ピットは長径43cm、短径40cmのほぼ円形で、土坑底面からの深さは55cmである。

埋没土 にぶい黄褐色土と黒褐色土を確認した。埋没土1層~3層はロームブロックを多量に含み斑状を呈する。

遺物と出土状況 埋没土から、縄文時代後期の土器が2点出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 遺構の形状および埋没土の特徴から、縄文時代と推定される。

J区3号土坑(第12図 PL. 3)

位置 H区北東部

X=38,741 ~ 38,743 Y=-55,594 ~ -55,596

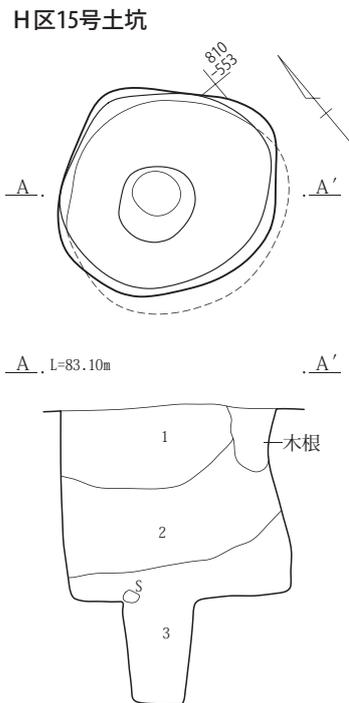
重複 J区1号古墳周堀と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本土坑の方が古い。

形状と規模 平面形は楕円形で、長径は0.79m、短径0.71m、遺構検出面から底面までの深さは0.75mである。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、断面形は箱形を呈する。

埋没土 灰黄褐色土およびにぶい黄褐色土を確認した。いずれの土層もロームブロックを多く含み、斑状を呈する。

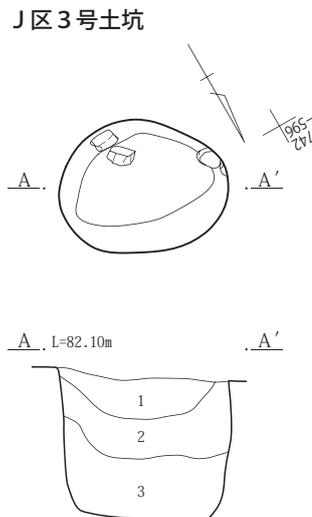
遺物と出土状況 南壁際で、埋没土から角礫が4点出土した。礫以外に出土遺物はなかった。

所見 遺構の重複および埋没土の特徴から、縄文時代と推定される。性格は不明である。



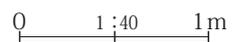
H区15号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色軽石・にぶい黄褐色土(10YR6/4)・斑点状ブロックを含む。
- 2 黒褐色土 10YR3/3 にぶい黄褐色土(10YR6/4)・斑点状ブロックを含む。しまっている。
- 3 黒褐色土 10YR2/2 にぶい黄褐色土(10YR6/4)・斑点状ブロックを含む。しまっている。



J区3号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土 10YR4/2 灰黄色軽石を多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 白黄色軽石・ロームブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土 10YR5/2 白黄色軽石・ロームブロックを含む。

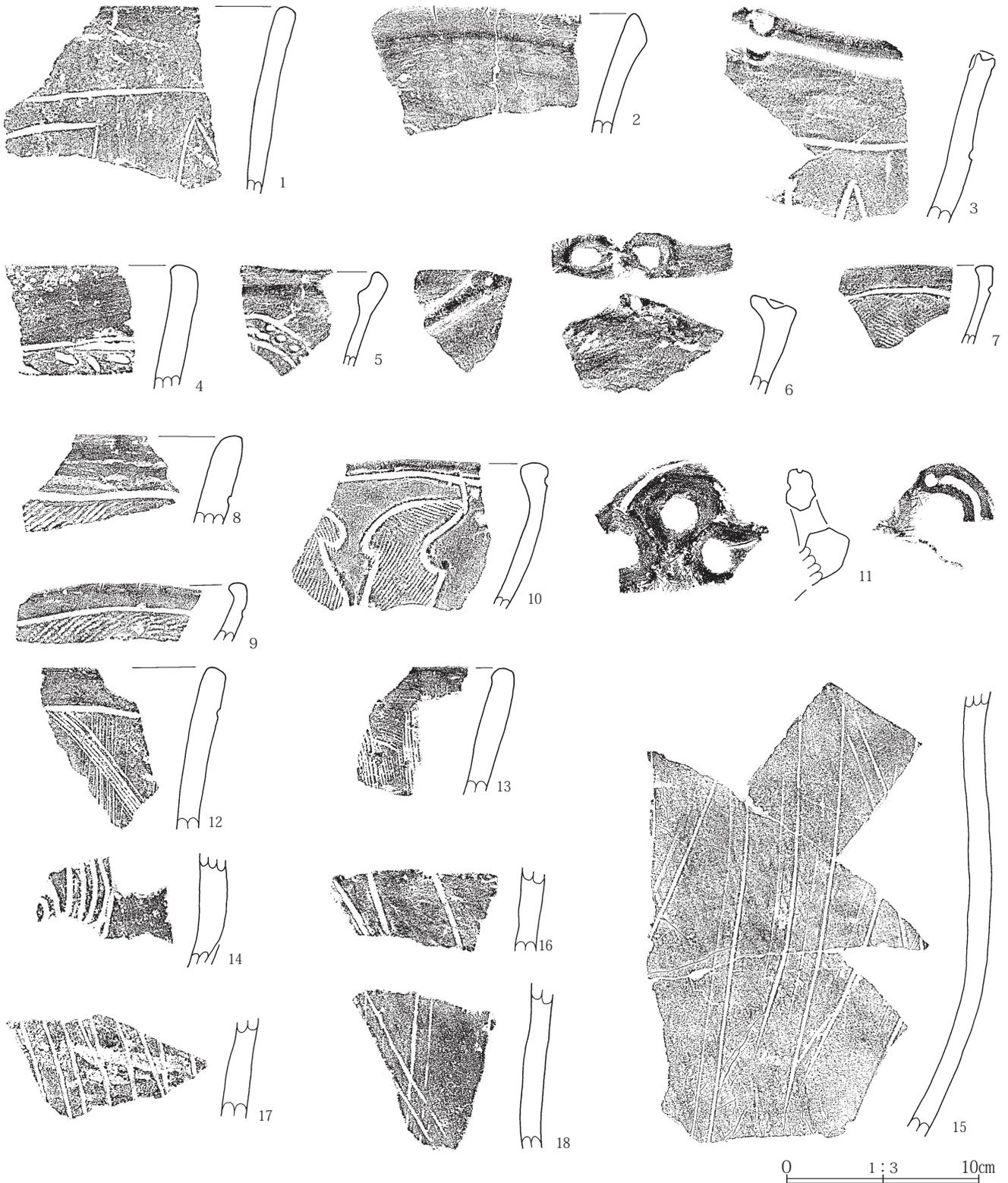


第12図 H区15号土坑・J区3号土坑

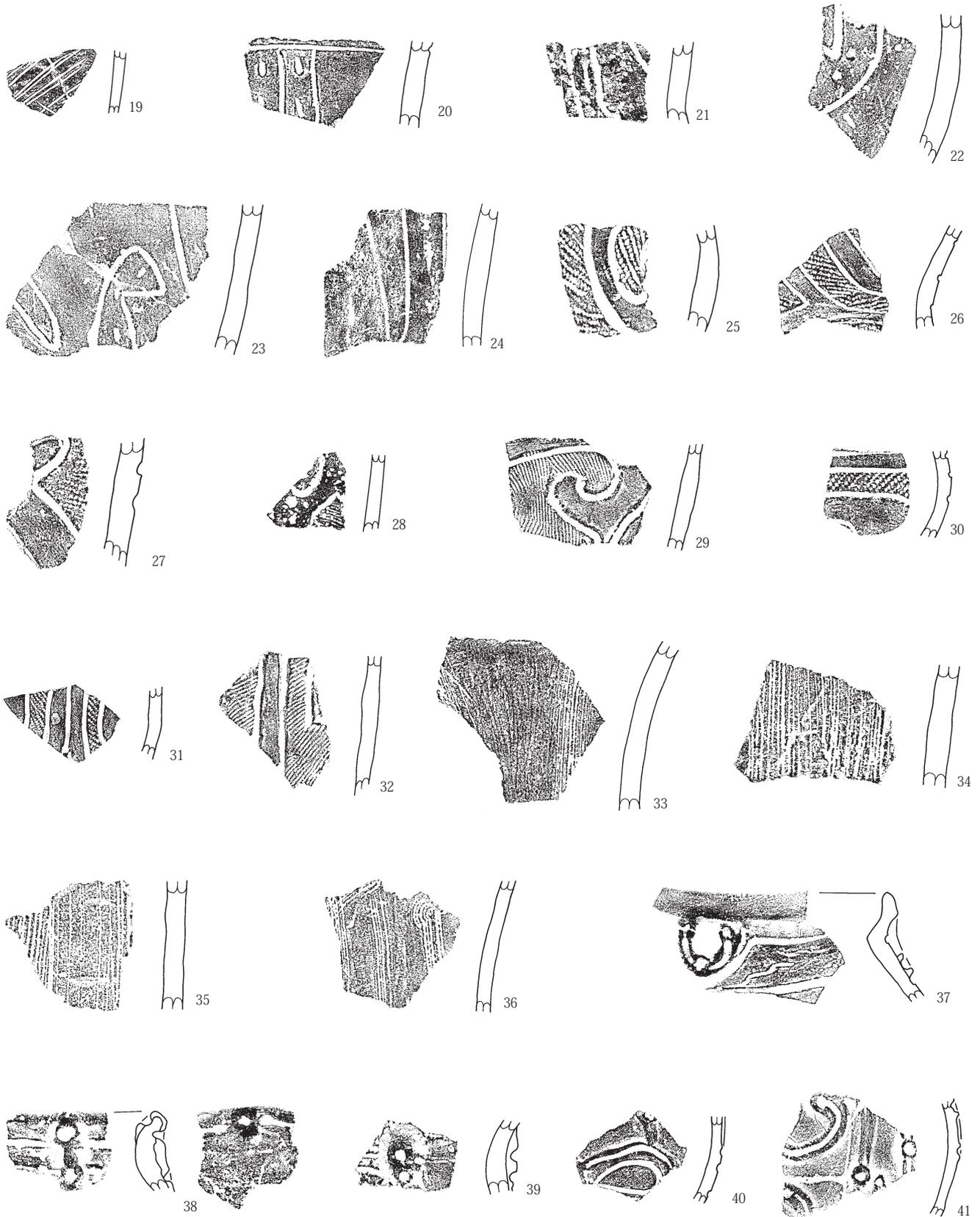
3. 出土遺物(第13～15図 PL.107・108)

古墳周堀内やトレンチなどから、縄文土器が258点、石器が5点出土した。このうち器形や時期がわかる53点

を図示した。縄文土器は後期の称名寺式から堀之内式期にまとまっており、称名寺式を主体とする。このほか、石鏃や石核、石斧などの石器も出土し、縄文土器と同時期に属するものと推定される。

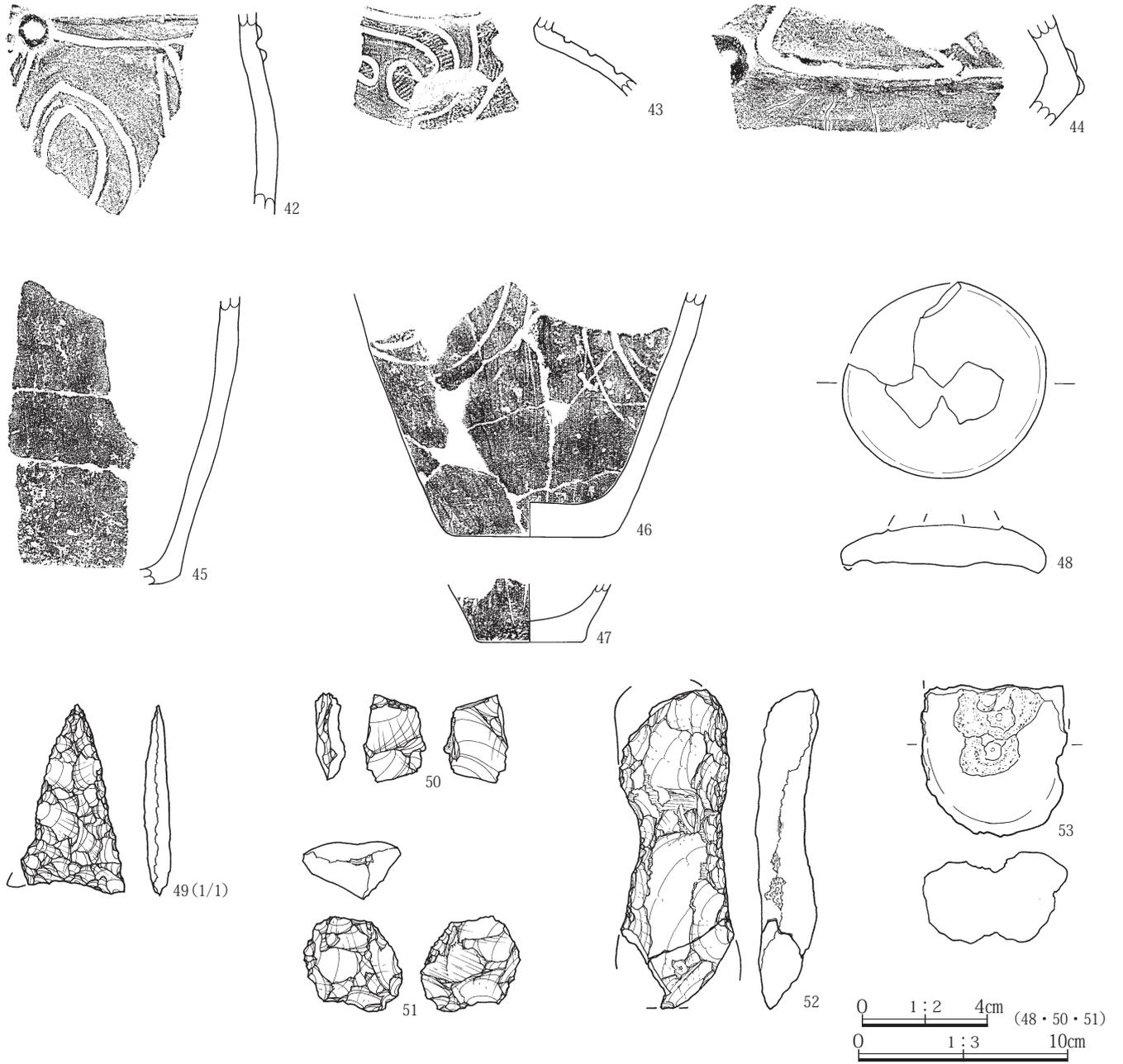


第13図 縄文時代の出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第14図 縄文時代の出土遺物(2)



第15図 縄文時代の出土遺物(3)

第3節 古墳時代の遺構と遺物

1. 概要

古墳はF区で1基、G区で2基、H区で2基、J区で1基の合計6基検出した。道路改築の事前調査のため、調査区が細長く、全体を調査した古墳はない。いずれの古墳も墳丘部は削平されて遺存せず、周堀のみ検出した。周堀の形状から、6基はすべて円墳と考えられる。今回調査した古墳の中で、検出した周堀より推定した内径の最大は22.3m、最小は9.9mである。周堀から出土した遺物は少なく、詳細な年代を特定するのは難しかった。また、埴輪が樹立していたと推定されるのは、F区1号墳(C区1号墳)とJ区1号墳の2基である。

2. 古墳

F区1号墳(C区1号墳) (第17～20図 PL. 4・108)

平成15年度に当事業団で発掘調査を行い、平成20年に刊行された『本関町古墳群』(2008)のC区1号墳と同一の古墳である。今回は国道を挟み、西側部分の調査を行った。前回の調査で主体部は未確認であったが、今回も周堀のみの調査で主体部は検出されなかった。

位置 F区南部

X=38,886～38,901 Y=-55,533～-55,542

重複 なし

墳丘 ローム層上面まで削平され、確認できなかった。

周堀 全体の北西部約1/5を確認したのみで、上幅は不明。最大下幅1.29m、遺構検出面から底面までの深さは0.59～0.68mである。前回調査の周堀東部よりも0.2～0.3m浅い。推定される周堀外径は21.8m、内径は不明である。前回の調査では、推定内径16.3m、外径21.7mの円墳と推定されているが、今回調査分の成果から、規模および形状に矛盾はない。

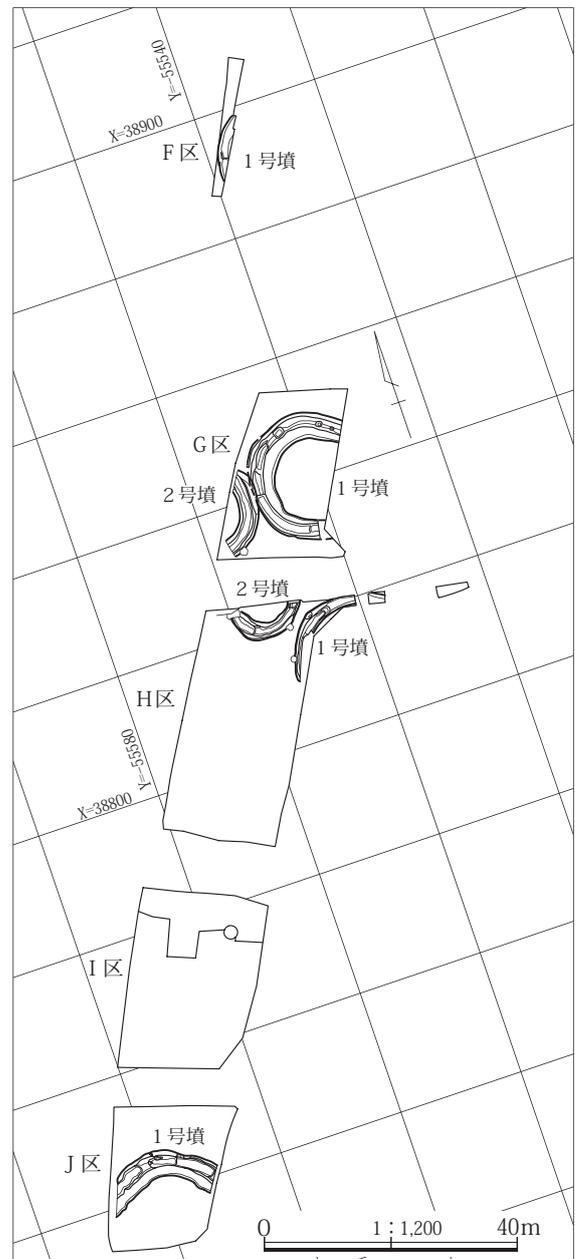
埋没土 周堀の埋没土は上層から、As-Bを含む黒褐色土、にぶい黄褐色土、ロームを含むにぶい黄褐色土が認められ、前回調査とほぼ同様の堆積土層である。

主体部 検出されなかった。

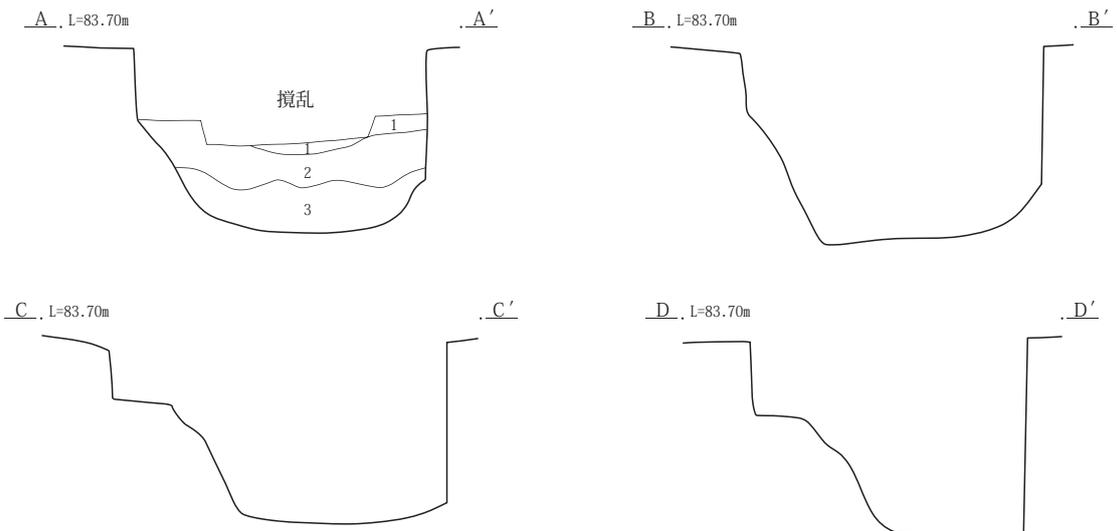
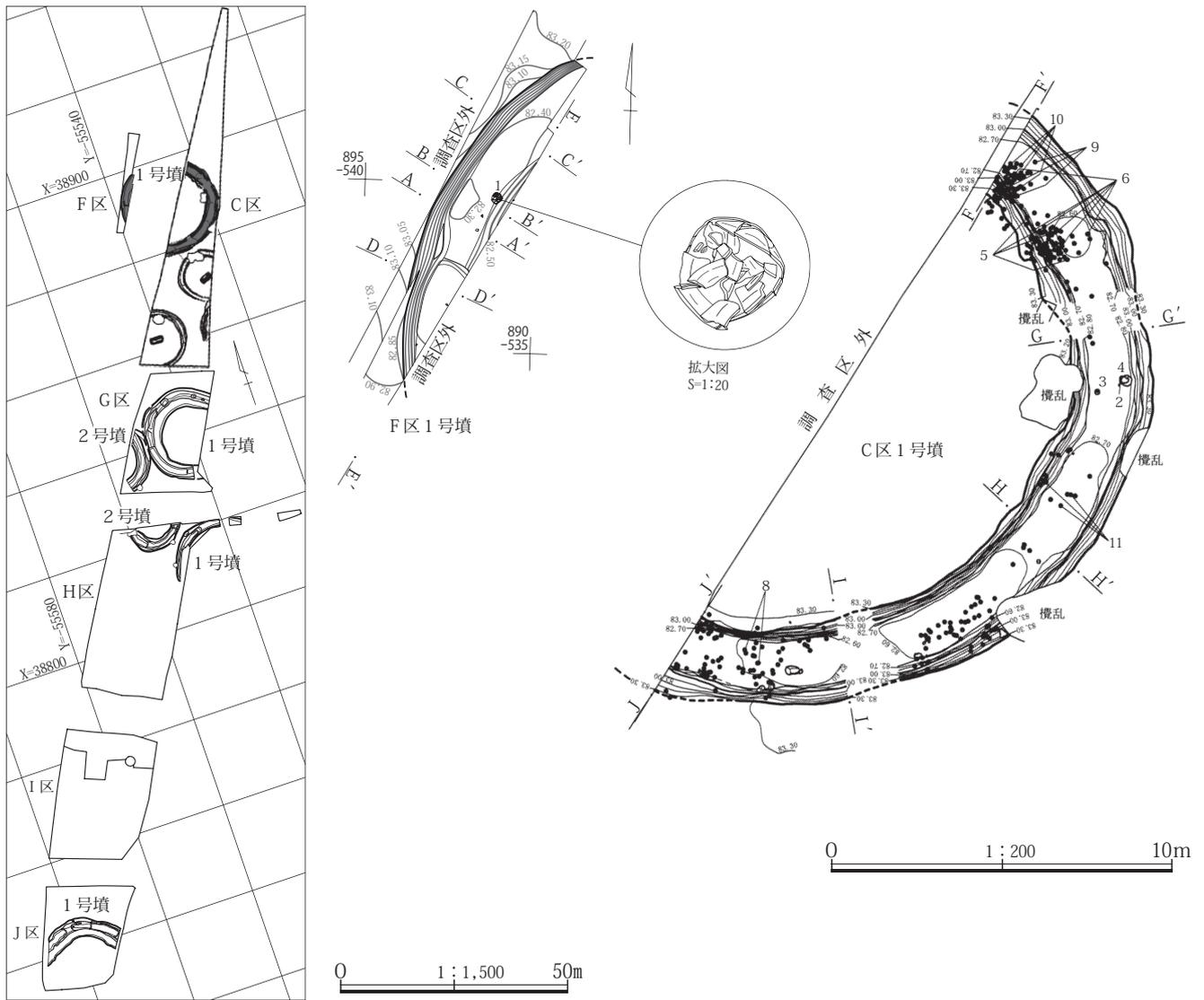
出土遺物 土師器1点、埴輪30点、縄文土器65点が出土した。このうち、器形がわかる土師器壺(1)を図示した。

1は周堀墳丘部側で、底面より約30cm上位でまとまって出土した。埴輪はすべて細片のため図化しなかったものの、中には円筒埴輪片が認められた。いずれも周堀底面上20～30cmの埋没土から出土した。縄文土器は混入と考えられる。

所見 出土した土師器壺から、古墳の年代は6世紀中頃と推定され、前回の調査成果と一致する。また、今回の調査では明確にできなかったものの、これまでの調査成果から、円筒埴輪および形象埴輪の樹立があったものと考えられる。



第16図 古墳時代の遺構配置図

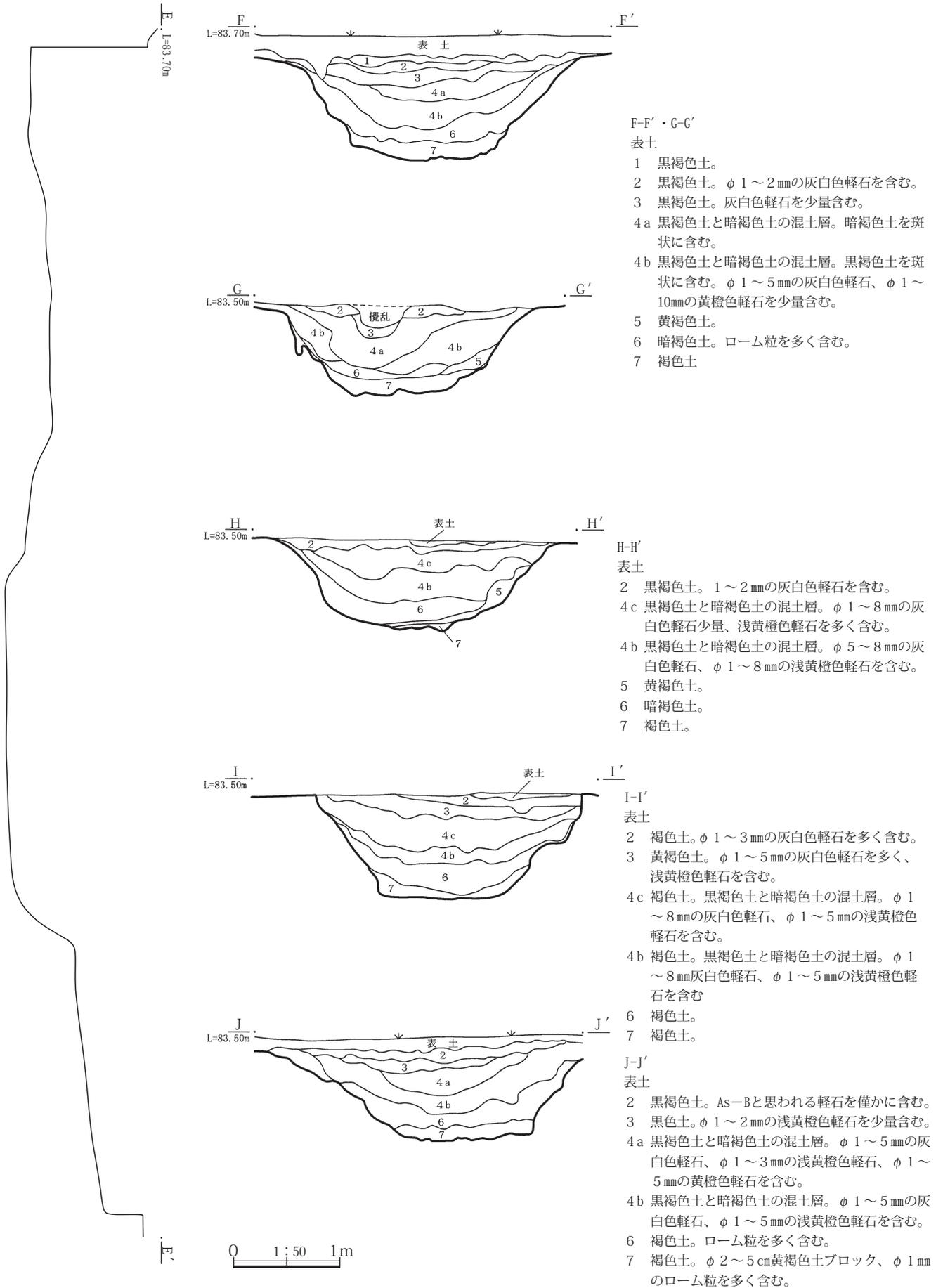


F区1号古墳周堀 A-A'

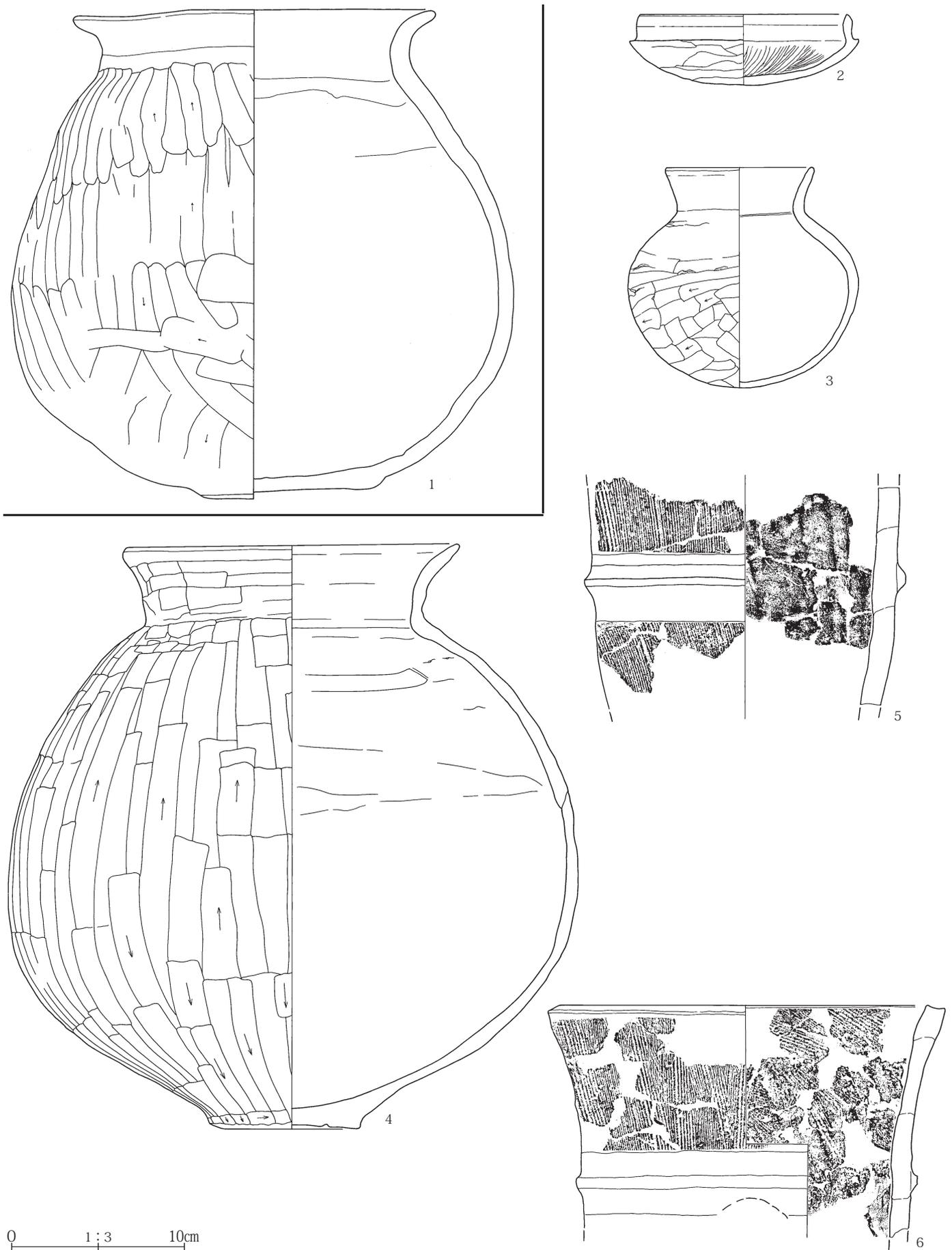
- 1 黒褐色土 10YR3/1 As-Bを多く含む。しまりなし。東壁の上位はにぶい黄褐色土を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄白色粒子・明黄褐色ロームブロックを含む。しまりなし。やや黒い。
- 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 2~5cm大のロームブロックを含む。しまりなし。



第17図 F区1号墳周堀 (C区1号墳平面図は『本関町古墳群』(2008)より再録)



第18図 F区1号墳周堀土層断面(F-F'～J-J'土層断面図と土層注記は『本関町古墳群』(2008)より再録)



第19図 F区1号墳周堀出土遺物(1) (2～6は『本関町古墳群』(2008)より再録)

G区1号墳(第21・22図 PL. 5・6・108)

位置 G区

X=38,829 ~ 38,851 Y=-55,532 ~ -55,551

重複 G区2号墳、1号溝、1号~15号ピットと重複する。遺構検出時と土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本古墳が古い。

墳丘 ローム層上面まで削平され、確認できなかった。

周堀 周堀全体の北西部約2/3を検出した。最大上幅4.88m、最大下幅1.17m、遺構検出面から底面までの深さは0.59~1.09mである。断面形は墳丘側の方が外側よりも傾斜が緩やかである。推定される内径は16.7m、外径は25.3mである。周堀内側の緩斜面および底面から礫が多数検出された。礫は楕円形または円形で、長径10~20cm大のものが多く。最大の礫は長径41cmである。これ

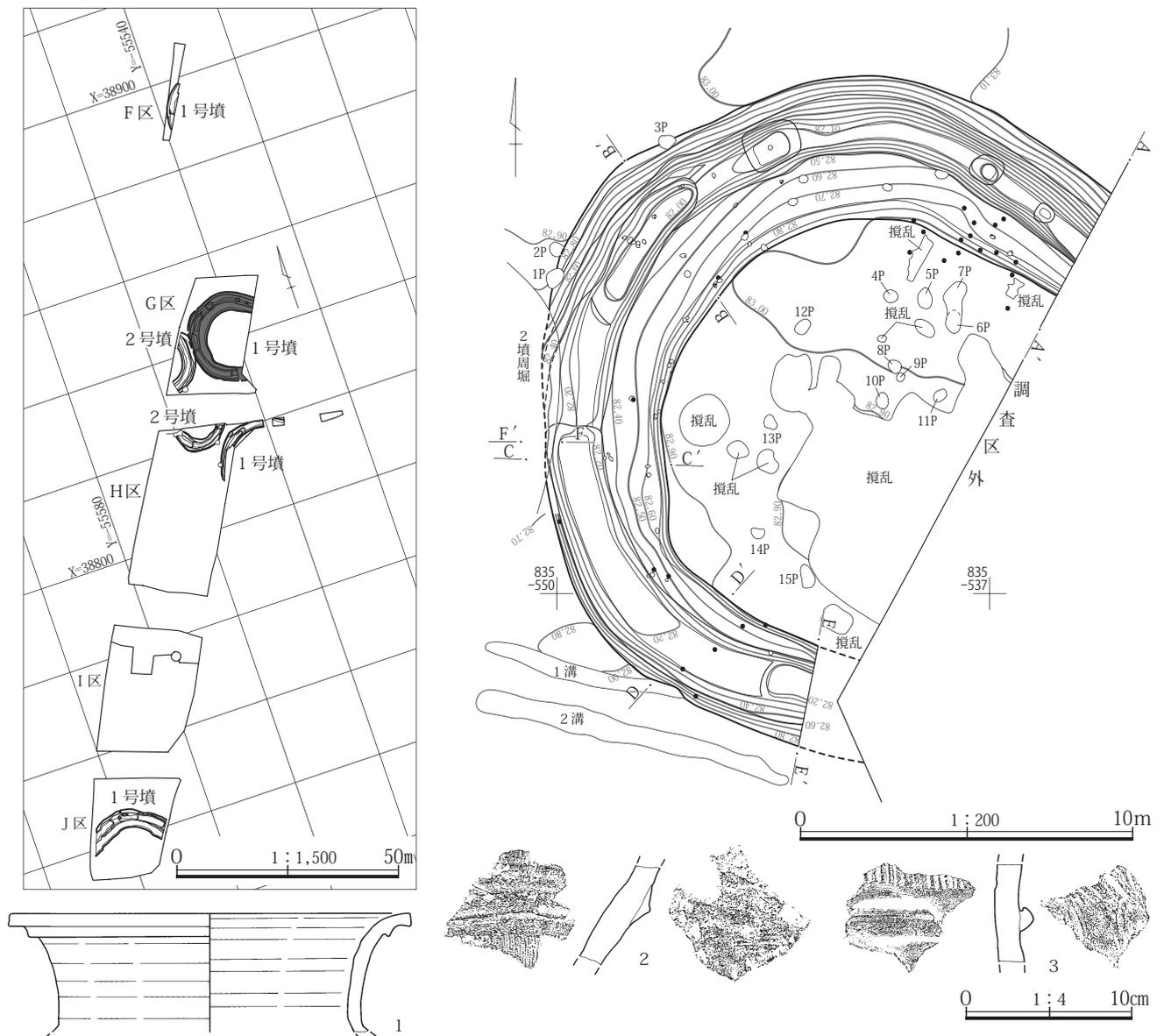
らの礫は緩斜面および底面の3~38cm上で検出された。検出状況から、葺石の可能性はある。

埋没土 F区1号墳の周堀埋没土と共通し、上層は黒褐色土でAs-Bを含み、下層ほどロームブロックを多く含んでいる。

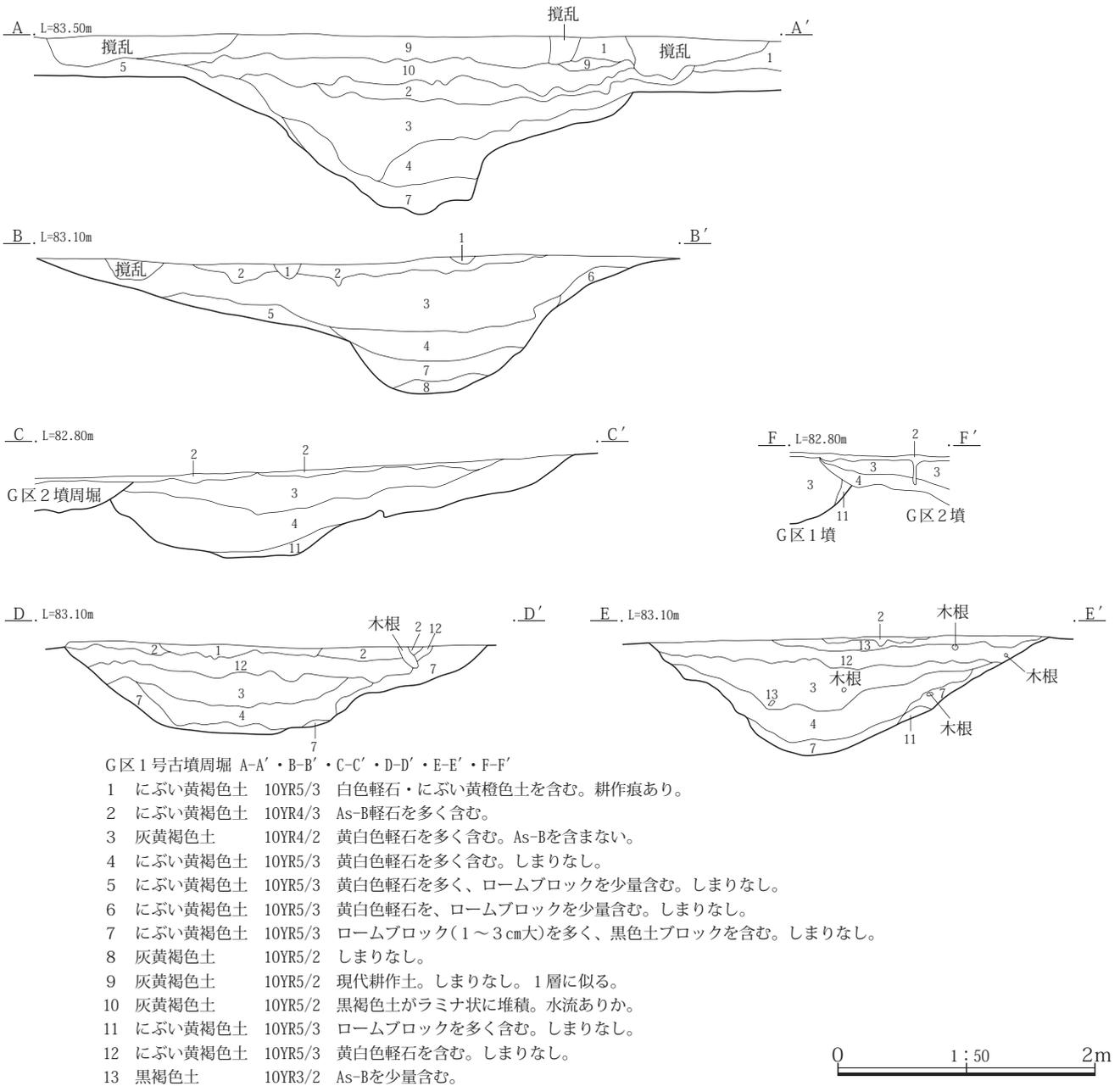
主体部 攪乱のため、検出されなかった。

出土遺物 周堀埋没土から、土師器53点、須恵器1点、埴輪3点、縄文土器78点が出土し、このうち3点を図示した。須恵器甕(1)は6世紀代と推定される。縄文土器は混入と考えられる。

所見 確認できた周堀の規模および形状から、推定内径16.7m、外径25.3mの円墳と推定される。墳丘には葺石が施されていた可能性がある。出土遺物から、年代は6世紀と考えられるが、詳細な時期は不明である。



第21図 G区1号墳周堀と出土遺物



第22図 G区1号墳周堀土層断面

G区2号墳(第23図 PL. 5・6)

位置 G区南西部

X=38,830~38,846 Y=-55,549~-55,557

重複 G区1号墳と重複し、土層断面の観察から、本古墳の方が新しい。

墳丘 ローム層上面まで削平され、確認できなかった。

周堀 周堀全体の約1/4を検出した。最大上幅3.48m、最大下幅1.05m、遺構検出面から底面までの深さは0.78~1.1mである。断面形は場所により異なり、墳丘側と外側で傾斜が同じくらいの地点と、外側の方が墳丘側より緩やかな地点がある。推定される内径は13.8m、外径

は21.5mである。

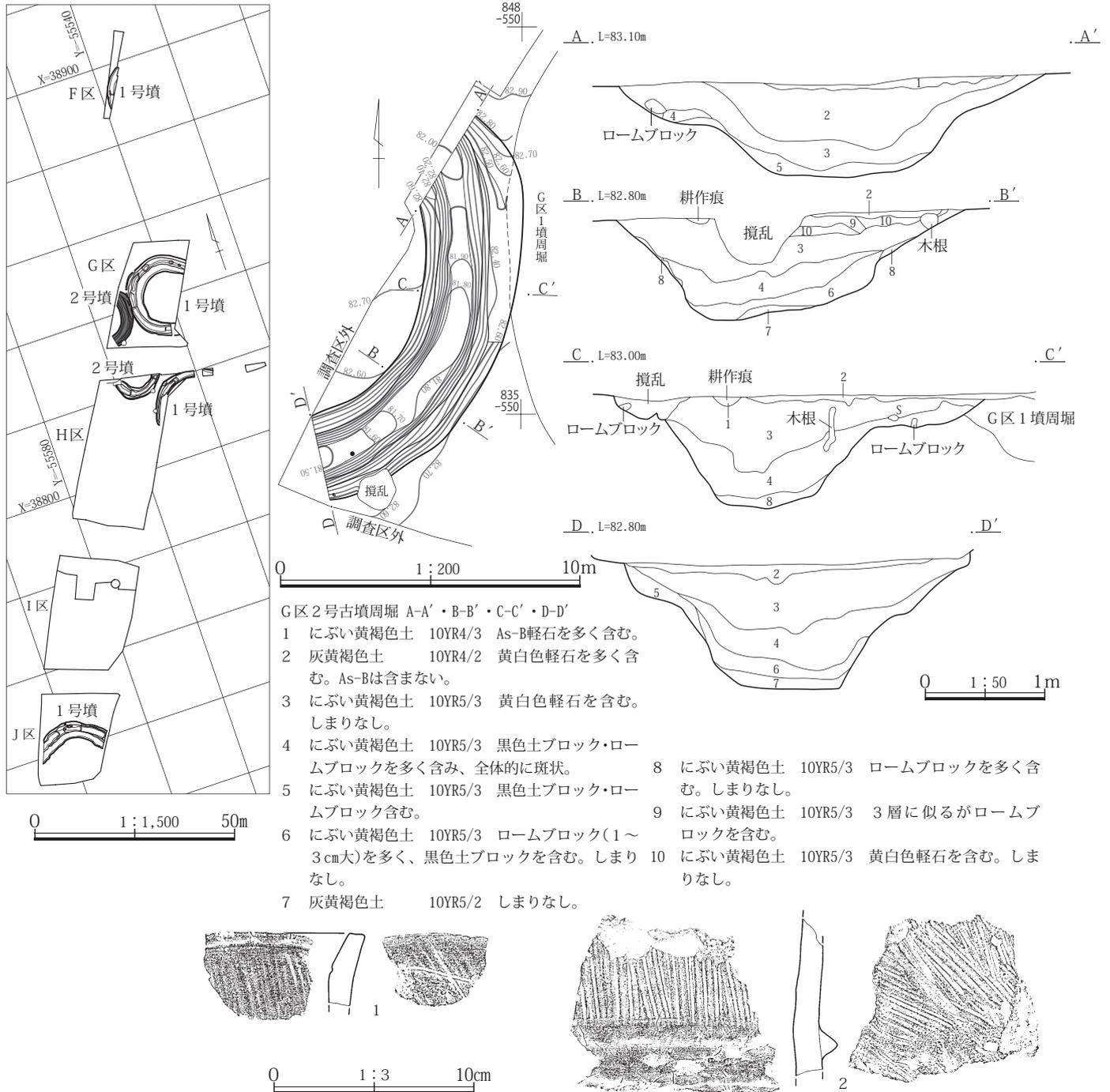
埋没土 他の周堀埋没土と類似する。上層は黒褐色土で、下層ほどロームブロックを多く含み、明るい色調である。

主体部 検出されなかった。

出土遺物 周堀埋没土から、埴輪2点、縄文土器73点が出土し、このうち2点を図示した。縄文土器は混入と考えられる。

所見 確認できた周堀の規模および形状から、推定内径13.8m、外径21.5mの円墳と推定される。出土遺物から、時期は6世紀と推定される。

第3章 本関町古墳群の調査



第23図 G区2号墳周堀と出土遺物

H区1号墳(第24図 PL. 7・8)

位置 H区北東部

X=38,810~38,821 Y=-55,535~-55,554

重複 H区1号土坑と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本古墳の方が新しい。

墳丘 ローム層上面まで削平され、確認できなかった。

周堀 周堀全体の約1/4を検出した。最大上幅2.58m、最大下幅1.2m、遺構検出面から底面までの深さは0.12~1.02mである。墳丘側と外側の傾斜が場所によって異なり、断面形は一樣ではない。確認できた周堀から推

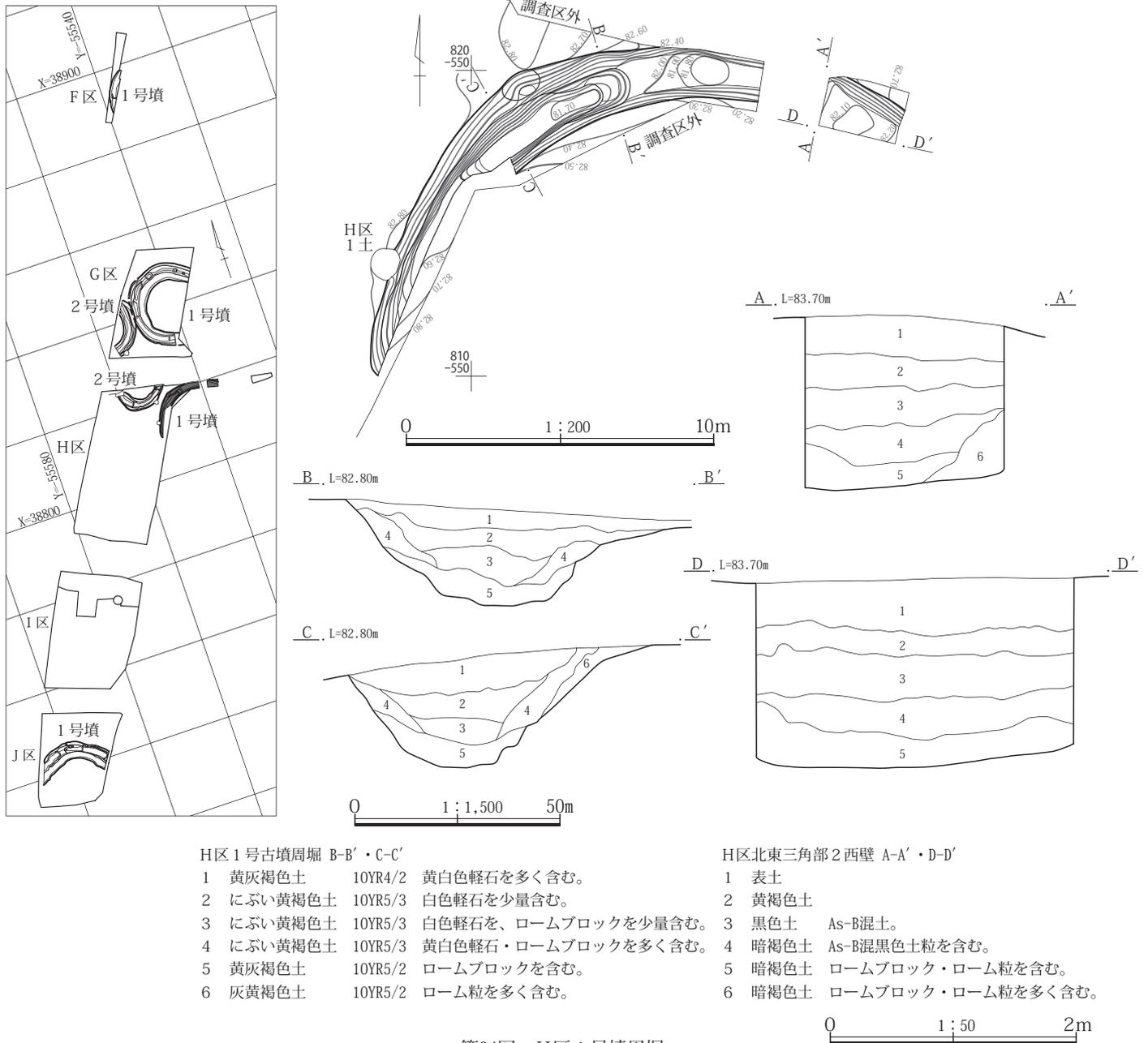
定される内径は22.3m、外径は25.5mである。

埋没土 黄褐色土を主体とし、黄白色および白色軽石を含む。下層ほどロームブロックを多く含み、斑状を呈する。

主体部 調査区外にあると推定される。

出土遺物 周堀埋没土から、石器1点、縄文土器25点が出土したが、縄文土器および石器は混入と考えられる。

所見 確認できた周堀の規模および形状から、推定内径22.3m、外径25.5mの円墳と推定される。出土遺物が少なく、詳細な時期を特定することができなかった。



第24図 H区1号墳周堀

H区2号墳(第25図 PL. 8)

位置 H区北部

X=38,818 ~ 38,824 Y=-55,548 ~ -55,561

重複 H区6号土坑と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、6号土坑の方が新しい。

墳丘 ローム層上面まで削平され、確認できなかった。

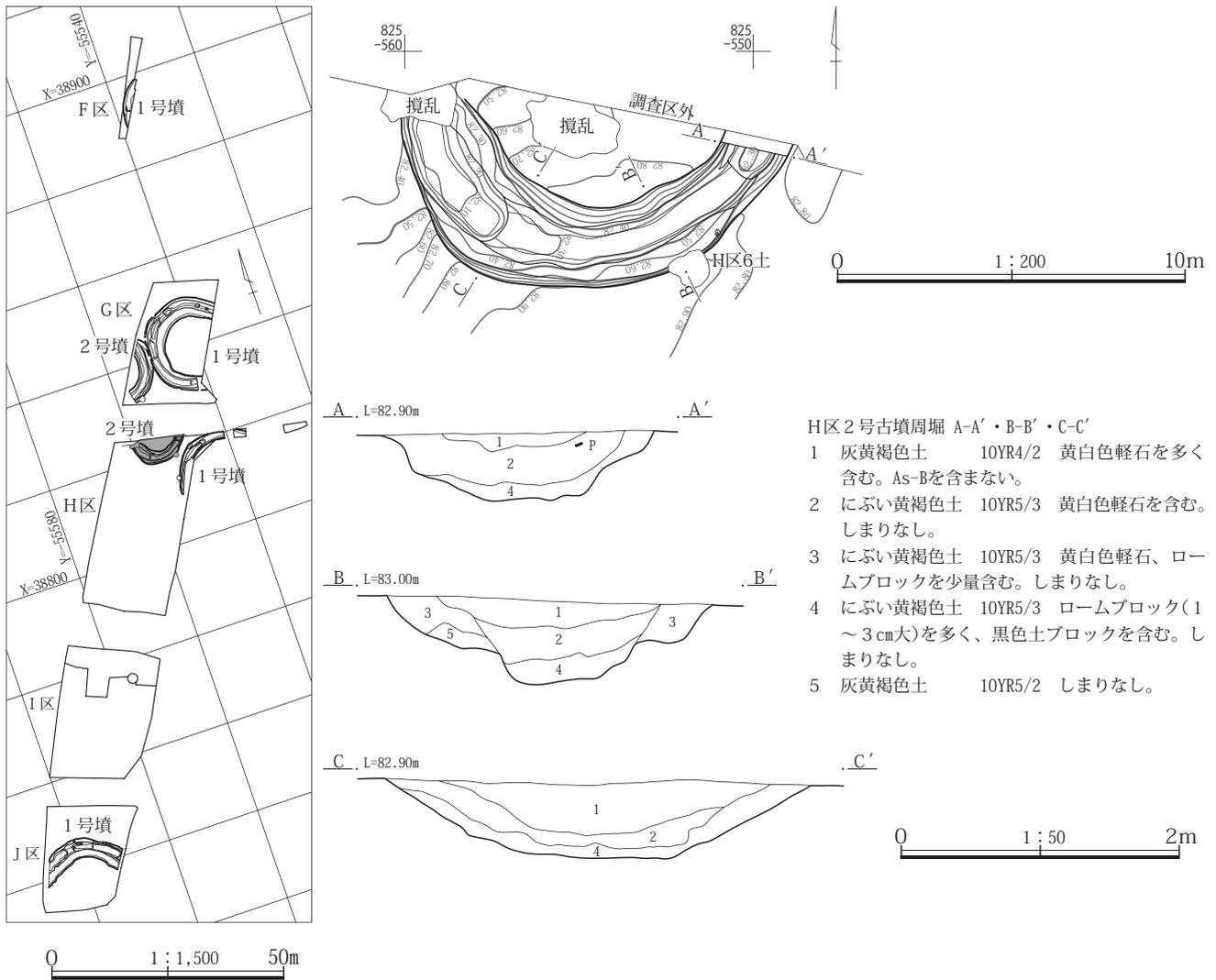
周堀 最大上幅3.06m、最大下幅1.0m、遺構検出面から底面までの深さは0.37 ~ 0.63mである。墳丘側と外側の傾斜が同じくらいで、断面形は船底形を呈する。確認できた周堀から推定される内径は9.9m、外径は14.4mである。

埋没土 灰黄褐色土およびにぶい黄褐色土を主体とする。上層では黄白色軽石を含み、下層ではロームブロックを含む。

主体部 検出されなかった。

出土遺物 周堀埋没土から、縄文土器22点が出土したが、いずれも細片で混入と考えられるため、図示しなかった。

所見 確認できた周堀の規模および形状から、推定内径9.9m、外径14.4mの円墳と推定される。今回調査した6基の古墳の中では最小規模である。出土遺物が少なく、詳細な時期を特定することができなかった。



第25図 H区2号墳周堀

J区1号墳(第26・27図 PL. 9・10・108)

位置 J区南部

X=38,737~38,747 Y=-55,590~-55,608

重複 J区2号・3号土坑と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本古墳の方が新しい。

墳丘 ローム層上面まで削平され、確認できなかった。

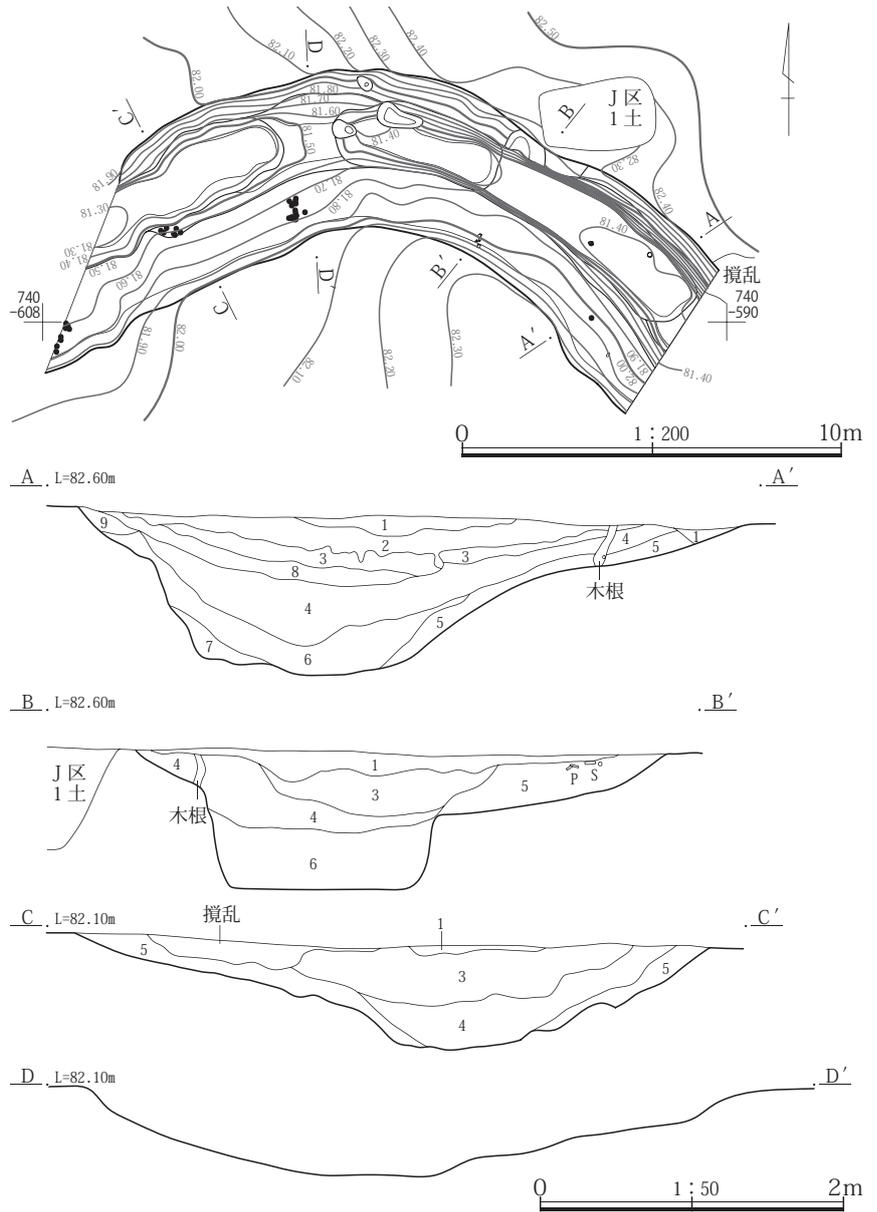
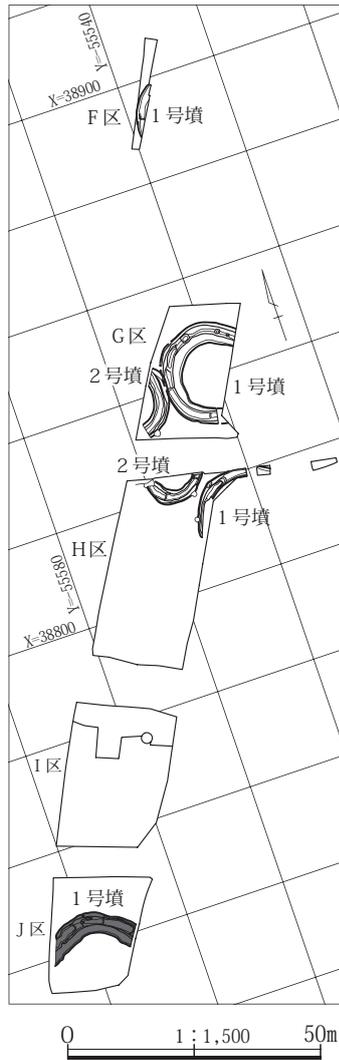
周堀 最大上幅4.61m、最大下幅1.43m、遺構検出面から底面までの深さは0.63~1.13mである。墳丘側の方が外側よりも傾斜が緩やかである。確認できた周堀から推定される内径は22.0m、外径は25.8mである。

埋没土 にぶい黄褐色土および灰黄褐色土を主体とする。上層に黄白色軽石を含み、下層にロームブロックを含む。

主体部 検出されなかった。

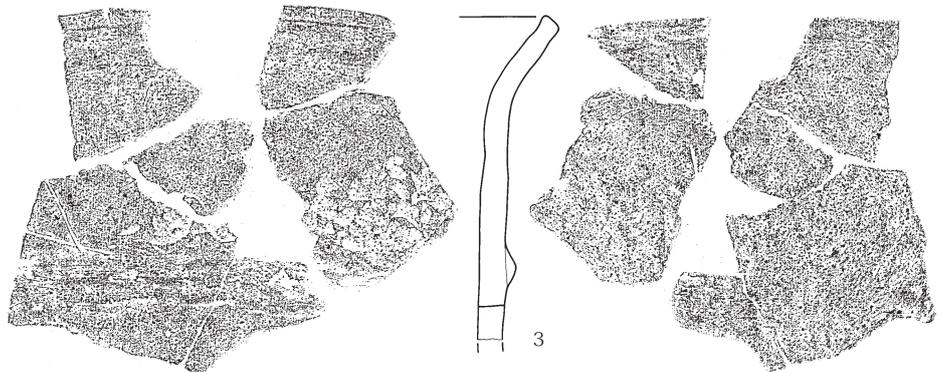
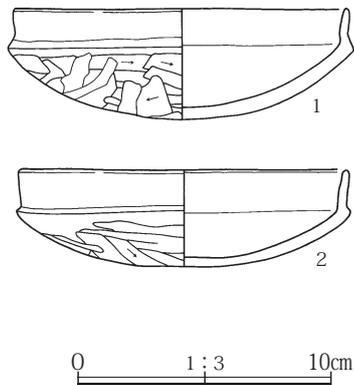
出土遺物 土師器8点、須恵器1点、埴輪143点、縄文土器1点が出土し、このうち12点を図示した。土師器杯(2)は周堀東側の底面から2cm上位で出土した。これ以外の遺物は埋没土中から出土した。円筒埴輪が周堀墳丘側でまとまって出土した。

所見 確認できた周堀の規模および形状から、推定内径22.0m、外径25.8mの円墳と推定される。今回調査した古墳の中では最大規模である。据えられた状況で出土していないが、円筒埴輪片が多数出土し、周堀墳丘側に集中して出土していることから、円筒埴輪が樹立していた可能性がある。出土した土師器の年代などから、古墳の時期は6世紀中頃と推定される。

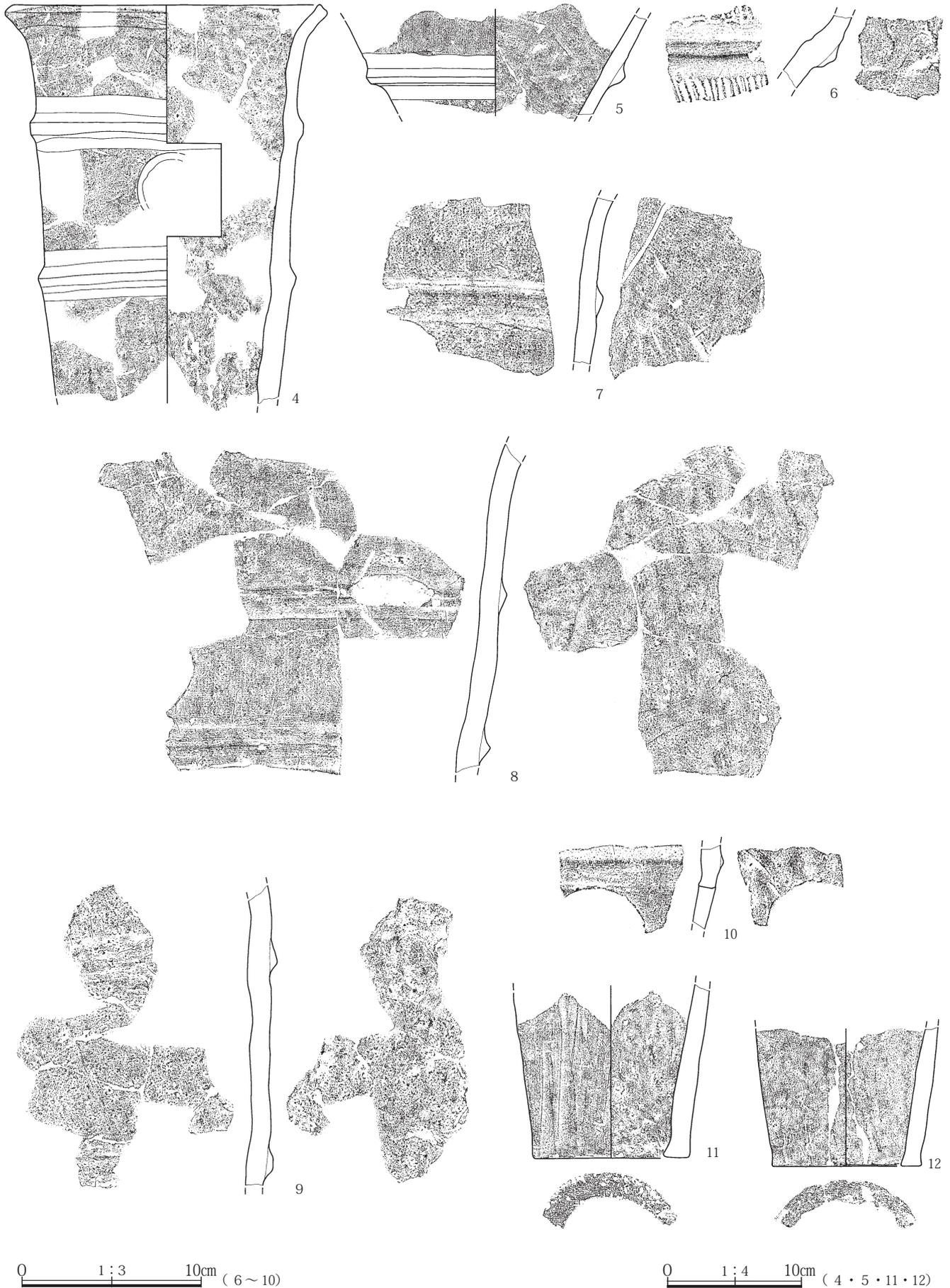


J区1号古墳周堀 A-A'・B-B'・C-C'

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 As-B軽石を多く含む。 | 6 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロック(1~3cm大)を多く、黒色土ブロックを含む。しまりなし。 |
| 2 灰黄褐色土 10YR4/2 黄白色軽石を多く含む。As-Bを含まない。 | 7 灰黄褐色土 10YR5/2 しまりなし。 |
| 3 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄白色軽石を含む。しまりなし。 | 8 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄白色軽石を含む。しまりなし。 |
| 4 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黒色土ブロック・ロームブロックを含む。 | 9 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロックを含む。しまりあり。 |
| 5 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黒色土ブロック・ロームブロックを含む。 | |



第26図 J区1号墳周堀と出土遺物(1)



第27図 J区1号墳周堀出土遺物(2)

第4節 その他の遺構と遺物

他の遺構との重複や出土遺物など時期を判断できる資料が乏しく、遺構の年代が明確でない溝2条、土坑11基、ピット19基について、本節で取り扱った。上記の遺構の検出面は、ローム層上面である。

1. 溝

G区1号溝(第28図 PL.11)

位置 G区南部

X=38,830~38,834 Y=-55,541~-55,553

重複 1号墳と重複し、遺構検出時の観察から、1号溝が新しい。

形状と規模 東側は調査区外に延びている。検出された長さは9.9m、幅は0.58mである。遺構検出面から底面までの深さは0.04~0.07mと浅い。断面形は逆台形または浅い椀形である。

方向 N-77°-W

底面比高 西端が東端より19cm低い。

埋没土 にぶい黄褐色土または暗褐色土を確認した。埋没土上面が硬くしまっていた。

遺物と出土状況 須恵器11点、埴輪3点が出土したものの、いずれも細片のため図示しなかった。これらは底面付近または埋没土から出土した。

所見 2号溝と並行し、規模や断面形、埋没土が共通することから、一連の遺構と考えられる。発掘調査時の所見によれば、埋没土の上面が硬くしまっていることから、道跡の可能性がある。出土遺物から、時期は古代以降と推定される。

G区2号溝(第25図 PL.11)

位置 G区南部

X=38,829~38,833 Y=-55,543~-55,553

重複 なし

形状と規模 検出された長さは9.68m、幅は0.84mである。遺構検出面から底面までの深さは0.05~0.12mである。断面形は逆台形または皿状である。

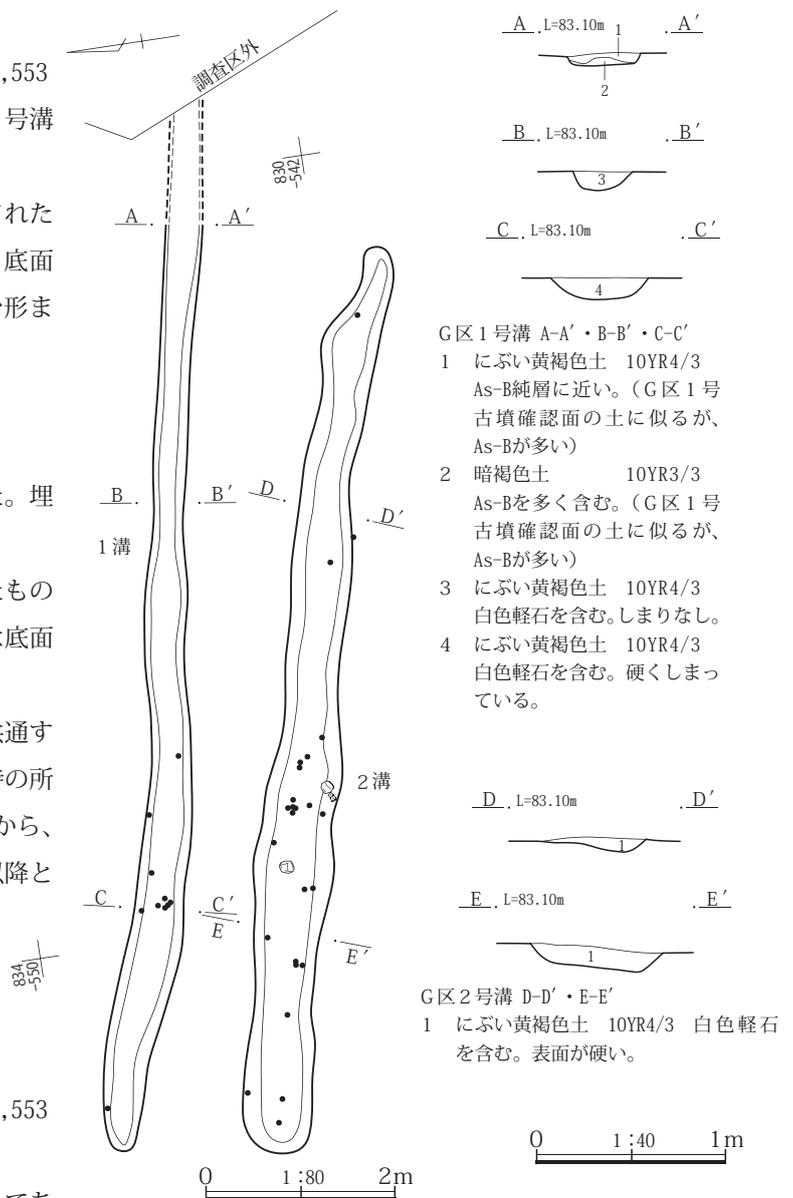
方向 N-77°-W

底面比高 西端が東端より26cm低い。

埋没土 にぶい黄褐色土で、上面が硬くしまっていた。

遺物と出土状況 須恵器25点、縄文土器30点が出土したが、すべて細片のため図示しなかった。これらは底面付近または埋没土から出土した。

所見 1号溝と並行し、規模や断面形、埋没土が共通することから、一連の遺構と考えられる。発掘調査時の所見によれば、埋没土の上面が硬くしまっていることから、道跡の可能性がある。出土遺物から、時期は古代以降と推定される。



第28図 G区1号・2号溝

2. 土坑

F区1号土坑(第29図)

位置 F区北西部

X=38,902～38,903 Y=-55,533～-55,534

重複 なし

形状と規模 西部は調査区外であるが、平面形は楕円形または円形と推測される。検出された長径は0.85mで、遺構検出面から底面までの深さは0.2mである。壁の立ち上がりは急で、底面にはピット状の掘り込みが2か所ある。

埋没土 にぶい黄褐色土を確認した。1層・2層ともしまりがなかった。

遺物 出土しなかった。

所見 判断できる資料がなく、時期および性格は不明である。

H区5号土坑(第29図 PL.11)

位置 H区北西部

X=38,815～38,818 Y=-55,560～-55,563

重複 なし

形状と規模 平面形は長楕円形で、長径2.37m、短径0.88m、遺構検出面から底面までの深さは0.29mである。断面形は椀形を呈する。

埋没土 暗褐色土とにぶい黄褐色土を確認した。

遺物と出土状況 埋没土から、縄文土器2点が出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 時期および性格は不明である

H区6号土坑(第29図 PL.11)

位置 H区北東部

X=38,818～38,820 Y=-55,551～-55,553

重複 2号墳周堀と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。

形状と規模 北部は2号墳周堀に切られ、平面形は不明である。検出された長径は1.17m、短径は0.83m、遺構検出面から底面までの深さは0.44mである。壁の立ち上がりは急で、底面には落ち込みがあり平坦ではない。

埋没土 にぶい黄褐色土1層を確認した。

遺物 出土遺物はなかった。

所見 時期および性格は不明である。

H区8号土坑(第29図)

位置 H区北部

X=38,815～38,817 Y=-55,556～-55,557

重複 なし

形状と規模 平面形は不整な楕円形で、長径0.61m、短径0.57m、遺構検出面から底面までの深さは0.32mである。断面形は逆台形を呈する。

埋没土 にぶい黄褐色土1層を確認した。

遺物 出土しなかった。

所見 時期および性格は不明である。

H区9号土坑(第29図)

位置 H区北西部

X=38,818～38,820 Y=-55,560～-55,561

重複 なし

形状と規模 平面形は楕円形で、長径0.83m、短径0.46m、遺構検出面から底面までの深さは0.24mである。断面形は逆台形状である。

埋没土 にぶい黄褐色土1層を確認した。

遺物 出土しなかった。

所見 時期および性格は不明である。

H区10号土坑(第29図)

位置 H区中央部やや北寄り

X=38,809～38,811 Y=-55,557～-55,559

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、長径0.8m、短径0.62m、遺構検出面から底面までの深さは0.35mである。断面形は箱形を呈する。

埋没土 にぶい黄褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。

遺物 出土しなかった。

所見 時期および性格は不明である。

H区12号土坑(第29図)

位置 H区中央部

X=38,808～38,810 Y=-55,558～-55,560

重複 13号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑

の方が新しい。

形状と規模 遺存状況は良好ではなく、底面付近を検出した。平面形は楕円形で、長径1.1m、短径0.78m、遺構検出面から底面までの深さは0.14mである。底面は平坦である。

埋没土 暗褐色土およびにぶい黄褐色土で、自然堆積の様相を呈する。

遺物 出土しなかった。

所見 時期および性格は不明である。

H区13号土坑(第29図)

位置 H区中央部

X=38,808～38,810 Y=-55,557～-55,560

重複 12号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。

形状と規模 南部を12号土坑に切られているものの、平面形は楕円形と推測される。長径1.16m、短径0.38m、遺構検出面から底面までの深さは0.07mである。

埋没土 にぶい黄褐色土1層を確認した。

遺物 出土しなかった。

所見 時期および性格は不明である。

H区14号土坑(第29図 PL.11)

位置 H区中央部

X=38,806～38,808 Y=-55,562～-55,564

重複 なし

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径1.41m、短径1.3m、遺構検出面から底面までの深さは0.33mである。断面形は箱形を呈する。

埋没土 にぶい黄褐色土を主体とする。底面では、北部で60cm×30cmの範囲に焼土および炭化物の分布が見られた。

遺物と出土状況 底面および埋没土から、角礫が多量に出土した。礫の大きさは、最大60cm以上、最小6cmで、20cm前後のものが最も多かった。東部の大きな礫はさらに東部および下位に続くとは推定される。礫以外の遺物は出土しなかった。

所見 時期および性格は不明である。また、多量の礫についても不明である。

J区1号土坑(第30図 PL.11)

位置 J区中央部やや北寄り

X=38,744～38,747 Y=-55,591～-55,595

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、長径3.04m、短径1.77m、遺構検出面から底面までの深さは0.72mである。断面形は逆台形を呈する。底面にはピット状の落ち込みが3か所認められた。

埋没土 にぶい黄褐色土を主体とし、自然堆積の様相を呈する。

遺物 出土しなかった。

所見 時期および性格は不明である。

J区2号土坑(第30図 PL.11)

位置 J区東部

X=38,738～38,741 Y=-55,592～-55,595

重複 J区1号古墳周堀と重複し、周堀調査後に土坑の輪郭を確認したことから、本土坑の方が古い。

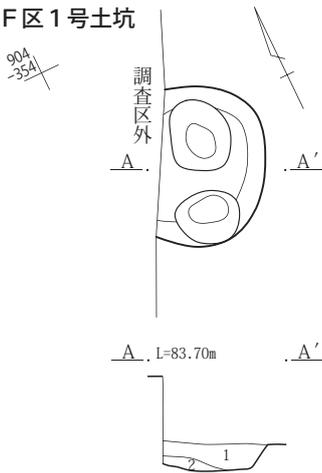
形状と規模 平面形は不定形で、長径2.13m、短径1.77m、遺構検出面から底面までの深さは0.46mである。壁の立ち上がりは部分によって異なり、東部の方が西部より緩やかである。

埋没土 1層～4層は5層～7層よりも色調が暗い。堆積状況から、1層～4層は別の遺構の埋没土の可能性もある。

遺物 出土しなかった。

所見 遺構の重複から、時期は6世紀中頃と推定されるJ区1号墳よりも古いことは明らかだが、詳細な時期は不明である。埋没土の観察から、2基の土坑が重複していたか風倒木痕の可能性はある。

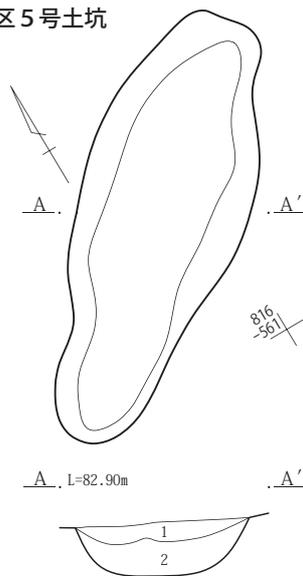
F区1号土坑



F区1号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒子を含む。しまりなし。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 しまりなし。

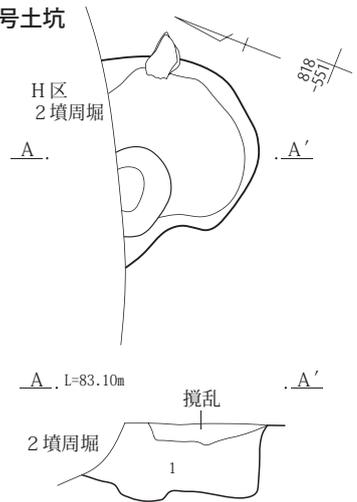
H区5号土坑



H区5号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 10YR3/3 白色軽石・ロームブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR6/4 ロームブロックを含む。

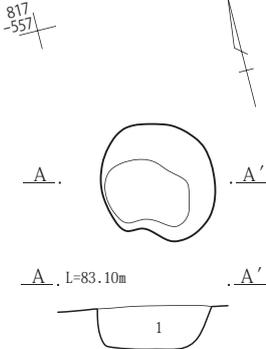
H区6号土坑



H区6号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロックを含む。

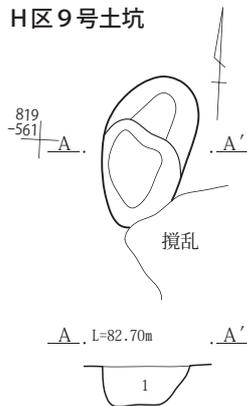
H区8号土坑



H区8号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄白色軽石を少量含む。しまっている。

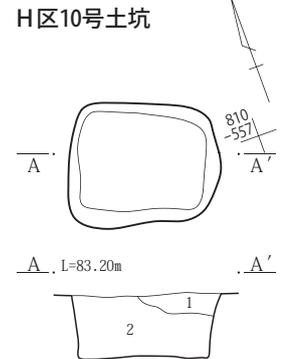
H区9号土坑



H区9号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/3 暗褐色土(10YR3/3)との混土。しまりなし。

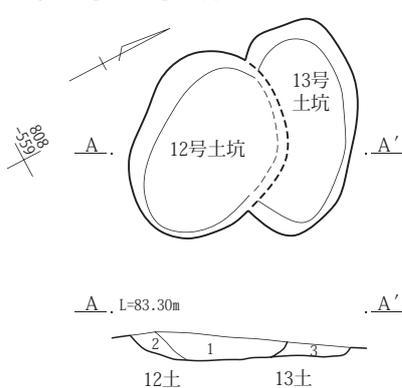
H区10号土坑



H区10号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロックを多量に含む。縞状に堆積。しまりなし。

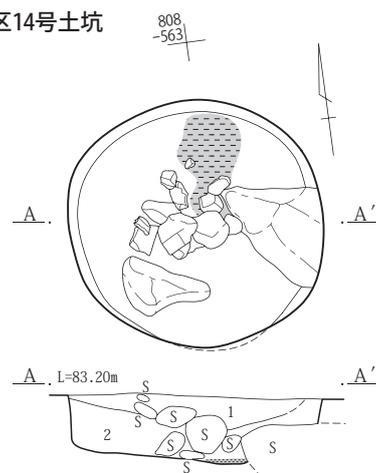
H区12号・13号土坑



H区12号・13号土坑 A-A'

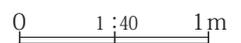
- 1 暗褐色土 10YR3/3 白色軽石を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ロームブロックを含む。
- 3 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黒色土ブロックを含む。

H区14号土坑

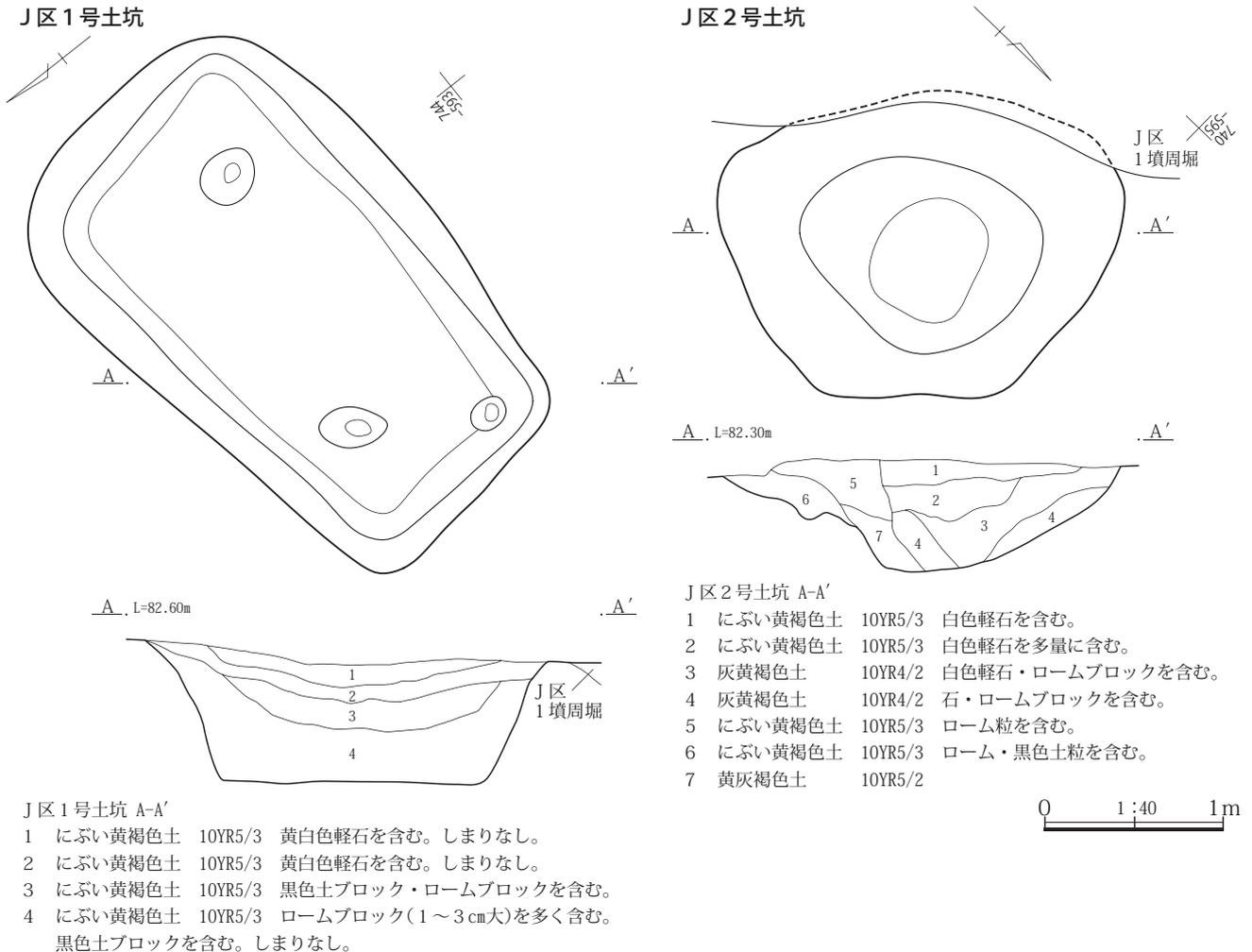


H区14号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/3 黄白色軽石を多く含む。しまっている。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色軽石を少量含む。



第29図 F区1号・H区5号・6号・8号～10号・12号～14号土坑



第30図 J区1号・2号土坑

3. ピット

G区で15基、H区で2基、J区で2基の計19基検出した。いずれもローム層上面で遺構検出作業を行っている時に、古墳周堀とともに確認した。大部分のピットの時期は不明である。各ピットの規模や出土遺物の点数については、263頁に示す。

G区のピット(第31図)

1号墳周堀および墳丘があったと推定される部分で15基検出された。遺構検出時の観察から、1号~3号ピットは1号墳周堀よりも新しい。4号~15号ピットは1号墳と直接切り合いはなく、新旧関係は不明であるが、発掘調査時の所見では、古墳周堀に囲まれた部分は攪乱が多かったことから、古墳よりも新しい時期のピットである可能性が高い。これらのピットの埋没土は、大きく2つに分けられ、1号・2号・11号ピットがにぶい黄褐

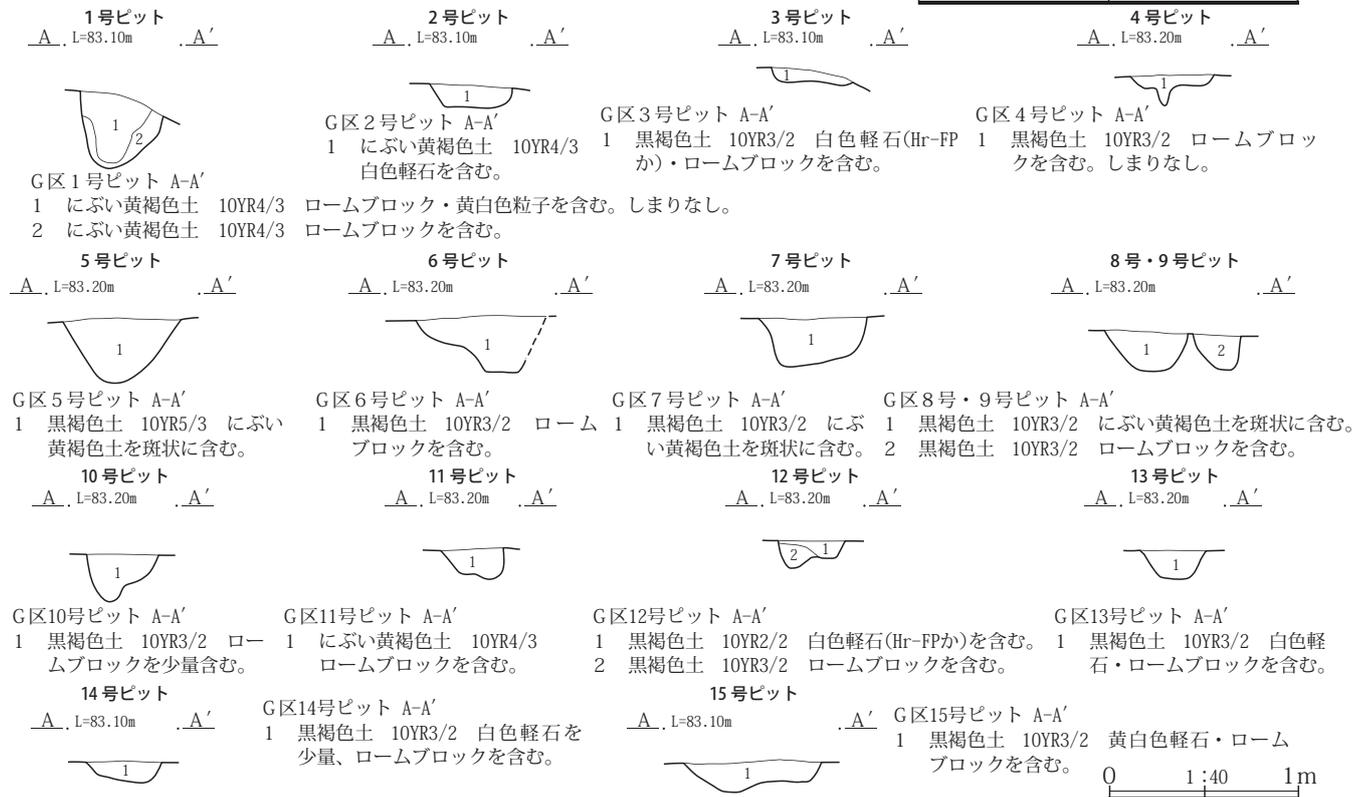
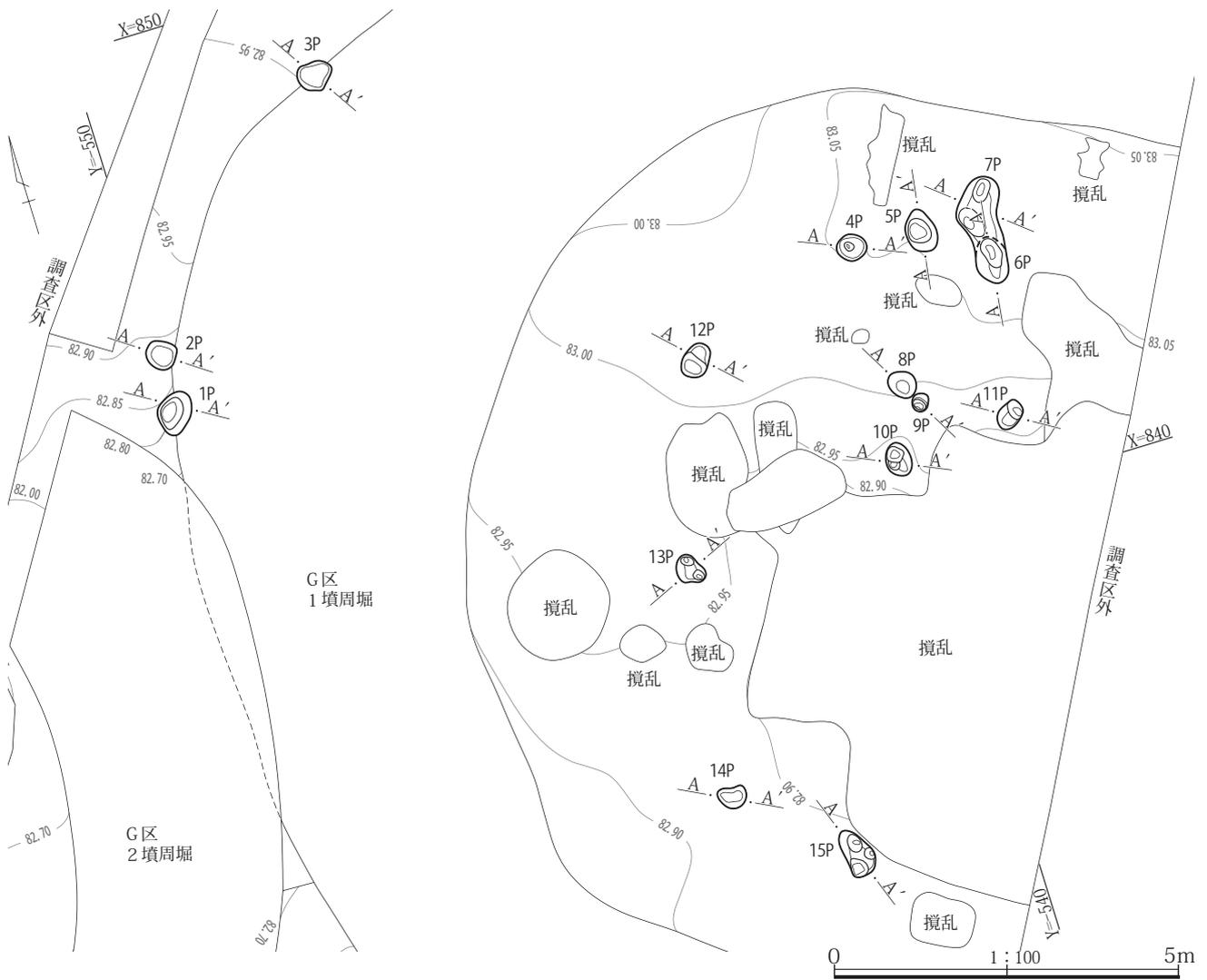
色土で、それ以外は黒褐色土である。形状および断面形は様々で、柱痕が認められたピットはなかった。遺物については、1号および13号ピットで須恵器が1点ずつ埋没土から出土しているが細片のため図示しなかった。

H区のピット(第32図)

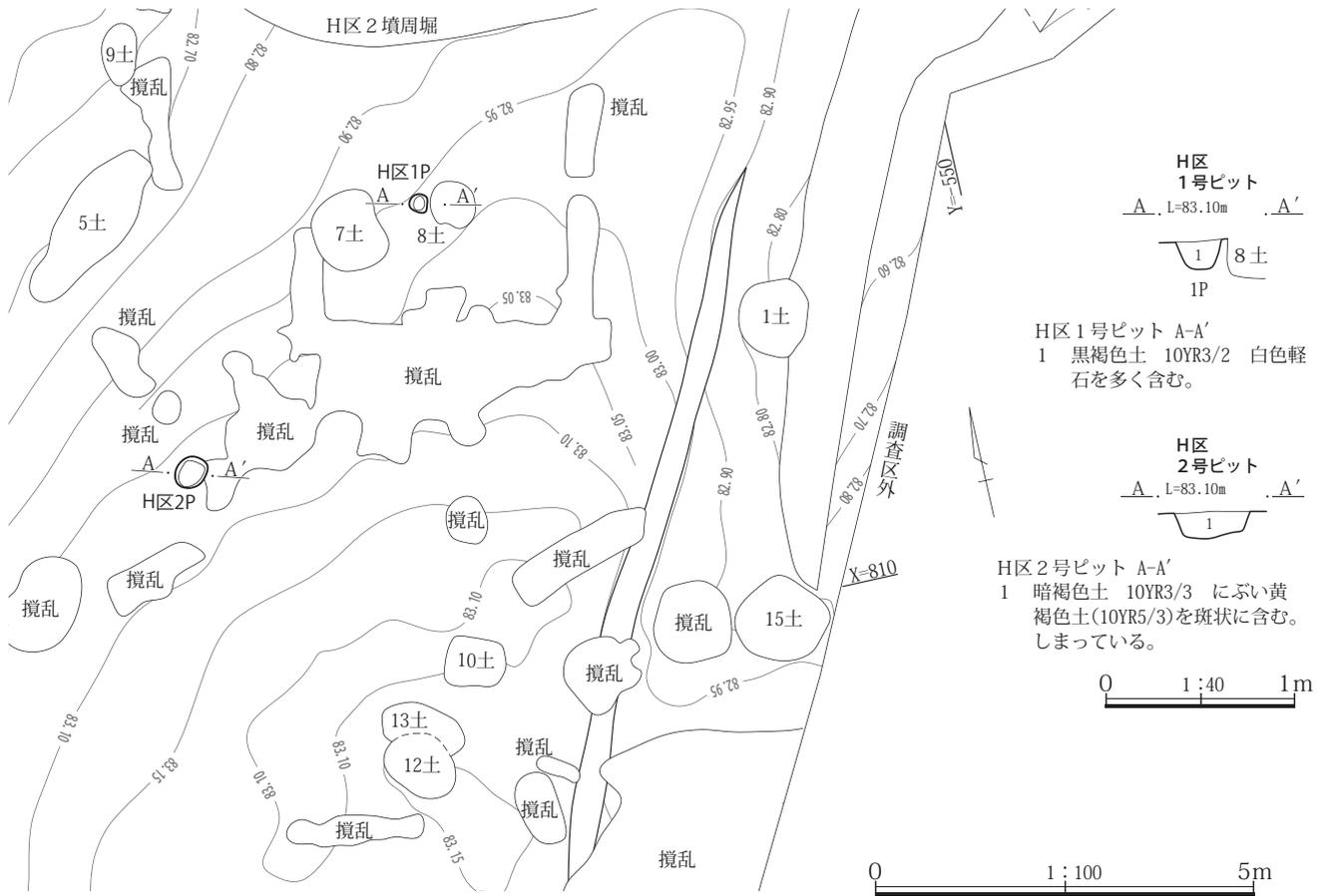
H区北部で2基確認された。遺構検出面はローム層上面である。重複する遺構はなかった。いずれのピットも出土遺物はなかった。ピットの時期は不明である。

J区のピット(第33図)

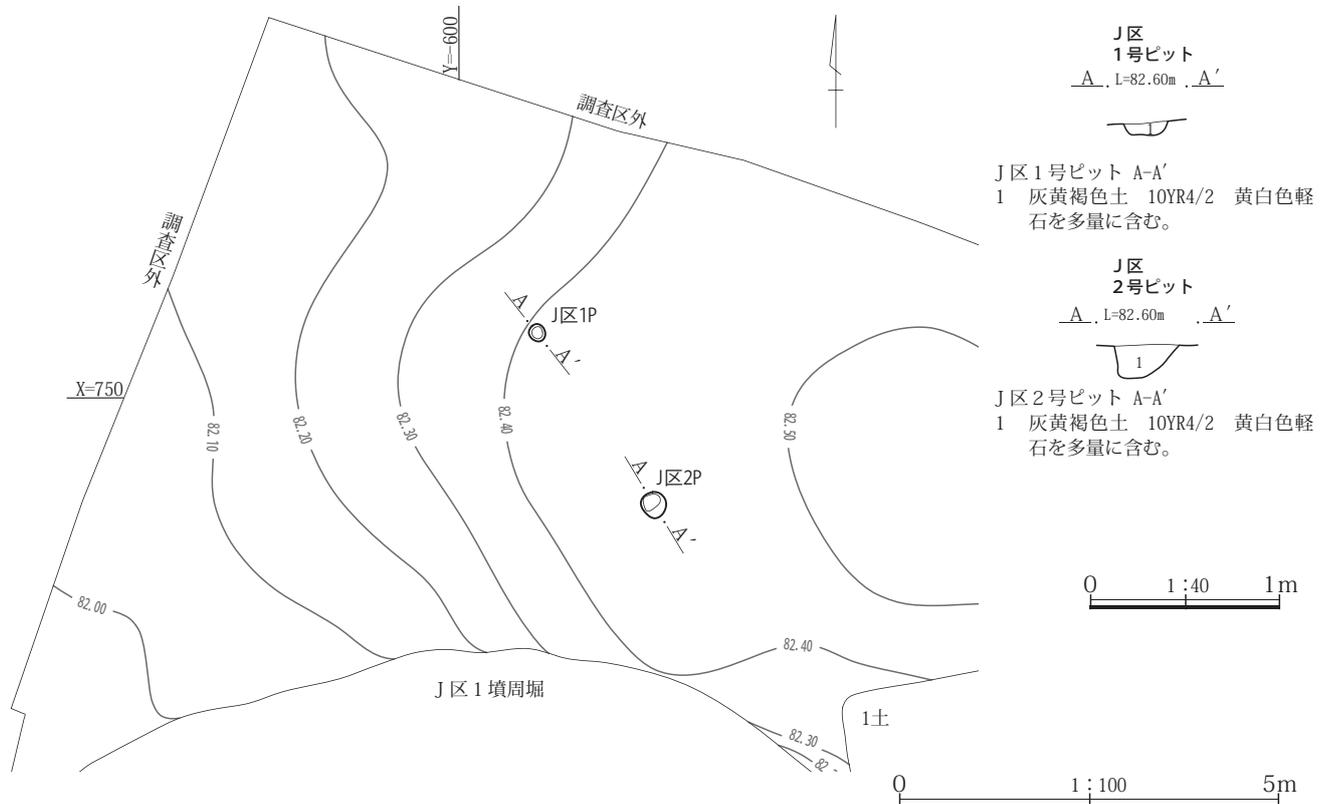
J区北西部で2基検出された。遺構検出面はローム層上面である。重複する遺構はなかった。2基のピットの埋没土は共通し、黄白色軽石を多量に含む灰黄褐色土である。柱痕は認められなかった。いずれのピットも遺物は出土しなかった。時期は不明である。



第31図 G区ピット全体図と1号～15号ピット土層断面



第32図 H区ピット全体図と1号・2号ピット土層断面



第33図 J区ピット全体図と1号・2号ピット土層断面

第4章 関遺跡の調査

関遺跡は縄文時代以降、粕川の大規模な洪水によって運ばれた土砂が堆積し形成された微高地上に立地している。赤城山南麓に形成された大間々扇状地西端を流れる粕川が南から南西方向へと大きく変流する地点に位置する。

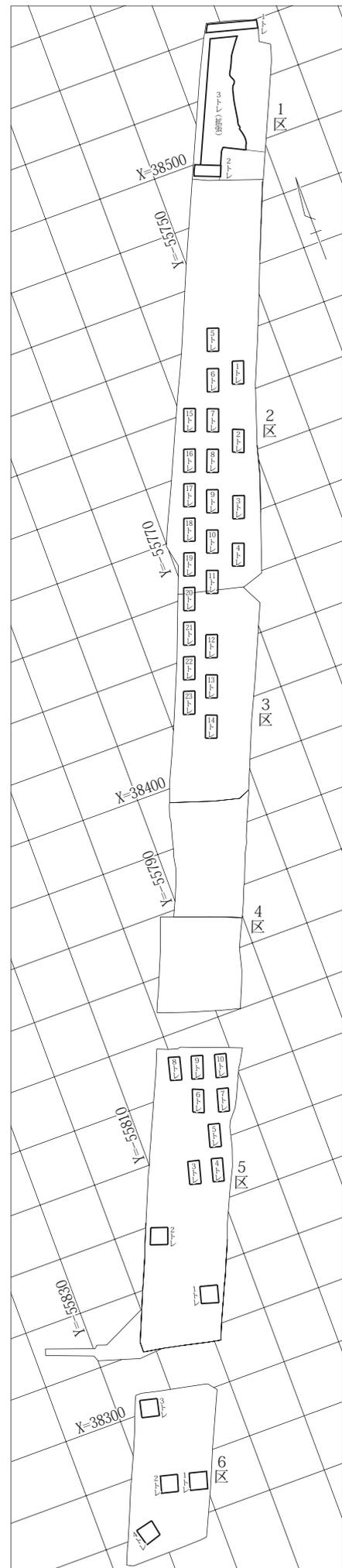
関遺跡1区～6区は国道462号拡幅部分の調査となるため、調査区は南北に細長く、長さ270m、幅約12m～16mである。遺跡の調査前の標高は75m～78mである。北東側から粕川に近い南西側に向かって緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦である。

関遺跡では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世の遺構および遺物が確認された。縄文時代では、トレンチ調査を行い、遺構は検出されなかったものの、遺物包含層から縄文土器および石器が出土した。また、古墳時代の水田(第3面)、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居を中心とした集落(第2面)、中世または近世と考えられる畑(第1面)の3面を調査した。関遺跡1区～6区の調査表面積は4,295㎡で、延面積は12,886㎡である。

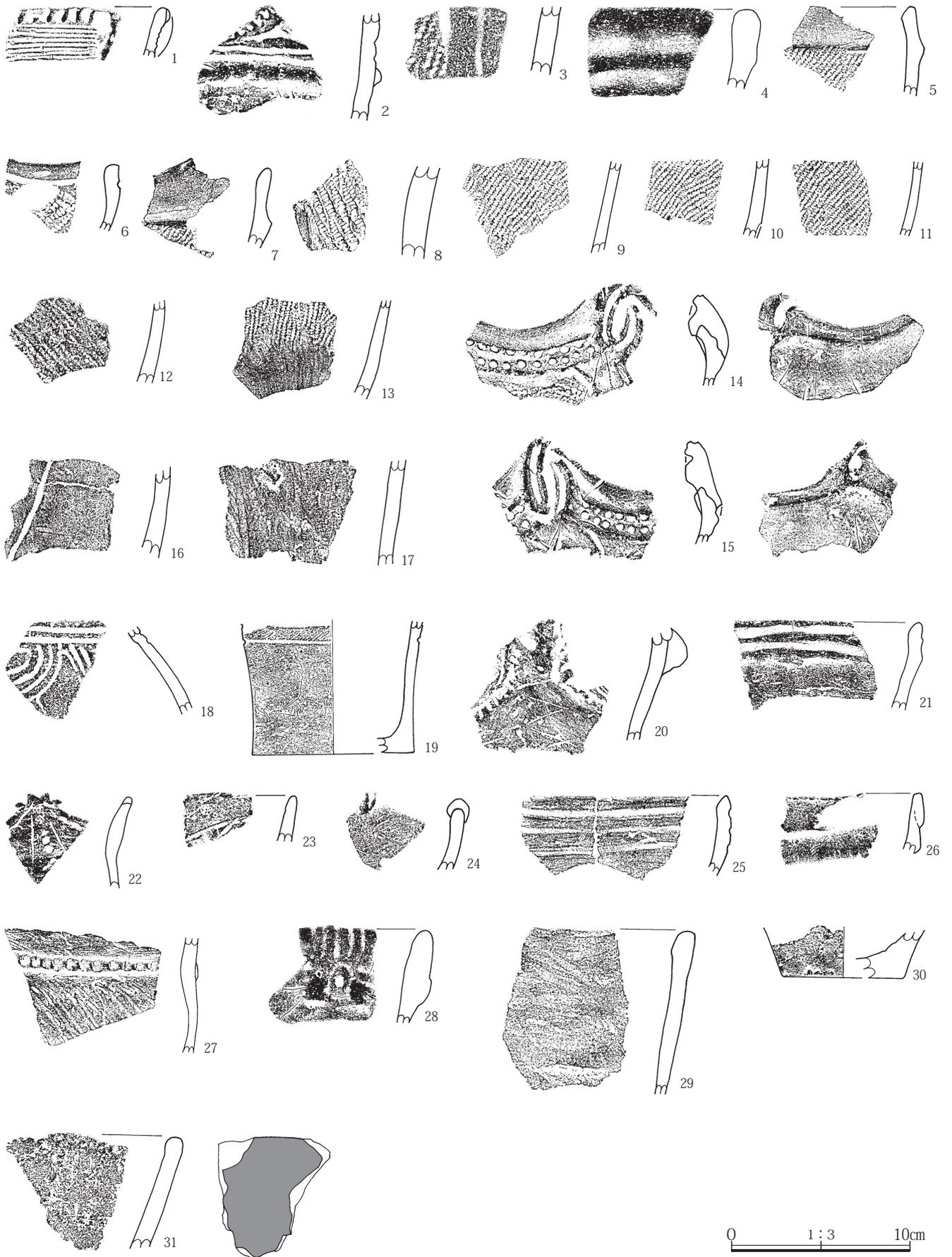
第1節 縄文時代の遺物

縄文時代以前の遺構と遺物を確認するため、4区を除いた調査区で4m×2mのトレンチを設定し、遺物の出土状況に応じ拡張を行った(第34図)。その結果、縄文土器や石器が出土し、このうち、器形や時期が推定できる42点を図示した(第35・36図 PL.109)。

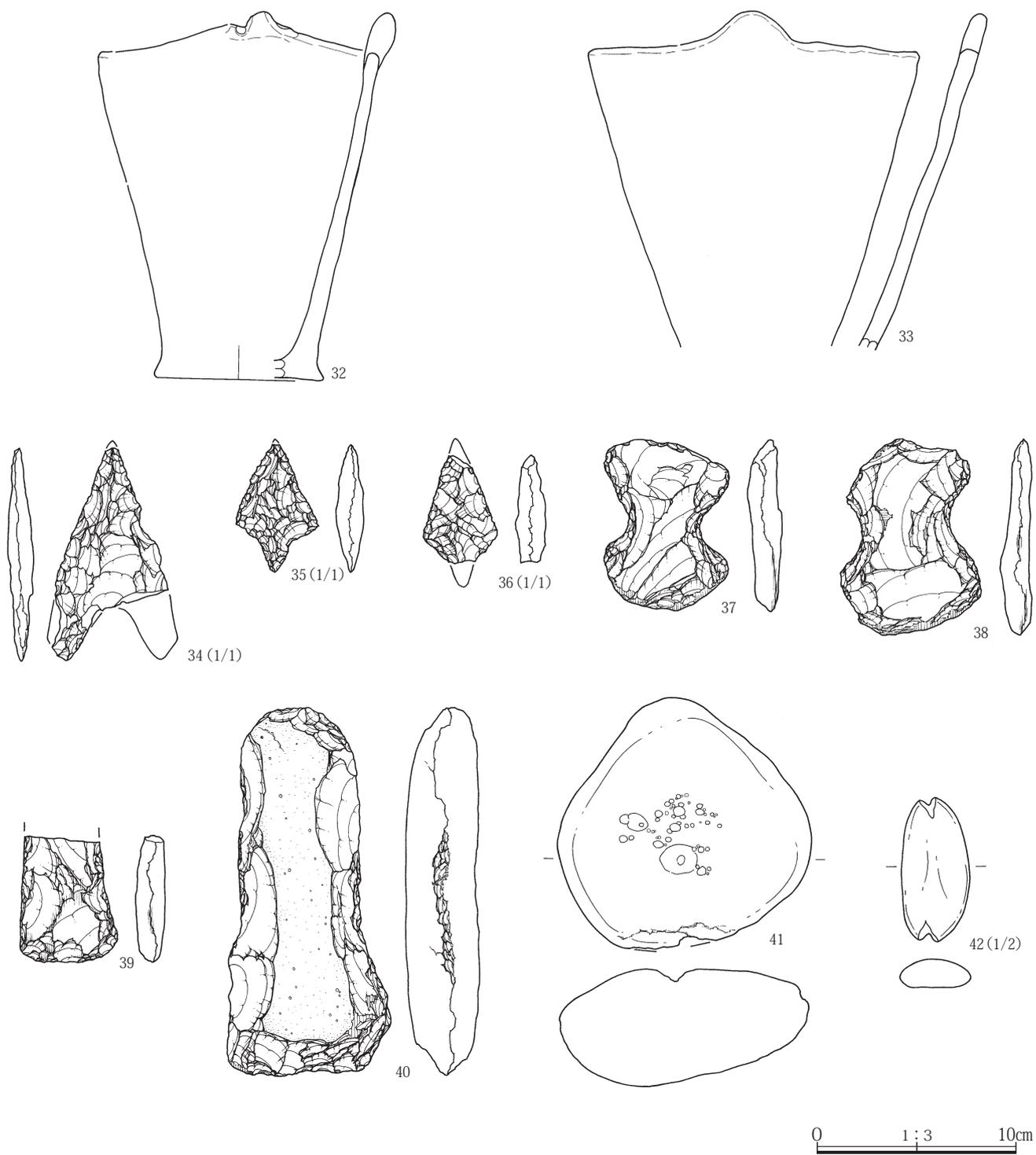
縄文土器は縄文時代前期から晩期までの幅広い時期にわたって出土している。加曾利E式、称名寺式、堀之内式などの土器片が認められた。また、弥生時代後期と考えられる土器片も見られた。石器は石鏃や石斧などが出土している。



第34図 関遺跡トレンチ配置図



第35図 縄文時代の出土遺物(1)



第36図 縄文時代の出土遺物(2)

第2節 古墳時代の遺構と遺物(第3面)

1. 概要

古墳時代の遺構(第3面)は、水田とそれに伴う大溝、大溝以外の溝5条、土坑12基、ピット5基を検出した。水田はAs-C混入黒色土を耕作土とし、砂質の洪水層で覆われていた。1区～6区の全ての調査区で検出され、その広がりを確認することができた。水田畦が大溝に沿って作られていることと土層断面の観察から、大溝(1区1号溝)は水田に伴うものと判断した。そのため、水田と一緒に取り扱った。その他の溝および土坑、ピットは、遺構検出時の観察から、水田を切っていたため、水田より時期が新しい。

2. 水田と大溝(第37～44図 第4表 PL.13～16・109)

水田は1区から6区にかけて、南北260mの範囲で検出された。水田畦畔が面的に連続して確認されたため、ここでは一括して記載する。

水田は、竪穴住居などが検出された第2面の調査終了後、さらに下位の遺構検出作業を行っている時に畦畔を確認した。As-C混入黒色土(5層)を耕作土とし(第5章第2節参照)、これを砂質の洪水層が15～20cmの厚さで覆う旧地表面としての水田である。一部の水田面の表面には無数の凹凸が認められ、この中には足跡の可能性があるものが含まれている。従って、水田面は旧地表面を残していると考えている。また、1区東部では水田に伴うと考えられる大溝(1区1号溝)や5層下面でこの水田に伴う擬似畦畔も検出された。

畦畔 南北方向の畦畔幅は28～70cm、東西方向の幅は23～80cm、水田面からの高さは1～16cmである。方向は2区中央部付近でN-21°-Eである。

面積 調査した水田263区画のうち、水田区画の全体を把握できたのは30区画である。最も広い区画は1区7の28.05㎡で、最も狭いのは4区17の3.74㎡である。10㎡未満の水田区画は21区画、10㎡以上のものが9区画で、平均面積は9.89㎡である。

勾配 北西から南東に向かって緩やかに傾斜し、勾配は0.26/100である。

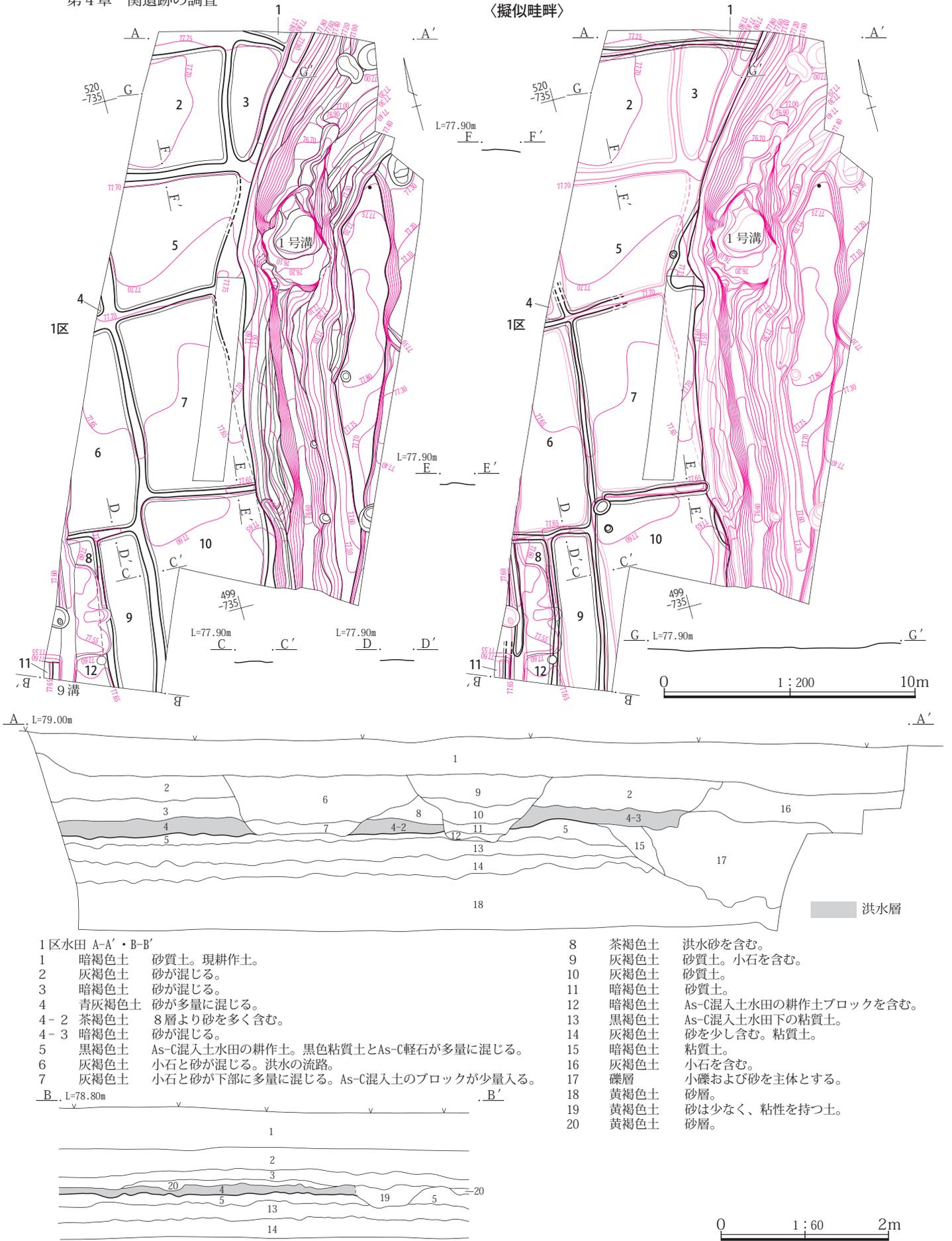
大溝 1区東部で、南北方向の大溝(1号溝)が検出された。1号溝の西壁に沿って、幅80cm、高さ12cmの大畦が確認されたことや土層断面の観察から、1号溝は水田に伴うものと判断した。1号溝は上幅が3.5～4.5m、下幅は0.3～0.9mで、水田面から1号溝底面までの深さは1～1.4mである。壁の立ち上がりは東側が西側に比べて緩やかだが、全体的に複雑な傾斜をなしている。底面は平坦ではなく、一部落ち込みがある。底面比高は北端よりも南端が5cm低い。緩やかに東に蛇行し調査区外へ延びている。埋没土は西壁付近で暗褐色粘質土が認められた。その上位には厚さ1.2mの礫層が見られ、短期間に埋没した様子が窺える。

取水・配水 明らかに水田に伴うと判断された溝は大溝のみのため、取水・配水の構造について詳細は不明である。ただし、水田面の標高を見ると北西から南東に向かって緩やかに傾斜していることから、水はこの方向に流れたと考えられる。

出土遺物 1～6は水田を被覆していた砂層中から出土した。7の土師器甕は大溝(1号溝)埋没土から出土した。いずれも3世紀後半から6世紀代の土器である。

所見 区画の平均面積が10㎡未満のいわゆる小区画水田である。年代を判断する資料が乏しいが、耕作土にAs-Cが鋤き込まれていることからAs-C降下以降である。また、水田を被覆している砂層から出土した遺物は3世紀後半から6世紀代と幅広い年代の土器を含んでいる。従って、水田の時期はAs-Cが降下した3世紀後半から6世紀と推定される。

〈擬似畦畔〉

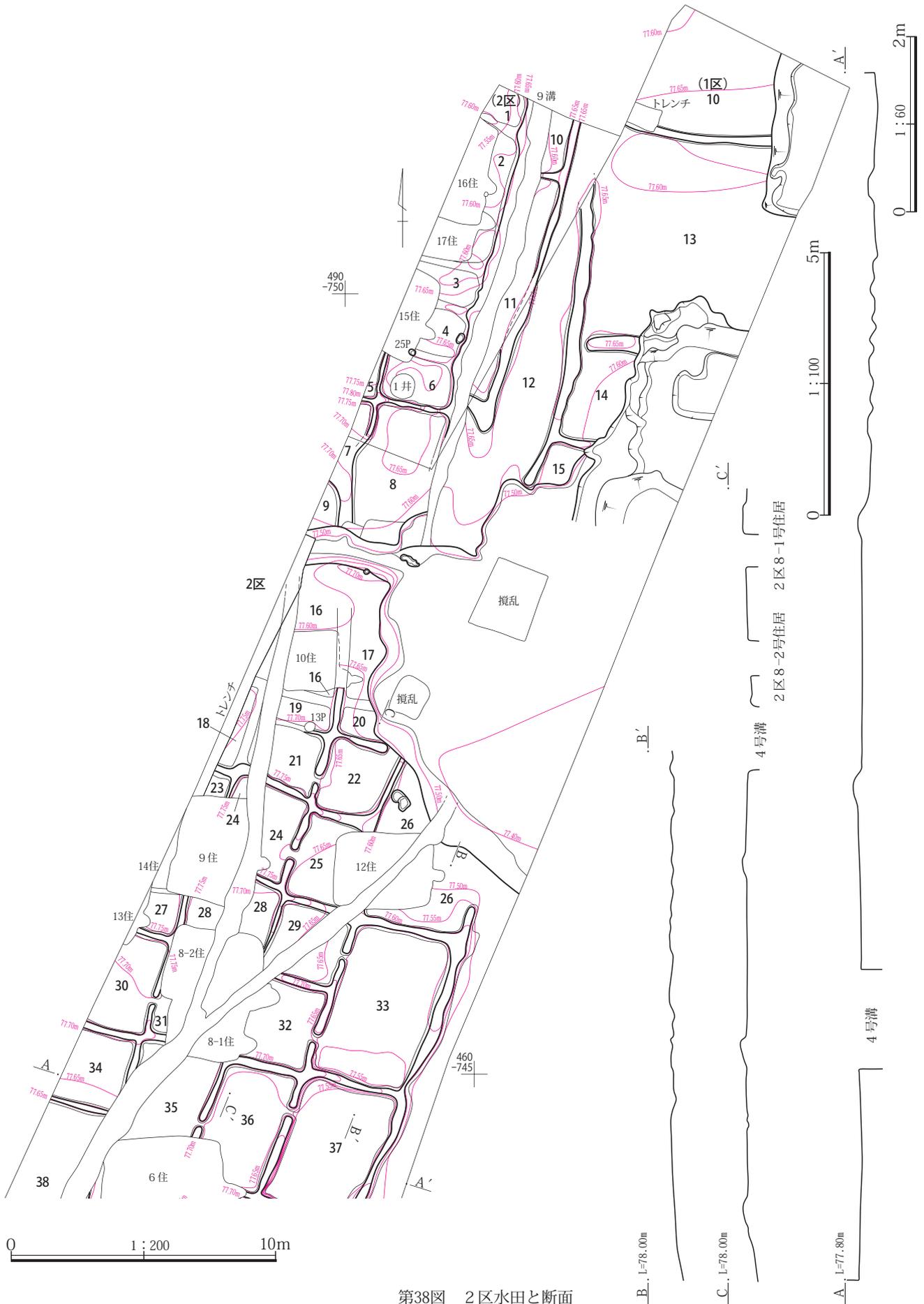


1区水田 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 砂質土。現耕作土。
- 2 灰褐色土 砂が混じる。
- 3 暗褐色土 砂が混じる。
- 4 青灰褐色土 砂が多量に混じる。
- 4-2 茶褐色土 8層より砂を多く含む。
- 4-3 暗褐色土 砂が混じる。
- 5 黒褐色土 As-C混入土水田の耕作土。黒色粘質土とAs-C軽石が多量に混じる。
- 6 灰褐色土 小石と砂が混じる。洪水の流路。
- 7 灰褐色土 小石と砂が下部に多量に混じる。As-C混入土のブロックが少量入る。

- 8 茶褐色土 洪水砂を含む。
- 9 灰褐色土 砂質土。小石を含む。
- 10 灰褐色土 砂質土。
- 11 暗褐色土 砂質土。
- 12 暗褐色土 As-C混入土水田の耕作土ブロックを含む。
- 13 黒褐色土 As-C混入土水田下の粘質土。
- 14 灰褐色土 砂を少し含む。粘質土。
- 15 暗褐色土 粘質土。
- 16 灰褐色土 小石を含む。
- 17 礫層 小礫および砂を主体とする。
- 18 黄褐色土 砂層。
- 19 黄褐色土 砂は少なく、粘性を持つ土。
- 20 黄褐色土 砂層。

第37図 1区水田と土層断面



第38図 2区水田と断面



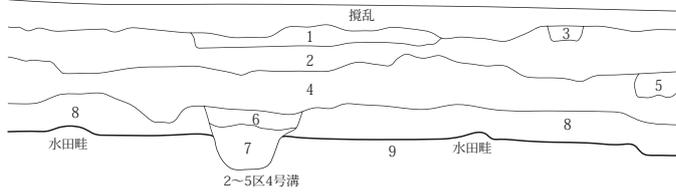
第39図 2区水田と断面



第40図 3区水田と断面



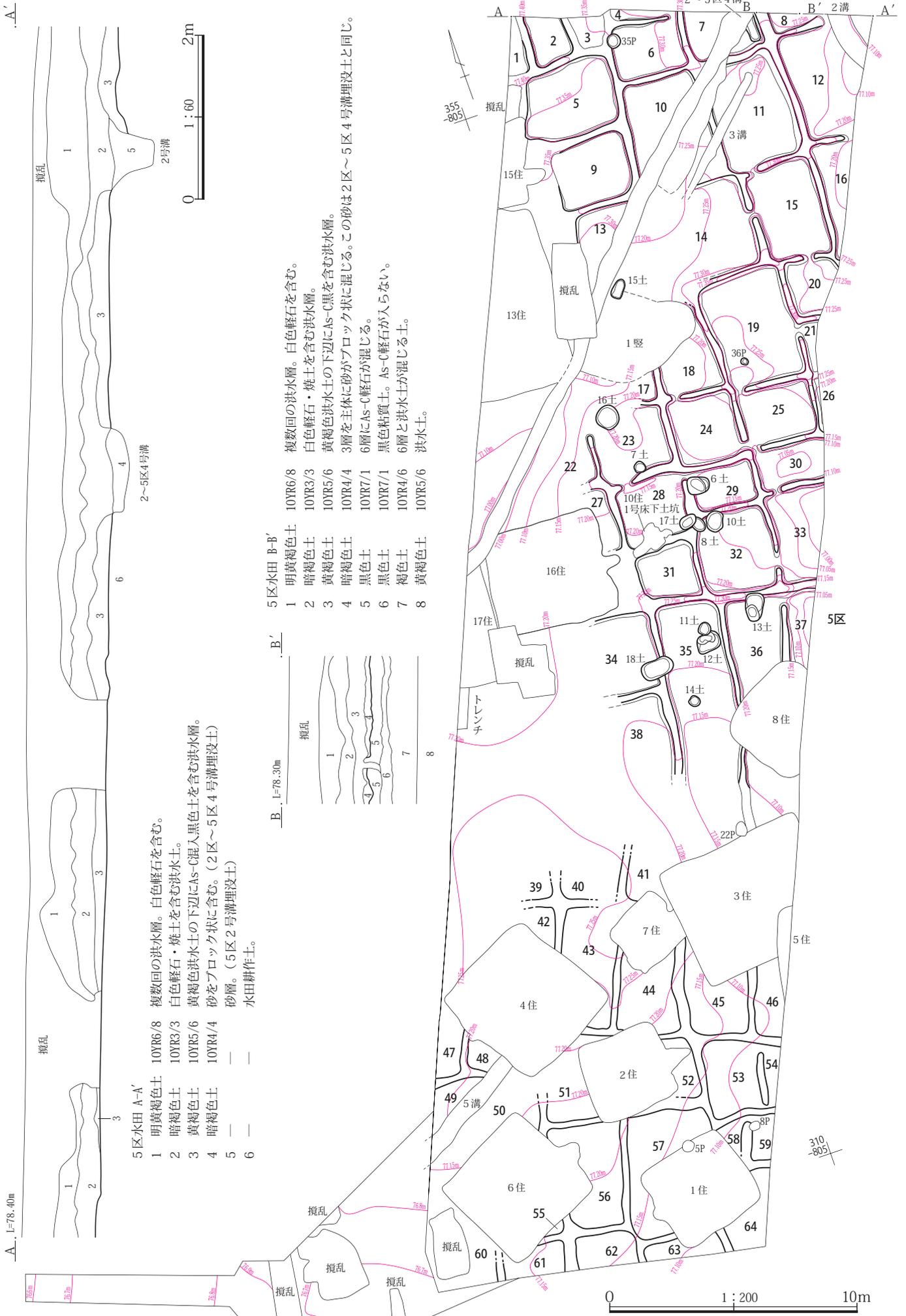
A L=78.40m A'



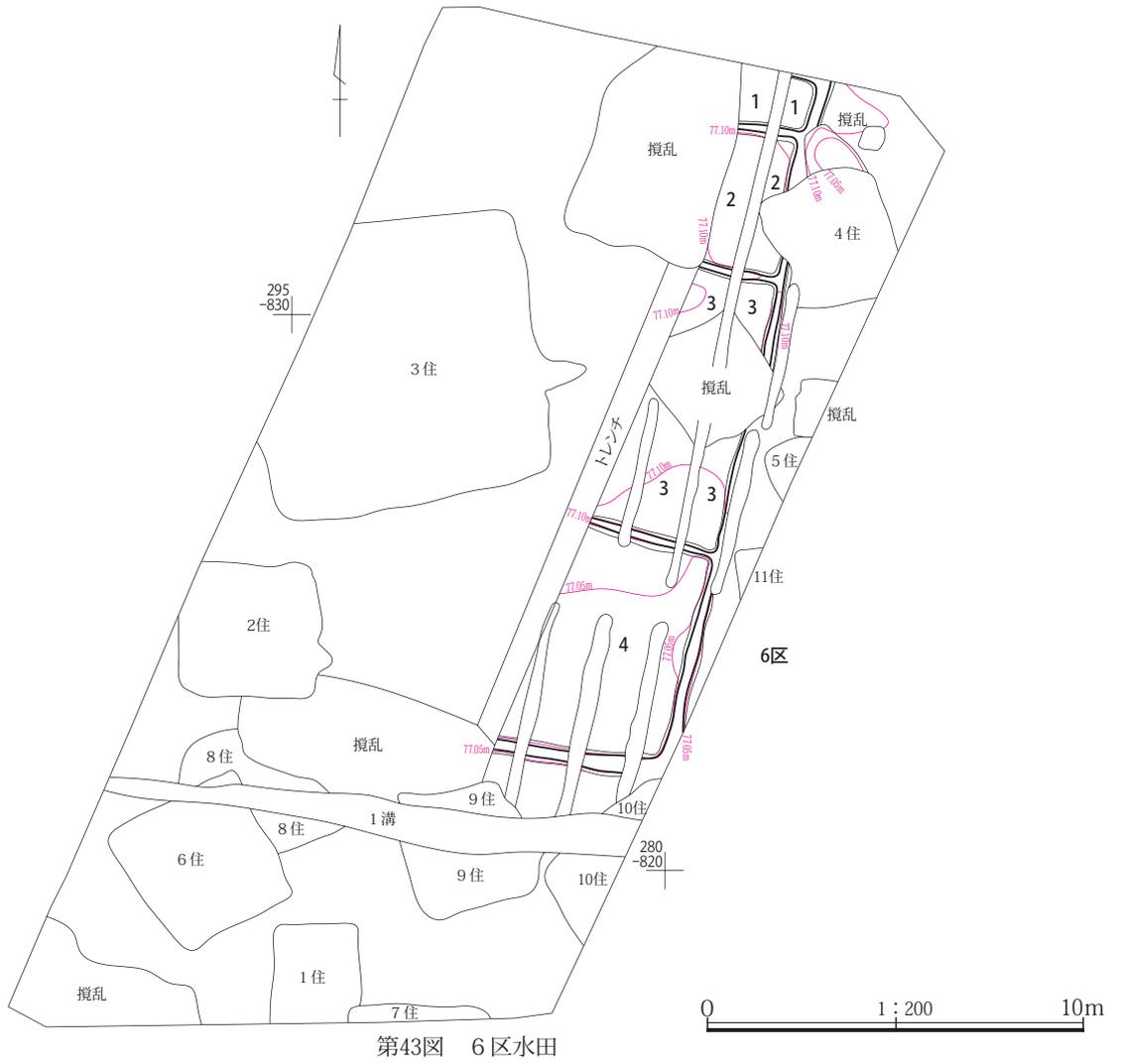
4区水田 A-A'

- | | | |
|-----------|----------|------------------------------------|
| 1 褐灰色土 | 7.5YR5/1 | 2層の黄褐色土(洪水土)を含む。 |
| 2 黄褐色土 | 10YR5/6 | 洪水土を含む。 |
| 3 暗褐色土 | 10YR3/3 | 畑畝間の埋没土。 |
| 4 黒褐色土 | 10YR2/2 | 2層の黄褐色土(洪水土)ブロックを含む。 |
| 5 黄褐色土 | 10YR5/8 | 畑畝間の埋没土。洪水土を含む。 |
| 6 にぶい黄褐色土 | 10YR5/3 | 黄褐色土(洪水土)ブロックを含む。(6・7 2区~5区4号溝埋没土) |
| 7 褐灰色土 | 10YR1/4 | 砂質土。 |
| 8 暗褐色土 | 10YR3/4 | 洪水土。(As-C混入黒色土を覆う) |
| 9 — | — | As-C混入黒色土。 |

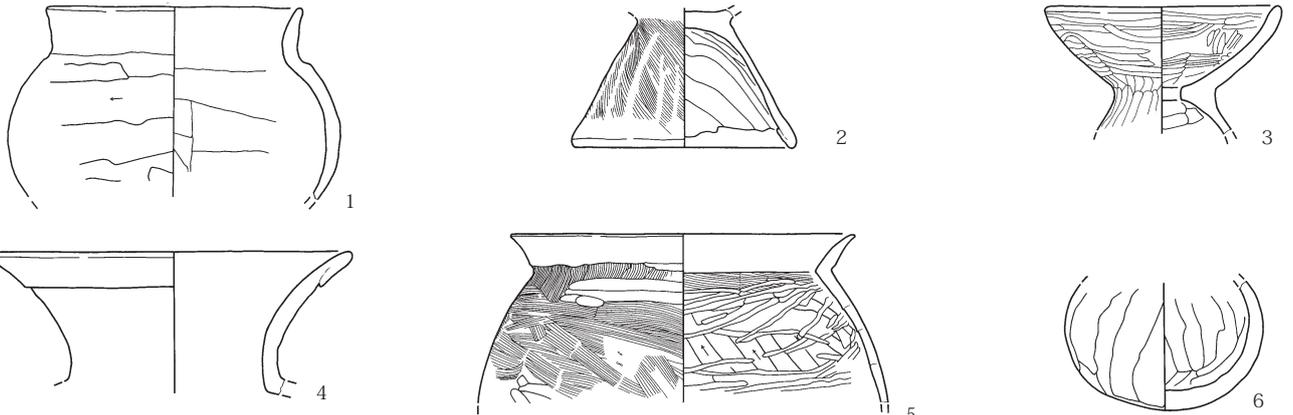
第41図 4区水田と土層断面



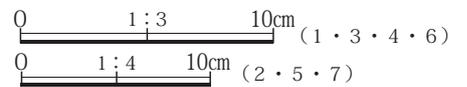
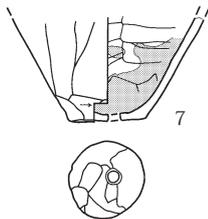
第42図 5区水田と土層断面



〈水田被覆砂層出土〉



〈大溝埋没土出土〉



第44図 水田被覆砂層・大溝出土遺物

第4表 水田区画一覧表

()は残存値

区	区画番号	平面形	中央付近標高(m)	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)	水口	図番号
1	1	—	—	—	(1.50)	(0.50)	—	37
1	2	(正方形)	77.66	—	4.34	(3.84)	—	37
1	3	三角形	77.72	5.58	4.50	1.86	—	37
1	4	—	—	—	(0.40)	(0.10)	—	37
1	5	台形	77.69	—	4.60	(4.80)	—	37
1	6	(長方形)	77.63	—	7.70	(2.60)	—	37
1	7	長方形	77.64	28.05	7.60	4.06	—	37
1	8	—	77.60	—	(1.30)	(0.88)	—	37
1	9	(帯状)	77.62	—	(6.14)	1.56	—	37
1	10	(長方形)	77.61	—	(5.84)	4.52	—	37
1	11	—	—	—	(0.65)	(0.22)	—	37
1	12	—	77.67	—	(1.20)	(1.20)	—	37
2	1	—	77.54	—	(1.44)	(1.28)	—	38
2	2	—	77.58	—	(5.40)	(0.90)	—	38
2	3	—	77.60	—	(2.50)	1.26	—	38
2	4	—	77.67	—	(1.50)	1.78	—	38
2	5	—	77.74	—	(1.88)	(0.39)	—	38
2	6	(長方形)	77.65	—	2.54	1.58	—	38
2	7	—	77.72	—	(1.20)	(0.56)	—	38
2	8	(長方形)	77.62	—	(4.40)	2.82	—	38
2	9	—	77.61	—	(1.78)	(0.92)	—	38
2	10	(長方形)	77.60	—	(2.34)	(0.82)	—	38
2	11	(帯状)	77.63	—	8.74	(0.72)	—	38
2	12	(帯状)	77.63	—	8.72	(0.77)	—	38
2	13	—	77.63	—	(7.68)	7.68	南西隅	38
2	14	—	77.60	—	3.40	(2.06)	北西隅	38
2	15	—	77.59	—	(1.66)	(1.20)	—	38
2	16	—	77.52	—	(3.30)	(3.04)	—	38
2	17	—	77.65	—	(3.52)	(1.40)	—	38
2	18	—	77.75	—	3.20	(0.54)	—	38
2	19	(長方形)	77.70	—	(2.00)	0.90	(南西隅)	38
2	20	(長方形)	77.67	—	(1.80)	1.04	(南東隅)	38
2	21	(長方形)	77.72	—	2.68	2.04	東辺、(北西隅)	38
2	22	正方形	77.58	5.84	2.72	2.44	西辺、北東隅	38
2	23	—	77.77	—	(0.88)	(0.74)	—	38
2	24	(正方形)	77.75	—	3.24	2.78	東辺	38
2	25	(長方形)	77.61	—	3.14	(1.88)	西辺	38
2	26	(長方形)	77.53	—	(5.60)	3.64	—	38
2	27	—	77.74	—	(1.50)	(1.20)	—	38
2	28	(正方形)	77.74	—	(3.22)	(2.00)	—	38
2	29	(正方形)	77.65	—	2.64	2.60	東辺	38
2	30	—	77.67	—	3.72	(2.04)	東辺	38
2	31	—	77.65	—	(1.35)	(0.54)	西辺	38
2	32	(正方形)	77.65	—	3.02	(2.48)	東辺	38
2	33	長方形	77.59	20.83	5.96	3.62	西辺2か所	38
2	34	—	77.66	—	2.75	(2.28)	—	38
2	35	(長方形)	77.70	—	(3.76)	2.92	東辺	38
2	36	(長方形)	77.66	—	4.58	2.68	東辺、西辺	38
2	37	長方形	77.59	15.88	5.14	3.54	西辺	38
2	38	—	77.64	—	6.74	(2.12)	—	38・39
2	39	(長方形)	77.65	—	(4.82)	2.84	—	39
2	40	(長方形)	77.62	—	4.14	2.88	東辺	39
2	41	長方形	77.54	18.62	6.50	3.20	西辺2か所	39
2	42	—	77.70	—	3.42	(0.92)	—	39
2	43	(正方形)	77.67	—	3.12	(1.74)	—	39
2	44	(正方形)	77.66	—	2.24	2.24	—	39
2	45	(長方形)	77.59	—	2.88	2.06	東辺	39
2	46	—	77.66	—	4.04	(1.94)	—	39
2	47	(長方形)	77.63	—	4.08	(1.68)	—	39
2	48	長方形	77.63	9.12	4.50	2.08	—	39
2	49	(長方形)	77.57	—	4.42	2.57	東辺	39
2	50	正方形	77.48	19.11	5.00	4.32	西辺	39
2	51	—	77.67	—	4.40	(2.50)	—	39
2	52	(長方形)	77.63	—	3.48	(1.58)	—	39
2	53	(長方形)	77.56	—	3.92	2.16	東辺	39
2	54	(長方形)	77.56	—	(2.80)	2.47	西辺	39
2	55	正方形	77.43	11.44	3.96	3.08	—	39
2	56	(正方形)	77.66	—	2.54	2.22	—	39
2	57	(正方形)	77.58	—	2.72	(1.82)	—	39
2	58	(正方形)	77.56	—	2.64	(2.16)	—	39
2	59	—	77.49	—	1.98	(0.88)	東辺	39
2	60	長方形	77.41	26.16	8.00	3.58	西辺	39
2	61	(長方形)	77.62	—	4.52	(1.96)	—	39
2	62	(正方形)	77.60	—	2.18	(1.64)	—	39
2	63	(正方形)	77.52	—	2.77	2.50	—	39
2	64	台形	77.45	4.46	2.38	2.18	—	39
2	65	(正方形)	77.57	—	2.22	1.58	—	39
2	66	正方形	77.52	5.86	2.78	2.26	—	39

第4章 関遺跡の調査

区	区画番号	平面形	中央付近標高(m)	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)	水口	図番号
2	67	正方形	77.45	5.15	2.32	2.32	南東隅	39
2	68	—	77.57	—	1.82	(1.66)	—	39
2	69	(正方形)	77.53	—	1.87	(1.50)	—	39
2	70	(長方形)	77.46	—	(3.50)	2.00	—	39
2	71	正方形	77.41	5.06	2.52	2.20	—	39
2	72	(長方形)	77.33	—	(3.30)	2.46	—	39
3	1	—	77.56	—	2.66	(2.18)	—	40
3	2	(長方形)	77.54	—	(5.34)	2.18	—	40
3	3	—	77.38	—	(1.80)	(1.66)	—	40
3	4	—	—	—	(1.60)	(0.16)	—	40
3	5	(台形)	77.55	—	2.65	(2.00)	—	40
3	6	—	77.56	—	2.62	(1.46)	—	40
3	7	(正方形)	77.39	—	2.48	(2.23)	—	40
3	8	—	77.57	—	(1.40)	(0.60)	—	40
3	9	(正方形)	77.57	—	2.10	(1.94)	—	40
3	10	(長方形)	77.52	—	(6.62)	2.35	—	40
3	11	(正方形)	77.39	—	2.78	2.32	—	40
3	12	—	77.36	—	(5.34)	(1.15)	—	40
3	13	—	77.56	—	(2.48)	(0.80)	—	40
3	14	(正方形)	77.54	—	(2.30)	2.10	—	40
3	15	(正方形)	77.56	—	2.26	(1.52)	—	40
3	16	長方形	77.53	3.94	2.50	1.64	—	40
3	17	(長方形)	77.46	—	2.60	1.40	—	40
3	18	(長方形)	77.38	—	3.14	2.48	—	40
3	19	—	77.38	—	2.62	(1.18)	—	40
3	20	—	77.54	—	2.34	(1.20)	—	40
3	21	(正方形)	77.53	—	2.69	(1.96)	—	40
3	22	(長方形)	77.51	—	2.90	(1.24)	—	40
3	23	長方形	77.49	5.68	2.78	2.14	—	40
3	24	(長方形)	77.46	—	2.62	1.82	—	40
3	25	(長方形)	77.39	—	2.98	1.90	—	40
3	26	—	77.43	—	6.60	(2.10)	—	40
3	27	—	77.48	—	(1.90)	(0.96)	—	40
3	28	—	77.52	—	2.88	(2.36)	—	40
3	29	(長方形)	77.49	—	2.44	(0.95)	—	40
3	30	正方形	77.47	5.54	2.62	2.22	—	40
3	31	長方形	77.46	7.09	3.05	2.56	—	40
3	32	—	77.46	—	2.26	(1.70)	—	40
3	33	(長方形)	77.52	—	2.72	1.70	—	40
3	34	(長方形)	77.51	—	2.88	(1.58)	—	40
3	35	(長方形)	77.51	—	3.18	1.78	—	40
3	36	(長方形)	77.43	—	3.14	1.72	—	40
3	37	長方形	77.44	4.26	2.89	1.62	—	40
3	38	—	77.42	—	2.96	(1.14)	—	40
3	39	—	77.50	—	(3.72)	3.10	—	40
3	40	—	—	—	(0.80)	(0.44)	—	40
3	41	(長方形)	77.43	—	3.76	1.88	—	40
3	42	(長方形)	77.43	—	4.22	1.56	—	40
3	43	—	77.41	—	4.34	(0.32)	—	40
3	44	—	77.49	—	2.50	(0.92)	—	40
3	45	(長方形)	77.41	—	4.36	(2.28)	—	40
3	46	(長方形)	77.43	—	3.56	(2.22)	—	40
3	47	(長方形)	77.43	—	3.18	2.24	—	40
3	48	—	77.42	—	2.37	(0.34)	—	40
3	49	—	77.47	—	2.21	2.58	—	40
3	50	—	77.39	—	2.36	(2.16)	—	40
3	51	(長方形)	77.46	—	2.72	2.35	—	40
3	52	—	77.44	—	2.18	(1.70)	—	40
3	53	—	77.47	—	(1.98)	(1.63)	—	40
3	54	—	77.48	—	(2.22)	2.19	—	40
3	55	—	77.46	—	2.48	(0.72)	—	40
3	56	(正方形)	77.45	—	2.60	2.55	—	40
3	57	—	77.41	—	2.32	(1.20)	—	40
3	58	—	77.45	—	(2.00)	(0.34)	—	40
3	59	—	77.43	—	(1.85)	(1.55)	—	40
3	60	—	77.41	—	(2.48)	(1.06)	—	40
3	61	—	77.41	—	(2.70)	(2.52)	—	40
3	62	—	77.41	—	(1.60)	(1.40)	—	40
3	63	—	77.43	—	(1.74)	(0.62)	—	40
4	1	—	77.39	—	(1.92)	(1.74)	—	41
4	2	—	77.39	—	(2.24)	(1.32)	南辺	41
4	3	—	77.41	—	(1.80)	(0.66)	—	41
4	4	—	77.40	—	(1.10)	(0.92)	—	41
4	5	—	77.40	—	3.30	(1.35)	北辺	41
4	6	(長方形)	77.40	—	2.20	1.36	—	41
4	7	—	77.38	—	2.62	2.60	—	41
4	8	—	77.41	—	1.94	(1.48)	—	41
4	9	—	77.32	—	(3.62)	(0.94)	—	41
4	10	—	77.41	—	(3.28)	(1.46)	—	41
4	11	(長方形)	77.35	—	3.38	(1.50)	—	41

第2節 古墳時代の遺構と遺物(第3面)

区	区画番号	平面形	中央付近標高(m)	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)	水口	図番号
4	12	(長方形)	77.34	—	3.24	2.35	—	41
4	13	(正方形)	77.32	—	2.10	2.23	—	41
4	14	—	77.34	—	(4.12)	2.00	—	41
4	15	(長方形)	77.33	—	2.58	1.92	—	41
4	16	(長方形)	77.32	—	3.10	2.07	—	41
4	17	台形	77.25	3.74	2.40	2.08	南辺	41
4	18	—	77.38	—	(1.98)	(0.82)	—	41
4	19	—	77.32	—	(1.66)	1.14	—	41
4	20	(正方形)	77.30	—	3.48	(3.19)	—	41
4	21	—	77.22	—	(3.00)	1.28	(北辺)	41
4	22	—	77.21	—	3.66	(0.51)	(北辺)	41
4	23	—	77.35	—	(3.00)	(2.18)	—	41
4	24	(長方形)	77.36	—	3.40	1.27	—	41
4	25	長方形	77.34	6.50	3.52	2.24	—	41
4	26	(正方形)	77.27	—	3.12	2.80	—	41
4	27	—	77.16	—	7.84	(1.45)	—	41
4	28	—	77.35	—	(1.06)	(0.38)	—	41
4	29	—	77.32	—	1.84	(0.92)	—	41
4	30	—	77.23	—	9.90	2.80	—	41
4	31	—	77.26	—	4.80	(1.20)	—	41
4	32	—	77.35	—	(6.88)	(0.80)	—	41
4	33	—	77.32	—	(2.18)	2.06	—	41
4	34	長方形	77.34	15.68	6.40	2.78	—	41
4	35	—	77.32	—	(3.04)	2.70	—	41
4	36	—	77.23	—	4.22	(1.84)	—	41
4	37	—	77.22	—	(1.88)	(0.83)	—	41
4	38	—	77.30	—	(1.96)	2.46	—	41
4	39	—	77.33	—	5.02	4.64	—	41
4	40	正方形	77.27	8.24	3.10	2.88	南辺	41
4	41	—	77.28	—	5.40	(2.86)	—	41
4	42	—	77.26	—	4.64	(2.62)	—	41
4	43	—	77.21	—	(5.26)	(1.08)	—	41
4	44	—	77.24	—	(2.74)	(0.86)	—	41
4	45	—	77.25	—	2.98	(2.32)	北辺	41
4	46	(長方形)	77.24	—	(3.40)	2.85	—	41
4	47	(長方形)	77.20	—	(3.94)	2.32	—	41
4	48	—	77.21	—	(2.50)	(0.96)	—	41
5	1	—	77.42	—	(2.42)	(0.76)	—	42
5	2	—	77.37	—	(2.12)	1.44	—	42
5	3	—	77.35	—	(1.36)	1.38	—	42
5	4	—	77.29	—	2.65	(0.46)	南東隅	42
5	5	長方形	77.35	9.16	3.70	2.78	—	42
5	6	(長方形)	77.32	—	2.74	2.12	北東隅	42
5	7	—	77.25	—	2.84	(2.08)	—	42
5	8	—	77.24	—	(1.86)	(0.88)	(南辺)	42
5	9	長方形	77.30	7.15	3.06	2.53	—	42
5	10	(長方形)	77.31	—	(3.40)	3.16	—	42
5	11	(長方形)	77.25	—	4.24	2.96	南辺	42
5	12	—	77.23	—	4.38	(2.90)	(南辺、北辺)	42
5	13	—	77.29	—	(2.68)	(2.08)	—	42
5	14	—	77.28	—	3.62	(1.80)	東辺	42
5	15	長方形	77.22	9.26	3.92	2.52	西辺、南辺、北辺	42
5	16	—	77.19	—	(4.28)	(1.62)	(北辺)	42
5	17	—	77.10	—	(1.00)	(0.68)	—	42
5	18	(長方形)	77.18	—	(3.35)	2.24	南辺	42
5	19	長方形	77.26	13.31	4.46	3.28	東辺、南西隅	42
5	20	(正方形)	77.25	—	2.10	(2.06)	北辺	42
5	21	—	77.25	—	2.02	(0.62)	北西隅	42
5	22	—	77.18	—	(1.86)	(0.80)	—	42
5	23	(正方形)	77.22	—	2.84	(2.38)	南辺	42
5	24	正方形	77.13	6.37	2.66	2.48	北辺、南東隅	42
5	25	長方形	77.09	5.82	2.80	2.04	北西隅、南西隅2か所	42
5	26	—	—	—	(1.90)	(0.18)	—	42
5	27	—	77.22	—	2.57	(0.60)	—	42
5	28	(正方形)	77.19	—	2.68	2.44	北辺、北東隅	42
5	29	(長方形)	77.17	—	2.40	1.50	北西隅	42
5	30	(長方形)	77.02	—	(2.84)	1.52	南辺、北西隅	42
5	31	台形	77.21	3.89	2.24	2.02	—	42
5	32	(正方形)	77.16	—	3.24	2.96	東辺	42
5	33	—	76.97	—	3.72	(2.40)	東辺、北辺	42
5	34	—	77.21	—	3.10	(2.08)	—	42
5	35	(带状)	77.24	—	(7.06)	2.48	—	42
5	36	—	77.16	—	(7.70)	2.16	北東隅	42
5	37	—	77.02	—	(3.20)	(1.00)	北西隅	42
5	38	—	77.17	—	(3.40)	(1.70)	—	42
5	39	—	77.29	—	(0.94)	(0.70)	—	42
5	40	—	77.29	—	2.36	(0.80)	—	42
5	41	—	77.22	—	(1.95)	(0.55)	—	42
5	42	—	77.29	—	(1.66)	(1.88)	—	42
5	43	(長方形)	77.25	—	(4.94)	2.26	—	42

第4章 関遺跡の調査

区	区画番号	平面形	中央付近標高(m)	面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)	水口	図番号
5	44	—	77.23	—	(3.16)	2.54	—	42
5	45	—	77.12	—	(3.80)	2.62	—	42
5	46	—	77.05	—	(3.30)	1.28	—	42
5	47	—	77.23	—	(2.20)	(1.00)	—	42
5	48	—	77.18	—	(1.35)	(1.20)	—	42
5	49	—	77.19	—	(1.90)	(1.85)	—	42
5	50	—	77.19	—	(2.45)	(1.50)	—	42
5	51	—	77.25	—	(3.50)	(2.04)	—	42
5	52	—	77.10	—	2.50	(1.05)	—	42
5	53	—	77.08	—	3.18	2.20	北東隅、南東隅	42
5	54	—	77.06	—	2.58	(0.66)	—	42
5	55	—	—	—	(0.74)	(0.44)	—	42
5	56	(台形)	77.21	—	4.30	3.00	—	42
5	57	—	77.15	—	5.04	3.54	—	42
5	58	—	76.97	—	(1.30)	(0.80)	北東隅	42
5	59	—	77.04	—	1.92	(0.86)	北西隅	42
5	60	—	77.10	—	(4.10)	(2.50)	—	42
5	61	—	77.16	—	2.50	(1.30)	—	42
5	62	—	77.16	—	2.48	(1.42)	—	42
5	63	—	77.10	—	3.08	(0.86)	—	42
5	64	—	77.03	—	(3.28)	(1.90)	—	42
6	1	—	77.12	—	(1.82)	1.32	—	43
6	2	(長方形)	77.10	—	3.60	(1.98)	—	43
6	3	—	77.14	—	7.34	(2.38)	—	43
6	4	—	77.03	—	5.96	(4.18)	—	43

3. 溝

第3面では、1区・2区で1条、4区で1条、5区で3条の計5条検出した。1区1号溝(大溝)は遺構検出時および土層断面の観察から、水田に伴う用水路と判断したため、水田の項で記述した。1区・2区9号溝および4区2号溝、5区3号・5号溝は水田を切っていることから、水田より新しい溝である。5区2号溝は重複部分がなく、水田との新旧関係は不明である。

1区・2区9号溝(第45図)

位置 1区南西部から2区北西部

X=38,480～38,506 Y=-55,740～-55,748

重複 水田と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本溝の方が新しい。

形状と規模 北北東から南南西に延びる溝で、水田畦畔と並行している。北端は調査区外で、南端は2区東部の落ち込みによって切られている。検出された長さは26.1m、幅は0.4～0.85m、遺構検出面から底面までの深さは12～14cmである。断面形状はU字状である。

方向 N-15°E

底面比高 北東端が南西端より6cm高い。

埋没土 粘質の黄褐色土。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、時期は水田より新しいが、溝の方向が水田畦畔の方向と合致していることから、水田が洪水層によって埋没した後間もない時期の溝であると推定される。

4区2号溝(第45図)

位置 4区南東部

X=38,360～38,374 Y=-55,778～-55,790

重複 水田と重複し、遺構検出時の観察から、本溝の方が新しい。

形状と規模 北東から南西に延びる溝である。南北両端は調査区外である。検出された長さは19.94m、幅は0.52m、遺構検出面から底面までの深さは8～22cmである。断面形状は逆台形である。

方向 N-33°E

底面比高 北東端が南端より5～6cm高い。

埋没土 土層の観察を欠き不明である。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、出土遺物がなく詳細な時期は不明である。

5区2号溝(第46図 PL.17)

位置 5区北東隅

X=38,351～38,355 Y=-55,788～-55,790

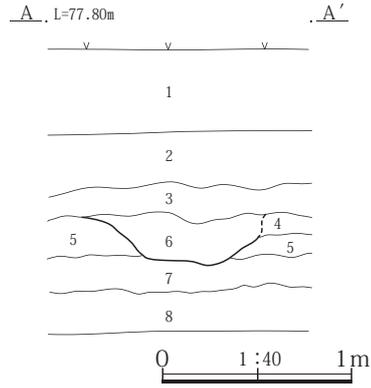
重複 なし

形状と規模 ごく一部の調査で、大部分は調査区外である。検出された長さは2.38m、幅は0.85m、遺構検出面から底面までの深さは18～48cmである。断面形は逆台形である。

方向 N-8°W

底面比高 北端が東端より12cm低い。

〈1区・2区9号溝〉

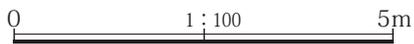


1区・2区9号溝 A-A'

- 1 暗褐色土 砂質土。現耕作土。
- 2 灰褐色土 砂が混じる。
- 3 暗褐色土 砂が混じる。
- 4 青灰褐色土 砂が多量に混じる。
- 5 黒褐色土 As-C混入土水田の耕作土。黒色粘質土とAs-C軽石が多量に混じる。
- 6 黄褐色土 砂は少なく粘性を持つ土。
- 7 黒褐色土 As-C混入土水田下の粘質土。
- 8 灰褐色土 砂を少し含む。粘質土。

495
-745

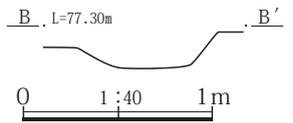
9号溝



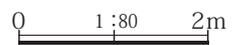
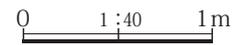
〈4区2号溝〉

375
-781

調査区外



365
-783



調査区外

第45図 1区・2区9号溝と4区2号溝

埋没土 にぶい黄褐色土を確認した。上層は砂質土である。**遺物** なし。

所見 遺構の重複および出土遺物がなく、時期は不明である。性格も不明である。

5区3号溝(第46図 PL.17)

位置 5区北部

X=38,348 ~ 38,353 Y=-55,793 ~ -55,798

重複 水田と重複し、遺構検出時の観察から、本溝が新しい。

形状と規模 2区~5区4号溝に平行し、北東から南西に直線上に延びている。南端は確認できなかった。検出された長さは5.8m、幅は0.26m、遺構検出面から底面までの深さは2~5cmである。底面は平坦ではなく、断面形はU字状を呈する。

方向 N-46°-E

底面比高 北東端が南西端より3cm高い。

埋没土 土層の観察を欠き、不明である。**遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいことは明らかだが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区5号溝(第46図)

位置 5区南西部

X=38,314 ~ 38,319 Y=-55,816 ~ -55,821

重複 4号住居と重複するが、新旧関係は不明である。

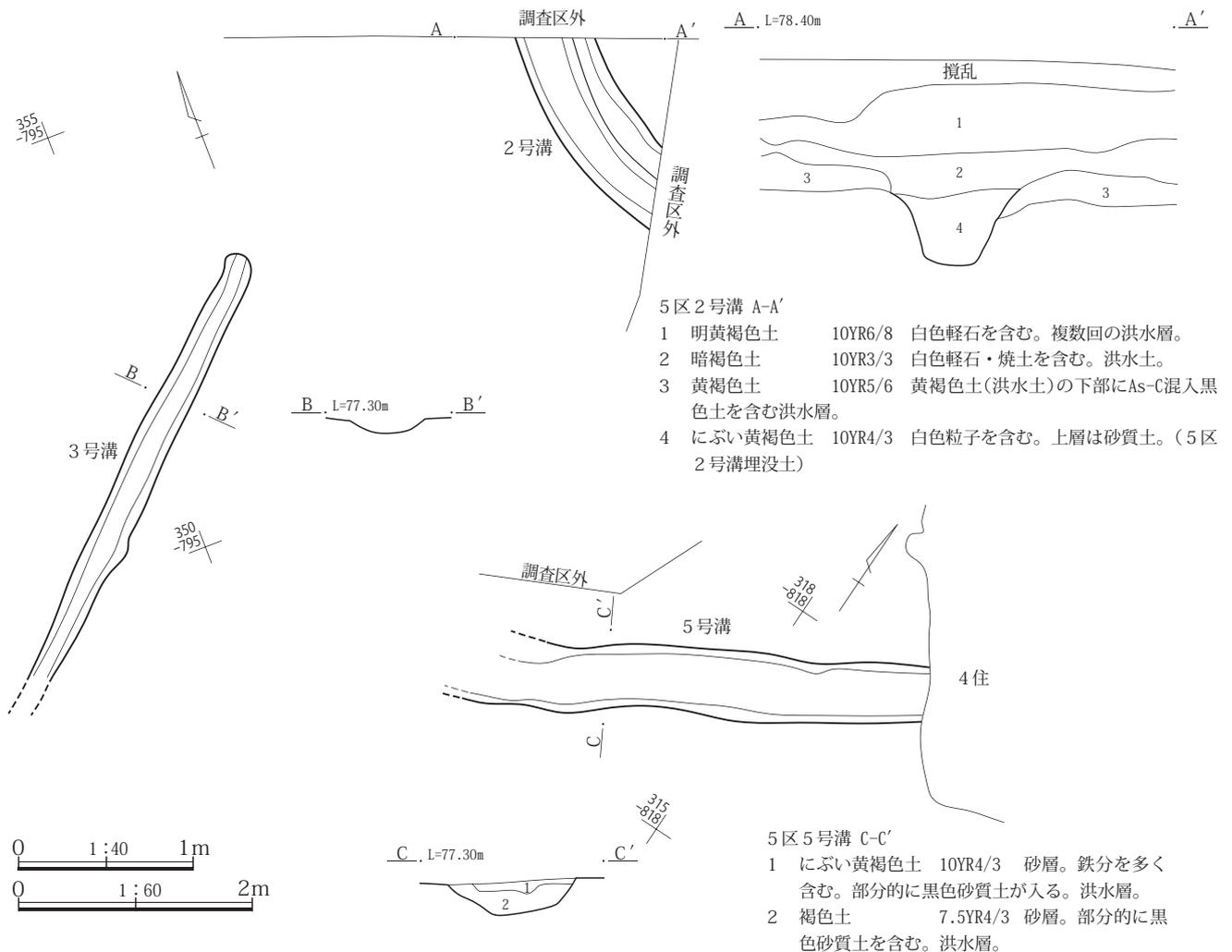
形状と規模 北東から南西に延びる溝である。北東部は4号住居に切られている。南西部はその範囲を把握できなかった。検出された長さは4.8m、幅は0.67m、遺構検出面から底面までの深さは19~23cmである。底面は平坦ではなく、断面形はU字状を呈する。

方向 N-61°-E

底面比高 北東端と南西端の底面はほぼ同じである。

埋没土 にぶい黄褐色土と褐色土。**遺物** なし。

所見 時期および性格は不明である。



第46図 5区2号・3号・5号溝

4. 土坑

土坑は12基検出した。5区中央部に集中し、他の調査区では検出されなかった。いずれも水田検出作業中に確認したが、これらの土坑は畦畔および水田面を切っていることから、水田よりも時期が新しい。また、調査面の上下関係から、竪穴住居よりも古い。

5区6号土坑(第47図 PL.17)

位置 5区中央部

X=38,337～38,339 Y=-55,800～-55,802

重複 水田畦と重複し、遺構検出時の観察から、本土坑が新しい。

形状と規模 平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-41°-Wである。長径0.9m、短径0.7m、遺構検出面から底面までの深さは0.23mである。東部に段を有し、断面形は碗形である。

埋没土 灰褐色土・浅黄色土を含むにぶい黄褐色土1層を確認した。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区7号土坑(第47図 PL.17)

位置 5区中央部

X=38,338～38,340 Y=-55,802～-55,804

重複 水田畦と重複し、遺構検出時の観察から、本土坑が新しい。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径0.49m、短径0.45m、遺構検出面から底面までの深さは0.27mである。

埋没土 上層はにぶい黄褐色土、下層は黒褐色土。

遺物 埋没土上部から、完形の土師器杯が1点出土した。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区8号土坑(第47図 PL.18)

位置 5区中央部

X=38,335～38,337 Y=-55,801～-55,802

重複 17号土坑および水田畦と重複する。遺構検出時の観察から、本土坑は水田より新しく、17号土坑より古い。

形状と規模 平面形は楕円形と推定され、長軸方向は

N-25°-Wである。検出した長径は0.49m、短径は0.48m、遺構検出面から底面までの深さは0.16mである。

埋没土 にぶい黄褐色土1層を確認した。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区10号土坑(第47図 PL.18)

位置 5区中央部

X=38,335～38,337 Y=-55,800～-55,802

重複 水田畦と重複し、遺構検出時の観察から、本土坑が新しい。

形状と規模 平面形は不整な楕円形で、長径0.86m、短径0.7m、遺構検出面から底面までの深さは0.14mである。断面形はU字状を呈する。

埋没土 にぶい黄褐色土を確認した。遺構検出面および上層に焼土と炭化物が多く含まれる。

遺物 埋没土上部から、羽釜の口縁部破片が1点出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区11号土坑(第47図 PL.18)

位置 5区中央部

X=38,331～38,333 Y=-55,802～-55,804

重複 5区12号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が新しい。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径0.53m、短径0.52m、遺構検出面から底面までの深さは0.43mである。壁の立ち上がりは垂直で、底面は平坦ではない。

埋没土 白色軽石などを含む灰黄褐色土。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区12号土坑(第47図 PL.18)

位置 5区中央部

X=38,331～38,332 Y=-55,802～-55,804

重複 11号土坑と重複し、土層断面の観察から、本土坑の方が古い。

形状と規模 平面形は長方形で、長径1.09m、短径0.82m、遺構検出面から底面までの深さは0.38mである。底

面は北部が低くなっている。

埋没土 白色軽石を含む灰黄褐色土で、11号土坑埋没土に似る。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区13号土坑(第47図 PL.18・19)

位置 5区中央部東寄り

X=38,331～38,333 Y=-55,800～-55,801

重複 水田畦と重複し、遺構検出時の観察から、本土坑が新しい。

形状と規模 平面形は不定形で、長径1.15m、短径0.74m、遺構検出面から底面までの深さは0.47mである。底面南部がピット状に一段低くなっている。

埋没土 白色軽石・明黄褐色土を含む灰黄褐色土である。

遺物 なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区14号土坑(第47図 PL.19)

位置 5区中央部

X=38,329～38,330 Y=-55,803～-55,805

重複 水田畦と重複し、遺構検出時の観察から、本土坑が新しい。

形状と規模 平面形は円形で、長径0.45m、短径0.44m、遺構検出面から底面までの深さは0.09mである。

埋没土 明黄褐色土を含む灰黄褐色土。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区15号土坑(第47図 PL.19)

位置 5区北部

X=38,346～38,347 Y=-55,801～-55,802

重複 水田および1号竪穴状遺構と重複する。遺構検出時の観察から水田より新しい。1号竪穴遺構との新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形は楕円形で、長径0.81m、短径0.45m、遺構検出面から底面までの深さは0.2mである。断面形は逆台形を呈する。

埋没土 にぶい黄褐色土と黒褐色土。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区16号土坑(第47図 PL.19)

位置 5区中央部

X=38,341～38,342 Y=-55,803～-55,805

重複 直接切り合っている遺構はないが、平面的には水田と重複している。

形状と規模 平面形は円形で、長径1.0m、短径0.94m、遺構検出面から底面までの深さは0.32mである。断面形は箱形である。 **遺物** なし。

埋没土 明黄褐色土ブロックを斑に含む灰褐色土。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区17号土坑(第47図 PL.19)

位置 5区中央部

X=38,336～38,337 Y=-55,801～-55,803

重複 8号土坑および水田畦と重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本土坑が新しい。

形状と規模 平面形は楕円形で、長径0.75m、短径0.51m、遺構検出面から底面までの深さは0.39mである。断面形は逆台形を呈する。

埋没土 灰褐色土・焼土・炭化物・白色軽石が目立つにぶい黄褐色土を確認した。 **遺物** なし。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

5区18号土坑(第47図 PL.19)

位置 5区中央部

X=38,330～38,332 Y=-55,804～-55,806

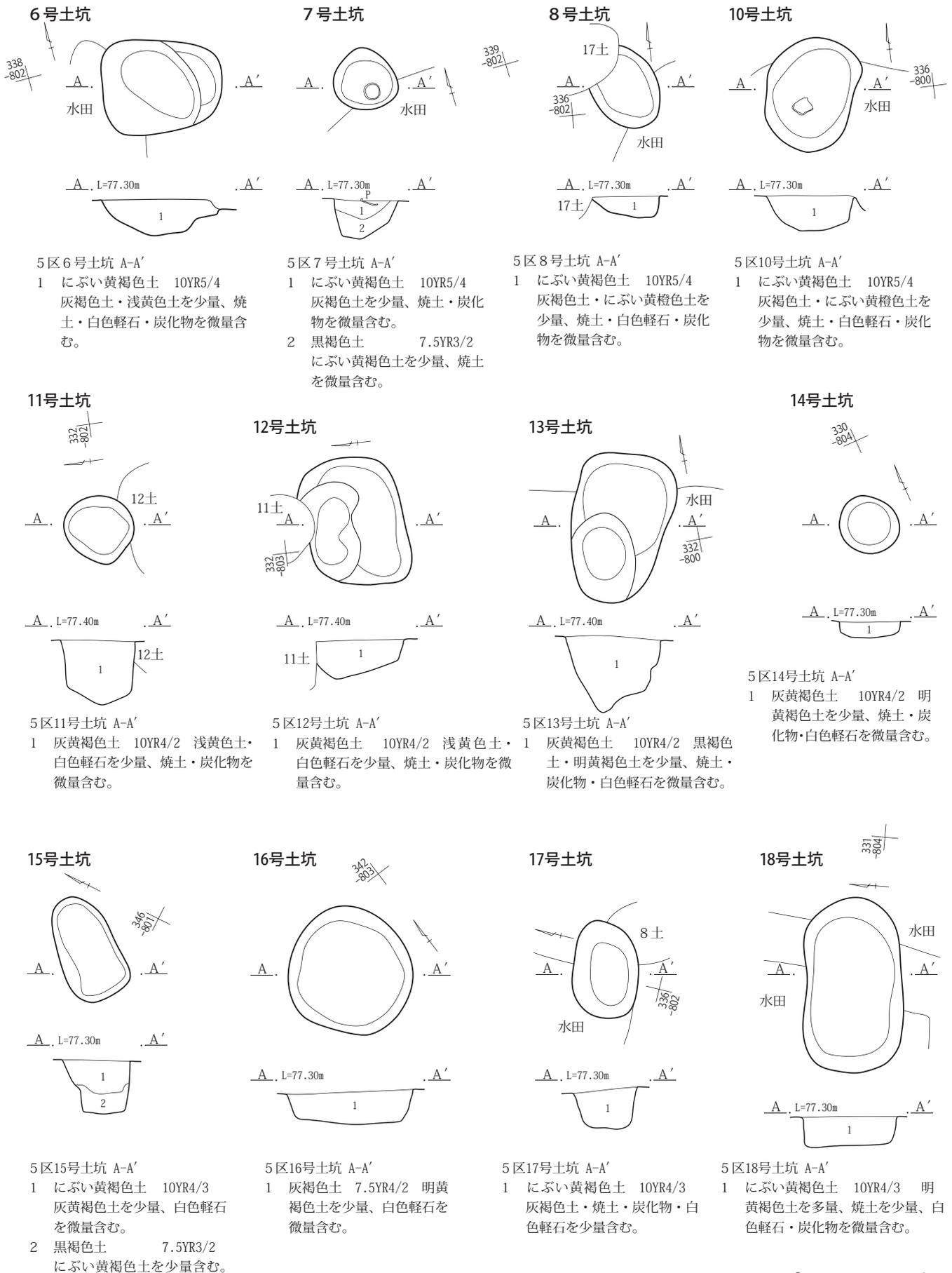
重複 水田畦と重複し、遺構検出時の観察から、本土坑が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長径1.33m、短径0.78m、遺構検出面から底面までの深さは0.24mである。断面形は箱形である。 **遺物** なし。

埋没土 明黄褐色土・焼土を含むにぶい黄褐色土。

所見 遺構の重複から、水田より新しいが、詳細な時期は不明である。性格も不明である。

第2節 古墳時代の遺構と遺物(第3面)



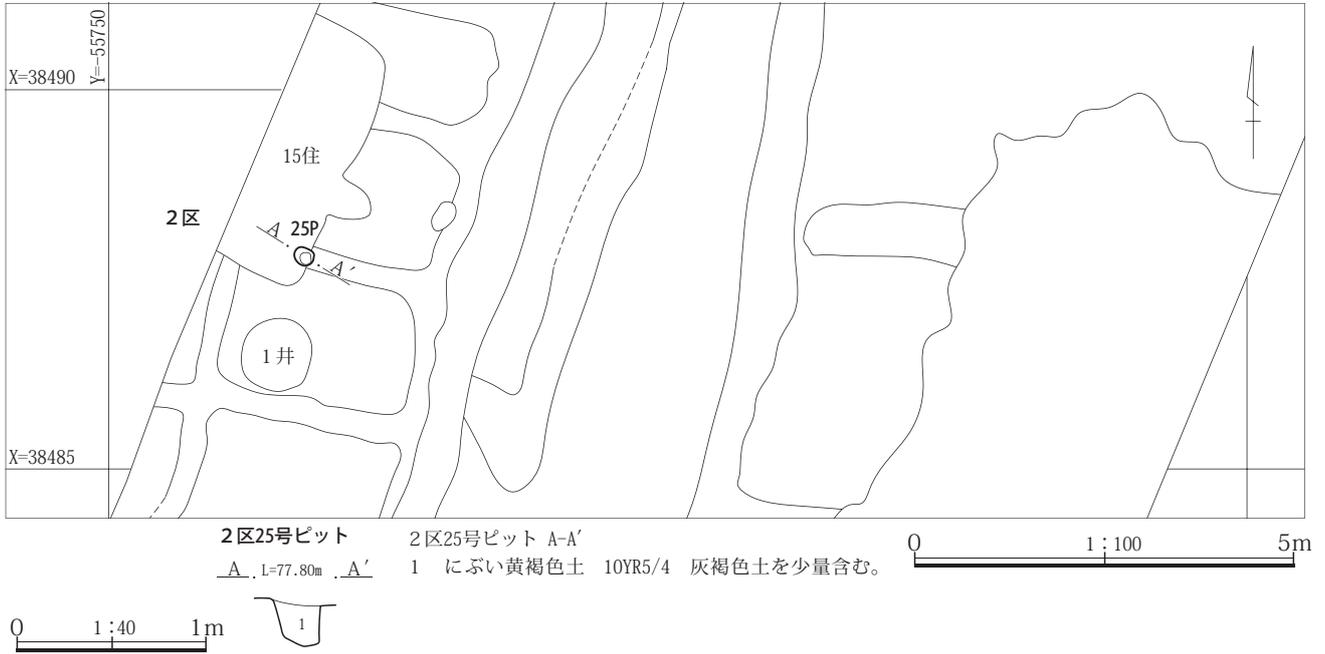
0 1:40 1m

第47図 5区6号～8号・10号～18号土坑

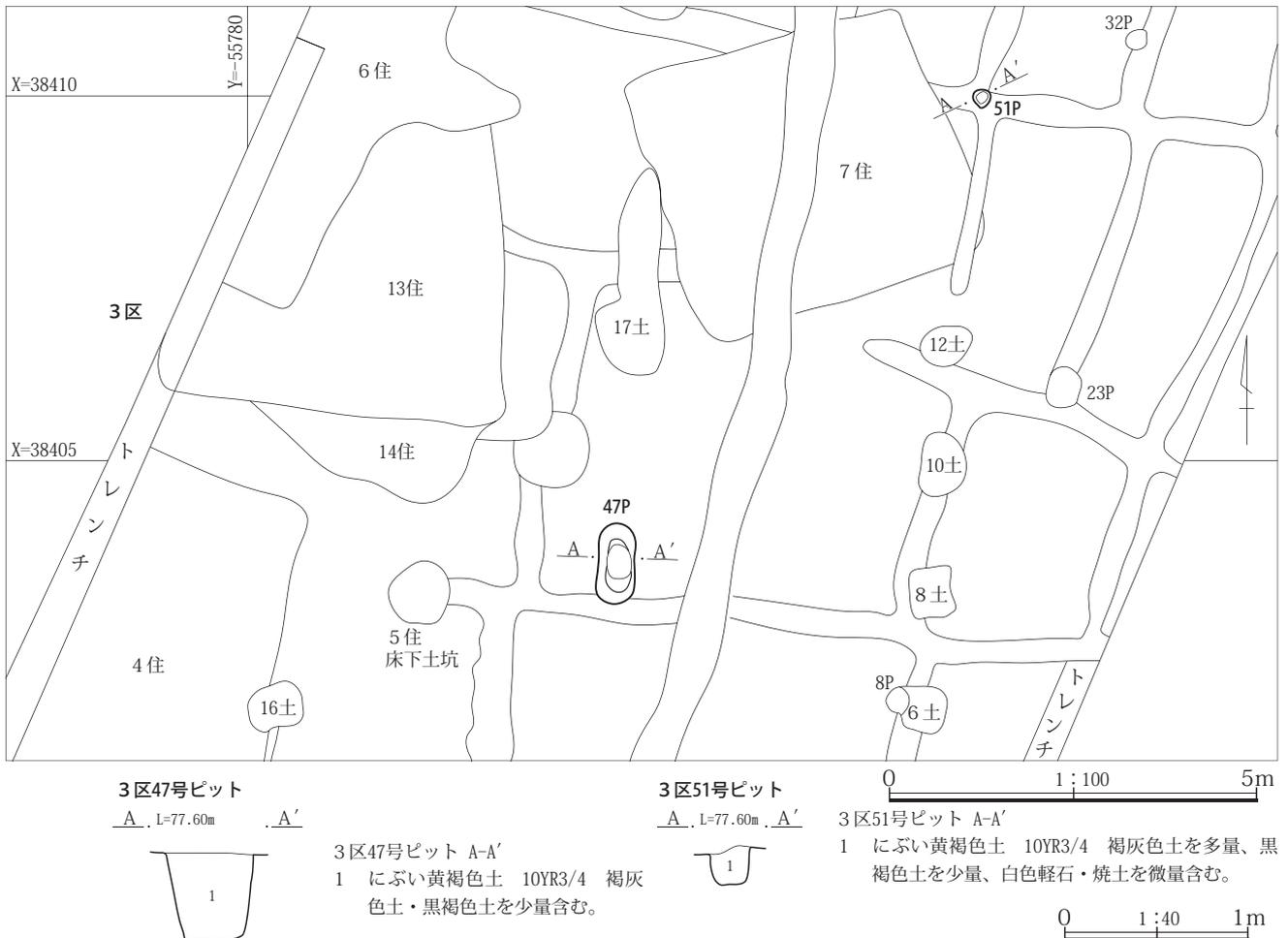
5. ピット(第48～50図)

2区で1基、3区で2基、5区で2基検出された。いずれのピットも水田検出作業中に確認された。水田面お

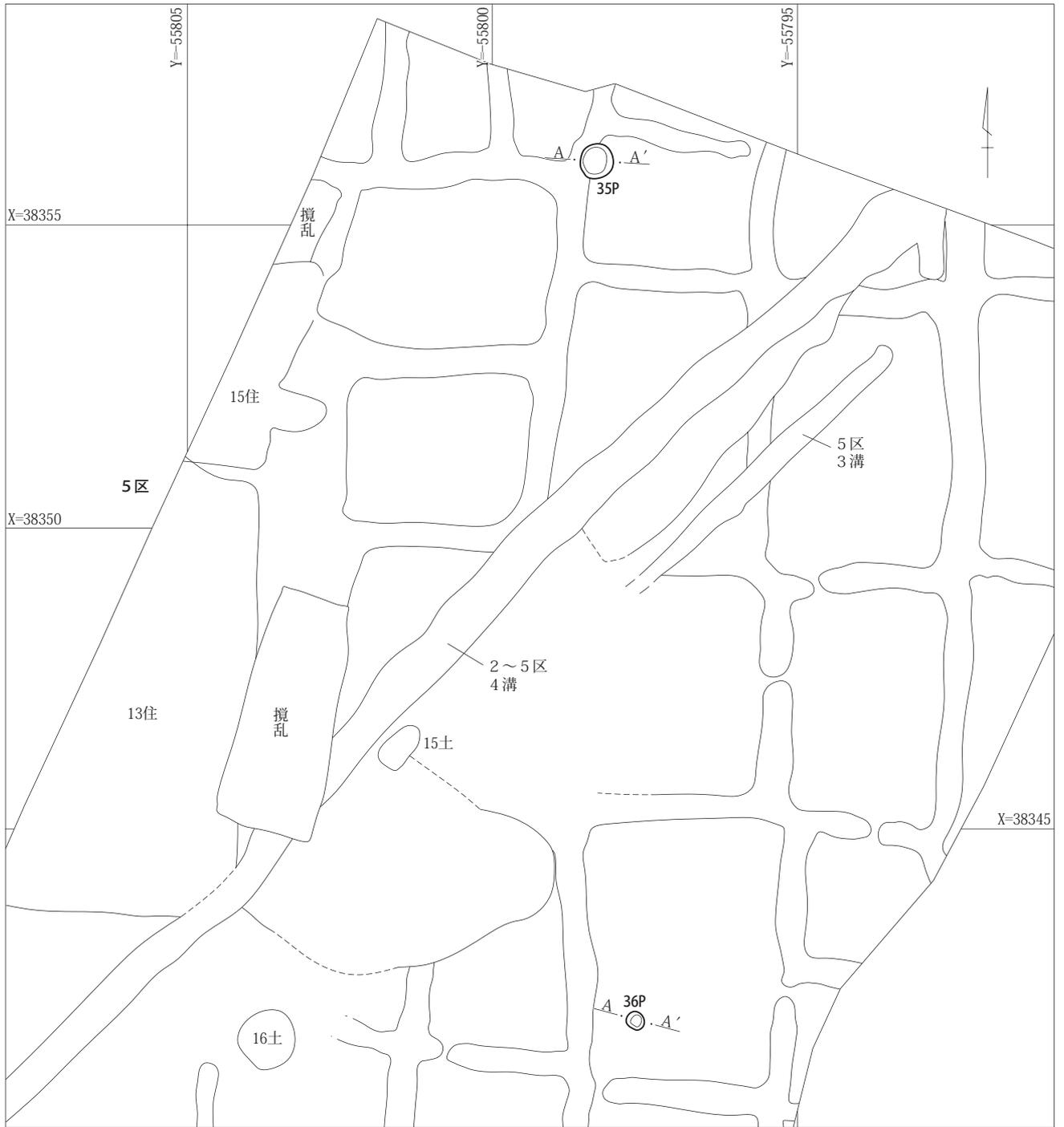
よび畦畔と重複し、遺構検出時の観察から、これらのピットの方が新しい。非常に散漫に分布し、その性格を推定するのは困難であった。



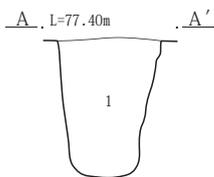
第48図 2区ピット全体図と25号ピット土層断面



第49図 3区ピット全体図と47号・51号ピット土層断面



5区35号ピット



5区35号ピット A-A'

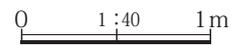
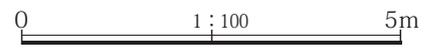
1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を含む。

5区36号ピット



5区36号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 明黄褐色土・焼土を微量含む。



第50図 5区ピット全体図と35号・36号ピット土層断面

第3節 古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物(第2面)

1. 概要

古墳時代から奈良・平安時代の遺構として、竪穴住居、竪穴状遺構、掘立柱建物、柵、溝、井戸、土坑、ピット、遺物集中地点が検出された。各遺構の数は第5表に示す。

竪穴住居は2区東部および4区南半を除き、調査区全体に分布し密度が高かった。特に、1区および3区から5区にかけて重複する住居が多かった。今回の調査区内で最も古い竪穴住居は6世紀後半で、最も新しい時期の住居は11世紀である。6世紀後半からつくられ始めた竪穴住居は、8世紀に入ると急増し、9世紀前半まで住居が多い状況が継続する。その後、9世紀後半から急速に数が減っていく様子が窺える。

遺物集中地点が3区および5区でそれぞれ1か所ずつ検出された。3区の遺物集中地点ではおよそ8m×6.1mの範囲でおびただしい数の土器が出土した。遺物が集中して出土したため、遺構検出に努めたが、遺構が確認できなかったため、遺物集中地点として取り扱った。また、2区から5区にかけて南北152mにわたる溝(2区～5区4号溝)が1条検出された。この溝は竪穴住居よりも古い時期で、さらに下位の古墳時代の水田よりも新しい時期のものである。粕川に近接する本遺跡の性格および土地利用の変化を考える上で重要な遺構と考えている。

2. 竪穴住居

古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居が78棟確認された。このうち、6世紀後半の住居が4棟、7世紀が9棟、8世紀が28棟、9世紀が24棟、10世紀が4棟、11世紀が1棟、時期不明が8棟である。

1区1号竪穴住居(第51図 PL.22・110)

位置 1区南西部

X=38,499～38,504 Y=-55,739～-55,744

主軸方向 N-89°-E

重複 2号住居および10号ピットと重複する。遺構検出

時および土層断面の観察から、2号住居より新しく、10号ピットより古い。

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定する。検出した南壁の長さは3.87m、西壁の長さは4.03m、遺構検出面から床面までの深さは0.1m、住居内の床面積は12.20㎡以上である。

埋没土 焼土および炭化物を含む暗褐色砂質土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 カマド周辺に焼土・炭化物・灰の分布と硬化が認められた。中央部付近の床面で、鉄分の凝集が認められた。当初鉄関連遺物を予想したが、鉄分の塊は土砂を多量に含み、水洗いでボロボロと崩れてしまうくらい脆弱であった。笹澤泰史氏によると、これは鉄滓ではなく、水分の多い土壌などで形成される鉄分の凝集で、人為的なものではないとのことである。また、住居西側調査区境付近で、焼土と灰の分布が認められた。

カマド 東壁で1か所検出した。遺存状況は良好ではなく、両袖は検出されなかったが、右袖付近では袖の芯材に使用したと考えられる礫が出土した。残存するカマドの幅および煙道の長さはそれぞれ60cm、40cmである。カマド付近では、焼土と炭化物の分布とともに羽釜(7)を含め土器片が多数出土している。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 確認されなかった。

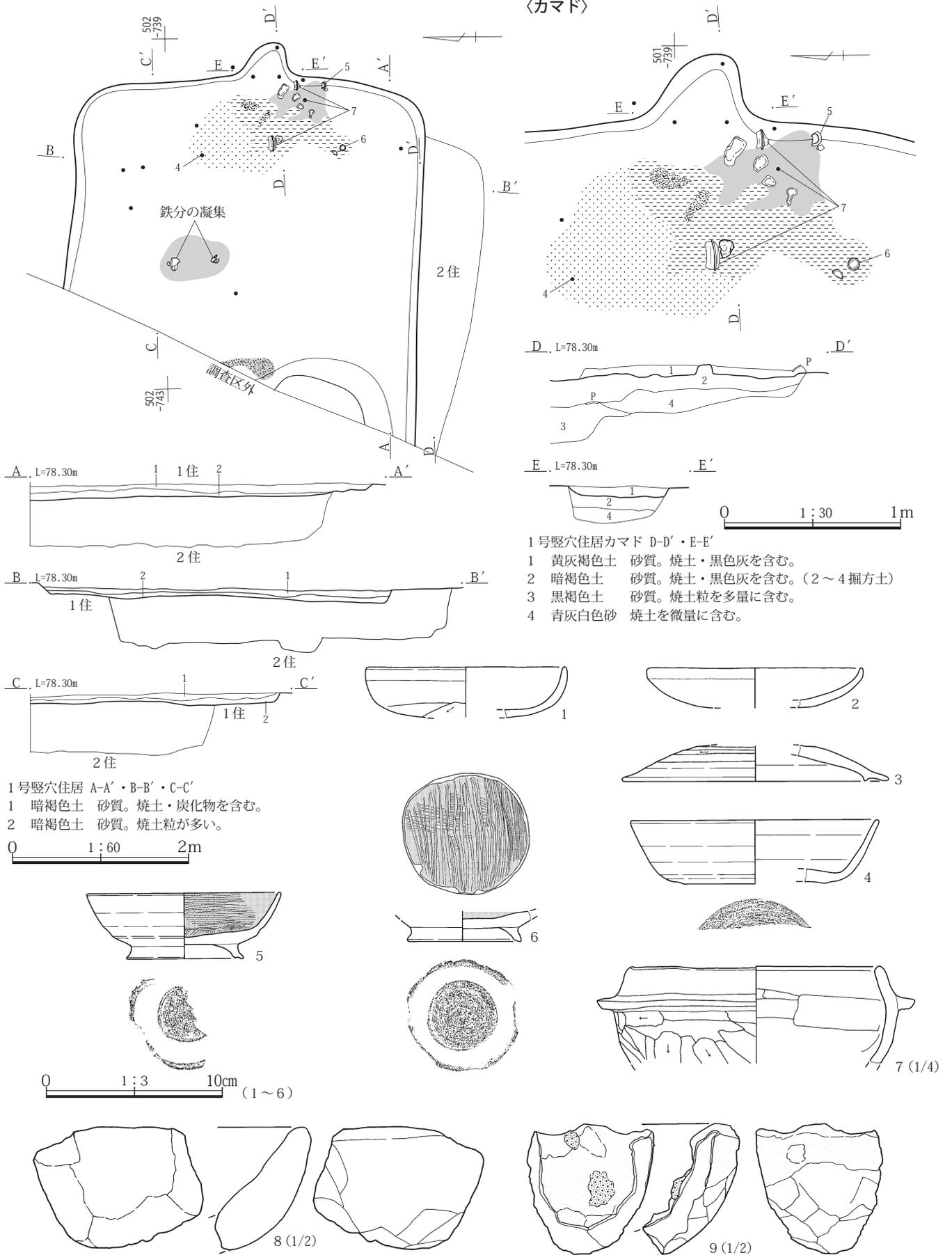
遺物と出土状態 土師器388点、須恵器16点、土製品2点、鉄滓1点、縄文土器1点が出土し、このうち器形や時期がわかる土器や特徴的な遺物を9点図示した。カマド周辺から多量の土器が出土した。6・7はカマド付近の床面直上で出土した。

所見 出土遺物には、8世紀から11世紀までの土器が含まれている。出土状況を考慮し、6・7の土器の年代から、住居の時期は11世紀と推定される。

第5表 古墳時代～奈良・平安時代の検出遺構一覧表

	竪穴住居	竪穴状遺構	掘立柱建物	柵	溝	井戸	土坑	ピット	遺物集中地点	計
1区	13	0	0	0	0	0	0	15	0	28
2区	18	0	1	0	7	1	3	18	0	48
3区	14	0	0	1	0	0	26	46	1	88
4区	5	0	2	0	1	1	1	2	0	12
5区	17	1	0	0	0	0	5	36	1	60
6区	11	0	0	0	1	0	2	0	0	14
2区～5区					1					1
計	78	1	3	1	10	2	37	117	2	251

〈カマド〉



第51図 1区1号竪穴住居と出土遺物

1区2号竪穴住居(第52・53図 PL.22・23・110)

位置 1区南西部

X=38,498~38,503 Y=-55,739~-55,744

主軸方向 N-90°-E

重複 1号住居および6号ピットと重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 西側が調査区外だが、長方形または正方形と推定される。東壁の長さは4.21m、残存する南壁の長さは3.34m、遺構検出面から床面までの深さは0.5m、掘方底面までの深さは約0.65mである。

埋没土 暗褐色および青灰白色の砂質土を主体とし、自然堆積の状況を示している。

床面 僅かではあるが、中央部が高く、側壁付近でやや低かった。また、カマド前面付近で、焼土および炭化物

の分布が認められた。

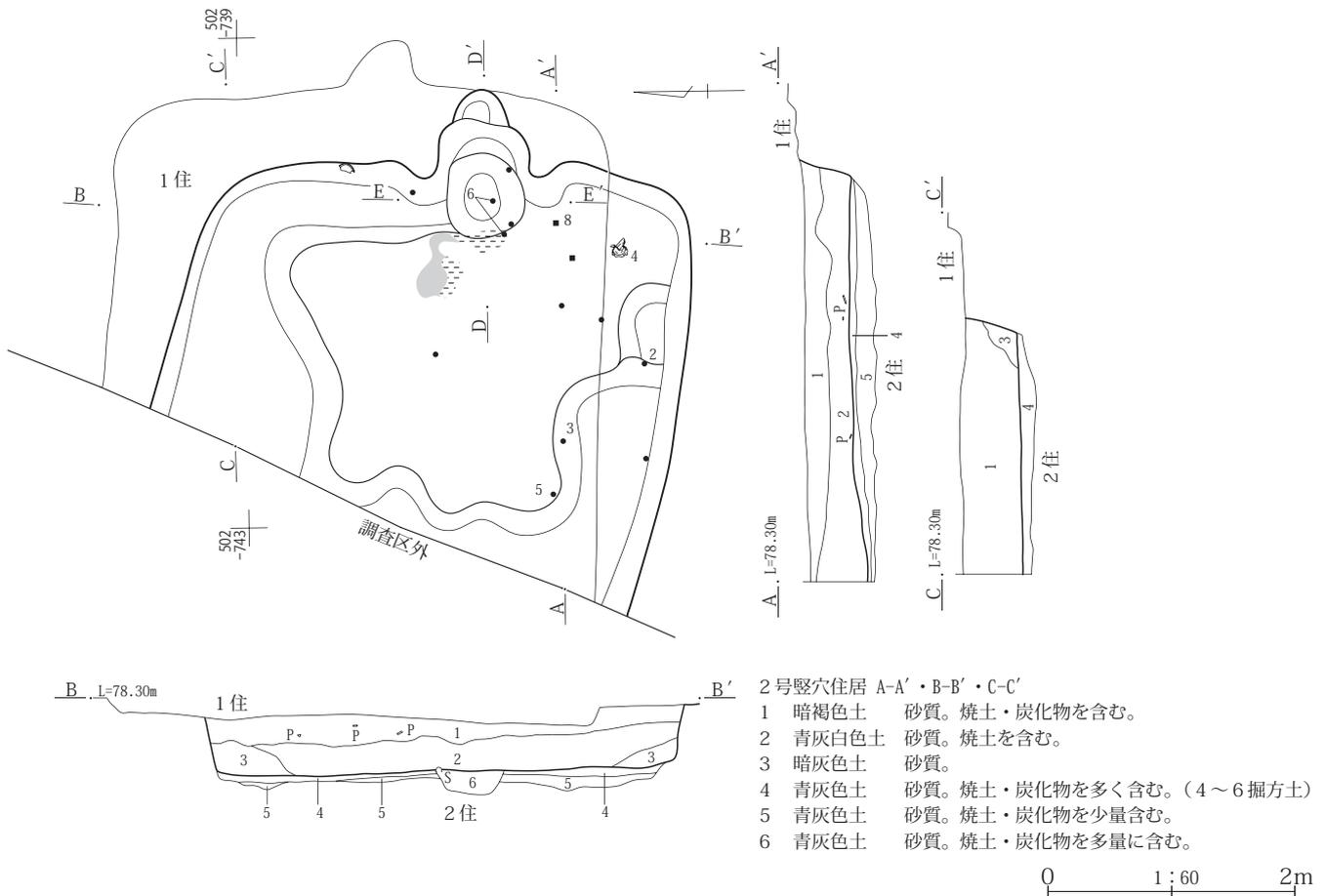
カマド 東壁で1か所検出された。両袖の遺存状況は良好ではなかった。残存するカマドの幅は0.87m、燃烧部および煙道の長さは0.95mである。燃烧部底面は床面より8~10cm程度低くなっていた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 底面は小規模な凹凸が認められるものの、全体的にはほぼ平坦である。

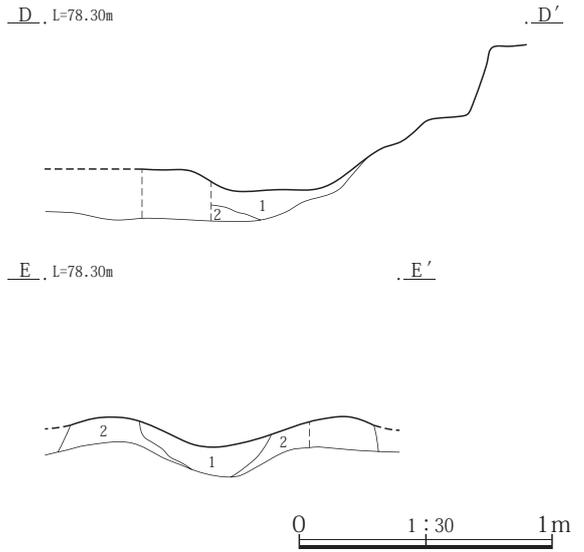
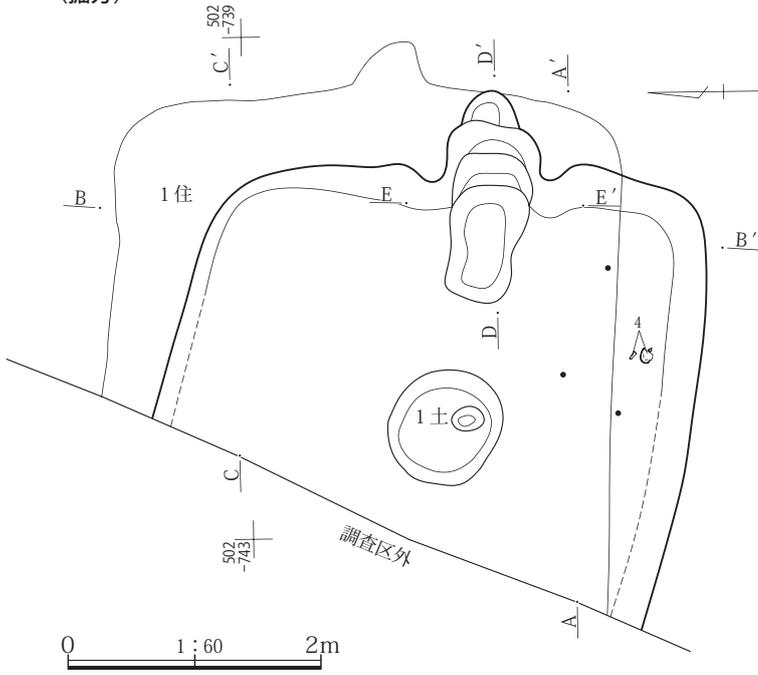
遺物と出土状態 土師器756点、須恵器28点、土製品1点、砥石1点、鉄製品2点が出土し、このうち9点を図示した。4は完形に近い須恵器杯で、床面に食い込むような状態で出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半~9世紀前半と推定される。



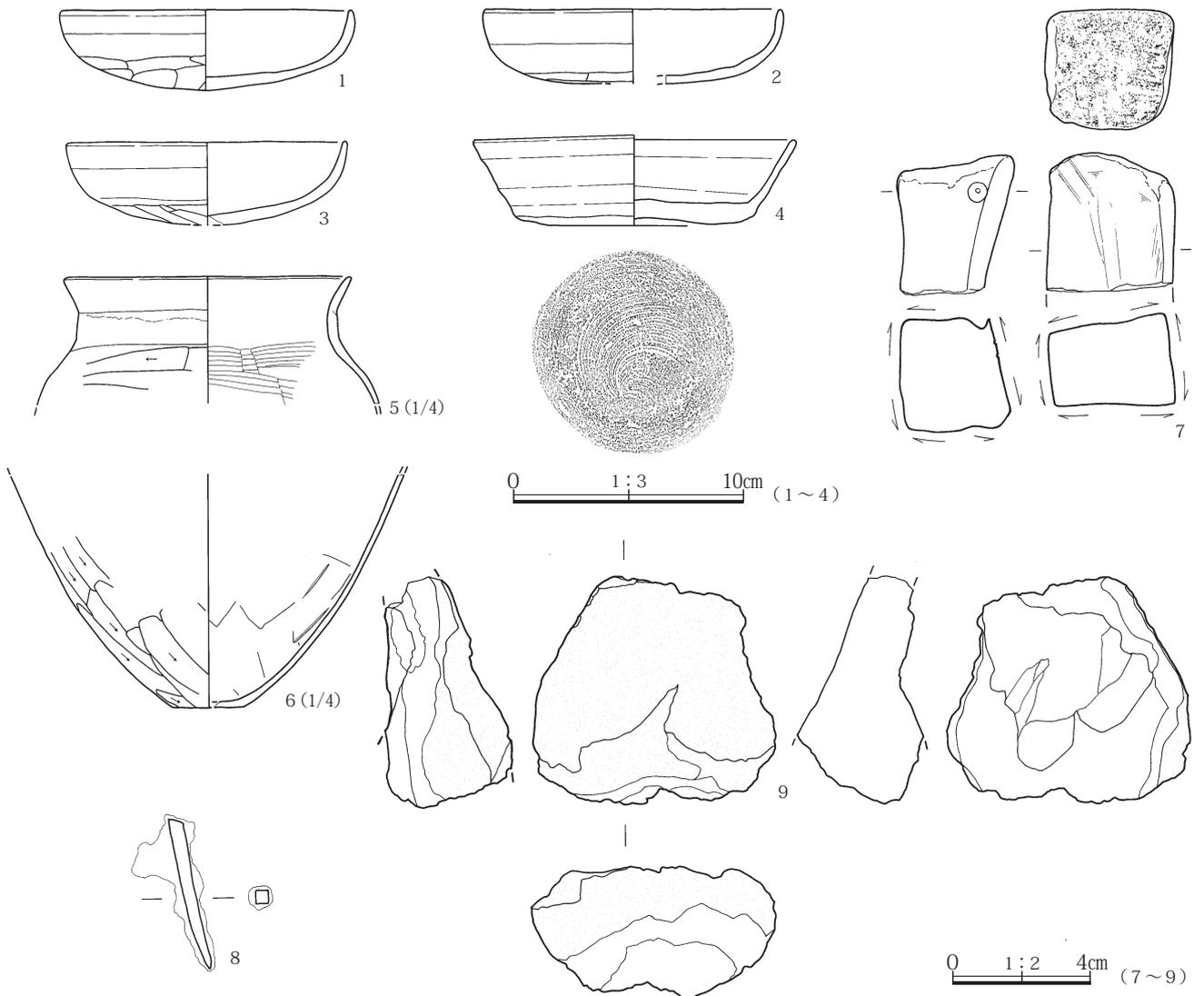
第52図 1区2号竪穴住居

〈掘方〉



2号竪穴住居カマド D-D'・E-E'

- 1 青灰色土 砂質。焼土・炭化物が多い。(1・2掘方土)
- 2 青灰色土 砂質。焼土・炭化物を少量含む。



第53図 1区2号竪穴住居掘方・カマド土層断面と出土遺物

1区5号竪穴住居(第54・55図 PL.24・110)

位置 1区南東部

X=38,497~38,500 Y=-55,731~-55,736

主軸方向 N-28°-E

重複 10号・15号住居と重複する。出土遺物などから、本住居はいずれの住居よりも新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は3.05m、短軸長2.44m、遺構検出面から床面までの深さは0.03m、掘方底面までの深さは0.25~0.55m、面積は6.84㎡である。

埋没土 灰黄褐色の砂質土である。

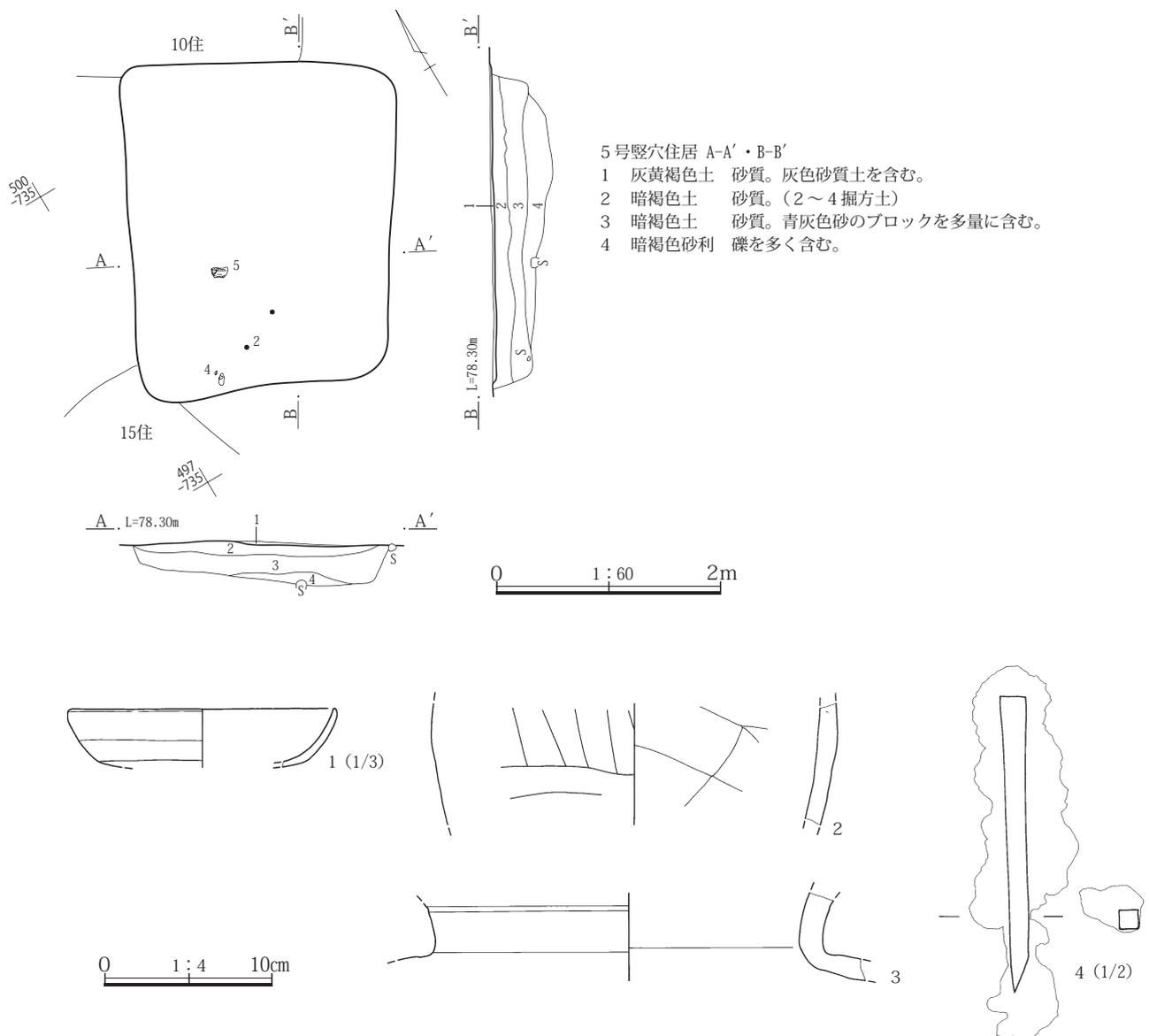
床面 暗褐色砂質土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

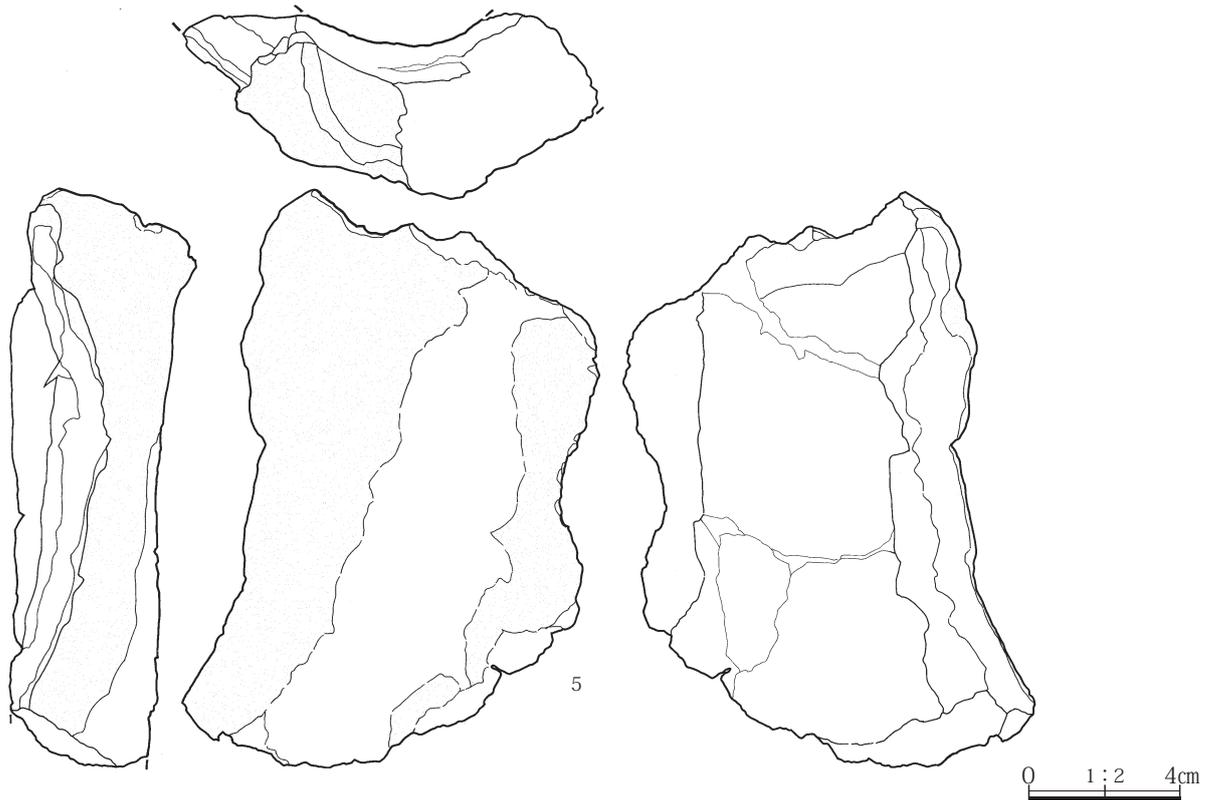
掘方 底面はほぼ平坦で、一部砂利層が認められた。

遺物と出土状態 土師器102点、須恵器12点、土製品1点、鉄製品1点が出土し、このうち5点を図示した。1~5はすべて掘方から出土した。

所見 竪穴住居として調査したものの、カマドがないことから、竪穴状遺構の可能性はある。出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。



第54図 1区5号竪穴住居と出土遺物(1)



第55図 1区5号竪穴住居出土遺物(2)

1区6号竪穴住居(第56図 PL.24・110)

位置 1区中央部西壁際

X=38,510～38,514 Y=-55,735～-55,739

主軸方向 N-26°-E

重複 なし

形状と規模 西部は調査区外であるが、平面形は長方形または正方形と推定される。東壁の長さは3.21m、南壁の長さは1.65m、短軸長3.0m、遺構検出面から床面までの深さは約0.2m、掘方底面までの深さは0.25mである。

埋没土 灰色または青灰色の砂で、自然堆積の状況を示す。

床面 焼土と炭化物を微量に含む青灰色砂で構築されていた。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状および土坑状の凹凸が認められるものの、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器84点、須恵器1点、鉄製品1点が出土し、このうち4点を図示した。1～4は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半より古いと推定される。

1区7号竪穴住居(第56・57図 PL.25・110)

位置 1区北西部

X=38,512～38,519 Y=-55,730～-55,737

主軸方向 N-71°-W

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形と推定される。検出した南壁と東壁の長さはそれぞれ5.69m、4.48mである。遺構検出面から床面までの深さは0.16m、掘方底面までの深さは0.25mである。面積は20.48㎡である。

埋没土 灰褐色土または明灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 青灰白色砂で構築され、南壁中央部北西隅で、3～6cm程度の落ち込みが認められた。

カマド 東壁で1か所検出した。遺存状況は良好ではなく、袖は残っていなかった。残存するカマドの幅は1.0mで、煙道の長さは1.06mである。煙道部では、底面から9cm上位で細長い礫が出土した。礫は被熱により赤色に変化し、支脚の可能性がある。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の凹凸が認められるものの、概ね平坦である。東壁付近で底面付近および掘方土から土器片が6

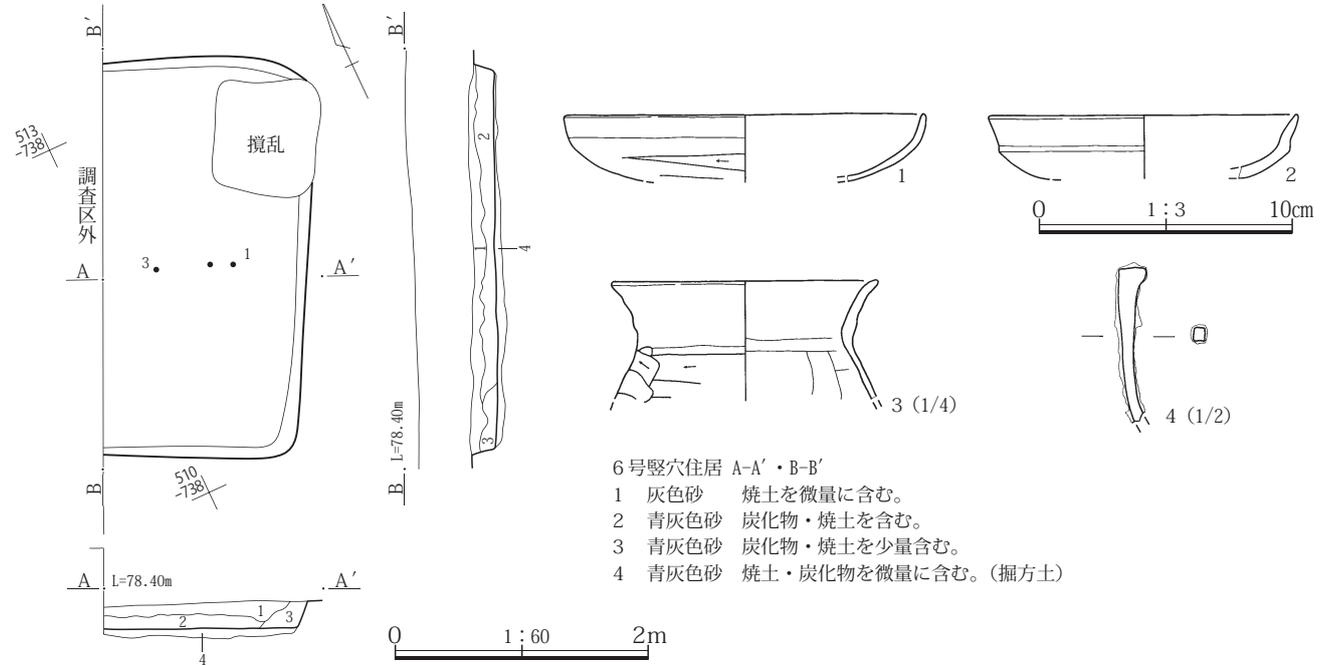
点まとめて出土した。

遺物と出土状態 土師器408点、須恵器36点、紡輪1点、縄文土器1点、埴輪1点が出土し、このうち6点を図示した。土師器甕(5)は南壁付近の床面直上でまとめて

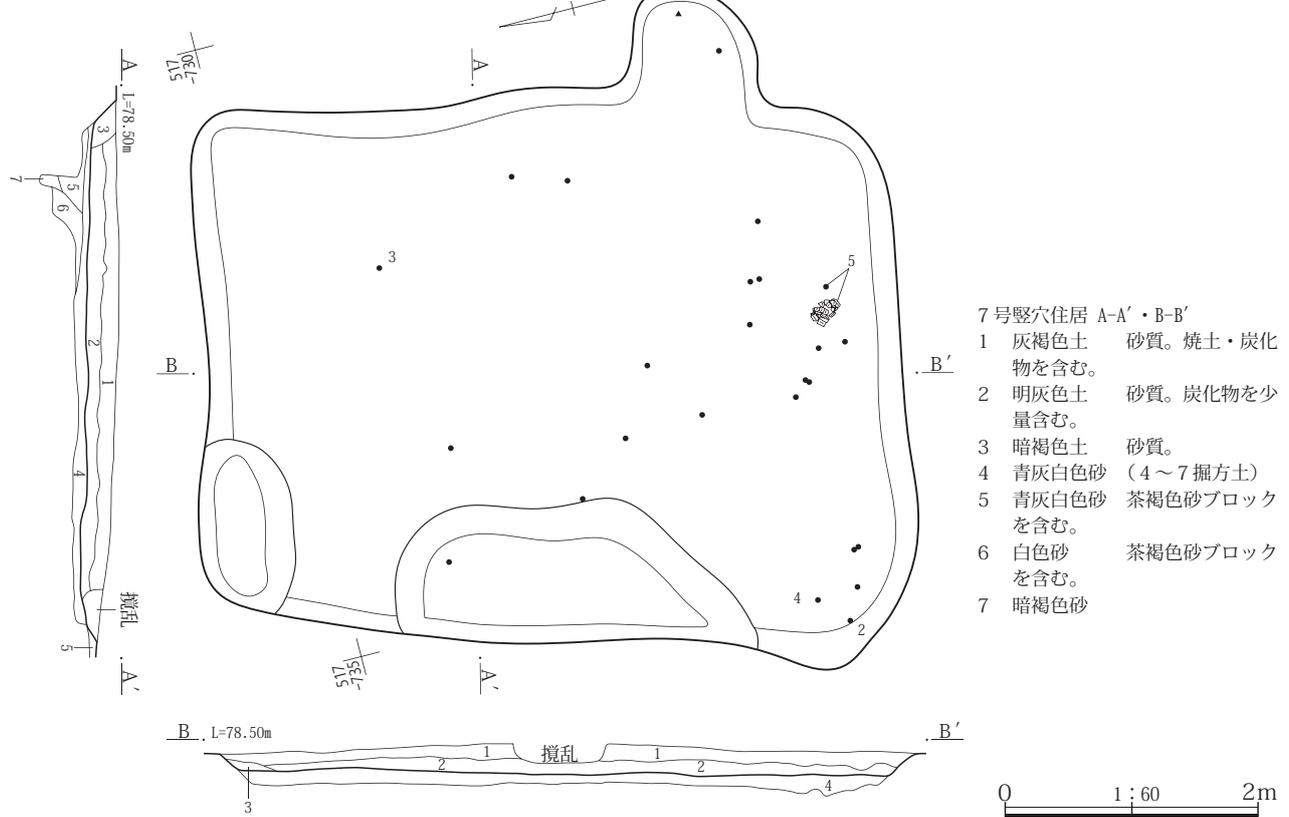
出土した。須恵器碗(3・4)も床面直上から出土している。縄文土器および埴輪は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と推定される。

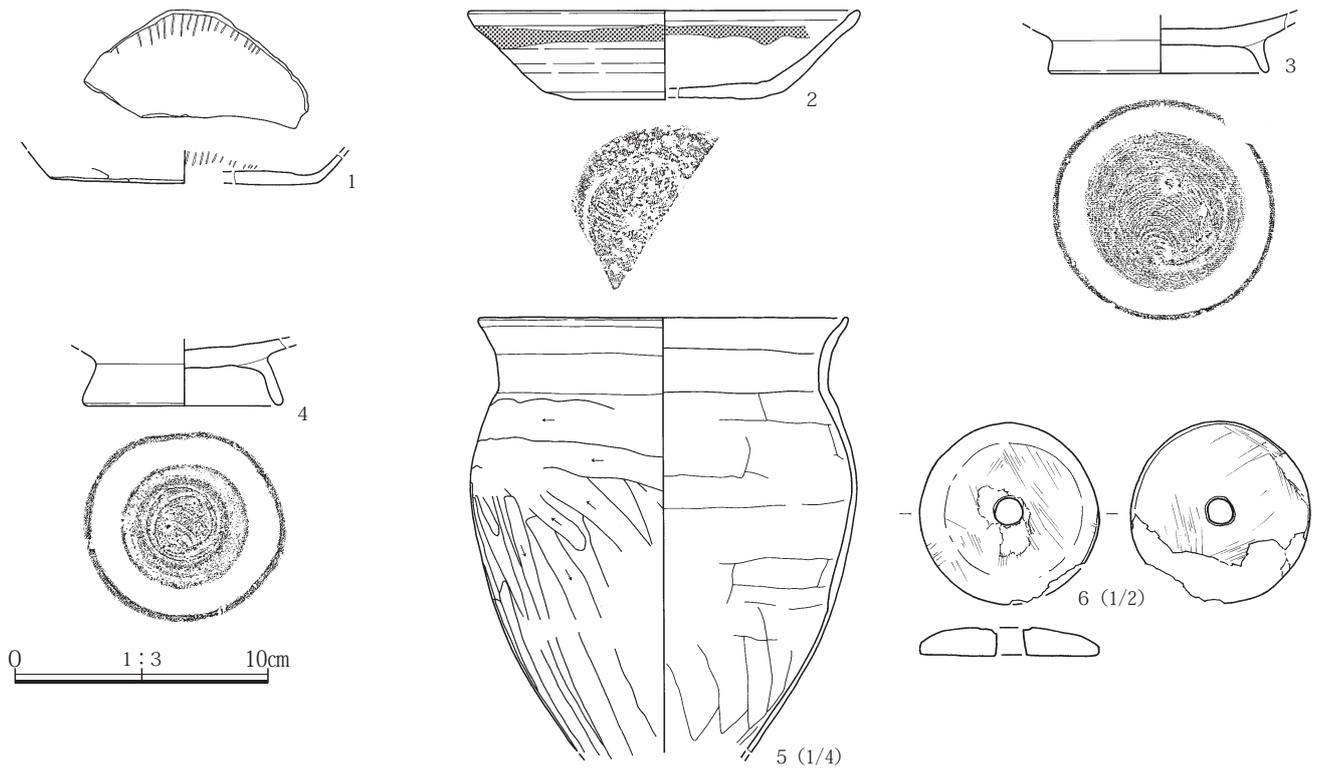
〈6号住居〉



〈7号住居〉



第56図 1区6号・7号竪穴住居と6号竪穴住居出土遺物



第57図 1区7号竪穴住居出土遺物

1区8号竪穴住居(第58図 PL.26)

位置 1区中央部

X=38,503 ~ 38,508 Y=-55,731 ~ -55,735

主軸方向 N-15°-E

重複 9号住居と重複し、土層断面の観察から、9号住居の方が新しい。

形状と規模 一部の調査であるが、平面形は長方形または正方形と推定される。長軸長は3.96m、短軸長は1.75mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.1m、掘方底面までの深さは0.3~0.4mである。

埋没土 青灰色砂質土で、部分的に黄灰色砂質土ブロックを含む。

床面 茶褐色砂を含む灰白色土で構築されている。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器94点、須恵器8点が出土し、このうち4点を図示した。2は埋没土から、1・3・4は掘方土から出土した。

所見 出土遺物が少なく、時期は9世紀と推定されるが詳細は不明である。

1区9号竪穴住居(第58図 PL.26)

位置 1区中央部東寄り

X=38,502 ~ 38,508 Y=-55,728 ~ -55,733

主軸方向 N-10°-E

重複 8号・14号住居と重複する。土層断面の観察より、いずれの住居よりも本住居が新しい。

形状と規模 攪乱により南西部隅を切られているものの、形状は長方形と推定される。長軸長は4.22m、短軸長は2.95m、遺構検出面から床面までの深さは0.14m、掘方底面までの深さは0.28mである。

埋没土 暗褐色または灰褐色の砂質土で、自然堆積の状況を示す。

床面 灰色砂で構築され、ほぼ平坦である。

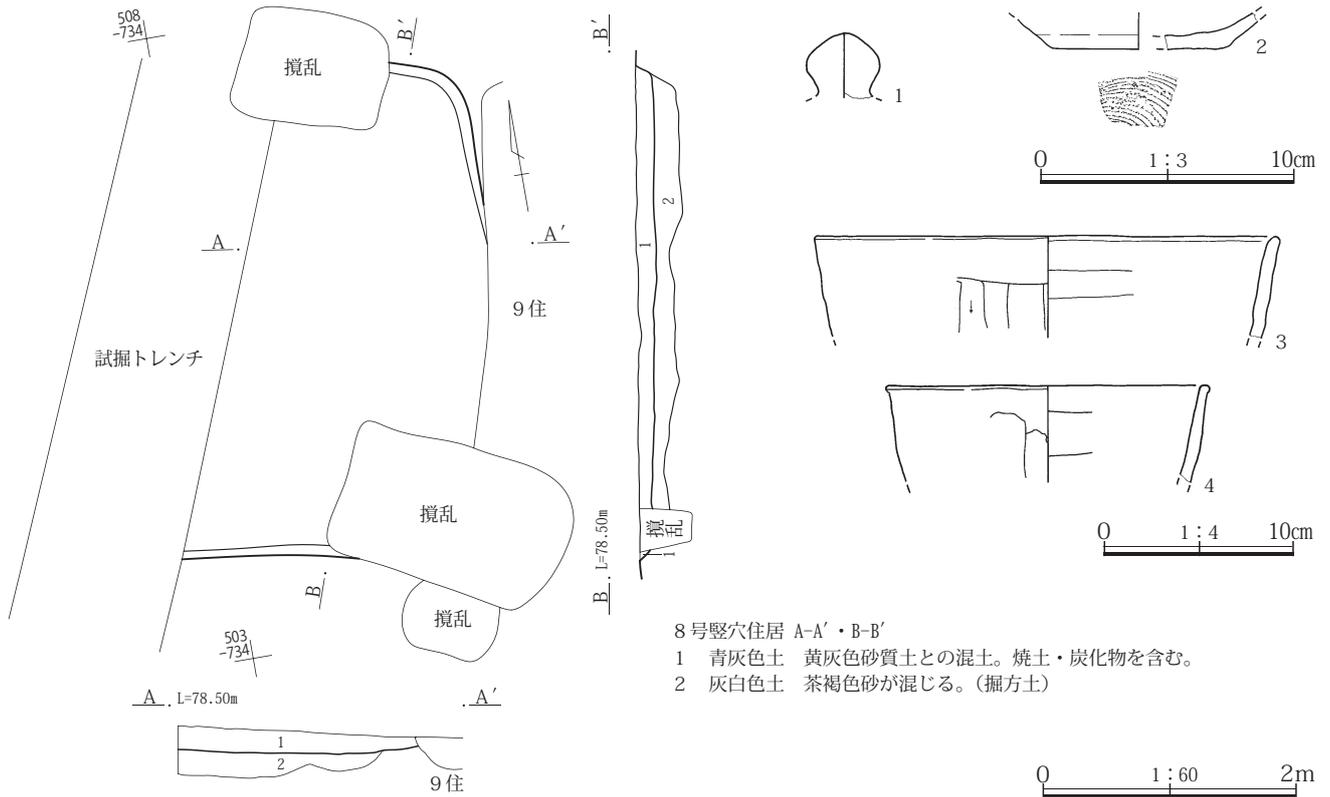
カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 底面はほぼ平坦で、北部では砂利層が検出された。

遺物と出土状態 土師器208点、須恵器22点、縄文土器1点が出土し、このうち3点を図示した。出土遺物は少なく、床面付近から出土した遺物はなかった。縄文土器は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は9世紀後半と推定される。

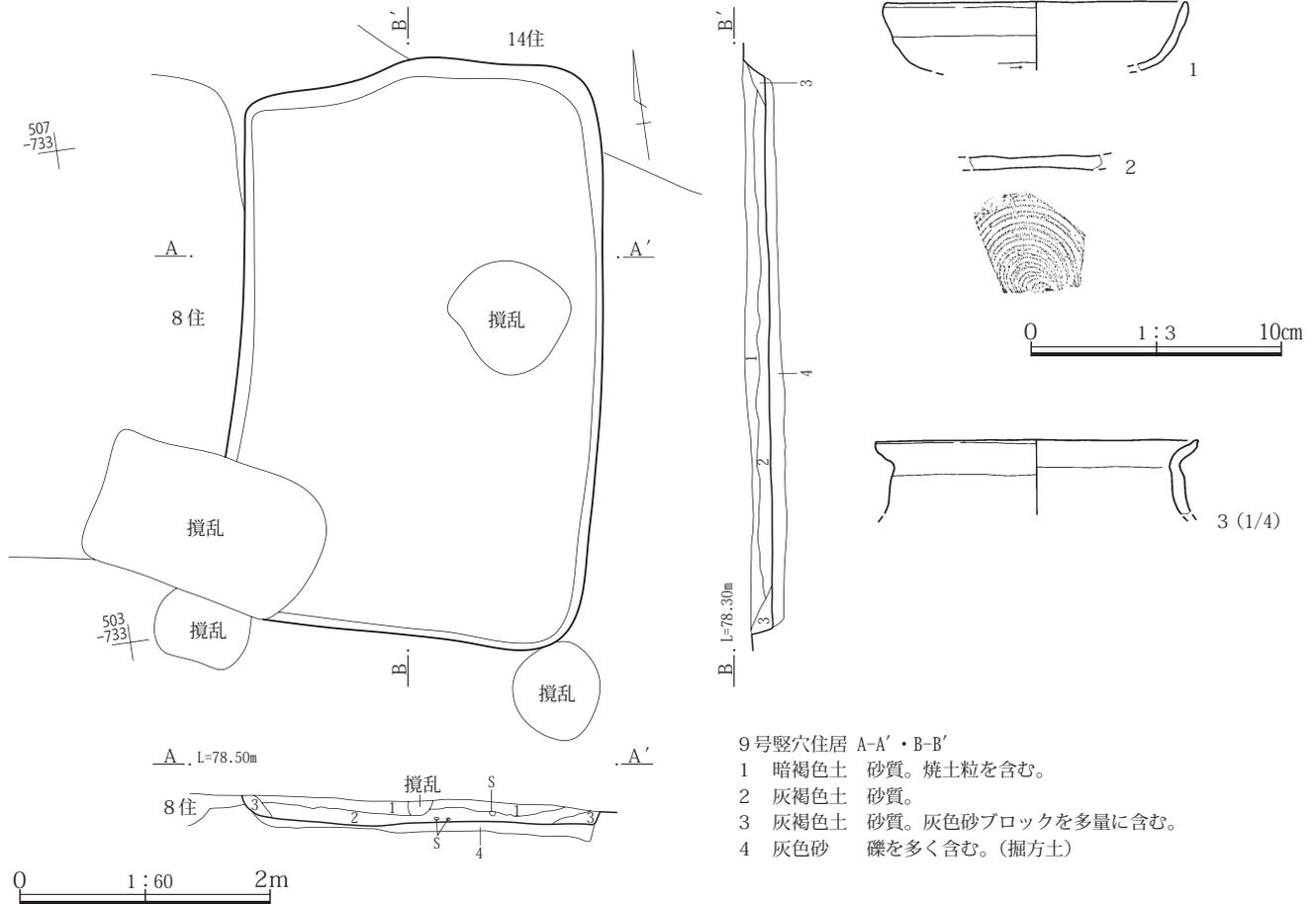
〈8号住居〉



8号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 青灰色土 黄灰色砂質土との混土。焼土・炭化物を含む。
- 2 灰白色土 茶褐色砂が混じる。(掘方土)

〈9号住居〉



9号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 砂質。焼土粒を含む。
- 2 灰褐色土 砂質。
- 3 灰褐色土 砂質。灰色砂ブロックを多量に含む。
- 4 灰色砂 礫を多く含む。(掘方土)

第58図 1区8号・9号竪穴住居と出土遺物

1区10号竪穴住居(第59図 PL.27・110)

位置 1区南東部

X=38,499~38,504 Y=-55,731~-55,735

主軸方向 N-23°-E

重複 5号住居と重複し、出土遺物から本住居の方が古い。

形状と規模 遺存状況は良好ではないが、全体を調査することができた。平面形は正方形で、東壁の長さは3.03m、南壁の長さは3.01mである。遺構検出面から床面までの深さは0.04m、掘方底面までの深さは0.2~0.35m、面積は7.61㎡である。

埋没土 焼土を含む灰褐色砂質土の1層のみである。

床面 北壁付近で1~5cm程度の落ち込みがあるもの

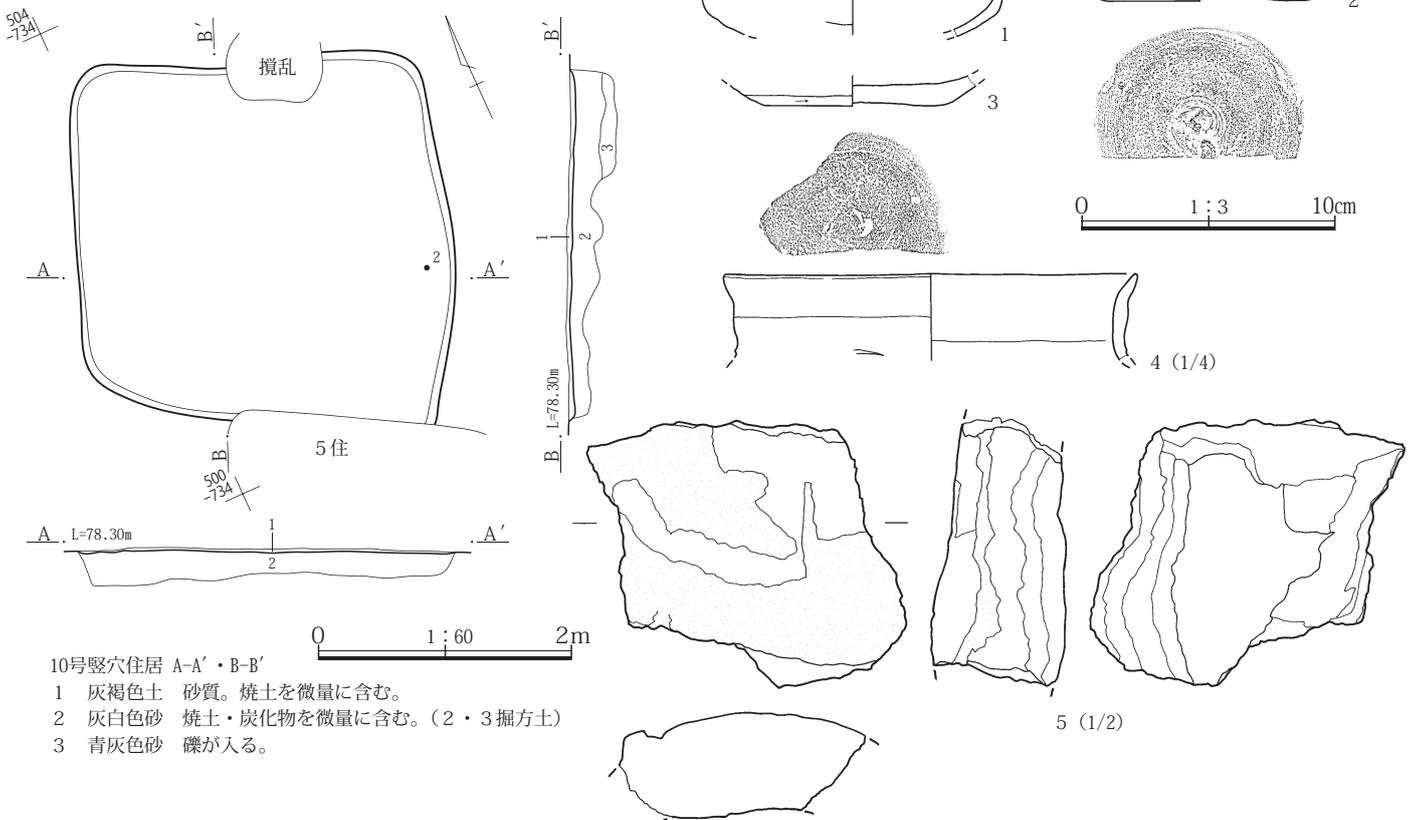
の、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みが認められ平坦ではない。3層は掘方充填土で、砂利を多く含む。

遺物と出土状態 土師器126点、須恵器7点、土製品1点、縄文土器1点が出土し、このうち5点を図示した。須恵器杯(2)は東壁際の床面直上で出土した。1・3は掘方から出土した。

所見 竪穴住居として調査を進めたが、カマドがないことなどから竪穴状遺構の可能性がある。出土遺物から、時期は8世紀後半と推定される。



10号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 灰褐色土 砂質。焼土を微量に含む。
- 2 灰白色砂 焼土・炭化物を微量に含む。(2・3掘方土)
- 3 青灰色砂 礫が入る。

第59図 1区10号竪穴住居と出土遺物

1区11号竪穴住居(第60図 PL.27・110)

位置 1区中央部

X=38,507~38,512 Y=-55,730~-55,736

主軸方向 N-74°-W

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形を呈し、長軸長は4.55m、短軸長は3.36mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.04m、掘方底面までの深さは0.3~0.5m、面積は12.06㎡である。

埋没土 黄灰褐色砂の1層のみである。

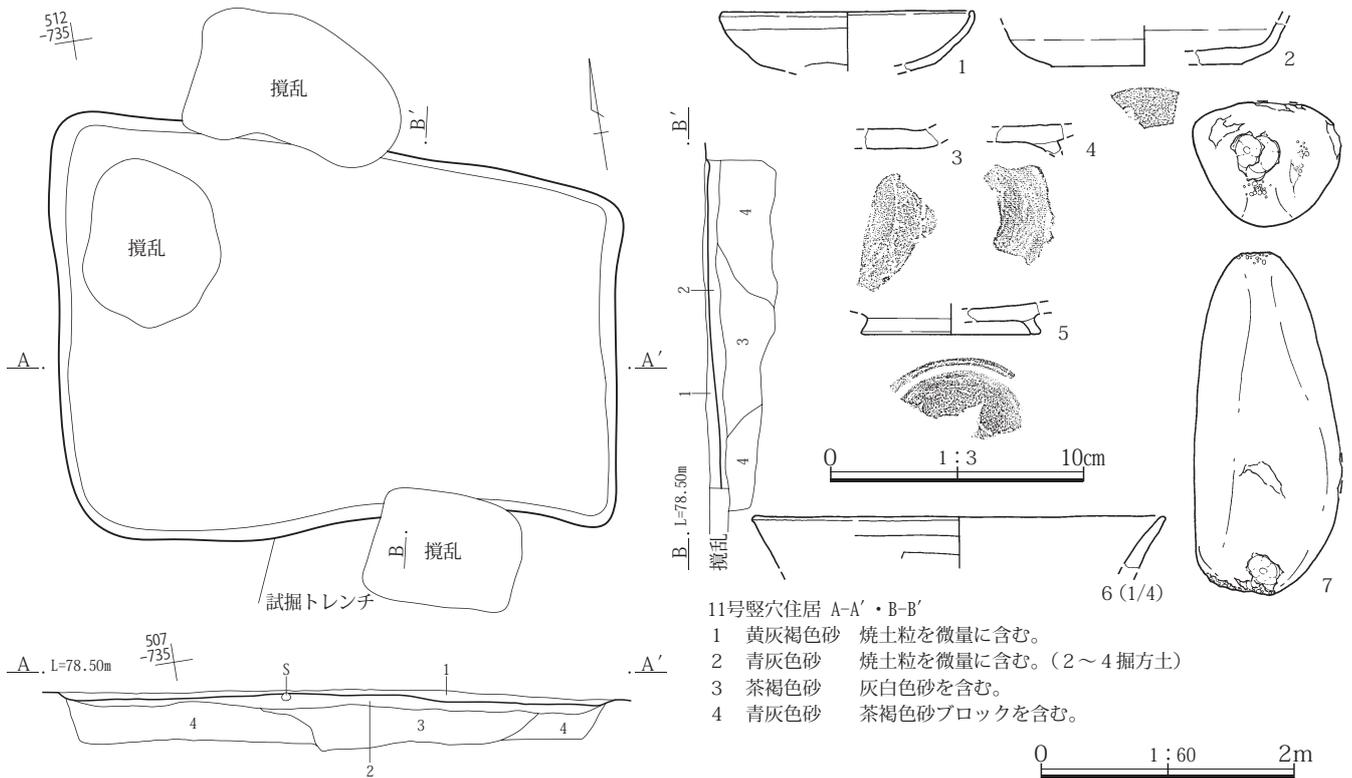
床面 青灰色砂で構築され、南半分は1~6cm程度緩やかに低くなっている。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 図示しなかったが、東部がやや低くなっている。

遺物と出土状態 土師器125点、須恵器9点、鉄製品1点、敲石1点、埴輪1点が出土し、このうち7点を図示した。1は埋没土、2~7は掘方から出土した。

所見 竪穴住居として調査を進めたものの、カマドがないことなどから竪穴状遺構の可能性がある。出土遺物から、時期は9世紀前半と推定される。



第60図 1区11号竪穴住居と出土遺物

1区12号竪穴住居(第61図 PL.28・111)

位置 1区北東部

X=38,510~38,516 Y=-55,725~-55,730

主軸方向 N-18°-E

重複 14号住居と重複する。土層断面の観察から、本住居が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長4.64m、短軸長3.94mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.09m、掘方底面までの深さは0.15~0.5m、面積は14.9㎡である。

埋没土 灰白色砂質土の1層が認められた。

床面 中心部が高く、周壁付近でわずかに落ち込みがあるものの、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 図示しなかったが、西半分で溝状の落ち込みが見られた。

遺物と出土状態 土師器187点、須恵器20点、中世の土器1点が出土し、このうち4点を図示した。3は埋没土、1・2・4は掘方から出土した。中世の土器は後の混入と考えられる。

所見 竪穴住居として調査を進めたが、カマドがないことなどから竪穴状遺構の可能性はある。出土遺物から、時期は9世紀後半と考えている。

1区13号竪穴住居(第61図 PL.28)

位置 1区北東隅

X=38,515~38,521 Y=-55,721~-55,727

主軸方向 N-37°-E

重複 なし

形状と規模 北部および東部が調査区外であったが、平面形は長方形または正方形と推定される。検出した長軸長は4.65m、短軸長は2.81mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.08m、掘方底面までの深さは0.15~0.3mである。

埋没土 暗褐色および黄灰色砂質土で、自然堆積の状況を示す。

床面 灰白色砂で構築され、ほぼ平坦である。

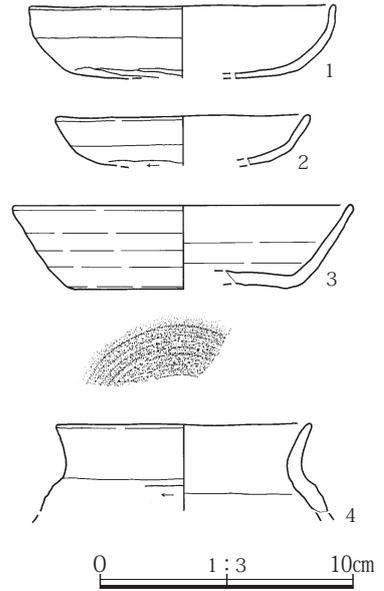
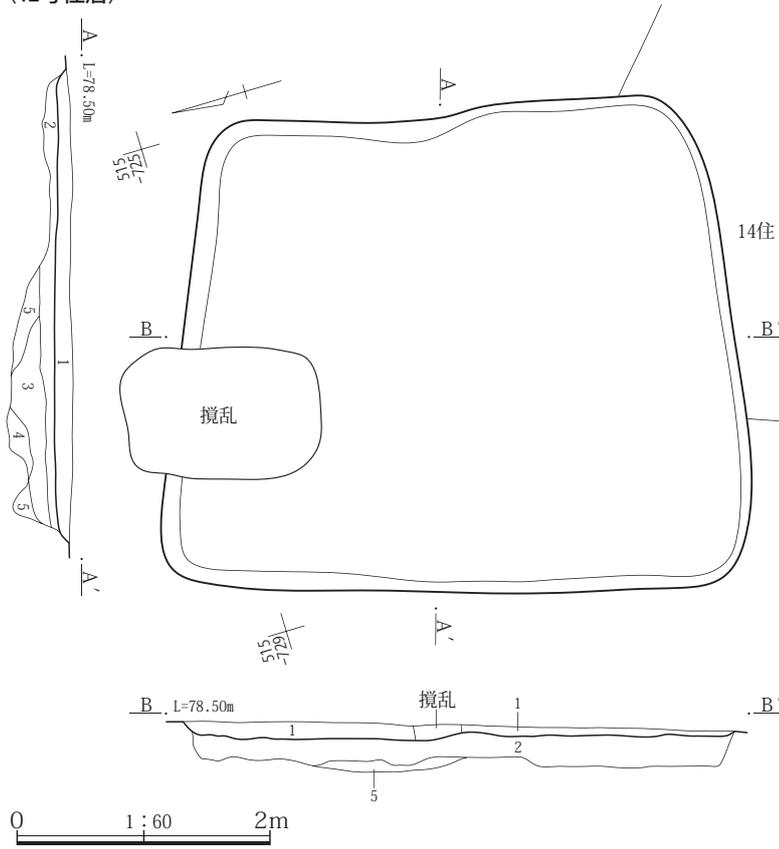
カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 西部および南部でピット状または溝状の落ち込みが見られた。

遺物と出土状態 土師器1点が出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 遺構の重複がなく、出土遺物も少ないため、時期は不明である。

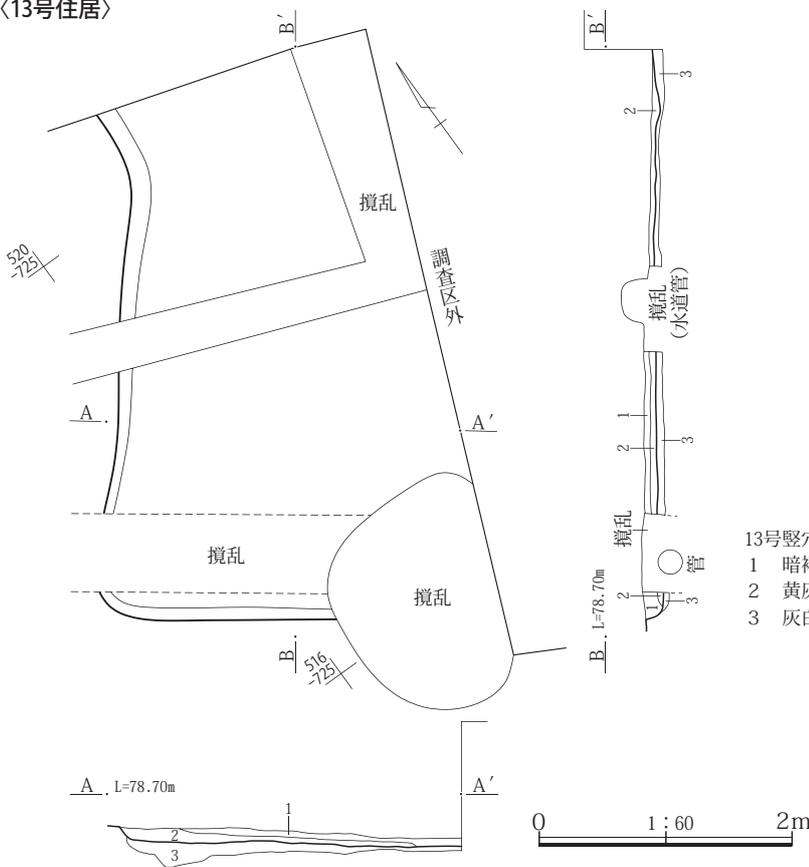
〈12号住居〉



12号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 灰白色土 砂質。焼土を微量に含む。
- 2 青灰白色砂 茶褐色ブロックを含む。(2~5掘方土)
- 3 青灰白砂 茶褐色ブロック・焼土・炭化物を含む。
- 4 白灰色砂 茶褐色砂ブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色灰 4~5cm大の小礫を含む。

〈13号住居〉



13号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 砂質。As-Bがブロック状に入る。ピンクアッシュはない。
- 2 黄灰色土 砂質。
- 3 灰白色砂 青灰色砂を部分的に含む。(掘方土)

第61図 1区12号・13号竪穴住居と12号竪穴住居出土遺物

1区14号竪穴住居(第62図 PL.29・111)

位置 1区中央部東寄り

X=38,505~38,513 Y=-55,724~-55,731

主軸方向 N-35°-E

重複 9号・12号住居と重複し、土層断面の観察から、いずれの住居よりも本住居が古い。

形状と規模 遺存状況が良好ではなく、西壁および南壁の一部を検出したのみで、平面形は不明である。検出した西壁の長さは3.95mで、遺構検出面から床面までの深さは約0.04m、掘方底面までの深さは0.2~0.3mである。

埋没土 焼土と炭化物を微量に含む灰白色砂質土。

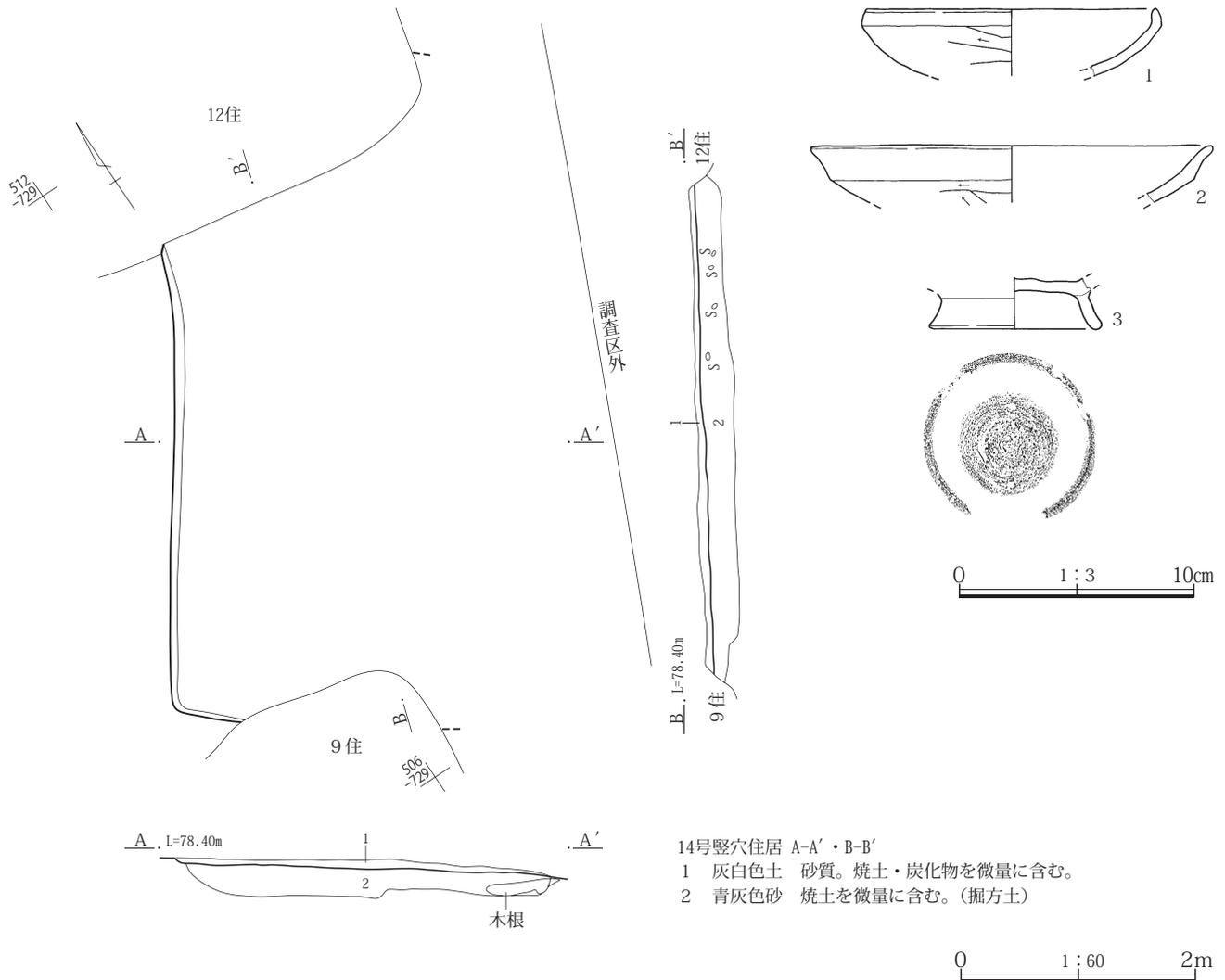
床面 青灰色砂で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 掘方土に長さ5~8cmの礫を含み、底面付近では、砂利層が検出された。

遺物と出土状態 土師器139点、須恵器17点、近世の土器1点、埴輪3点が出土し、このうち3点を図示した。1~3は埋没土から出土した。近世の土器と埴輪は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。



第62図 1区14号竪穴住居と出土遺物

<15号住居>

1区15号竪穴住居(第63図 PL.29・111)

位置 1区・2区調査区境

X=38,494 ~ 38,499 Y=-55,734 ~ -55,739

主軸方向 N-65°-E

重複 5号住居と重複し、出土遺物から、本住居の方が古い。

形状と規模 西部の一部をトレンチに切られているが、平面形は長方形と推定される。長軸長は4.25m、短軸長は2.65mで、遺構検出面から床面までの深さは約0.03m、掘方底面までの深さは0.2~0.25mである。

埋没土 埋没土の遺存状況は良好ではなく、灰褐色土の1層のみ認められた。

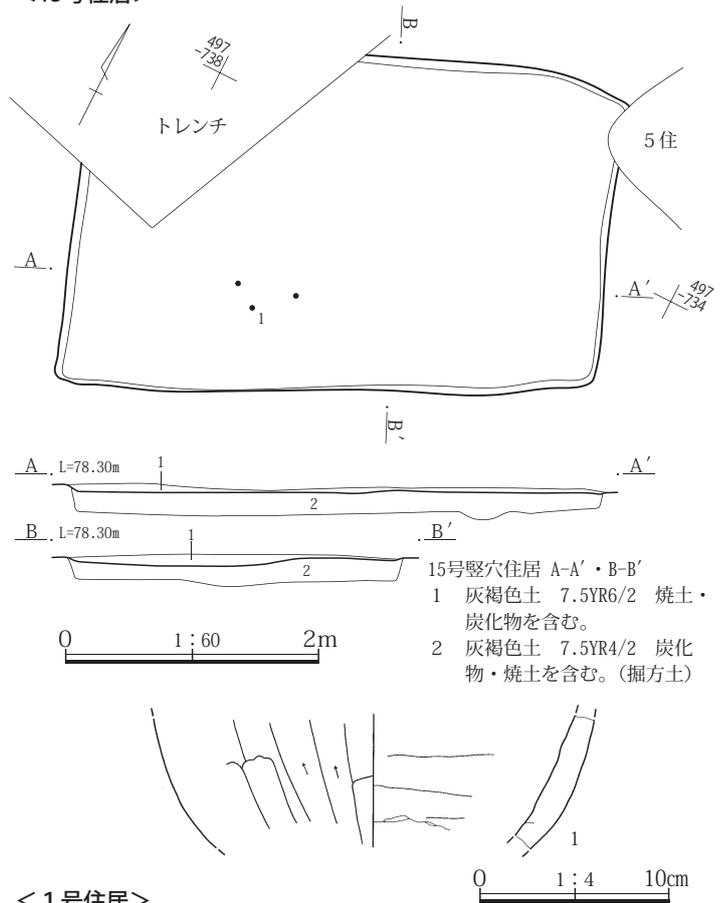
床面 ほぼ平坦で、灰褐色土で構築されていた。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 北部にピット状または溝状の落ち込みが認められるものの、それ以外は平坦である。

遺物と出土状態 土師器または須恵器が出土し、このうち1点を図示した。1は土師器甕と考えられ、南壁付近の床面直上から出土した。

所見 遺構の重複から、9世紀前半より古いのが、詳細な時期は不明である。



<1号住居>

2区1号竪穴住居(第63図 PL.30)

位置 2区中央部東寄り

X=38,467 ~ 38,472 Y=-55,742 ~ -55,747

主軸方向 N-81°-E

重複 2号および12号住居と重複する。遺構検出時の観察から、いずれの住居よりも本住居が新しい。

形状と規模 遺存状況は良好ではないものの、全体を把握することができた。平面形は長方形で、長軸長は3.7m、短軸長は3.52mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.01m、面積は12.27㎡である。

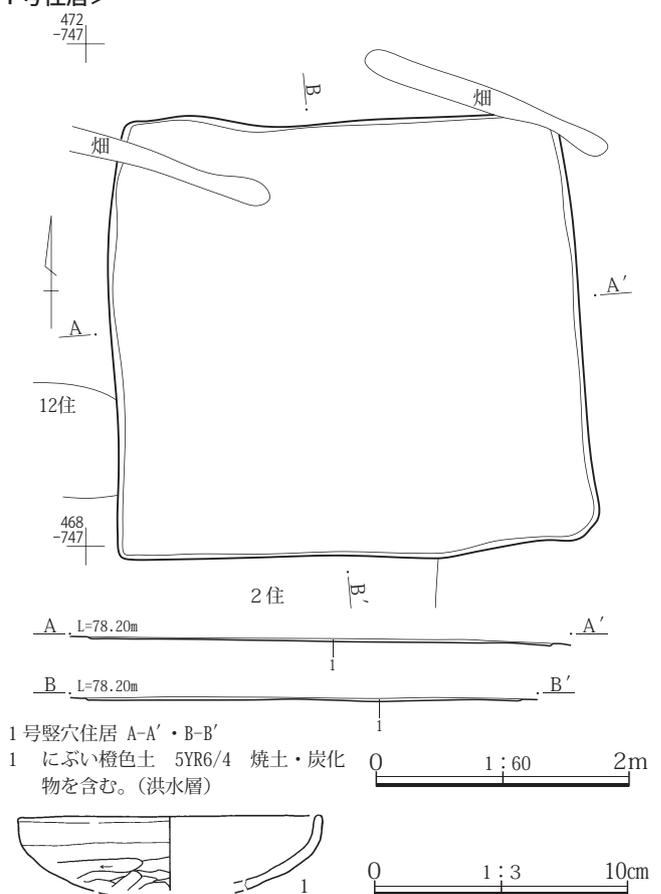
埋没土 1層のみ確認でき、にぶい橙色土である。

床面 ほぼ平坦である。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器9点、須恵器1点が出土し、このうち1点を図示した。土師器杯(1)は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



第63図 1区15号・2区1号竪穴住居と出土遺物

2区2号竪穴住居(第64図 PL.30・111)

位置 2区中央部東寄り

X=38,464 ~ 38,469 Y=-55,744 ~ -55,750

主軸方向 N-90°-E

重複 1号および12号住居と重複する。遺構検出時の観察から、1号住居より古く、12号住居より新しい。

形状と規模 北東部を1号住居に切られ、遺存状況はよくないものの、概ね全体を把握することができた。平面形は長方形と推定される。長軸長5.18m、短軸長4.06mで、遺構検出面から床面までの深さは0.02mである。

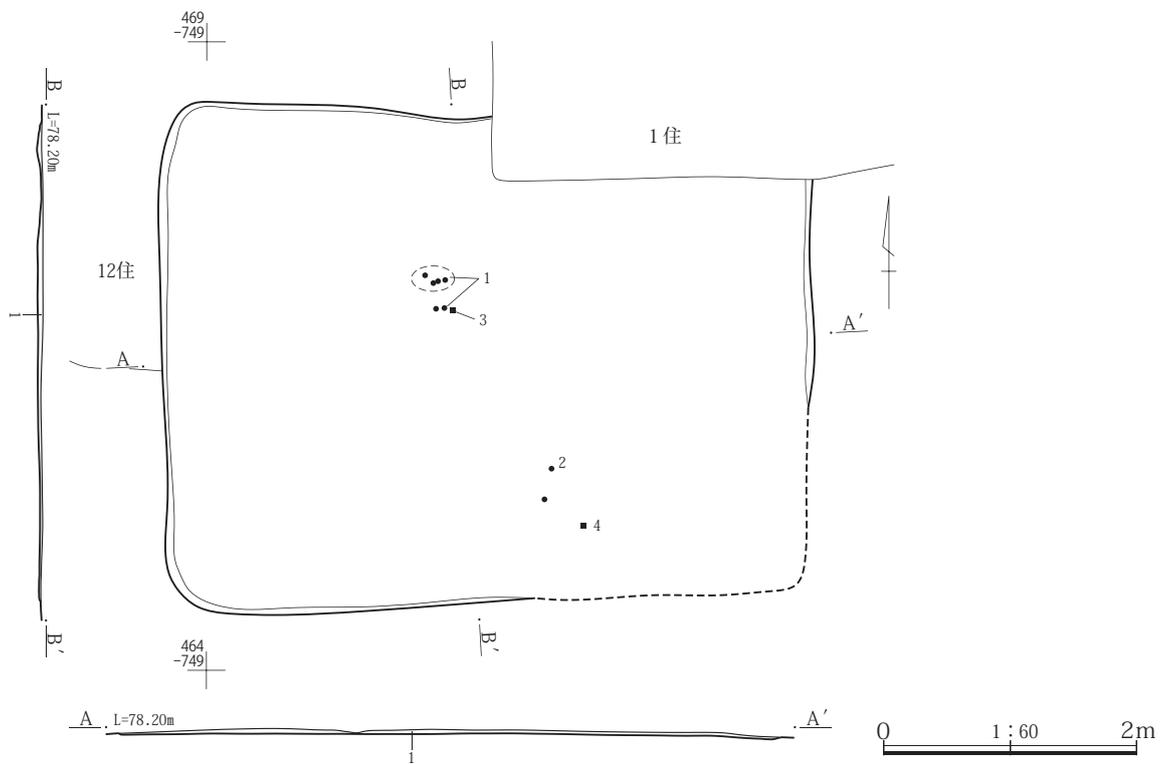
埋没土 にぶい橙色土で、2区1号住居の埋没土と類似している。

床面 ほぼ平坦である。中央部床面付近では土器片が7点まとまって出土した。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

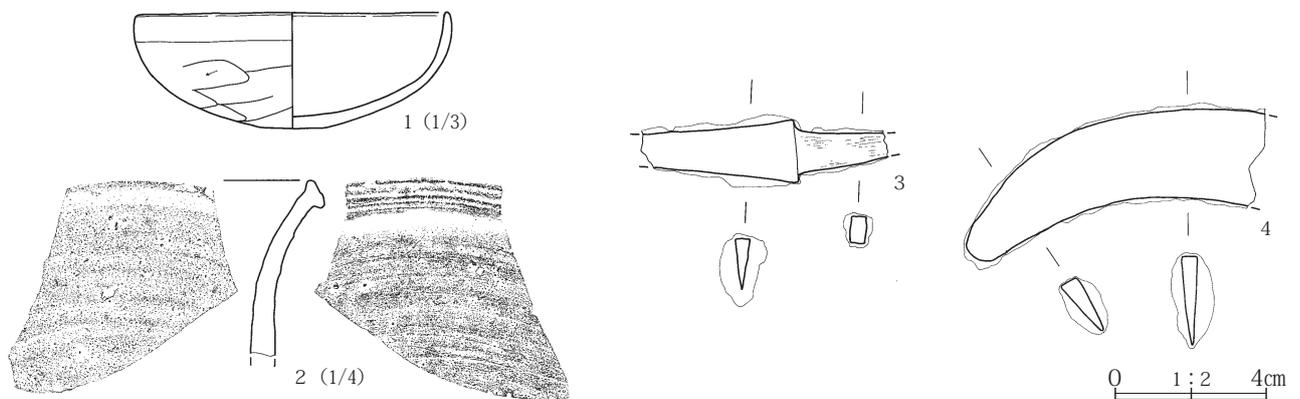
遺物と出土状態 土師器23点、須恵器1点、鉄製品2点が出土し、このうち4点を図示した。土師器杯(1)は床面付近で出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えられる。



2号竪穴住居 A-A'・B-B'

1 にぶい橙色土 5YR6/4 焼土・炭化物を含む。(洪水層)



第64図 2区2号竪穴住居と出土遺物

2区3号竪穴住居(第65図 PL.31・111)

位置 2区北西部西壁際

X=38,480~38,485 Y=-55,746~-55,751

主軸方向 N-21°E

重複 11号住居と重複し、遺構検出時の観察から、本住居が新しい。

形状と規模 長方形を呈し、東壁の長さは3.98m、南壁の長さは3.25mである。遺構検出面から床面までの深さは0.05m、掘方底面までの深さは0.1~0.25m、面積は11.61㎡である。

埋没土 橙色軽石を含む褐灰色土である。

床面 焼土を含む褐色土で構築されていた。南部でやや低くなっているものの、全体的にはほぼ平坦である。

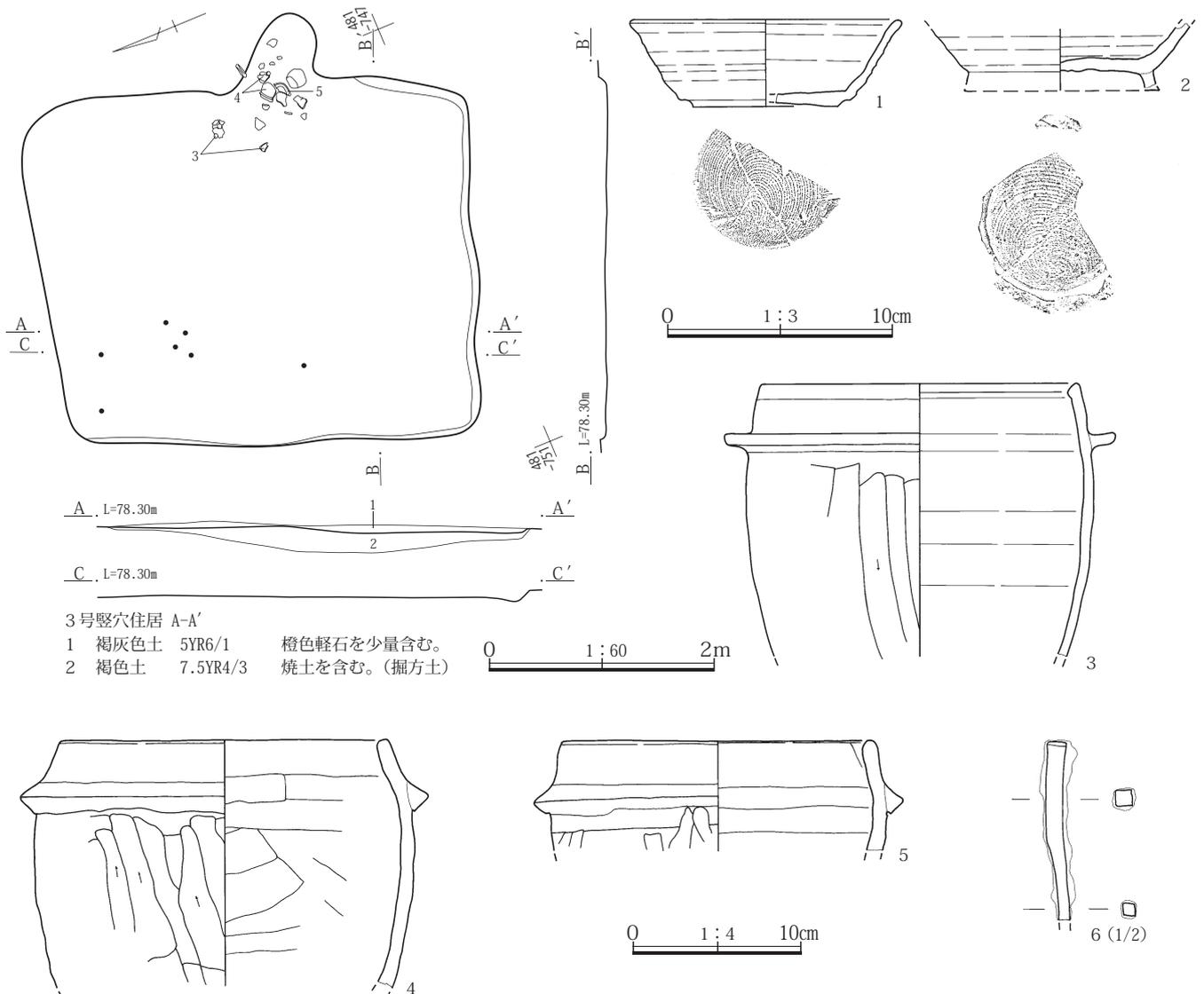
カマド 東壁で1か所検出した。遺存状況は良好ではなく、袖は残っていなかった。カマドの幅は0.86m、煙道の長さは0.63mである。燃烧部使用面付近からは羽釜を含む土器片が多く出土した。また、使用面から3~5cm上位で直径17cmと長径15cmの礫が2点検出された。これらの礫は被熱による赤色変化が認められ、カマドの構築材または支脚の可能性はある。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 中央部がなだらかに落ち込み、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器502点、須恵器41点、鉄製品1点、陶磁器1点が出土し、このうち6点を図示した。土師器羽釜(4・5)はカマド使用面直上で出土した。

所見 出土遺物から、時期は10世紀前半と推定される。



第65図 2区3号竪穴住居と出土遺物

2区4号竪穴住居(第64図 PL.31・32・111)

位置 2区南西部

X=38,438~38,442 Y=-55,763~-55,768

主軸方向 N-4°-E

重複 4号溝と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、4号溝の方が古い。

形状と規模 平面形は長方形で、検出した北壁と西壁の長さはそれぞれ3.42m、3.54mである。遺構検出面から床面までの深さは0.4m、掘方底面までの深さは0.45m、面積は9.86㎡である。

埋没土 白色軽石を含む褐灰色土および褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 洪水層由来の黄褐色土ブロックを含む黒褐色土で

構築されていた。中央部と西壁付近ではほぼ完形の土師器杯(2・4)が床面付近から出土した。

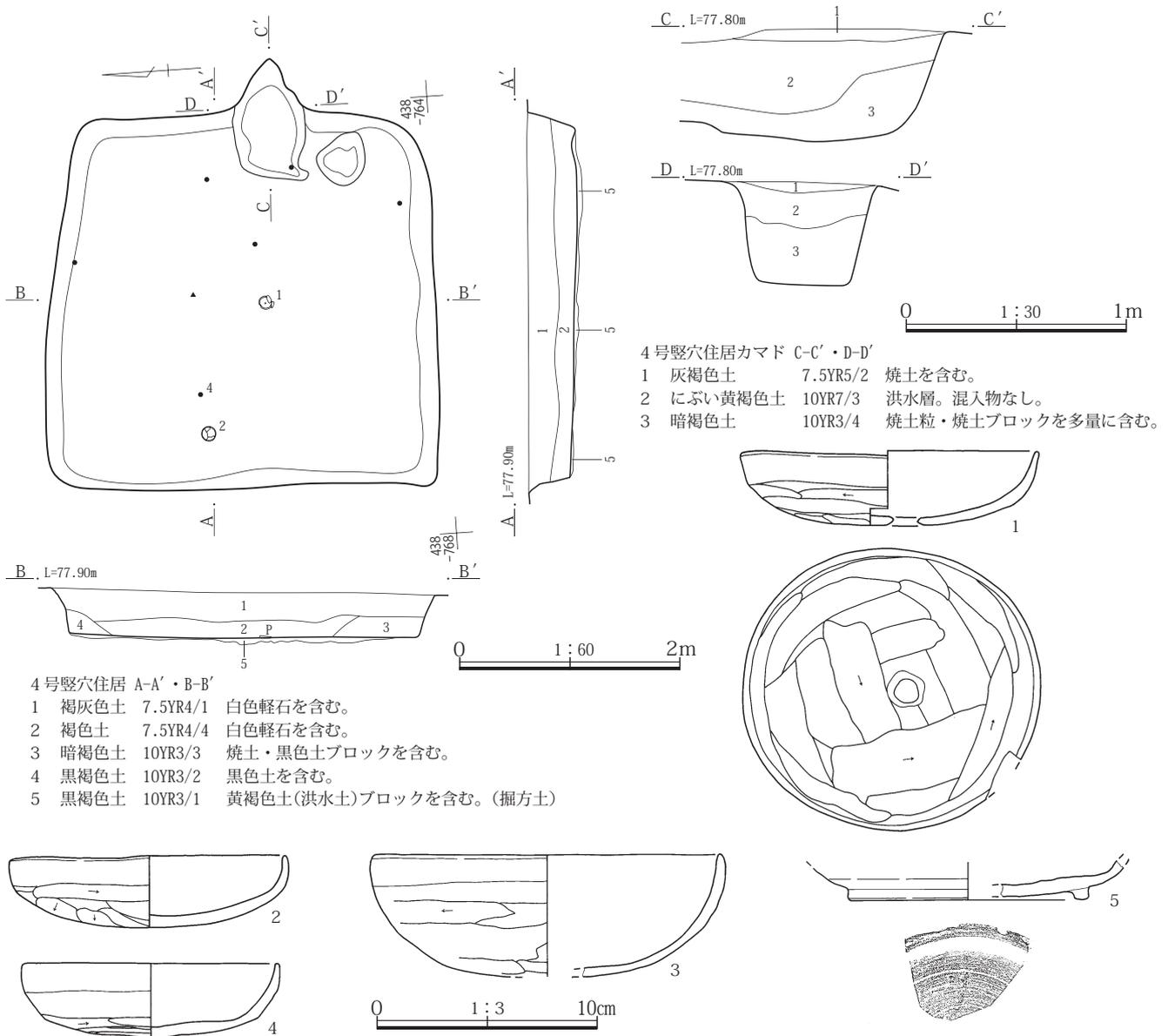
カマド 東壁で1か所検出された。袖は遺存しなかった。検出されたカマドの幅は0.72m、煙道の長さは0.66mである。燃烧部使用面は床面より5~8cm程度緩やかに落ち込んでいた。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みがあるが、ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器88点、須恵器11点、石製品1点が出土し、このうち5点を図示した。土師器杯(2・4)が床面直上から出土した。また、土師器杯(1)も床面付近で出土している。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



第66図 2区4号竪穴住居と出土遺物

2区5号竪穴住居(第67図 PL.33・34・111)

位置 2区南部

X=38,438~38,442 Y=-55,757~-55,763

主軸方向 N-80°-W

重複 23号ピットと重複し、遺構検出時の観察から、23号ピットの方が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は4.0m、短軸長は3.16mである。遺構検出面から床面までの深さは約0.27m、掘方底面までの深さは0.35~0.45m、面積は10.01㎡である。

埋没土 灰褐色土および褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。2層は洪水層由来の黄色砂を多量に含んでいる。

床面 黒色土を含む暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

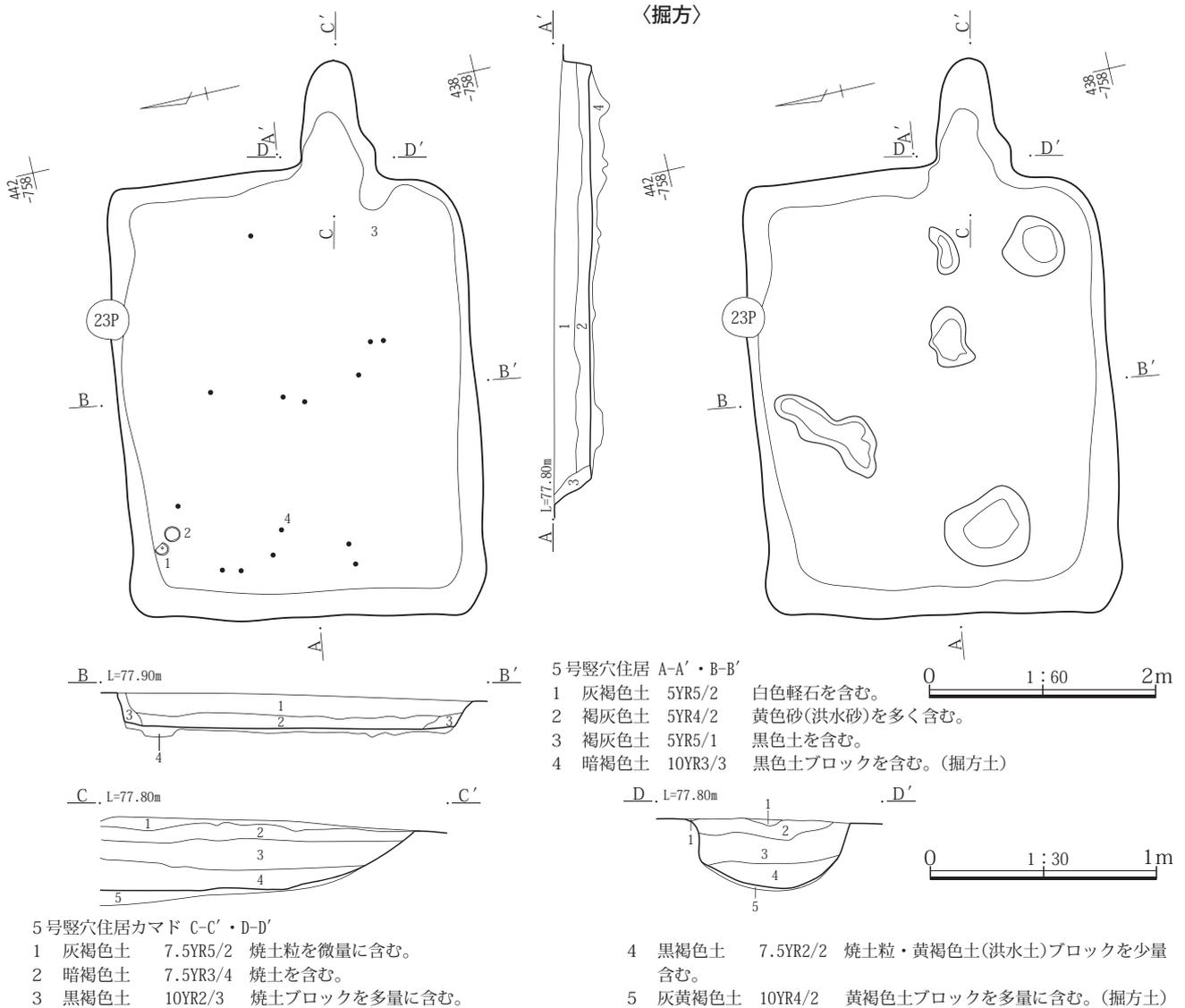
カマド 東壁で1か所検出された。右袖は残存していたが、左袖は調査中にサブトレンチを設定して掘り下げたため、遺存状況は不明である。カマドの幅は0.58m、煙道部の長さは0.95m、右袖の長さは0.33mである。

貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

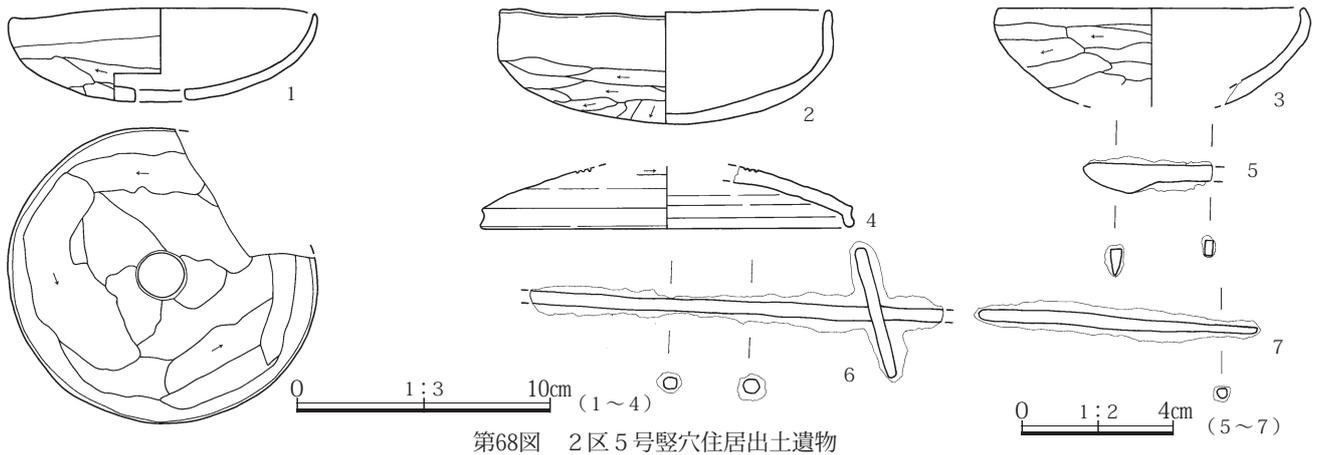
掘方 ピット状の落ち込みが多数検出され、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器162点、須恵器9点、鉄製品3点が出土し、このうち7点を図示した。北西隅の床面直上で、ほぼ完形の土師器杯(1・2)が出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と推定される。



第67図 2区5号竪穴住居



第68図 2区5号竪穴住居出土遺物

2区6号竪穴住居(第69・70図 PL.34・35・111)

位置 2区中央部南寄り

X=38,454 ~ 38,459 Y=-55,753 ~ -55,760

主軸方向 N-85°-W 重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長5.33m、短軸長3.53mである。遺構検出面から床面までの深さは0.3m、掘方底面までの深さは0.35~0.5m、面積は15.46㎡である。

埋没土 灰褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。4層は黒色土ブロックおよび焼土を含んでいる。

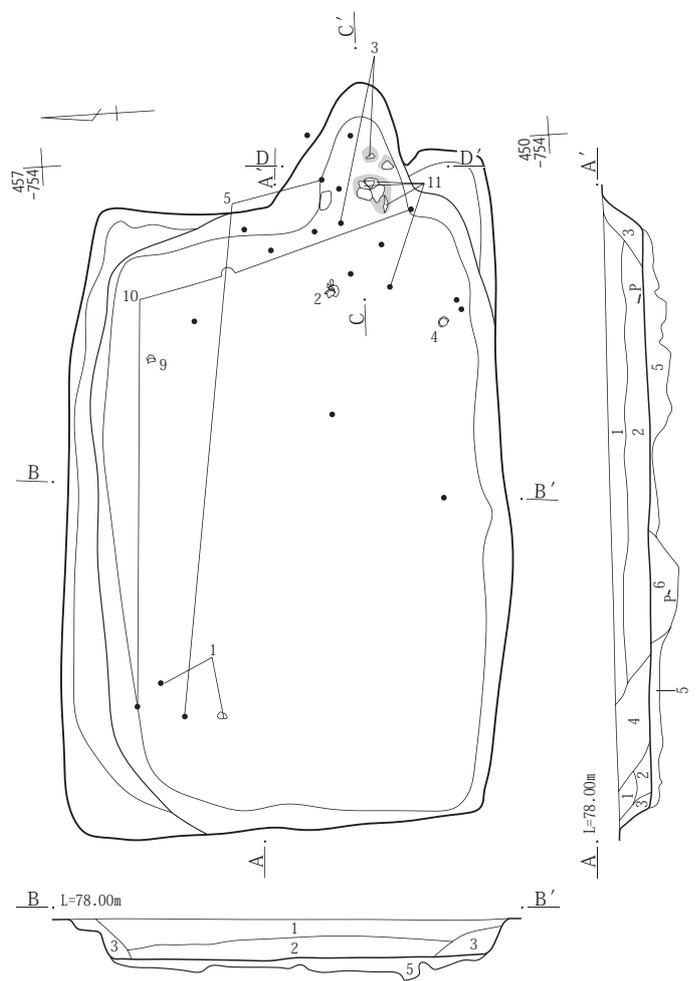
床面 黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は遺存していなかった。カマドの幅は0.75m、燃烧部および煙道の長さは1.05mである。燃烧部から煙道にかけて焼土の分布が認められた。カマド3層は焼土ブロックや焼けた粘土塊、灰を多量に含み天井崩落土と考えられる。左袖付近ではシルト質の扁平な礫(長軸18cm大)が検出され、被熱により赤色に変化していた。カマド袖の構築材として使用された可能性がある。また、カマド使用面から10cm程度上位であるが、土師器甕片(11)がまとまって出土している。また、カマド付近では、床面直上で土師器杯(2)が出土した。貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあり、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器350点、須恵器25点が出土し、このうち12点を図示した。カマド付近では、土師器杯(2)が床面直上で破片が重なるような状況で出土した。土師器甕(11)はカマド中央部、使用面より7~13cm上でまとまって出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。



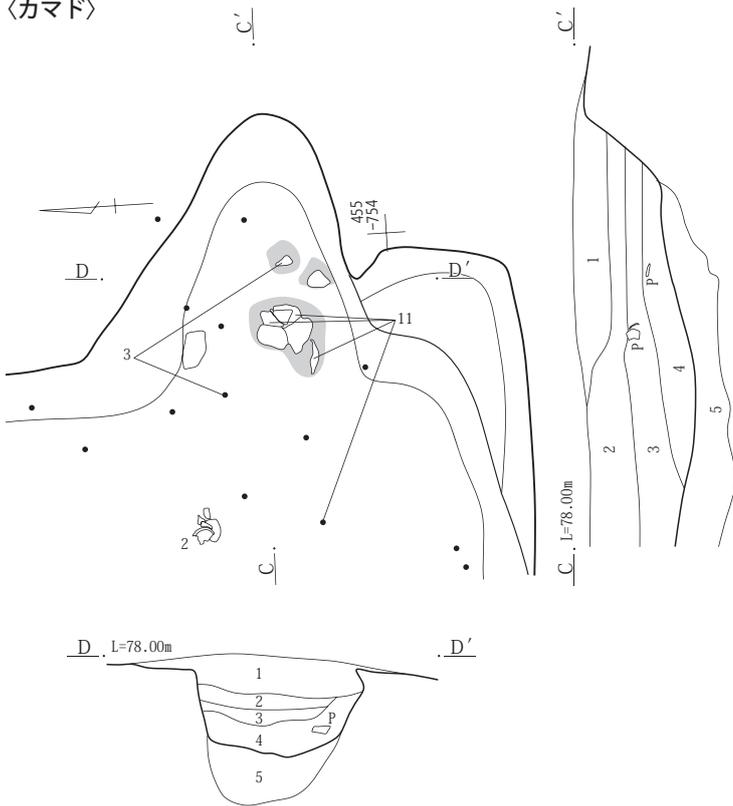
6号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 灰褐色土 5YR5/2 焼土を含む。
- 2 灰褐色土 7.5YR4/3 焼土を含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/2 黒色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/2 黒色土ブロック・焼土を含む。
- 5 黒褐色土 7.5YR3/1 黒色土ブロックを含む。(5・6掘方土)
- 6 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土・黒色土ブロックを含む。

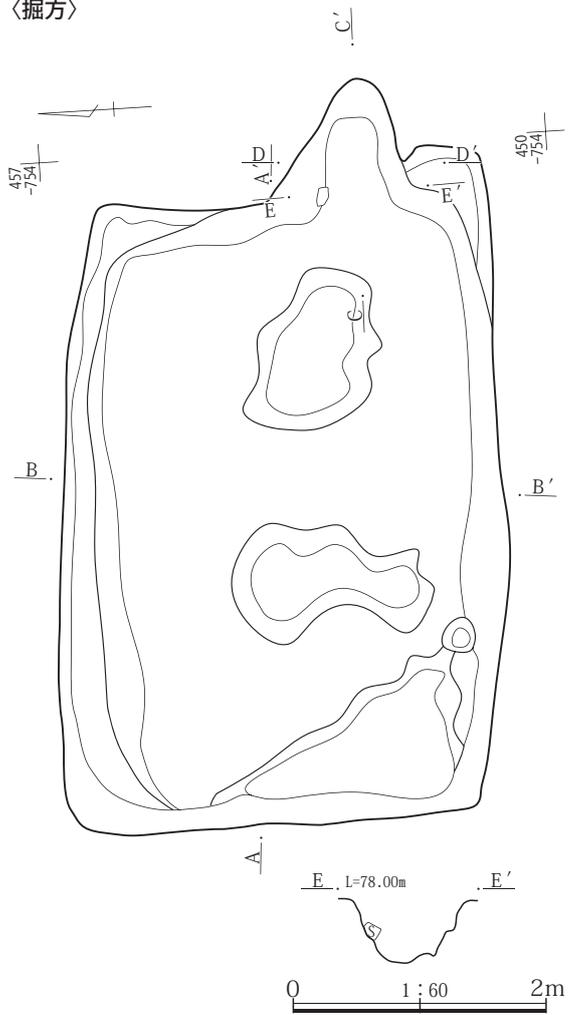
0 1:60 2m

第69図 2区6号竪穴住居

〈カマド〉



〈掘方〉

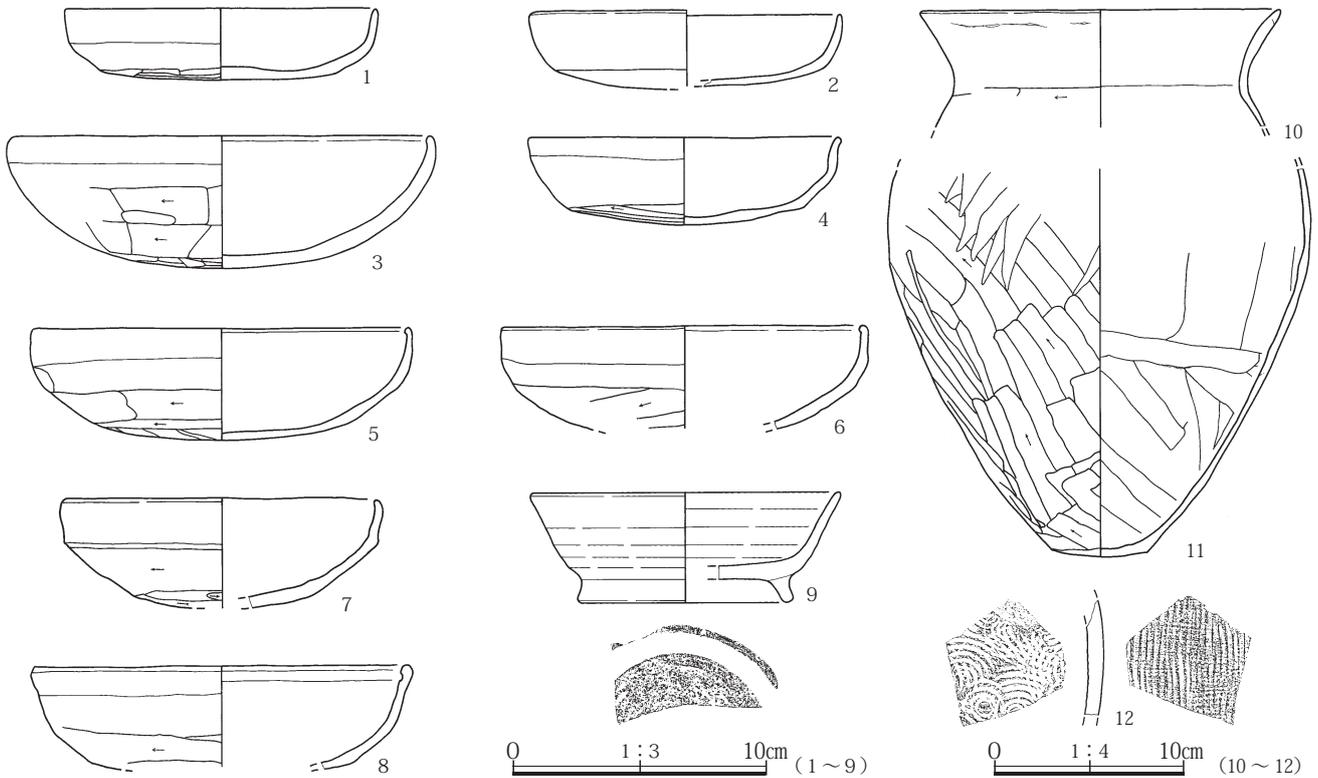


6号竪穴住居カマド C-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 10YR3/2 焼土を含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/2 焼土を多量に含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/2 焼土ブロック・焼土粒・灰を多量に含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/2 焼土と灰の層。
- 5 灰褐色土 5YR5/2 焼土粒を含む。(掘方土)

0 1:30 1m

0 1:60 2m



第70図 2区6号竪穴住居掘方・カマドと出土遺物

2区7号竪穴住居(第71図 PL.35・111)

位置 2区中央部東寄り壁際

X=38,453~38,458 Y=-55,747~-55,752

主軸方向 N-75°-W

重複 1号溝と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、1号溝の方が新しい。

形状と規模 長方形を呈し、北壁の長さは3.25m、西壁の長さ2.95mである。遺構検出面から床面までの深さは0.02m、掘方底面までの深さは0.05~0.1mである。

埋没土 1層確認され、焼土・炭化物を含む灰褐色土である。

床面 焼土・炭化物を微量に含む灰褐色土で構築され、

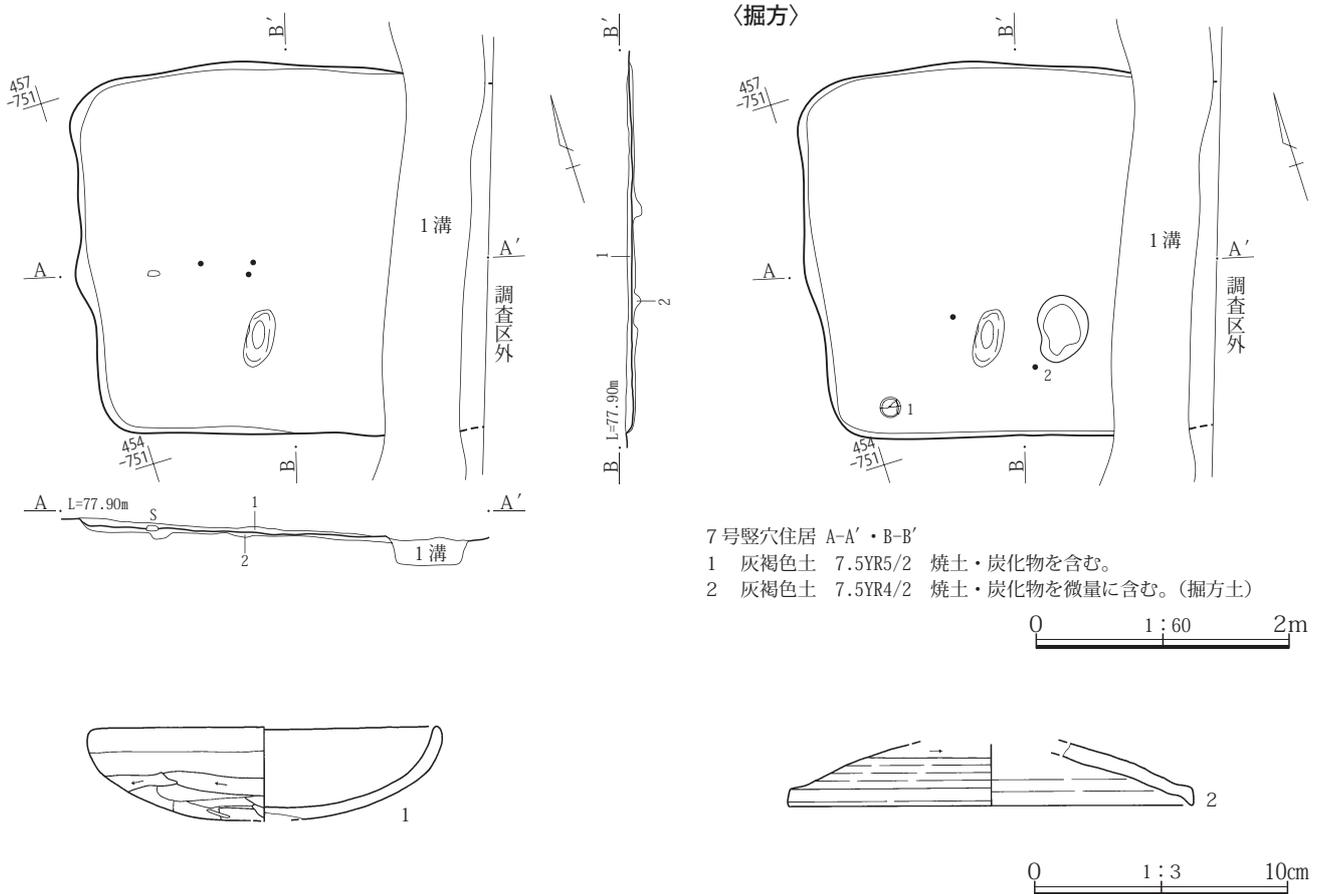
ほぼ平坦である。中央部南寄りでは長径48cm、短径22cmの大型礫が検出された。礫は楕円形を呈し、上面は平坦であったが、被熱の痕跡はなく、掘方から据えられていた。

カマド・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みが多数認められたが、全体的にはほぼ平坦である。

遺物と出土状態 土師器42点、須恵器1点が出土し、このうち2点を図示した。1・2は掘方から出土した。ほぼ完形の土師器杯(1)は南西隅で、須恵器蓋(2)は南部でまともって出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と推定される。



第71図 2区7号竪穴住居と出土遺物

2区8-1号竪穴住居(第72～74図 PL.36・37)

位置 2区中央部

X=38,460～38,464 Y=-55,753～-55,757

主軸方向 N-82°-W

重複 8-2号住居、5号溝と重複する。土層断面の観察から、いずれの遺構よりも本住居の方が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長3.02m、短軸長2.55mと比較的小型の住居である。遺構検出面から床面までの深さは0.38m、掘方底面までの深さは0.48～0.7m、面積は5.26㎡である。

埋没土 褐灰色砂質土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 灰褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出された。袖は遺存しなかった。煙道の長さは0.72m、カマドの幅は0.8mである。、焚き口から煙道までの長さは0.93mである。煙道底面には炭化物と焼土ブロックが認められ、先端部には直径12cmの楕円形の礫が検出された。

掘方 土坑状またはピット状の落ち込みが見られる、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器5点、鉄製品1点が出土し、このうち4点を図示した。1～4はすべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と推定される。

2区8-2号竪穴住居(第73・74図 PL.36・37・111)

位置 2区中央部

X=38,462～38,466 Y=-55,752～-55,758

主軸方向 N-79°-W

重複 8-1号住居と重複し、土層断面の観察から、本住居が古い。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長3.71m、短軸長2.91mである。遺構検出面から床面までの深さは0.28m、掘方底面までの深さは0.3～0.6mである。

埋没土 砂質の褐灰色土または灰褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 褐灰色土または灰褐色土の砂質土で構築され、ほぼ平坦である。

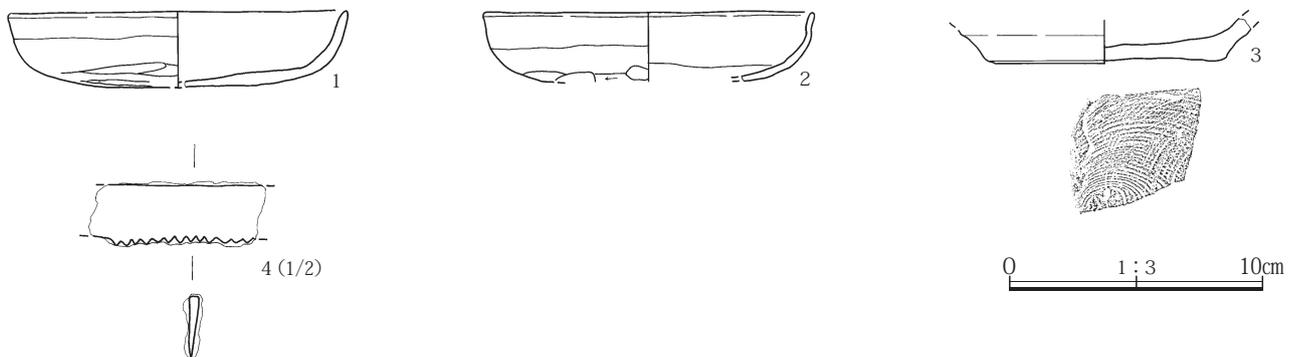
カマド 東壁で1か所検出した。袖の遺存状況は良好ではなく、煙道の長さは0.93m、カマドの幅は0.96mである。燃烧部から煙道にかけて焼土、焼けた粘土塊、灰白色粘質土、炭化物が分布していた。カマド前には小型甕(6)が埋設されていた。

ピット 北壁付近で床面調査中にP1が検出された。P1は楕円形を呈し、長径25cm、短径20cm、床面からの深さは8cmである。P1は位置やほかにピットが検出されなかったことから、柱穴の可能性は低い。

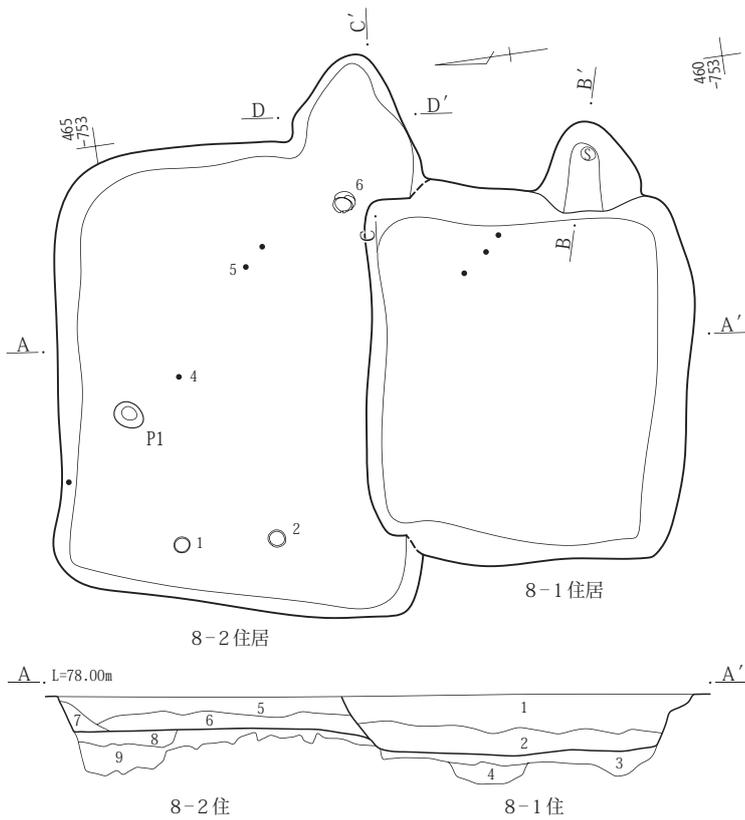
掘方 ピット状の落ち込みが多数あり、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器22点、須恵器3点、縄文土器1点が出土し、このうち6点を図示した。西部では、完形の土師器杯(1・2)が床面付近で出土した。また、中央部付近で、須恵器壺(4)が床面直上で出土している。縄文土器は混入と考えられる。

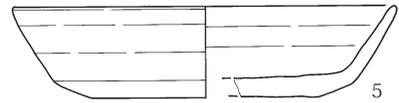
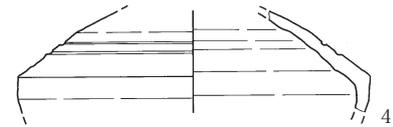
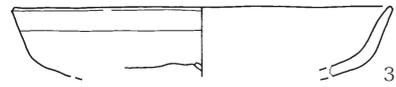
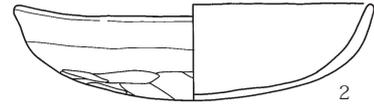
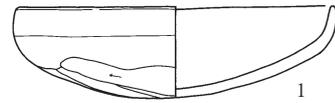
所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



第72図 2区8-1号竪穴住居出土遺物



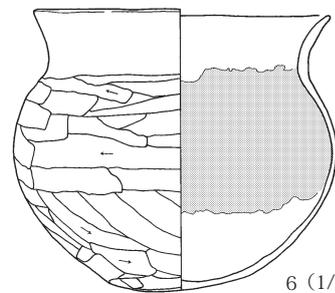
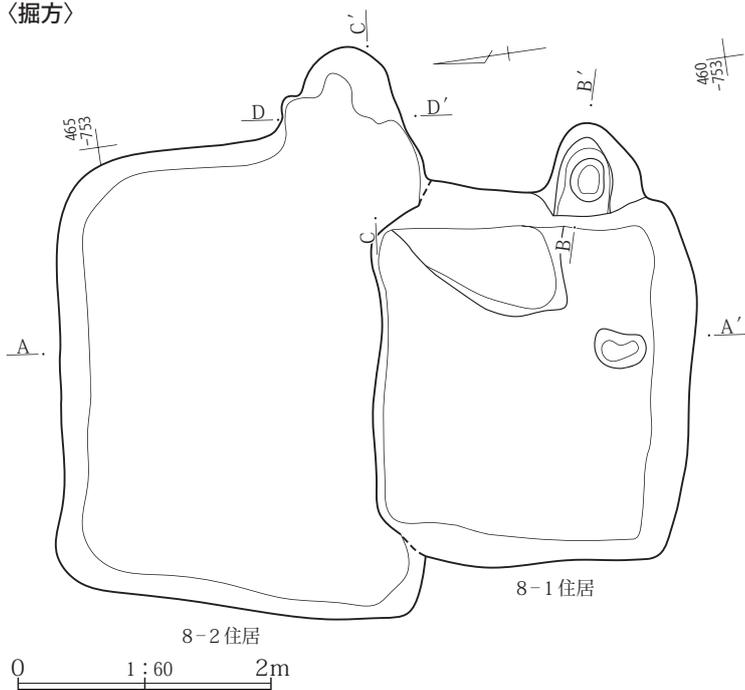
〈8-2号住居〉



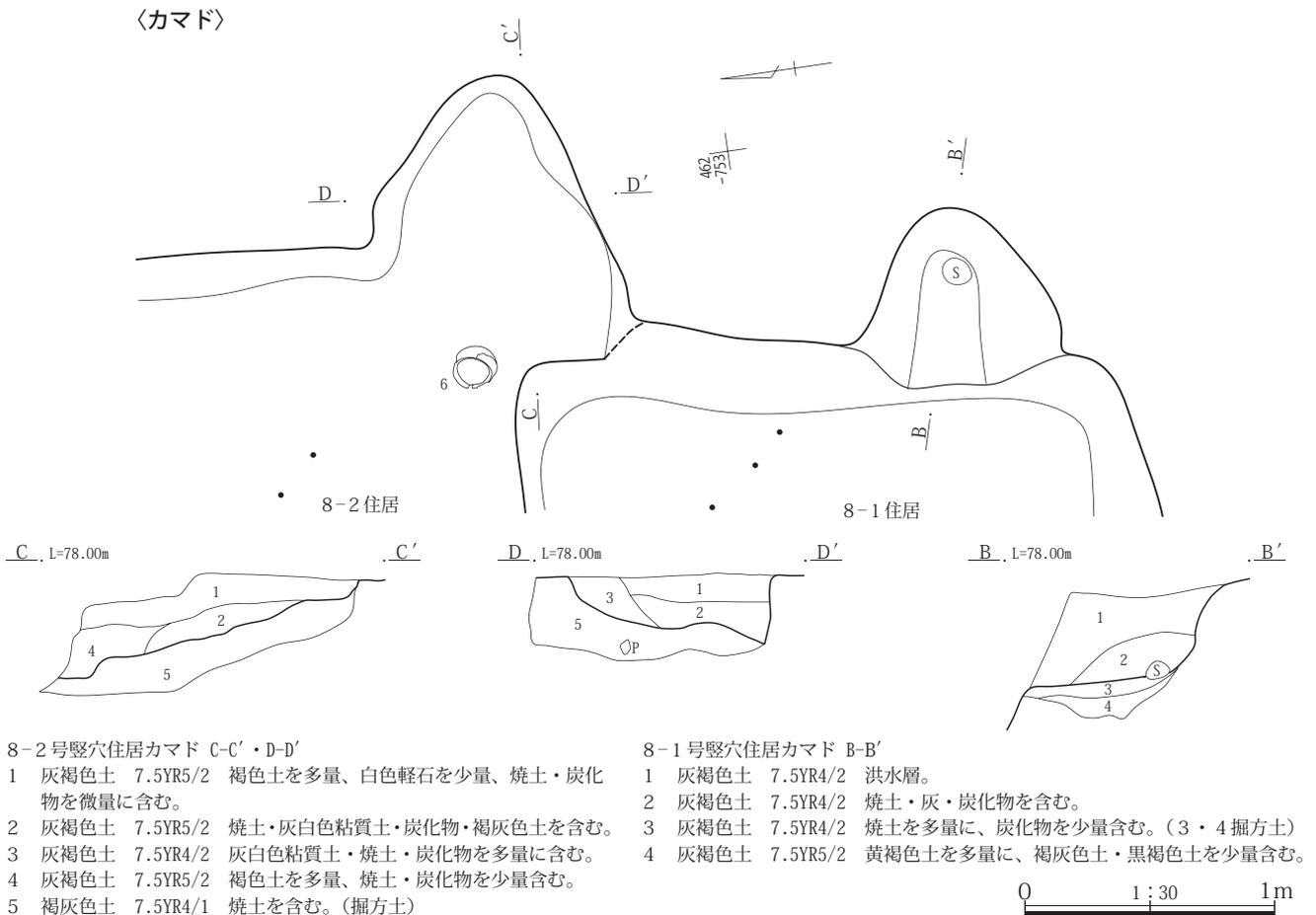
8-1号・8-2号竪穴住居 A-A'

- 1 褐灰色土 5YR5/1 灰・黄褐色土(洪水土)を含む。
- 2 褐灰色土 5YR4/1 黄褐色土(洪水土)を含む。
- 3 灰褐色土 5YR5/2 黄褐色土(洪水土)を含む。(3・4掘方土)
- 4 暗褐色土 7.5YR3/4 黄褐色土(洪水土)ブロックを含む。
- 5 褐灰色土 5YR4/1 白色軽石を含む。
- 6 灰褐色土 5YR4/2 焼土を含む。
- 7 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土を含む。
- 8 褐灰色土 5YR5/1 黄褐色土(洪水土)を含む。(8・9掘方土)
- 9 灰褐色土 5YR5/2 砂質。青灰色砂をブロック状に含む。

〈掘方〉



第73図 2区8-1号・8-2号竪穴住居と8-2号竪穴住居出土遺物



第74図 2区8-1号・8-2号竪穴住居カマド

2区9号竪穴住居(第75図 PL.38・111)

位置 2区中央部西壁際

X=38,466～38,471 Y=-55,752～-55,757

主軸方向 N-9°E

重複 14号住居および5溝と重複し、いずれの遺構よりも本住居が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、東壁の長さは4.26m、南壁の長さは3.3mである。遺構検出面から床面までの深さは0.38m、掘方底面までの深さは0.45～0.83m、面積は10.9㎡である。

埋没土 焼土粒や洪水層由来の黄色土ブロックを含む灰褐色土および褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 砂質の褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は遺存せず、煙道のみを検出した。煙道底面は急斜度に立ち上がり、煙道の

長さは0.54m、幅は0.55mである。煙道底面と燃烧部には焼土が分布していた。

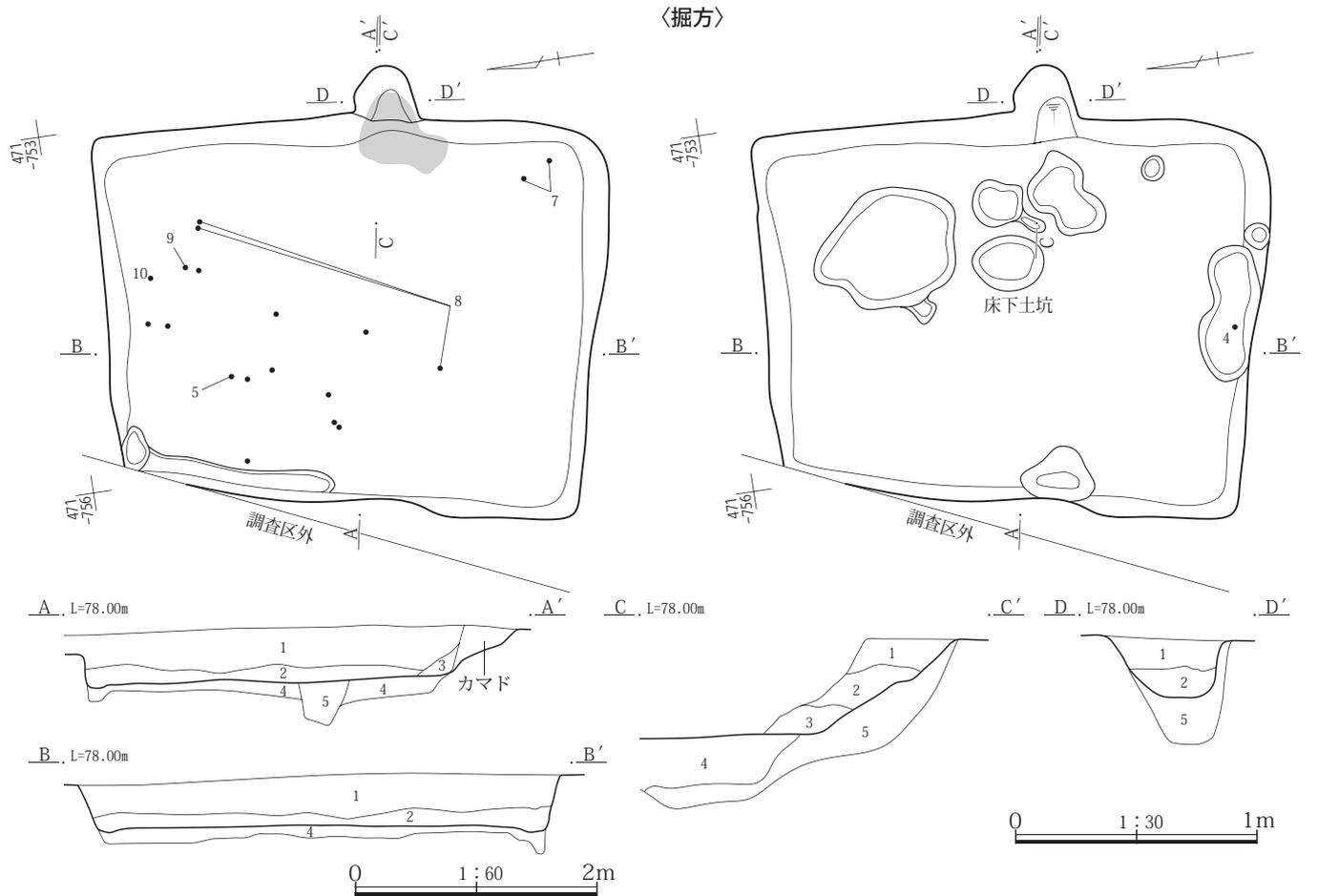
柱穴 検出されなかった。

周溝 北西部で周溝が検出された。周溝の長さは1.78m、幅は0.15～0.18m、床面から底面までの深さは0.05mである。

掘方 カマド付近で、床下土坑が1基検出された。平面形は楕円形で、長径59cm、短径45cm、深さ26cmである。また、カマド前を中心に土坑状の落ち込みが認められた。

遺物と出土状態 土師器207点、須恵器14点、鉄製品1点が出土し、このうち11点を図示した。土師器杯(7)は床面直上、土師器甕(9)、須恵器甕(10)は床面付近から、土師器杯(4)は掘方から出土した。それ以外は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。

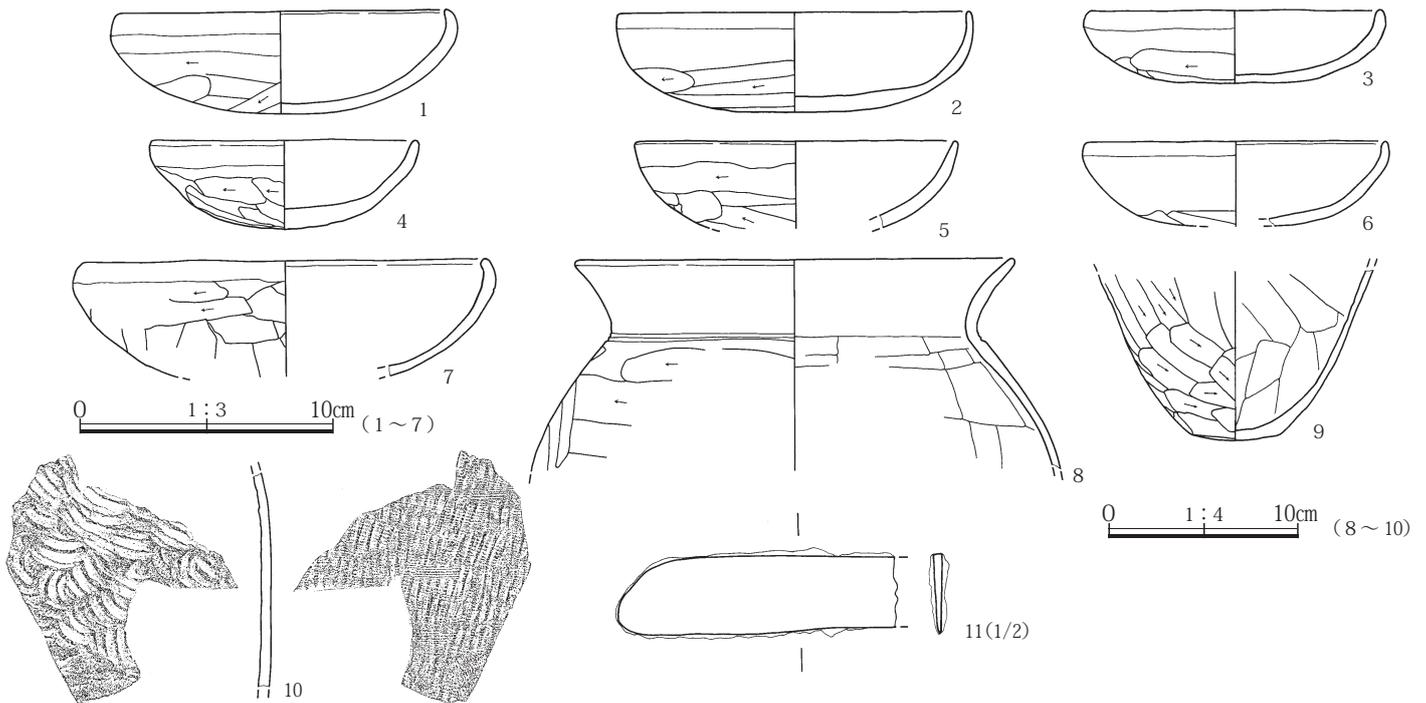


9号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 灰褐色土 10YR5/2 焼土粒・炭化物を含む。
- 2 褐灰色土 5YR5/1 黄色土(洪水土)を含む。
- 3 褐灰色土 5YR4/2 焼土粒を含む。
- 4 褐灰色土 7.5YR4/1 黄色土(洪水土)ブロックを多く含む。(掘方土)
- 5 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土粒・灰を含む。(床下土坑)

9号竪穴住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 7.5YR4/1 洪水土。
- 2 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を含む。
- 3 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を多量、灰を含む。
- 4 褐灰色土 7.5YR4/1 洪水土。(4・5掘方土)
- 5 黒褐色土 7.5YR3/1 焼土・灰を含む。



第75図 2区9号竪穴住居と出土遺物

2区10号竪穴住居(第76・77図 PL.39・40・112)

位置 2区北西部西寄り

X=38,474~38,478 Y=-55,749~-55,753

主軸方向 N-88°-E

重複 5号溝と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本住居が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は2.5m、短軸長は2.35mである。遺構検出面から床面までの深さは0.17m、掘方底面までの深さは0.19~0.3m、面積は4.73㎡である。

埋没土 灰褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 洪水層由来の黄色土ブロックを含む黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は遺存せず、燃烧部

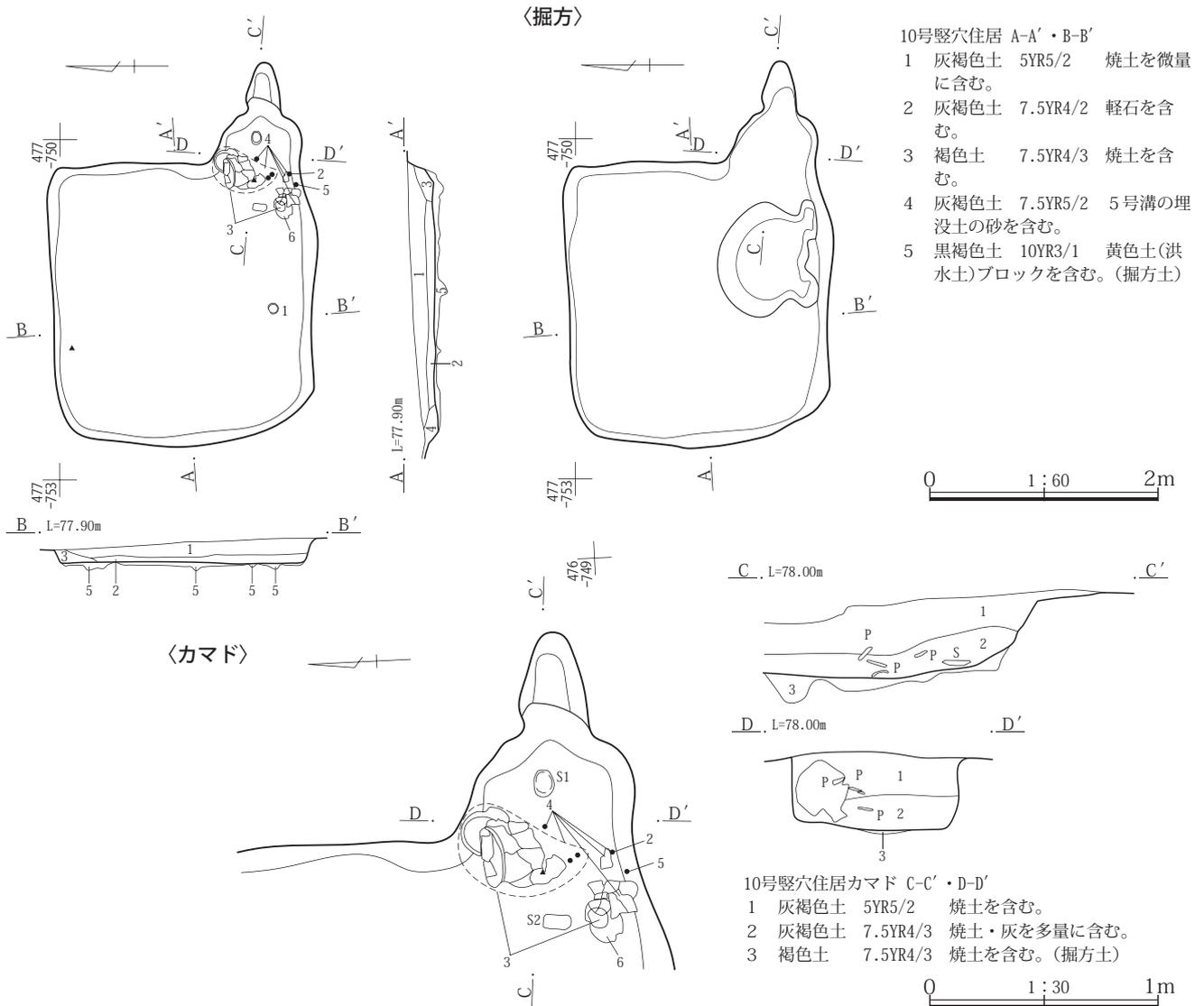
および煙道が検出された。燃烧部および煙道の長さは1.03m、幅は0.67mである。燃烧部中央では、直径12cm大の円筒状の礫(S1)が底面に据えられていた。この礫は被熱により表面が赤色変化し、カマドの支脚として使用されたと推定される。燃烧部付近では、土師器甕(2~6)が埋設または横倒しの状態で多数出土した。また、付近から長さ13cmの扁平礫(S2)も出土している。

柱穴 検出されなかった。

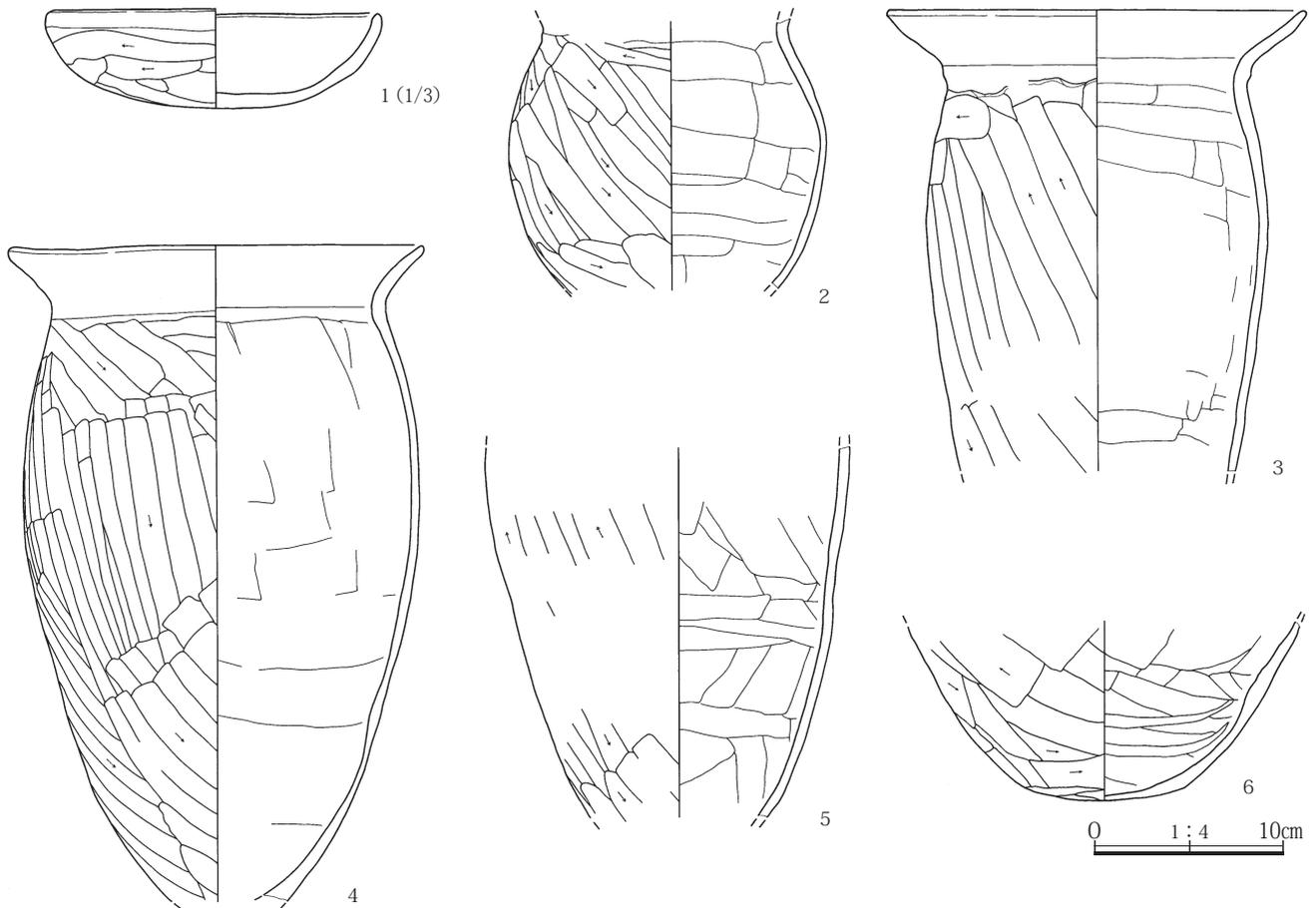
掘方 中央部が側壁付近よりも高くなっている。

遺物と出土状態 土師器64点、須恵器2点、鉄製品2点、石製品1点が出土し、このうち6点を図示した。南壁付近では、ほぼ完形の土師器杯(1)が床上4cmから、北壁付近では棒状の礫が1点、床上3cmから出土している。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



第76図 2区10号竪穴住居



第77図 2区10号竪穴住居出土遺物

2区11号竪穴住居(第78・79図 PL.40・41・112)

位置 2区北西部

X=38,480~38,485 Y=-55,744~-55,750

主軸方向 N-87°W

重複 3号住居と重複し、遺構検出時の観察より、本住居の方が古い。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長4.63m、短軸長3.98mである。遺構検出面から床面までの深さは0.09m、掘方底面までの深さは0.1~0.2m、面積は16.82㎡である。

埋没土 1層のみ確認され、焼土・炭化物を含む灰褐色土である。

床面 灰褐色土および褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖の遺存状況は良好ではなかった。燃烧部から煙道の長さは1.08m、幅は0.76mである。燃烧部を中心に灰と焼土の分布が認められた。

また、燃烧部付近では、シルト質の礫が多数検出された。これらは長径10~30cmで、被熱により表面が赤色に変化していた。カマドの構築材と考えられる。完形の土師器杯(1)と須恵器杯(5)が2点灰層より1~3cm上で重なった状態で出土した。

貯蔵穴 南東隅で1基検出された。長径0.95m、短径0.8m、床面からの深さは0.15mである。埋没土上部から、ほぼ完形の須恵器杯(7)のほか土師器片や礫が多量に出土した。

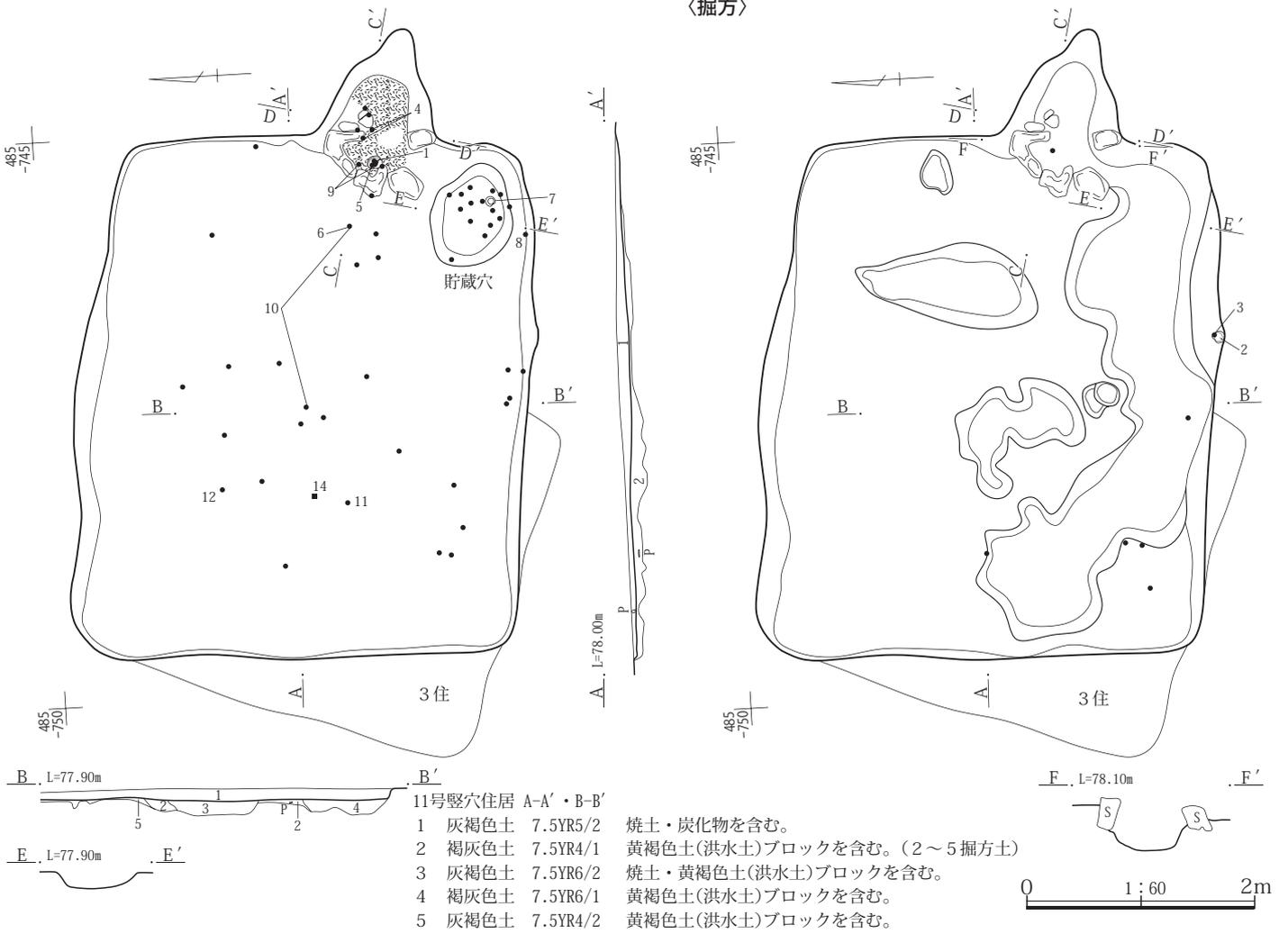
柱穴 検出されなかった。

掘方 南部が溝状に掘り下げられ、中央部より低くなっている。

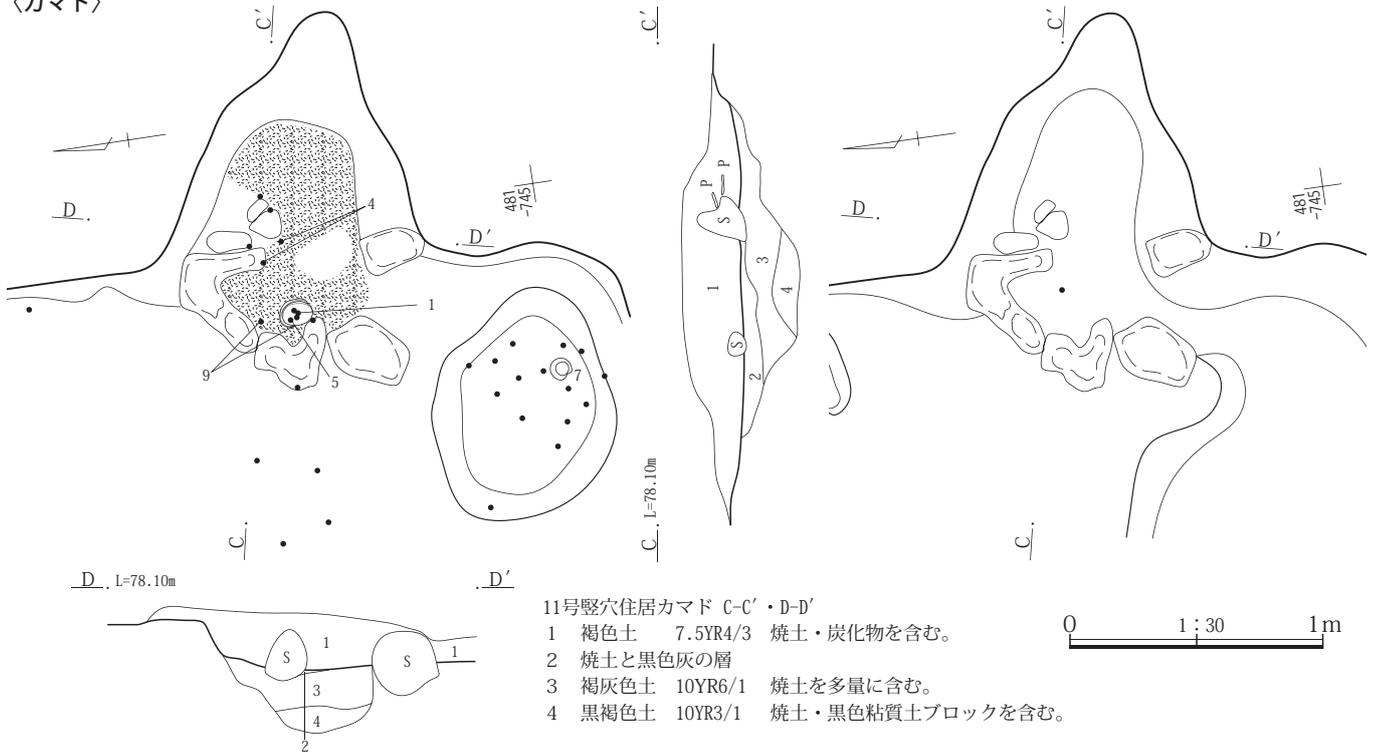
遺物と出土状態 土師器714点、須恵器47点、鉄製品2点が出土し、このうち14点を図示した。土師器甕(11)、須恵器甕(12)は床面直上から出土した。

所見 本住居に伴する出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている

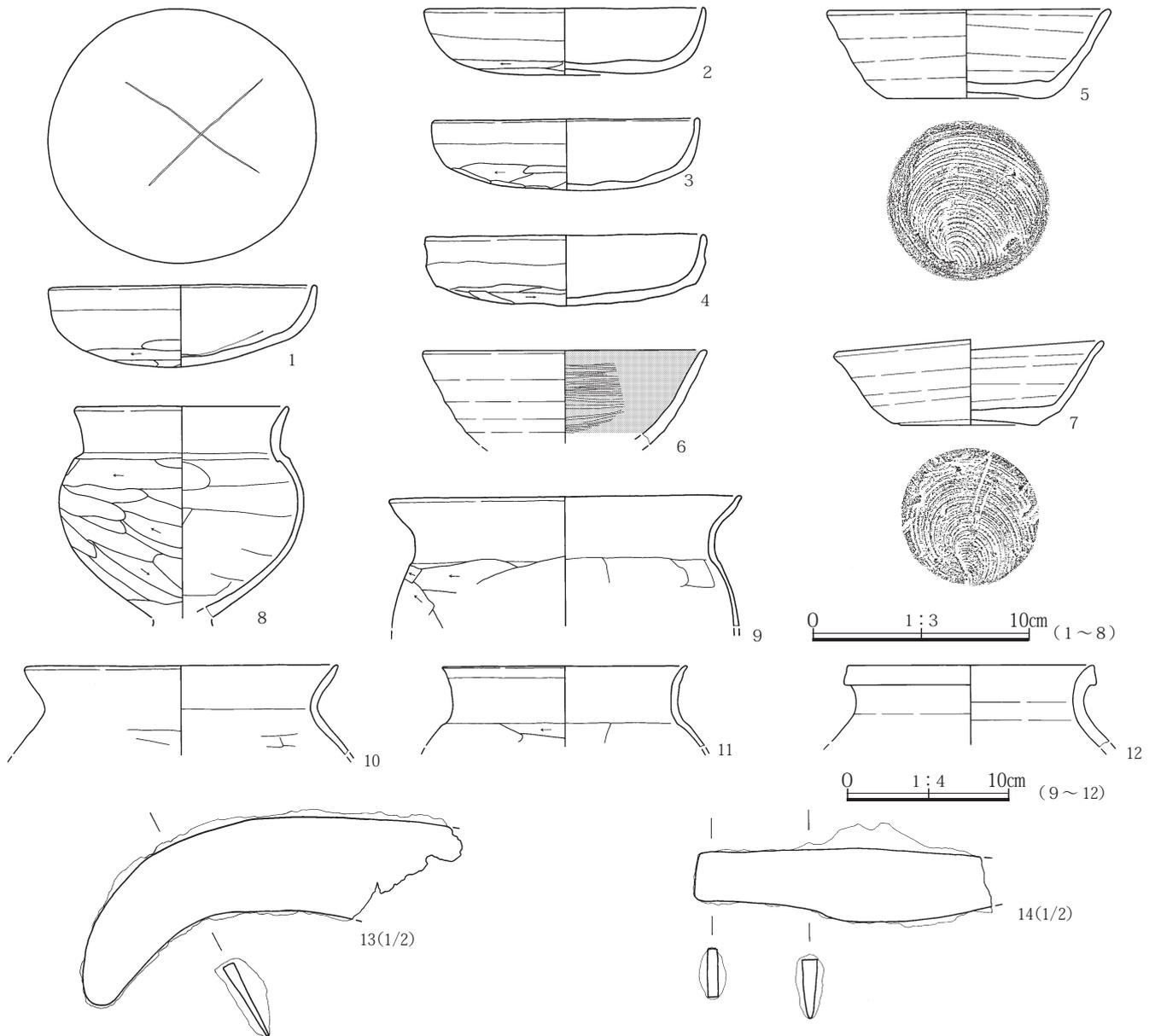
〈掘方〉



〈カマド〉



第78図 2区11号竪穴住居



第79図 2区11号竪穴住居出土遺物

2区12号竪穴住居(第80図 PL.42・43)

位置 2区中央部東寄り

X=38,466 ~ 38,470 Y=-55,745 ~ -55,751

主軸方向 N-89°-W

重複 1号・2号住居、4号・6号・7号溝と重複する。遺構検出時の観察より、本住居は2号住居より古く、4号溝より新しい。1号住居との新旧関係は重複部分が小さく判断できなかった。また、6号・7号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形は長方形で、検出した長軸長は3.74m、短軸長2.96m、遺構検出面から床面までの深さは0.36m、掘方底面までの深さは0.5m、面積は9.29㎡

である。

埋没土 砂質の褐色土を主体とする。1層・2層はそれぞれにぶい黄橙色土、にぶい黄褐色土で、灰白色土ブロックを含む砂質土とともに洪水層と考えている。

床面 灰褐色土で構築され、ほぼ平坦である。炭化物の分布が広範囲で確認された。炭化物を詳細に観察すると、焼けた粘土塊が含まれている。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は残存せず、煙道の長さは0.8m、煙道の幅は0.39mである。燃焼部付近で焼土が検出された。

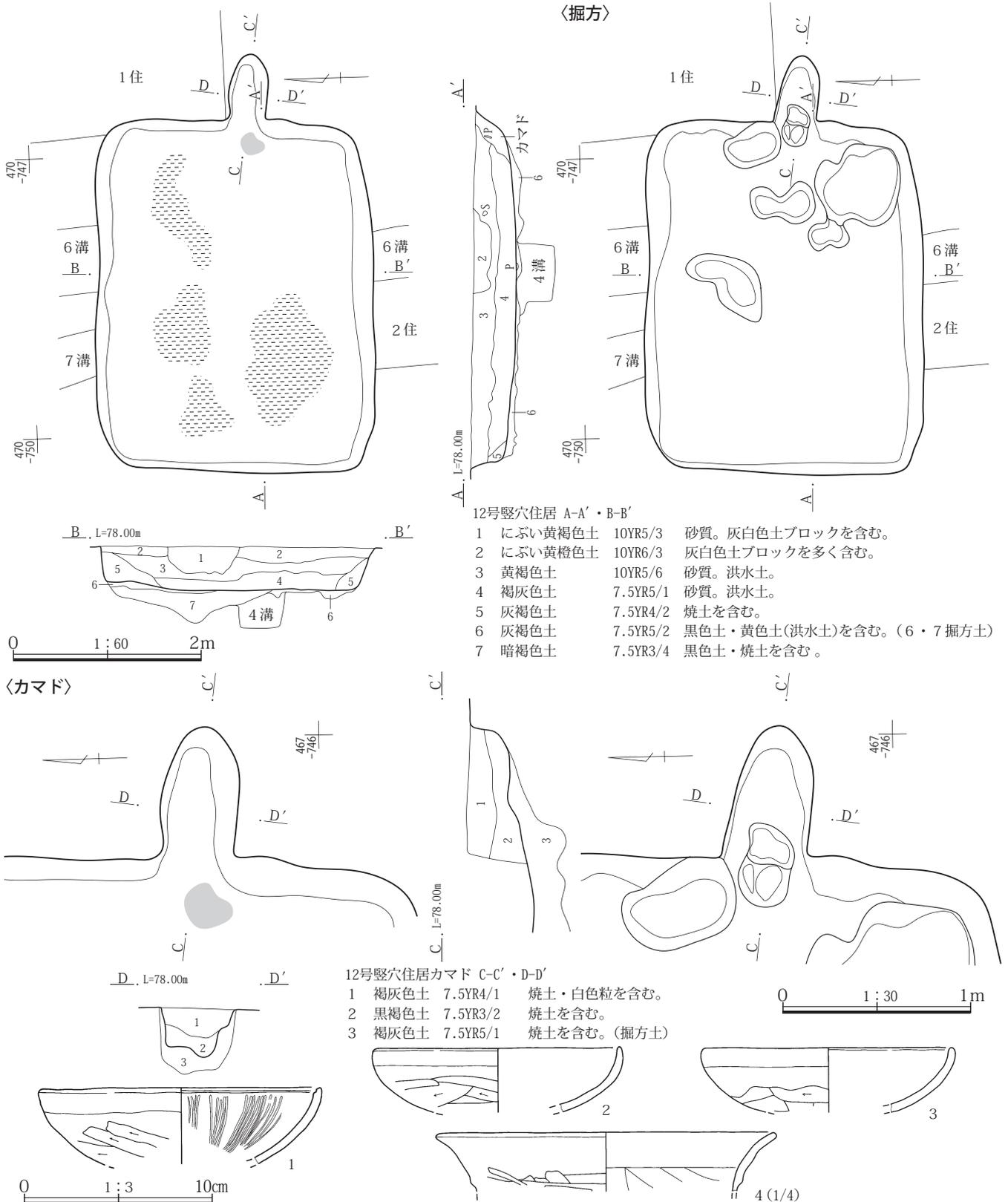
柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状またはピット状の落ち込みが見られ、平坦

ではない。

遺物と出土状態 土師器111点、須恵器3点が出土し、このうち4点を図示した。出土遺物は少なく、床面直上から出土した遺物はなかった。

所見 床面で検出した炭化物や焼けた粘土の分布などから焼失住居も想定されるが、根拠が少なく判断することができない。出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



第80図 2区12号竪穴住居と出土遺物

2区13号竪穴住居(第81図 PL.43)

位置 2区中央部西壁際

X=38,465 ~ 38,468 Y=-55,757 ~ -55,759

主軸方向 N-24° E

重複 14号住居と重複し、土層断面の観察から、本住居の方が新しい。

形状と規模 住居の大部分が調査区外で、平面形は不明である。検出した長軸長は2.61m、短軸長0.28m、遺構検出面から床面までの深さは0.21mである。

埋没土 暗褐色および褐色の砂質土を主体とする。

床面 詳細は不明である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は遺存しなかった。煙道の長さは0.37m、幅は0.37mである。煙道部に焼土の分布が認められ、この焼土はカマド天井崩落土と考えられる。

柱穴 不明である。 掘方 不明である。

遺物と出土状態 土師器33点、須恵器4点が出土し、このうち2点を図示した。土師器杯(1)、須恵器蓋(2)はともにカマド埋没土から出土した。床面から出土した遺物はなかった。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。

2区14号竪穴住居(第81図 PL.44)

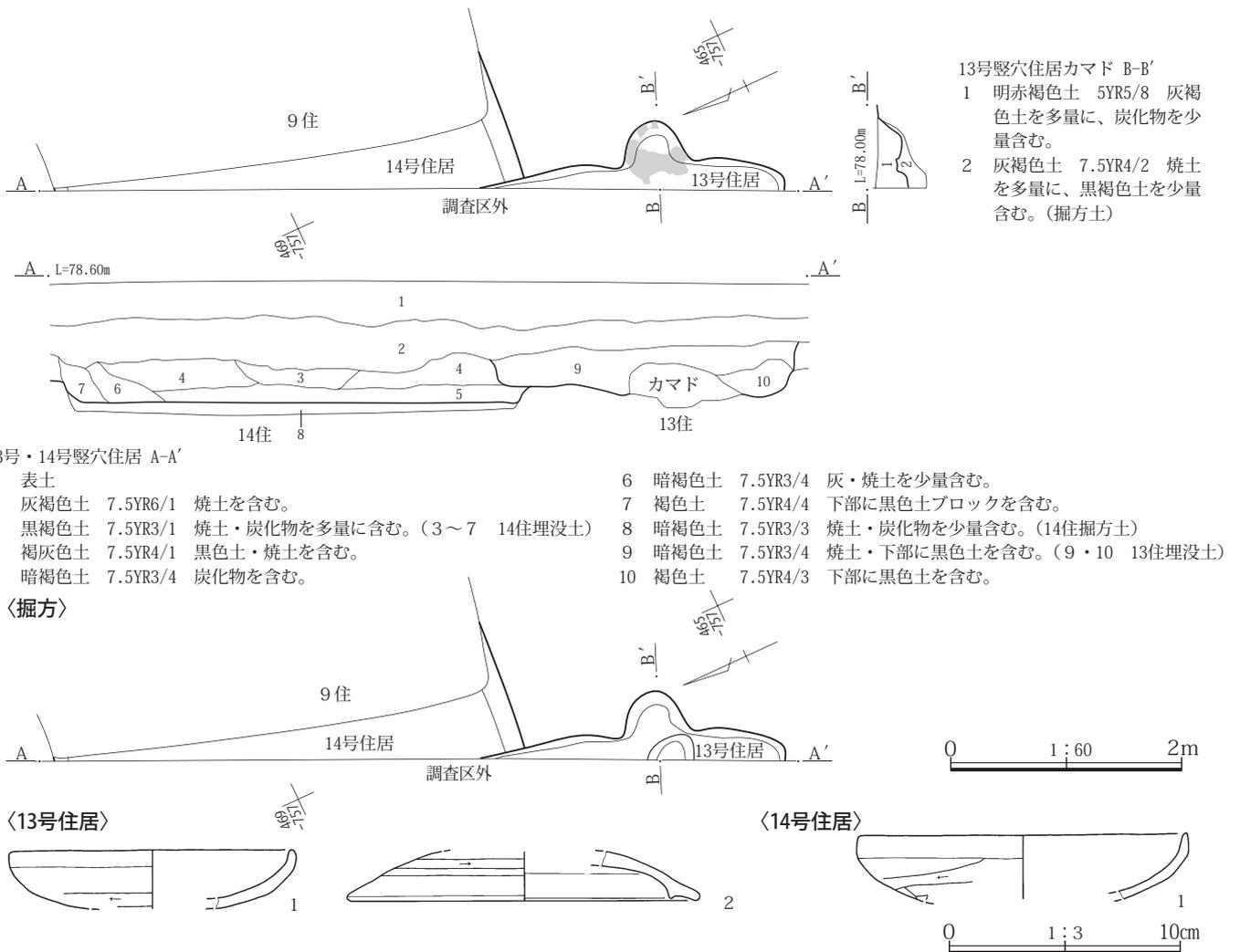
位置 2区中央部西壁際

X=38,466 ~ 38,471 Y=-55,755 ~ -55,758

主軸方向 N-19° E

重複 9号・13号住居と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、いずれの住居よりも本住居が古い。

形状と規模 ごく一部を調査したのみで、全体形は不明である。検出した長軸長は3.98m、短軸長0.54m、検出面から床面までの深さは0.2m、掘方底面までの深さは0.3mである。



第81図 2区13号・14号竪穴住居と出土遺物

埋没土 褐灰色土および暗褐色土を主体とする。3層は焼土および炭化物を多量に含んでいた。

床面 暗褐色土で構築され、平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 埋没土から土師器1点が出土し、これを図示した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。

2区15号竪穴住居(第82・83図 PL.44・45・112)

位置 2区北西部西壁際

X=38,487~38,491 Y=-55,746~-55,749

主軸方向 N-22°E

重複 なし

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は正方形また

は長方形と推定される。検出した長軸長は3.73m、短軸長1.22m、遺構検出面から床面までの深さは0.49m、掘方底面までの深さは0.55mである。

埋没土 褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

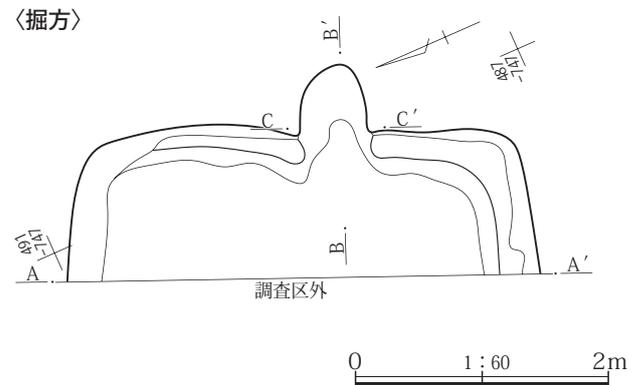
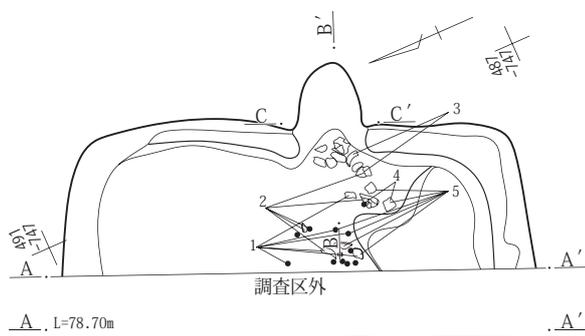
カマド 東壁で1か所検出した。袖の遺存状況は良好ではなく、煙道の長さは0.75m、幅は0.55mである。カマド周辺から土器片が多量に出土したが、大部分は2層から出土したものである。

柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

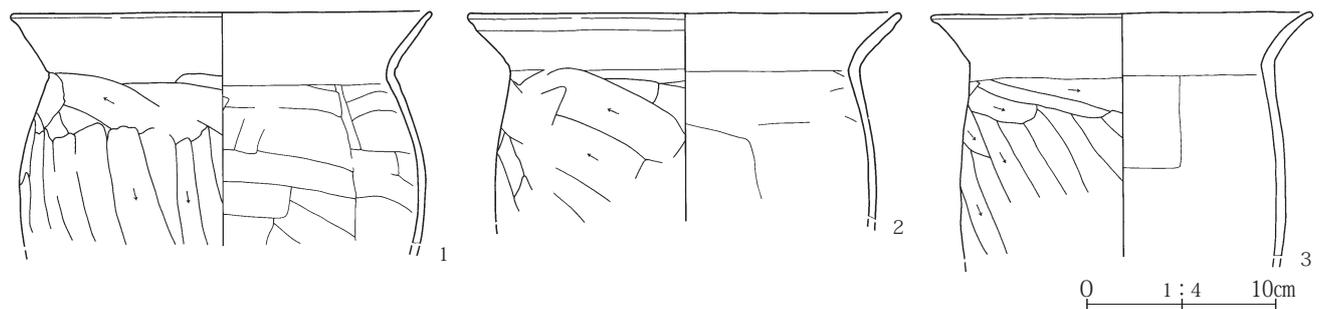
遺物と出土状態 土師器105点、須恵器2点が出土し、このうち5点を図示した。土師器甕(1~5)はカマドまたはカマド付近の埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



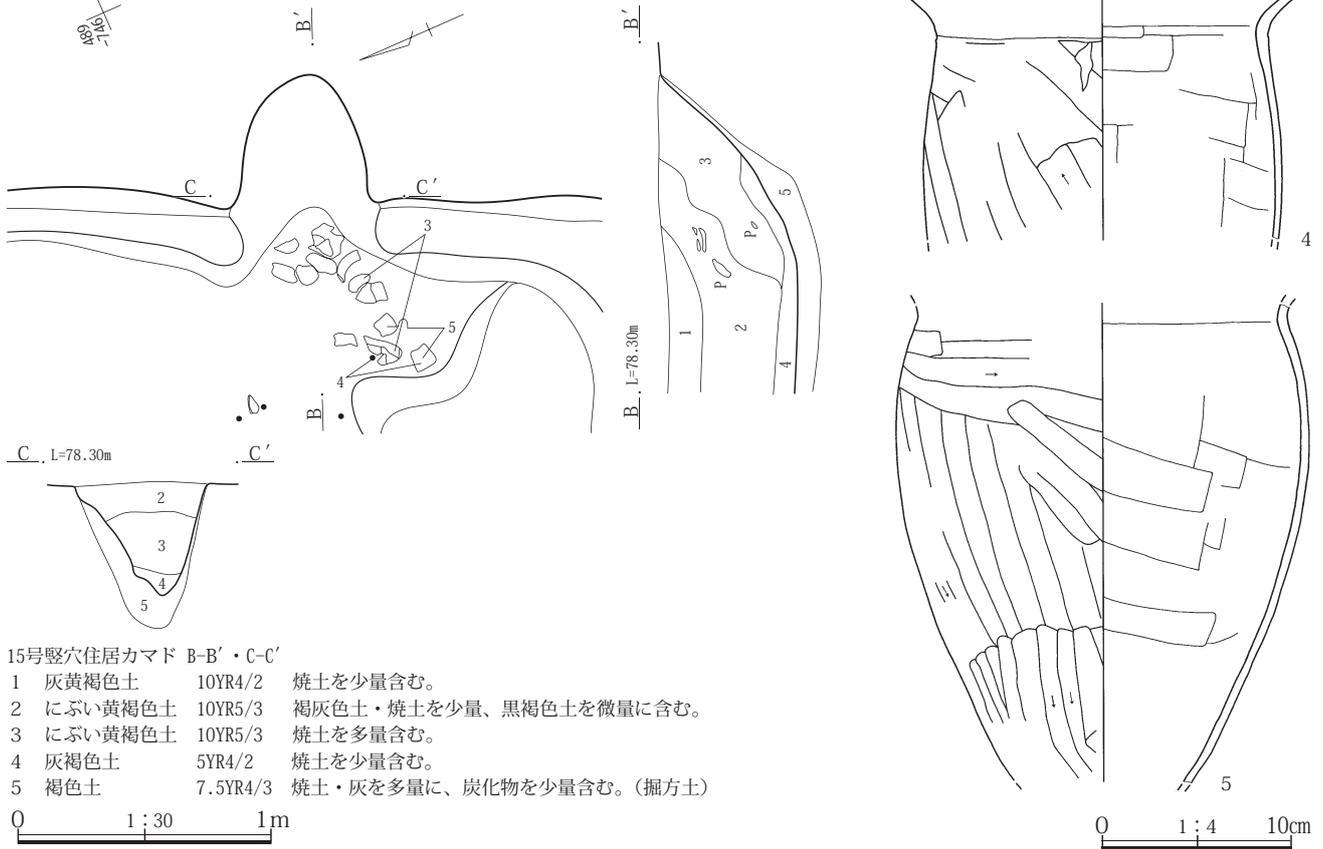
15号竪穴住居 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土を微量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/4 灰黄褐色土を多量に、にぶい黄褐色土・焼土を微量に含む。
- 3 褐色土 10YR4/4 灰黄褐色土を多量に、明黄褐色土を少量、焼土を微量に含む。
- 4 灰黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土を多量に、焼土を微量含む。
- 5 褐色土 10YR4/4 にぶい黄褐色土を多量に、黒褐色土・焼土を少量含む。(掘方土)



第82図 2区15号竪穴住居と出土遺物(1)

〈カマド〉



第83図 2区15号竪穴住居カマドと出土遺物(2)

2区16号竪穴住居(第84・85図 PL.45・46・112)

位置 2区北西部西壁際

X=38,492~38,497 Y=-55,744~-55,747

主軸方向 N-15°E

重複 17号住居と重複し、土層断面の観察から、17号住居より本住居が新しい。

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は4.22m、短軸長1.5m、遺構検出面から床面までの深さは0.15m、掘方底面までの深さは0.5~0.7mである。

埋没土 にぶい黄褐色または灰黄褐色の砂質土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 明黄褐色土および黒褐色土を含む灰黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は残存せず、煙道の長さは0.44m、幅は0.59mである。燃焼部および煙道では、長方形の大型礫1点を含む礫が6点出土した。大型礫は長径80cmで、石材は不明であるが、被熱により赤

色に変化していた。ほかの5点の礫は楕円形または長方形で、長径18~30cmである。大型礫と同様、被熱による赤色変化が認められた。いずれもカマドの構築材に使用されたと考えられる。また、礫の側では、土師器片が使用面より5cm上でまとまって出土している。

貯蔵穴 南東隅に1基確認した。平面形は円形で、長径59cm、短径58cm、床面から底面までの深さは23cmである。断面形は箱形で、埋没土は焼土を含むにぶい黄褐色土である。底面から出土した遺物はなかった。

柱穴 検出されなかった。

掘方 掘方調査中に床下土坑を1基検出した。土坑の大きさは長径は55cm、短径は45cm、床面から土坑底面までの深さは30cmである。6層には焼土が多量に含まれていた。

遺物と出土状態 土師器159点、須恵器18点が出土し、このうち6点を図示した。土師器甕(3・4・5)はカマド使用面直上で出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀後半と考えている。

2区17号竪穴住居(第84・85図 PL.45・46・112)

位置 2区北西部西壁際

X=38,491~38,494 Y=-55,744~-55,748

主軸方向 N-15°-E

重複 16号住居と重複し、土層断面の観察から、本住居の方が古い。

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は1.82m、短軸長1.81m、遺構検出面から床面までの深さは0.18m、掘方底面までの深さは0.58~0.9mである。

埋没土 にぶい黄褐色土または灰黄褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

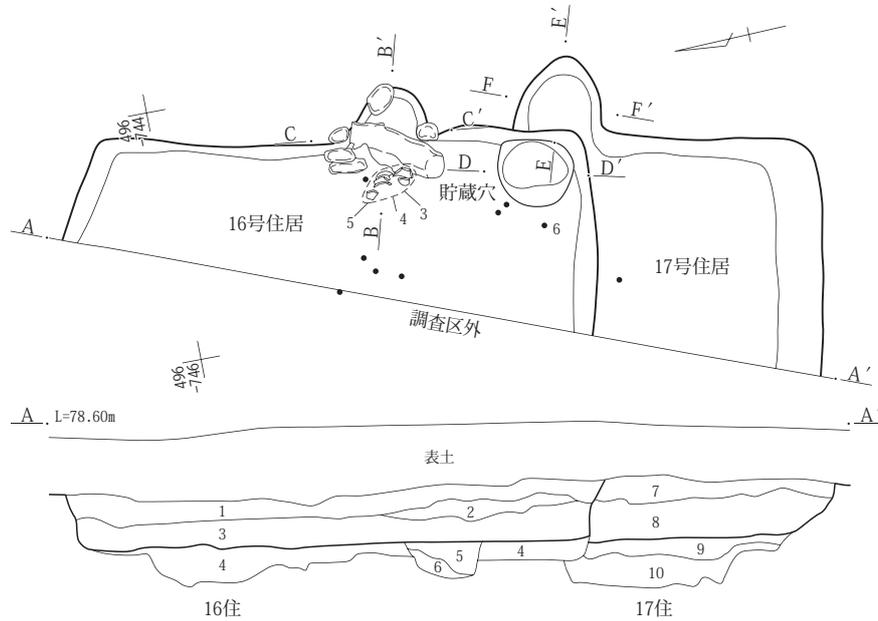
カマド 東壁で1か所検出した。左袖周辺は16号住居に切れ失われている。右袖も残っていない。検出された煙道の長さは0.58m、煙道の幅は0.63mである。

柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあり、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器93点、須恵器19点が出土し、このうち2点を図示した。須恵器蓋(1)は埋没土から、土師器甕(2)は掘方土から出土した。床面から出土した遺物はなかった。

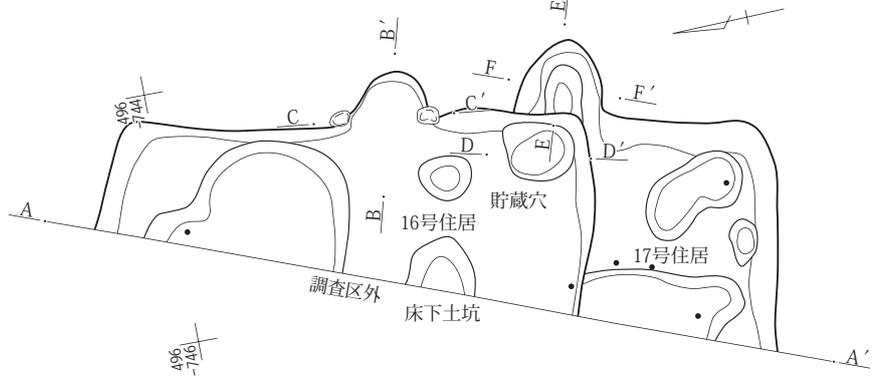
所見 出土遺物から、時期は9世紀後半と考えている。



16号・17号竪穴住居 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰黄褐色土を多量に、焼土を微量含む。
- 2 にぶい黄色砂質土 2.5Y6/4 灰黄褐色土を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR5/2 黄褐色土を多量に、焼土を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 10YR5/2 明黄褐色土を多量に、黒褐色土を少量、焼土を微量含む。(掘方土)
- 5 灰褐色土 7.5YR4/2 灰黄褐色土を多量に、焼土を少量、炭化物を微量含む。(5・6床下土坑)
- 6 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土を多量に、黒褐色土を少量、浅黄色土・灰を微量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 10YR5/4 明黄褐色土・焼土を微量含む。
- 8 灰黄褐色土 10YR4/2 にぶい黄褐色土を多量に、焼土を少量、浅黄色土・炭化物を微量含む。
- 9 褐灰色土 7.5YR5/1 褐色土・灰を多量に、焼土を少量、炭化物を微量含む。(9・10掘方土)
- 10 灰褐色土 5YR4/2 焼土・灰を多量に、黒褐色土を少量、浅黄色土を微量含む。

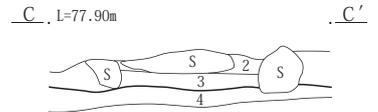
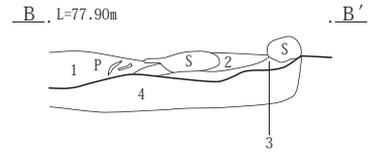
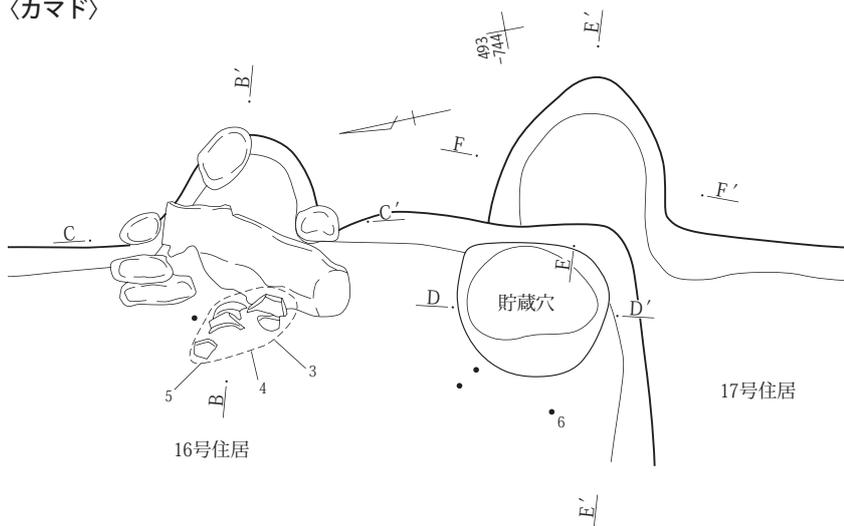
〈掘方〉



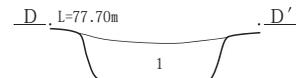
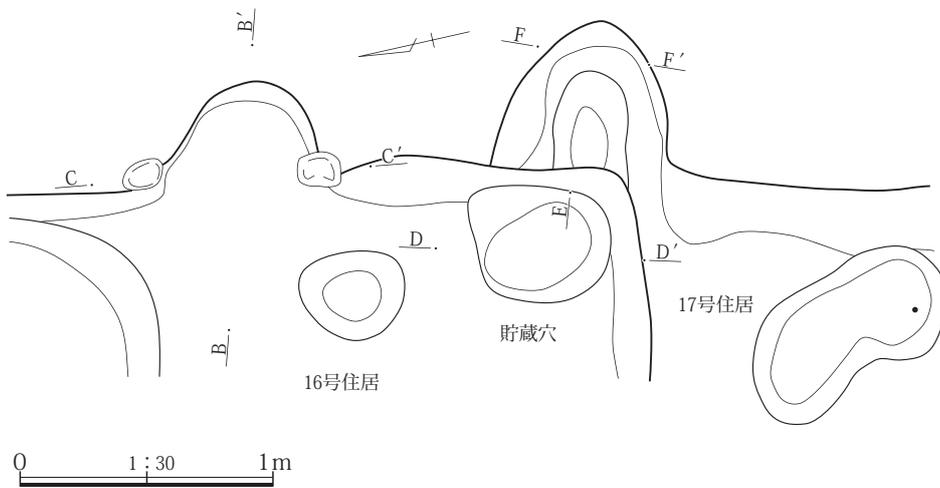
0 1:60 2m

第84図 2区16号・17号竪穴住居

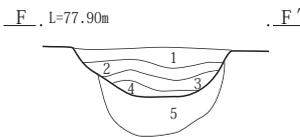
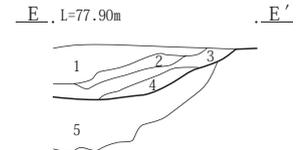
〈カマド〉



- 16号竪穴住居カマド B-B'・C-C'
- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 炭化物・焼土を微量含む。
 - 2 褐色土 7.5YR4/4 焼土を多量に、灰を微量含む。
 - 3 黒色土 10YR2/1 焼土を少量、下面に灰を多量に含む。
 - 4 にぶい褐色土 10YR5/4 黒褐色土を少量、焼土を微量含む。(掘方土)

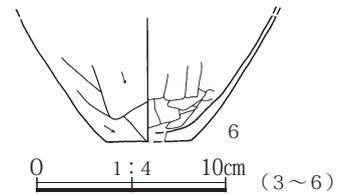
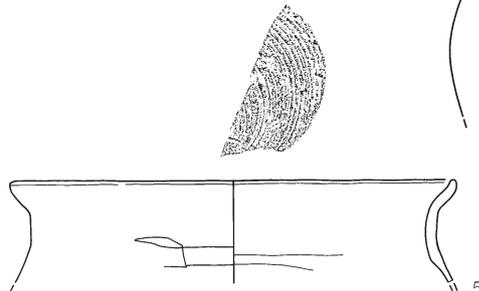
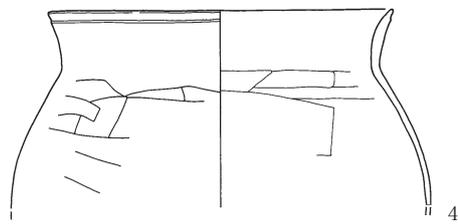
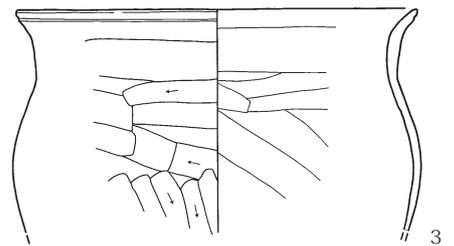
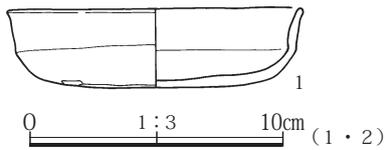


- 16号竪穴住居貯蔵穴 D-D'
- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黒褐色土を少量、焼土を微量含む。

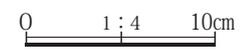
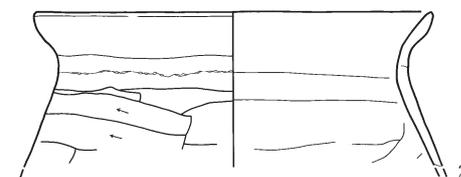
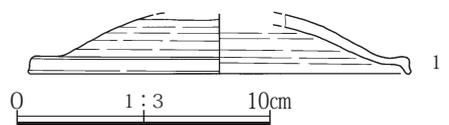


- 17号竪穴住居カマド E-E'・F-F'
- 1 灰褐色土 7.5YR4/2 炭化物・焼土を少量含む。
 - 2 灰色土 10YR4/1 焼土・炭化物を少量含む。
 - 3 にぶい褐色土 10YR5/4 灰・焼土・炭化物を微量含む。
 - 4 灰色土 10YR4/1 焼土・にぶい黄褐色土を少量含む。
 - 5 黒褐色土 10YR3/1 粘質土。焼土・灰を含む。(掘方土)

〈16号住居〉



〈17号住居〉



第85図 2区16号・17号竪穴住居カマドと出土遺物

3区1号竪穴住居(第86・87図 PL.47・112)

位置 3・4区調査区境

X=38,389~38,397 Y=-55,774~-55,779

主軸方向 N-11°-E

重複 2号住居と重複し、遺構検出時の観察から、本住居の方が古い。

形状と規模 攪乱やトレンチで失われている部分があるものの、全体形は長方形である。南北長は6.52m、東西長は2.95m、遺構検出面から床面までの深さは0.36m、掘方底面までの深さは0.7m、面積は約18.82㎡である。

埋没土 灰褐色土および暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

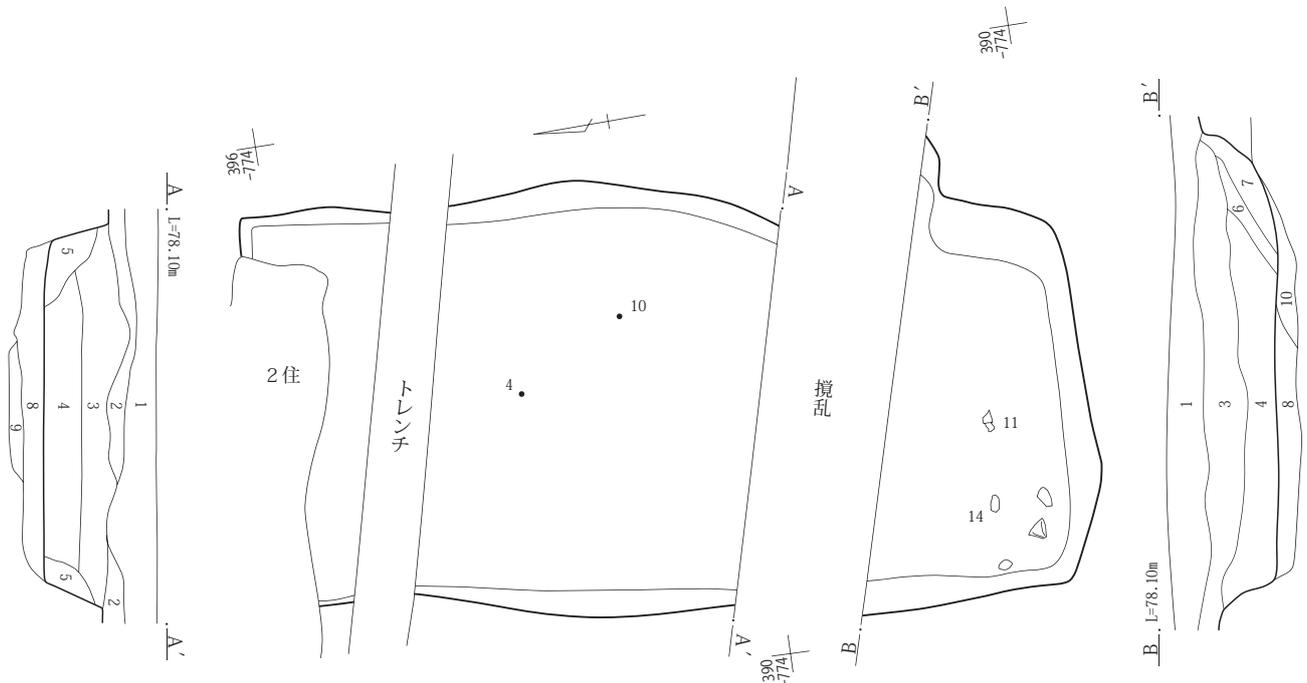
床面 焼土および黄色土ブロックを含む暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。大部分は攪乱で失われ、燃烧部および煙道の一部を調査したのみである。袖は遺存していなかった。燃烧部から煙道にかけて灰層が分布していた。

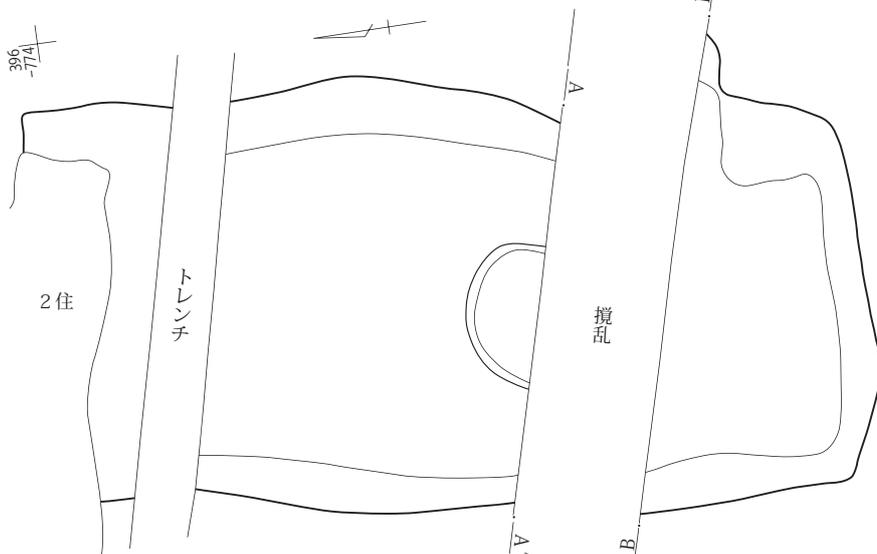
柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器970点、須恵器102点、時期不明土器1点、敲石1点が出土し、このうち14点を図示した。土師器甕(11)と敲石(14)は住居南西部の床面直上で出土



〈掘方〉



1号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 明黄褐色土 10YR6/6 洪水層由来の橙色砂質土を主体とし、これに暗褐色土が混じる。焼土粒を含む。
- 2 黄褐色土 10YR5/6 橙色砂粒を含む。
- 3 褐灰色土 10YR4/1 焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒・灰を含む。
- 5 褐色土 10YR4/4 黄褐色土(洪水土)ブロックを含む。
- 6 暗褐色土 10YR3/3 焼土を多量に含む。(6・7カマド埋没土)
- 7 暗褐色土 10YR3/3 焼土ブロック・黒色灰を多量に含む。
- 8 暗褐色土 10YR3/3 黄色土(洪水土)ブロック・焼土粒を含む。(8・9掘方土)
- 9 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒・炭化物を多量に含む。
- 10 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土・灰を多量に含む。(カマド掘方土)

0 1:60 2m

第86図 3区1号竪穴住居

した。このほか、南西隅では礫が3点床面直上でまとまって出土している。

所見 南北長が6m以上あり、平面形も不整形なことから、住居が重複していた可能性も否定できないが、埋没土や床面の高さなどを検討し、1棟の住居と判断した。出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。

3区2号竪穴住居(第88・89図 PL.48・49・113)

位置 3区南部

X=38,395～38,400 Y=-55,774～-55,779

主軸方向 N-0°

重複 1号住居・15号土坑・16号ピットと重複する。遺構検出時の観察より、本住居は1号住居より新しく、15号土坑・16号ピットより古い。

形状と規模 平面形は長方形で、南北長4.75m、東西長4.03m、遺構検出面から床面までの深さは0.38m、掘方底面までの深さは0.6m、面積は14.49㎡である。

埋没土 焼土粒を含む灰褐色土および褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。検出した袖の長さは左

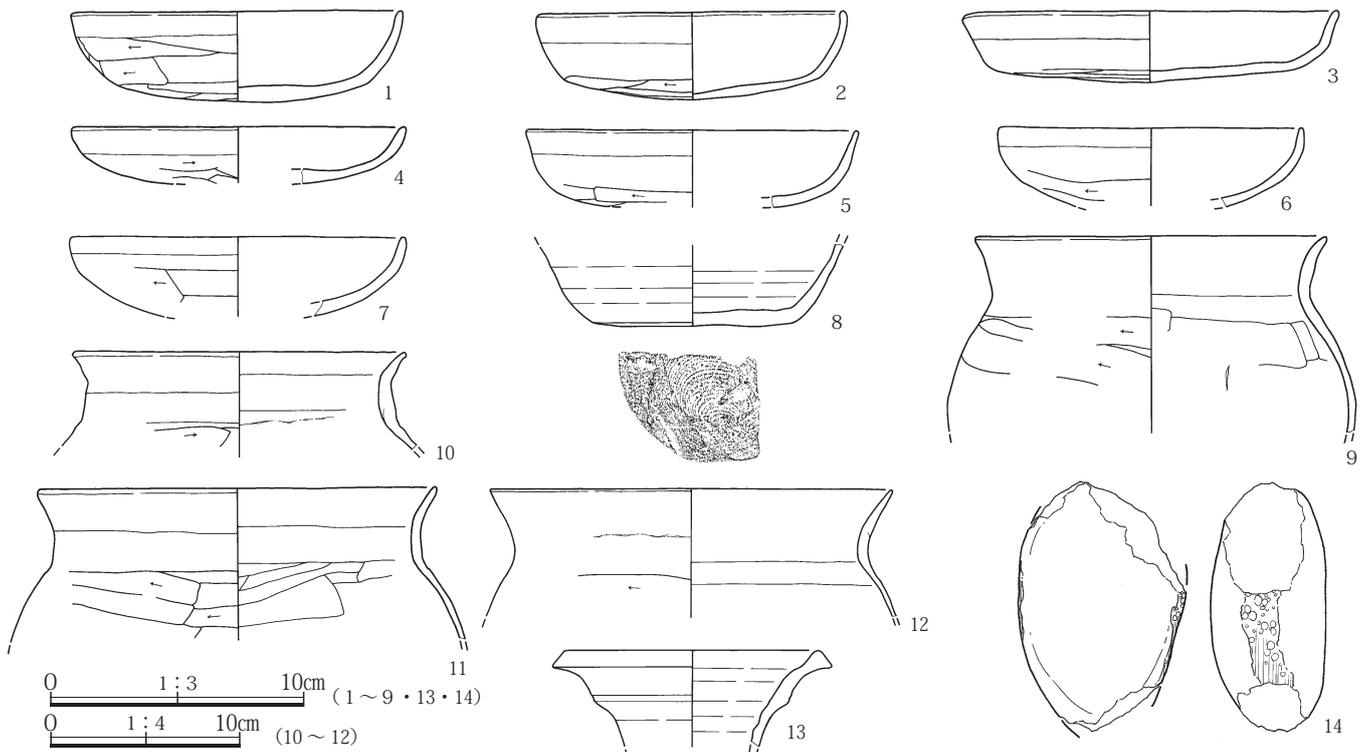
右それぞれ0.5m、0.9mで、両袖間の幅0.96m、燃烧部および煙道の長さは1.17mである。燃烧部から煙道にかけて広く焼土が分布していた。右袖付近では、焼土層の直上で土師器甕(13)および杯(4)の破片がまとまって出土した。同じく焼土層直上で、縦長の礫(長さ23cm)が1点出土している。また、右袖より南西に60cmの床面では、楕円形で25cm大の礫が出土した。この礫は被熱により表面が脆弱で、赤色変化していた。カマドの支脚として使用された可能性がある。

ピット 掘方調査中にP1が検出された。P1は北西隅で確認され、円形を呈し、長径・短径ともに28cm、床面からの深さは7～11cmである。P1はその位置から柱穴の可能性はあるが、周囲にほかの柱穴は認められず不明である。

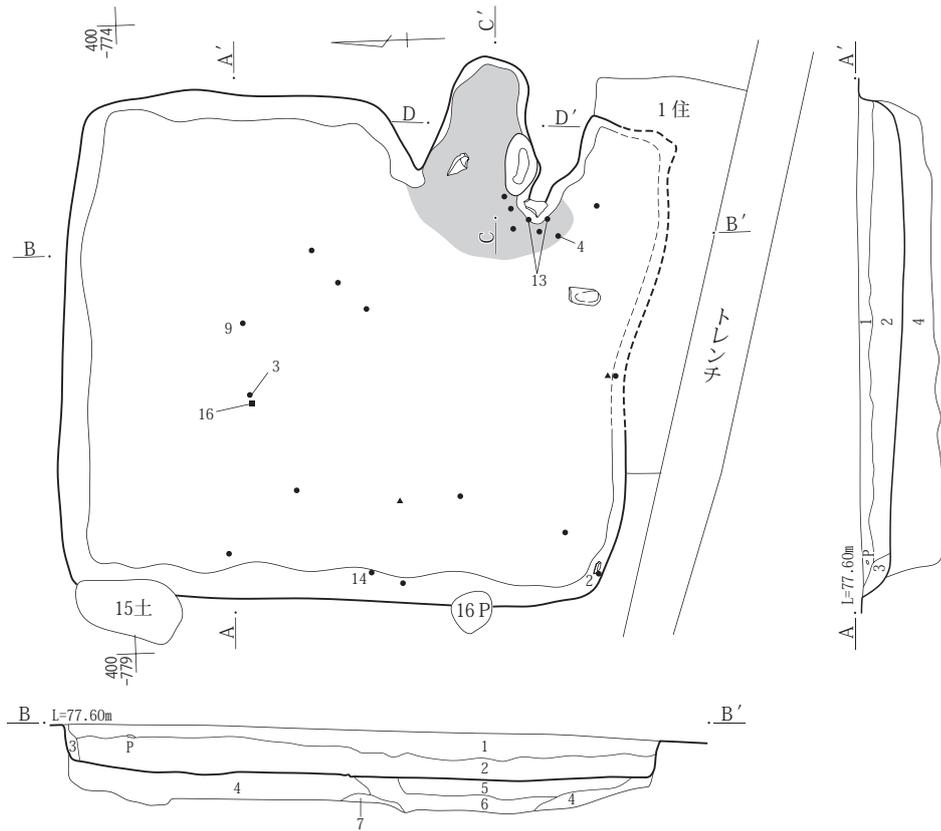
掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器710点、須恵器40点、鉄製品1点、敲石1点が出土し、このうち16点を図示した。土師器杯(3)は床面直上から、土師器甕(13)はカマド使用面直上から出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。

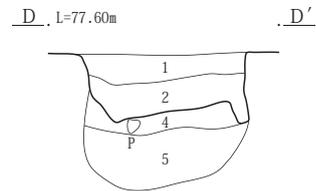
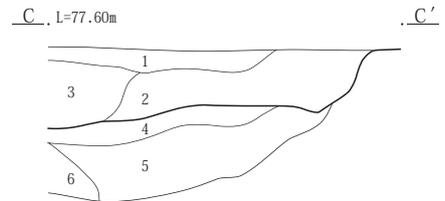
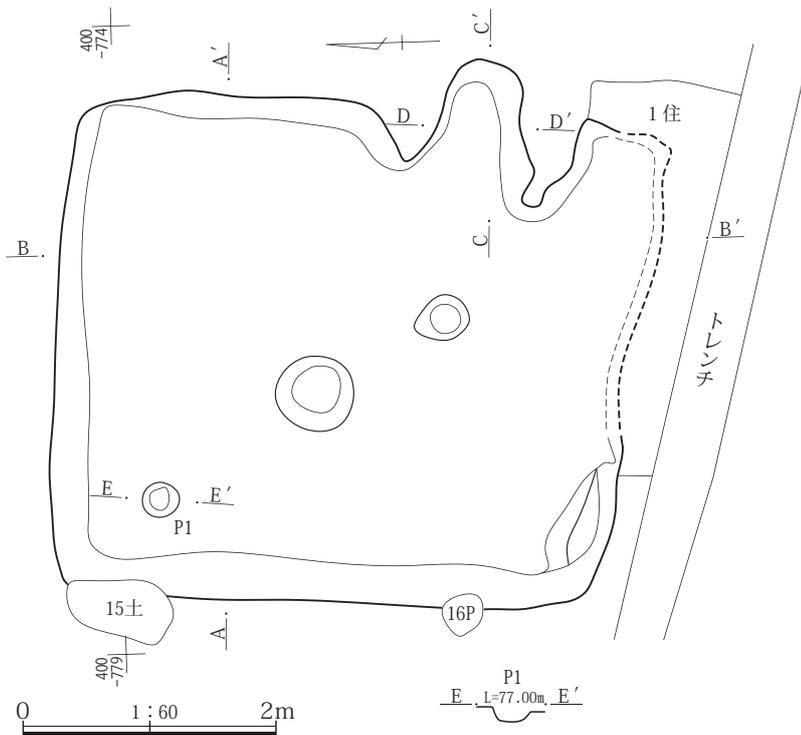


第87図 3区1号竪穴住居出土遺物



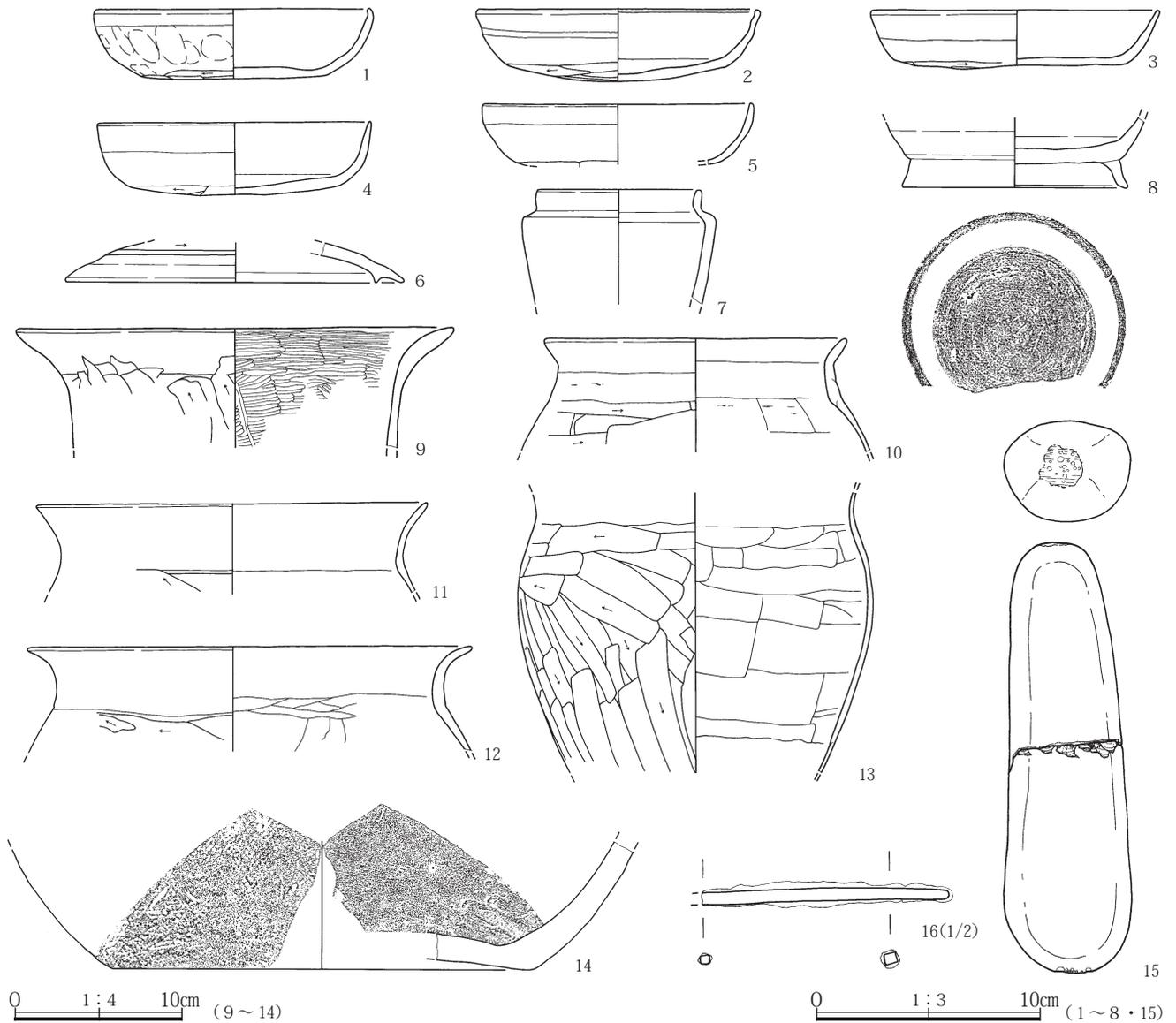
- 2号竪穴住居 A-A'・B-B'
- | | |
|---------------------------|------------------------------------|
| 1 灰褐色土 7.5YR5/1 焼土を微量に含む。 | 4 褐灰色土 7.5YR5/1 焼土・炭化物を含む。(4～7掘方土) |
| 2 褐灰色土 7.5YR5/1 焼土を多量に含む。 | 5 褐灰色土 7.5YR5/1 焼土・灰を多量に含む。 |
| 3 褐色土 7.5YR4/3 黒色粘質土を含む。 | 6 褐灰色土 7.5YR5/1 焼土を多量に含む。 |
| | 7 黒褐色土 7.5YR3/2 焼土を微量に含む。 |

〈掘方〉



- 2号竪穴住居カマド C-C'・D-D'
- | |
|--------------------------------|
| 1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土粒を多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 7.5YR3/4 灰・焼土ブロックを含む。 |
| 3 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土粒を少量含む。 |
| 4 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を含む。(4～6掘方土) |
| 5 褐灰色土 10YR5/1 焼土粒を多量に含む。 |
| 6 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土粒を含む。 |

第88図 3区2号竪穴住居



第89図 3区2号竪穴住居出土遺物

3区3号竪穴住居(第90・91図 PL.49・50・113)

位置 3区南西部

X=38,393～38,398 Y=-55,779～-55,784

主軸方向 N-1°-W

重複 なし

形状と規模 南部が攪乱で失われているものの、ほぼ全体を調査することができた。平面形は不整な長方形で、検出された南北長は4.06m、東西長は3.81mである。遺構検出面から床面までの深さは0.28m、掘方底面までの深さは0.37～0.58mである。

埋没土 褐色土および浅黄色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。1層の褐色土は洪水層由来の黄褐色土ブロックを多量に含む特徴的である。

床面 焼土を含む褐色土で構築されていた。部分的に洪

水層由来の黄褐色土が溝状に認められた。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は残っていなかった。煙道および燃烧部の長さは1.08m、幅は0.61mである。カマド周辺では、土師器杯や甕、シルト質の石がまとまって出土した。シルト質の石は床面から出土したもので、最大のものは長さが約50cmである。カマドの構築材に使用されていたものと推定される。

貯蔵穴 カマド南側に隣接して検出された。平面形は楕円形で、長径60cm、短径49cm、床面からの深さは20cmである。底面から土師器および須恵器の破片が5点まとまって出土した。

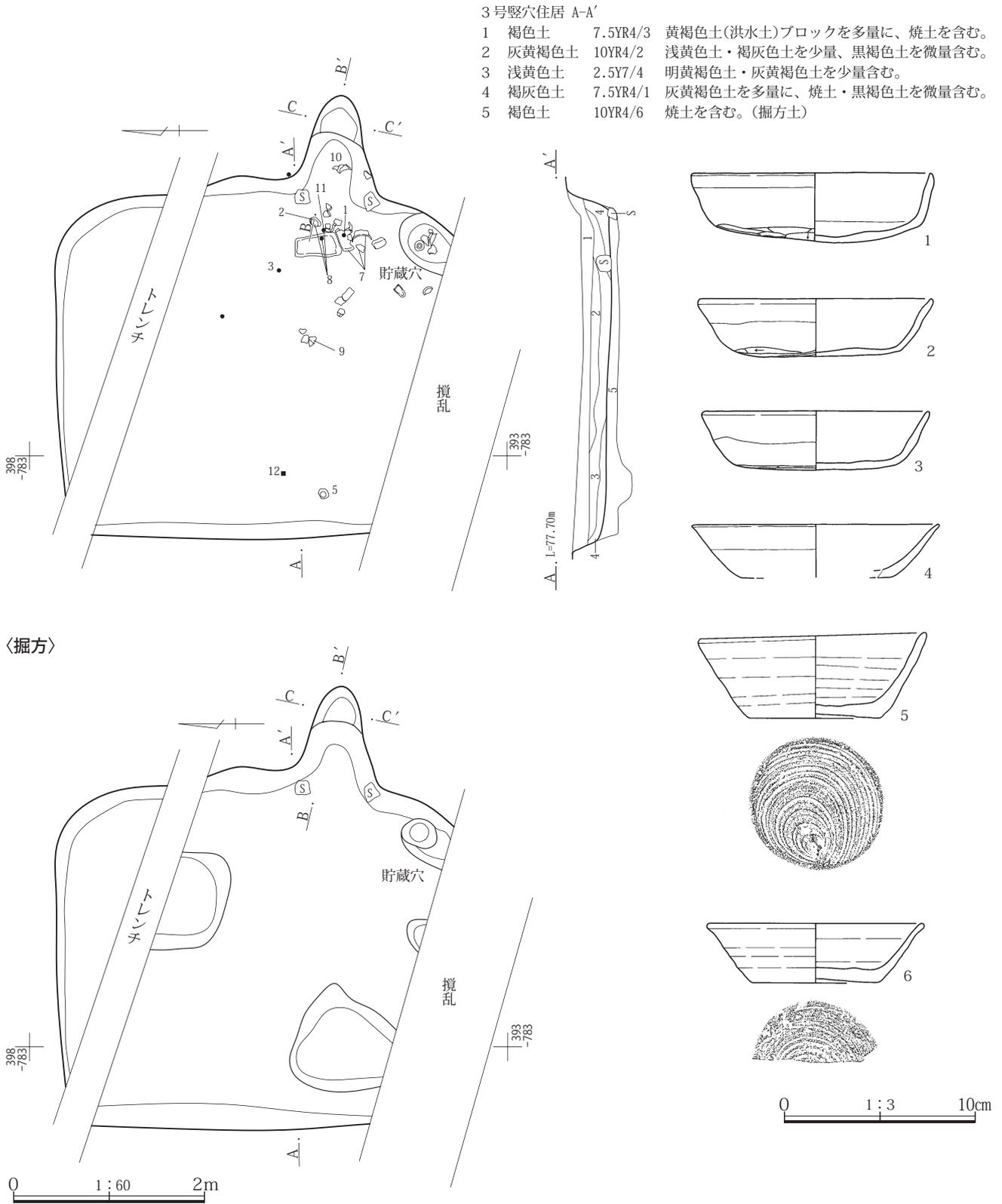
柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器339点、須恵器35点、鉄製品1点が出土し、このうち12点を図示した。土師器杯(3)は床面直上で出土した。また、須恵器杯(5)が床面に

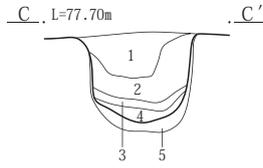
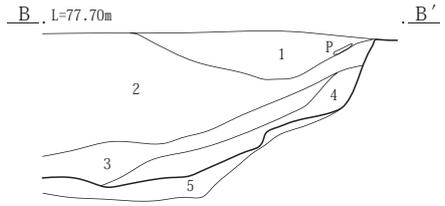
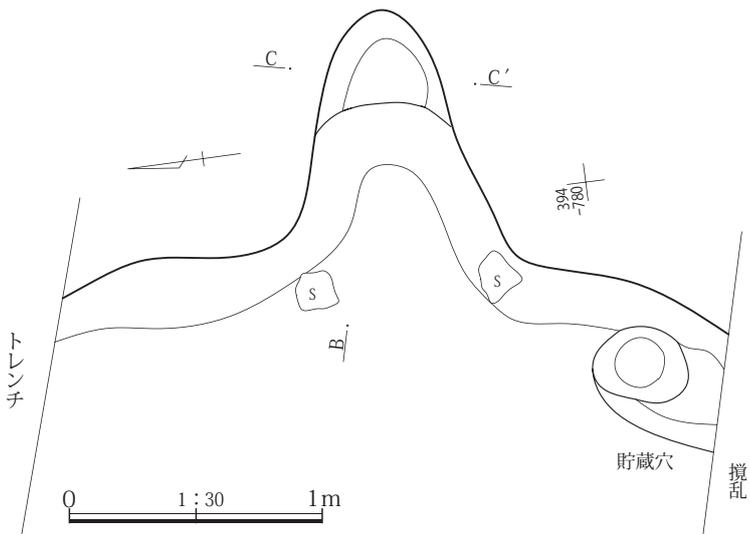
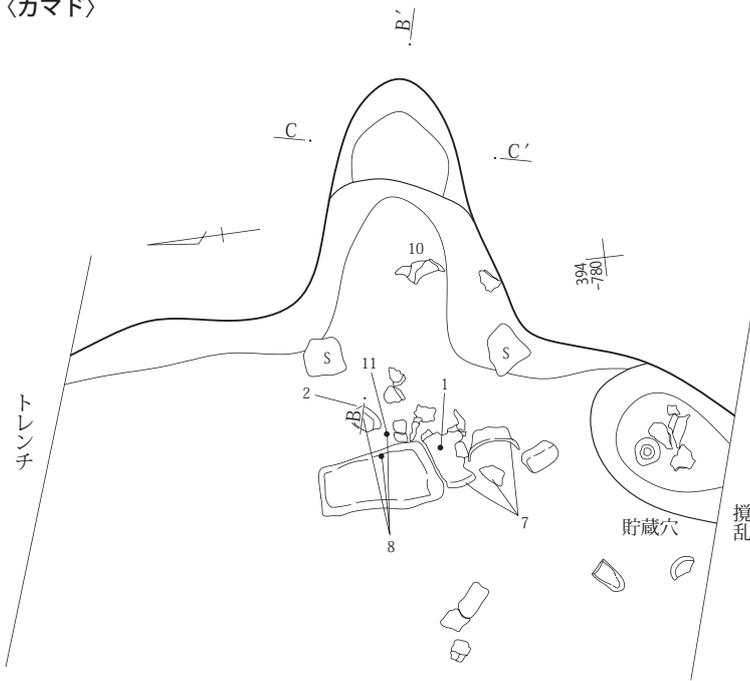
やや食い込むような状態で出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。



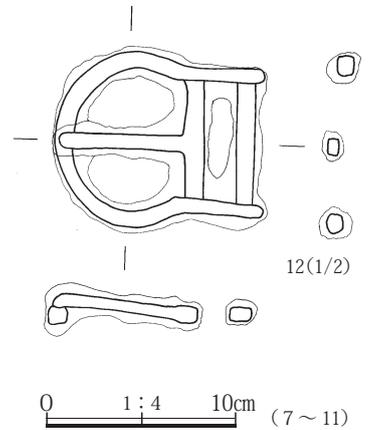
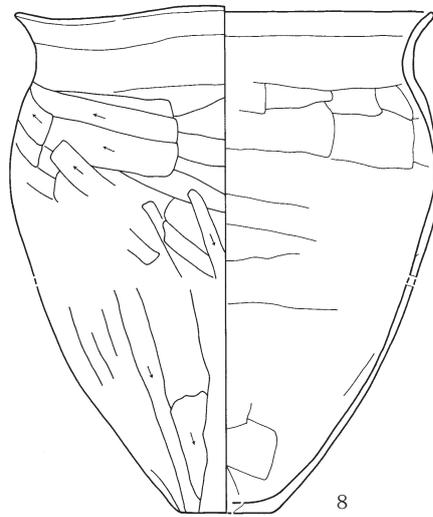
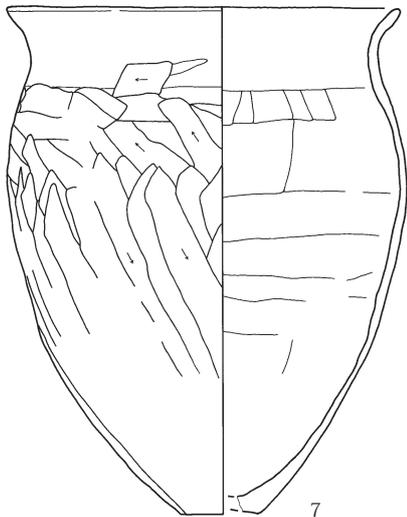
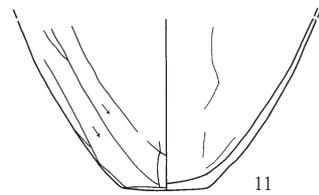
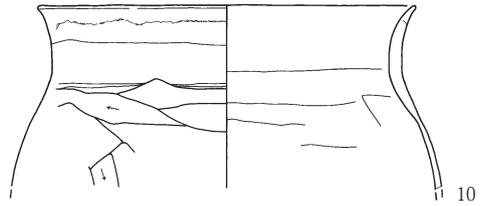
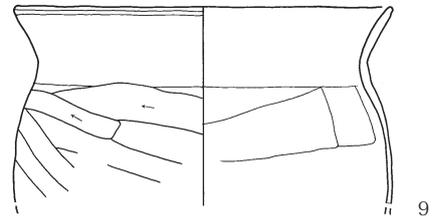
第90図 3区3号竪穴住居と出土遺物(1)

〈カマド〉



3号竪穴住居カマド B-B'・C-C'

- 1 褐色土 7.5YR4/3 黄色土(洪水土)・焼土を含む。
- 2 褐色土 10YR4/4 焼土を含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 黒色灰・焼土を多量に含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒・灰を含む。
- 5 黒褐色土 7.5YR2/2 灰・焼土を多量に含む。(掘方土)



第91図 3区3号竪穴住居カマドと出土遺物(2)

3区4号竪穴住居(第92・93図 PL.51・113)

位置 3区南西部西壁際

X=38,399~38,406 Y=-55,779~-55,784

主軸方向 N-22°-E

重複 12号住居、16号土坑、14号ピットと重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、本住居は12号住居より新しく、16号土坑および14号ピットより古い。

形状と規模 西部が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は5.62m、短軸長3.32m、遺構検出面から床面までの深さは0.23m、掘方底面までの深さは0.4~0.5mである。

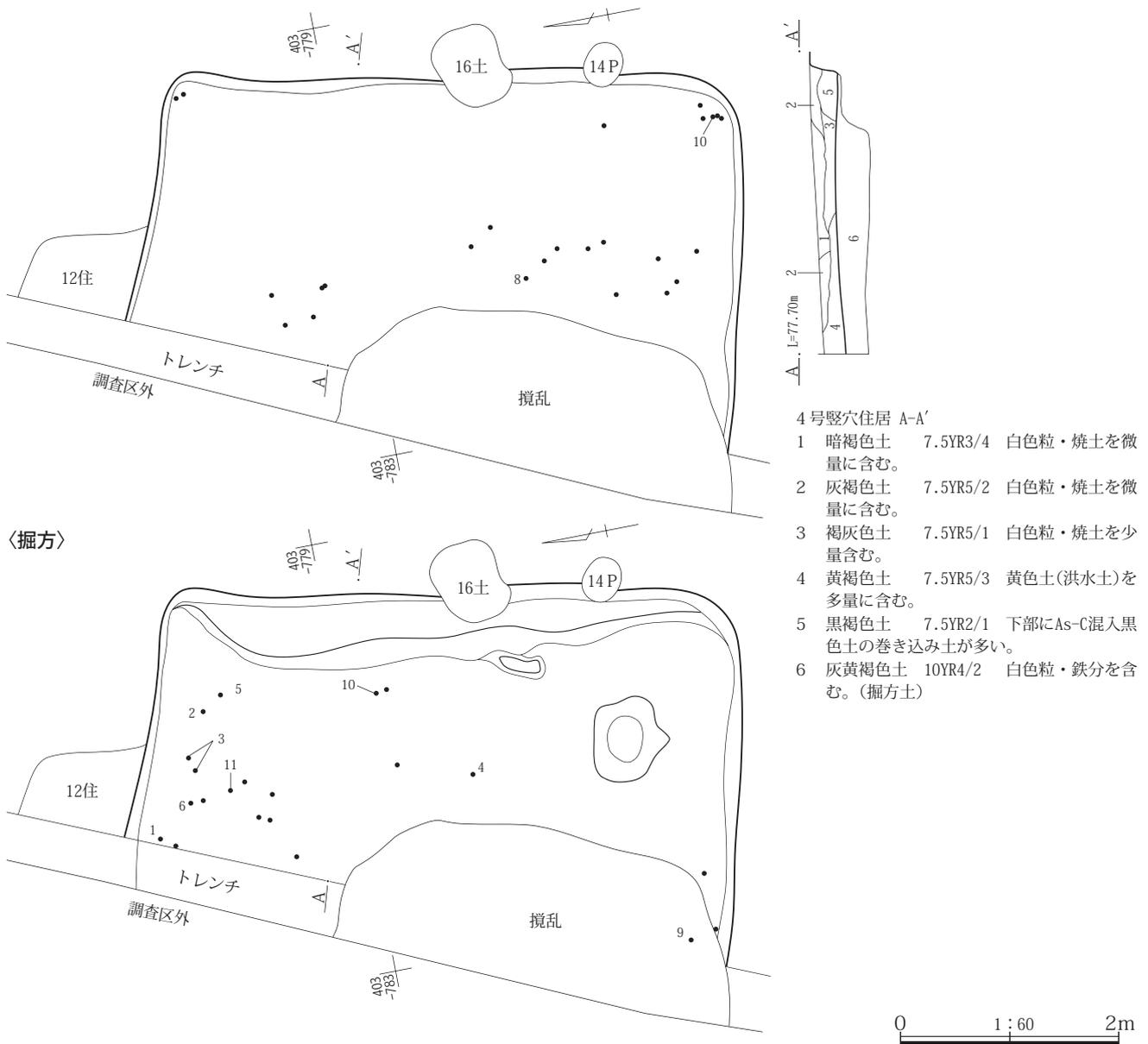
埋没土 暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。
床面 白色粒・鉄分を含む灰黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

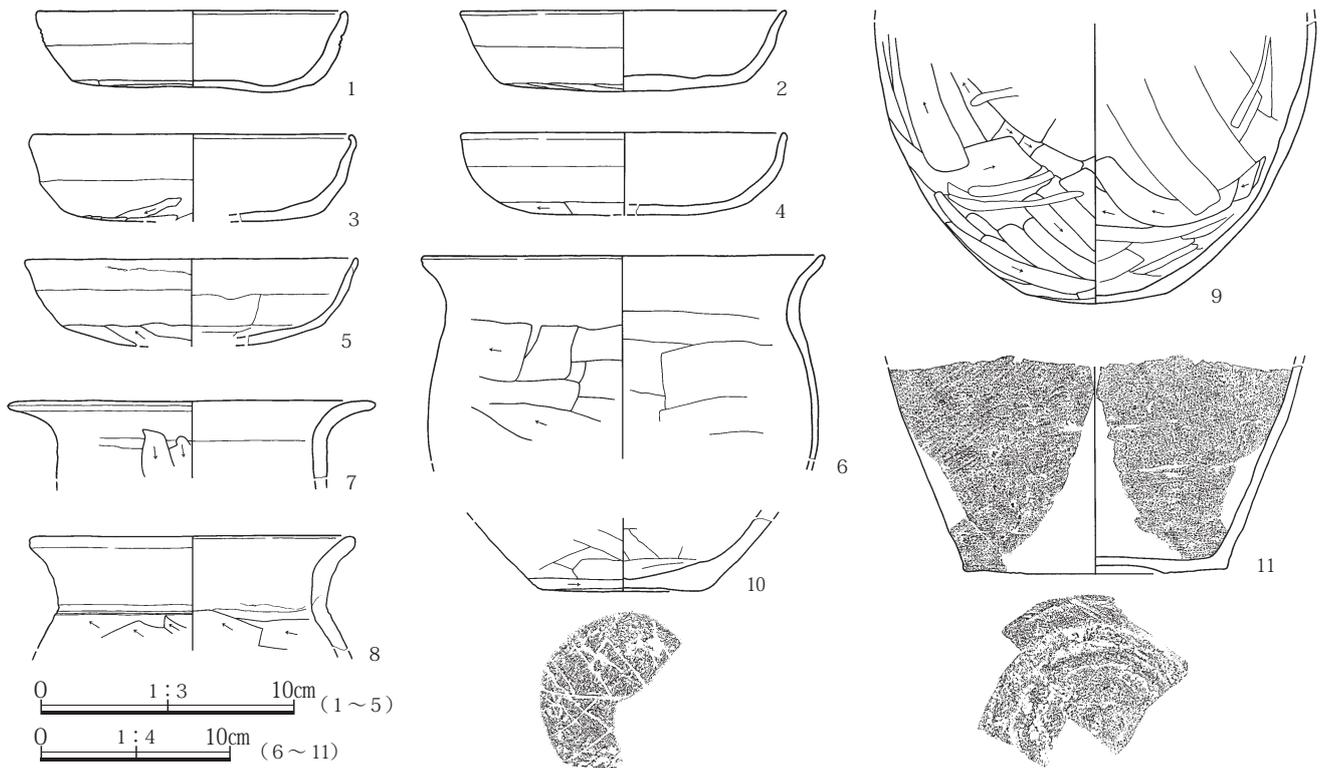
掘方 ピット状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器285点、須恵器17点、羽口1点が出土し、このうち11点を図示した。7・8・10は埋没土から、それ以外は掘方から出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀後半と考えている。



第92図 3区4号竪穴住居



第93図 3区4号竪穴住居出土遺物

3区5号竪穴住居(第94図 PL.52・113)

位置 3区南西部中央寄り

X=38,402 ~ 38,407 Y=-55,775 ~ -55,780

主軸方向 N-14°-E

重複 13号・14号住居および17号ピットと重複する。遺構検出時の観察および出土遺物から、本住居は13号・14号住居より新しく、17号ピットより古い。

形状と規模 遺存状況は良好ではなかったが、全体を調査することができた。平面形は長方形で、西壁の長さは3.83m、北壁の長さは2.33m、遺構検出面から床面までの深さは0.04m、掘方底面までの深さは0.1～0.34m、面積は9.49㎡である。

埋没土 焼土を含む灰褐色土を検出した。

床面 焼土を含む灰褐色土で構築されていた。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は残っていなかった。検出した煙道および燃焼部の長さは0.7m、幅は1.0mである。燃焼部は壁外に伸び、灰を多量に含む焼土層が広く分布していた。

貯蔵穴 カマド南部に隣接して検出された。平面形は不整な楕円形で、長径0.75m、短径0.49m、床面からの深さは0.06mである。長さ23cmの縦長の角礫が底面から出

土した。礫の表面は被熱により一部赤色に変化し、亀裂が多数入っていた。カマドの構築材に使用した可能性がある。

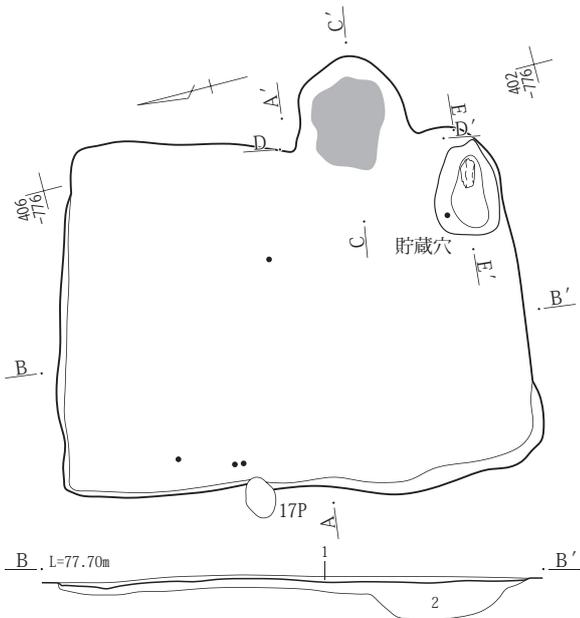
柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状およびピット状の落ち込みが認められた。掘方調査中に、床下土坑を1基検出した。楕円形を呈し、長径1.03m、短径0.87m、掘方底面からの深さは0.19mである。

遺物と出土状態 土師器45点、須恵器6点、灰釉陶器1点が出土し、このうち2点を図示した。灰釉陶器皿(1)、須恵器羽釜(2)は埋没土から出土した。

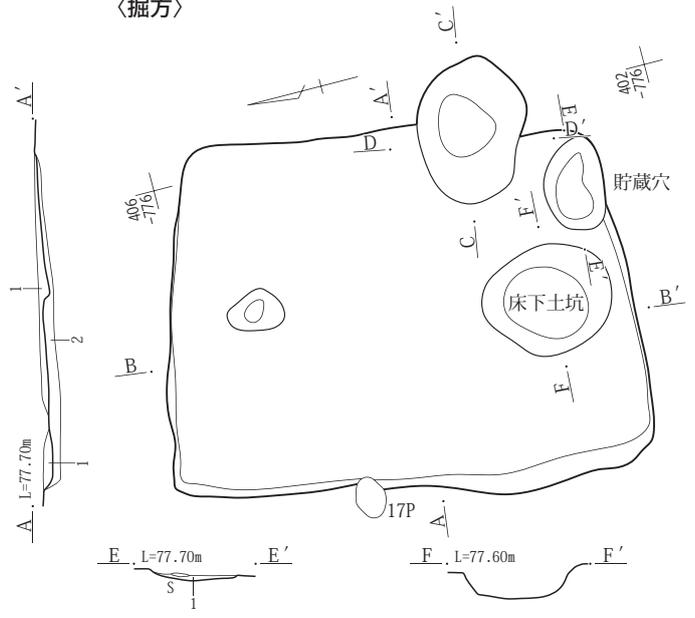
所見 出土遺物から、時期は10世紀後半と考えている。

〈掘方〉



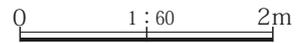
5号竖穴住居 A-A'・B-B'

- 1 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土・炭化物・灰を含む。
- 2 灰褐色土 7.5YR5/2 焼土・炭化物を含む。(掘方土)

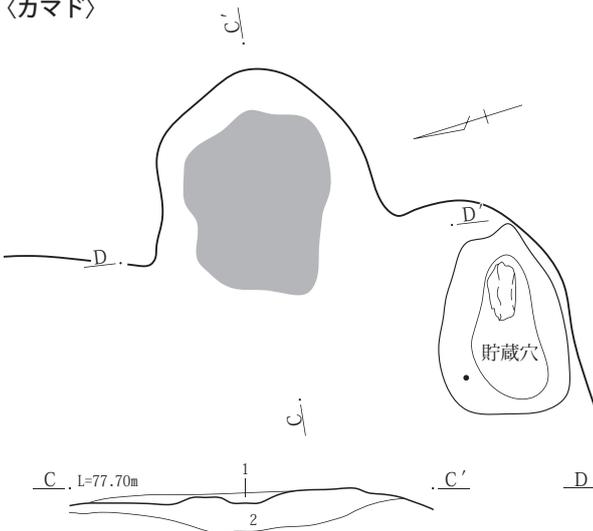


5号竖穴住居貯蔵穴 E-E'

- 1 褐灰色土 7.5YR5/1 焼土・灰を多量に含む。

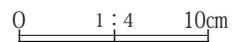
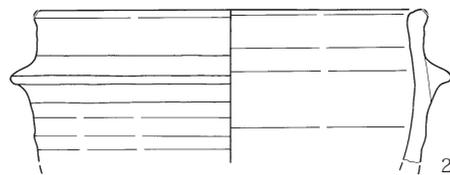
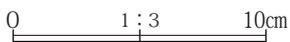
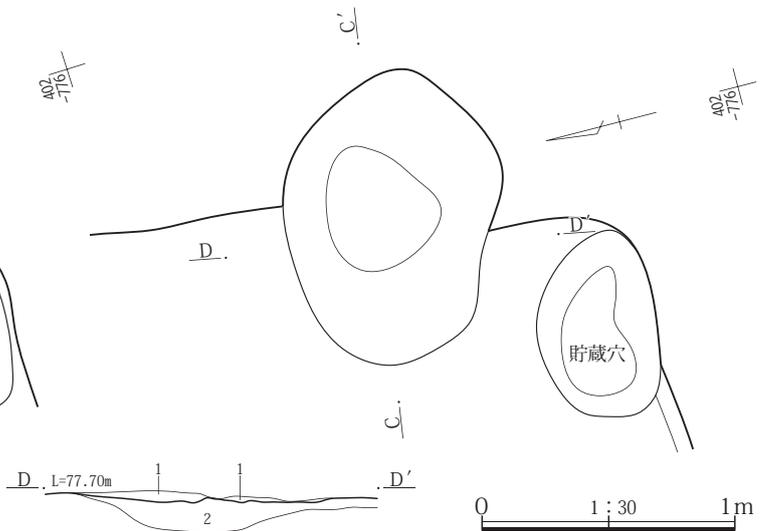


〈カマド〉



5号竖穴住居カマド C-C'・D-D'

- 1 黒色土 7.5YR2/1 灰・焼土を多量に含む。
- 2 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土を含む。(掘方土)



第94図 3区5号竖穴住居と出土遺物

3区6号竪穴住居(第95・96図 PL.53・113)

位置 3区中央部西壁際

X=38,407~38,413 Y=-55,776~-55,781

主軸方向 N-25°-E

重複 13号住居と重複する。遺構検出時の観察から、本住居の方が新しいと判断して調査を進めたが、出土土器を検討した結果、13号住居の方が新しいと判断した。

形状と規模 西部が調査区外のため、一部のみの調査であるが、平面形は正方形または長方形と推定される。東壁の長さは5.55m、検出した北壁の長さは1.82m、遺構検出面から床面までの深さは0.53m、掘方底面までの深さは0.7~0.93mである。

埋没土 焼土を含む暗褐色土および褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。1~3層は鉄分を多く含む。

床面 焼土ブロックを含む暗褐色土で構築され、平坦で

ある。

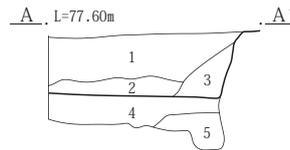
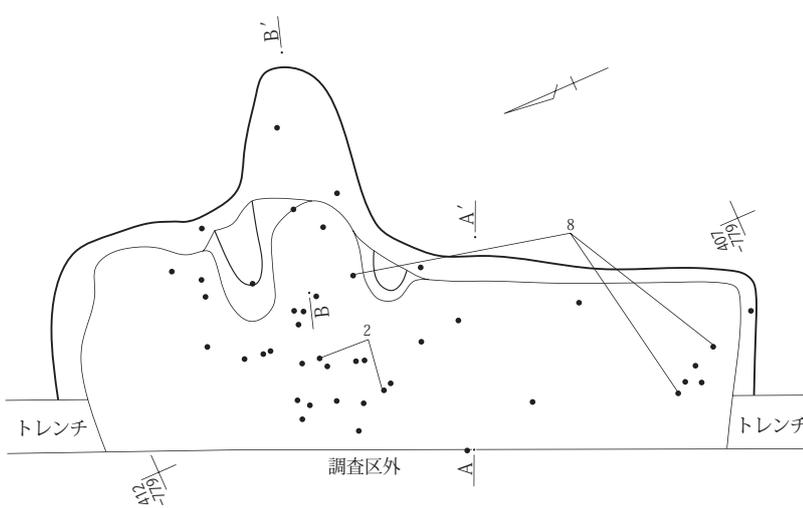
カマド 東壁で1か所検出した。両袖とも残存するが、左袖の方が残りがよかった。検出した左袖の長さは0.94m、右袖の長さは0.48m、焚き口幅は1.22m、焚き口から煙道までの長さは1.96mである。燃烧部から煙道にかけて焼土が分布していた。

柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器650点、須恵器25点が出土し、このうち9点を図示した。土師器甕(8)はカマド使用面および床面直上から出土したものが接合した。1~3・6・7は埋没土から、4・5・9は掘方土から出土した。

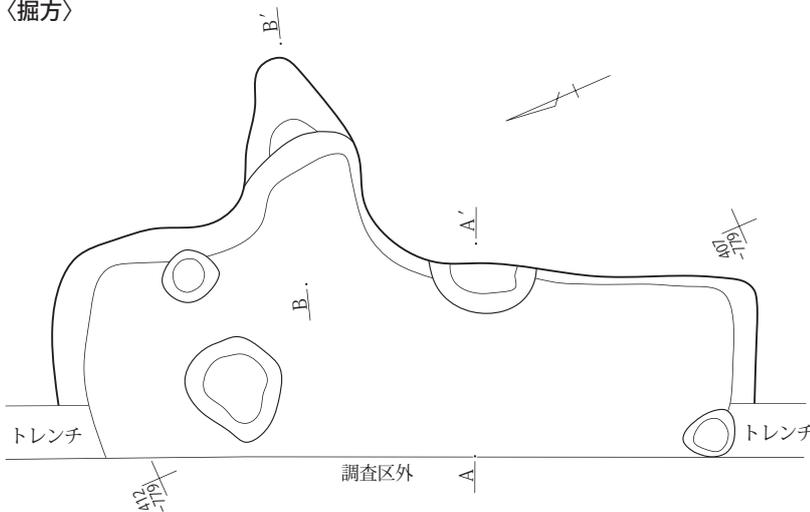
所見 出土遺物から、時期は7世紀後半と考えている。



6号竪穴住居 A-A'

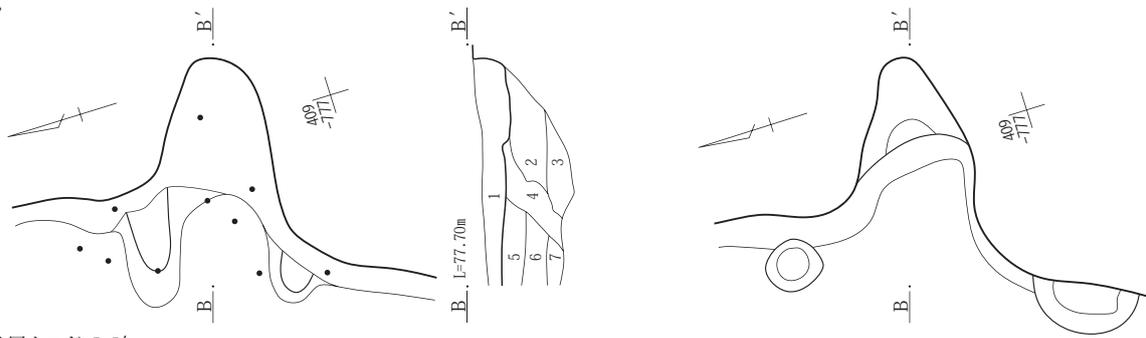
- 1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を多量に含む。
- 2 褐色土 7.5YR4/4 焼土を少量含む。
- 3 灰褐色土 5YR5/2 白色軽石を含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/2 焼土ブロックを含む。(4・5掘方土)
- 5 黒褐色土 5YR3/1 焼土・白色軽石を含む。

〈掘方〉



第95図 3区6号竪穴住居

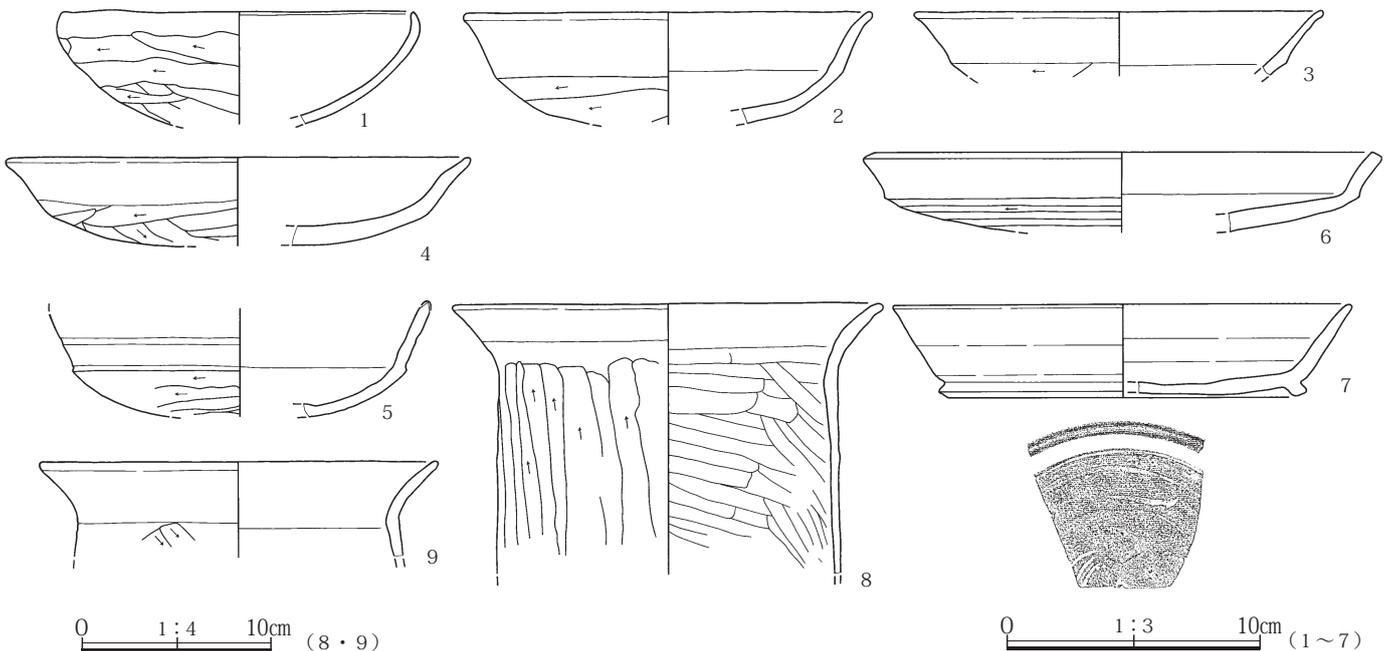
〈カマド〉



6号竪穴住居カマド B-B'

- | | |
|--|-------------------------|
| 1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土粒を多量に含む。 | 4 灰褐色土 5YR4/2 焼土を多量に含む。 |
| 2 暗褐色土 10YR3/3 焼土ブロック・焼土粒・灰の塊を含む。
(2～7カマド掘方土) | 5 褐灰色土 5YR5/1 焼土粒・灰を含む。 |
| 3 黒褐色土 10YR3/2 焼土ブロックを多量に含む。 | 6 灰褐色土 5YR5/2 焼土を含む。 |
| | 7 黒褐色土 5YR3/1 焼土を微量に含む。 |

0 1:30 1m



第96図 3区6号竪穴住居カマドと出土遺物

3区7号竪穴住居(第97図 PL.53・113)

位置 3区中央部

X=38,406～38,412 Y=-55,770～-55,775

主軸方向 N-72°-E

重複 19号土坑と重複し、遺構検出時の観察から、本住居の方が古い。

形状と規模 埋没土の遺存状況は良くなかったが、全体形を把握することができた。平面形は長方形で、南壁の長さは4.22m、西壁の長さは3.75m、遺構検出面から床面までの深さは0.04m、掘方底面までの深さは0.1～0.25m、面積は13.74㎡である。

埋没土 1層検出し、炭化物を微量に含む灰褐色土であ

る。

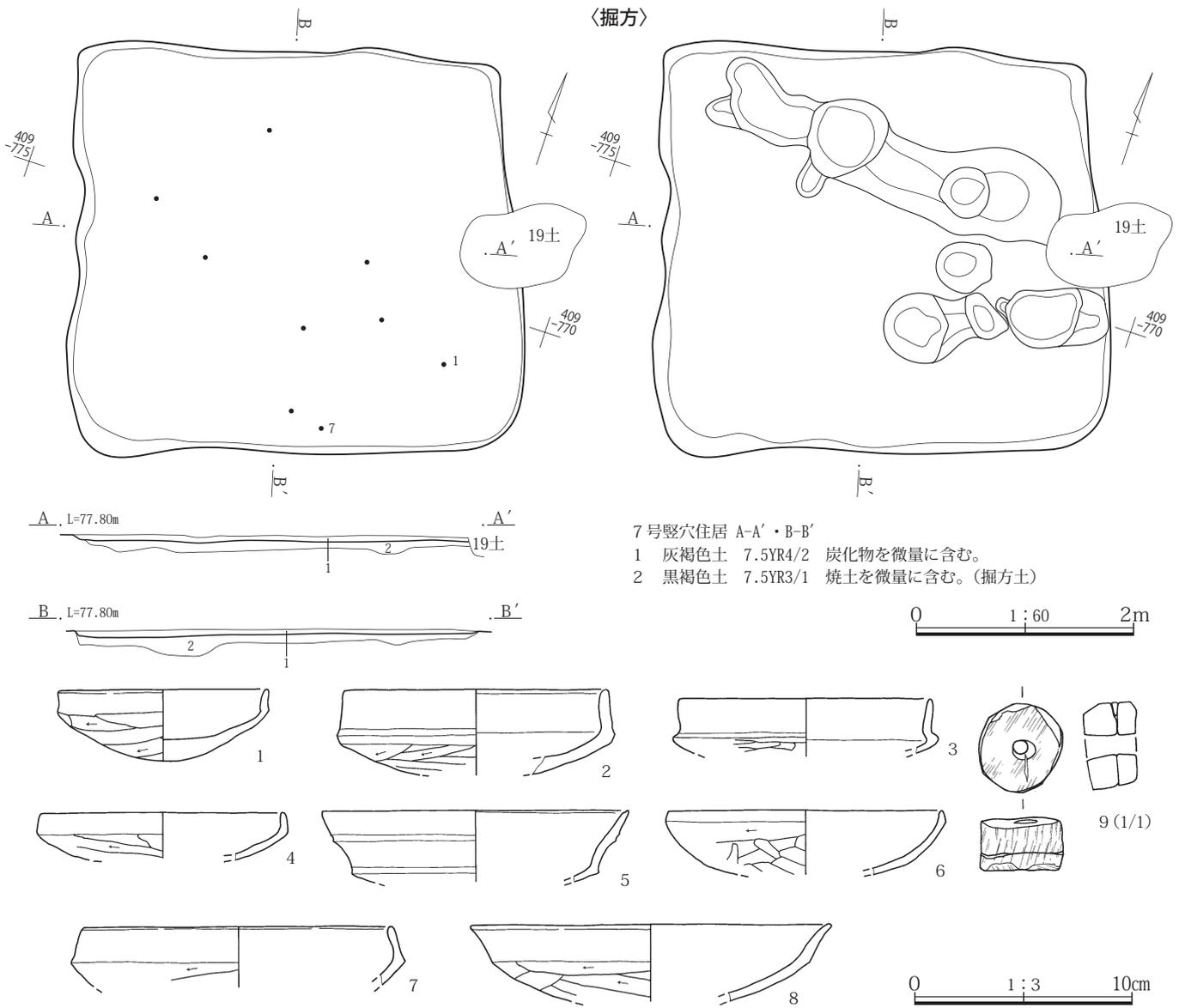
床面 焼土を微量に含む黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器265点、須恵器3点、石製品1点が出土し、このうち9点を図示した。土師器杯(1・7)は床面直上から出土した。9は滑石製の白玉で、埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀後半と考えている。



第97図 3区7号竪穴住居と出土遺物

3区8号竪穴住居(第98図 PL.54)

位置 3区北東部

X=38,417~38,421 Y=-55,763~-55,767

主軸方向 N-17°-E

重複 なし

形状と規模 平面形は正方形で、東壁の長さは2.93m、北壁の長さは2.86m、遺構検出面から床面までの深さは0.06m、掘方底面までの深さは0.25~0.3m、面積は6.97㎡である。

埋没土 暗灰黄色土1層を検出した。焼土・灰を含んでいる。

床面 焼土を少量含む灰褐色土で構築され、ほぼ平坦で

ある。

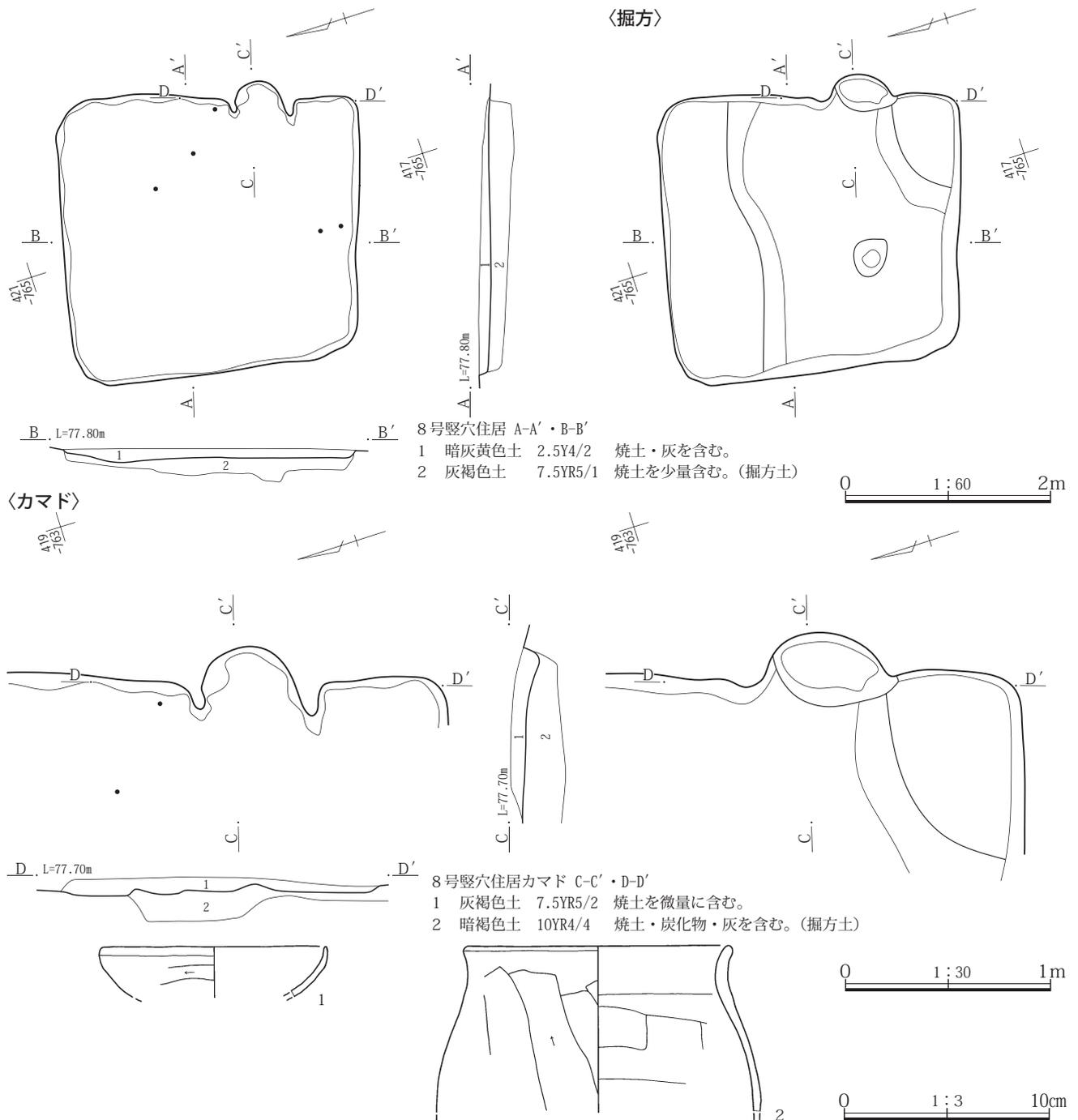
カマド 東壁で1か所検出した。袖の残りは僅かで、燃燒部は壁外へ伸びている。検出した袖の長さは0.26m、燃燒部の幅は0.57m、燃燒部の長さは0.39mである。袖および奥壁周辺に焼土塊や焼土粒が集中して分布していた。

柱穴 検出されなかった。

掘方 中央部に落ち込みが認められた。

遺物と出土状態 出土遺物は少なかった。土師器26点が出土し、このうち2点を図示した。土師器杯(1)と土師器甕(2)は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



第98図 3区8号竪穴住居と出土遺物

3区9号竪穴住居(第99～101図 PL.55・56・113・114)

位置 3区北部北壁際

X=38,423～38,430 Y=-55,761～-55,769

主軸方向 N-7°-E

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、東壁および北壁の長さはそれぞれ6.57m、6.37mである。遺構検出面から床面までの深さは0.47m、掘方底面までの深さは0.7～0.85m、面積30.63㎡である。

埋没土 焼土を含む灰褐色土を主体とする。5層は灰層で、床面でも検出された。

床面 焼土を含む褐灰色砂質土で構築され、平坦である。中央部やや北西寄りでは、灰の分布が見られた。灰層は厚く、床上5～10cmまで認められた。

カマド 東壁で1か所検出した。燃烧部は壁外に張り出している。袖は黒褐色土で構築され、袖の長さは0.56m、焚き口幅0.83m、焚き口から煙道までの長さは1.4mである。燃烧部左袖付近では焼土が検出された。

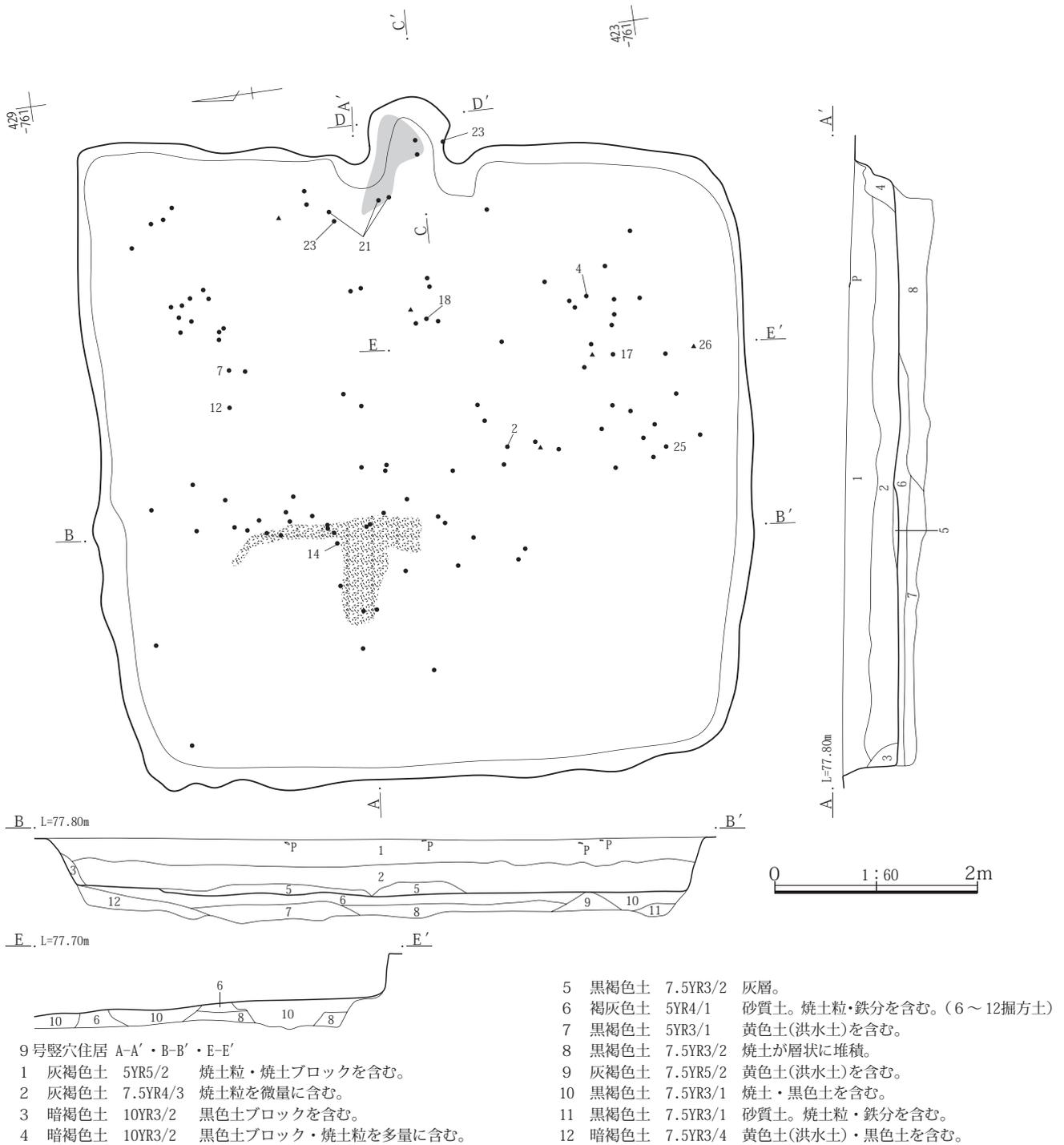
柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状および土坑状の落ち込みが多く、平坦ではない。掘方土8層と10層では多量の焼土粒が混じり、ほかの土層と色調が異なっている。

遺物と出土状態 土師器2,299点、須恵器114点、鉄製品

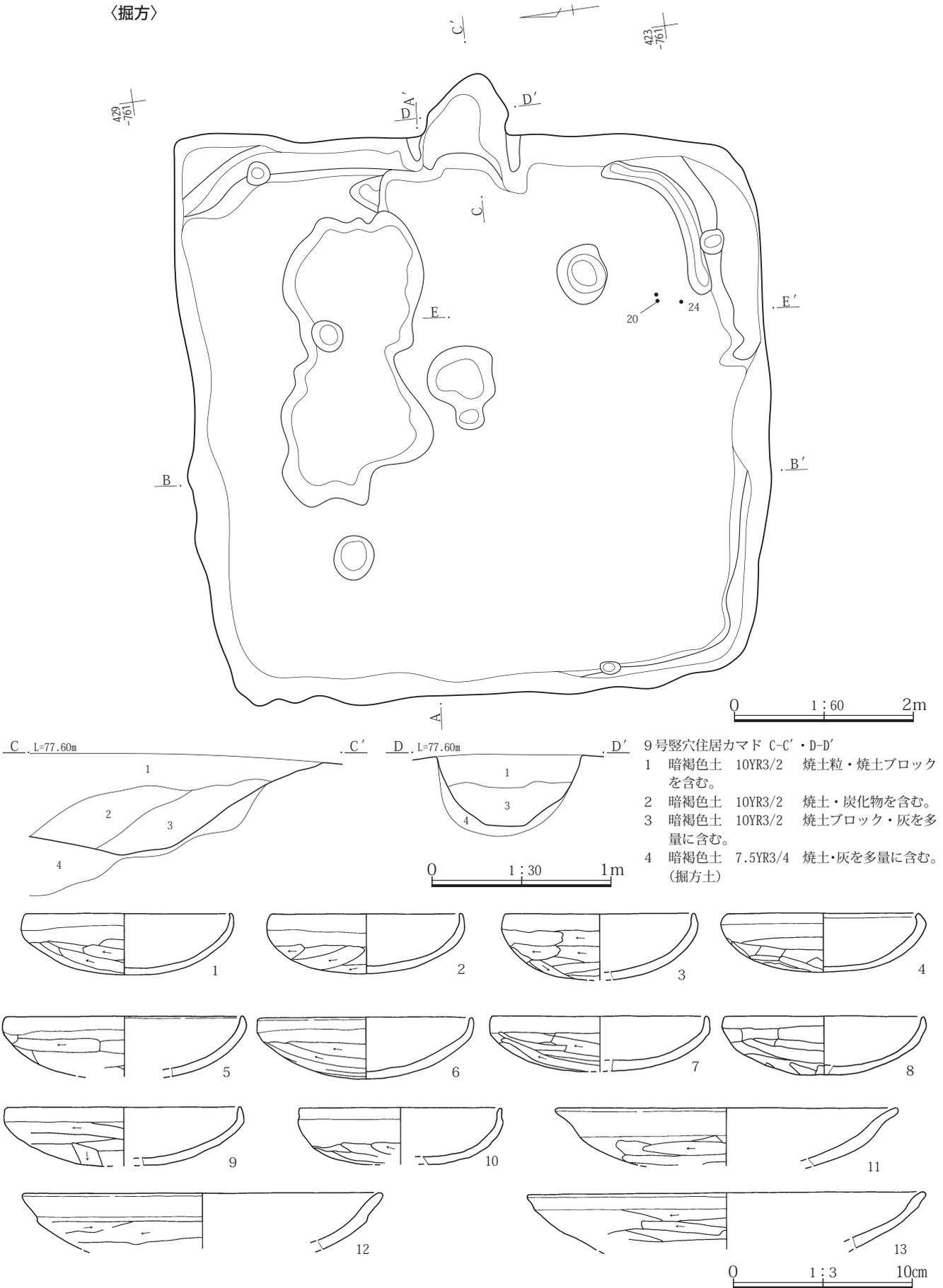
2点、石製品5点が出土し、このうち28点を図示した。土師器甕(21)はカマド使用面直上から、土師器杯(7・12)、須恵器盤(17)、砥沢石の紡輪(26)は床面直上から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀後半と考えている。

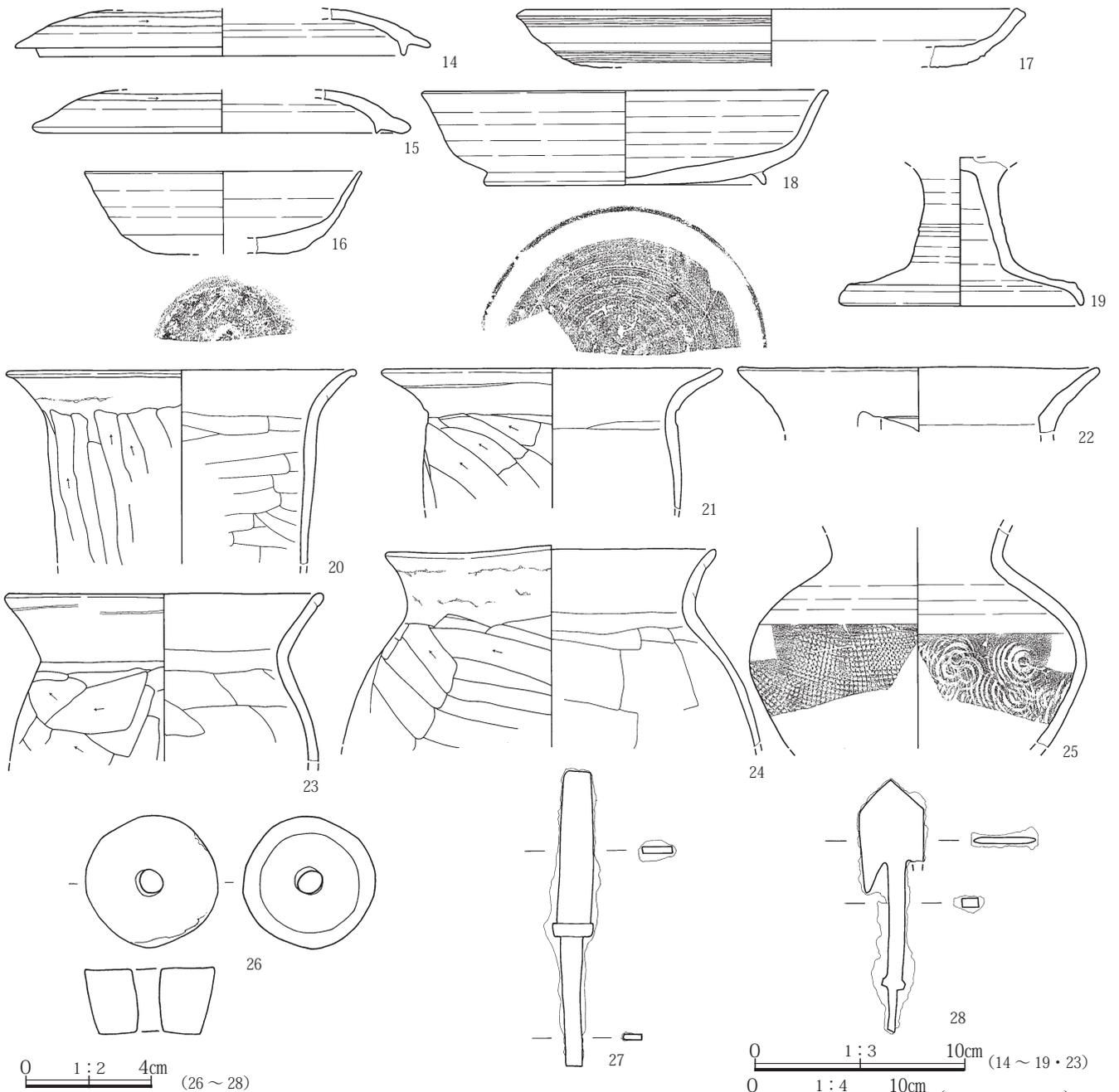


第99図 3区9号竪穴住居

〈掘方〉



第100図 3区9号竪穴住居掘方と出土遺物(1)



第101図 3区9号竪穴住居出土遺物(2)

3区10号竪穴住居(第102図 PL.56)

位置 3区北西部西壁際

X=38,420~38,424 Y=-55,773~-55,775

主軸方向 N-7°-E

重複 なし

形状と規模 西部の大部分が調査区外である。平面形は長方形または正方形と推定される。検出した東壁および南壁の長さはそれぞれ2.83m、0.88mで、遺構検出面から床面までの深さは0.06mである。

埋没土 遺構検出面は6層上面であったが、西壁土層断

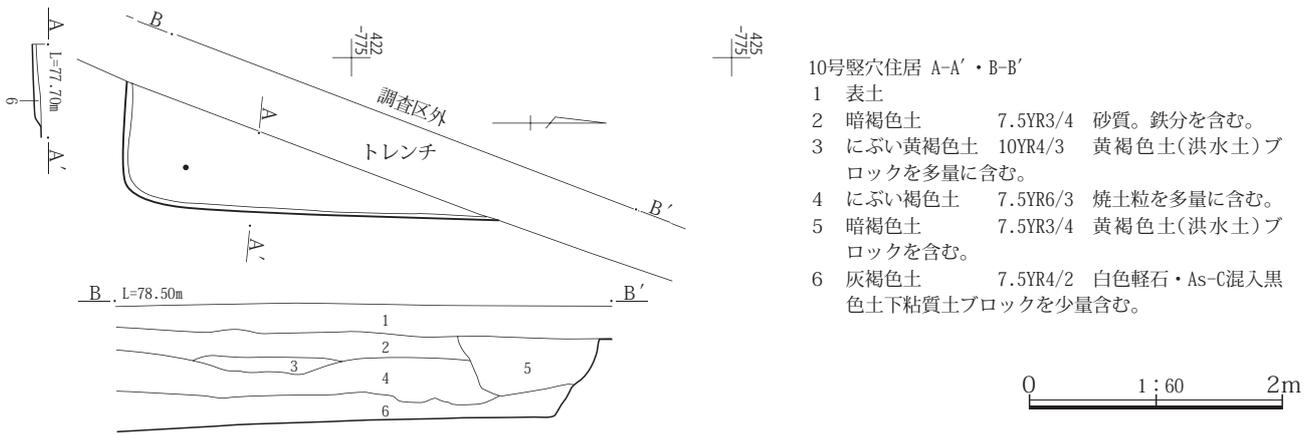
面の観察から、掘り込み面はさらに50cm以上高かったと推定される。

床面 ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器23点が出土したが、いずれも細片のため図示しなかった。出土遺物は少ないものの、8世紀前半と推定される土師器杯が認められた。

所見 ごく一部の調査で、出土遺物が少ないため、時期は不明である。



第102図 3区10号竪穴住居

3区11号竪穴住居(第103・104図 PL.57・114)

位置 3区北西部西壁際

X=38,415 ~ 38,420 Y=-55,774 ~ -55,777

主軸方向 N-88°-E

重複 38号ピットと重複し、遺構検出時の観察から、本住居が古い。

形状と規模 西部が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。東壁の長さは4.17m、検出した南壁の長さは2.16mである。遺構検出面から床面までの深さは0.25mであるが、西壁の土層断面を観察すると、掘り込み面はさらに25cmほど上位だったと推定される。

埋没土 8層の灰褐色土1層を検出した。この土層は焼土の小ブロックを多量に含んでいる。

床面 ほぼ平坦である。

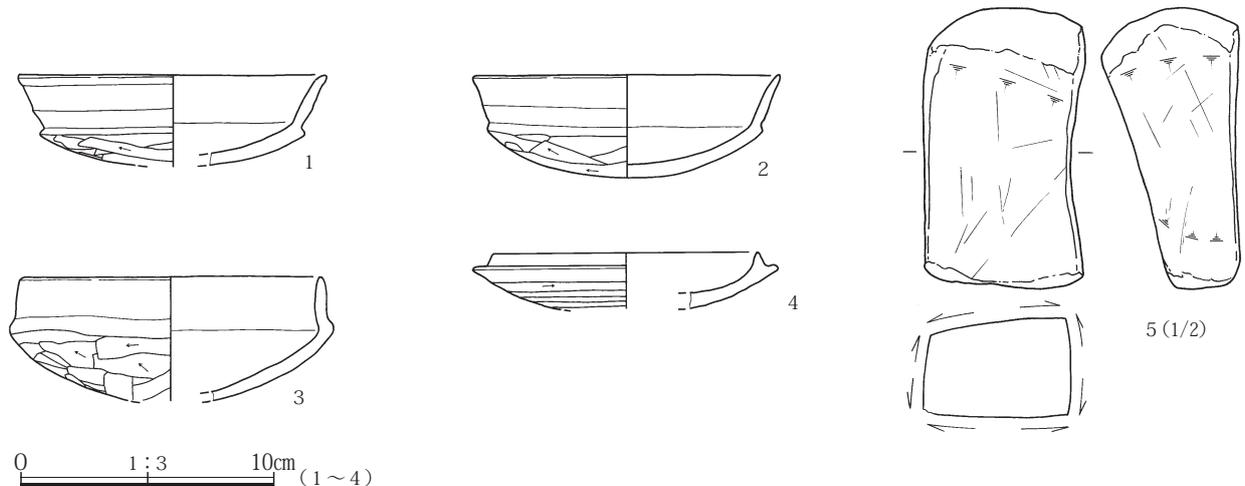
カマド 検出されなかった。

ピット 床面精査中にP1を検出した。P1は南東部で確認され、楕円形を呈し、長径59cm、短径50cm、床面からの深さは21cmである。埋没土に焼土を含んでいた。ほかにピットは検出されなかったものの、その位置から柱穴の可能性はある。

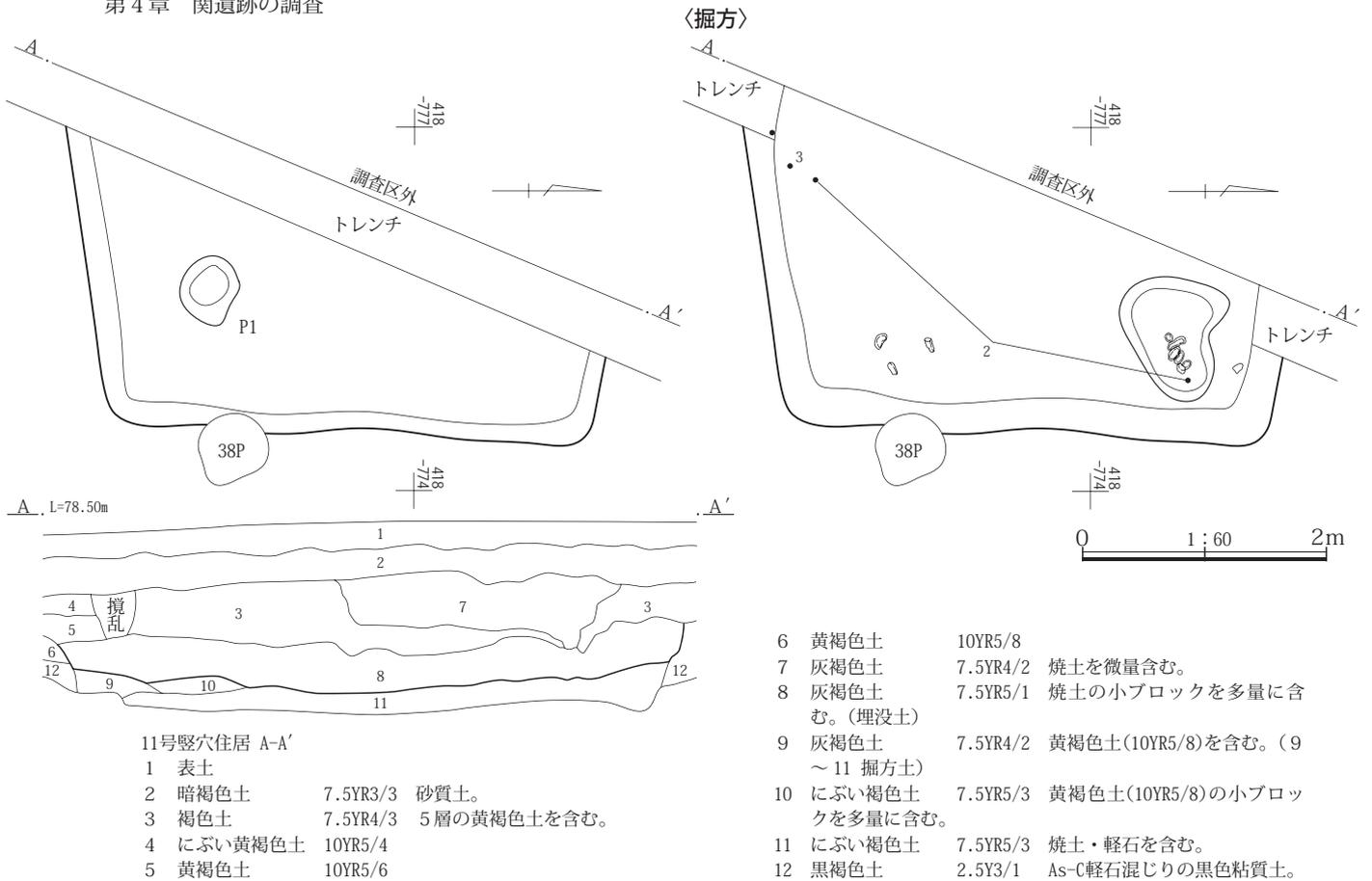
掘方 北部で浅い落ち込みを検出し、長径1.08m、短径0.87m、掘方底面からの深さは0.09mである。この中からは、長径6~16cm大の棒状または円形の礫が6点まるとまって出土した。このほか掘方土から棒状礫3点、掘方底面で土師器杯(2・3)が2点出土している。

遺物と出土状態 土師器97点、須恵器1点、石製品1点が出土し、このうち5点を図示した。1・4・5は埋没土から、2・3は掘方土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と考えている。



第103図 3区11号竪穴住居出土遺物



第104図 3区11号竪穴住居

3区12号竪穴住居(第105図 PL.57・114)

位置 3区北西部西壁際

X=38,404 ~ 38,407 Y=-55,780 ~ -55,782

主軸方向 N-24°-E

重複 4号住居と重複し、遺構検出時の観察および土層断面から、本住居の方が古い。

形状と規模 南部は4号住居に切られ、西部は調査区外で一部のみの調査のため、全体形は不明である。検出した長軸長は0.99m、短軸長0.83m、遺構検出面から床面までの深さは0.21mである。

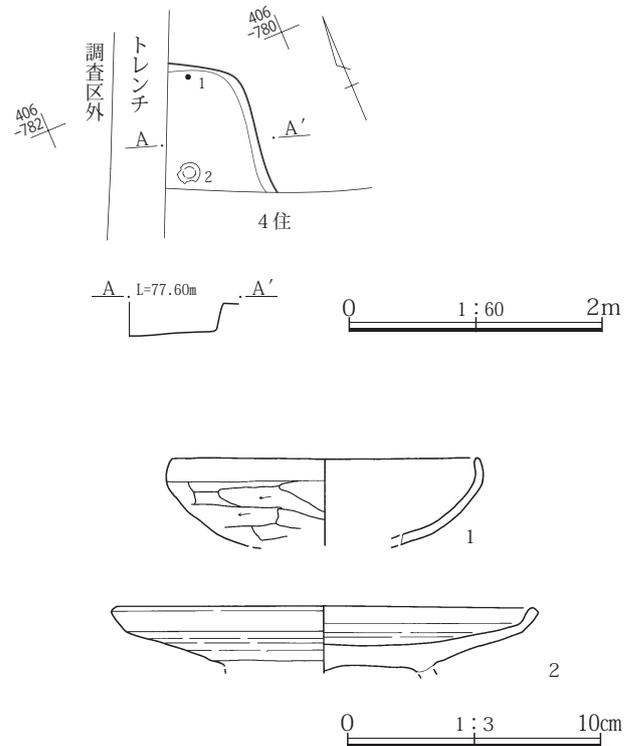
埋没土 記録がなく不明である。

床面 白色粒を多く含む暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器2点、須恵器1点が出土し、このうち2点を図示した。南部で須恵器盤(2)が床上3cmから出土した。胎土から搬入品と推定される。土師器杯(1)は埋没土から出土した。後で入り込んだと考えられる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。



第105図 3区12号竪穴住居と出土遺物

3区13号竪穴住居(第106・107図 PL.58・114)

位置 3区北西部

X=38,405～38,410 Y=-55,776～-55,782

主軸方向 N-4°-W

重複 6号・14号住居と重複する。遺構検出時の観察から、6号住居の方が新しいと考え調査を進めたが、出土遺物を検討した結果、本住居の方が新しいと判断した。また、土層断面の観察から、本住居は14号住居より新しい。

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。南壁の長さは4.73m、検出した東壁の長さは4.07m、遺構検出面から床面までの深さは0.39m、掘方底面までの深さは0.53～0.75mである。

埋没土 褐灰色土および黒褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。2層で鉄分の沈着が顕著に認められる。

床面 黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

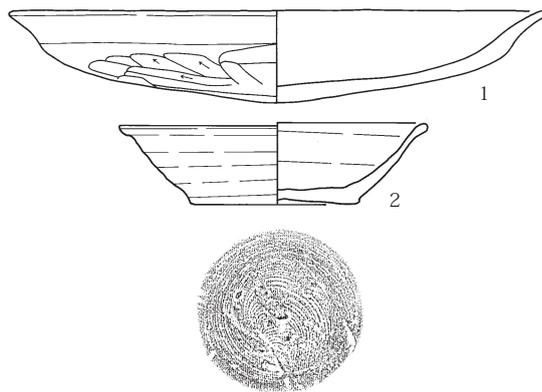
カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

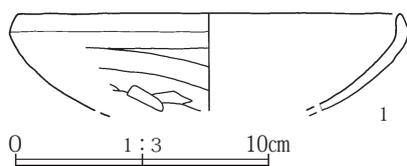
遺物と出土状態 土師器307点、須恵器8点、鉄製品1点、石製品2点、埴輪2点が出土し、このうち5点を図示した。須恵器杯(2)は床上17cmで出土した。1～5はすべて埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半～9世紀後半と考えている。

〈13号住居〉



〈14号住居〉



3区14号竪穴住居(第106・107図 PL.58)

位置 3区北西部

X=38,404～38,406 Y=-55,776～-55,780

主軸方向 不明

重複 13号住居と重複し、土層断面の観察から、本住居の方が古い。

形状と規模 13号住居に切られ、ごく一部を調査したにすぎない。検出された平面形は不整形で、全体形は不明である。検出した長軸長は2.67m、短軸長1.2m、遺構検出面から床面までの深さは0.42mである。

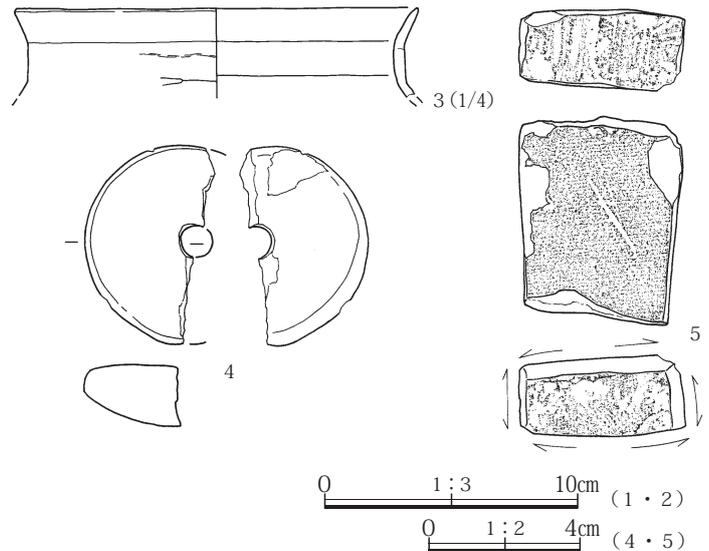
埋没土 焼土・As-C軽石・洪水層由来の黄色土を含む暗褐色土1層を検出した。

床面 掘方は認められなかったことから、掘り出した面をそのまま床としたと考えられる。

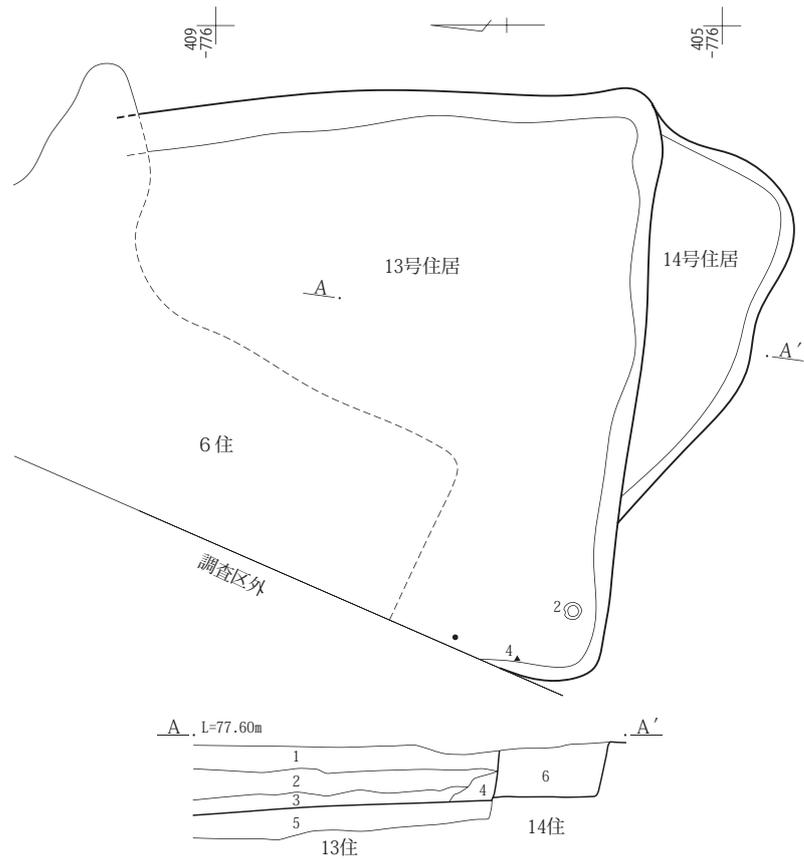
カマド・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器15点が出土し、このうち1点を図示した。土師器杯(1)は埋没土から出土した。

所見 ごく一部の調査で、形状も不整形なことから、住居以外の遺構の可能性もある。出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



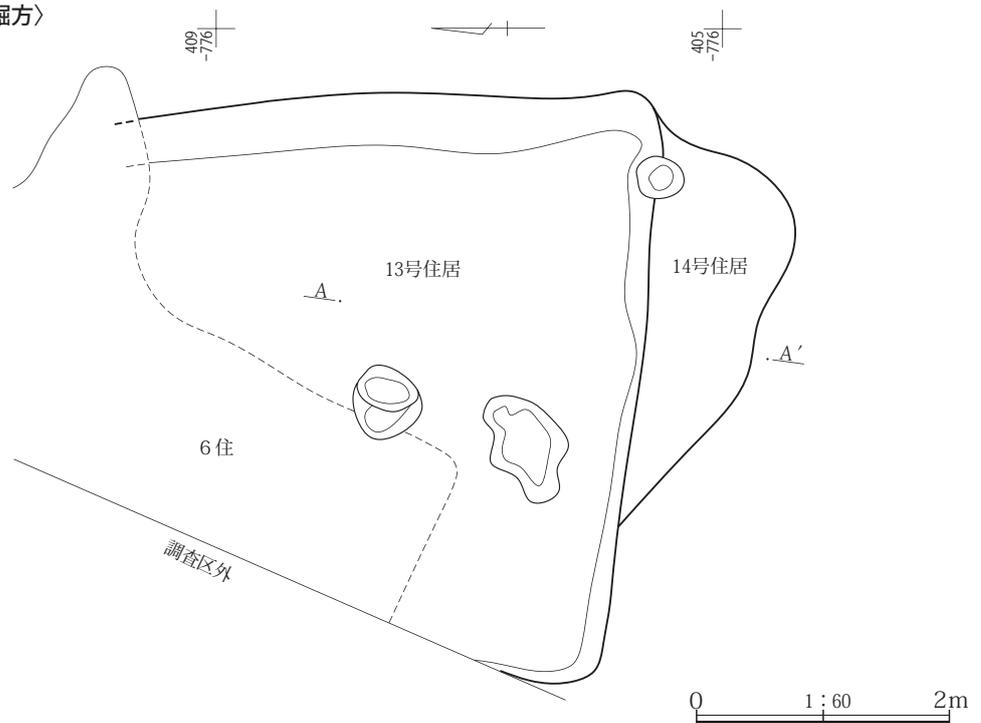
第106図 3区13号・14号竪穴住居出土遺物



13号・14号竪穴住居 A-A'

- 1 褐灰色土 5YR4/1 焼土粒を含む。(1～4 13住埋没土)
- 2 黒褐色土 5YR4/1 焼土粒・黒色土ブロックを含む。鉄分の沈着が顕著。
- 3 黒褐色土 5YR2/1 焼土を微量に含む。
- 4 黒褐色土 5YR2/1 焼土を多量に含む。
- 5 黒褐色土 10YR2/2 As-C軽石・焼土を少量、黄色土(洪水土)・灰褐色土を含む。(13住掘方土)
- 6 暗褐色土 10YR3/3 焼土・As-C軽石・黄色土(洪水土)を含む。(14住埋没土)

〈掘方〉



第107図 3区13号・14号竪穴住居

4区1号竪穴住居(第108・109図 PL.59・60・114)

位置 4区北西部

X=38,384~38,389 Y=-55,783~-55,787

主軸方向 N-6°-W

重複 3号・4号・5号住居と重複する。遺構検出時の観察および出土遺物の時期から、いずれの住居より本住居の方が新しい。

形状と規模 南東部が攪乱により失われているが、平面形は長方形と推定される。長軸長は3.79m、短軸長2.92m、遺構検出面から床面までの深さは0.2m、掘方底面までの深さは0.22~0.46mである。

埋没土 黄褐色土を含む褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 黄褐色土および灰を含む褐灰色土で構築され、ほぼ平坦である。

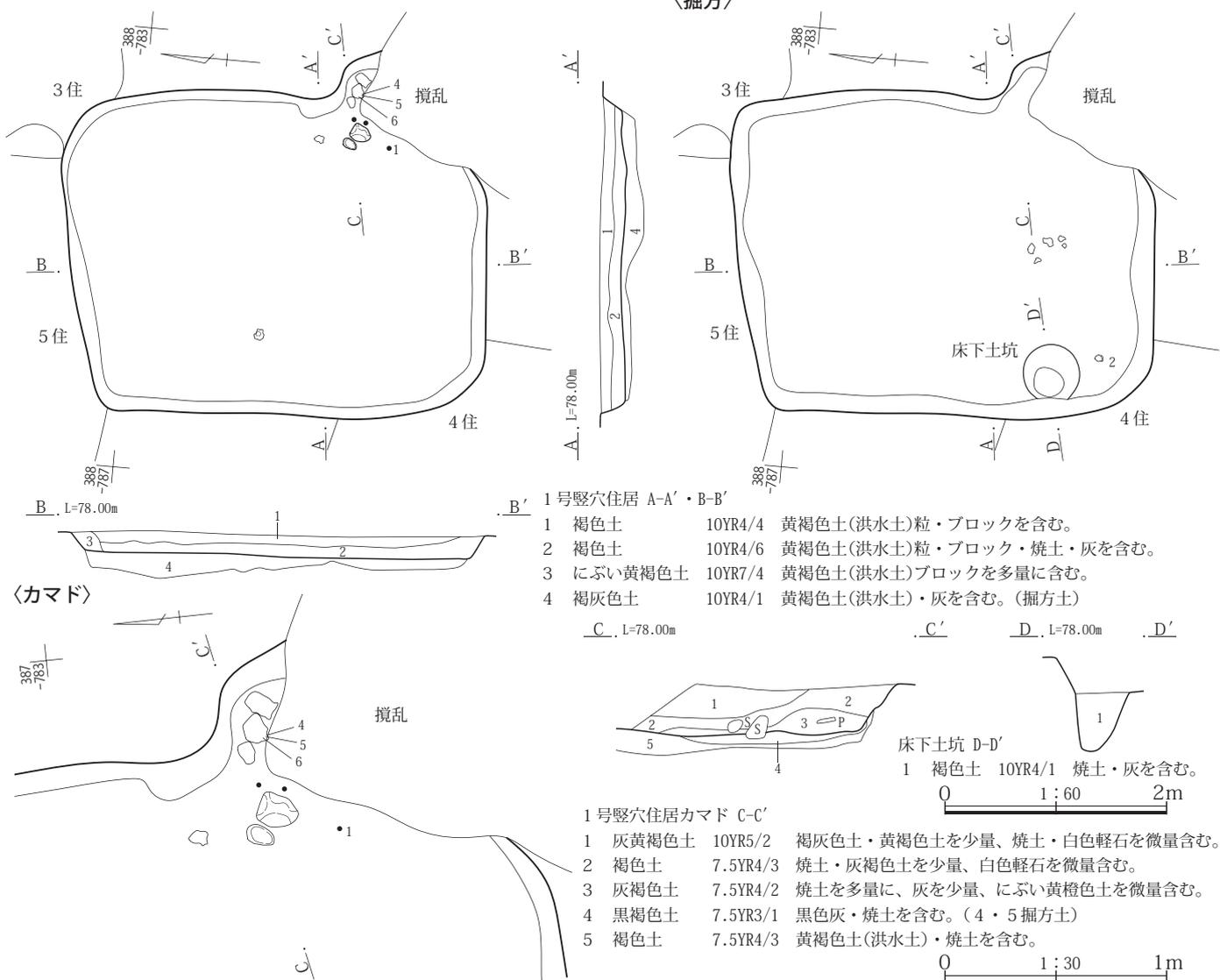
カマド 東壁で1か所検出した。南部は攪乱によって大きく失われている。袖の遺存状況は良好ではなかった。燃烧部と考えられる位置では土師器甕の大型破片が、焚き口付近では直径18cmと14cm大の礫が出土している。後者の礫はカマドの構築材に使用されたと考えられる。

柱穴 検出されなかった。

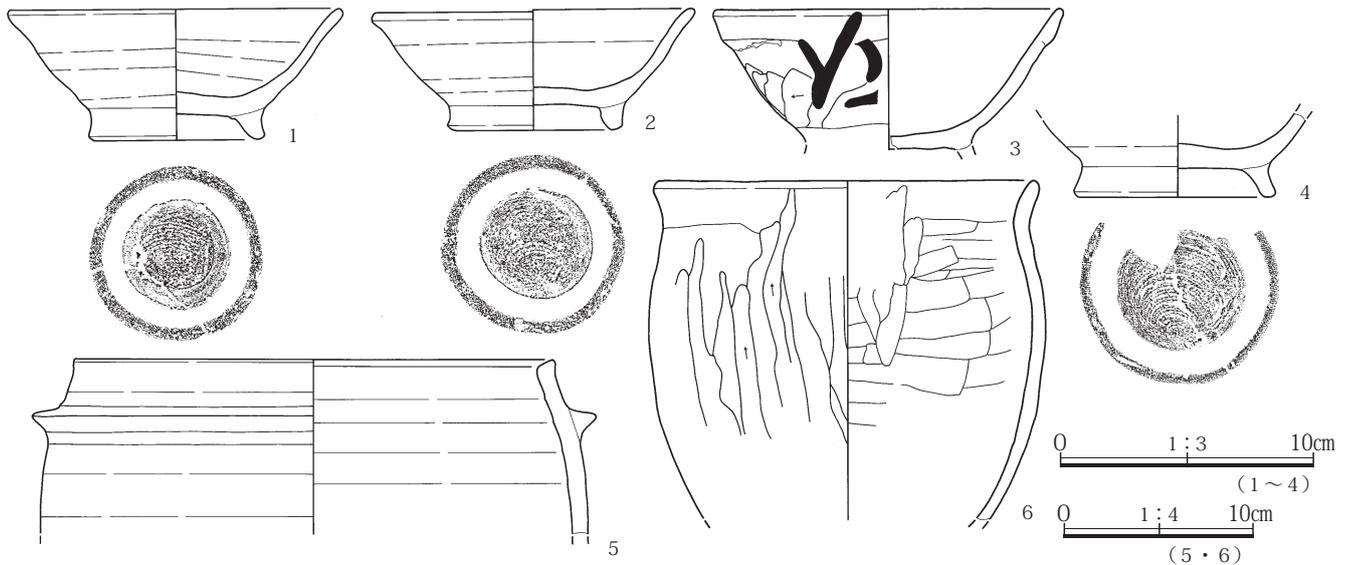
掘方 掘方調査中に西壁際に床下土坑を1基検出した。平面形は円形で、長径0.48m、短径0.48m、床面からの深さは0.56mである。埋没土は灰褐色土の1層を確認し、焼土および灰を含んでいた。

遺物と出土状態 土師器313点、須恵器44点、縄文土器4点が出土し、このうち6点を図示した。4~6はカマド燃烧部、使用面直上からまともって出土した。縄文土器は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は10世紀前半と考えている。



第108図 4区1号竪穴住居



第109図 4区1号竪穴住居出土遺物

4区2号竪穴住居(第110図 PL.60・114)

位置 4区中央部東壁際

X=38,375 ~ 38,380 Y=-55,778 ~ -55,781

主軸方向 N-69°-W

重複 なし

形状と規模 西部の一部を調査したのみで、大部分は調査区外であるが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は4.12m、短軸長0.78m、遺構検出面から床面までの深さは0.5m、掘方底面までの深さは0.6~0.67mである。

埋没土 にぶい黄褐色土および灰黄褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。1層は明黄褐色砂質土で、洪水

層と考えられる。

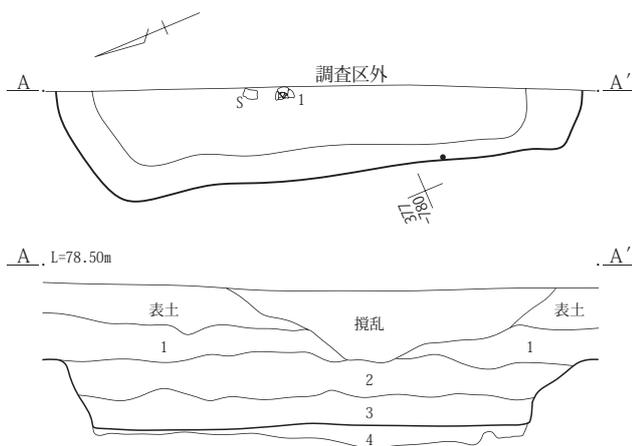
床面 灰黄褐色土を多量に含む黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 溝状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

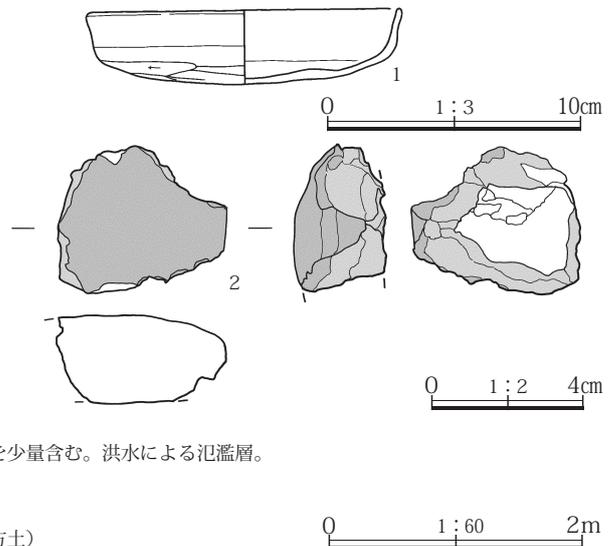
遺物と出土状態 土師器168点、須恵器34点、羽口1点が出土し、このうち2点を図示した。1・2とも埋没土から出土した。

所見 土層断面の観察から、本住居は完全に埋没した後に洪水に見舞われていることがわかった。出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。



2号竪穴住居 A-A'

- 1 明黄褐色土 10YR6/6 砂質。灰黄褐色砂質土を多量に、にぶい黄褐色土を少量含む。洪水による氾濫層。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 褐灰色土を少量、焼土・炭化物を微量含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 褐灰色土を多量に、黒褐色土を微量含む。
- 4 黒褐色土 7.5YR3/1 灰黄褐色土を多量に、褐灰色土を微量含む。(掘方土)



第110図 4区2号竪穴住居と出土遺物

4区3号竪穴住居(第111・112図 PL.61)

位置 4区北西部

X=38,388～38,392 Y=-55,780～-55,785

主軸方向 N-1°-W

重複 1号および5号住居と重複する。遺構検出時および出土遺物から、本住居は1号住居より古い。また、5号住居との新旧関係は重複部分が小さく不明である。

形状と規模 平面形は長方形で、西壁の長さは3.56m、北壁の長さは3.01m、遺構検出面から床面までの深さは0.41m、掘方底面までの深さは0.47～0.7m、面積は7.91㎡である。

埋没土 にぶい黄褐色土の砂質土で、混入物が少なく、洪水層と判断した。この洪水層が床面直上まで50cm以上の厚さをもって入り込んでいる。

床面 平坦ではない。特に西部は凹凸が著しく落ち込んでいる。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は残っていなかった。燃烧部および煙道の長さは0.79m、幅は0.81mである。燃烧部では長径14～25cm大の礫が6個検出された。S1は棒状の礫で、燃烧部奥に立てられた状態で出土し、

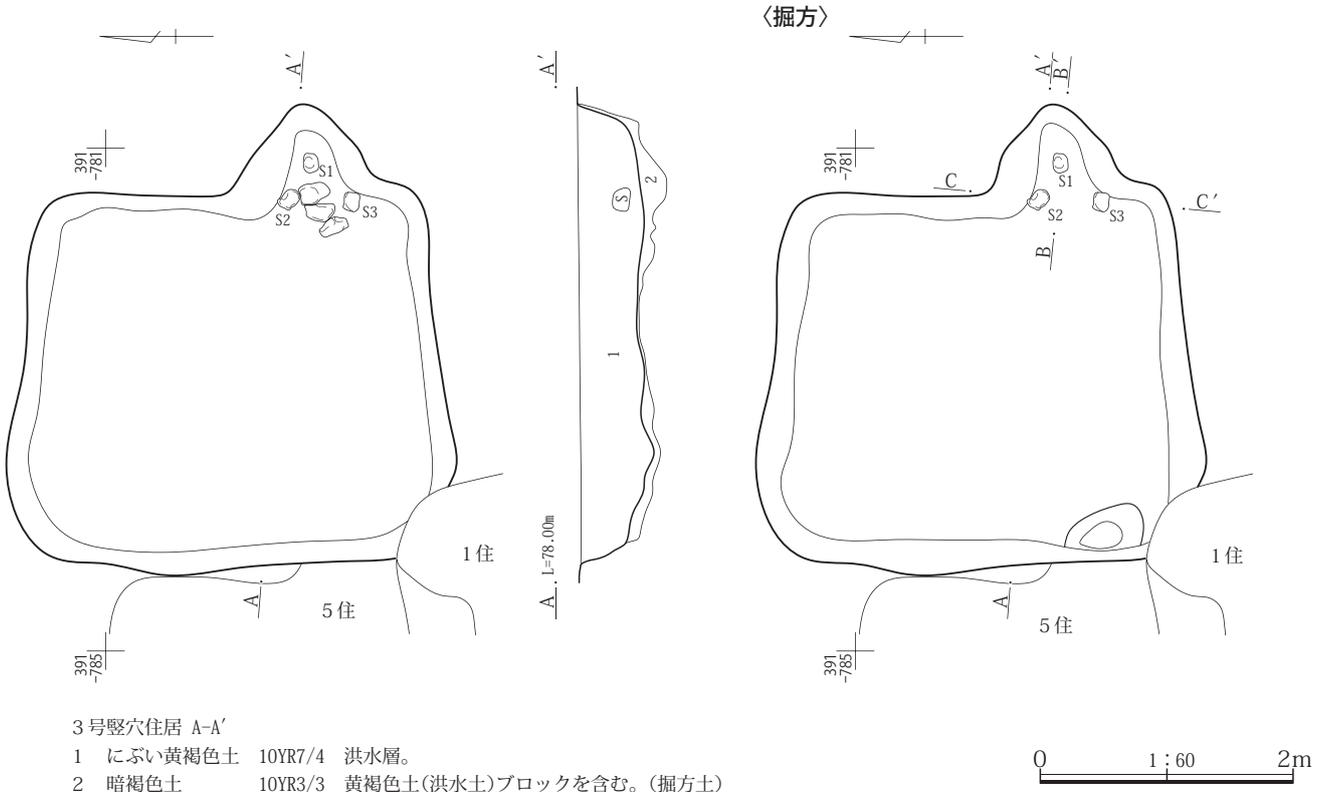
また、S2・S3は左右の袖付近に据えられた状態で検出された。これらは支脚またはカマドの袖石として使用された可能性はあるが、詳細は不明である。このほかの礫も被熱による赤色変化や表面変化が認められ、カマドの構築材の可能性はある。

柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みが認められた。

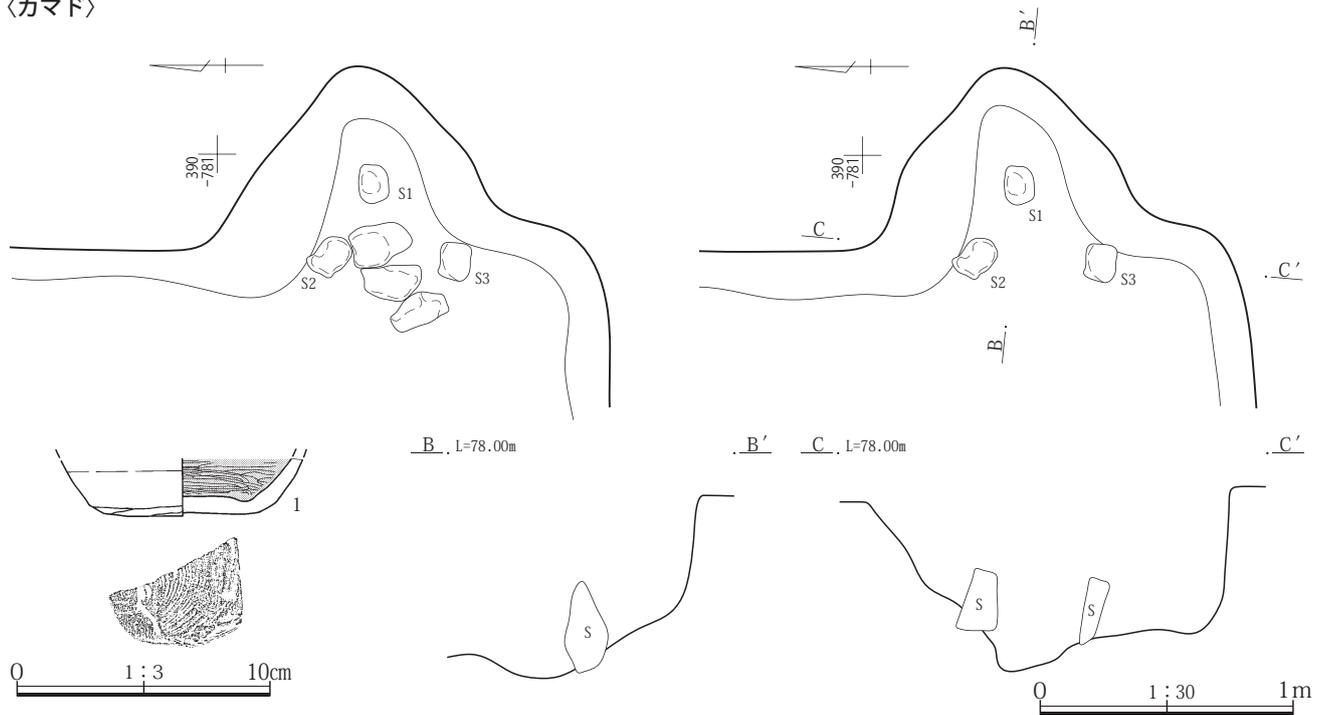
遺物と出土状態 土師器33点、須恵器1点が出土し、このうち1点を図示した。黒色土器杯(1)は埋没土(洪水層)から出土し、その特徴から9世紀前半のものと考えられる。

所見 1層の洪水層が床面直上まで厚く堆積していた。記録を欠くため図示しなかったが、別方向の断面写真では、側壁の一部に暗褐色土が薄く堆積し、その上に洪水層が堆積していた。このことから、本住居は使用中ではなく、使用されなくなってから間もなく、床面が抉られるほどの大規模な洪水被害に見舞われ埋没したと推定される。出土遺物が少なく詳細は不明であるが、住居を被覆した洪水層から出土した土器の年代から、時期は9世紀前半と考えている。



第111図 4区3号竪穴住居

〈カマド〉



第112図 4区3号竪穴住居カマドと出土遺物

4区4号竪穴住居(第113～115図 PL.62・114・115)

位置 4区北西部西壁際

X=38,379～38,387 Y=-55,784～-55,791

主軸方向 N-77°-W

重複 1号住居および2号掘立柱建物と重複する。遺構検出時の観察および出土遺物から、本住居はいずれの遺構よりも古い。

形状と規模 西部が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は6.22m、短軸長は3.87m、遺構検出面から床面までの深さは0.50m、掘方底面までの深さは0.6～0.65mである。

埋没土 焼土・炭化物を含むにぶい黄褐色土および灰黄褐色土を主体とし自然堆積の状況を示している。1層は明黄褐色砂質土で、洪水層と考えている。

床面 焼土・炭化物を含む暗褐色土で構築されていた。調査区境付近の床面では、黒色灰・粘土・焼土を多く含む土(4層)が認められ、層厚は12cmである。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は遺存しなかった。燃烧部および煙道の長さは1.5m、幅は0.73mである。燃烧部から煙道にかけて焼土が分布していた。

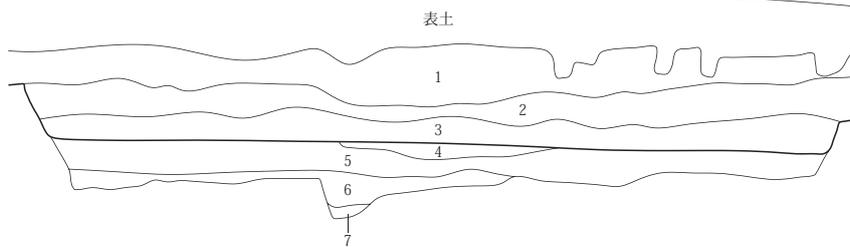
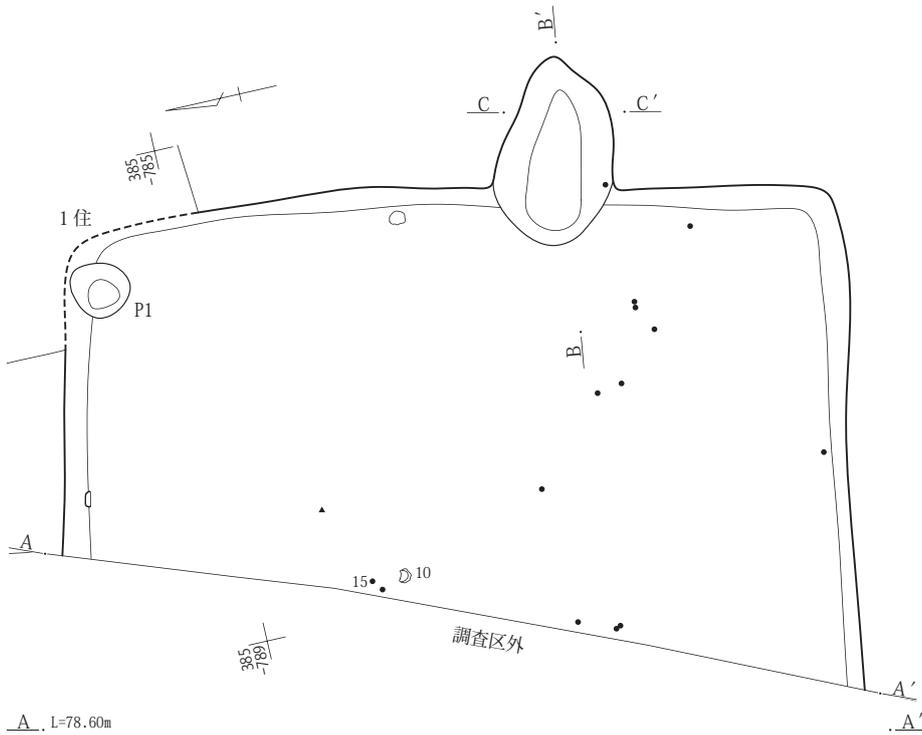
ピット 床面調査中にP1を、掘方調査中にP2～P4を検出した。P1は北東隅で確認された。楕円形で、長径0.48m、

短径0.43m、床面からの深さは0.39mである。P2は楕円形を呈し、長径0.73m、短径0.65m、床面からの深さは0.5mである。P3は楕円形で、長径0.64m、短径0.55m、床面からの深さは0.31mである。P4は南壁付近で検出された。円形を呈し、直径0.24m、床面からの深さは0.16mである。P2およびP3は位置や深さから支柱穴と考えている。P1およびP4については不明である。

掘方 ピット状および土坑状の落ち込みがあり平坦ではない。カマド付近で土師器甕(13)が、南壁付近で須恵器壺(12)がまとまって出土した。

遺物と出土状態 土師器1,510点、須恵器121点、石製品4点、灰釉陶器2点、縄文土器2点が出土し、このうち17点を図示した。西部で須恵器椀(10)と土師器甕(15)が床面直上で出土した。縄文土器は混入と考えられる。

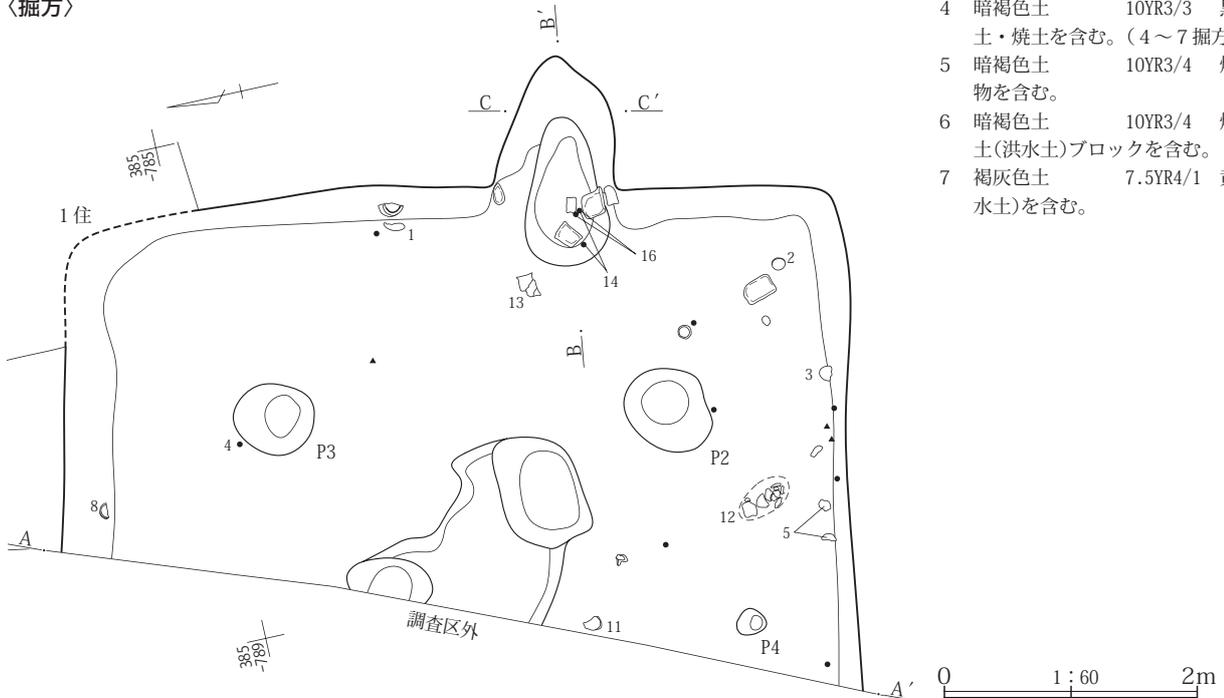
所見 土層断面の観察から、本住居は完全に埋没した後、洪水層が堆積している。出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。



4号竪穴住居 A-A'

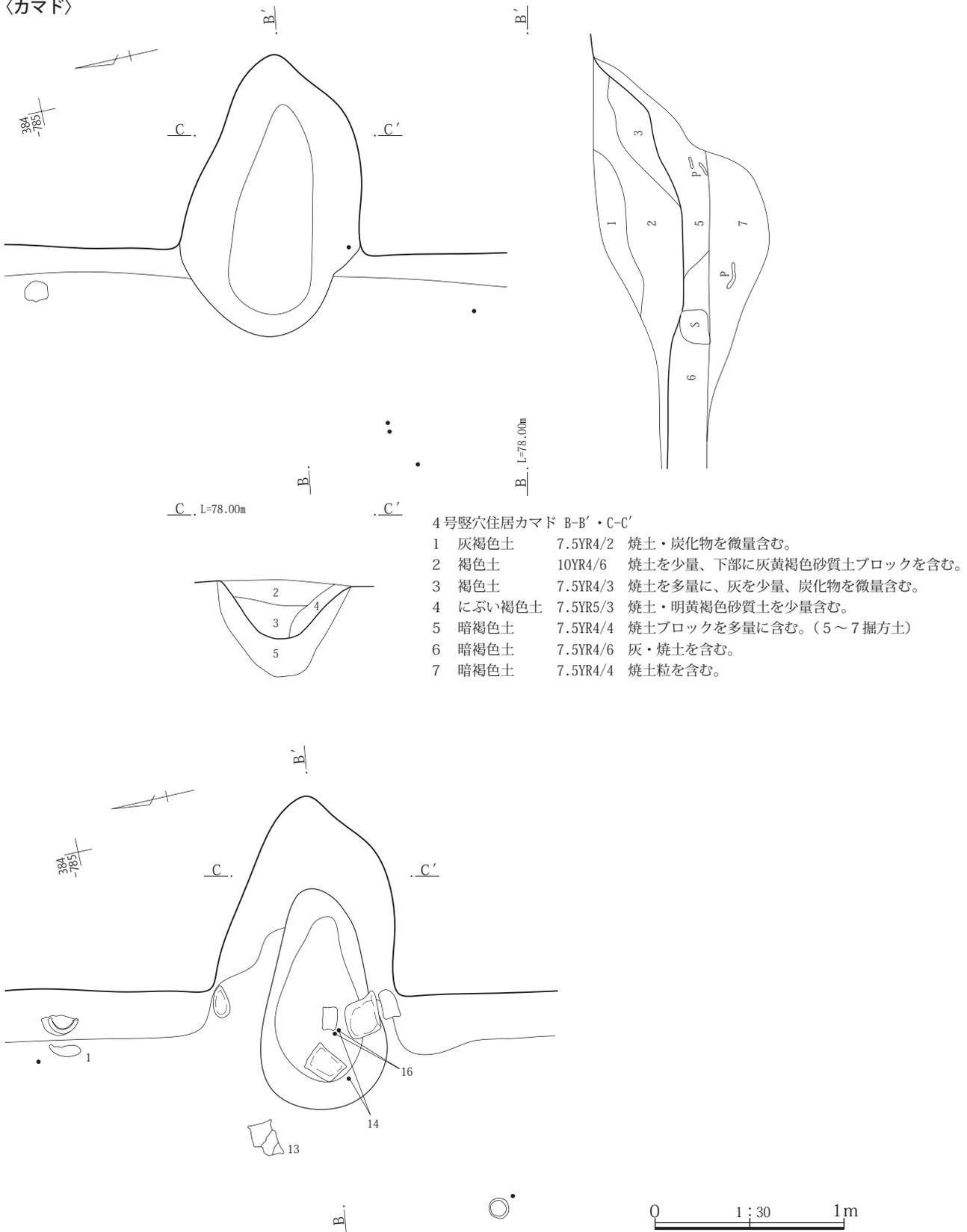
- 1 明黄褐色土 10YR6/6 砂質。黒褐色土・褐灰色土・浅黄色土を少量含む。洪水による氾濫層。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土・炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 焼土・炭化物を微量含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/3 黒色灰・粘土・焼土を含む。(4~7掘方土)
- 5 暗褐色土 10YR3/4 焼土・炭化物を含む。
- 6 暗褐色土 10YR3/4 焼土・黄色土(洪水土)ブロックを含む。
- 7 褐灰色土 7.5YR4/1 黄色土(洪水土)を含む。

〈掘方〉

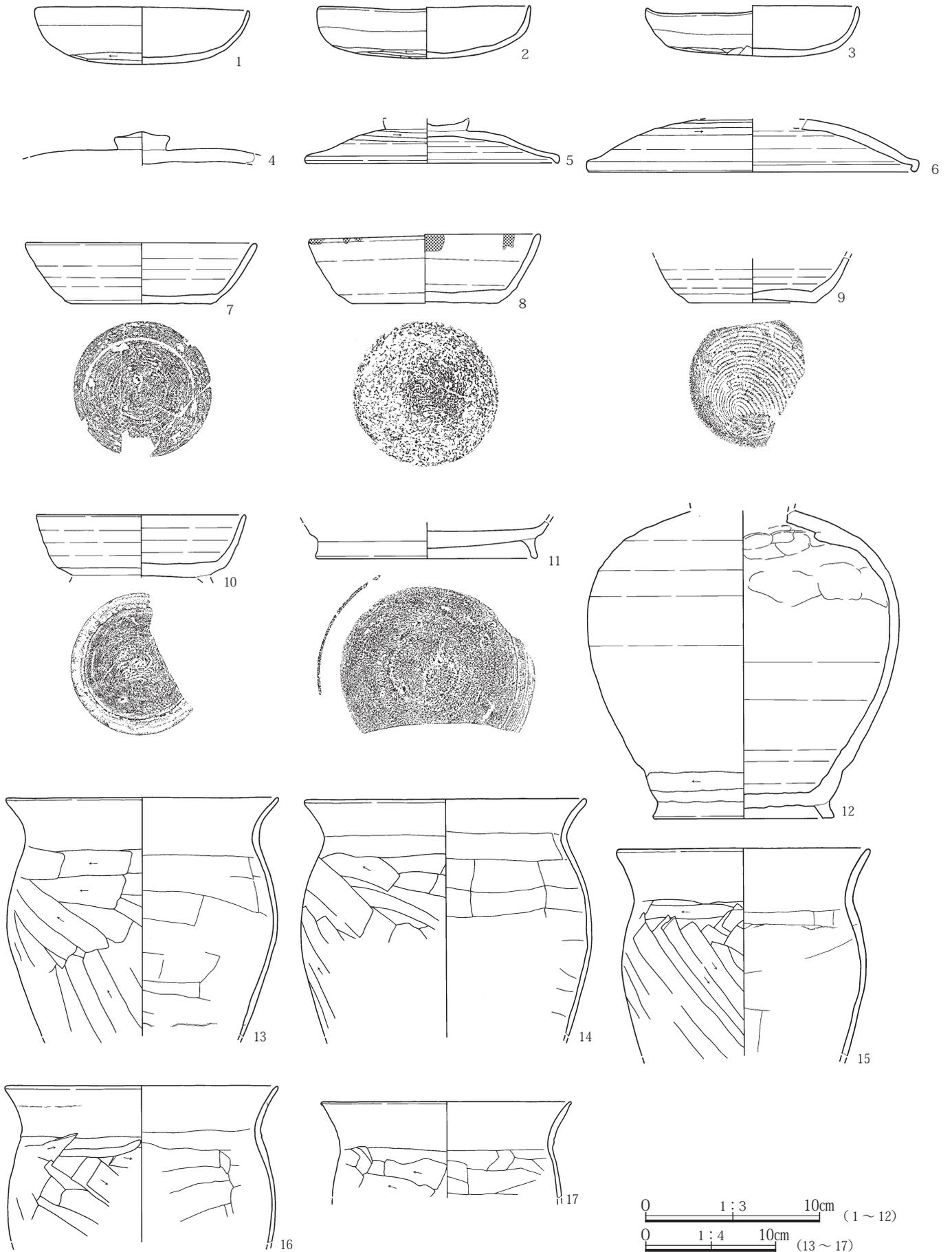


第113図 4区4号竪穴住居

〈カマド〉



第114図 4区4号竪穴住居カマド



第115図 4区4号竪穴住居出土遺物

4区5号竪穴住居(第116・117図 PL.62・115)

位置 4区北西部西壁際

X=38,388 ~ 38,392 Y=-55,783 ~ -55,788

主軸方向 N-83°-W

重複 1号および3号住居と重複する。遺構検出時の観察および出土遺物から、1号住居よりも本住居が古い。また、3号住居との新旧関係は重複部分が小さく不明である。

形状と規模 西部の一部が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は3.0m、短軸長2.98m、遺構検出面から床面までの深さは0.39m、掘方底面までの深さは0.65m、面積は6.93㎡以上である。

埋没土 焼土を含む褐灰色土および灰褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 焼土を含む灰褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖は遺存せず、燃烧部は壁外に伸びていた。燃烧部と煙道の長さは0.67m、幅

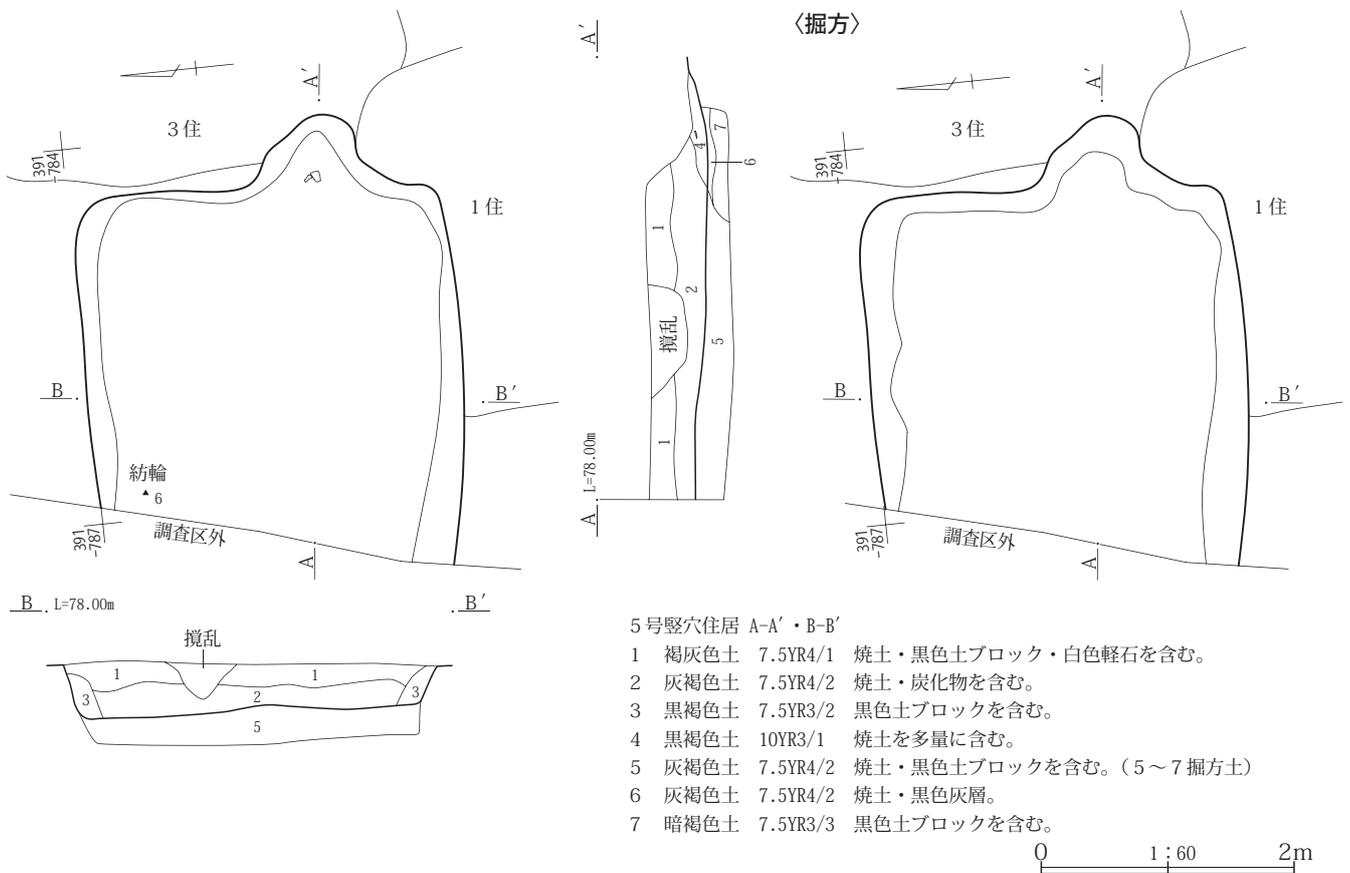
は1.1mである。燃烧部使用面および焚き口と推定される範囲に黒色灰が広く分布していた。燃烧部使用面から6cm上位で、土師器甕の破片が2片出土した。

柱穴 検出されなかった。

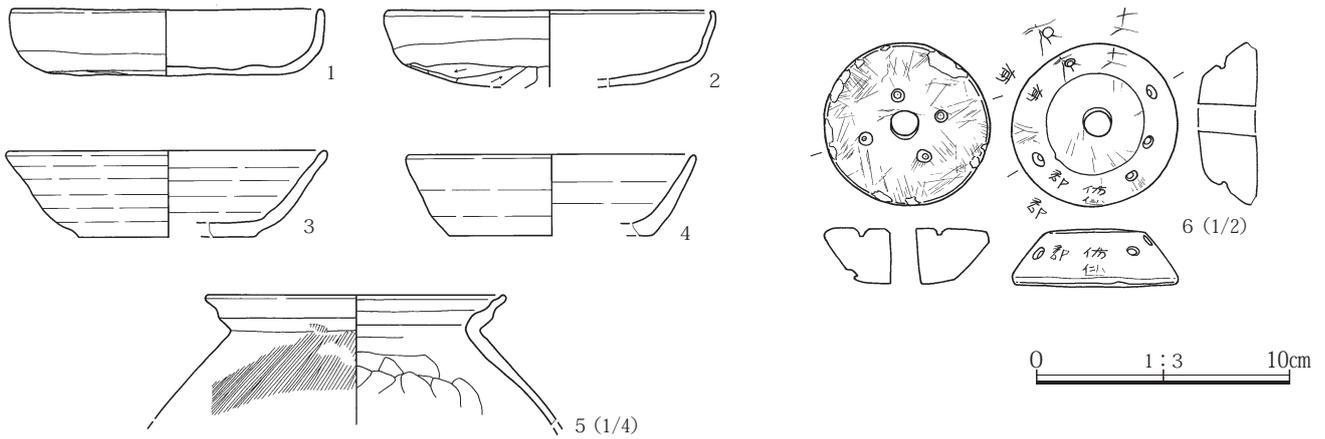
掘方 土坑状の落ち込みがあるが、平坦である。

遺物と出土状態 土師器255点、須恵器33点、刻書紡輪1点が出土し、このうち6点を図示した。1~3・5は埋没土から、4は掘方土から出土した。紡輪(6)は蛇紋岩製で、北西部で上面を下に向け、床面に食い込むような状態で出土した。側面には「佐位郡」「有」などの文字が刻書されていた。文字についての詳細は高島英之氏による分析があるので、第6章第1節を参照いただきたい。側面および上面には、直径3~4mm、深さ1~1.5mmの貫通しない穴がそれぞれ、5か所、4か所開いている。上面では等間隔に配置しているように見えるが、側面では間隔が異なっている穴もある。土師器台付甕(5)は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。



第116図 4区5号竪穴住居



第117図 4区5号竪穴住居出土遺物

5区1号竪穴住居(第118・119図 PL.63・115)

位置 5区南東部隅

X=38,308~38,313 Y=-55,808~-55,813

主軸方向 N-15°-W

重複 5号ピットと重複し、遺構検出時の観察から、5号ピットの方が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は3.95m、短軸長3.85m、遺構検出面から床面までの深さは0.28m、掘方底面までの深さは0.32~0.48m、面積は13.3㎡である。

埋没土 黄褐色土および褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 焼土・黒色土ブロックを含む褐色土で構築され、

ほぼ平坦である。

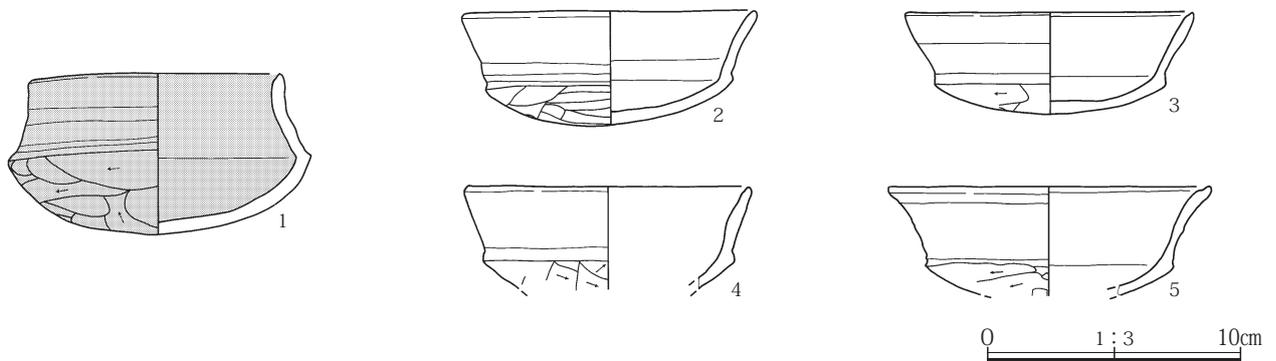
カマド 西壁で1か所検出した。袖は灰白色粘土を一部残すものの遺存状況は良好ではない。燃烧部および煙道の長さは0.48m、幅は0.78mである。燃烧部から焚き口付近に焼土が広く分布していた。焼土の上には21cm大のシルト質礫が検出され、カマドの構築材と考えられる。

柱穴 検出されなかった。

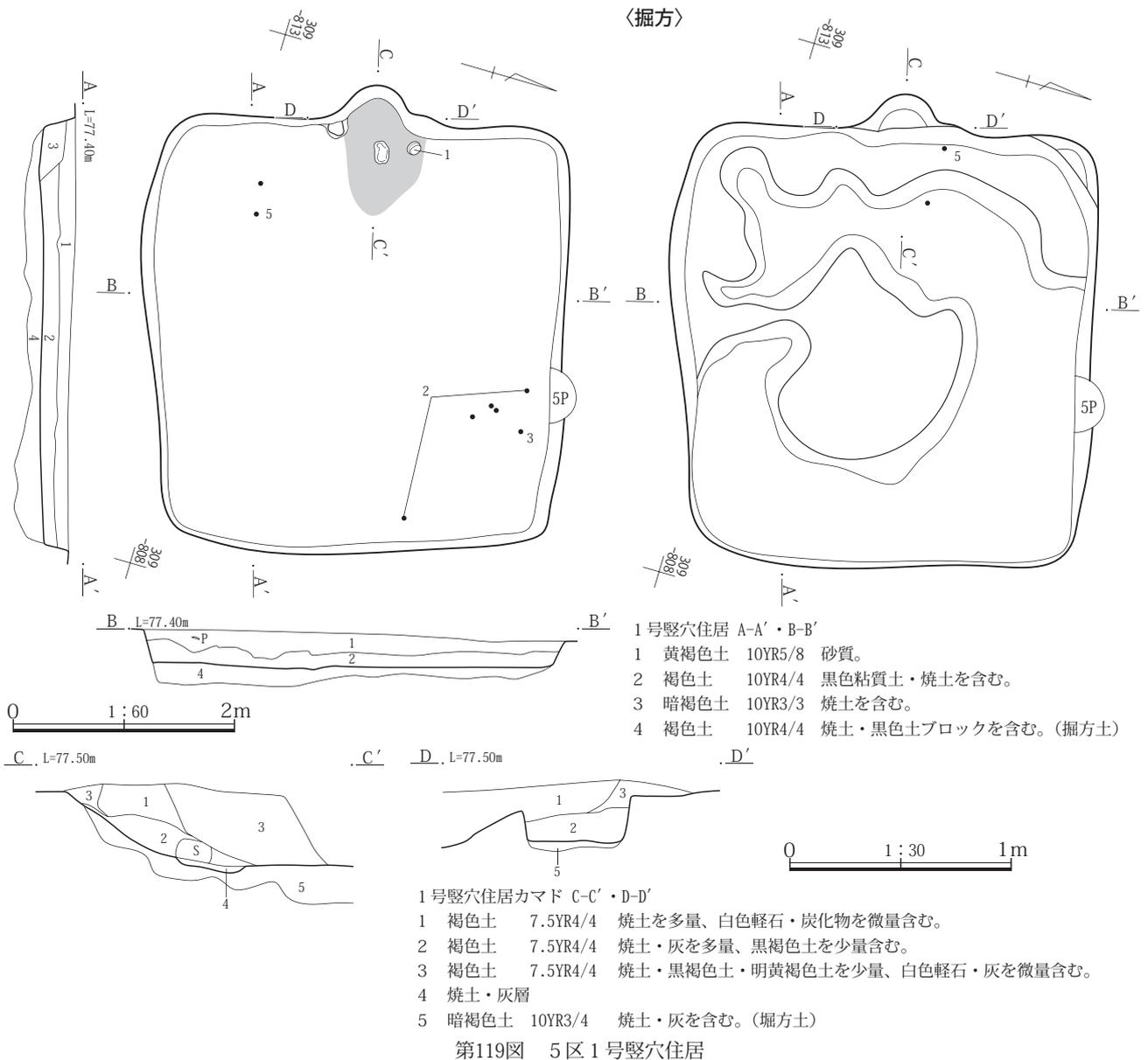
掘方 土坑状およびピット状の落ち込みがあり、凹凸が著しい。

遺物と出土状態 土師器5点が出土し、これらを図示した。完形の土師器杯(1)はカマド使用面より16cm上位で出土した。

所見 出土遺物から、時期は6世紀後半と考えている。



第118図 5区1号竪穴住居出土遺物



5区2号竪穴住居(第120図 PL.64・115)

位置 5区南部

X=38,314~38,318 Y=-55,809~-55,814

主軸方向 N-88°-E

重複 なし

形状と規模 平面形は正方形で、長軸長は3.51m、短軸長3.45m、遺構検出面から床面までの深さは0.33m、掘方底面までの深さは0.45~0.6m、面積は10.03㎡である。

埋没土 焼土を含む暗褐色土および褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 焼土を含む暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。袖の遺存状況は良好で

はなかった。燃焼部および煙道の長さは1.26m、幅は0.7mである。焚き口付近では床面よりも3~13cm程度低くなっている。使用面には焼土と灰が分布し、中央部は被熱により白色に変化していた。側壁の一部にも焼土面が残されていた。

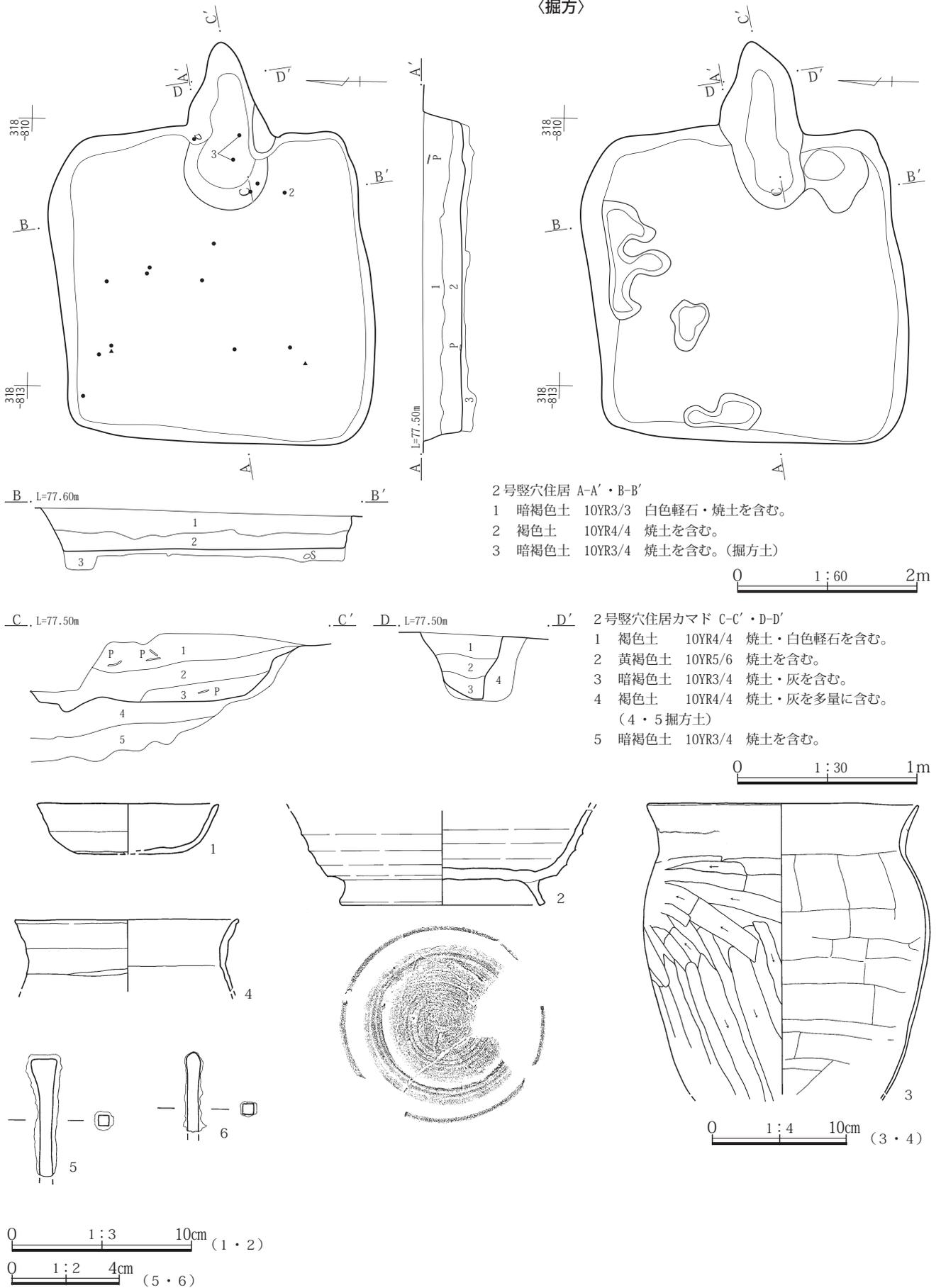
柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みが多数検出され、平坦ではない。

遺物と出土状態 土師器1,323点、須恵器182点、石製品2点、鉄製品2点が出土し、このうち6点を図示した。1~6はすべて住居内またはカマドの埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。

〈掘方〉



第120図 5区2号竪穴住居と出土遺物

5区3号竪穴住居(第121・122図 PL.65・66・115)

位置 5区南東部東壁際

X=38,318~38,324 Y=-55,801~-55,808

主軸方向 N-5°-W

重複 5号・7号住居、22号・26号ピットと重複する。
遺構検出時の観察および出土遺物から、本住居は7号住居より新しく、5号住居、22号・26号ピットより古い。

形状と規模 東部の一部が調査区外だが、平面形は長方形と推定される。北壁の長さは6.18m、西壁の長さは5.08m、遺構検出面から床面までの深さは0.37m、掘方底面までの深さは0.4~0.6mである。

埋没土 白色軽石・焼土を含む褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

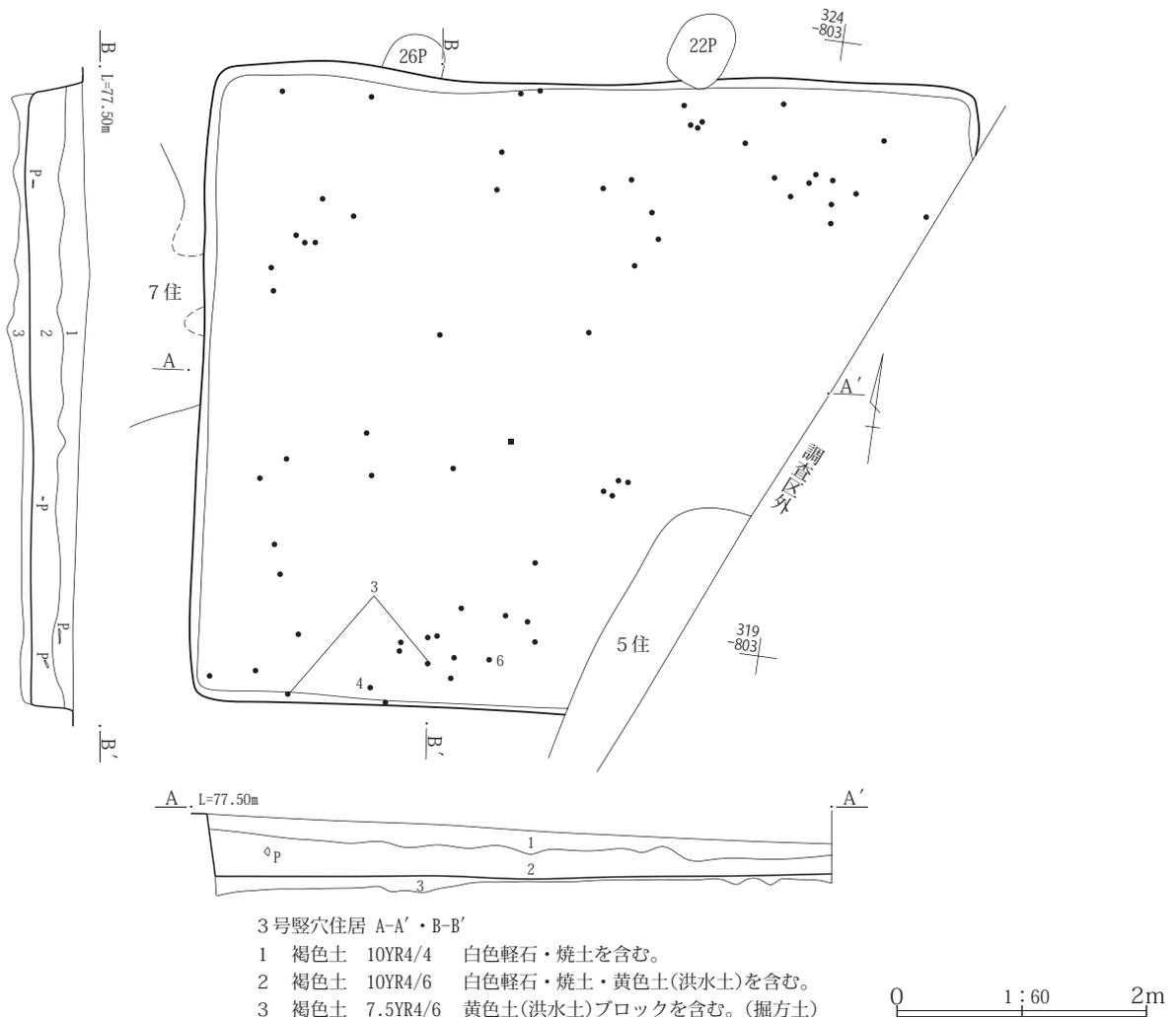
床面 洪水層由来の黄色土ブロックを含む褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

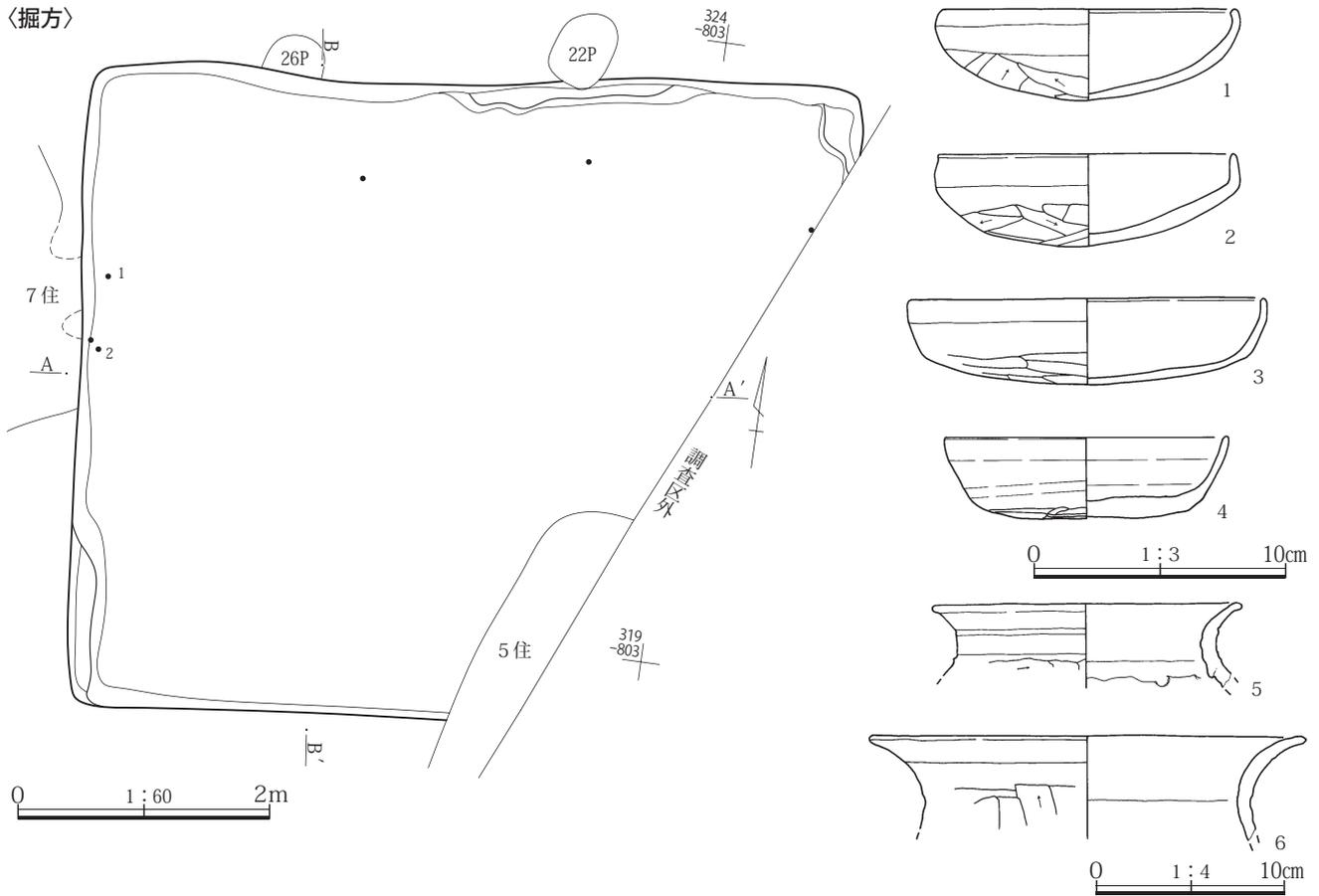
掘方 ピット状の落ち込みが多数あるものの、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器1,548点、須恵器261点が出土し、このうち6点を図示した。土師器杯(1・2)は掘方から、それ以外は埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



第121図 5区3号竪穴住居



第122図 5区3号竪穴住居掘方と出土遺物

5区4号竪穴住居(第123・124図 PL.66・67・115)

位置 5区南西部

X=38,317～38,324 Y=-55,811～-55,818

主軸方向 N-30°-W

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、南東壁の長さは4.92m、北東壁の長さは5.18mである。遺構検出面から床面までの深さは0.5m、掘方底面までの深さは0.65～0.75m、面積は21.23㎡である。

埋没土 褐色土および暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 にぶい黄橙色土を多量に含む灰褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 西壁で1か所検出した。袖は焼土を含む灰黄褐色土で構築され、左袖の長さは0.36m、右袖の長さは0.4mである。右袖から0.5m離れた所では、土師器甕(13)が倒立した状態で出土した。出土状況から、カマド袖端に埋設された土器と考えられる。焼土は床面よりも5

cm程度落ち込み、焼土が分布していた。焼土から煙道までの長さは1.3m、両袖間の長さは0.63mである。

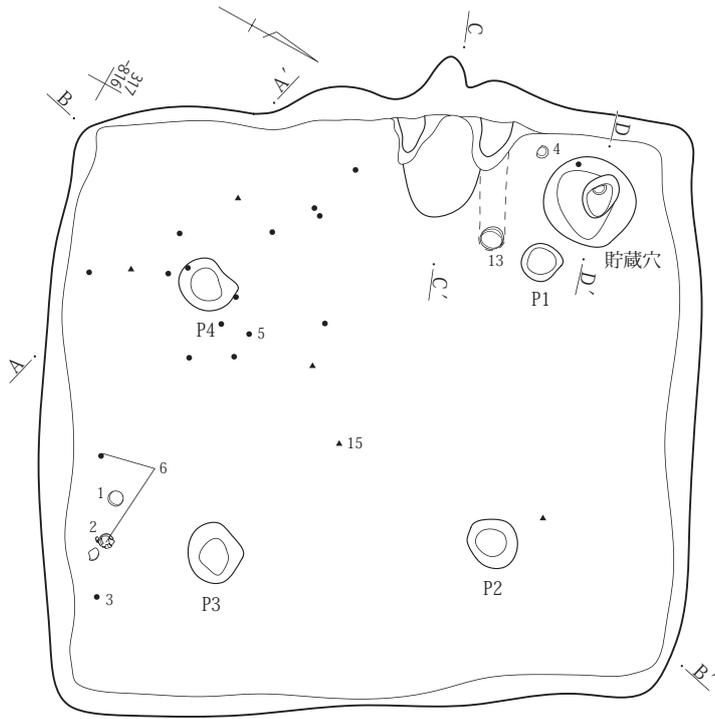
貯蔵穴 北西隅で1基検出された。平面形はほぼ円形で、長径0.73m、短径0.69m、床面からの深さは0.45mである。底面は平坦で、途中に段を有しながら開口部に向けて大きく開く形状である。

ピット P1～P4が検出された。各ピットの規模および形状は第6表に示す。ピット間の距離は、P1・P2間は2.3m、P2・P3間は2.2m、P3・P4間は2.16m、P4・P1間は2.67mである。これらピットは配置および規模から、主柱穴と考えている。

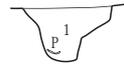
掘方 ピット状の落ち込みが多数あるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器648点、須恵器38点、石製品5点が出土し、このうち15点を図示した。東部で土師器杯(2・6)が、中央部で砥石(15)が床面直上で出土した。

所見 出土遺物から、時期は6世紀後半と考えている。



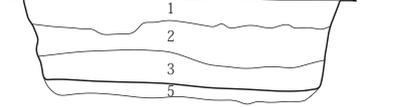
D, L=77.00m



4号竖穴住居貯蔵穴 D-D'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 浅黄色土・焼土を少量、明黄褐色土・炭化物を微量含む。

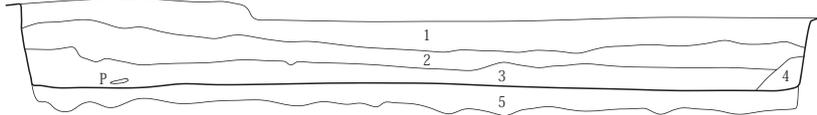
A, L=77.60m



4号竖穴住居 A-A'・B-B'

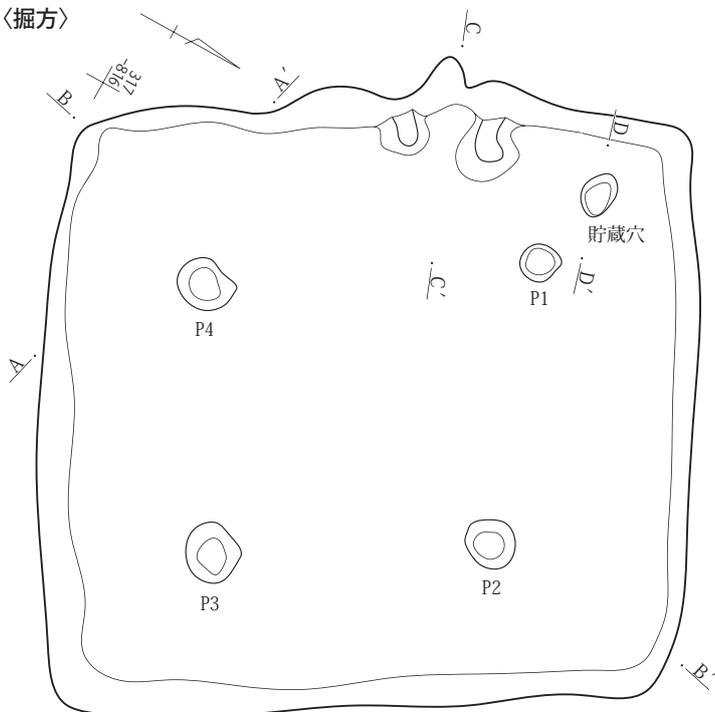
- 1 褐色土 7.5YR4/3 As-C軽石を含む。
- 2 褐色土 7.5YR4/6 焼土・灰を含む。
- 3 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土・黒色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土・黄色土(洪水土)を含む。
- 5 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい黄橙色土を多量、黒褐色土・白色軽石を少量、焼土を微量含む。(掘方土)

B, L=77.60m

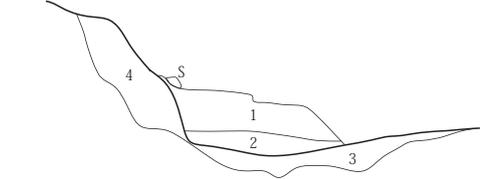


B'

〈掘方〉



C, L=77.40m



4号竖穴住居カマド C-C'

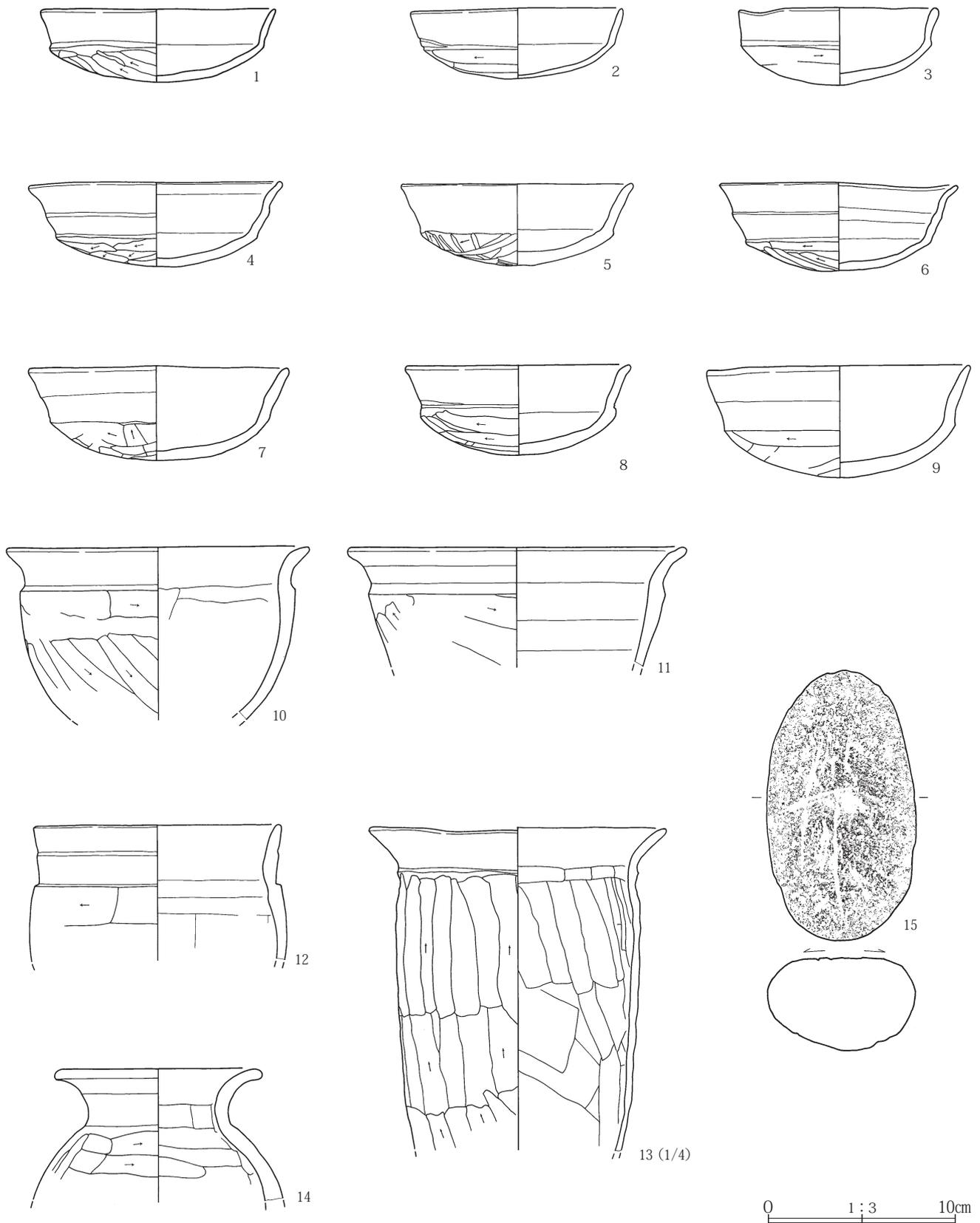
- 1 褐色土 10YR4/4 焼土を少量、浅黄色土・褐灰色土を微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土を多量、褐灰色土を少量、黒褐色土を微量含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 焼土・灰を含む。(3・4掘方土)
- 4 暗褐色土 10YR3/3 焼土を少量含む。

第6表 5区4号竖穴住居ピット計測表

番号	長径	短径	深さ	平面形
P 1	31	30	60	円形
P 2	42	38	62	楕円形
P 3	49	43	66	楕円形
P 4	48	40	48	楕円形

(単位はcm)

第123図 5区4号竖穴住居



第124図 5区4号竪穴住居出土遺物

5区5号竪穴住居(第125図 PL.68・115)

位置 5区南東部東壁際

X=38,316 ~ 38,321 Y=-55,803 ~ -55,805

主軸方向 N-67°-W

重複 3号住居と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、本住居の方が新しい。

形状と規模 ごく一部を調査したのみで、大部分は調査区外であるため、平面形は不明である。検出した長軸長は3.52m、短軸長0.55m、遺構検出面から床面までの深さは0.27m、掘方底面までの深さは0.45mである。

埋没土 灰褐色土を主体とする。1層は洪水層由来の浅黄色土を多量に含み、2層は黒褐色土を多量に含む特徴的な土層である。1層・2層とも本住居が概ね埋没した

ものの、やや落ち込んでいる状態で堆積したものである。

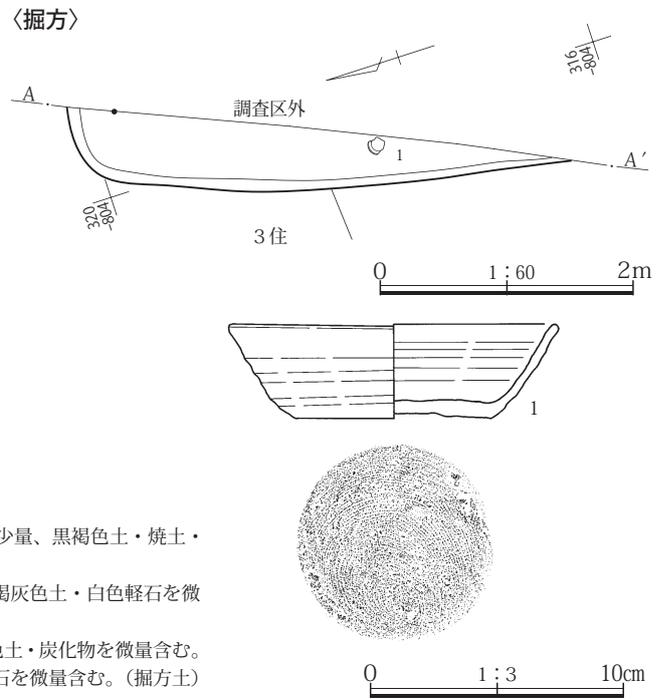
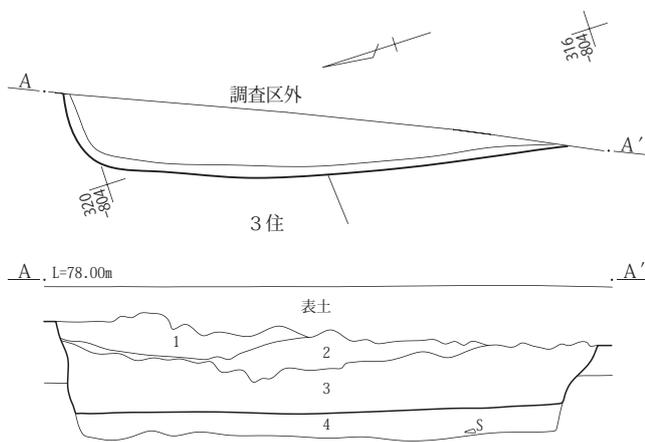
床面 明黄褐色土を少量含む褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器244点、須恵器50点が出土し、このうち1点を図示した。須恵器杯(1)は掘方から出土した。

所見 ごく一部の調査のため全体は不明であるが、遺構の重複および出土遺物から、時期は9世紀前半と推定される。



5号竪穴住居 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 浅黄色土を多量、明黄褐色土・白色軽石を少量、黒褐色土・焼土・炭化物を微量含む。
- 2 褐灰色土 7.5YR4/1 黒褐色土を多量、褐色土・焼土を少量、明褐灰色土・白色軽石を微量含む。
- 3 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土・白色軽石を少量、明黄褐色土・黒褐色土・炭化物を微量含む。
- 4 褐色土 7.5YR4/3 明黄褐色土を少量、焼土・炭化物・白色軽石を微量含む。(掘方土)

第125図 5区5号竪穴住居と出土遺物

5区6号竪穴住居(第126・127図 PL.68 ~ 70・116)

位置 5区南西隅

X=38,310 ~ 38,316 Y=-55,814 ~ -55,821

主軸方向 N-64°-E

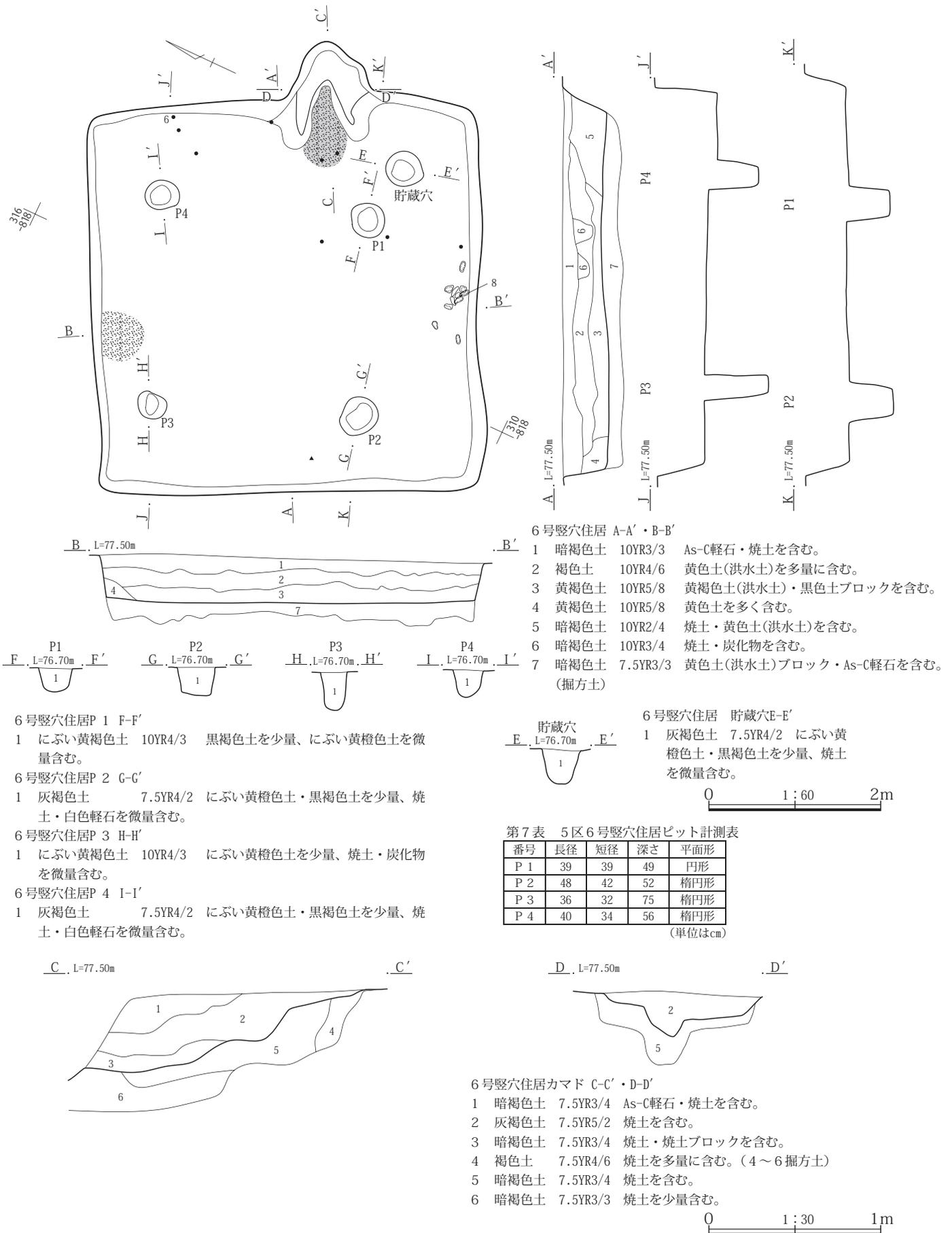
重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は4.64m、短軸長4.47m、遺構検出面から床面までの深さは0.52m、掘方底面までの深さは0.65 ~ 0.75m、面積は18.61㎡である。

埋没土 暗褐色土・褐色土・黄褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。6層は焼土・炭化物を含み、2層より色味が暗い。

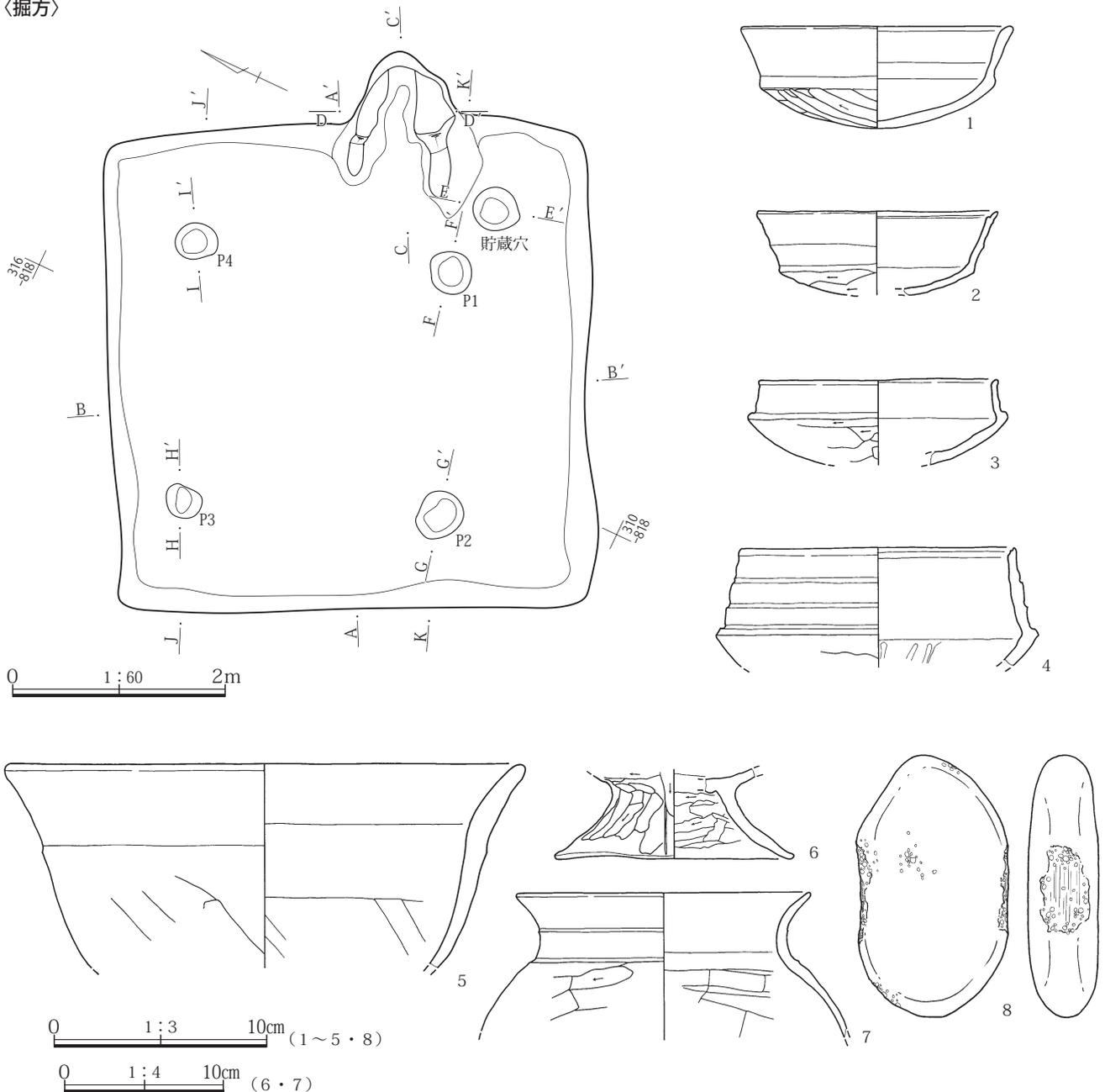
床面 洪水層由来の黄色土およびAs-C軽石を含む暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。北西壁中央部では、50cm×50cmの範囲に灰の分布が認められた。

カマド 北東壁で1か所検出した。袖の遺存状況は良好で、左右袖の長さは、それぞれ0.7m、0.6mである。燃焼部および煙道の長さは1.48m、両袖間の長さは0.73m



第126図 5区6号竪穴住居

〈掘方〉



第127図 5区6号竪穴住居掘方と出土遺物

である。燃烧部から煙道にかけて、使用面には青色灰および焼土の分布が認められた。

貯蔵穴 カマド右袖に隣接して、1基検出された。平面形はほぼ円形で、長径44cm、短径41cm、床面からの深さは64cmである。

ピット 床面調査中にP1～P4を検出した。各ピットの規模および形状は第7表に掲載した。ピット間の距離は、P1・P2間は2.35m、P2・P3間およびP3・P4間、P4・P1間は2.4mである。P1～P4は柱痕が確認できなかったものの、位置や規模から支柱穴と考えている。

掘方 ピット状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器305点、須恵器19点、陶磁器2点、敲石1点が出土し、このうち8点を図示した。南東壁中央部では、敲石(8)および8～13cm大の棒状礫10点が床面や壁際で出土した。棒状礫は重なっているものもあり、集められたような状況に見える。1～7は住居内またはカマド埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は6世紀後半と考えている。

5区7号竪穴住居(第128図 PL.71・72・116)

位置 5区中央部南寄り

X=38,319~38,323 Y=-55,807~-55,811

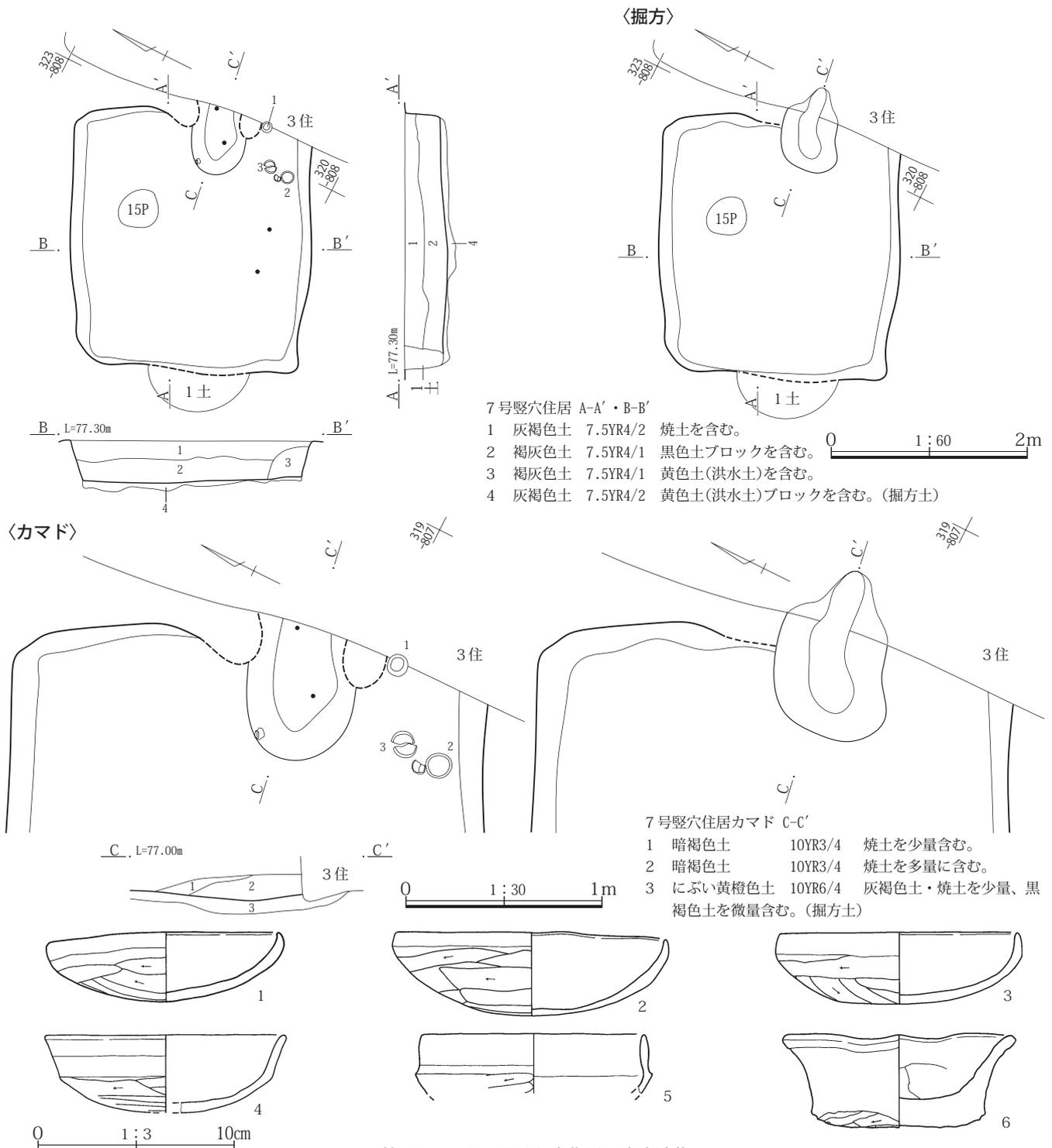
主軸方向 N-62°-E

重複 3号住居、1号土坑、14号・15号ピットと重複する。遺構検出時の観察および出土遺物から、いずれの遺構よりも本住居が古い。

形状と規模 平面形は長方形で、長軸長は2.66m、短軸長2.45mである。遺構検出面から床面までの深さは0.39m、掘方底面までの深さは0.4~0.5m、面積は約5.23㎡である。

埋没土 灰褐色土および褐灰色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 洪水層由来の黄色土ブロックを含む灰褐色土で構



第128図 5区7号竪穴住居と出土遺物

築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁で1か所検出した。3号住居に切られ、燃烧部のみ確認することができた。燃烧部は床面よりも2～5cm緩やかに落ち込んでいた。

柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器256点、須恵器20点が出土し、このうち6点を図示した。カマド南側では、ほぼ完形の土師器杯(1～3)が3点、床面付近で出土した。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と推定される。

5区8号竪穴住居(第129・130図 PL.72・116)

位置 5区中央部東壁際

X=38,325～38,330 Y=-55,799～-55,804

主軸方向 N-60°-E

重複 なし

形状と規模 東部が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は4.14m、短軸長3.07m、遺構検出面から床面までの深さは0.38m、掘方底面までの深さは0.48～0.55mである。

埋没土 褐色土およびにぶい黄褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示している。

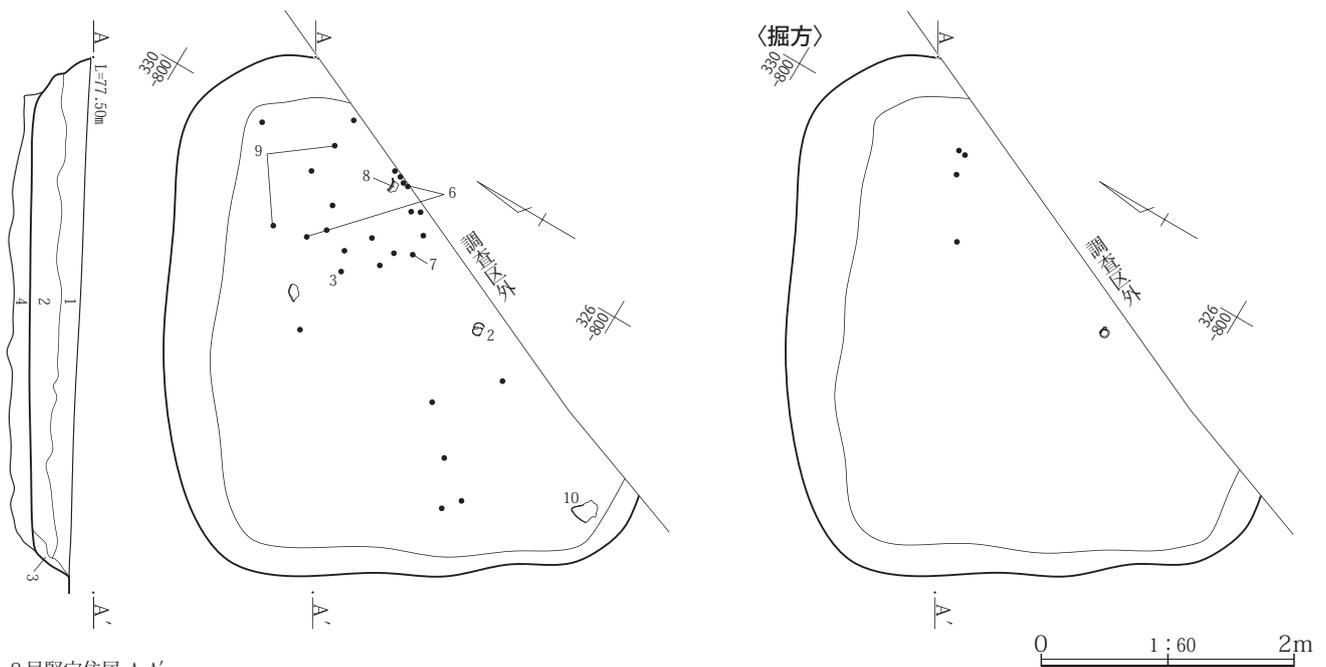
床面 灰褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・柱穴 検出されなかった。

掘方 土坑状の浅い落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器418点、須恵器26点が出土し、このうち10点を図示した。床面中央部で土師器杯(7)が床面直上から出土した。

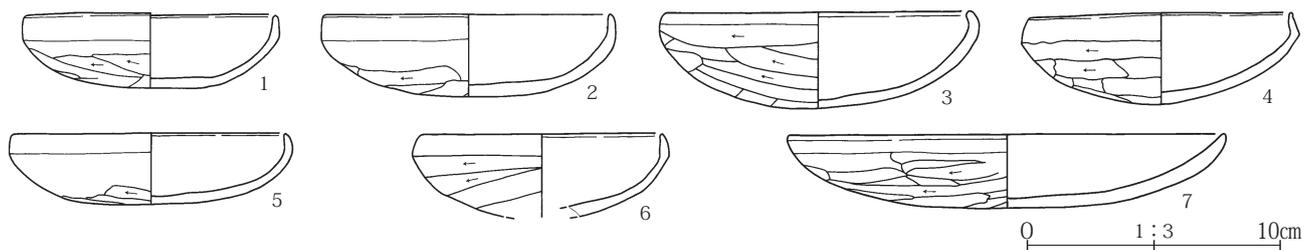
所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。



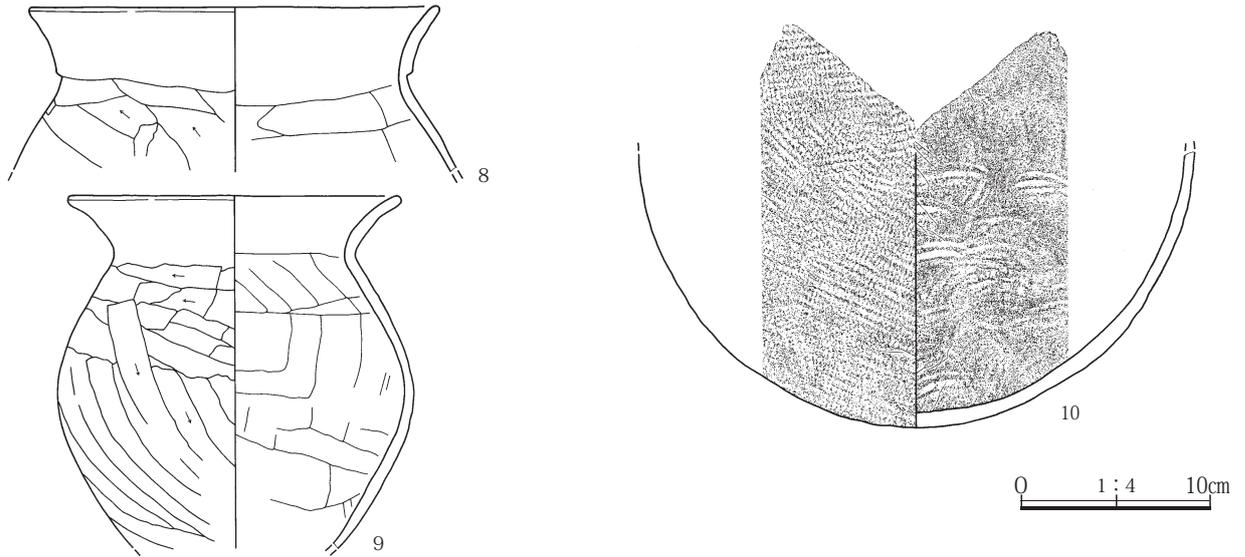
8号竪穴住居 A-A'

- 1 褐色土 10YR4/4 白色軽石・焼土粒を含む。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄褐色土(洪水土)を含む。

- 3 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色土(洪水土)を多量に含む。
- 4 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土・黒色灰・黄色土(洪水土)を含む。(掘方土)



第129図 5区8号竪穴住居と出土遺物(1)



第130図 5区8号竪穴住居出土遺物(2)

5区9号竪穴住居(第131・132図 PL.73・116)

位置 5区中央部

X=38,332 ~ 38,336 Y=-55,800 ~ -55,805

主軸方向 N-79°-W

重複 なし

形状と規模 遺存状況は良好ではないものの、全体を調査することができた。平面形は長方形で、長軸長は3.42m、短軸長2.94m、遺構検出面から床面までの深さは0.06m、掘方底面までの深さは0.12～0.2m、面積は9.14㎡である。

埋没土 褐色土の1層を確認した。焼土粒を少量含んでいる。

床面 洪水層由来の黄褐色土ブロックを含む褐色土で構

築され、ほぼ平坦である。南壁付近では、65cm×60cmの範囲に灰が分布していた。

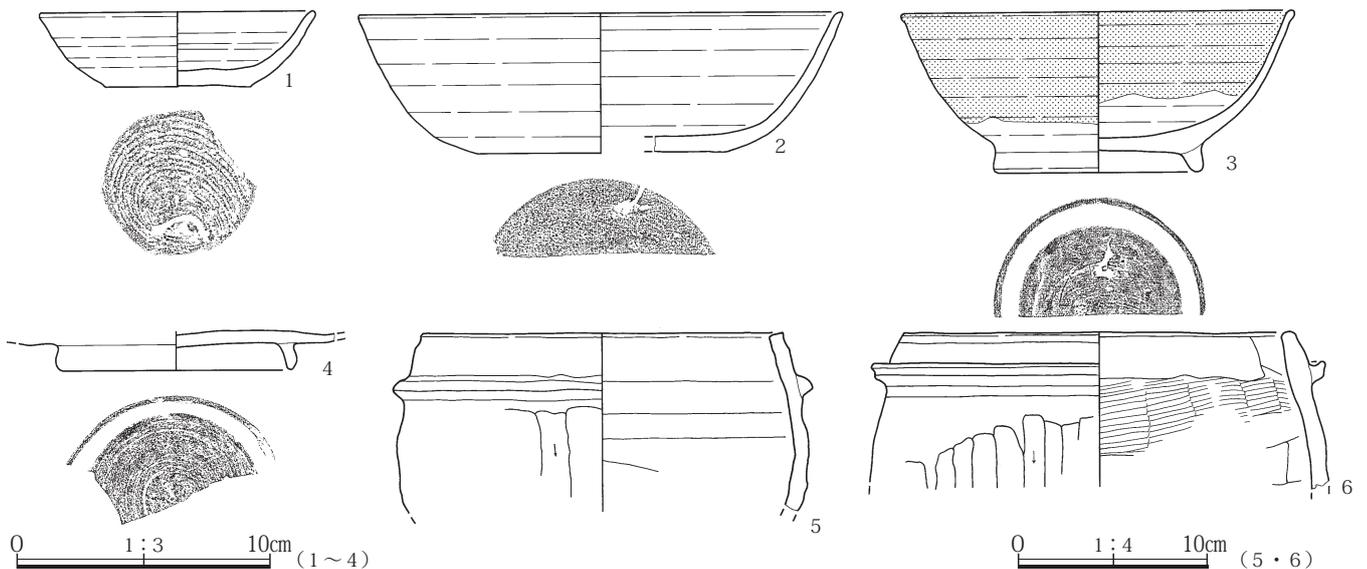
カマド 東壁で1か所検出した。燃烧部は壁外に伸び、袖は遺存しなかった。燃烧部および煙道の長さは0.81m、幅は0.98mである。燃烧部付近では、土器片が集中し、須恵器杯(1)は使用面より3cm上で、灰釉陶器皿(4)と土師器羽釜(6)はカマド埋没土から出土した。

柱穴 検出されなかった。

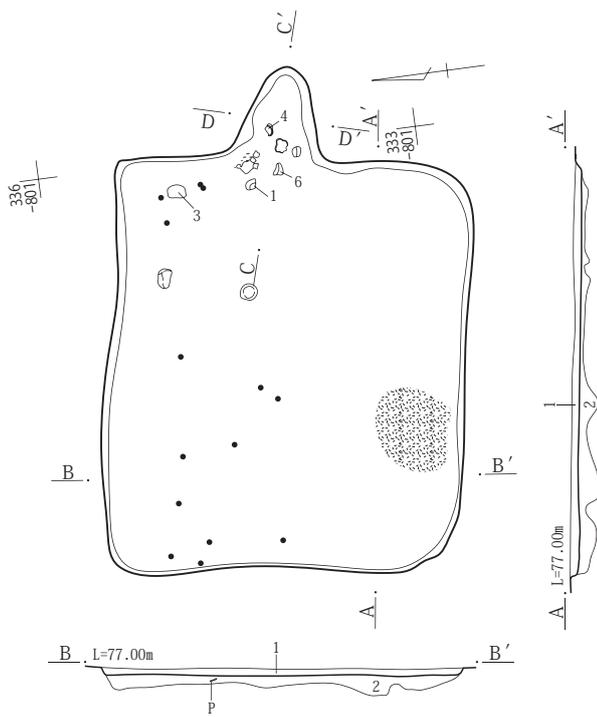
掘方 土坑状またはピット状の落ち込みが確認された。

遺物と出土状態 土師器407点、須恵器58点、灰釉陶器2点が出土し、このうち6点を図示した。北東隅で、灰釉陶器椀(3)が床面直上から出土した。

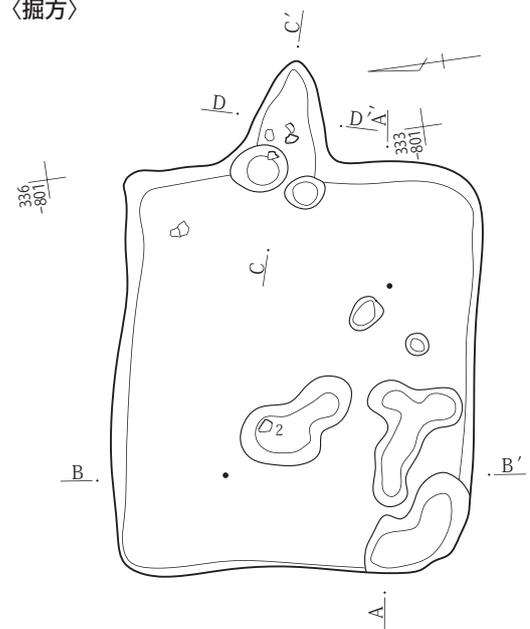
所見 出土遺物から、時期は10世紀後半と考えている。



第131図 5区9号竪穴住居出土遺物

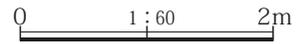


〈掘方〉

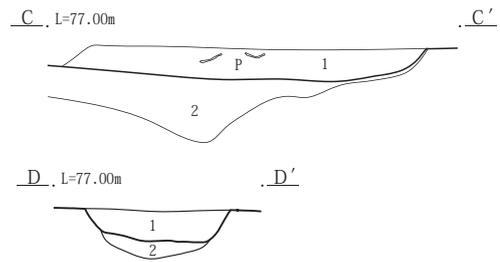
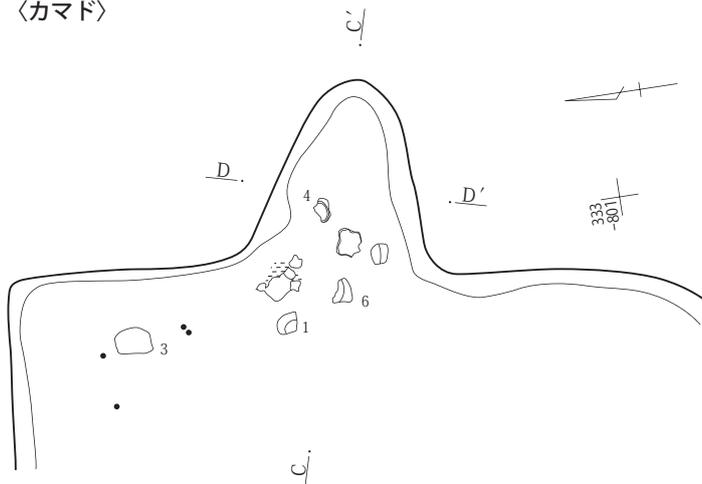


9号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 10YR4/6 焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土 10YR4/6 黄褐色土(洪水土)ブロックを含む。(掘方土)

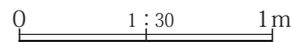


〈カマド〉



9号竪穴住居カマド C-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土粒を少量含む。(掘方土)



第132図 5区9号竪穴住居

5区10号竪穴住居(第133・134図 PL.74・116)

位置 5区中央部

X=38,335 ~ 38,340 Y=-55,801 ~ -55,806

主軸方向 N-77°-W

重複 16号住居と重複し、遺構検出時の観察および出土遺物から、本住居の方が新しい。

形状と規模 平面形は長方形と推定される。北壁の長さは3.98m、西壁の長さは3.26m、遺構検出面から床面までの深さは0.1m、掘方底面までの深さは0.15 ~ 0.6m、面積は10.8㎡である。

埋没土 にぶい黄褐色土の1層を確認した。浅黄色土、焼土、白色軽石を含んでいた。

床面 褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 南壁やや西寄りにて1か所検出した。袖は遺存せ

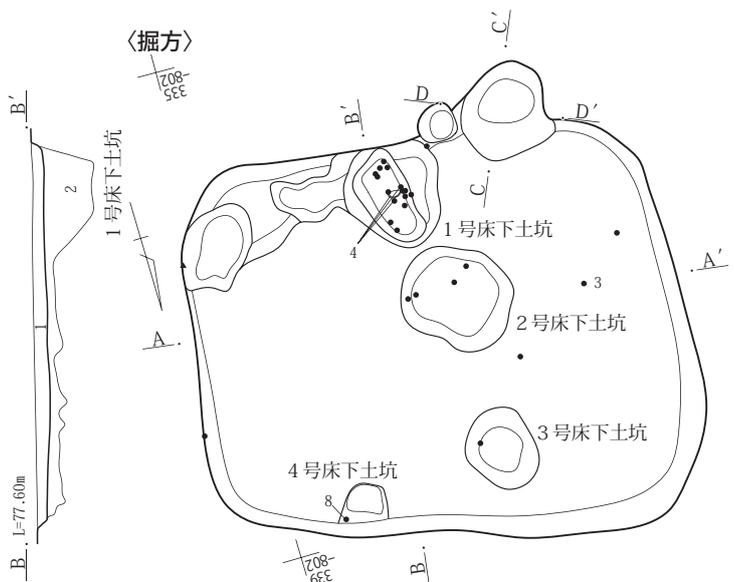
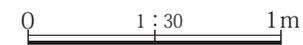
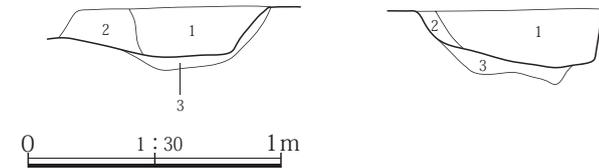
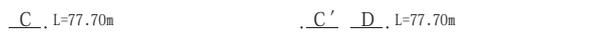
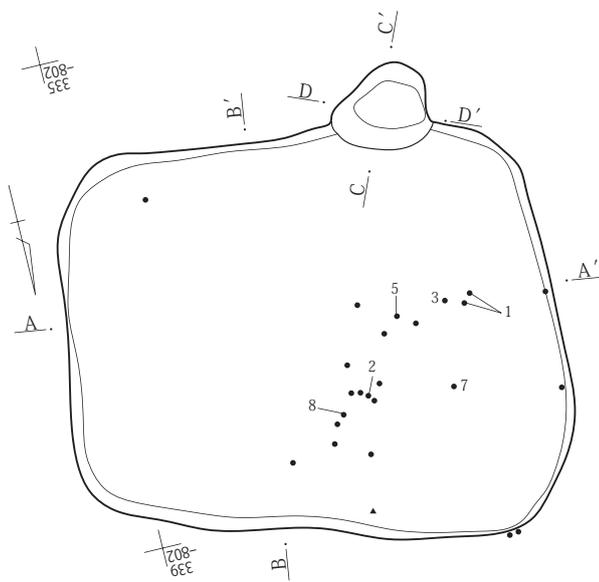
ず、燃烧部と推定される部分を確認したが、煙道は明確ではない。燃烧部使用面は床面よりも20cm程度低く、土坑状に落ち込んでいる。埋没土には焼土ブロックおよび焼土粒を多量に含み、天井部および側壁の崩落土を含んでいると推定される。

柱穴 検出されなかった。

掘方 掘方調査中に、床下土坑を4基確認した。各床下土坑の規模と形状は第8表に示した。

遺物と出土状態 土師器527点、須恵器135点、敲石1点、石製品1点が出土し、このうち10点を図示した。

所見 カマドは埋没土に多量の焼土が含まれるものの、形状が周辺の住居とは異なり、カマドでない可能性もある。出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。



- 10号竪穴住居 A-A'・B-B'
- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 浅黄色土を少量、黒褐色土・焼土・白色軽石・炭化物を微量に含む。
 - 2 褐色土 10YR4/6 黄褐色土(洪水土)ブロックを含む。(2・3掘方土)
 - 3 黒褐色土 10YR2/1 黄褐色土(洪水土)を含む。

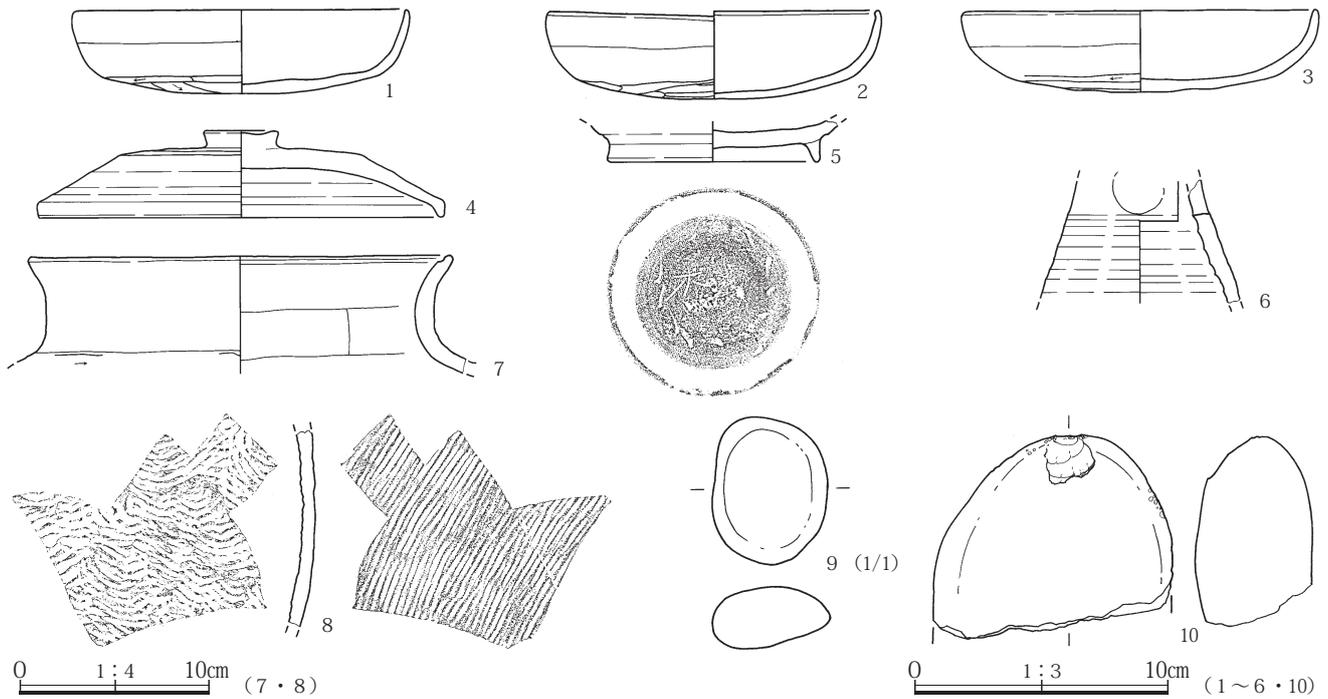
第8表 5区10号竪穴住居床下土坑計測表

番号	長径	短径	深さ	平面形
1号床下土坑	84	74	34	楕円形
2号床下土坑	92	78	44	楕円形
3号床下土坑	66	54	12	楕円形
4号床下土坑	33	32	27	台形

(単位はcm)

- 10号竪穴住居カマド C-C'・D-D'
- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土を多量、褐灰色土・浅黄色土を少量、白色軽石・炭化物を微量に含む。
 - 2 黒褐色土 5YR3/1 焼土・白色軽石を微量に含む。
 - 3 褐色土 10YR5/4 焼土・黒褐色土・炭化物を微量含む。(掘方土)

第133図 5区10号竪穴住居



第134図 5区10号竪穴住居出土遺物

5区11号竪穴住居(第135～137図 PL.75・76・116・117)

位置 5区北西部

X=38,339～38,346 Y=-55,799～-55,807

主軸方向 N-9°-W

重複 12号・13号竪穴住居および1号竪穴状遺構と重複する。12号住居との新旧関係では、発掘調査時には土層断面の観察から、本住居の方が12号住居より新しいと判断して調査を進めた。しかし、整理作業で出土遺物を含め再検討を行った結果、11号・12号住居の時期はともに8世紀後半と推定されるものの、12号住居の方がより新しい土器を含むことから、12号住居の方が新しいと判断した。また、出土遺物の観察から、本住居は13号住居より古いと推定した。また、本住居床面よりも20～30cm下位で、1号竪穴状遺構を検出していることから、1号竪穴状遺構よりも本住居が新しい。

形状と規模 12号住居との重複部分は正確に形状を把握することができなかったが、平面形は正方形または長方形と推定される。東壁の長さは5.36m、南壁の長さは5.4m、遺構検出面から床面までの深さは0.07m、掘方底面までの深さは0.15mである。

埋没土 白色軽石および焼土を含む褐色土である。

床面 ほぼ平坦で、12号住居床面と同じ高さである。

カマド 東壁で1か所検出した。カマドの遺存状況は良

好ではなかったが、袖の基部を検出することができた。袖の長さは左右それぞれ、0.3m、0.35mで、左袖の端部には直径10cm大の楕円形の礫が据えられ、袖石として使用されたと推定される。燃烧部および煙道の長さは0.78m、両袖間の長さは0.67mである。埋没土には焼土ブロックや灰が含まれていた。

ピット 床面調査中にP1～P3が検出された。P2とP3は12号住居との重複部分から検出されたが、P1～P3の埋没土は黒褐色土で共通していたため、本住居に伴うものと判断した。各ピットの規模や形状は第9表に示す。ピット間の距離はP1・P2間で3.15m、P2・P3間で2.75mである。3基とも柱痕は認められなかった。南東部ではピットが検出されなかったものの、規模や配置から、P1～P3は支柱穴の可能性が高い。

掘方 ほぼ平坦である。

遺物と出土状態 出土遺物が多く、北部および西部に集中していた。西部の遺物は12号住居出土遺物の分布と連続し、12号住居に帰属する可能性がある。土師器3,404点、須恵器573点、鉄製品1点、石製品7点が出土し、このうち23点を図示した。11号住居床面出土と確実にわかるのは須恵器甕(21)のみである。11号住居と12号住居の重複部分から出土した遺物には一部混在が認められる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。

5区12号竪穴住居(第135～138図 PL.76・77・117)

位置 5区北西部

X=38,340～38,346 Y=-55,801～-55,808

主軸方向 N-90°

重複 11号・13号住居と重複する。11号住居との新旧関係では、発掘調査時には土層断面の観察から、本住居の方が11号住居より古いと判断して調査を行ったが、出土遺物を検討した結果、本住居の方が新しいと判断した。また、出土遺物から本住居の方が13号住居よりも古い。従って、これらの住居の新旧は古い方から、11号住居→12号住居→13号住居である。

形状と規模 全体形を把握することができなかった。西

壁の長さは4.95m、遺構検出面から床面までの深さは0.1m、掘方底面までの深さは0.25～0.35mである。

埋没土 白色軽石・焼土粒を含む暗褐色土を確認した。

床面 11号住居と床面の高さが同じである。床面直上で遺物が多量に出土し、11号住居西部から出土した遺物と分布が連続している。

カマド・柱穴 検出されなかった。

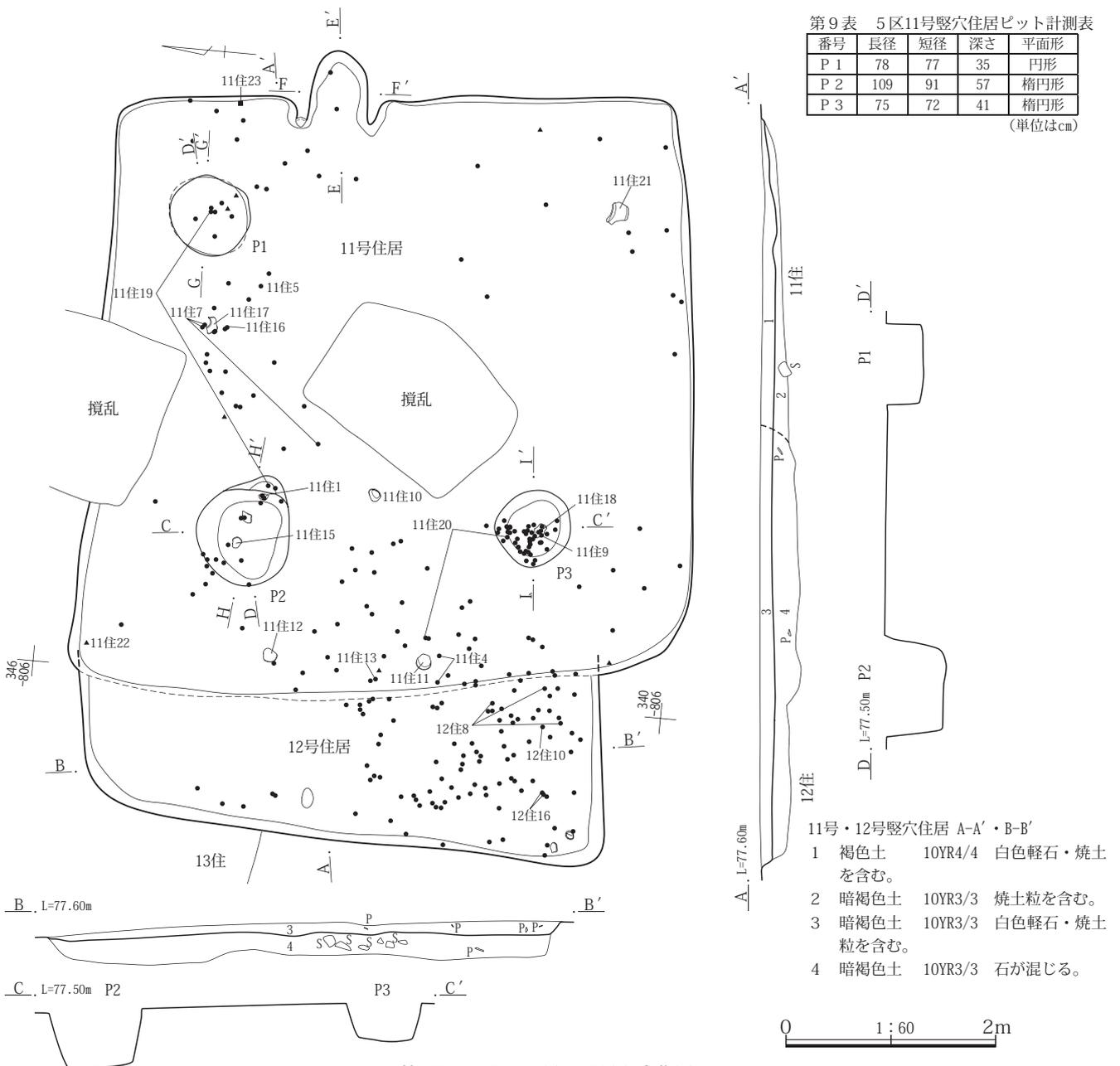
掘方 ほぼ平坦である。床面同様、多量の遺物が出土した。西壁付付近では、20点余りの礫が掘方底面より15～20cm上位でまとまって出土した。大部分は円礫または垂円礫である。

遺物と出土状態 土師器3,320点、須恵器416点が出土

第9表 5区11号竪穴住居ピット計測表

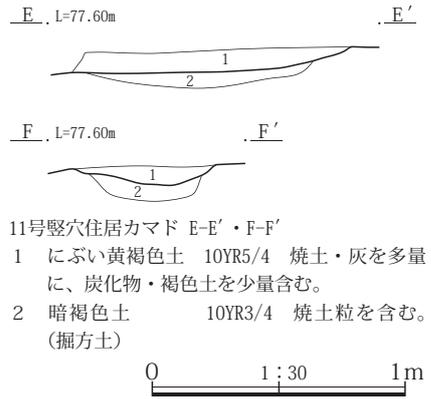
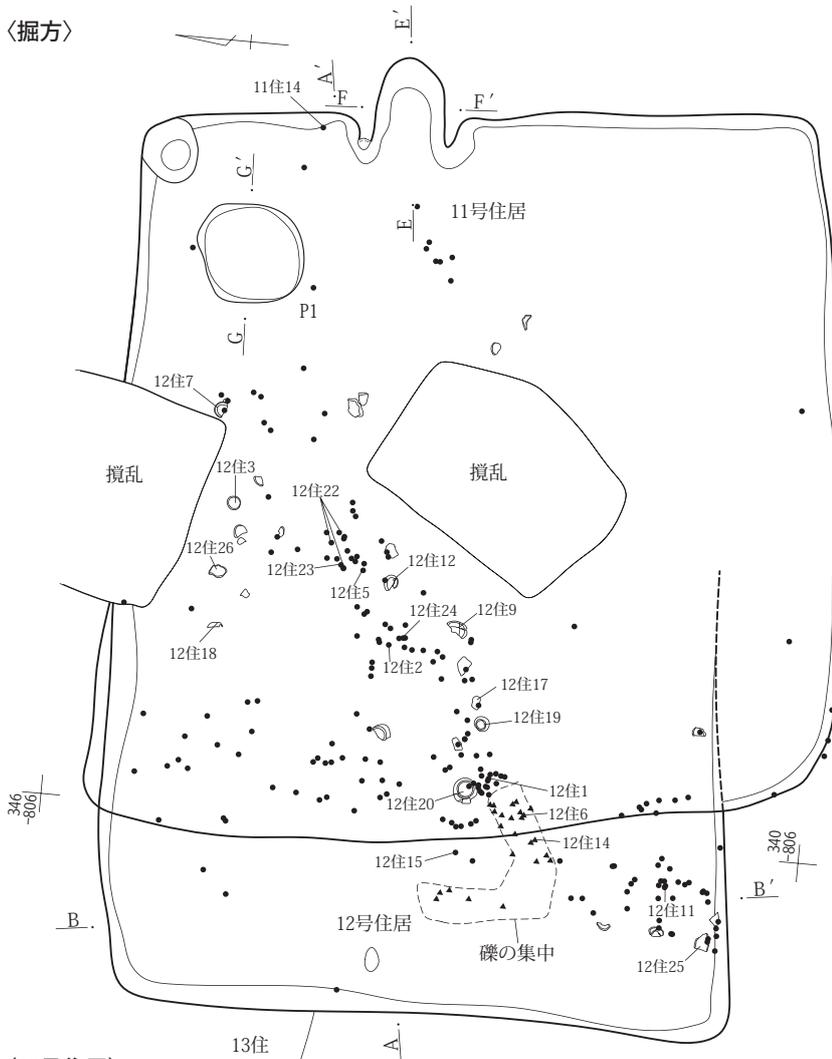
番号	長径	短径	深さ	平面形
P 1	78	77	35	円形
P 2	109	91	57	楕円形
P 3	75	72	41	楕円形

(単位はcm)



第135図 5区11号・12号竪穴住居

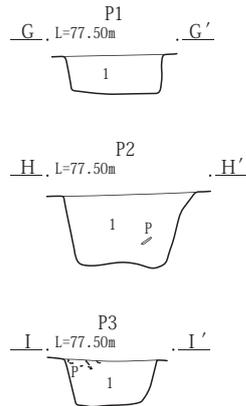
〈掘方〉



11号竪穴住居カマド E-E'・F-F'

1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土・灰を多量に、炭化物・褐色土を少量含む。

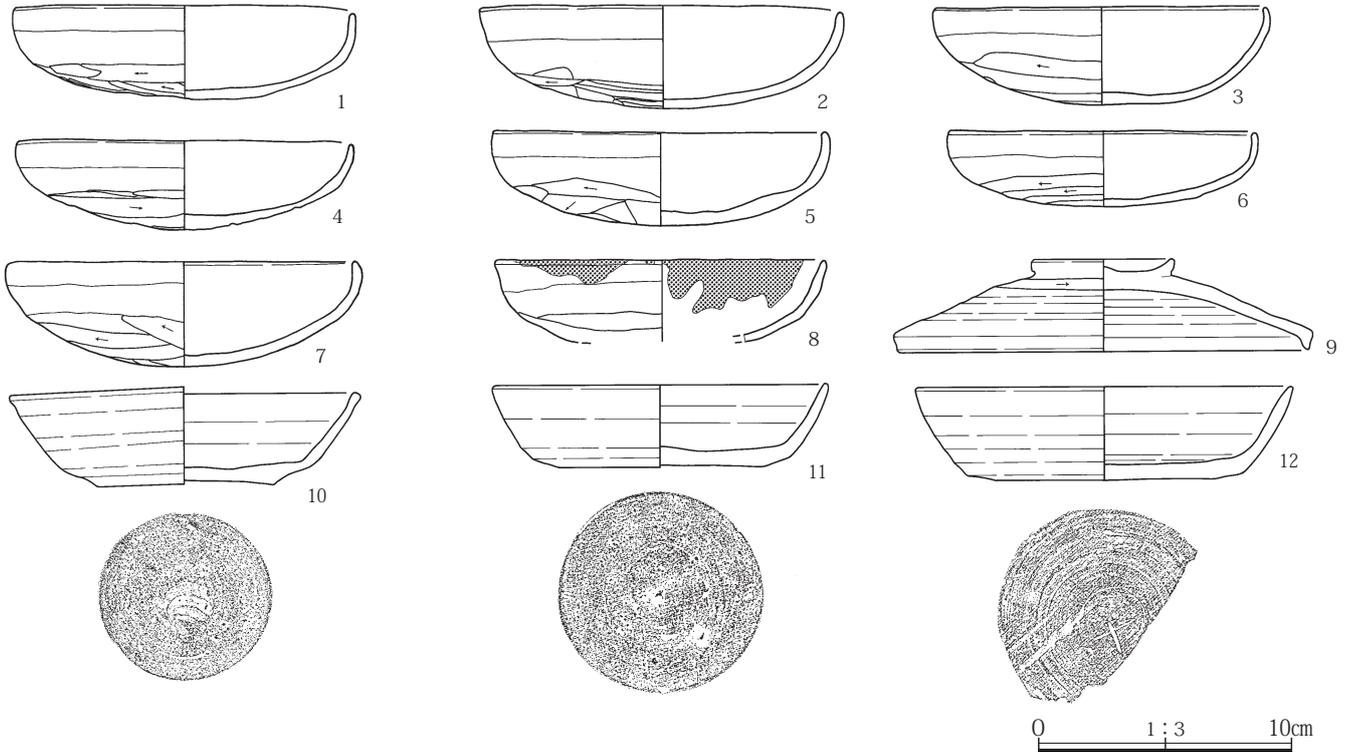
2 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒を含む。(掘方土)



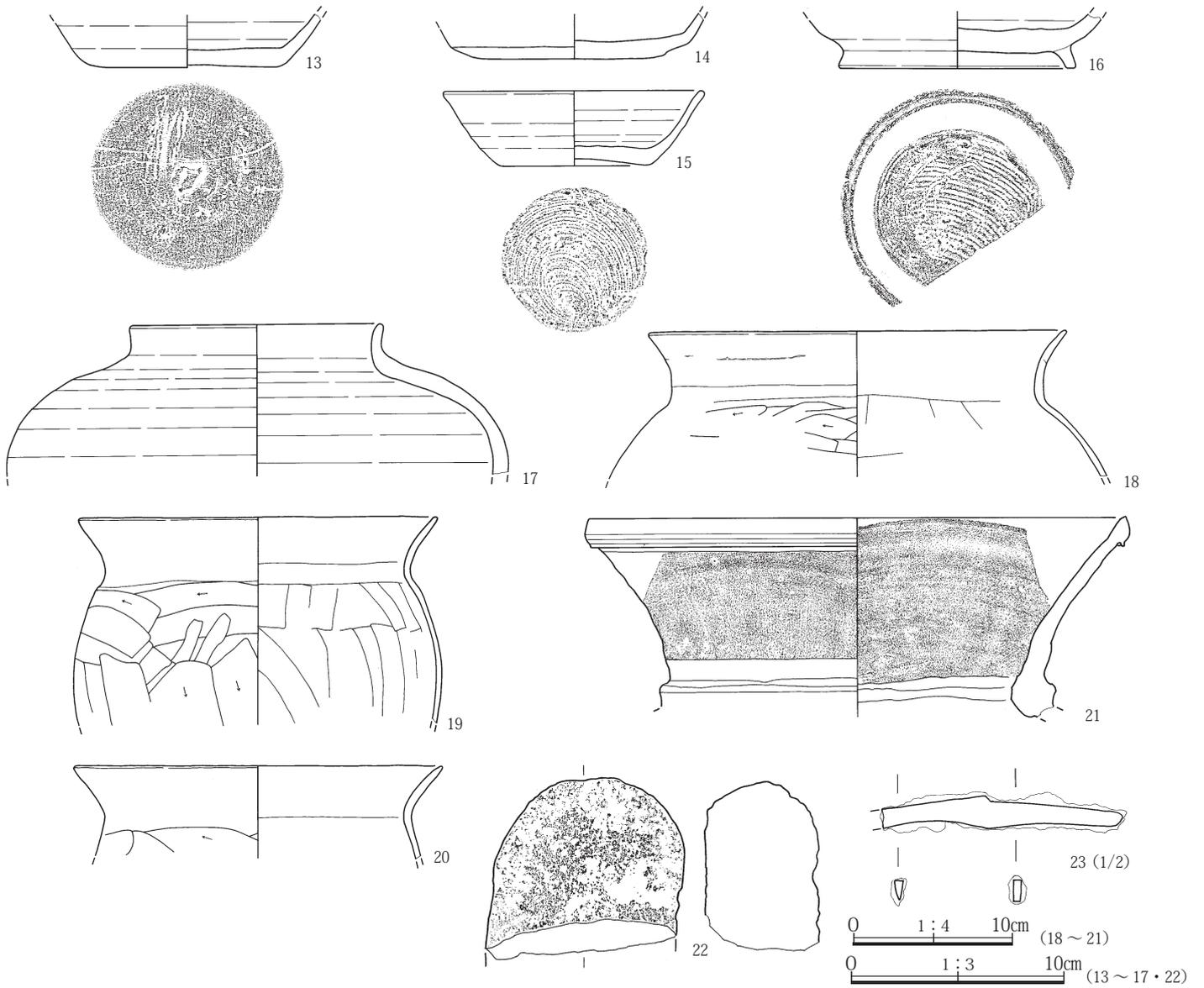
11号竪穴住居P1～P3 G-G'・H-H'・I-I'

1 黒褐色土 7.5YR2/2 焼土粒を含む。

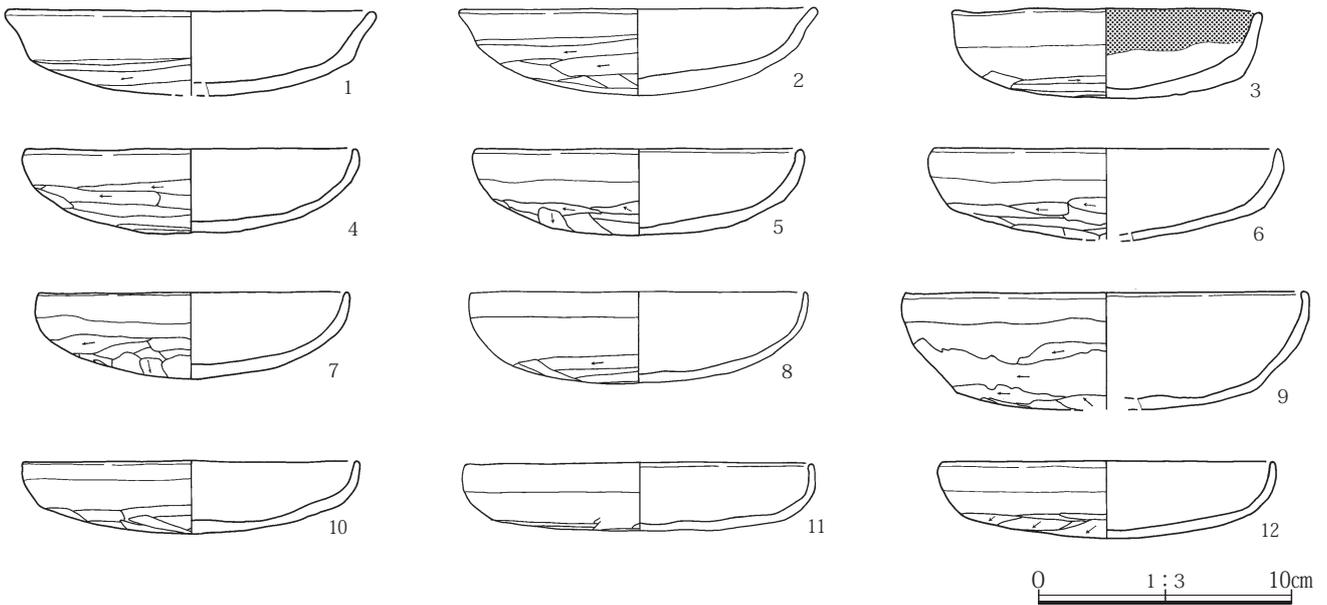
〈11号住居〉



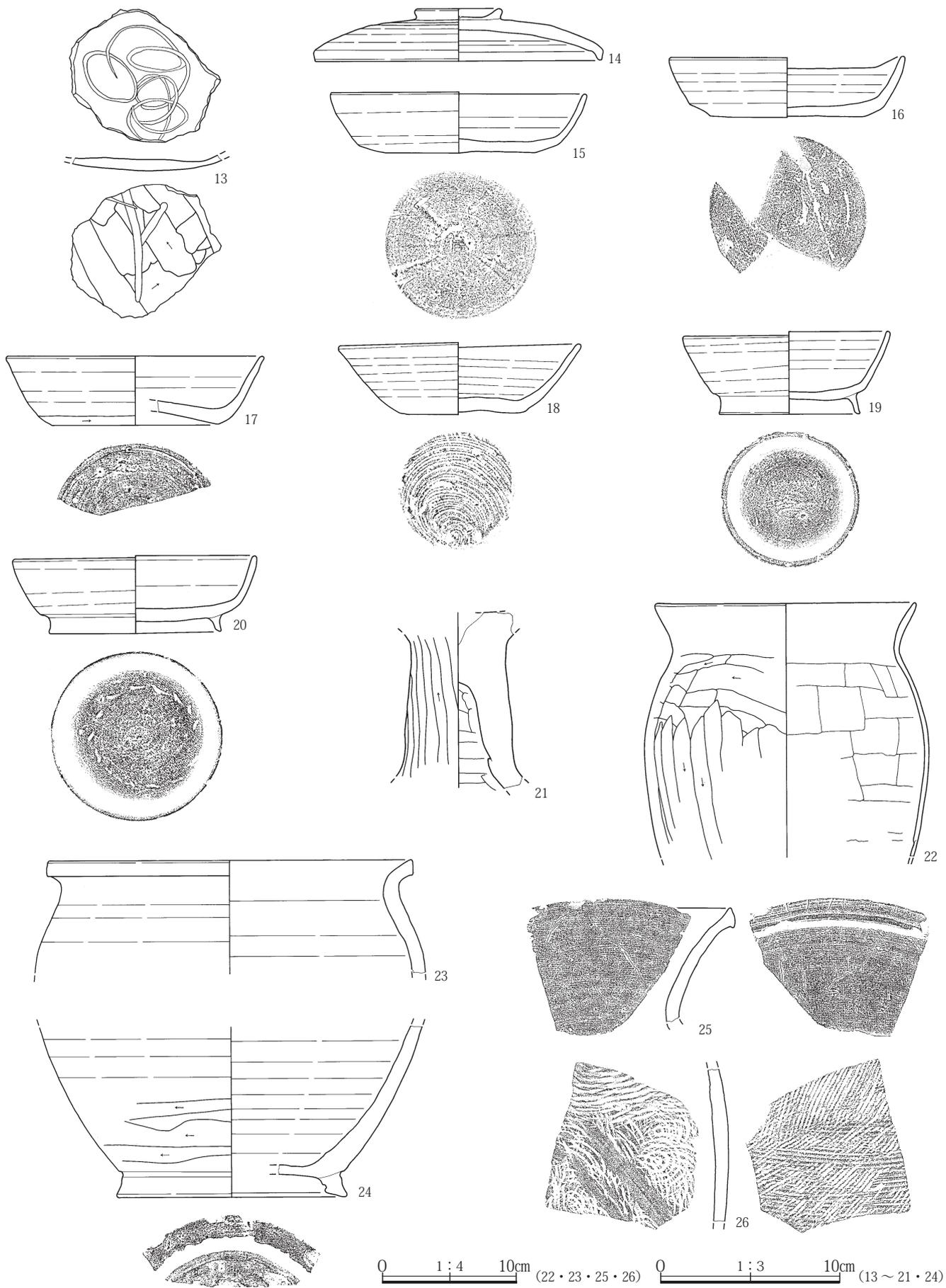
第136図 5区11号・12号竪穴住居掘方と11号竪穴住居出土遺物



〈12号住居〉



第137図 5区11号・12号竪穴住居出土遺物



第138図 5区12号竪穴住居出土遺物

し、このうち26点を図示した。埋没土、床面直上、掘方土のいずれからも多量の遺物が出土し、極めて特徴的である。土師器杯(10)は床面直上から出土した。また、11号住居の遺物が掘り返され、掘方土に混入したと考えられる遺物が多く認められ、1～6、14～17、19・20がこれに該当する。土師器高杯の脚部(21)は6世紀前半より古く、混入したものと考えている。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。

5区13号竪穴住居(第139～141図 PL.77・117・118)

位置 5区北西部西壁際

X=38,343～38,352 Y=-55,803～-55,809

主軸方向 N-4°-E

重複 11号・12号・15号住居と重複する。出土遺物から、いずれの住居よりも本住居が新しい。

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。東壁の長さは7.3m、南壁の長

さは3.9m、遺構検出面から床面までの深さは0.44m、掘方底面までの深さは0.5～0.7mである。

埋没土 焼土粒を多量にふくむ暗褐色土である。

床面 洪水層由来の黄褐色土をブロック状にふくむ褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

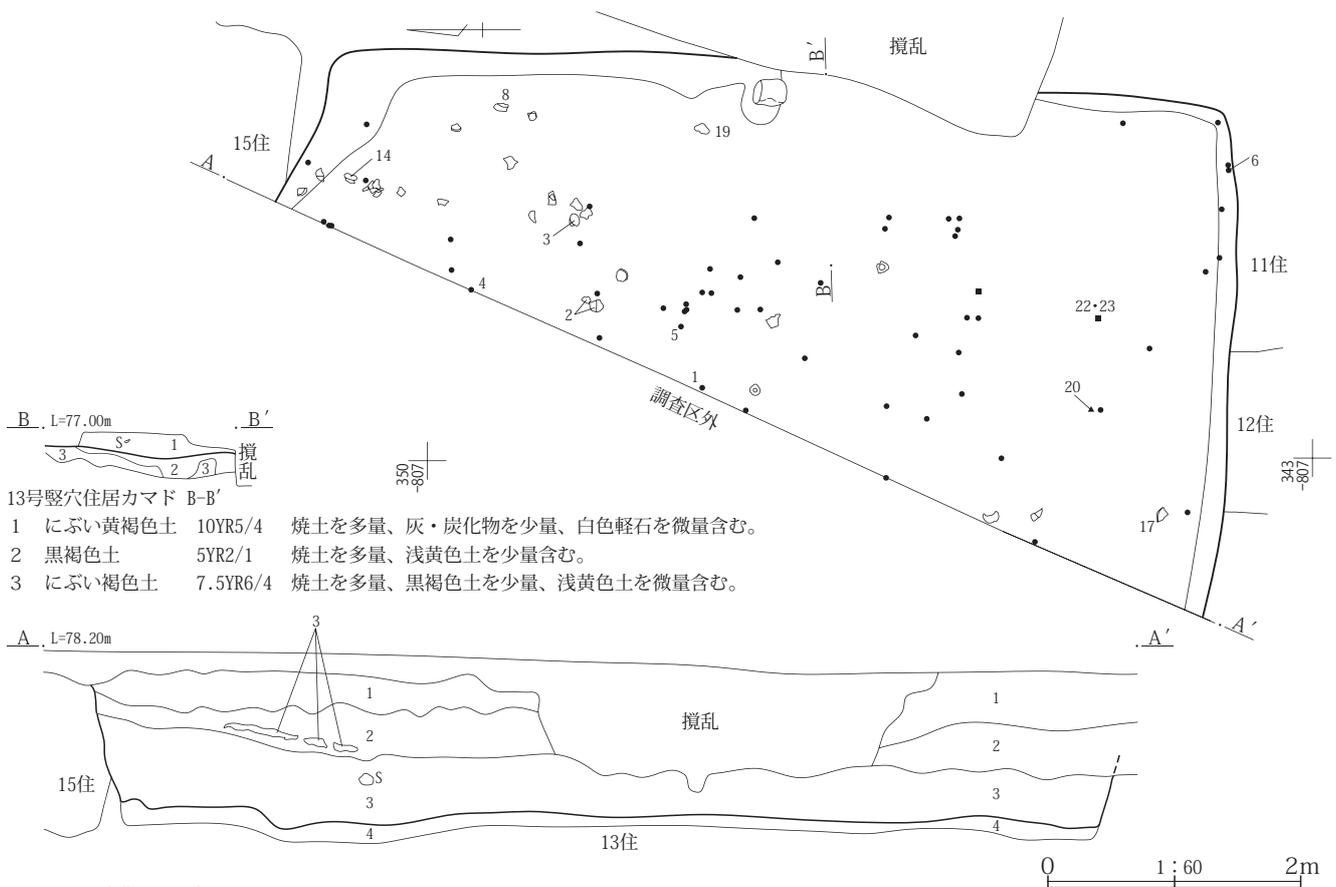
カマド 東壁中央部で1か所確認されたが、大部分は攪乱で壊されていた。左袖の一部と被熱をして表面が赤色に変化した角礫(長さ25cm大)のみ認められた。角礫はカマドの構築材と推定される。

柱穴 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みが多数あるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器4,662点、須恵器885点、灰釉陶器2点、鉄製品4点、石製品1点が出土し、このうち24点を図示した。土師器杯(6)と土師器甕(14)、灰釉陶器瓶(19)は床面直上から出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。

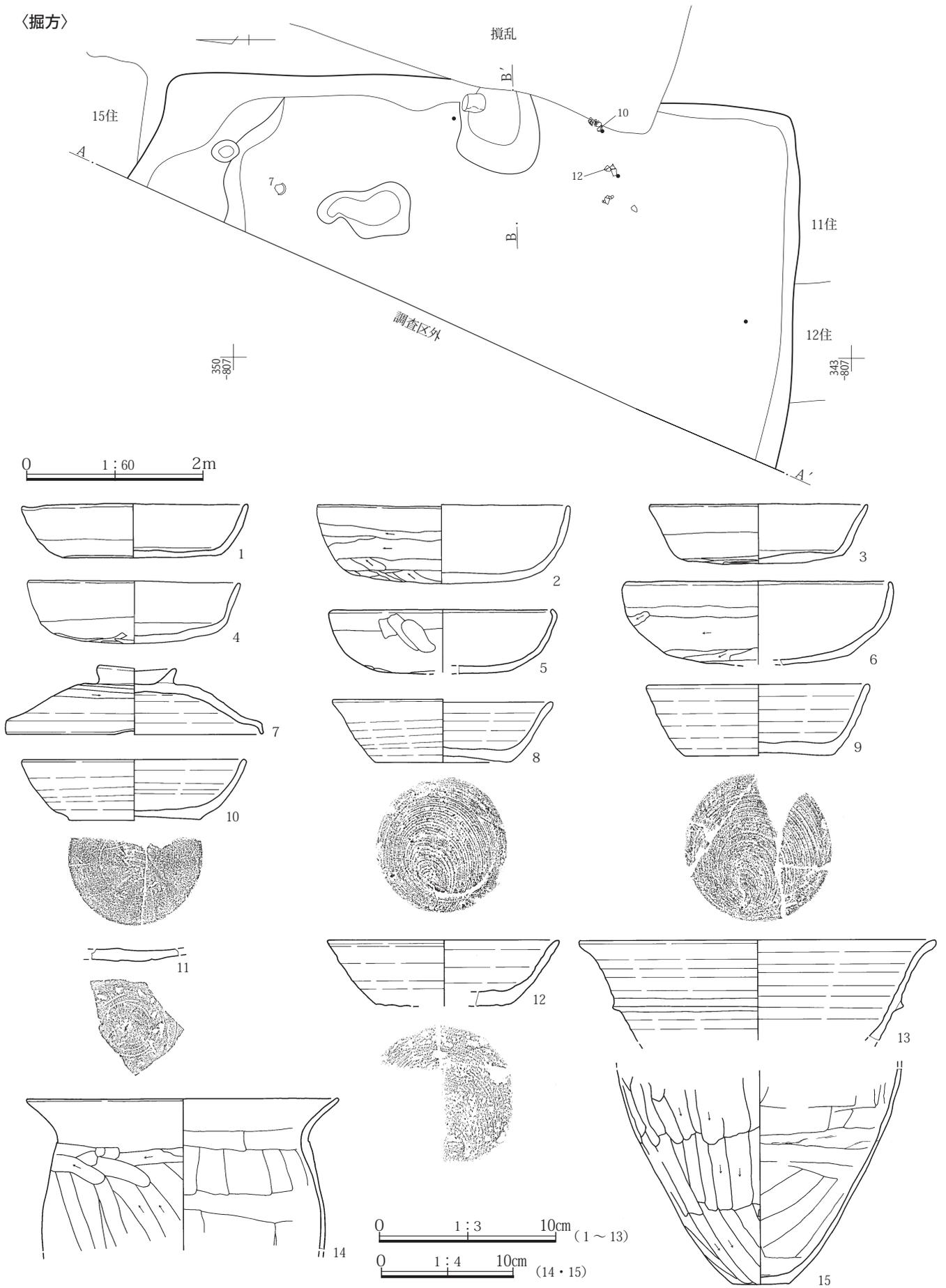


- 13号竪穴住居カマド B-B'
- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土を多量、灰・炭化物を少量、白色軽石を微量含む。
 - 2 黒褐色土 5YR2/1 焼土を多量、浅黄色土を少量含む。
 - 3 にぶい褐色土 7.5YR6/4 焼土を多量、黒褐色土を少量、浅黄色土を微量含む。

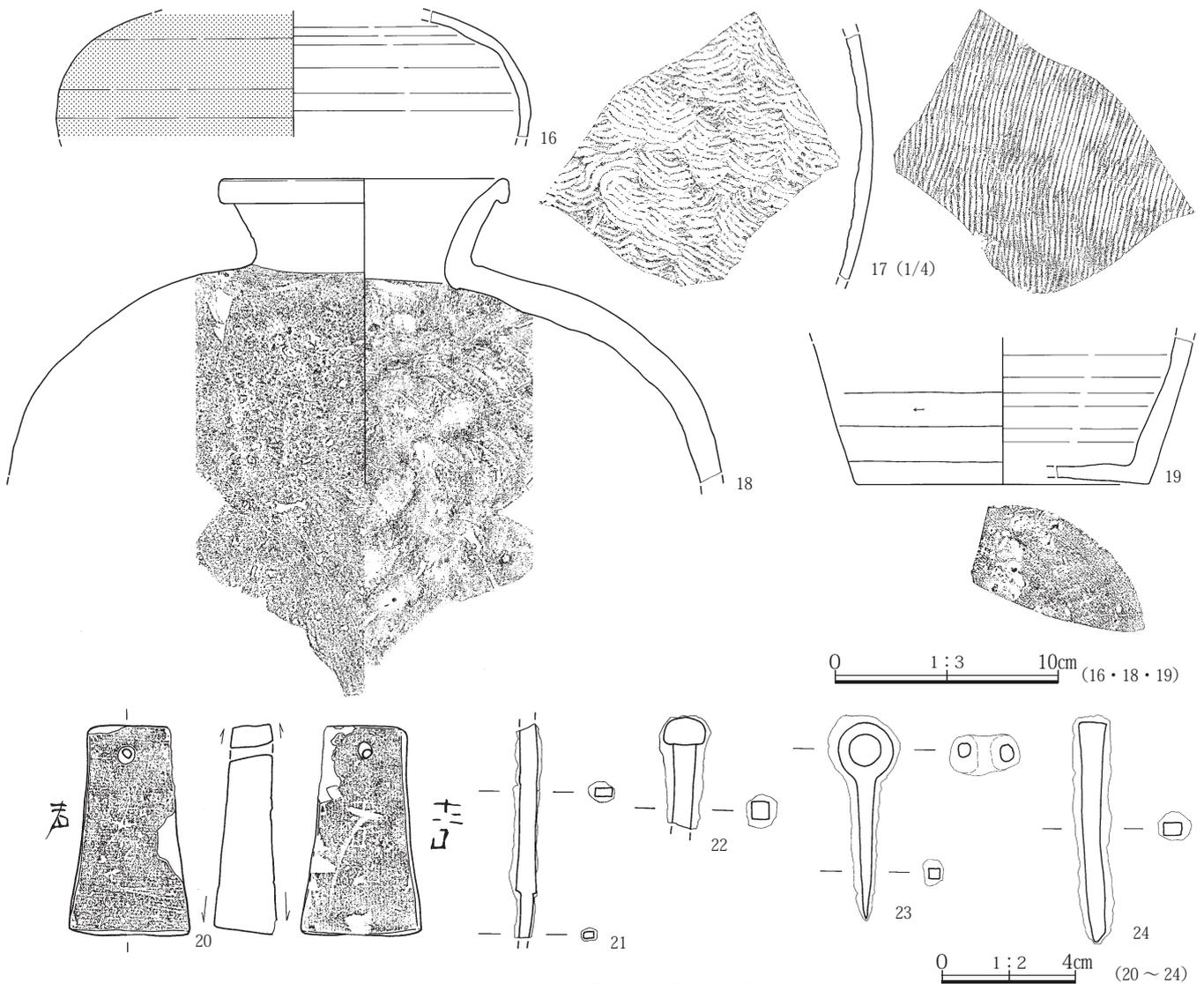
- 13号竪穴住居 A-A'
- 1 褐色土 10YR4/4 洪水層由来の砂質土・白色軽石を含む。
 - 2 黄褐色土 10YR5/8 黄褐色土(洪水土)ブロック含む。
 - 3 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒を多量に含む。
 - 4 褐色土 10YR4/6 黄褐色土(洪水土)・焼土・炭化物を含む。(掘方土)

第139図 5区13号竪穴住居

〈掘方〉



第140図 5区13号竪穴住居掘方と出土遺物(1)



第141図 5区13号竪穴住居出土遺物(2)

5区14号竪穴住居(第142・143図 PL.78・79・118)

位置 5区北部

X=38,345～38,351 Y=-55,795～-55,801

主軸方向 N-26°-E

重複 なし

形状と規模 平面形は長方形で、西壁の長さは3.92m、北壁の長さは3.67m、遺構検出面から床面までの深さは0.28m、掘方底面までの深さは0.4～0.5m、面積は12.55㎡である。

埋没土 黒褐色土および暗褐色土を主体とする。1層はにぶい黄褐色の砂質土で、洪水由来の土である。

床面 住居東側3分の2は浅黄色粘質土で構築され、斑状を呈している。西側3分の1は灰褐色土で床面が作られている。南壁際では、土師器杯(2・6・7)が床面直上から出土した。

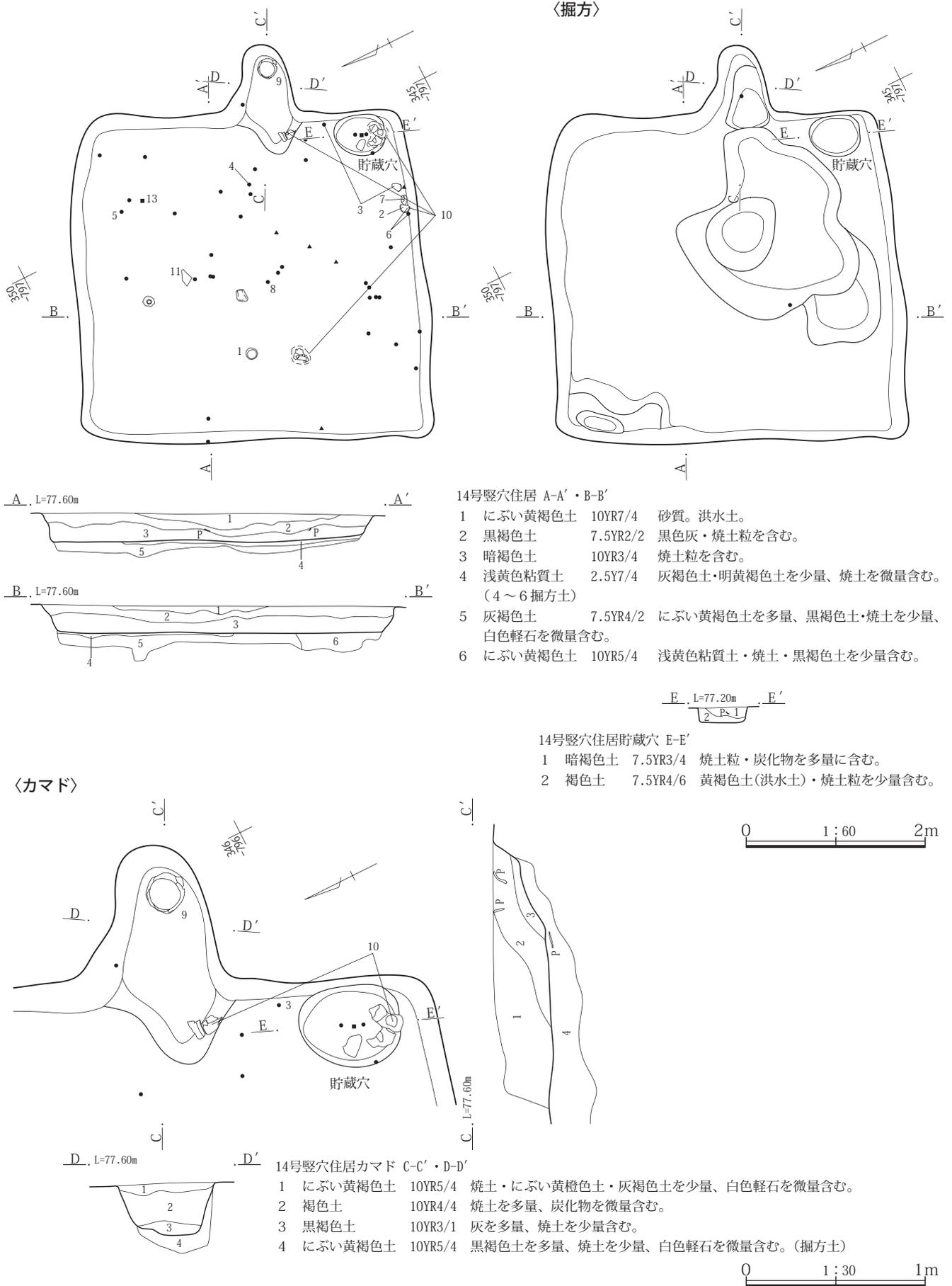
カマド 東壁で1か所検出した。袖は遺存しなかった、燃焼部および煙道の長さは1.22m、幅は0.81mである。燃焼部から煙道にかけて、使用面に灰が分布していた。燃焼部は床面よりも2～5cm程度緩やかに落ち込んでいた。煙道部では、埋没土上層で土師器甕の口縁部(9)が口縁を下にした状態で出土した。

ピット 検出されなかった。

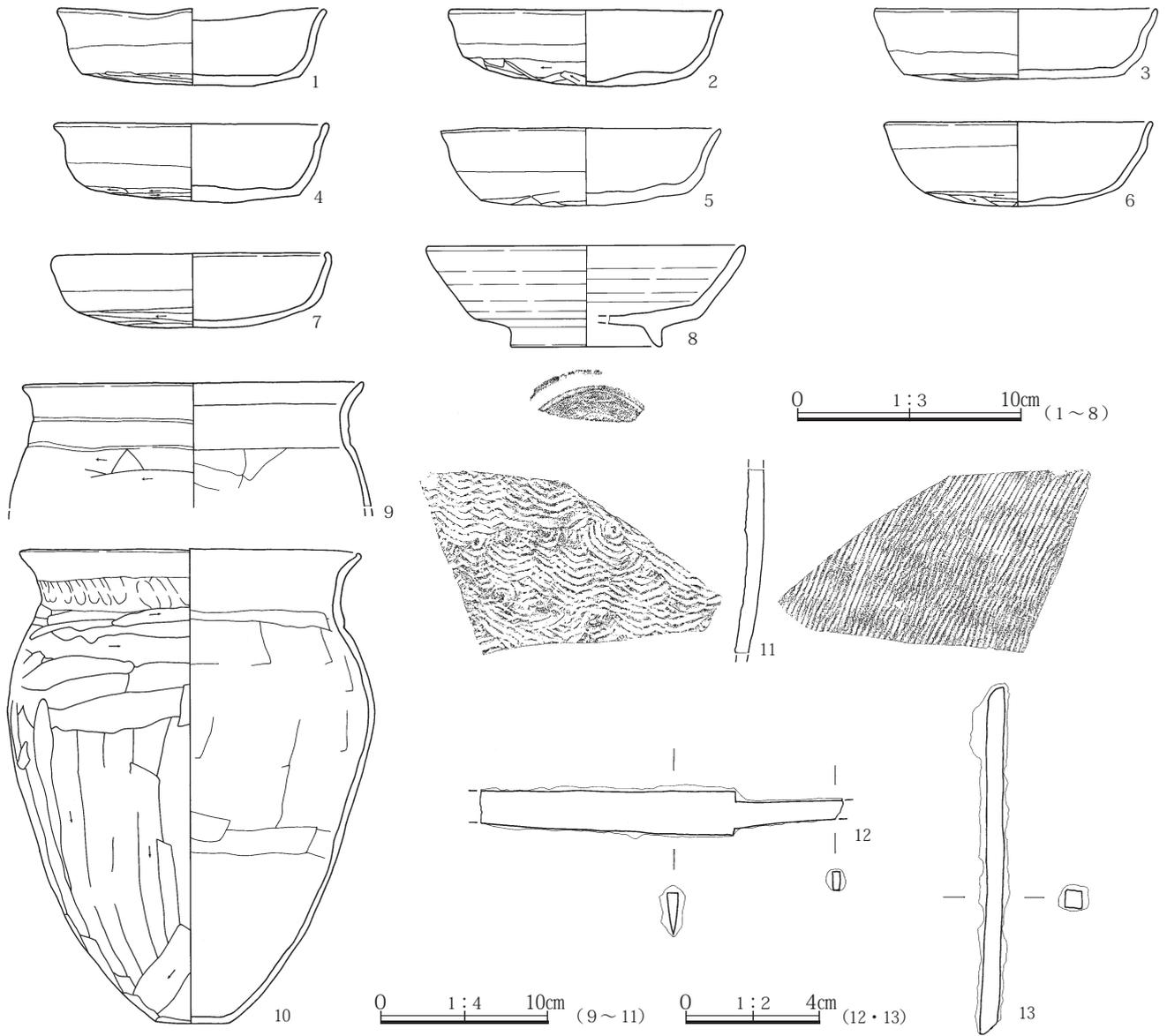
掘方 中央部に土坑状の落ち込みがあり、側壁周辺より低くなっている。

遺物と出土状態 土師器1,561点、須恵器182点、石製品3点、鉄製品2点が出土し、このうち13点を図示した。土師器杯(1・2・4・6・7)と土師器甕(10)、須恵器椀(8)は床面直上から出土した。

所見 出土遺物から、時期は9世紀後半と推定される。



第142図 5区14号竪穴住居



第143図 5区14号竪穴住居出土遺物

5区15号竪穴住居(第144・145図 PL.80・118)

位置 5区北西部西壁際

X=38,350~38,355 Y=-55,802~-55,805

主軸方向 N-17°-E

重複 13号住居と重複する。発掘調査時の土層断面の観察から、本住居より13号住居の方が新しい。

形状と規模 西部の大半は調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した東壁の長さは3.56m、南壁の長さは1.24m、遺構検出面から床面までの深さは0.16m、掘方底面までの深さは0.28~0.82mである。

埋没土 焼土粒を含む黄褐色土および褐色土を主体とする。

床面 焼土粒を多量に含む暗褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

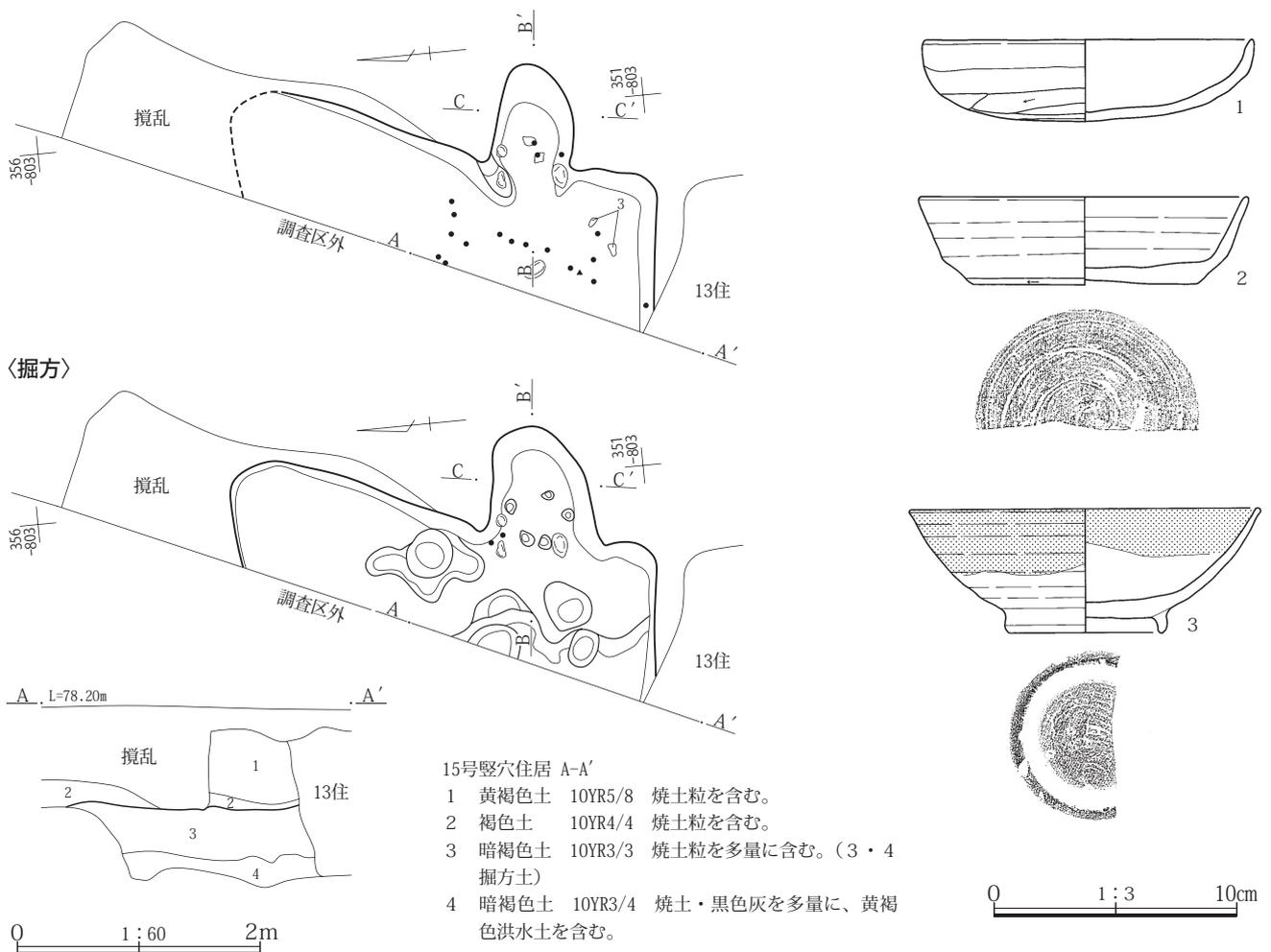
カマド 東壁で1か所検出した。カマドの長軸方向は壁

に垂直ではなく、やや北に振れている。両袖は遺存し、左袖の長さは0.4m、右袖の長さは0.28mである。両袖とも袖端では15~20cm大の礫が検出された。右袖の礫は被熱により表面が赤色に変化し、袖材として使用された可能性が高い。燃烧部は壁外に伸び、燃烧部および煙道の長さは1.12m、両袖間の長さは0.43mである。燃烧部は床面より4~9cm程度緩やかに落ち込み、燃烧部および焚き口付近では、焼土および灰の分布が認められた。
ピット 検出されなかった。

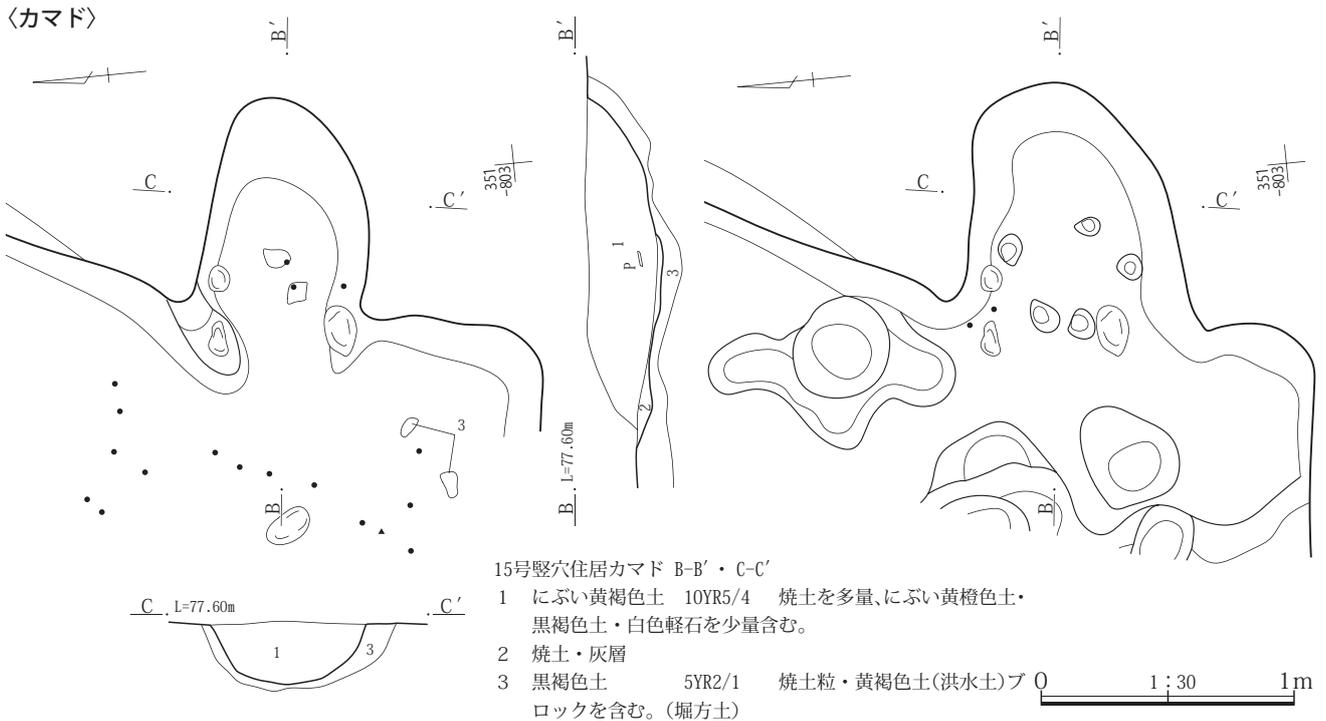
掘方 カマド前面には土坑状の落ち込みが多数認められた。

遺物と出土状態 土師器217点、須恵器31点、灰釉陶器1点、石製品1点が出土し、このうち3点を図示した。灰釉陶器碗(3)は10世紀前半と推定され、他の遺物よりも時期が新しく、混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。



第144図 5区15号竪穴住居と出土遺物



第145図 5区15号竪穴住居カマド

5区16号竪穴住居(第146～148図 PL.81・82・118・119)

位置 5区中央部西壁寄り

X=38,333～38,339 Y=-55,804～-55,811

主軸方向 N-85°-W

重複 10号・17号住居と重複する。遺構検出時の観察から、本住居は17号住居よりも新しく、10号住居よりも古い。

形状と規模 南西部の一部が攪乱で失われているものの、全体を把握することができた。平面形は長方形で、検出した長軸長は5.15m、短軸長は4.82mである。遺構検出面から床面までの深さは0.45m、掘方底面までの深さは0.48～1.15m、面積は約21.83㎡である。

埋没土 3層は砂質土で混入物もなく、洪水層の一次堆積と判断した。3層は埋没土中位から床面まで堆積し、床面との間に間層を挟まない。埋没土上位から中位にかけて、にぶい黄褐色土および暗褐色土が認められた。これらは洪水層が堆積した後の埋没土である。

床面 南東部の床下土坑付近で5～10cm程度の落ち込みがあるものの、ほぼ平坦である。南壁付近で、土器が床面からまとまって出土した。

カマド 東壁中央部で1か所検出した。焚き口付近では、直径17～18cm大の礫が両側に据えられ、その上に長さ69cm、幅20cm大の直方体状の礫が載った状態で出土した。

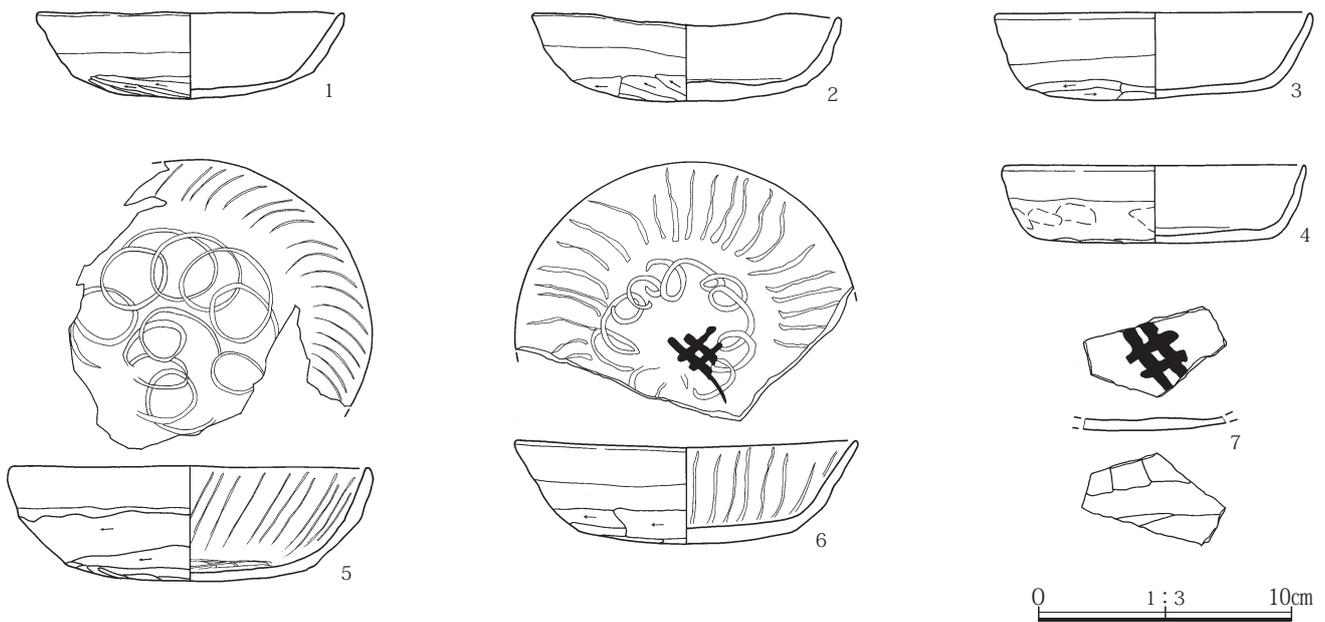
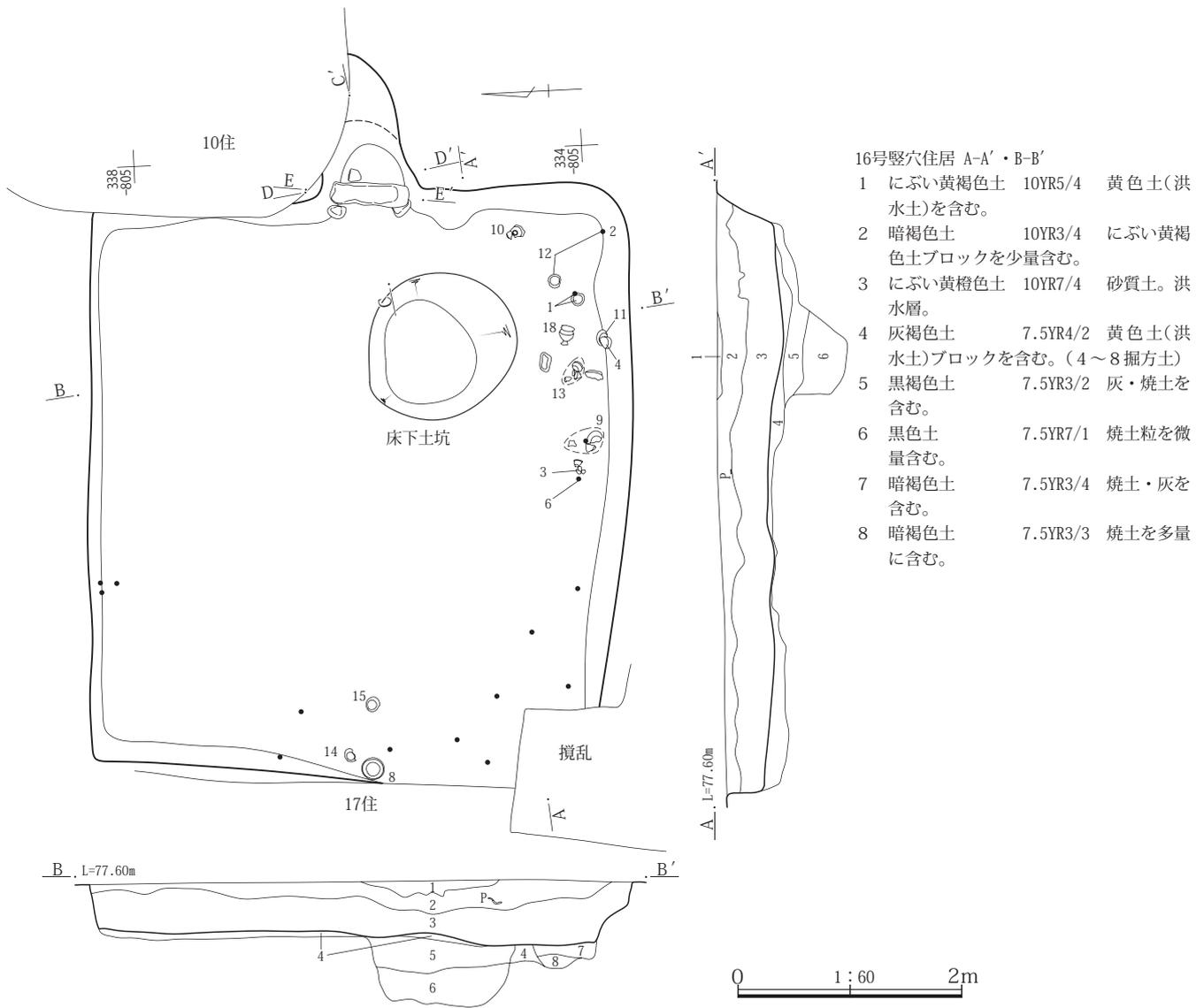
カマド埋没土2層は明黄褐色土の洪水層で、混入物が極めて少なく、一次堆積と判断し、使用面の上に厚く堆積していた。燃烧部は煙道よりも一段低く、煙道の一部は10号住居のカマドで壊されていた。燃烧部および煙道の長さは1.5m、幅は0.99mである。

ピット 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みが検出されたものの、ほぼ平坦である。南東部で床下土坑が1基検出された。平面形は楕円形を呈し、長径1.4m、短径1.2m、床面から底面までの深さは0.55mである。埋没土4層には、黄色土・焼土・灰が含まれていた。

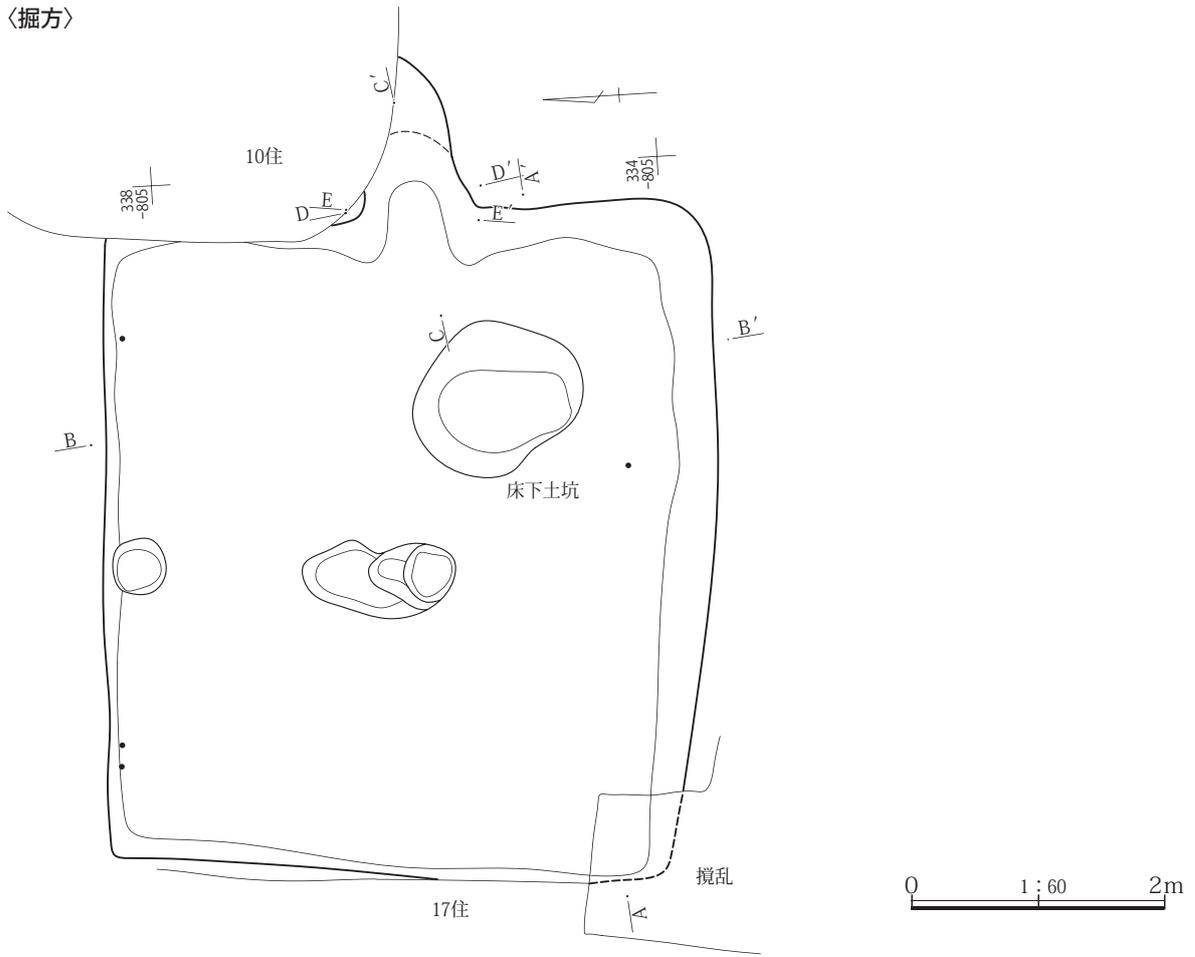
遺物と出土状態 土師器1,044点、須恵器233点、時期不明土器2点、鉄製品1点が出土し、このうち22点を図示した。南壁および西壁付近で、床面直上から出土した遺物が多かった。土師器杯(1・3・6)、須恵器杯(15)、須恵器蓋(10)は床面直上で出土した。完形の土器が多く、住居内に入り込んだ洪水で壁際に寄せられたような出土状況である。

所見 厚い洪水層が住居全面に堆積し床面まで達していたことから、洪水被害を受け埋没した住居と判断した。遺構の重複および出土遺物から、時期は9世紀前半と考えている。

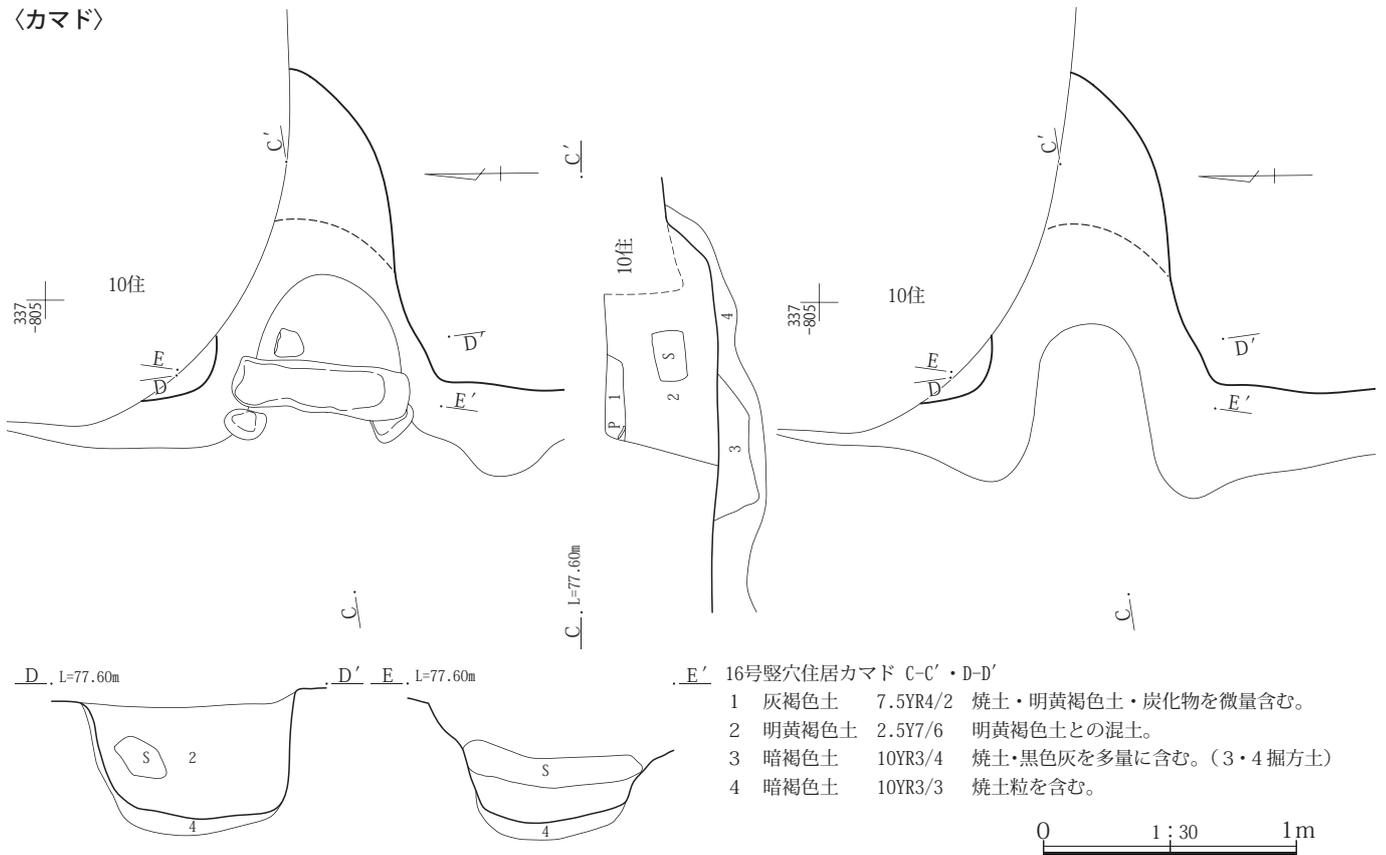


第146図 5区16号竪穴住居と出土遺物

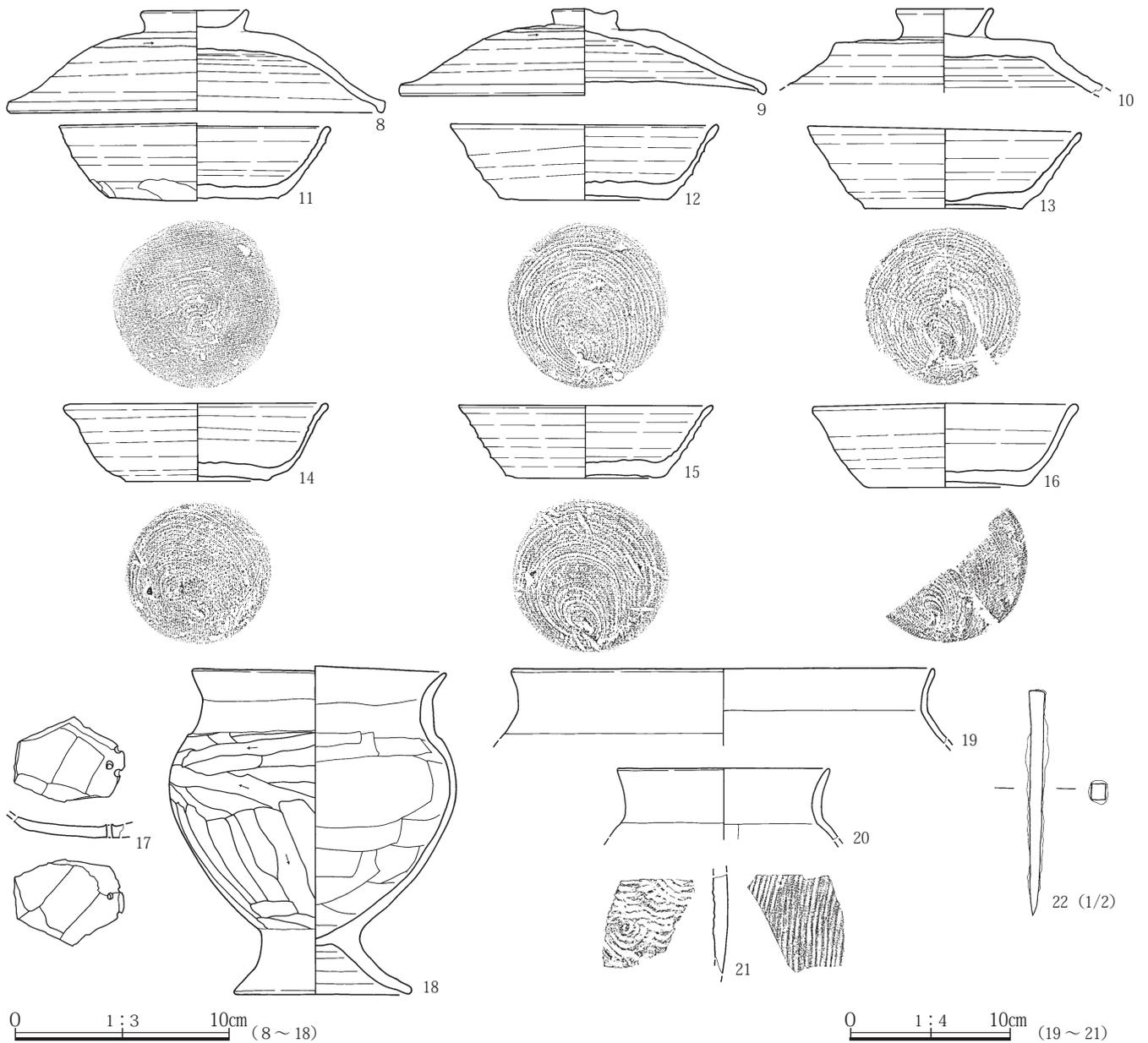
〈掘方〉



〈カマド〉



第147図 5区16号竪穴住居掘方とカマド



第148図 5区16号竪穴住居出土遺物

5区17号竪穴住居(第149図 PL.83・119)

位置 5区中央部西壁際

X=38,332~38,339 Y=-55,810~-55,813

主軸方向 N-7°-E

重複 16号住居と重複し、遺構検出時の観察から、本住居の方が古い。

形状と規模 西部の大部分が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は4.6m、短軸長1.37m、遺構検出面から床面までの深さは0.41m、掘方底面までの深さは0.65~0.75mである。

埋没土 焼土を含む褐色土または暗褐色土をを主体とする。

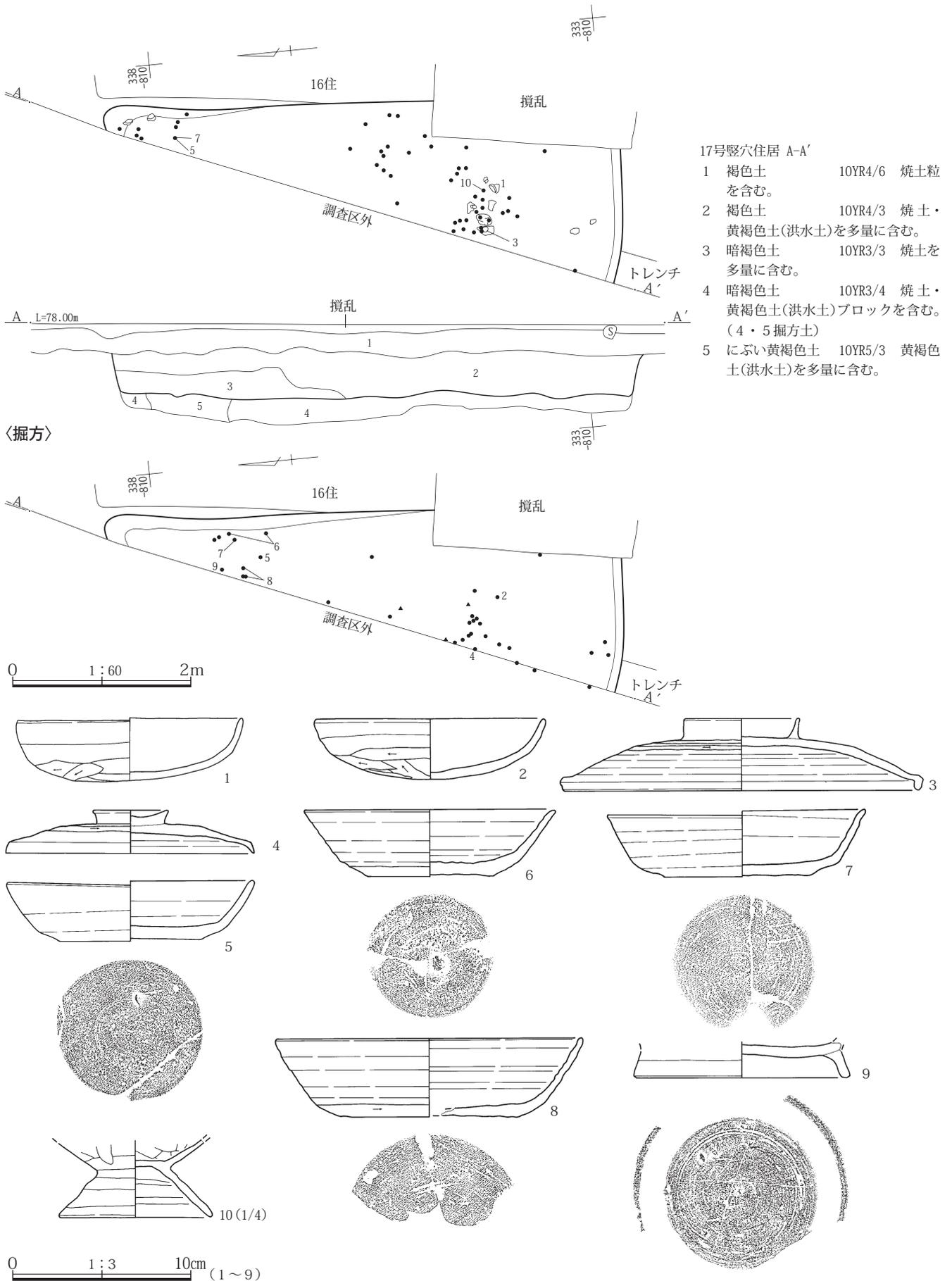
床面 暗褐色土またはにぶい黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。南部に比べ北部がやや低くなっている。

カマド・ピット 検出されなかった。

掘方 北部の方が南部に比べ、やや低くなっている。北部および南部西壁付近では、土器片がまとまって出土している。

遺物と出土状態 土師器1,594点、須恵器302点、石製品3点が出土し、このうち10点を図示した。1~10は埋没土または掘方土から出土した。

所見 出土遺物を見ると時間幅があるものの、時期は8世紀後半と考えている。



第149図 5区17号竪穴住居と出土遺物

6区1号竪穴住居(第150図 PL.84)

位置 6区南端部

X=38,275 ~ 38,279 Y=-55,828 ~ -55,831

主軸方向 N-2°-E

重複 7号住居と重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、本住居の方が7号住居より古い。

形状と規模 南部が調査区外だが、平面形は長方形と推定される。検出した長軸長は2.68m、短軸長2.43m、遺構検出面から床面までの深さは0.13m、掘方底面までの深さは0.21 ~ 0.35mである。

埋没土 にぶい黄橙色土および灰黄褐色土が認められ、自然堆積の状況を示す。1・2層ともに灰褐色土を多量に含み、斑状を呈する。

床面 にぶい黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・ピット 検出されなかった。

掘方 浅い落ち込みがあるが、それ以外の部分は平坦である。

遺物と出土状態 土師器76点、須恵器1点が出土し、このうち2点を図示した。出土遺物は少なく、床面から出土したものはなかった。

所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と推定される。

6区2号竪穴住居(第151・152図 PL.84 ~ 86・119)

位置 6区北西部中央西壁際

X=38,284 ~ 38,289 Y=-55,828 ~ -55,834

主軸方向 N-90°

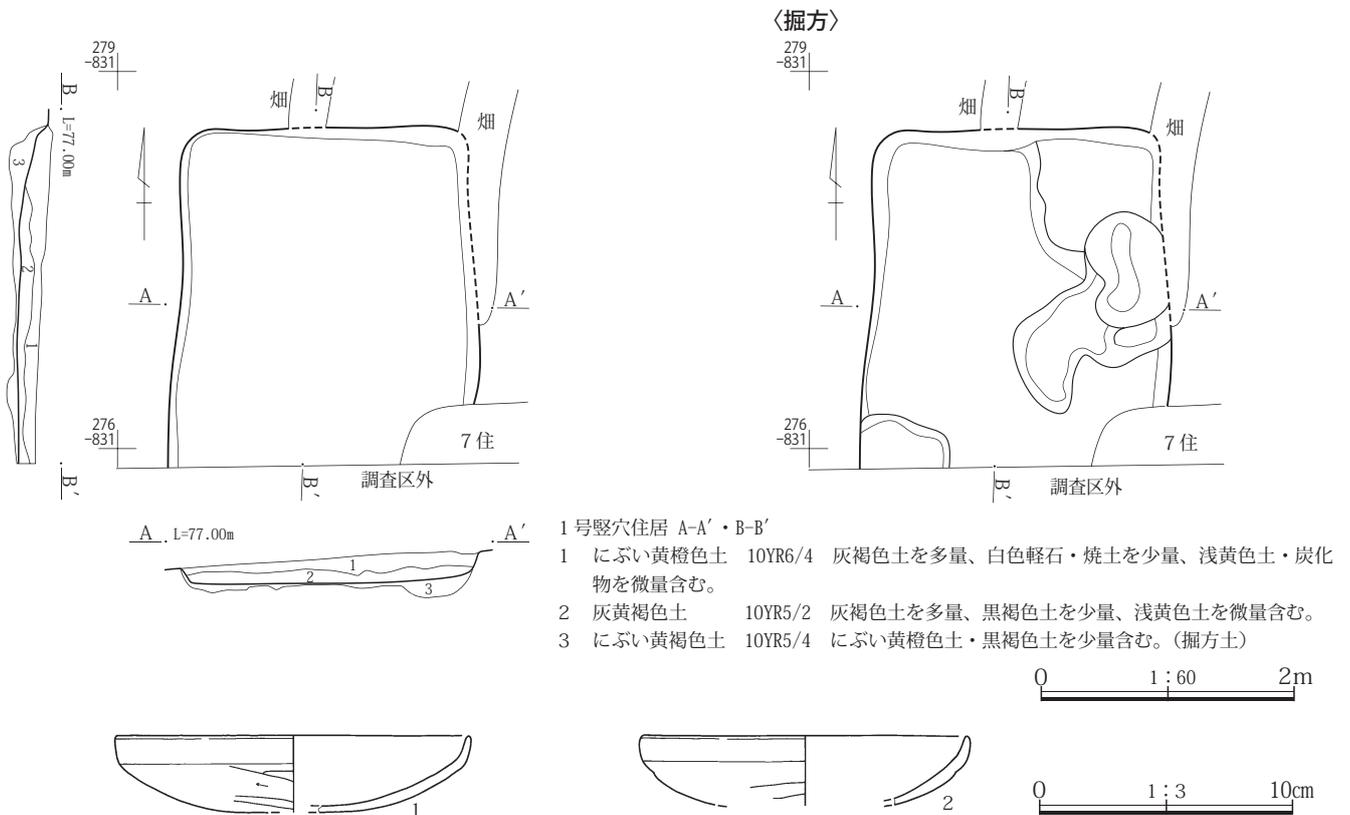
重複 なし

形状と規模 西部の一部が調査区外だが、平面形は長方形と推定される。長軸長は3.87m、短軸長3.68m、遺構検出面から床面までの深さは0.49m、掘方底面までの深さは0.55 ~ 0.7m、面積は約11.22㎡である。

埋没土 褐色土および暗褐色土、黄褐色土が認められ、自然堆積の状況を示す。

床面 明黄褐色土および白色軽石、浅黄色土を含む黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 東壁やや南寄りで1か所検出した。両袖が遺存し、左右袖の長さはそれぞれ40cm、30cmである。燃焼部は壁内に設けられ、煙道が壁外に伸びている。燃焼部および煙道の長さは0.84m、両袖間の長さは0.89mである。燃焼部および焚き口付近では、土師器甕(4・5)が出土した。また、長径14 ~ 27cm大の棒状の礫が4点出土している。燃焼部から煙道にかけて広く焼土が分布していた。



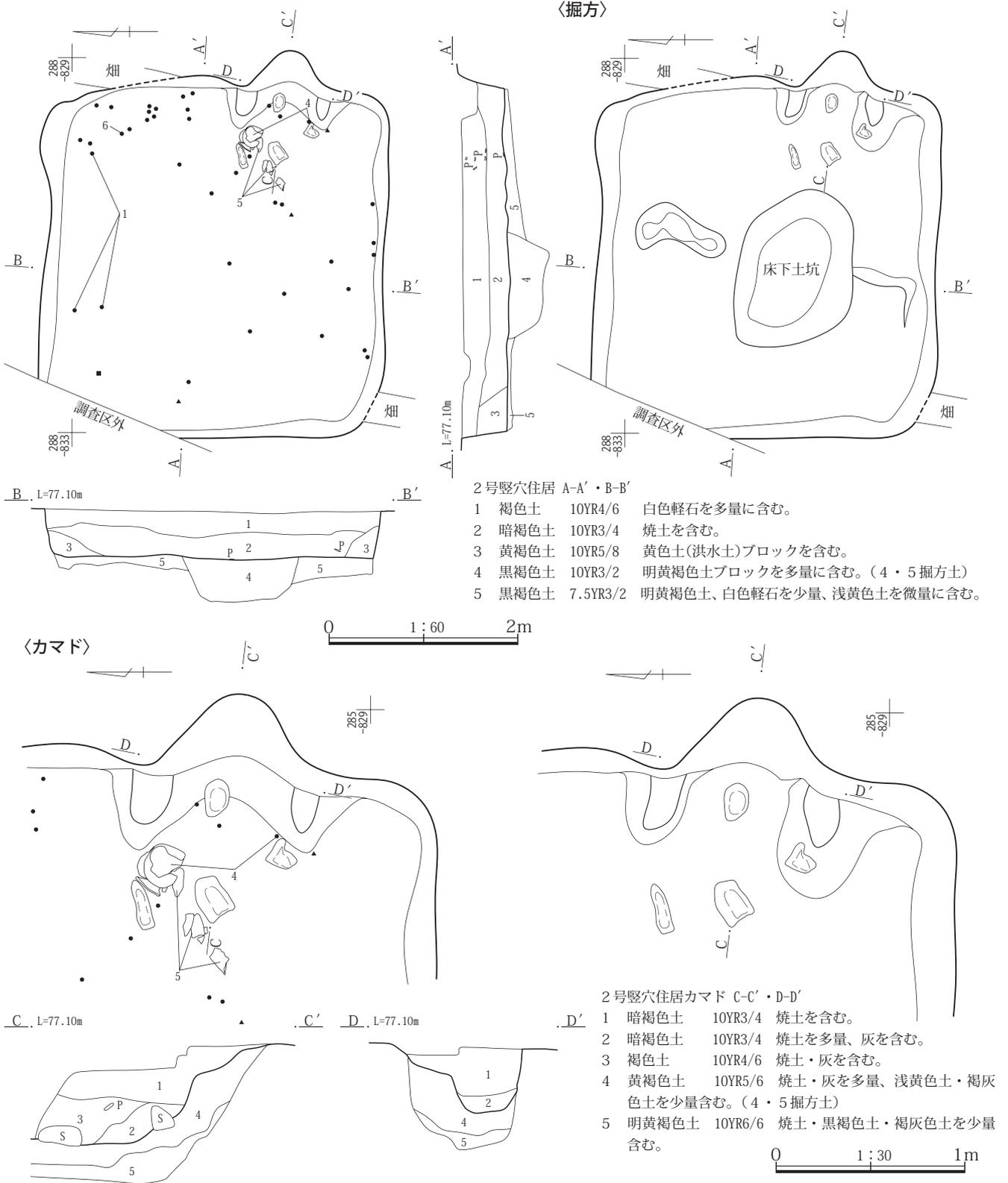
第150図 6区1号竪穴住居と出土遺物

ピット 検出されなかった。

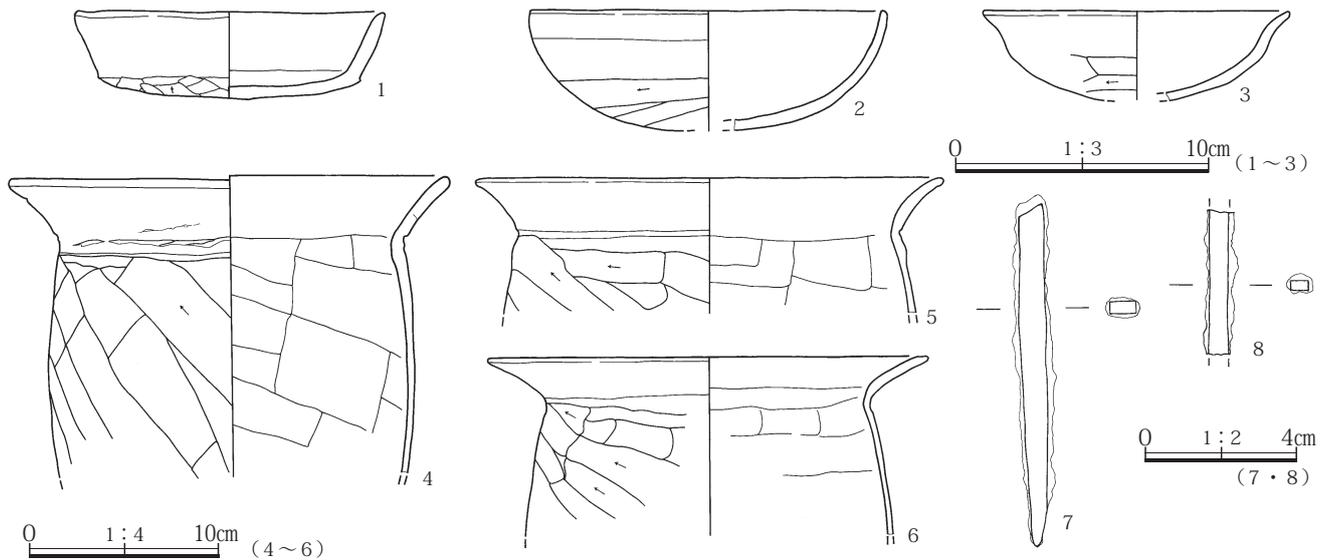
掘方 中央部に床下土坑1基を検出した。形状は不整な楕円形で、長径1.8m、短径1.35m、床面から底面までの深さは0.45mである。底面は平坦である。明黄褐色土ブロックを多量に含み、斑状を呈する黒褐色土で充填さ

れていた。

遺物と出土状態 土師器1,007点、須恵器16点、灰釉陶器1点、石製品3点、鉄製品2点、縄文土器2点、近世土器1点が出土し、このうち8点を図示した。北東隅で土師器甕(6)が床面直上から出土した。それ以外は埋没



第151図 6区2号竪穴住居



第152図 6区2号竪穴住居出土遺物

土またはカマド埋没土から出土している。縄文土器および近世土器は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、時期は8世紀前半と考えている。

6区3号竪穴住居(第153～157図 PL.86・87・119・120)

位置 6区北西部西壁際

X=38,289～38,298 Y=-55,822～-55,831

主軸方向 N-14°-W

重複 なし

形状と規模 西側が調査区外だが、平面形は長方形と推定される。南壁の長さは7.6m、東壁の長さは7.82m、遺構検出面から床面までの深さは0.34m、掘方底面までの深さは0.47～0.7mである。

埋没土 褐色土および暗褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 黄色土ブロックを含む褐色土で構築され、ほぼ平坦である。北東部および中央部の2か所で黒色灰が認められた。北東部の方は1.35m×0.8mの範囲に、中央部

の方は1.28m×1.05mの範囲に分布していた。

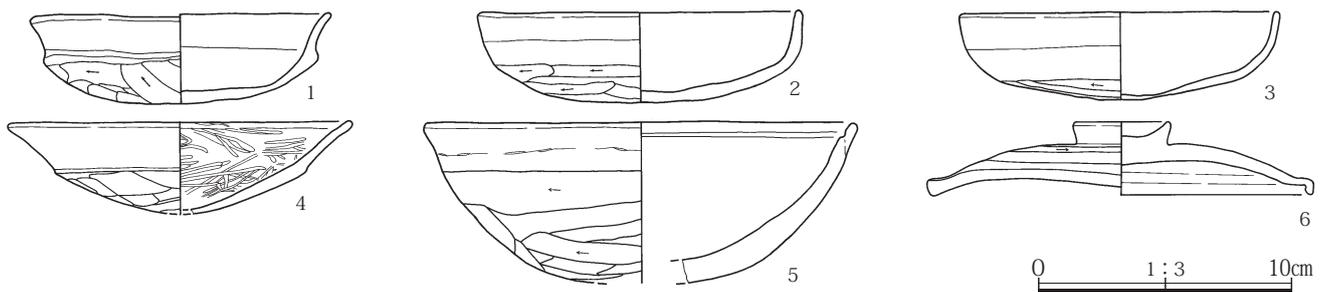
カマド 東壁で1か所検出した。袖はわずかに遺存し、煙道は壁外に伸びていた。燃焼部および煙道の長さは1.39m、両袖間の長さは0.8mである。カマド5層上面には焼土面が広範囲に残っていた。

貯蔵穴 掘方調査中にカマド右袖付近で検出した。平面形は楕円形で、長径0.68m、短径0.54m、床面から底面までの深さは0.54mである。埋没土上部で、土師器杯(2)などの遺物がまとまって出土した。

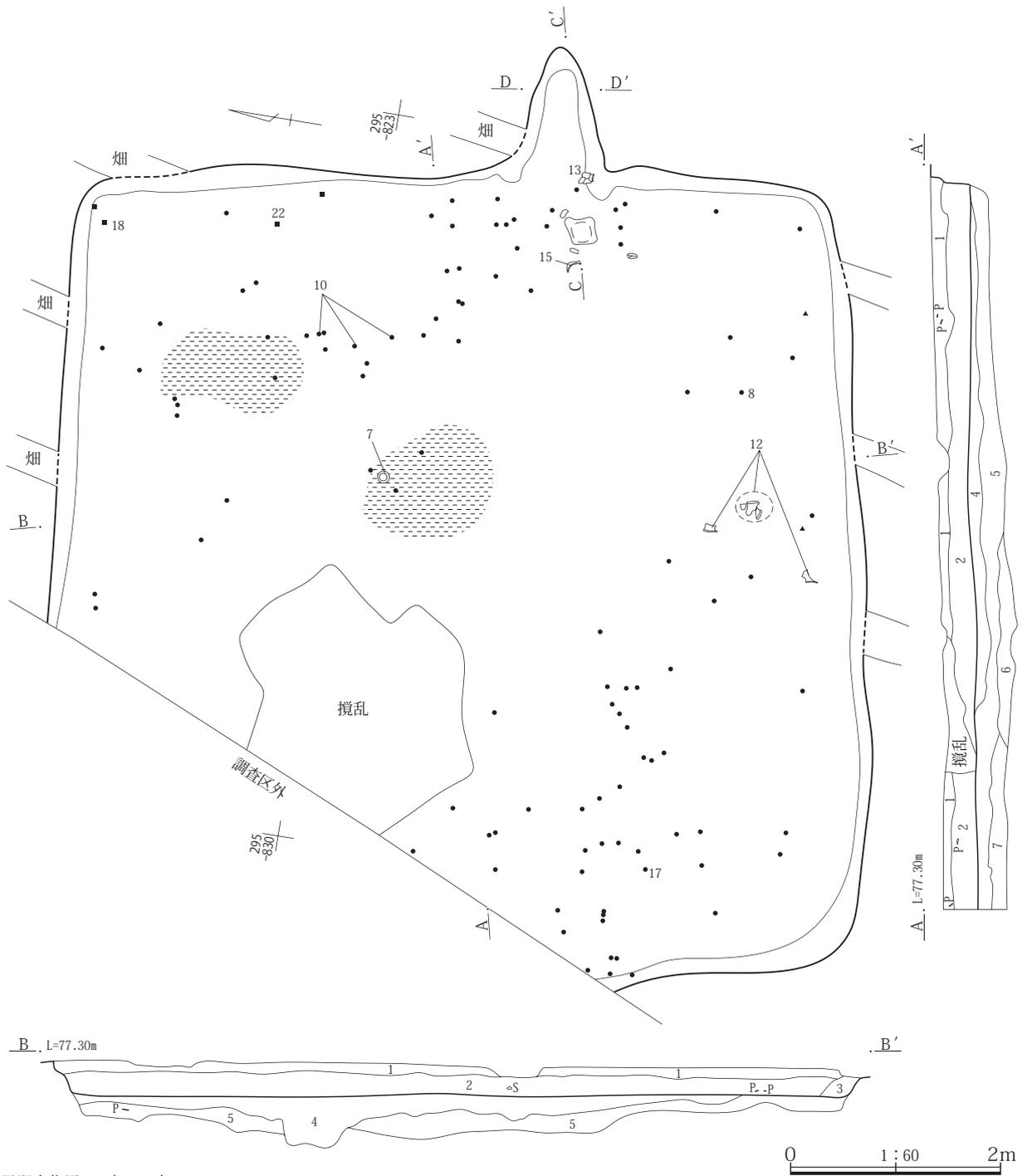
ピット 掘方調査中に4基検出された。各ピットの規模は第10表に示す。ピットの深さは床面からの深さではなく、掘方調査中の遺構検出面から底面までの深さであるため、本来の深さよりも浅くなっている。ピット間の距離はP1・P2間は2.9m、P2・P3間は3.0m、P3・P4間は2.85m、P4・P1間は3.1mである。位置および規模から、P1～P4は支柱穴と考えられる。

掘方 ピット状の落ち込みが多数認められた。

遺物と出土状態 土師器2,322点、須恵器346点、灰釉陶



第153図 6区3号竪穴住居出土遺物(1)



3号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 10YR4/6 白色軽石を多量に含む。
- 2 褐色土 10YR4/4 白色軽石・焼土を含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 黒色粘質土ブロックを含む。(壁崩落土)
- 4 褐色土 7.5YR4/3 黄色土(洪水土)ブロック・焼土・白色軽石を含む。(4~7掘方土)
- 5 褐色土 7.5YR4/4 黄色土(洪水土)ブロック・白色軽石を含む。
- 6 暗褐色土 7.5YR3/4 黄色土(洪水土)ブロック・焼土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土 7.5YR3/3 黄色土(洪水土)ブロック・焼土を含む。

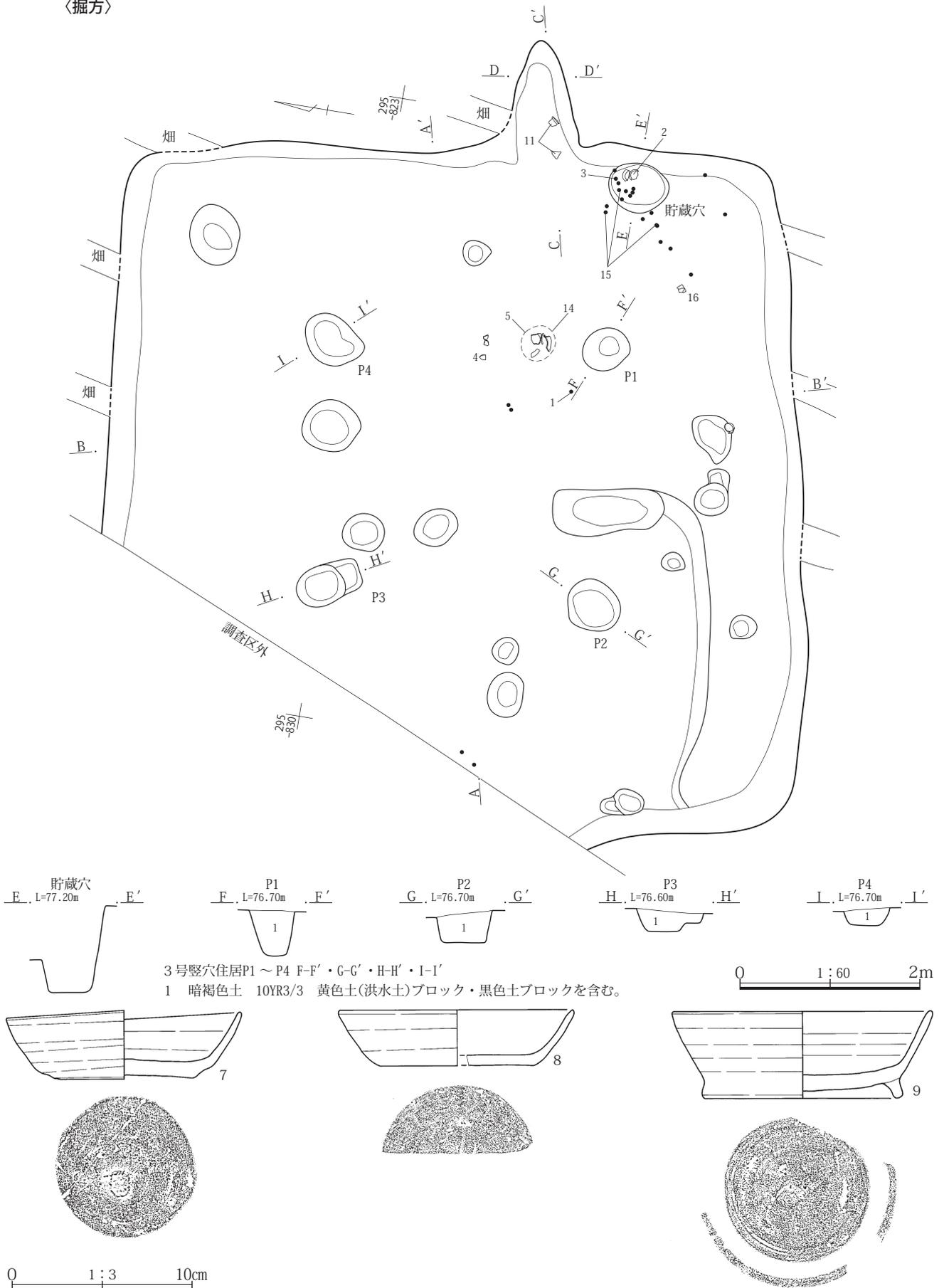
第10表 6区3号竪穴住居ピット計測表

番号	長径	短径	深さ	平面形
P 1	53	46	52	楕円形
P 2	61	55	33	楕円形
P 3	75	45	24	楕円形
P 4	69	52	19	楕円形

(単位はcm)

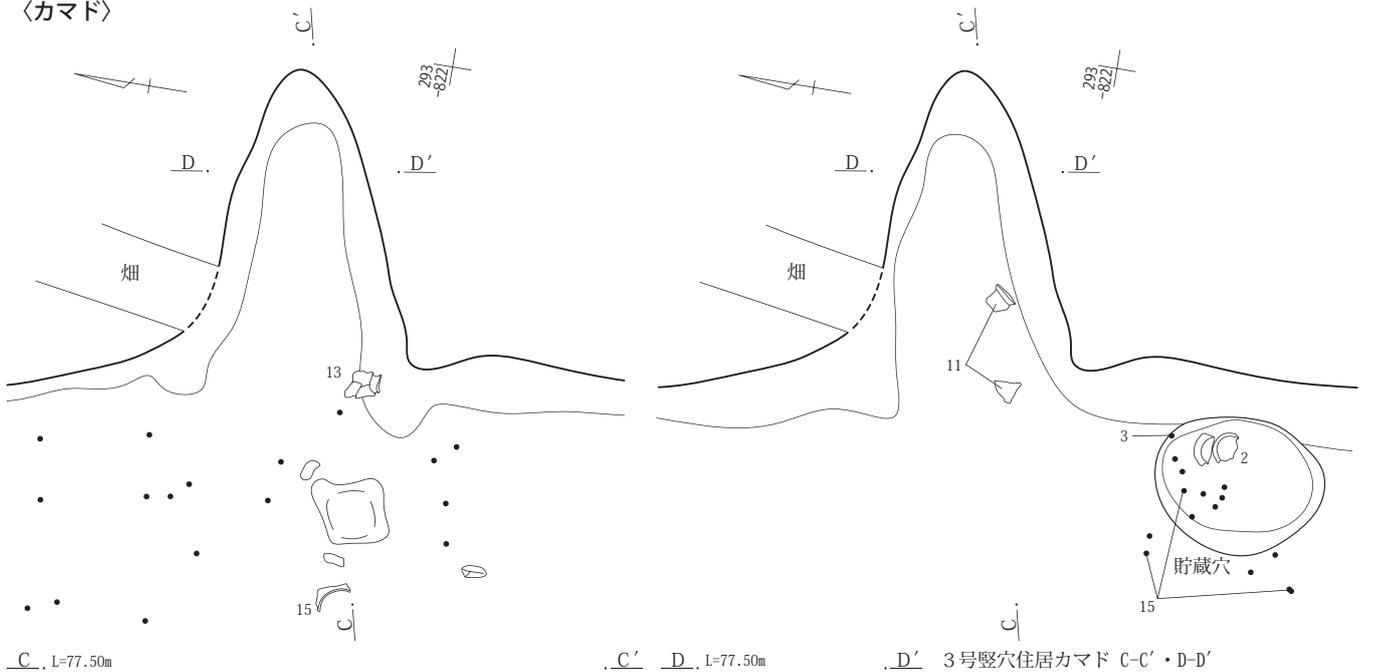
第154図 6区3号竪穴住居

〈掘方〉



第155図 6区3号竪穴住居掘方と出土遺物(2)

〈カマド〉



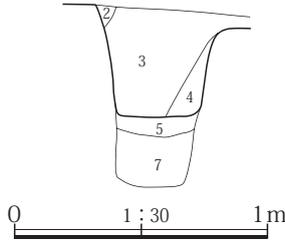
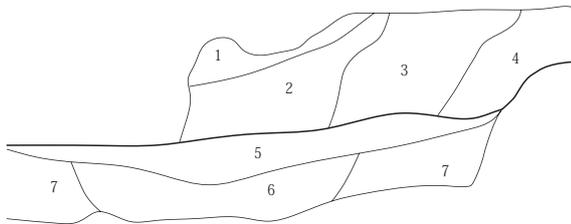
C, L=77.50m

C' D, L=77.50m

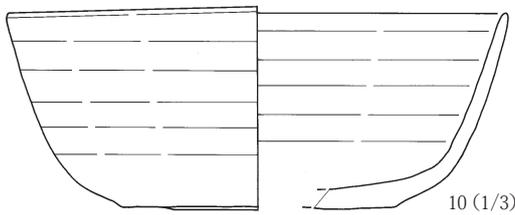
D'

3号竪穴住居カマド C-C'・D-D'

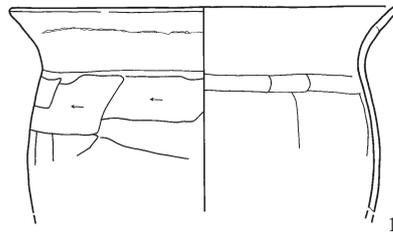
- 1 暗褐色土 10YR3/4 焼土・白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 10YR3/4 焼土を含む。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 焼土・焼土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土 10YR3/4 焼土ブロックを多量に含む。
- 5 褐色土 7.5YR4/6 灰・焼土が互層に堆積。(5~7掘方土)
- 6 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土を多量に含む。
- 7 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土を少量含む。



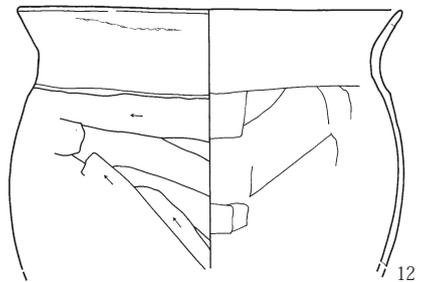
0 1:30 1m



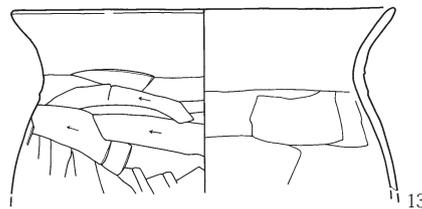
10 (1/3)



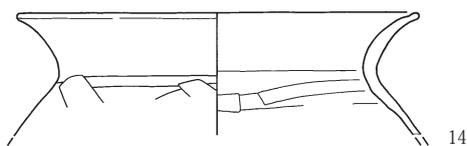
11



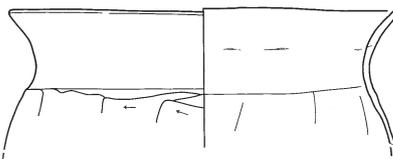
12



13



14



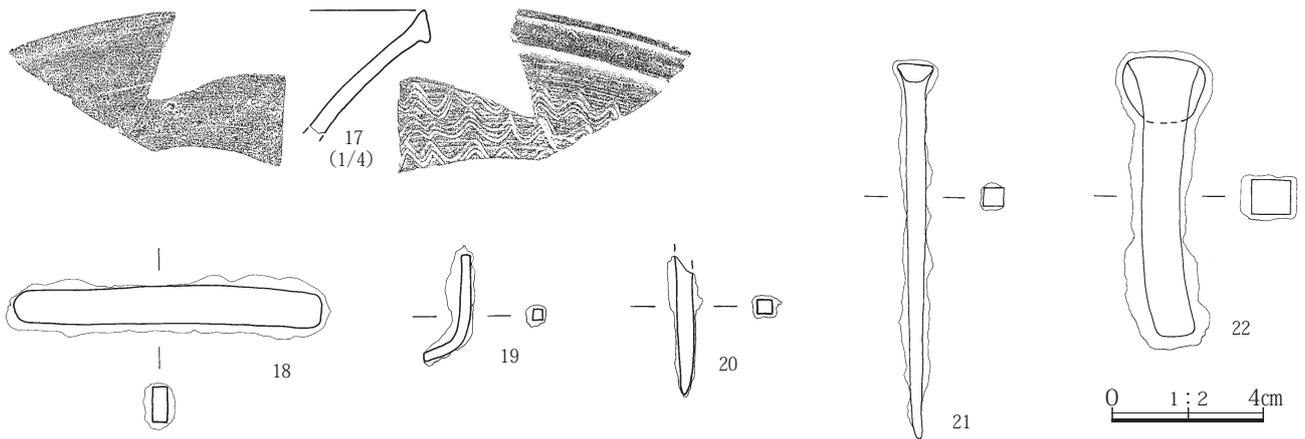
15



16

0 1:4 10cm

第156図 6区3号竪穴住居カマドと出土遺物(3)



第157図 6区3号竪穴住居出土遺物(4)

器8点、石製品2点、鉄製品5点、縄文土器2点、近現代陶器1点が出土し、このうち22点を図示した。床面中央部では、完形の須恵器杯(7)が床面付近から出土した。縄文土器と灰釉陶器、近現代陶器は混入と考えられる。
所見 出土遺物から、時期は8世紀後半と考えている。

6区4号竪穴住居(第158・159図 PL.88・89・120)

位置 6区北東部

X=38,295~38,300 Y=-55,813~-55,818

主軸方向 N-19°-W

重複 なし

形状と規模 南東部の一部が調査区外である。遺存状況は良好ではなく、埋没土の厚さは1~6cmであった。平面形は長方形と推定され、北壁の長さは3.24m、西壁の長さは3.2mである。遺構検出面から床面までの深さは0.03m、掘方底面までの深さは0.07~0.22m、面積は約9.55㎡である。

埋没土 褐灰色土を多量に含む黄褐色土が認められた。

床面 明黄褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 西壁で1か所検出した。袖部は遺存せず、遺物と焼土が集中していたため、カマドと判断した。燃烧部と推定される場所では使用面直上から、少なくとも2個体の土師器甕(5・6)が組み合わされ、押し潰されたような状態で出土した。カマド構築材の一部と考えられる。また、付近からは、石製紡輪(4)および土師器杯(1)も出土している。掘方調査中にシルト質の礫(長径26cm大)が2点出土し、カマド構築材の一部と推定される。

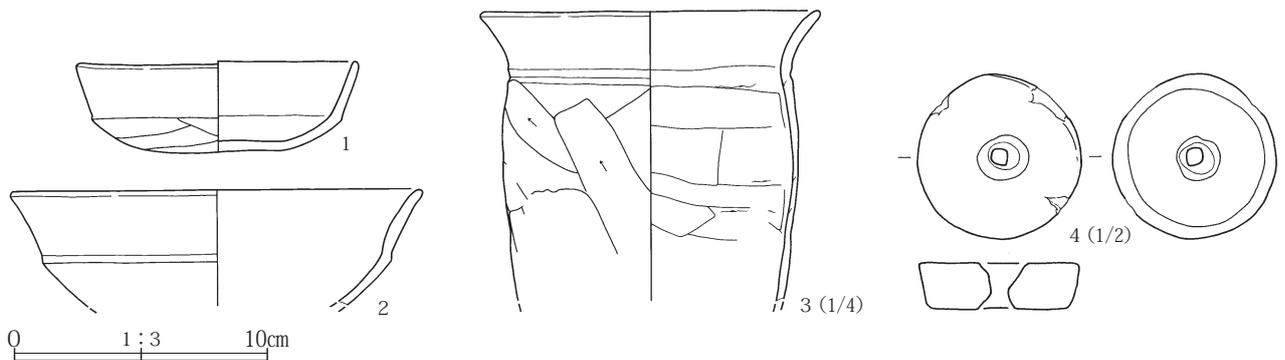
貯蔵穴 北西隅で1基検出された。平面形は楕円形を呈し、壁の立ち上がりは急で、底面は平坦である。長径0.76m、短径0.65m、床面から底面までの深さは0.69mである。

ピット 検出されなかった。

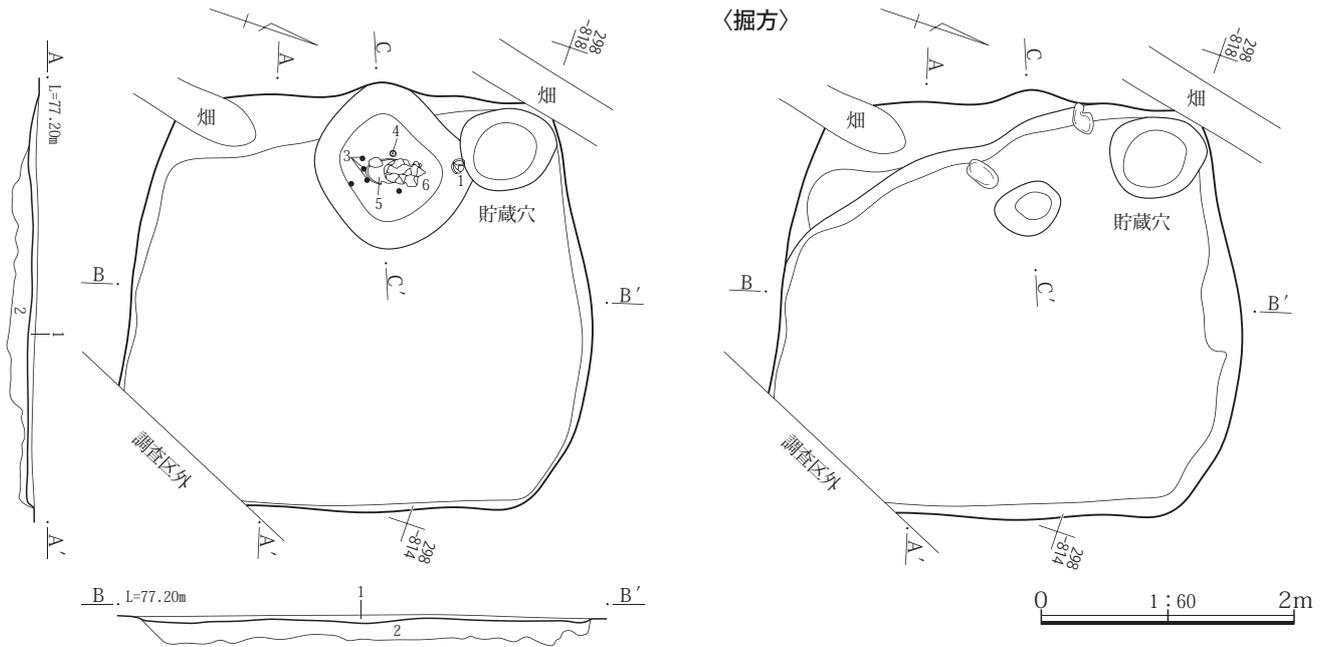
掘方 ピット状の落ち込みが多数認められた。

遺物と出土状態 土師器15点、石製品1点が出土し、このうち6点を図示した。遺物はカマド周辺に集中し、それ以外から出土した遺物は少なかった。

所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と考えている。



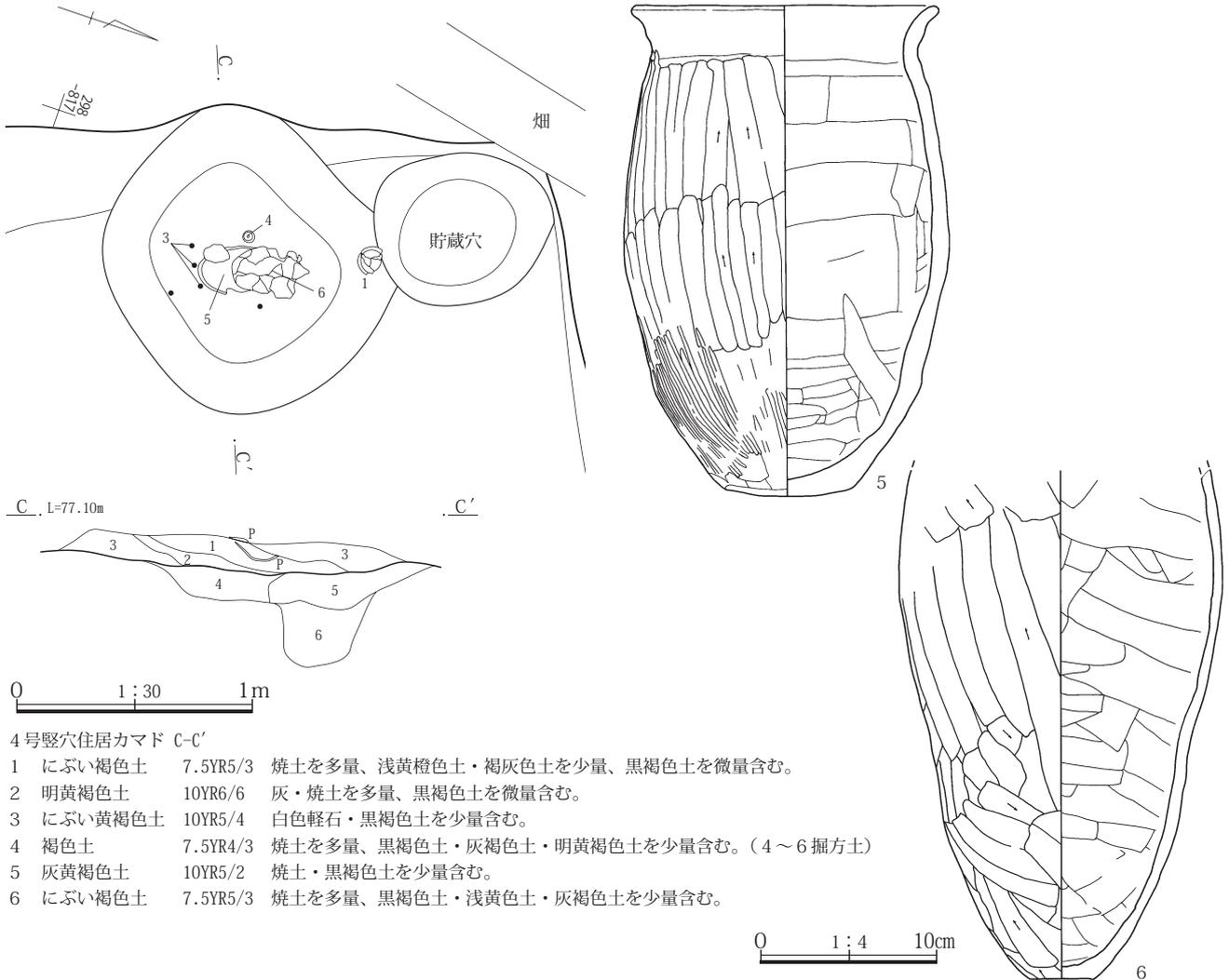
第158図 6区4号竪穴住居出土遺物(1)



4号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土 10YR5/6 褐灰色土を多量、黒褐色土・白色軽石・焼土を少量含む。
- 2 明黄褐色土 10YR6/6 黒褐色土を多量、にぶい黄褐色土・灰褐色土・白色軽石を少量含む。(掘方土)

〈カマド〉



4号竪穴住居カマド C-C'

- 1 にぶい褐色土 7.5YR5/3 焼土を多量、浅黄褐色土・褐灰色土を少量、黒褐色土を微量含む。
- 2 明黄褐色土 10YR6/6 灰・焼土を多量、黒褐色土を微量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 10YR5/4 白色軽石・黒褐色土を少量含む。
- 4 褐色土 7.5YR4/3 焼土を多量、黒褐色土・灰褐色土・明黄褐色土を少量含む。(4~6掘方土)
- 5 灰黄褐色土 10YR5/2 焼土・黒褐色土を少量含む。
- 6 にぶい褐色土 7.5YR5/3 焼土を多量、黒褐色土・浅黄色土・灰褐色土を少量含む。

第159図 6区4号竪穴住居と出土遺物(2)

6区5号竪穴住居(第160図 PL.89)

位置 6区中央部東壁際

X=38,289~38,292 Y=-55,816~-55,818

主軸方向 N-25°-W

重複 なし

形状と規模 東半分が調査区外であるが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は1.2m、短軸長1.15m、遺構検出面から床面までの深さは0.13mである。

埋没土 暗褐色土および黒褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

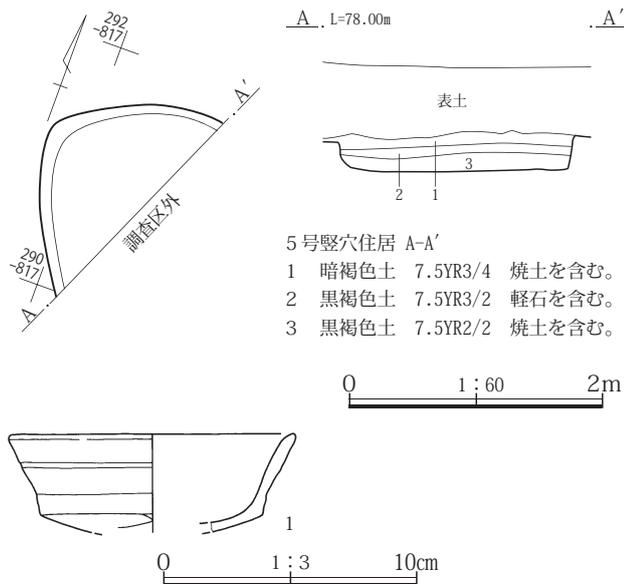
床面 掘方は認められず、平らに掘り下げ、床面としてしている。

カマド・柱穴 検出されなかった。

遺物と出土状態 土師器9点が出土し、このうち1点を図示した。遺物はすべて埋没土から出土した。

所見 小型でカマドが確認できなかったが、壁の立ち上がり之急で底面が平坦であったため住居に含めた。確認範囲が狭小で全体形が不明なことから、住居以外の遺構の可能性もある。出土遺物から、時期は7世紀前半と考えている。

〈5号住居〉



6区6号竪穴住居(第161図 PL.90・120)

位置 6区南西部

X=38,277~38,283 Y=-55,830~-55,835

主軸方向 N-59°-E

重複 8号住居および1号溝と重複する。遺構検出時の観察から、本住居よりも1号溝の方が新しい。8号住居との新旧関係については、発掘調査時には本住居の方が新しいと判断して調査を進めたが、整理作業で出土遺物を含めた再検討を行った結果、本住居より8号住居の方が新しいと判断した。

形状と規模 平面形は正方形または長方形と推定され、南東壁の長さは3.8m、南西壁の長さは3.9mである。遺構検出面から床面までの深さは0.25m、掘方底面までの深さは0.26~0.4mである。

埋没土 褐色土を主体とし、自然堆積の状況を示す。

床面 洪水層由来の黄色土ブロックを含む黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド 北東壁で1か所検出した。8号住居により使用面付近まで失われているため、遺存状況は良好ではなかった。焼土が分布していたため、カマドと判断した。焼土の分布および燃焼部の浅い落ち込みを確認した。北東壁中央部で出土した長径18cm大の礫は本住居に伴うものか、8号住居に伴うものかは不明である。

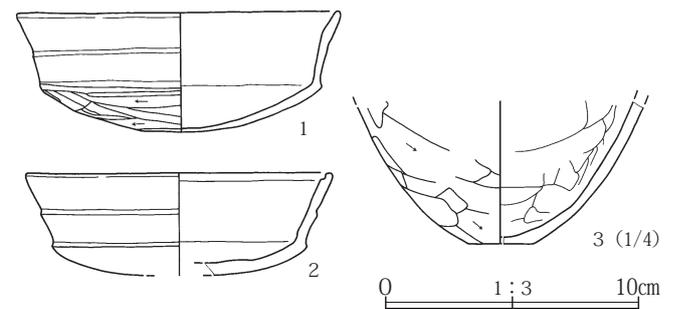
ピット 床面精査中にP3~P5を検出した。P1およびP2は掘方調査中に確認した。柱穴または床下土坑なのかどうかは土層観察の記録を欠き、判断できない。

掘方 凹凸が多数認められ、平坦ではない。

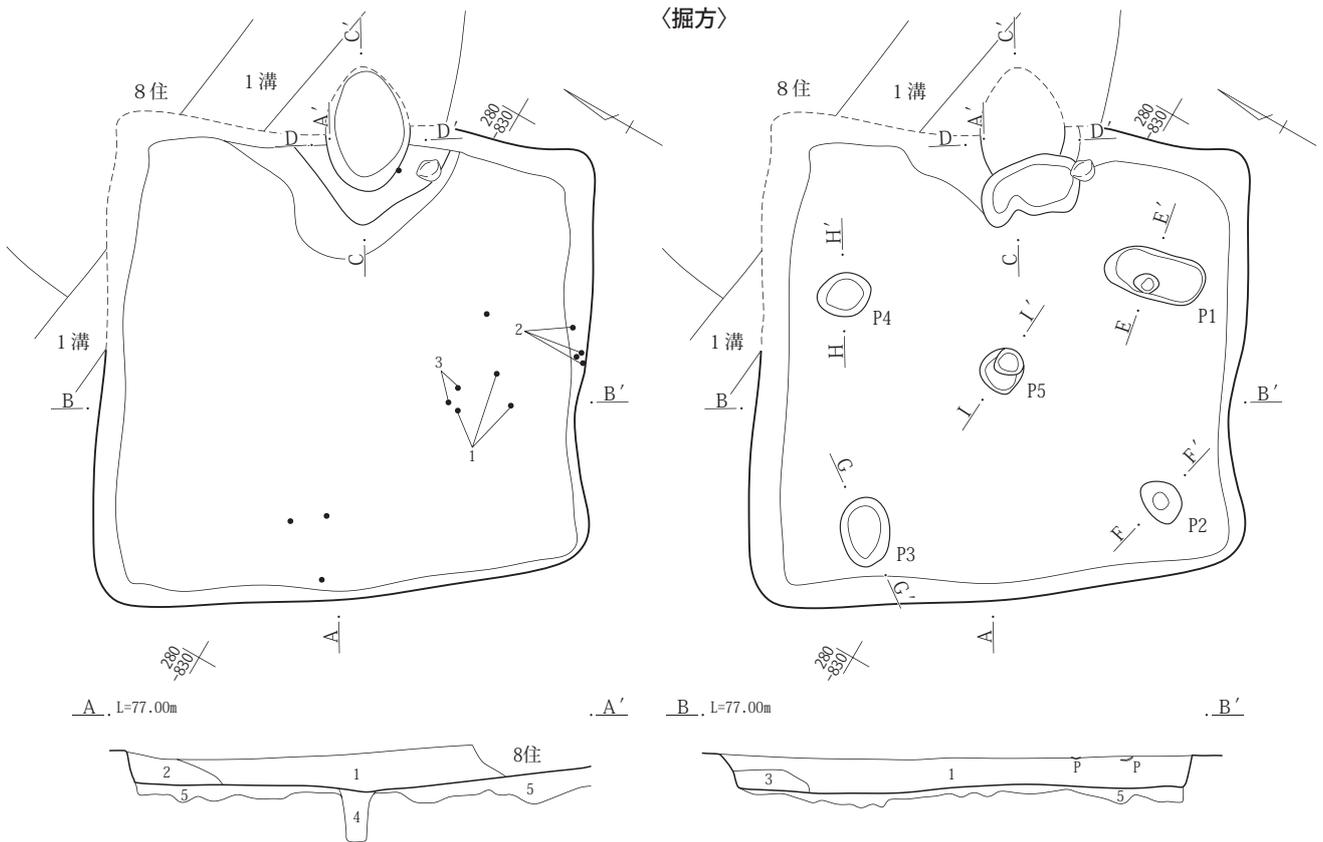
遺物と出土状態 土師器57点が出土し、このうち3点を図示した。1~3はいずれも埋没土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は6世紀後半と考えている。

〈6号住居〉



第160図 6区5号竪穴住居と出土遺物、6号竪穴住居出土遺物



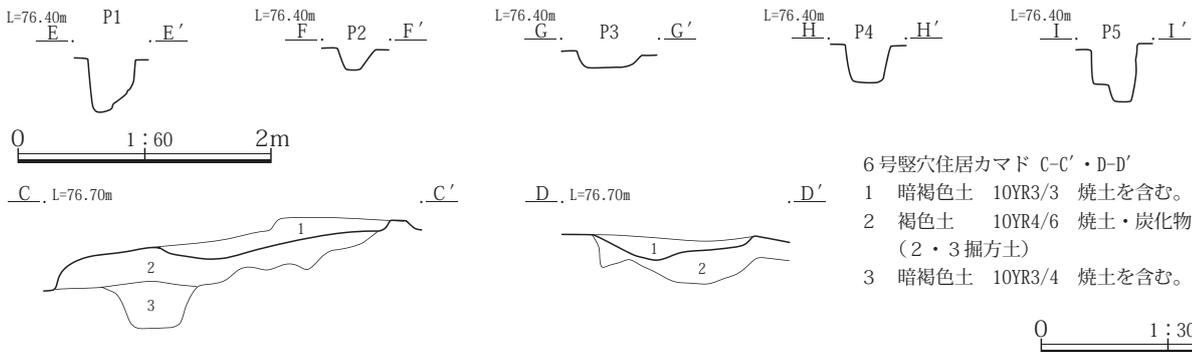
6号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 7.5YR4/3 黄褐色土を多量、黒褐色土・明黄褐色土・白色軽石を少量、焼土を微量含む。
- 2 灰褐色土 7.5YR4/2 明黄褐色土を少量、黒褐色土・白色軽石を微量含む。
- 3 黒褐色土 5YR3/1 明黄褐色土を少量、白色軽石を微量含む。
- 4 灰褐色土 7.5YR5/2 黄色土(洪水土)ブロックを多量に含む。(P5埋没土)
- 5 黒褐色土 7.5YR3/2 黄色土(洪水土)ブロックを含む。(掘方土)

第11表 6区6号竪穴住居ピット計測表

番号	長径	短径	深さ	平面形
P 1	80	39	43	楕円形
P 2	37	29	16	楕円形
P 3	56	39	19	楕円形
P 4	44	35	30	楕円形
P 5	36	33	41	楕円形

(単位はcm)



6号竪穴住居カマド C-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 10YR3/3 焼土を含む。
- 2 褐色土 10YR4/6 焼土・炭化物を多量に含む。(2・3掘方土)
- 3 暗褐色土 10YR3/4 焼土を含む。

第161図 6区6号竪穴住居

6区7号竪穴住居(第162図 PL.90・91)

位置 6区南端

X=38,275 ~ 38,277 Y=-55,824 ~ -55,829

主軸方向 N-89°-E

重複 1号住居と重複する。遺構検出時の観察から、本住居の方が新しい。

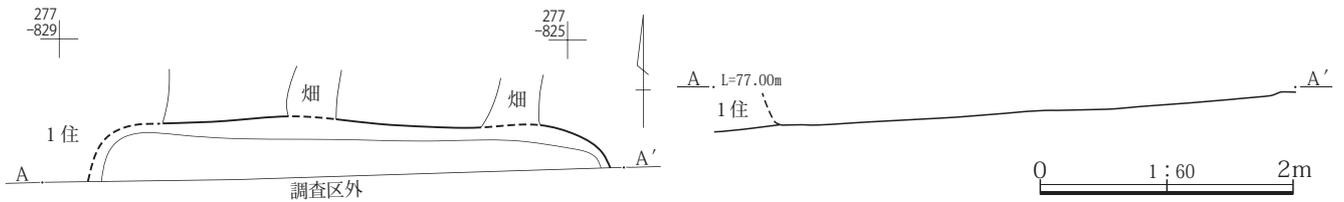
形状と規模 大部分が調査区外のため、全体形は不明で

ある。北壁の長さは4.08m、遺構検出面から床面までの深さは0.14mである。

埋没土 土層断面の記録がなく、不明である。

床面 平坦である。遺物 出土しなかった。

所見 ごく一部の調査で、住居でない可能性もある。遺構の重複から、時期は8世紀中頃より新しい。



第162図 6区7号竪穴住居

6区8号竪穴住居(第163・164図 PL.90・91・120)

位置 6区南西部

X=38,280～38,284 Y=-55,828～-55,834

主軸方向 N-80°-E

重複 6号住居および1号溝と重複する。遺構検出時の観察から、本住居よりも1号溝の方が新しい。6号住居との新旧関係については、発掘時には6号住居の方が新しいと判断して調査を進めたが、整理段階で出土遺物も含めて検討した結果、本住居の方が6号住居より新しいと判断した。

形状と規模 北東部が攪乱で失われ、6号住居と重複している部分で形状を把握できなかったことから、平面形は不明である。南壁と北壁の間の長さは3.56m、遺構検出面から床面までの深さは0.31m、掘方底面までの深さは0.39mである。

埋没土 洪水由来の黄色土ブロックを含む暗褐色土を確認した。

床面 黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

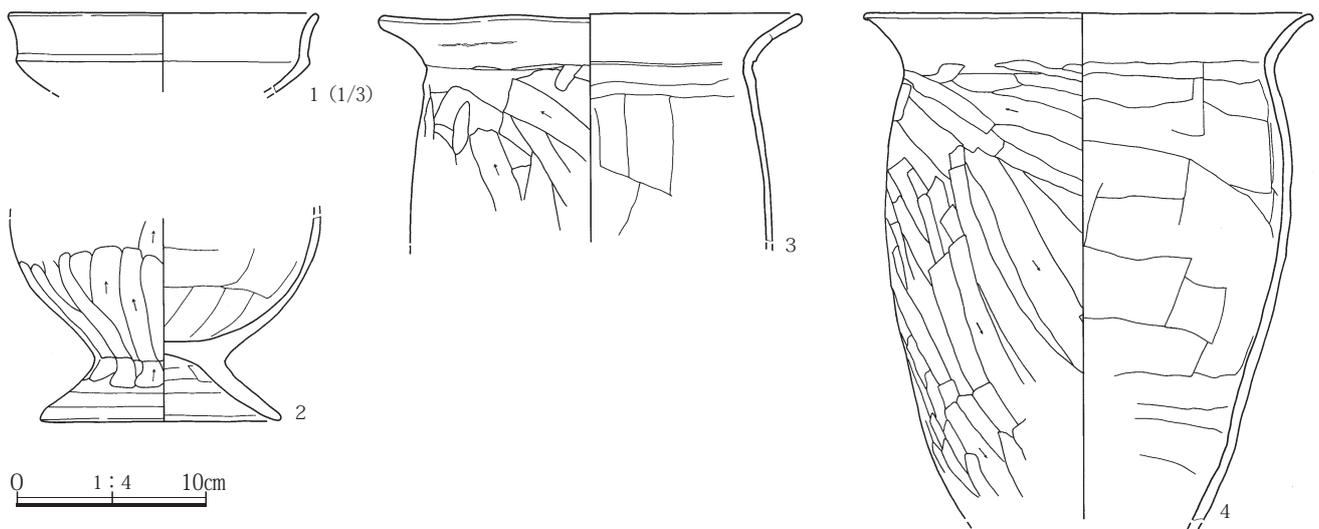
カマド 北東部で土器の集中と焼土の分布が認められ、カマドと推定して調査をすすめた。しかし、焼土の密度は希薄で、カマドであると判断できる他の根拠はなく、カマドでない可能性も残る。

ピット 検出されなかった。

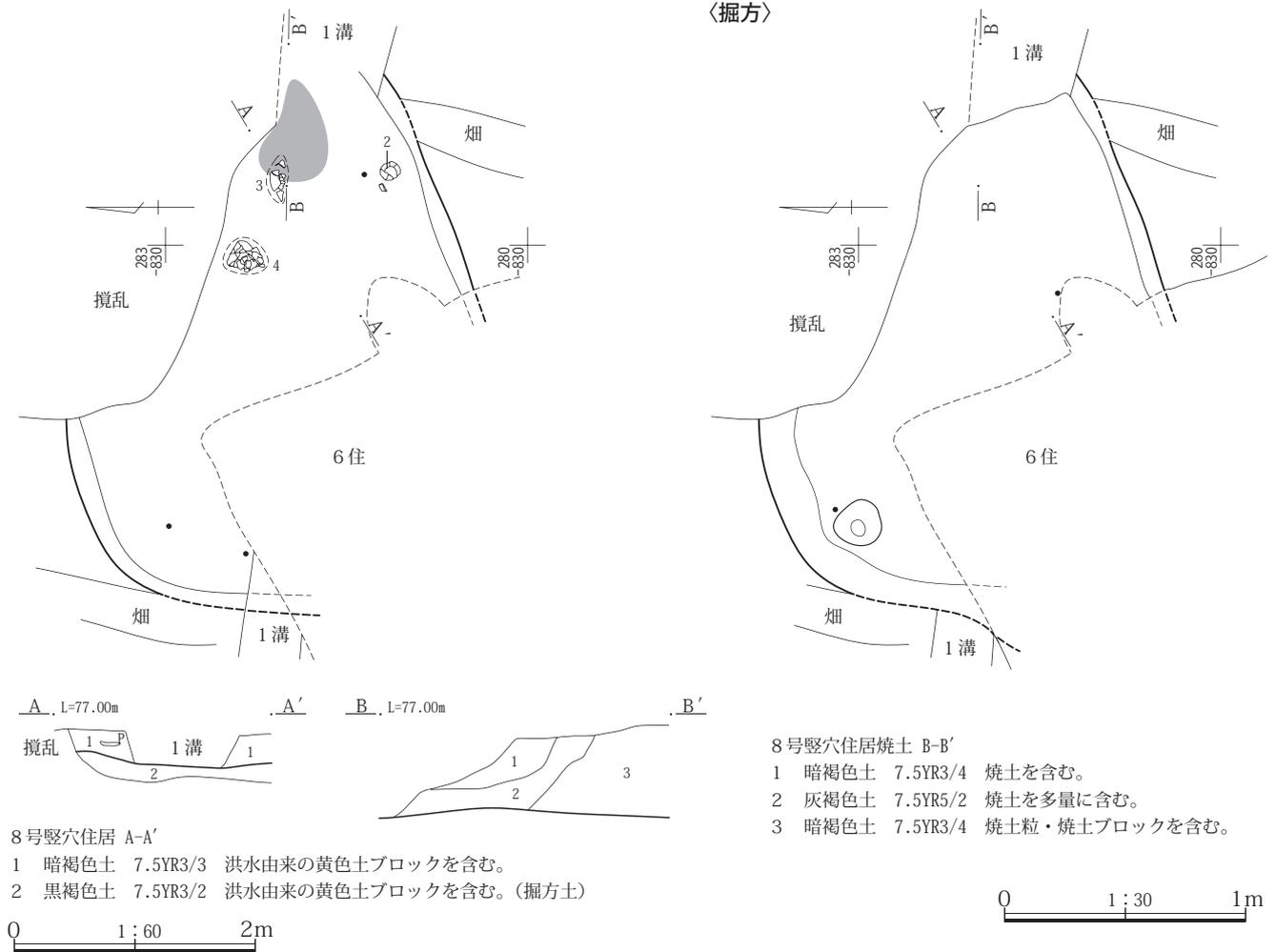
掘方 北西部にピット状の落ち込みがあるが、それ以外は概ね平坦である。

遺物と出土状態 土師器148点、須恵器4点が出土し、このうち4点を図示した。南東部で台付甕(2)床面直上で出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀後半と考えている。



第163図 6区8号竪穴住居出土遺物



第164図 6区8号竪穴住居

6区9号竪穴住居(第165図 PL.91・92・121)

位置 6区南東部

X=38,278 ~ 38,283 Y=-55,823 ~ -55,828

主軸方向 N-16°-W

重複 1号溝と重複し、遺構検出時の観察から、本住居より1号溝が新しい。

形状と規模 平面形は長方形で、南壁の長さは3.32m、西壁の長さは3.53m、遺構検出面から床面までの深さは0.4m、掘方底面までの深さは0.58m、面積は8.16㎡である。

埋没土 焼土・白色軽石を含む暗褐色土および黒褐色土が確認され、自然堆積の状況を示す。

床面 褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

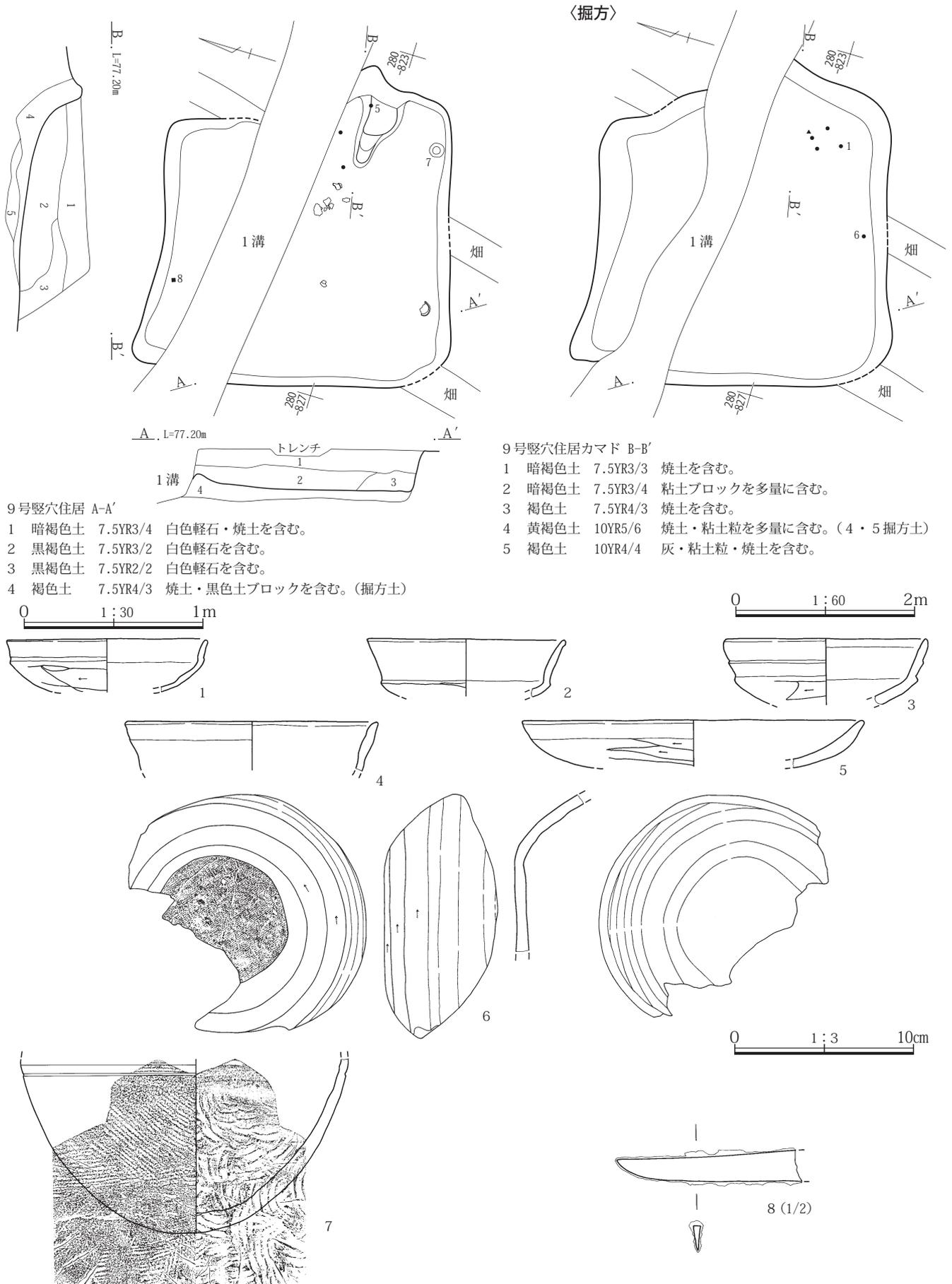
カマド 東壁で1か所検出した。左袖は1号溝に切られ、失われている。袖は焼土を含む黄褐色土で構築され、右袖の長さは0.76mである。煙道部には焼土の分布が認められた。

ピット 検出されなかった。

掘方 ピット状の浅い落ち込みが多数確認された。

遺物と出土状態 土師器214点、須恵器3点、石製品1点、鉄製品1点が出土し、このうち8点を図示した。南東隅では須恵器(7)が出土し、土器の一部が掘方に入り込むような状況であった。

所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と考えている。



第165図 6区9号竪穴住居と出土遺物

6区10号竪穴住居(第166図 PL.92・120)

位置 6区南東部東壁際

X=38,277~38,283 Y=-55,820~-55,824

主軸方向 N-51°-E

重複 1号溝と重複し、遺構検出時の観察から、本住居より1号溝が新しい。

形状と規模 東半分が調査区外だが、平面形は正方形または長方形と推定される。検出した長軸長は3.57m、短軸長1.86m、遺構検出面から床面までの深さは0.11m、掘方底面までの深さは0.38mである。

埋没土 にぶい黄褐色土1層を確認した。2層下部には

焼土ブロックがまとまって検出された。付近にカマドが据えられていた可能性がある。

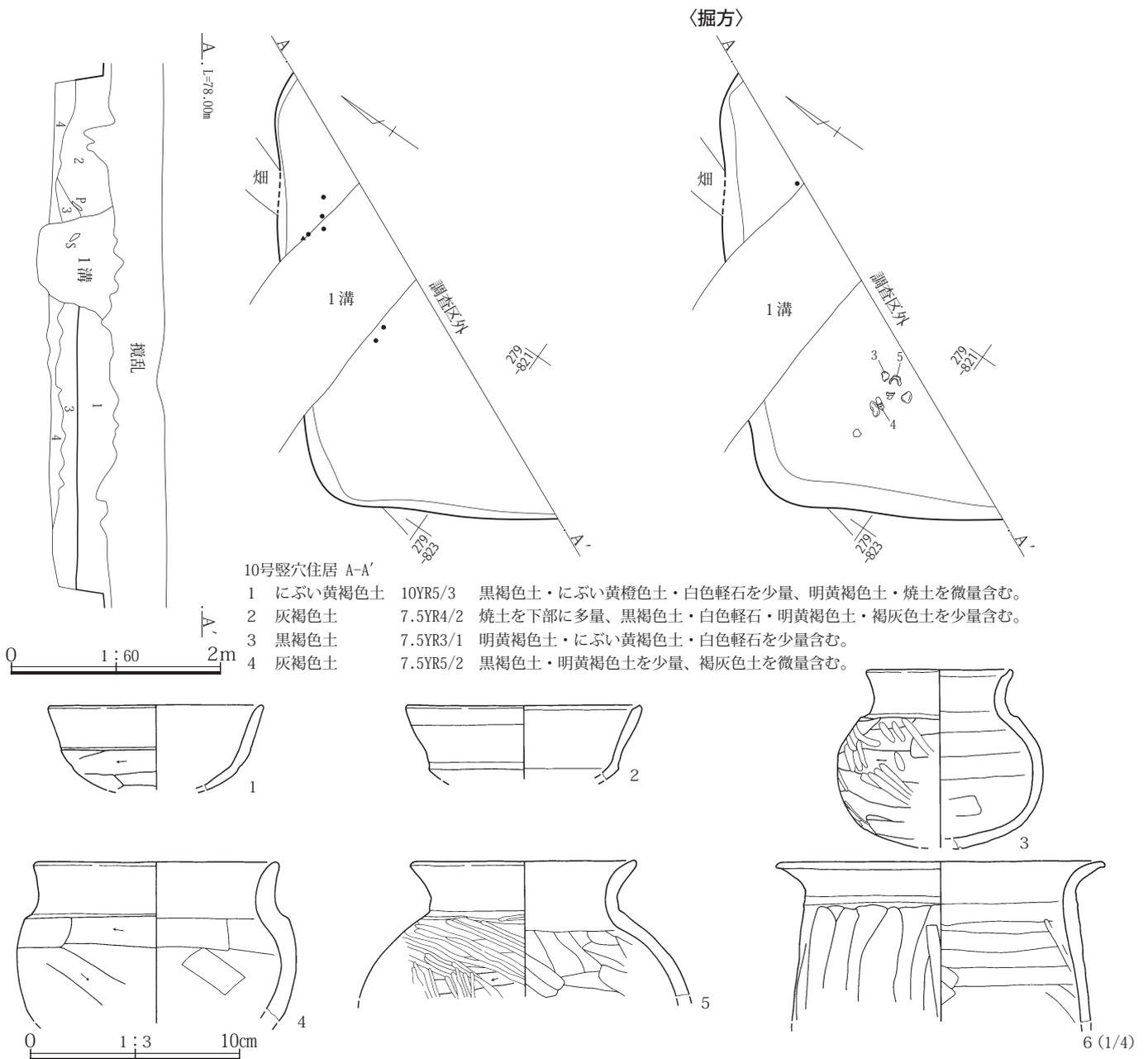
床面 黒褐色土で構築され、ほぼ平坦である。

カマド・ピット 検出されなかった。

掘方 ピット状の落ち込みがあるが、全体的には平坦である。

遺物と出土状態 土師器37点、石製品1点が出土し、このうち6点を図示した。1・2・6は埋没土から、3~5は掘方土から出土した。

所見 出土遺物から、時期は7世紀前半と考えている。



第166図 6区10号竪穴住居と出土遺物

6区11号竪穴住居(第167図 PL.92)

位置 6区中央部東壁際

X=38,287~38,289 Y=-55,817~-55,819

主軸方向 N-5°-W

重複 なし

形状と規模 北西部のごく一部を調査したのみで、全体形や規模は不明である。遺構検出面から床面までの深さは0.4mである。

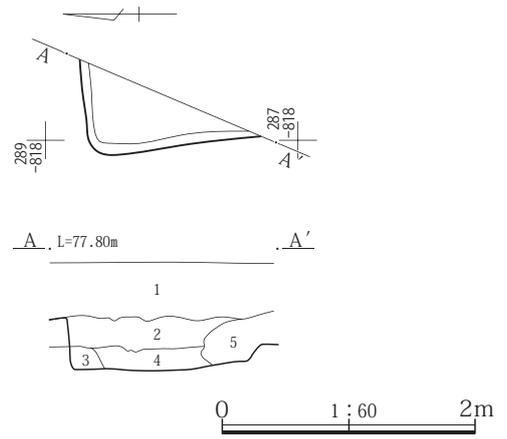
埋没土 暗褐色土および褐灰色土を主体とする。自然堆積の状況を示す。5層は洪水層由来の黄色土ブロックを多量に含む土で、人為堆積のように見えるが、詳細は不明である。

床面 平らに掘り込み、そのまま床面としている。

カマド・ピット 検出されなかった。

遺物 出土しなかった。

所見 ごく一部の調査で、カマド等の住居内施設も確認できなかったことから住居でない可能性がある。出土遺物がなく、遺構の重複もないため、時期は不明である。



11号竪穴住居 A-A'

- 1 表土
- 2 褐色土 7.5YR4/6 黄褐色土ブロック・黒色土ブロックを多量に含み斑状を呈する。軽石を含む。焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 7.5YR3/3 黒色土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 7.5YR4/1 洪水由来の黄色土ブロックを含む。
- 5 灰褐色土 7.5YR4/2 洪水由来の黄色土ブロックを多量に含む。

第167図 6区11号竪穴住居

3. 竪穴状遺構

5区で竪穴状遺構を1基検出した。竪穴住居が密集している5区北部で、住居の調査が終了し、さらに下位の遺構検出を行っている際に遺物が集中して出土した。遺構の有無を確認した結果、不定形な掘り込みが認められたため、竪穴状遺構として取り扱った。

5区1号竪穴状遺構(第168図 PL.121)

位置 5区中央部北寄り

X=38,342～38,347 Y=-55,798～-55,805

主軸方向 N-41°-E

重複 5区11号住居および15号土坑、1号溝と重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、11号住居および1号溝よりも古い。15号土坑との新旧関係は不明である。

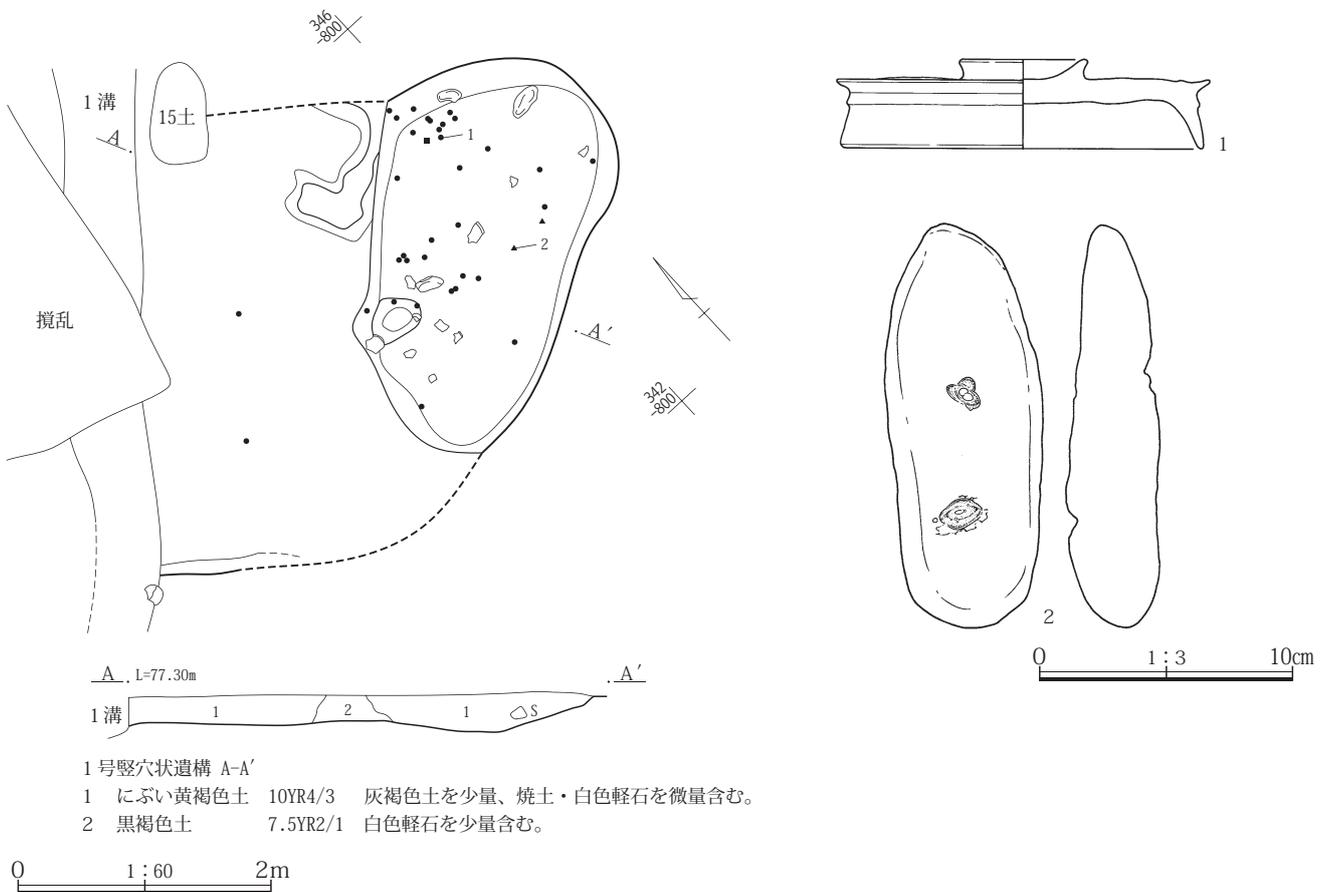
形状と規模 平面形は不定形である。検出した長軸長は3.87m、短軸長3.69m、遺構検出面から底面までの深さは

0.23mである。東部は不整な楕円形に落ち込み、壁の立ち上がりは急である。西部の壁の立ち上がりは明瞭ではなかった。底面の西部では平坦であるが、東部は緩やかな碗形を呈し、西部よりも2～10cm低い。

埋没土 にぶい黄褐色土および黒褐色土を主体とする。中央部に黒褐色土(2層)が堆積していた。堆積状況から、人為堆積の可能性が高い。

遺物と出土状態 土師器471点、須恵器81点、石製品2点、鉄製品1点、縄文土器2点が出土し、このうち2点を図示した。遺物は東部の落ち込み内に集中している。土師器片や須恵器片とともに、長径20cm以上の楕円形の礫が3点出土した。西部では出土遺物は少なかった。

所見 発掘調査時には、同一の遺構として調査をすすめたが、東部の落ち込みと西部は別の遺構の可能性はある。遺構の性格は不明である。遺構の重複から、時期は8世紀前半より古い。



第168図 5区1号竪穴状遺構と出土遺物

4. 掘立柱建物と柵

掘立柱建物は2区で1棟、4区で2棟、柵は3区で1列確認した。いずれも発掘調査時にはピットとして調査・記録を行い、整理作業でピットの規模や配置、間尺、埋没土などを再検討した結果、掘立柱建物や柵と判断したものである。これらの遺構の時期は、遺構の重複などから8世紀後半または9世紀前半の住居より新しく、中世以降と考えられる畑よりも古いことは明らかであるが、詳細な年代は不明である。なお、掘立柱建物の面積は柱穴の中心を結んでできた四辺の内部の面積を計測した。

2区1号掘立柱建物(第169図)

位置 2区南部

X=38,440~38,450 Y=-55,755~-55,760

重複 P1が5号住居と重複する。遺構検出時の観察から、本遺構の方が新しい。また、平面的には4号ピットとも

重複するが、切り合っている部分がなく、新旧関係は不明である。

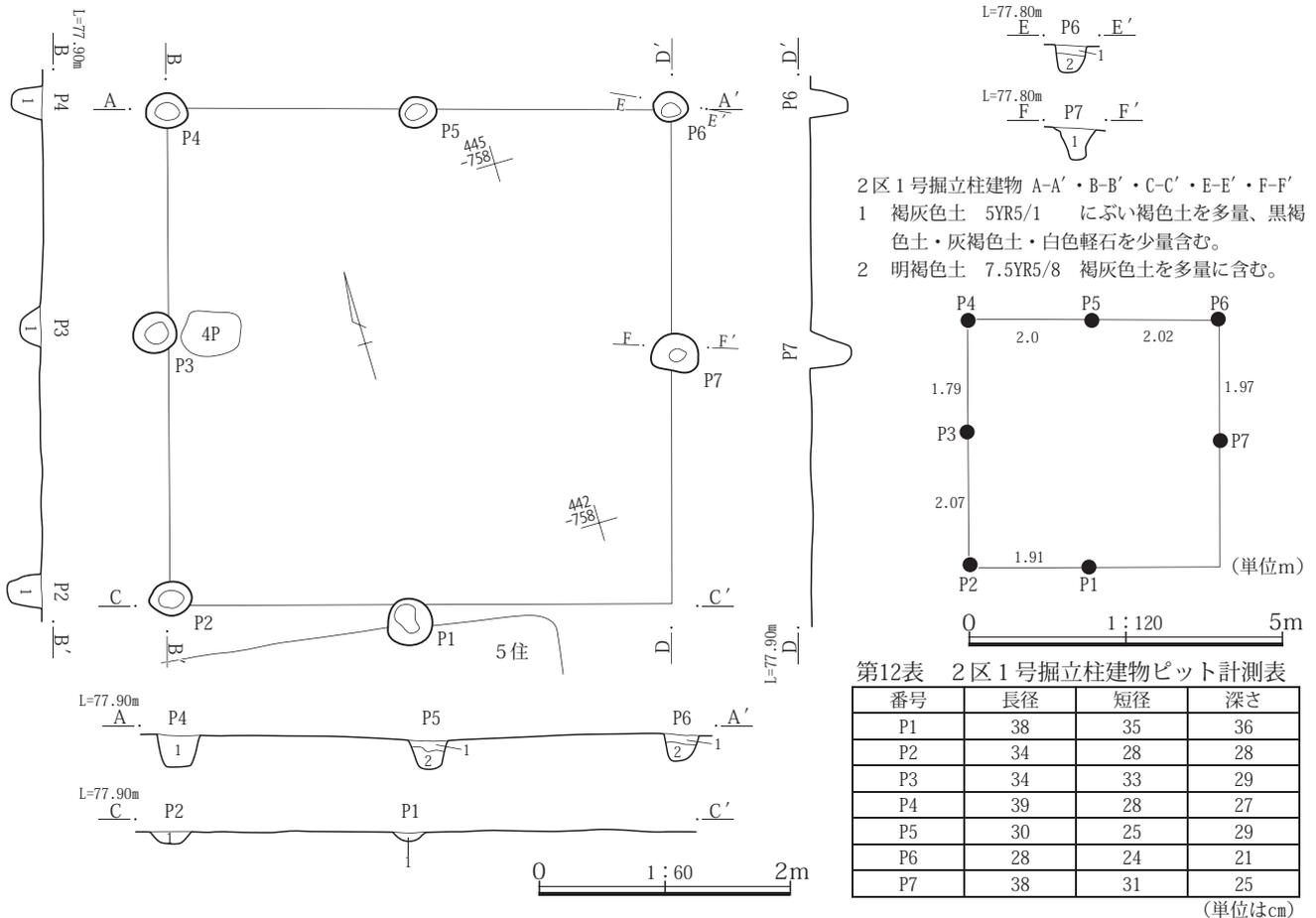
形状と規模 南東隅は検出されていないものの、東西2間、南北2間で、東西にやや長い側柱建物である。各柱穴の規模と柱間は第12表と第169図に示した。柱穴の平面形や規模は近似しているが、深さは一定ではなく、東側のP6・P7がほかの柱穴よりも深い。桁行北側は4.02m、梁間西側は3.86mである。

軸方向 N-18°-E **面積** 16.08㎡

埋没土 褐灰色と明褐色の砂質土である。にぶい褐色土や褐灰色土ブロックを多く含む。柱痕が確認できたものはなかった。

遺物 P3とP4の埋没土から、それぞれ土師器が2点ずつ出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 遺構の重複から、8世紀後半と推定される5号住居より新しく、中世以降と考えられる畑よりも古い時期の建物である。竪穴住居がない場所で検出されていることも考慮し、古代の建物と推定される。



第169図 2区1号掘立柱建物

4区1号掘立柱建物(第170図)

位置 4区北東部

X=38,380~38,390 Y=-55,775~-55,785

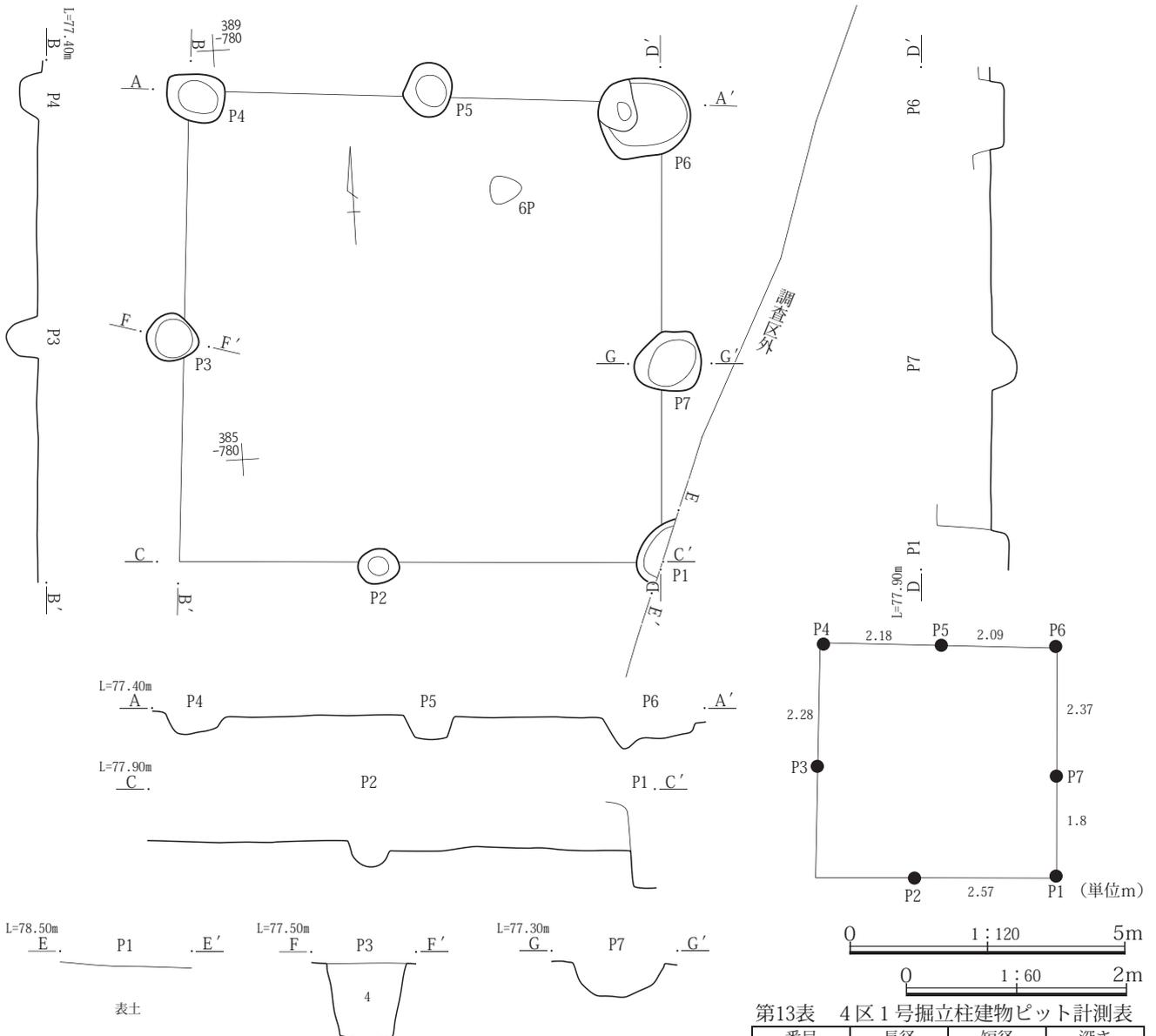
重複 中世以降と考えられる畑と重複し、本遺構の方が古い。また、平面的には6号ピットとも重複する。

形状と規模 南西隅は検出されていないものの、東西2間、南北2間の東西にやや長い側柱建物である。東側は調査区外で、さらに東に延びる可能性がある。各柱穴の

規模と柱間は第13表と第170図に示した。東辺のP1・P6・P7は他の柱穴に比べて大きい。P1・P6は他の柱穴よりも遺構掘込み面が高いが、ほかの柱穴もP1・P6と遺構掘込み面が同じだった可能性がある。桁行北側は4.27m、梁間東側は4.17mである。

軸方向 N-4°-E 面積 18.11㎡

埋没土 断面の記録はP1・P3のみである。どちらも柱痕は認められなかった。



第13表 4区1号掘立柱建物ピット計測表

番号	長径	短径	深さ
P1	(63)	(22)	71
P2	37	32	22
P3	47	45	28
P4	53	45	19
P5	50	42	23
P6	85	71	30
P7	62	54	23

(())は残存値、単位はcm

第170図 4区1号掘立柱建物

遺物 出土しなかった。

所見 遺構の重複や調査面の上下から、中世以降と考えられる畑よりも古い時期の建物である。2区1号掘立柱建物と同様に、竪穴住居がない場所で検出されていることから、竪穴住居の時期とさほど離れていない時期の建物の可能性がある。

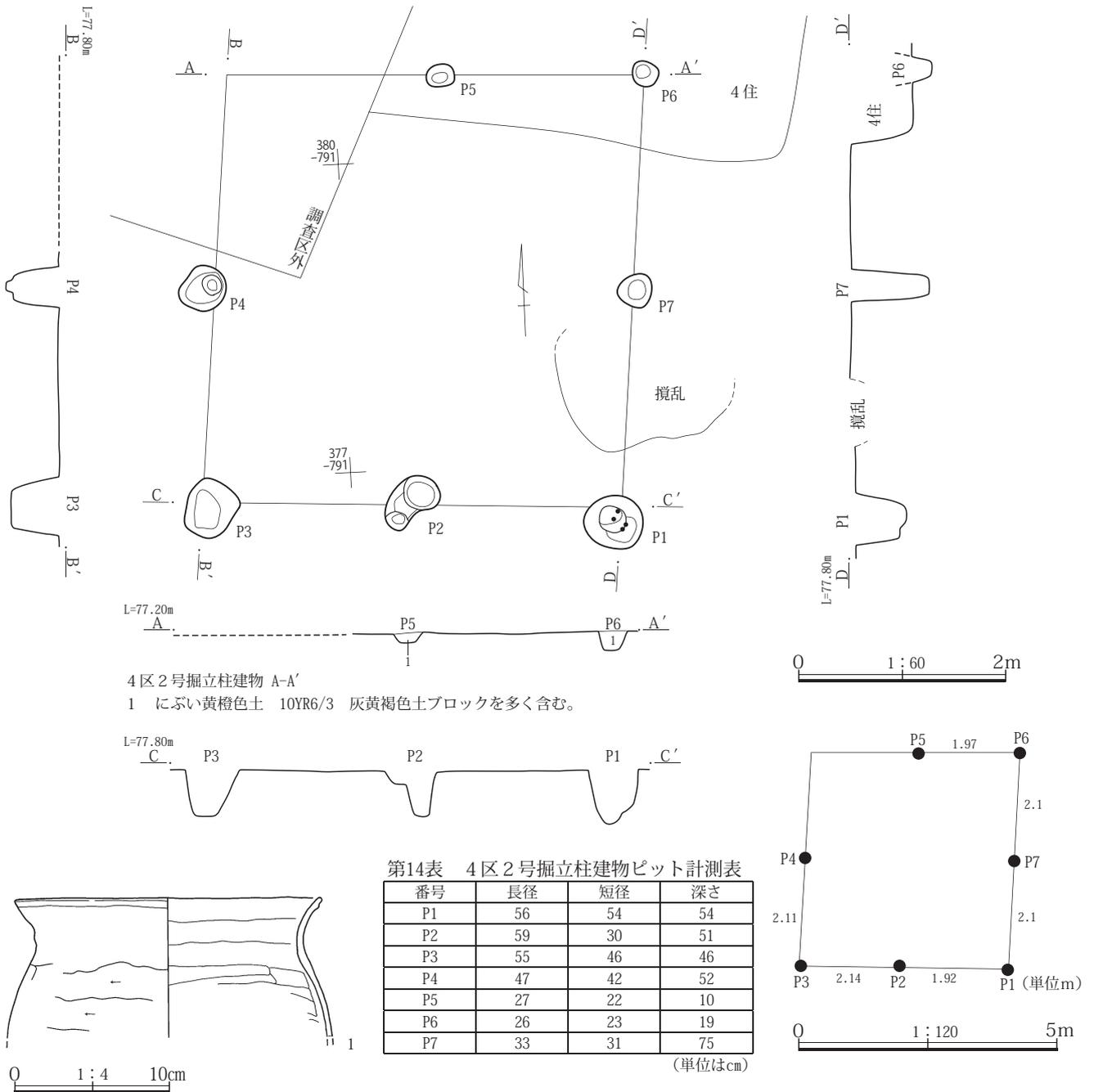
4区2号掘立柱建物(第171図 PL.121)

位置 2区南部

X=38,375~38,385 Y=-55,786~-55,795

重複 P5・P6が4号住居と重複する。遺構検出時や埋没土の観察から、ピットの方が新しい。

形状と規模 北西隅は調査区外のため確認できなかった



第171図 4区2号掘立柱建物と出土遺物

が、東西2間、南北2間で、南北にやや長い側柱建物である。各柱穴の規模と柱間は第14表と第171図に示した。P5・P6は4号住居調査時に確認したため、遺構検出面が他のピットより低い。そのため、ピットの平面形が小さく、深さも浅い。桁行東側は4.2m、梁間南側は4.06mである。

軸方向 N-6°-E **面積** 17.58㎡

埋没土 P1～P4・P7は断面の観察を欠いている。P5・P6は洪水層由来のにぶい黄橙色土で、色味が特徴的である。柱痕が確認できたものはなかった。

遺物 P1から土師器7点、須恵器1点、P3から土師器9点、P4から土師器8点が出土した。このうちP1掘方から出土した1点を図示した。

所見 遺構の重複から、9世紀後半と推定される4号住居より新しく、中世以降と考えられる畑よりも古い時期の建物である。軸方向や規模が4区1号掘立柱建物と近似していることから、同時期の建物であると推定される。

3区1号柵(第172図)

位置 2区中央部東寄り

X=38,400～38,415 Y=-55,765～-55,770

重複 なし

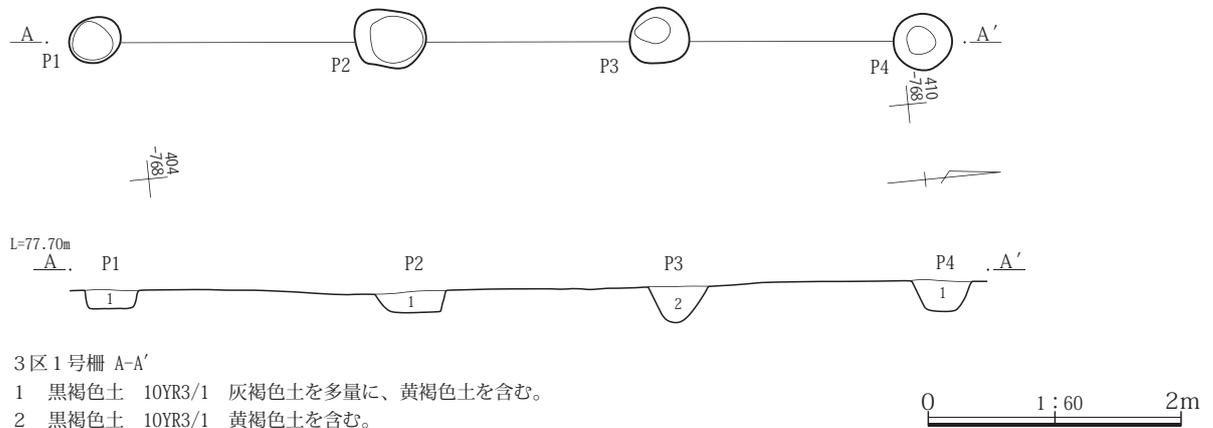
形状と規模 P1～P4を確認した。各柱穴の規模と柱間は第15表と第172図に示した。P1からP4間の距離は6.55mである。本柵の西側に土坑やピットが集中し、それらも含めて掘立柱建物等について再検討したが、建物を認めることができなかった。

軸方向 N-6°-E

埋没土 洪水層由来の黄褐色土を含む黒褐色土である。いずれも柱痕は確認できなかった。

遺物 P2とP4の埋没土から、それぞれ土師器が1点ずつ出土している。いずれも細片のため、図示しなかった。

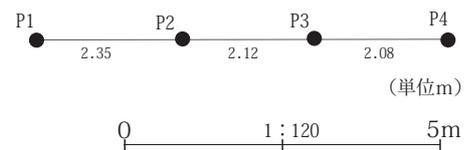
所見 上下の調査面から、中世以降と考えられる畑よりも古い時期の柵である。やや離れているが、20～30m南に位置する4区1号・2号掘立柱建物と軸方向や規模が共通していることから、同時期のものと推定される。



第15表 3区1号柵ピット計測表

番号	長径	短径	深さ
P1	41	36	14
P2	57	44	17
P3	48	45	30
P4	45	45	24

(単位はcm)



第172図 3区1号柵

5. 溝(付図2)

溝は10条検出された。これらの溝は竪穴住居より新しいもの、竪穴住居より古いもの、時期不明のものに分けられる。竪穴住居よりも新しい溝は、2区1号・7号溝と6区1号溝である。竪穴住居よりも古いものは2区～5区4号溝と2区5号溝である。特に、2区～5区4号溝は長さ150m以上検出され、調査区を南北に縦走し、5区で粕川方向の南西に向きを変えている。時期は遺構の重複から、古墳時代の水田より新しく、7世紀後半の竪穴住居よりも古い。本遺跡が集落として最盛期を迎える前に水路として利用されたと考えられ、本遺跡の中で重要な溝であることが指摘できる。

2区1号溝(第173図 PL.93)

位置 2区東部東壁沿い

X=38,435～38,463 Y=-55,745～-55,755

重複 7号住居、6号・8号溝と重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、7号住居よりも1号溝が新しい。6号・8号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 南部は調査区外に延びている。検出された長さは28.27m、幅は0.31m、遺構検出面から底面までの深さは10～14cmである。底面は平坦ではなく、断面形は椀形を呈する。

方向 N-21°-E

底面比高 南端が北端より5cm低い。

埋没土 砂質の褐灰色土1層を確認した。鉄分を多く含み、洪水層と判断した。

遺物と出土状態 埋没土から、土師器10点、須恵器69点、石製品1点が出土し、このうち3点を図示した。

所見 埋没土の観察から、洪水により埋没した溝と考えられる。時期は8世紀後半と推定される7号住居より新しい。

2区2号溝(第173図 PL.93)

位置 2区中央部南寄り

X=38,448～38,450 Y=-55,752～-55,764

重複 2区～5区4号溝と重複するが、新旧関係は不明である。

形状と規模 東西に長い溝で、長さは11.31m、幅は0.49

m、遺構検出面から底面までの深さは2～4cmである。底面は平坦ではなく、断面形は皿状である。

方向 N-85°-E

底面比高 東端が西端より14cm低い。

埋没土 砂質の褐灰色土1層を確認した。

遺物 出土しなかった。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。性格も不明である。

2区3号溝(第174図 PL.93・94)

位置 2区中央部

X=38,455～38,470 Y=-55,750～-55,754

重複 7号・8-2号・9号住居および2区～5区4号・2区5号溝と重複する。土層観察の記録を欠くため、各遺構との新旧関係は不明である。

形状と規模 南北に長い溝で、検出された長さは14.0m、幅は0.49m、遺構検出面から底面までの深さは2～9cmである。底面は平坦ではなく、断面形は椀形を呈する。

方向 N-11°-W

底面比高 南端が北端より3cm低い。

埋没土 褐灰色土1層を確認した。灰褐色土および黄褐色土を多量に含み、下層ほど砂質土である。

遺物 埋没土から、須恵器が1点出土し、これを図示した。

所見 時期および性格は不明である。

2区5号溝(第174図 PL.93・95)

位置 2区中央部西寄り

X=38,461～38,479 Y=-55,751～-55,757

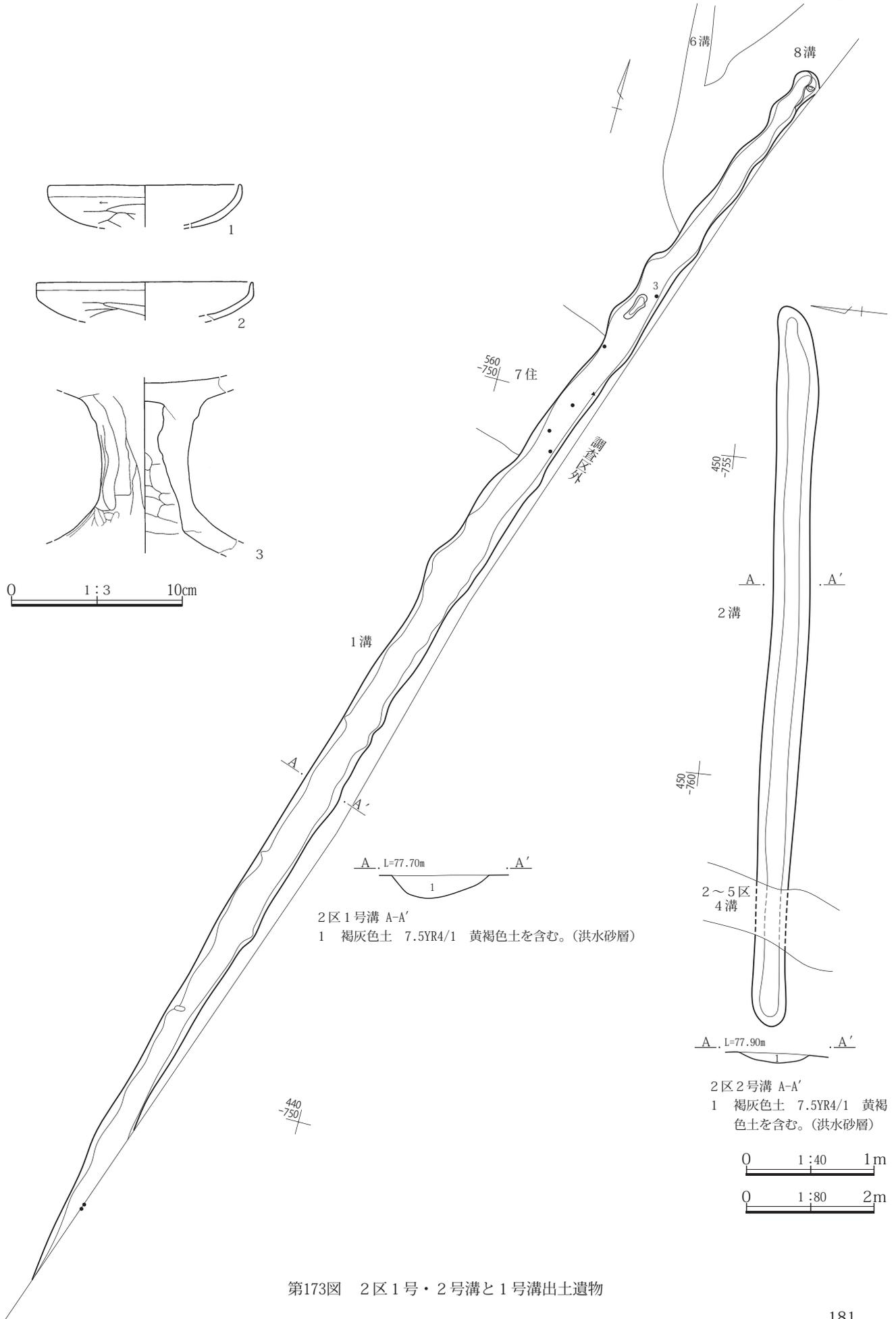
重複 8-1号・8-2号・9号・10号住居および2区3号・2区～5区4号溝と重複する。土層断面の観察から、8-1号・8-2号・9号・10号住居より古い。2区3号・2区～5区4号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 北部は調査区外に延びている。検出された長さは18.52m、幅は0.39m、遺構検出面から底面までの深さは37～63cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-12°-E

底面比高 北端が南端より1cm低い。

埋没土 2層確認した。どちらも混入物の少ない砂層で、洪水層の一次堆積と考えている。



第173図 2区1号・2号溝と1号溝出土遺物

遺物と出土状態 埋没土から、須恵器が1点出土したものの、細片のため図示しなかった。

所見 2区～5区4号溝と埋没土が非常に類似し、同時期の可能性が高い。埋没土の観察から、洪水により埋没した溝と考えられる。詳細な時期は不明である。

2区6号溝(第174図 PL.93・95)

位置 2区中央部

X=38,458～38,474 Y=-55,747～-55,749

重複 12号住居、2区～5区4号溝、2区8号溝と重複する。土層観察の記録を欠くため、各遺構との新旧関係は不明である。

形状と規模 北部は攪乱に切られ、確認できなかった。検出された長さは15.36m、幅は0.36m、遺構検出面から底面までの深さは3～14cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-3°-W

底面比高 南端が北端より14cm低い。

埋没土 黄褐色の砂層で、洪水層と判断した。

遺物と出土状態 埋没土から、土師器39点、須恵器9点が出土し、このうち2点を図示した。

所見 埋没土の観察から、洪水により埋没した溝と考えられる。時期および性格は不明である。

2区7号溝(第174図 PL.93・96)

位置 2区東部東壁際

X=38,469～38,474 Y=-55,748～-55,751

重複 12号住居と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、7号溝の方が新しい。

形状と規模 検出された長さは4.0m、幅は0.48m、遺構検出面から底面までの深さは15～21cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-8°-W

底面比高 南端が北端より1cm低い。

埋没土 土層の記録を欠き、不明である。

遺物 出土しなかった。

所見 遺構の重複から、8世紀前半と推定される12号住居よりも新しいが、詳細な時期は不明である。

2区8号溝(第174図 PL.93・95・96)

位置 2区東部東壁際

X=38,458～38,473 Y=-55,743～-55,748

重複 1号・6号溝と重複する。遺構検出時の観察から、1号溝の方が新しい。6号溝との新旧関係は記録がなく、不明である。

形状と規模 南部は調査区外に延びる可能性がある。検出された長さは14.5m、幅は0.26m、遺構検出面から底面までの深さは3～4cmである。南部で幅が広がっている。

方向 N-13°-E

底面比高 南端が北端より5cm低い。

埋没土 黄褐色の砂層で、洪水層と判断した。

遺物 出土しなかった。

所見 埋没土の観察から、洪水により埋没した溝と考えられる。時期および性格は不明である。

2区～5区4号溝(第175～177図 PL.94・95・121)

位置 2区～5区

X=38,337～38,471 Y=-55,745～-55,812

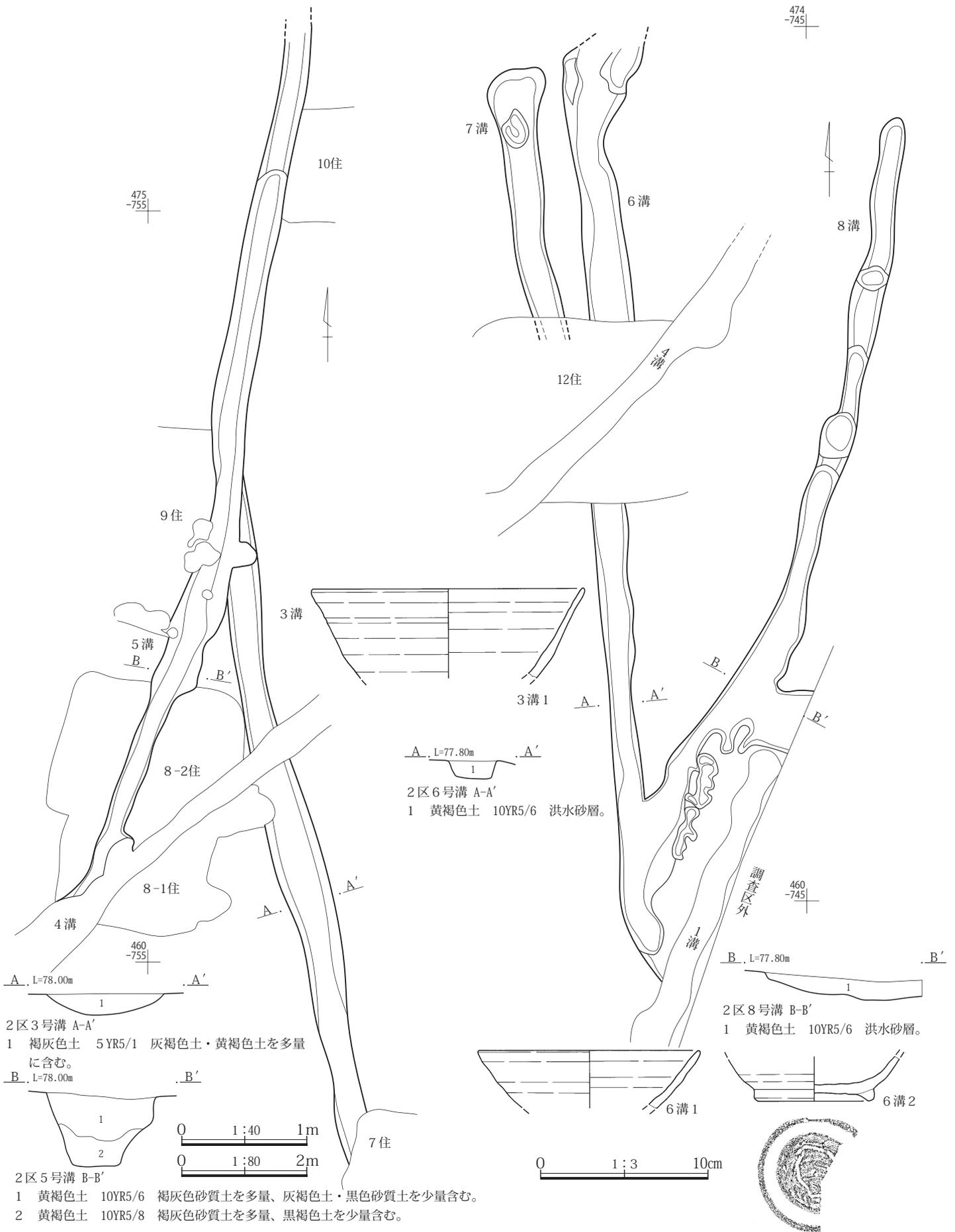
重複 2区4号・6号・8-1号・8-2号・12号住居、2号・3号・5号溝、3区1号・2号・7号・9号住居、4区1号掘立柱建物、5区11号～14号・16号・17号住居、1号竪穴状遺構、33号ピットと重複する。遺構検出時および土層断面の観察から、2区2号・3号・5号溝を除く、いずれの遺構よりも4号溝が古い。さらに下位の古墳時代の水田よりも新しい。また、2区2号・3号・5号溝との新旧関係は不明である。

形状と規模 北部は検出できなかったが、さらに北に延びていたと推定される。南部は調査区外で、南西の粕川の方向に延びると考えられる。検出された長さは152.08m、幅は0.5m、遺構検出面から底面までの深さは0.23～0.75mである。底面は平坦ではなく、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-34°-E(2区)

底面比高 南西端が北東端より36cm低い。

埋没土 混入物の少ない砂層で、洪水層の一次堆積と判断した。



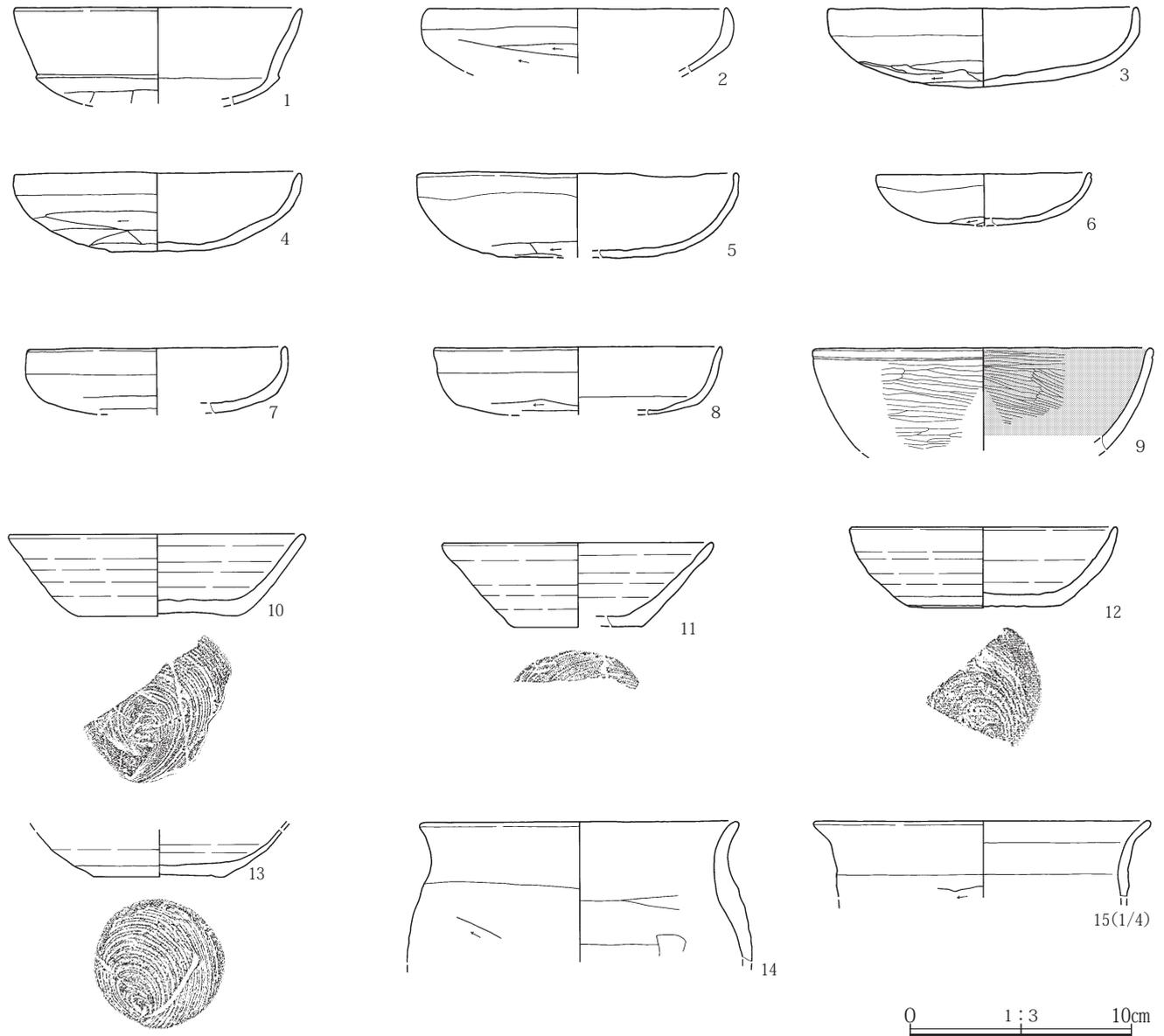
第174図 2区3号・5号～8号溝と3号・6号溝出土遺物

遺物と出土状態 埋没土から、土師351点、須恵器66点が出土し、このうち15点を図示した。8世紀前半を主体とするものの、7世紀から9世紀にかけての遺物が出土している。

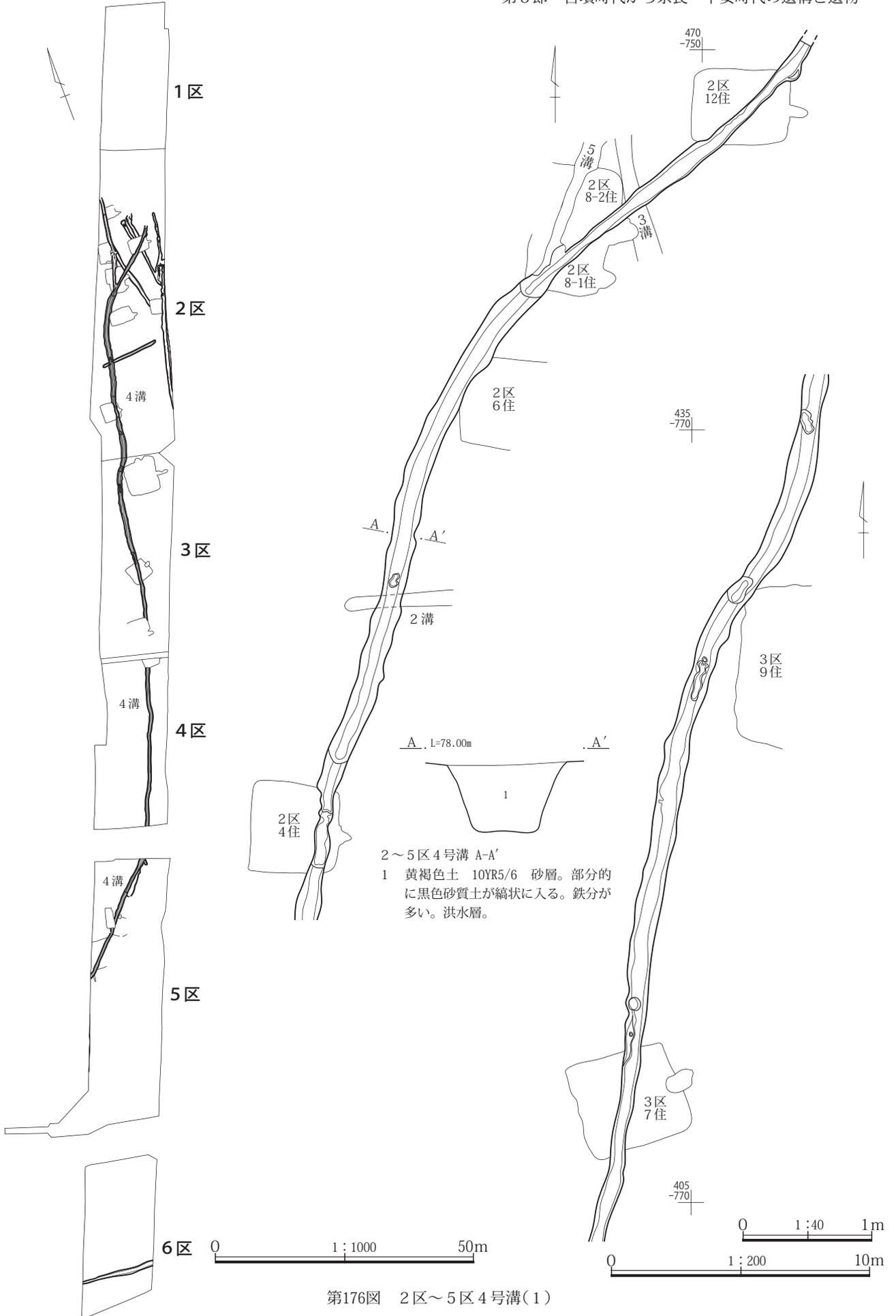
所見 遺構の重複から、7世紀後半と推定される3区7号住居よりも古く、古墳時代の水田よりも新しい。土層断面の観察から、洪水により一気に埋没したものと考え

られるが、規模および方向、底面比高などから、水路として利用された可能性が高い。

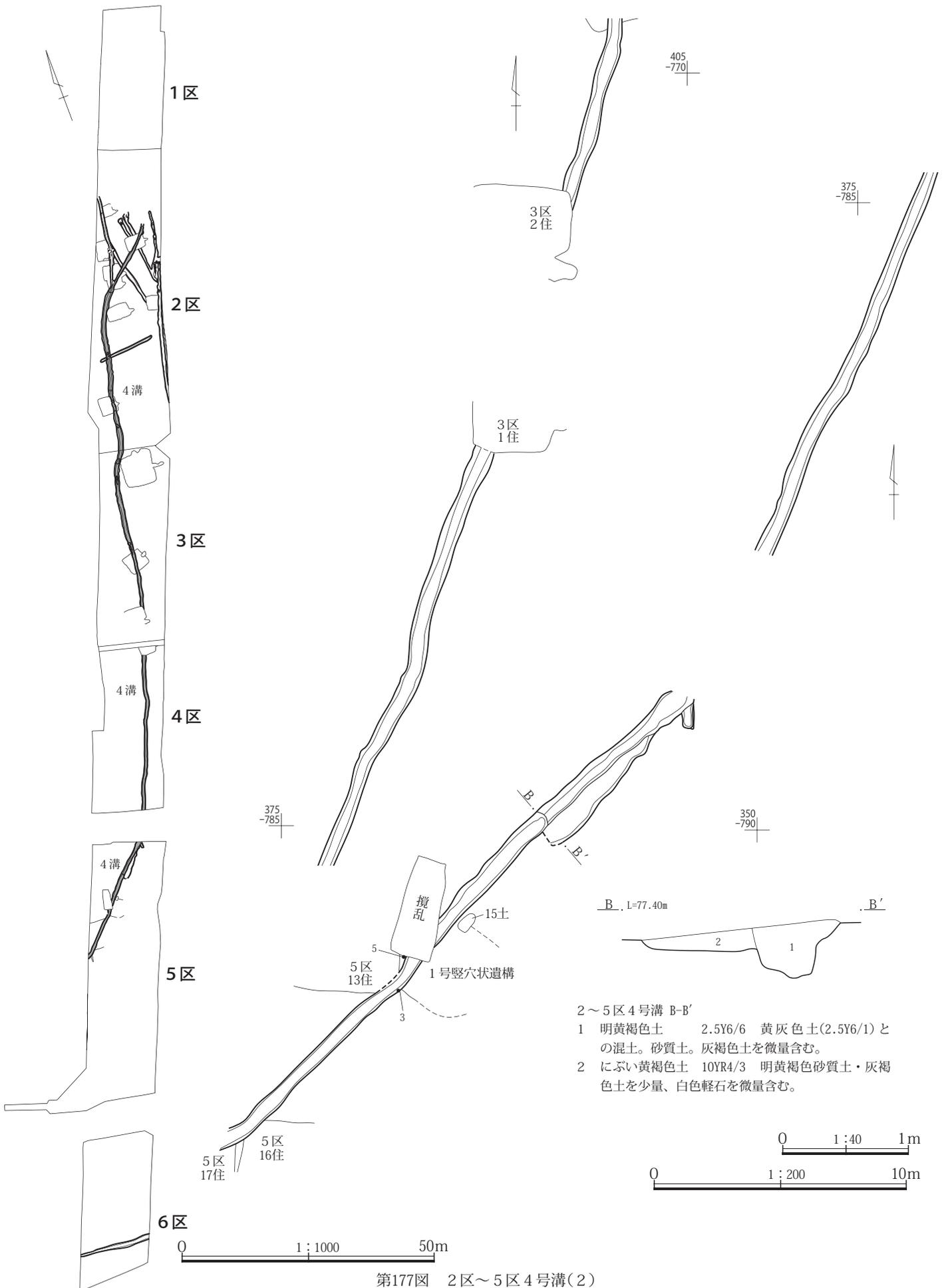
全長150m以上の溝で、幅・深さともにしっかり掘り込まれている。古墳時代の水田利用の後、7世紀後半までのいずれかの時期に水路として利用されたと考えている。



第175図 2区～5区4号溝出土遺物



第176図 2区~5区4号溝(1)



2～5区4号溝 B-B'

1 明黄褐色土 2.5Y6/6 黄灰色土(2.5Y6/1)との混土。砂質土。灰褐色土を微量含む。

2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 明黄褐色砂質土・灰褐色土を少量、白色軽石を微量含む。

第177図 2区～5区4号溝(2)

4区1号溝(第178図)

位置 4区南東隅

X=38,360~38,367 Y=-55,783~-55,788

重複 なし

形状と規模 北部および南部は調査区外に延びている。検出された長さは6.88m、幅は0.51m、遺構検出面から底面までの深さは19~22cmである。底面は平坦ではなく、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-34°-E

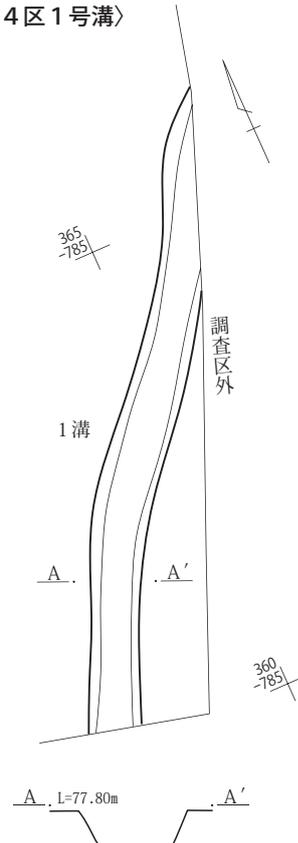
底面比高 南西端が北東端より36cm低い。

埋没土 土層の観察を欠き、不明である。

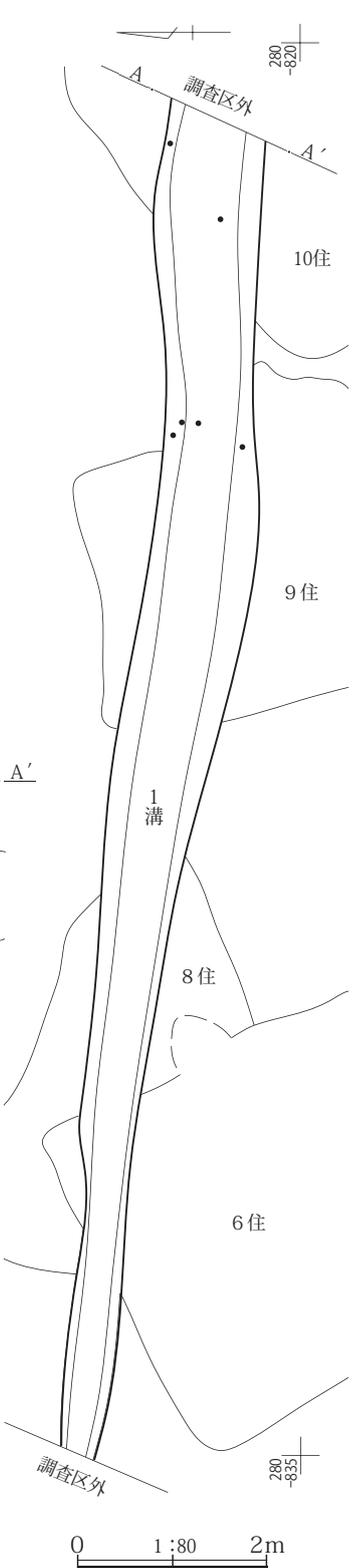
遺物 出土しなかった。

所見 判断できる資料がなく、時期および性格は不明である。

〈4区1号溝〉



〈6区1号溝〉



6区1号溝(第178図 PL.96・121)

位置 6区南部

X=38,280~38,283 Y=-55,820~-55,836

重複 6号・8号・9号・10号住居と重複し、いずれの住居よりも1号溝が新しい。

形状と規模 東西に延びる溝で、両端は調査区外である。検出された長さは14.18m、幅は0.39m、遺構検出面から底面までの深さは8~58cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。

方向 N-83°-W

底面比高 東端が西端より17cm低い。

埋没土 暗褐色土1層を確認した。

遺物と出土状態 土師器66点、須恵器11点が出土し、このうち2点を図示した。1・2は埋没土から出土した。

所見 土層断面の観察から、常時水が流れていた溝ではない。遺構の重複および出土遺物から、時期は8世紀以降と考えられるが、詳細は不明である。

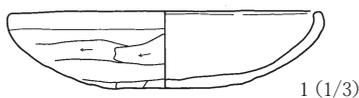
A, L=77.80m

A, L=78.00m

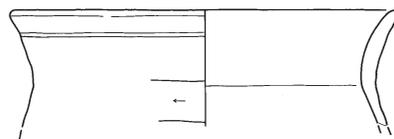
6区1号溝 A-A'

1 暗褐色土 10YR3/3 浅黄色土ブロックを少量含む。

0 1:40 1m



1 (1/3)



2 (1/4)

0 1:80 2m

第178図 4区1号溝・6区1号溝と出土遺物

6. 井戸

井戸は2区と4区でそれぞれ1基ずつ確認した。どちらも他の遺構との重複がないことから、竪穴住居と同時期と考えられるが、詳細な年代は不明である。

2区1号井戸(第179図 PL.96・121)

位置 2区北西部

X=38,486 ~ 38,487 Y=-55,747 ~ -55,749

長軸方向 N-38°-E

重複 なし

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径は0.98m、短径0.94mである。遺構検出面から底面までの深さは2.33mである。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、開口部付近でやや広がっている。

埋没土 上層ににぶい黄褐色土を確認した。砂質土で、明黄褐色土・黒褐色土を少量含んでいる。

遺物と出土状態 土師器41点、須恵器5点が出土し、このうち2点を図示した。1・2は埋没土から出土した。

所見 時期については、判断する資料が乏しく、詳細は不明である。

4区1号井戸(第179図 PL.96・121)

位置 4区中央部東壁寄り

X=38,379 ~ 38,382 Y=-55,777 ~ -55,781

長軸方向 N-80°-E

重複 なし

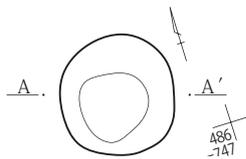
形状と規模 平面形は不整な楕円形で、長径は1.96m、短径1.69mである。遺構検出面から底面までの深さは3.57mである。断面形は底面からほぼ垂直に立ち上がり、開口部付近で大きく広がる形状である。

埋没土 上層に明黄褐色土(1層)と灰黄褐色土(2層)を確認した。1層は洪水層由来の砂質土で、黄褐色土粒を多く含み、鉄分の沈着が顕著である。2層は混入物が少なく、洪水の一次堆積層と考えられる。

遺物と出土状態 土師器147点、須恵器30点が出土し、このうち2点を図示した。1・2は埋没土から出土した。

所見 時期については、判断する資料が乏しく、詳細は不明である。

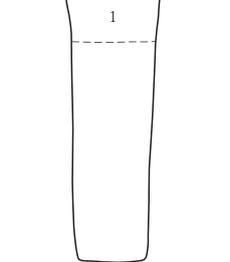
<2区1号井戸>



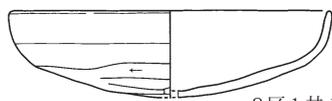
A. L=77.80m A'

2区1号井戸 A-A'

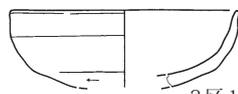
1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 明黄褐色土・黒褐色土を少量含む。



0 1:60 2m

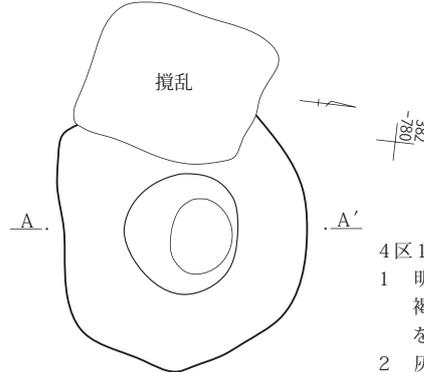


2区1井1



2区1井2

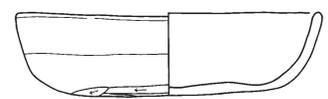
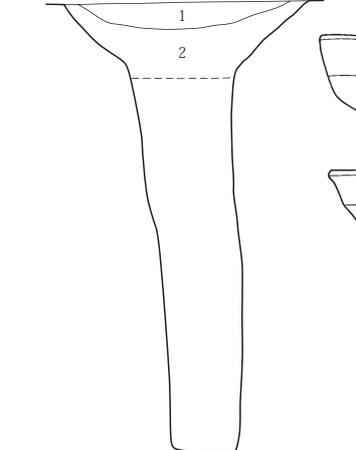
<4区1号井戸>



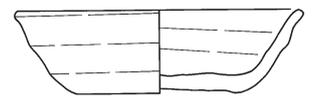
A. L=77.80m A'

4区1号井戸 A-A'

- 1 明黄褐色土 10YR6/6 灰黄褐色砂質土を少量、灰褐色土を微量含む。砂質。
- 2 灰黄褐色土 10YR6/2 黄褐色砂質土を多量に含む。砂質。



4区1井1



4区1井2



0 1:3 10cm

第179図 2区1号・4区1号井戸と出土遺物

7. 土坑(第181～183図 PL.97～101)

土坑は37基検出された。分布には偏りが認められ、3区中央部と5区中央部南寄りにまとまっている。このほか、2区南部から3区北部、3区南西部から4区北西部、6区北部でも確認された。これらの土坑は平面形や規模などから、以下の6種類に分類することができた。

- ① 細長い土坑 2基
- ② 隅丸長方形の土坑 4基
- ③ 長方形の土坑 3基
- ④ 円形の土坑 2基
- ⑤ 楕円形の土坑 16基
- ⑥ その他の土坑 10基

それぞれの土坑の位置や規模、重複については261～263頁に、出土遺物については267頁に示した。以下、6つの分類ごとに土坑を概観する。

①細長い土坑(第180図 PL.99・100)

3区17号・3区26号土坑の2基がこれに当たる。2基の土坑は長軸方向が南北または東西を示す。長径が短径の4倍以上である。断面形は逆台形を呈し、埋没土は灰褐色土で共通する。17号土坑では、埋没土中から、土師器6点、須恵器1点が出土した。また、26号土坑では土師器11点が埋没土から出土している。いずれも細片のため図示しなかった。時期については不明である。東側に並列する6号～13号土坑との関連も不明である。

②隅丸長方形の土坑(第180図 PL.97・99・100)

2区4号・3区18号・3区24号・3区25号土坑の4基がこれに含まれる。これらは2区南部から3区北部に分布し、24号土坑と25号土坑は南北に並んでいる。底面は4号土坑を除き、ほぼ平坦である。24号土坑と25号土坑の埋没土が類似している。これらの土坑では、埋没土から、土師器、須恵器、金属製品が出土した。このうち25号土坑から出土した1点を図示した。時期および性格は不明である。

③長方形の土坑(第180図 PL.97・98)

3区5号・3区8号・3区9号土坑の3基である。5号土坑は一部が調査区外であるが、検出した部分から推

定しこれに含めた。8号土坑と9号土坑は東西に並んでいる。6号・7号・10号～13号土坑とともに南北に列をなしているように見えるが、詳細は不明である。断面形や埋没土に共通性はなく、3基とも多様である。5号および8号土坑では、埋没土から、土師器、須恵器が出土し、このうち8号土坑出土の1点を図示した。9号土坑から遺物は出土しなかった。時期および性格については不明である。

④円形の土坑(第180図 PL.100)

3区30号土坑・5区1号土坑の2基がこれに当たる。3区と5区に1基ずつ分布している。断面形状および埋没土は異なっている。5区1号土坑では、埋没土から土師器が4点出土したが、いずれも細片のため図示しなかった。3区30号土坑から遺物は出土しなかった。これらの土坑の時期および性格は不明である。

⑤楕円形の土坑(第181・182図 PL.97～101)

2区2号・2区3号・3区10号・3区12号～15号・3区20号～23号・5区2号～5号・6区1号土坑の16基がこれに含まれる。3区10号・12号・13号土坑は3区6号～9号・11号土坑も含めて南北2列をなしているように見えるが、詳細を明らかにすることができなかった。断面形は底面が平坦で、箱形または逆台形を呈するものと底面が平坦ではなく、椀形を呈するものが見られる。このほか、3区22号土坑では中段を有していた。埋没土は灰褐色土を主体とする。これらの土坑では、埋没土から、土師器、須恵器が出土し、そのうち、器形や時期がわかるものを図示した。これらの土坑の時期および性格は不明である。

⑥その他の土坑(第182図 PL.97～101)

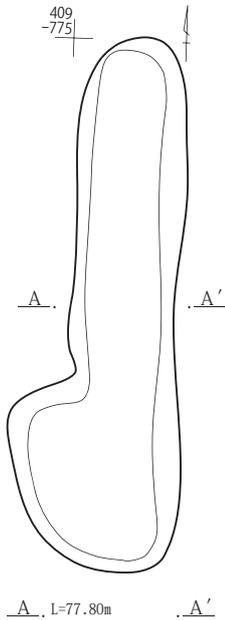
3区6号・3区7号・3区11号・3区16号・3区19号・3区27号～29号・4区4号・6区2号土坑の10基である。平面形が不整形で上記の①～⑤に当てはまらない土坑や一部の調査で全体形を把握できなかったものをこれに含めた。

これらの土坑は、平面形や断面形、埋没土がそれぞれ異なり、多様である。出土遺物は、土師器または須恵器である。これらの土坑の時期を推定するのは難しいが、

3区16号土坑は4号住居と重複し、遺構検出時および土層断面の観察から、9世紀後半と推定される4号住居よ

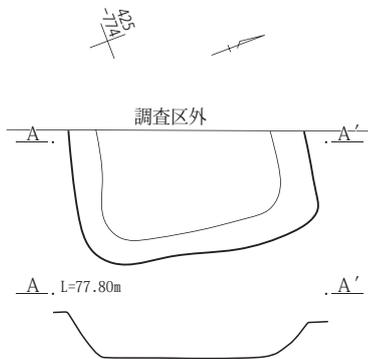
りも新しい。また、3区19号土坑は7号住居と重複し、7世紀後半と推定される7号住居よりも新しい。

3区17号土坑

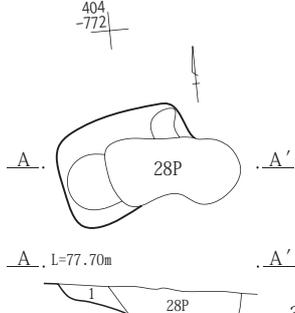


3区17号土坑 A-A'
1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい褐灰色土を多量、焼土・黒色粘質土ブロックを少量含む。

3区5号土坑

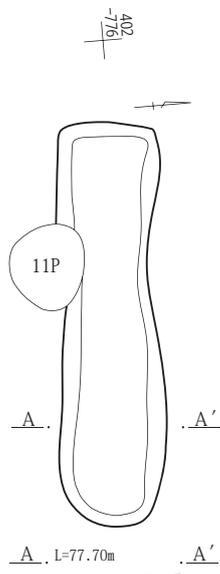


3区9号土坑

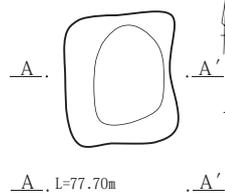


3区9号土坑 A-A'
1 にぶい褐色土 7.5YR5/3 褐灰色土・灰褐色土を多量に含む。

3区26号土坑

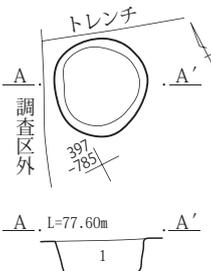


3区8号土坑



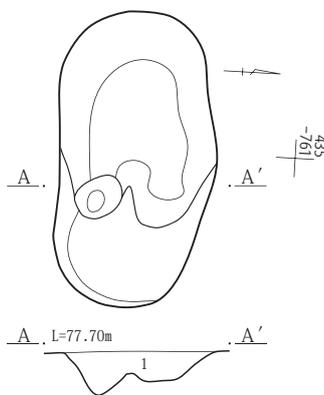
3区8号土坑 A-A'
1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量に、焼土・黒色粘質土ブロックを少量含む。
2 灰褐色土 5YR4/1 褐灰色土を多量に含む。

3区30号土坑



3区30号土坑 A-A'
1 褐色土 10YR4/1 焼土粒を少量含む。

2区4号土坑

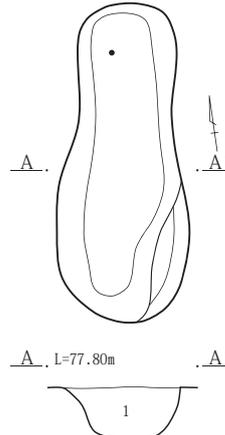


2区4号土坑 A-A'
1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土・黄褐色土を多量、黒褐色粘質土ブロックを少量、炭化物・焼土を微量に含む。

3区26号土坑 A-A'

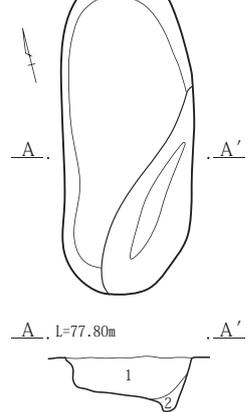
1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量、焼土・黒色粘質土を少量、黄褐色砂質土・褐灰色砂質土を部分的に集中して含む。

3区24号土坑



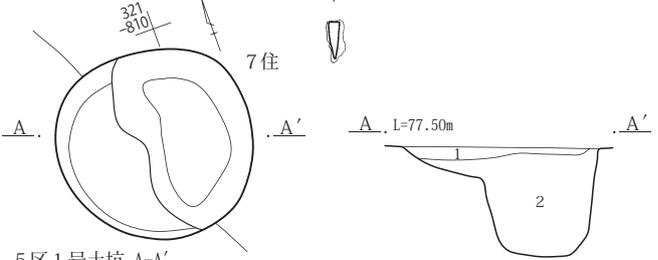
3区24号土坑 A-A'
1 褐色土 7.5YR4/3 灰褐色土・にぶい褐灰色土・焼土を少量含む。

3区25号土坑



3区25号土坑 A-A'
1 褐色土 7.5YR4/3 褐灰色土・にぶい黄褐色土・黒色粘質土ブロックを少量、焼土を微量含む。
2 黄褐色砂質土 10YR5/6 褐灰色砂質土を多量に含む。

5区1号土坑

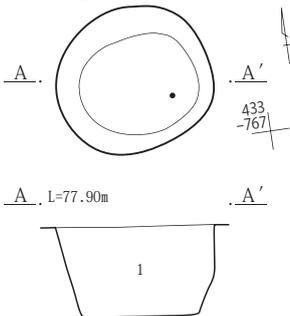


5区1号土坑 A-A'
1 明黄褐色土 10YR6/6 白色軽石を多量、黒褐色土を微量に含む。
2 褐色土 7.5YR4/4 褐灰色土を多量、黒褐色土・白色軽石を少量、焼土を微量に含む。

0 1:40 1m

第180図 2区4号・3区5号・8号・9号・17号・18号・24号～26号・30号・5区1号土坑と3区8号・25号土坑出土遺物

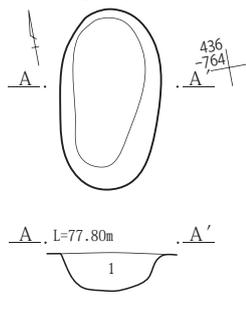
2区2号土坑



2区2号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 灰褐色土を多量、黒褐色粘質土ブロックを少量含む。

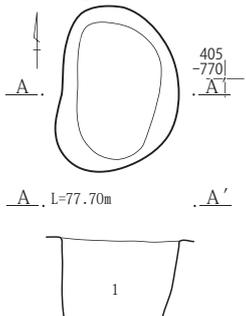
2区3号土坑



2区3号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量、黒褐色粘質土ブロック・焼土を少量含む。

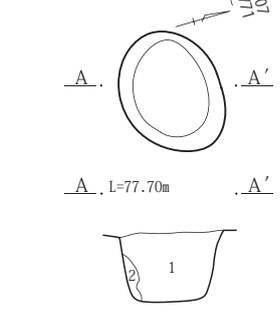
3区10号土坑



3区10号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量に含む洪水による土。焼土・黒色粘質土ブロックを微量含む。

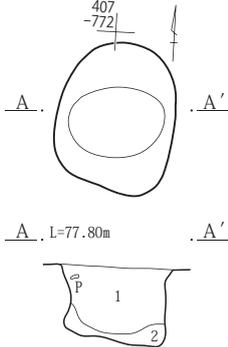
3区12号土坑



3区12号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量に含む洪水による土。黒色粘質土ブロック・オレンジ色軽石少量含む。
2 黒色粘質土 7.5YR2/1 焼土を少量含む。

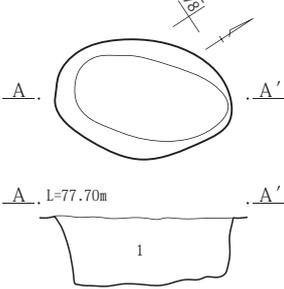
3区13号土坑



3区13号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量に含む洪水による土。焼土・黒褐色粘質土ブロック少量含む。
2 黒色粘質土 7.5YR2/1 焼土を少量含む。

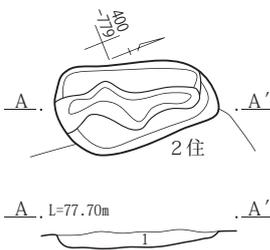
3区14号土坑



3区14号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい褐色土・褐灰色土を多量に含む洪水による土。焼土・黒褐色粘質土ブロック少量含む。

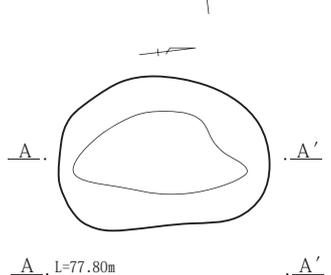
3区15号土坑



3区15号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい褐色土・灰・炭化物を多量に含む洪水による土。焼土を少量含む。

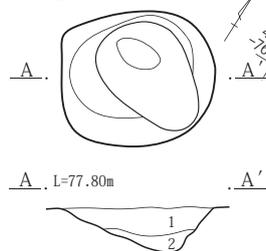
3区20号土坑



3区20号土坑 A-A'

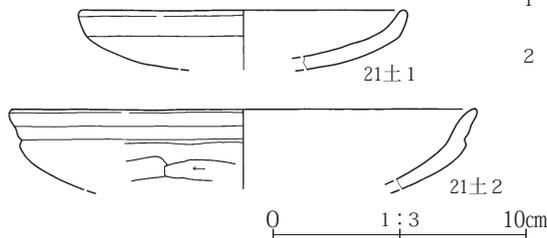
1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土・にぶい褐色砂質土・焼土を多量に含む。
2 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 褐灰色砂質土を多量に含む。

3区21号土坑

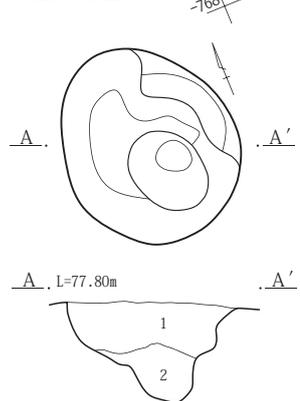


3区21号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量、橙色軽石・焼土を少量含む。
2 にぶい褐色土 7.5YR5/3 褐灰色土を多量に含む。



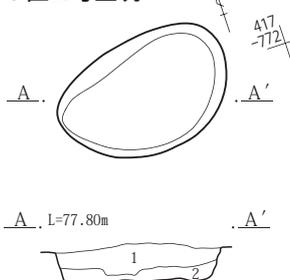
3区22号土坑



3区22号土坑 A-A'

1 にぶい褐色土 7.5YR5/3 褐灰色土を多量、焼土を少量含む。
2 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色粘質土・黒色粘質土ブロック・焼土を少量含む。

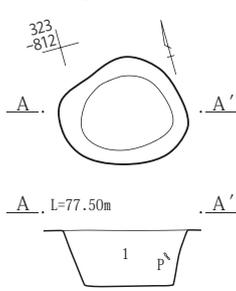
3区23号土坑



3区23号土坑 A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土を多量、炭化物を少量含む。
2 灰褐色土 7.5YR4/2 焼土を少量含む。

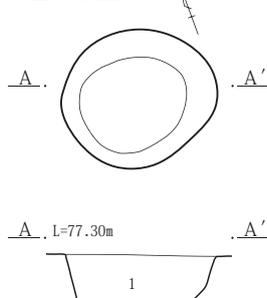
5区2号土坑



5区2号土坑 A-A'

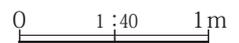
1 暗褐色土 10YR3/3 焼土を含む。

5区4号土坑



5区4号土坑 A-A'

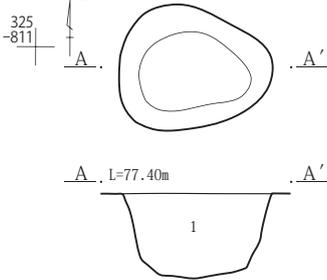
1 灰褐色土 7.5YR4/2 浅黄色土を多量、黒褐色土・焼土・炭化物を少量含む。土器を含む。



第181図 2区2号・3号・3区10号・12号・13号～15号・20号～23号・5区2号・4号土坑と3区21号土坑出土遺物

第4章 関遺跡の調査

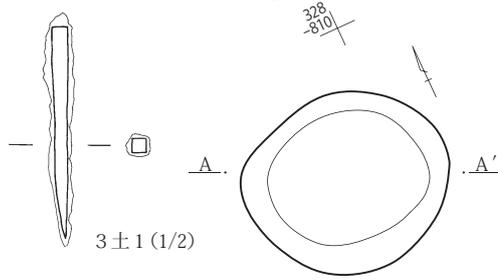
5区3号土坑



5区3号土坑 A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3
白色軽石を少量、浅黄色土・
焼土・炭化物を微量含む。

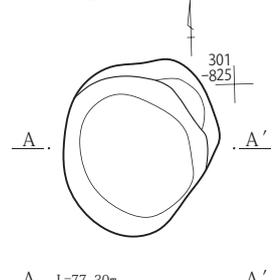
5区5号土坑



5区5号土坑 A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 浅黄色土を少量、
白色軽石・焼土を微量含む。

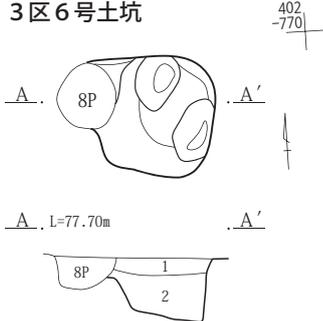
6区1号土坑



5区6号土坑 A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 灰褐色土・浅黄
色土を少量、焼土・白色軽石・炭化物を微量
含む。

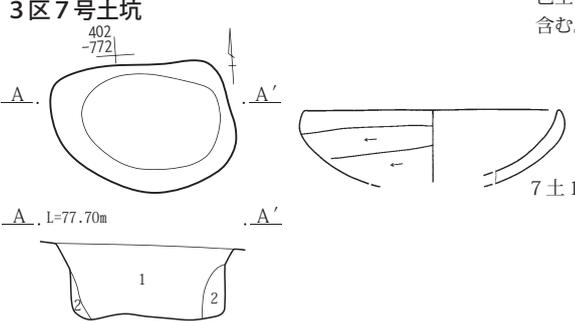
3区6号土坑



3区6号土坑 A-A'

1 褐色土 10YR4/4 焼土を微量に含む。
2 にぶい黄褐色土 10YR6/3 焼土を微量に含む。2 黒褐色土
下部は砂質土。

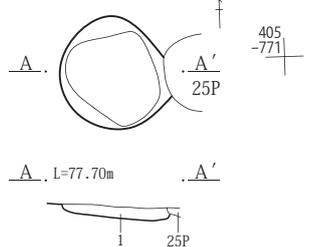
3区7号土坑



3区7号土坑 A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土を含む。

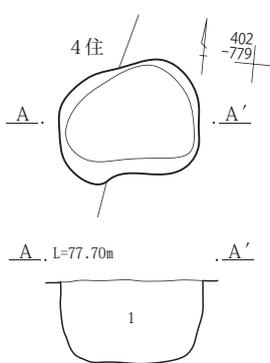
3区11号土坑



3区 11号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を多量に含む洪水に
よる土。焼土・黒色粘質土ブロックを微量含む。

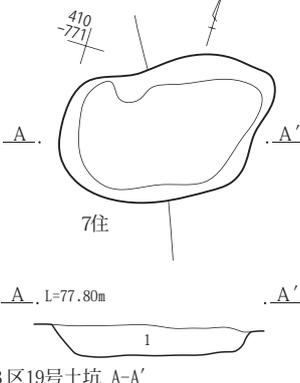
3区16号土坑



3区16号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土・にぶい
褐灰色土を多量、焼土を微量含む。

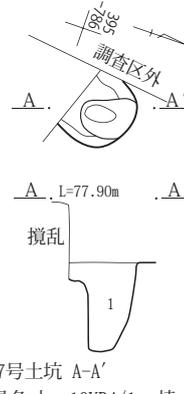
3区19号土坑



3区19号土坑 A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土を
多量、焼土・黒色粘質土ブロック
を微量含む。

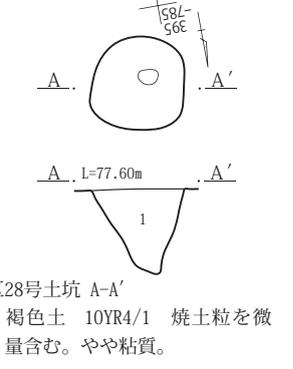
3区27号土坑



3区27号土坑 A-A'

1 褐色土 10YR4/1 焼
土粒を微量含む。

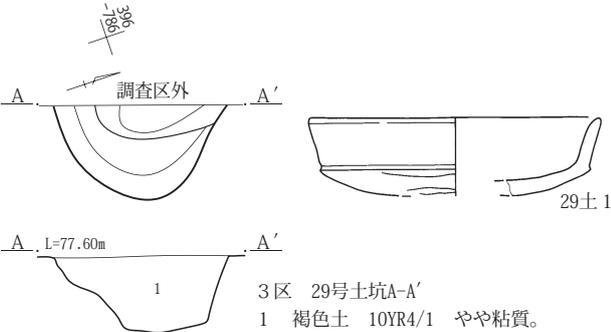
3区28号土坑



3区28号土坑 A-A'

1 褐色土 10YR4/1 焼土粒を微
量含む。やや粘質。

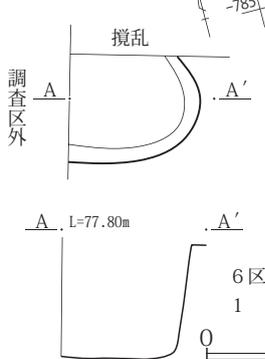
3区29号土坑



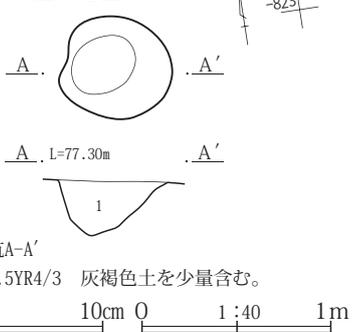
3区 29号土坑A-A'

1 褐色土 10YR4/1 やや粘質。

4区4号土坑



6区2号土坑



6区 2号土坑A-A'

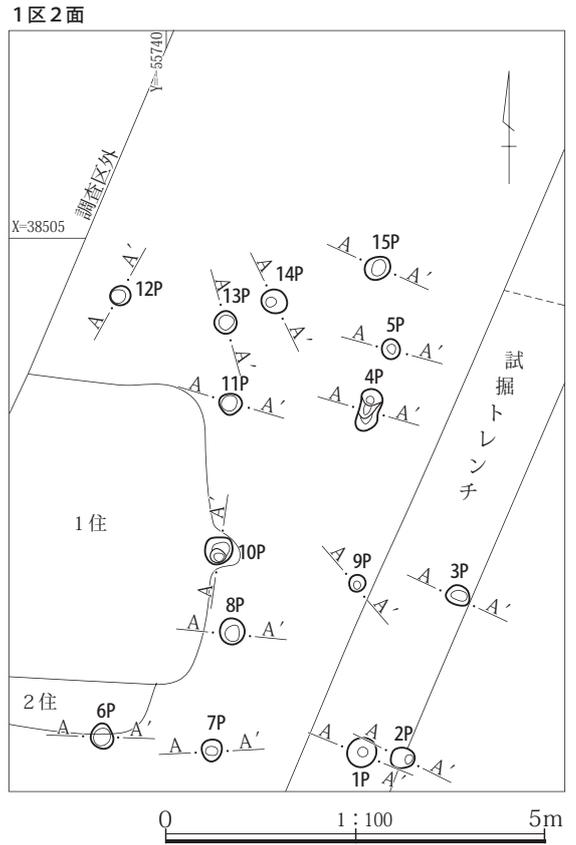
1 褐色土 7.5YR4/3 灰褐色土を少量含む。

第182図 3区6号・7号・11号・16号・19号・27号～29号 4区4号・5区3号・5号・6区1号・2号土坑と
3区7号・28号・29号・5区3号土坑出土遺物

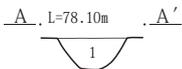
8. ピット(第183～193図 PL.97・121)

ピットは108基検出した。いくつかのまとまりを持ちながら、6区を除く全ての調査区に分布している。特に、3区および5区中央部に集中している。整理作業にあたり、位置や間隔、埋没土の特徴から、掘立柱建物や柵になるかどうか再検討を行った。その結果、3棟の掘立柱建物と1列の柵を認識した。掘立柱建物や柵にならなかったピット108基についてここで取り扱った。

各ピットの規模および出土遺物点数については、263～268頁に示す。出土遺物は土師器と須恵器が大部分で、いずれも埋没土から出土した。このうち、時期や器形がわかるものを図示した。これらのピットの時期は遺構の重複や埋没土の特徴から、竪穴住居よりも新しいと考えられるが、詳細は不明である。

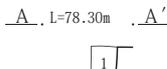


1区1号ピット



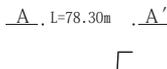
1区1号ピット A-A'
1 暗褐色土 砂質。焼土を含む。

1区2号ピット



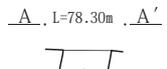
1区2号ピット A-A'
1 暗褐色土 砂質。焼土を含む。

1区3号ピット



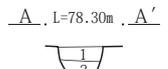
1区3号ピット A-A'
1 暗褐色土 砂質。焼土を含む。

1区4号ピット



1区4号ピット A-A'
1 暗褐色土 青灰色砂を多量に含む。

1区5号ピット

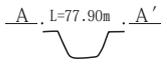


1区5号ピット A-A'
1 青灰色砂 炭化物・焼土を含む。
2 暗褐色砂 炭化物・焼土を含む。

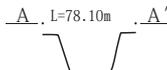
1区6号ピット



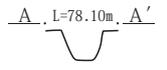
1区7号ピット



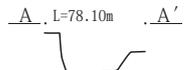
1区8号ピット



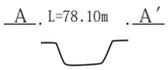
1区9号ピット



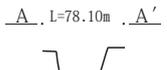
1区10号ピット



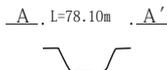
1区11号ピット



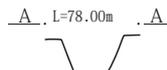
1区12号ピット



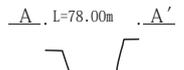
1区13号ピット



1区14号ピット

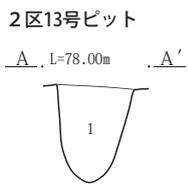
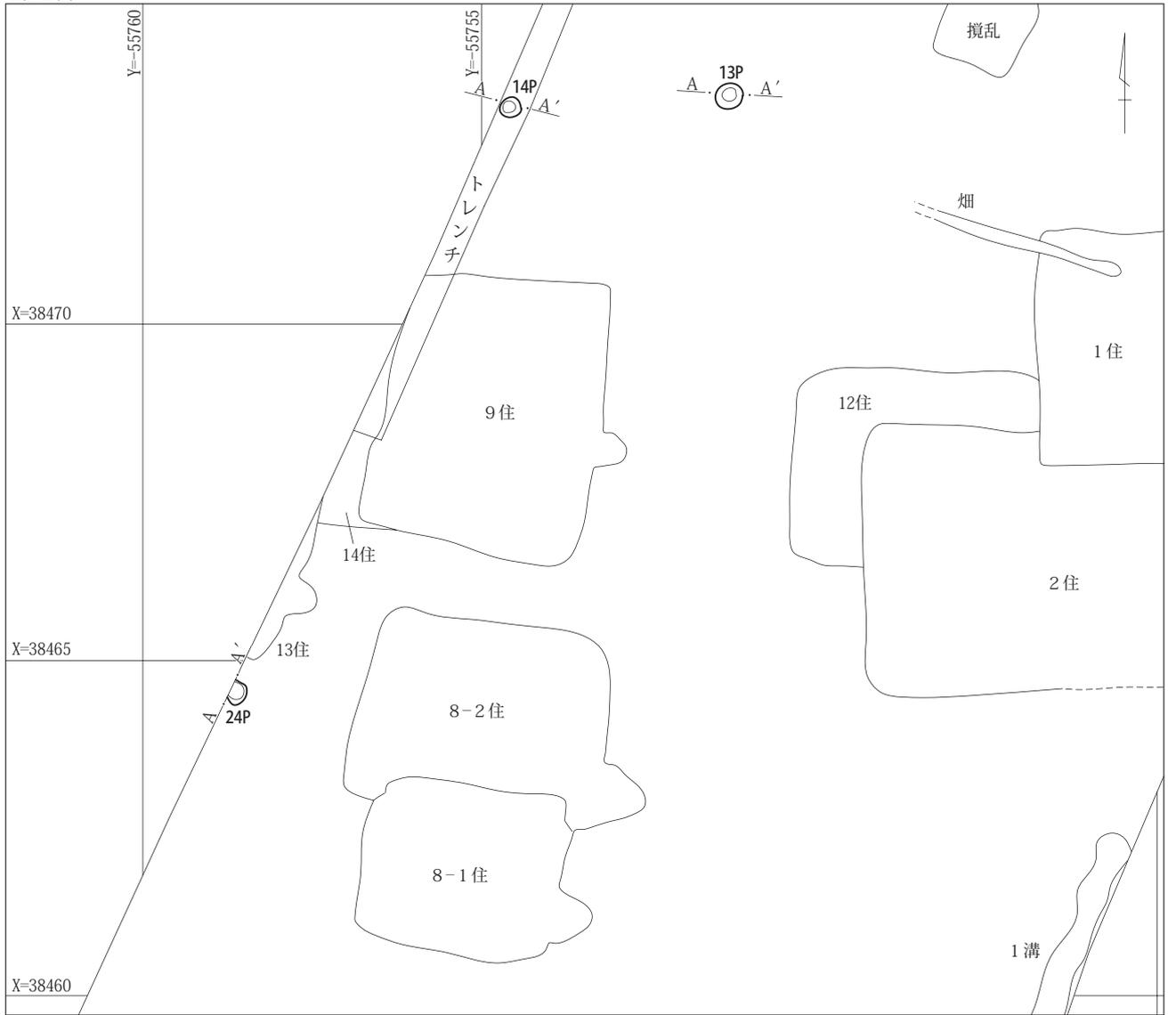


1区15号ピット



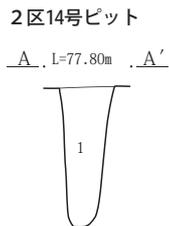
第183図 1区ピット全体図と1号～15号ピット土層断面

2区2面



2区13号ピット A-A'

1 褐灰色土 5YR5/1 褐色土を多量、黒褐色粘質土ブロックを少量、明褐色土を微量含む。



2区14号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土・褐色土・黒褐色粘質土ブロックを少量含む。



2区24号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 黄褐色土を多量、灰褐色土を少量含む。

2 黒褐色土 5YR3/1 黄褐色土を少量含む。

0 1:100 5m

0 1:40 1m

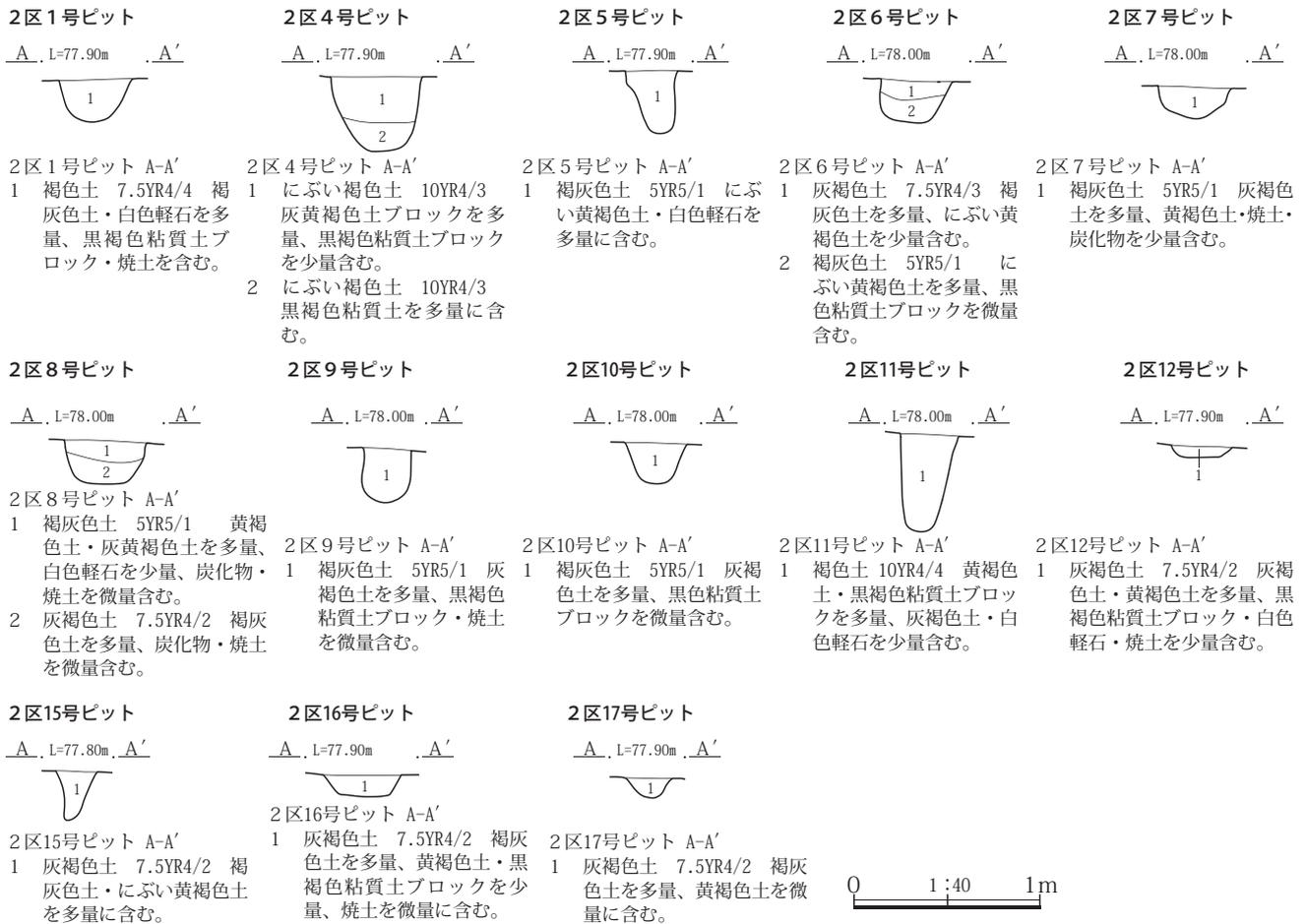
第184図 2区ピット全体図(1)と13号・14号・24号ピット土層断面

2区2面

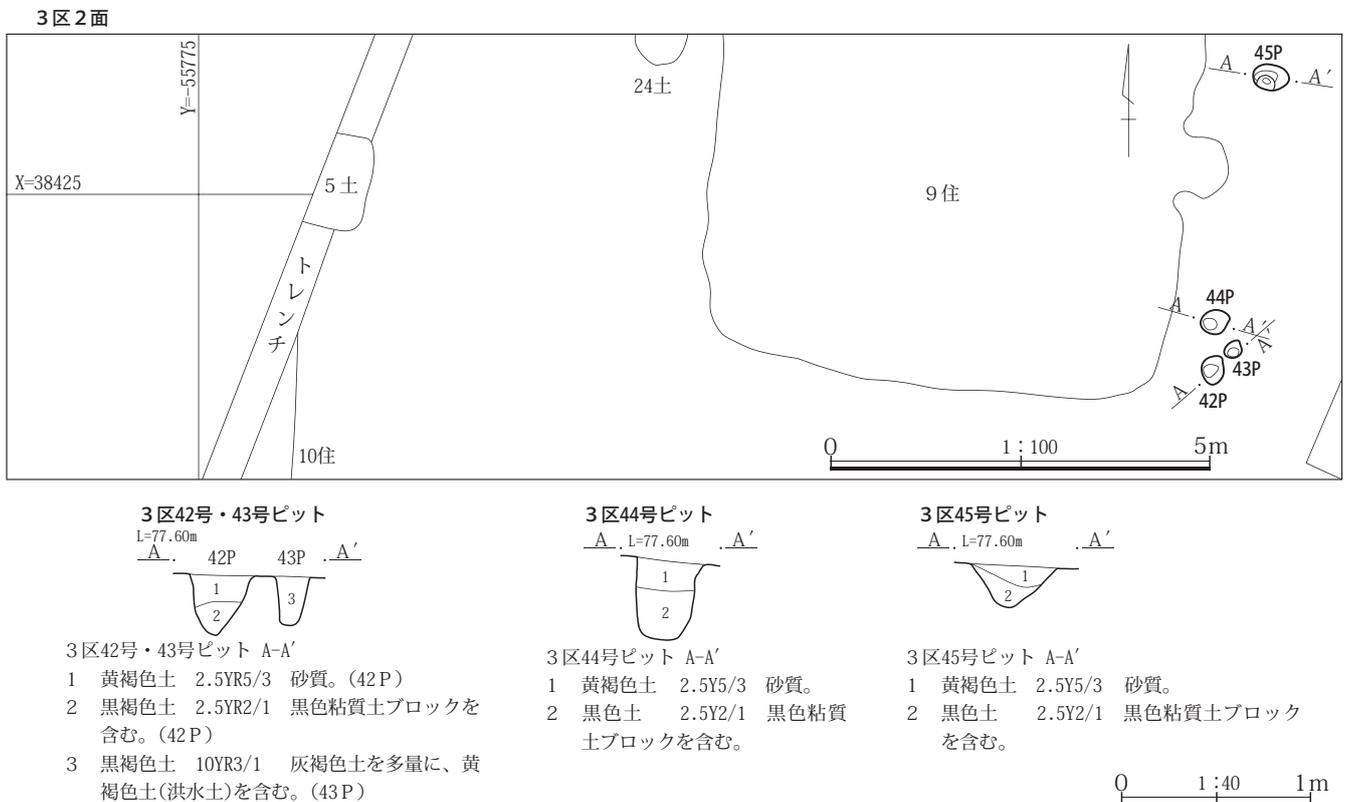


第185図 2区ピット全体図(2)

第4章 関遺跡の調査

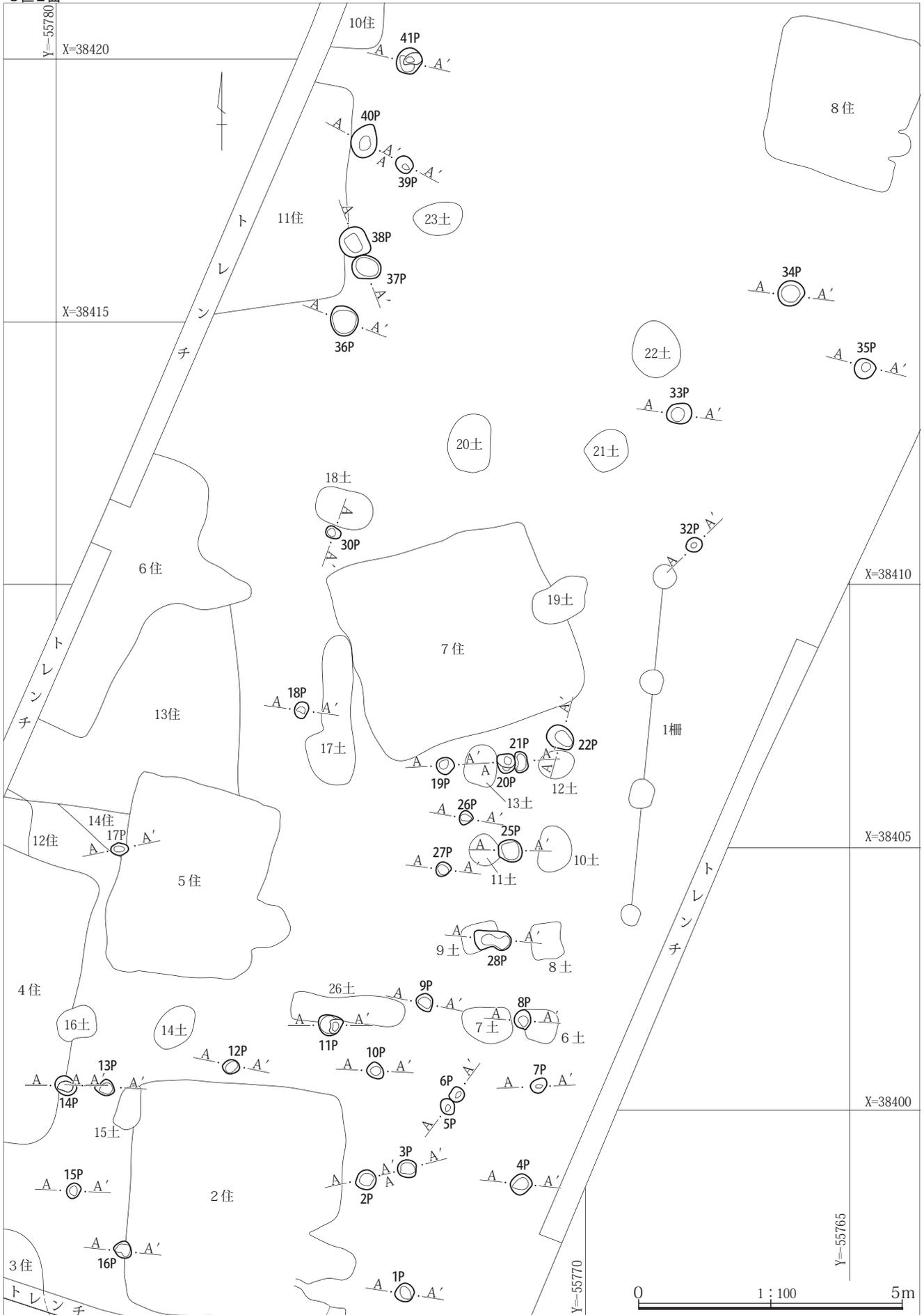


第186図 2区1号・4号～12号・15号～17号ピット土層断面



第187図 3区ピット全体図(1)と42号～45号ピット土層断面

3区2面



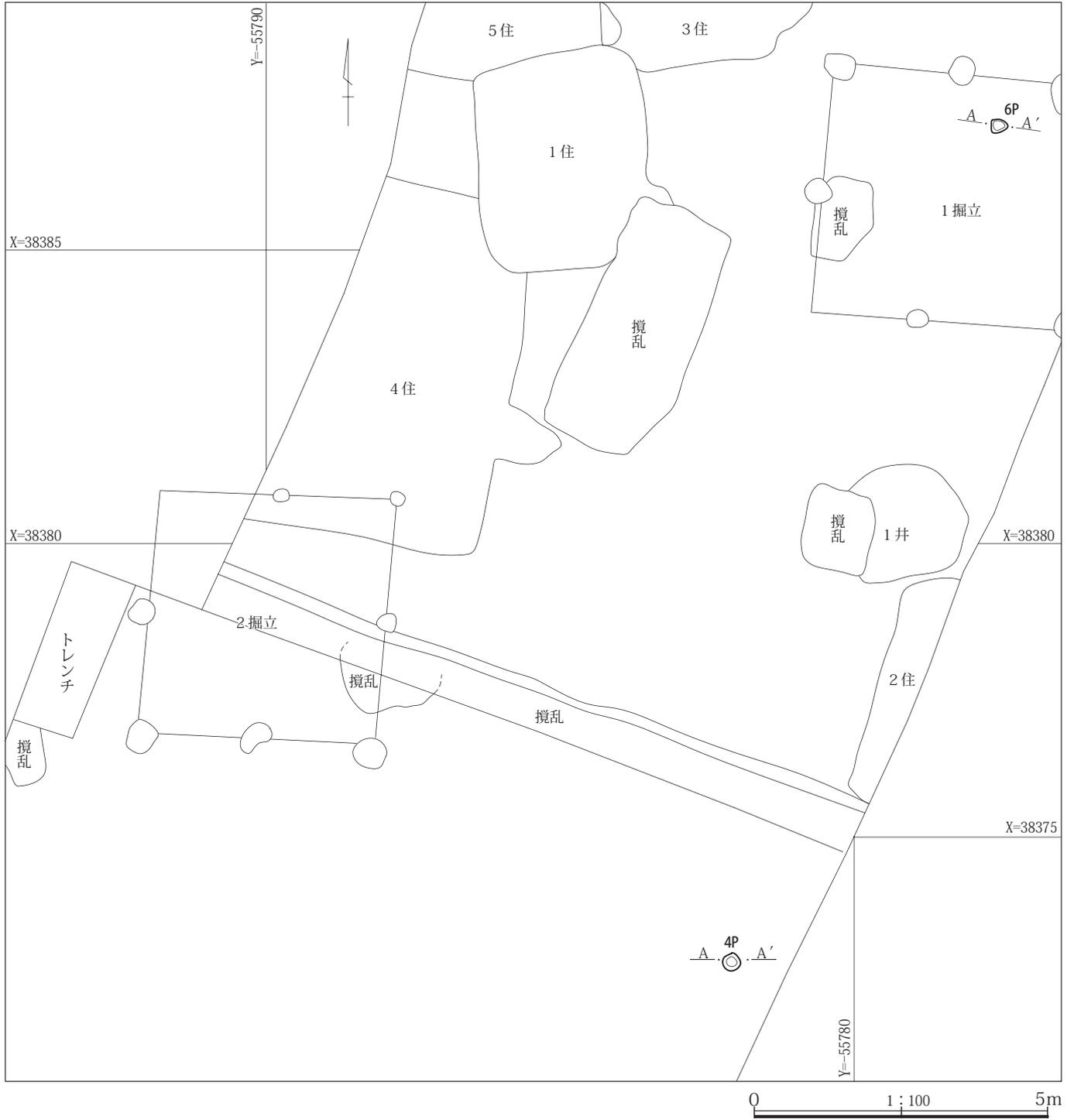
第188図 3区ピット全体図(2)

第4章 関遺跡の調査



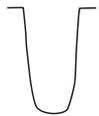
第189図 3区1号～22号・25号～28号・30号・32号～41号ピット土層断面

4区2面



4区4号ピット

A, L=77.90m, A'



4区6号ピット

A, L=77.50m, A'



0 1:40 1m

第190図 4区ピット全体図と4号・6号ピット土層断面

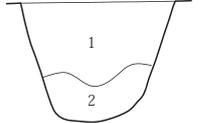
5区2面



5区33号ピット
A, L=77.60m A'

5区33号ピット A-A'
1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を含む。

5区34号ピット
A, L=77.60m A'

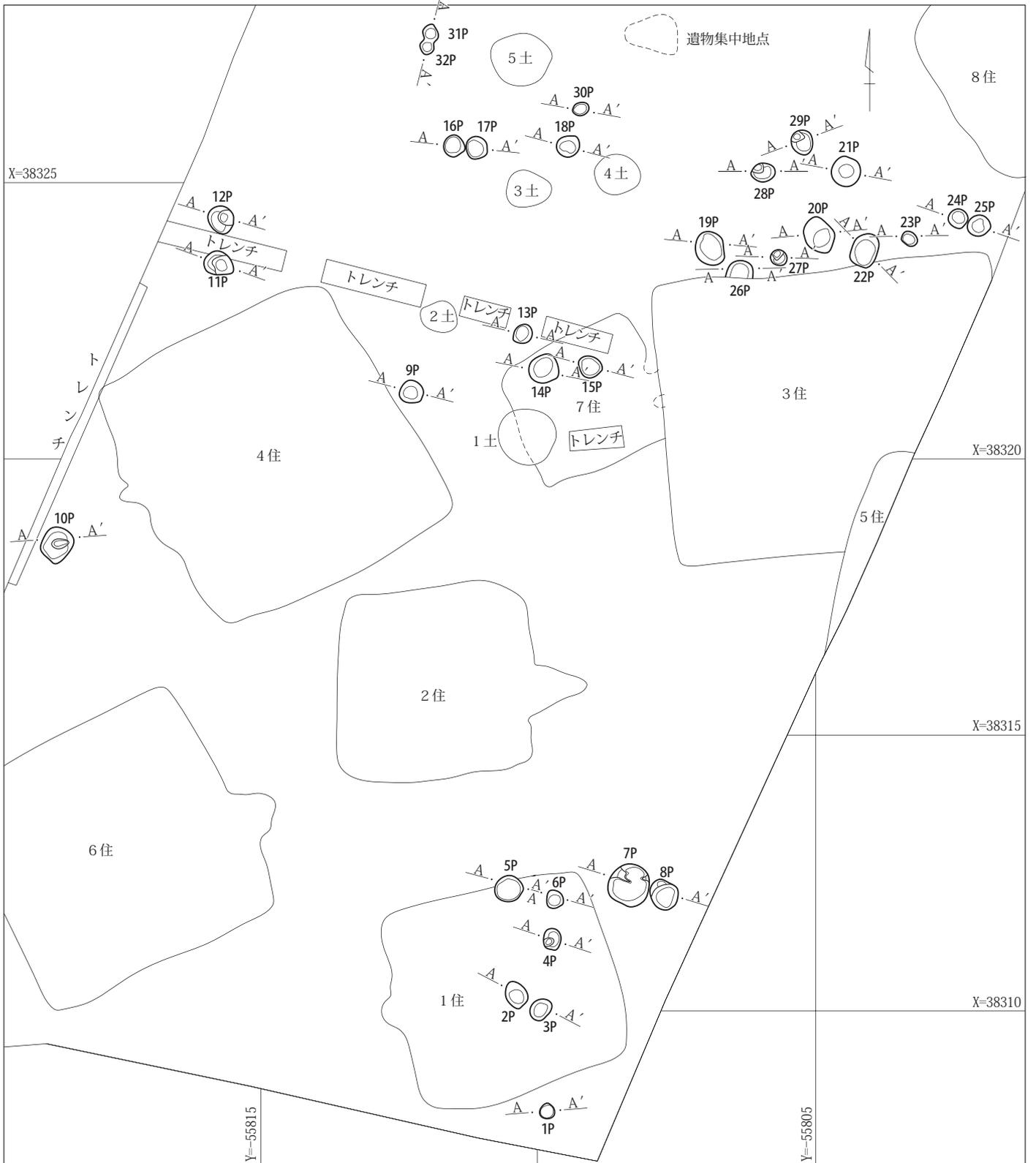


5区34号ピット A-A'
1 褐色土 10YR4/4 焼土・炭化物を少量、黒褐色土・白色軽石を微量含む。
2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 暗褐色土を多量、焼土・炭化物を微量含む。

0 1:40 1m

第191図 5区ピット全体図(1)と33号・34号ピット土層断面

5区2面



第192図 5区ピット全体図(2)

第4章 関遺跡の調査

5区1号ピット

A, L=77.40m .A'

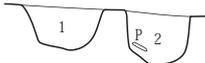


5区1号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい褐色土を多量、褐灰色土・焼土を微量に含む。

5区2号・3号ピット

L=77.40m 2P 3P .A'



5区2号・3号ピット A-A'

1 にぶい褐色土 7.5YR5/3 灰褐色土を多量に含む。(2P)
2 黒褐色土 5YR3/1 にぶい褐色土を多量に含む。(3P)

5区4号ピット

A, L=77.50m .A'



5区4号ピット A-A'

1 にぶい褐色土 7.5YR5/3 灰褐色土を多量、焼土を微量に含む。

5区5号ピット

A, L=77.50m .A'



5区5号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい褐色土を多量、黒褐色土・焼土を少量含む。

5区6号ピット

A, L=77.50m .A'



5区6号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい黄褐色土を多量、白色軽石・焼土・炭化物を微量に含む。

5区7号・8号ピット

L=77.40m 7P 8P .A'



5区7号・8号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい黄褐色土・褐色土を多量、焼土・炭化物を微量に含む。(7P)
2 黒褐色土 5YR3/1 白色軽石を少量含む。(7P)
3 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい黄褐色土を多量に含む。(8P)

5区9号ピット

A, L=77.50m .A'



5区9号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 にぶい黄褐色土・焼土を少量、炭化物を微量に含む。

5区10号ピット

A, L=77.50m .A'



5区10号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 明黄褐色土・焼土・白色軽石を微量に含む。

5区11号ピット

A, L=77.50m .A'



5区11号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 浅黄色土・暗褐色土を少量、焼土・炭化物を微量含む。

5区12号ピット

A, L=77.50m .A'



5区12号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR5/4 暗褐色土を多量、浅黄色土・炭化物を少量、焼土を微量含む。

5区13号ピット

A, L=77.50m .A'



5区13号ピット A-A'

1 褐色土 10YR4/6 焼土を含む。

5区14号ピット

A, L=77.50m .A'



5区14号ピット A-A'

1 暗褐色土 10YR3/3 黒色土を含む。

5区15号ピット

A, L=77.50m .A'



5区15号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土・明黄褐色土・白色軽石・焼土を微量含む。

5区16号・17号ピット

L=77.40m 16P 17P .A'



5区16号・17号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 黒褐色土を少量、白色軽石を微量含む。(16P)
2 灰褐色土 7.5YR4/2 黒褐色土・白色軽石・焼土を微量含む。(17P)

5区18号ピット

A, L=77.40m .A'

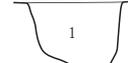


5区18号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 黒褐色土・明黄褐色土を少量、焼土を微量含む。

5区19号ピット

A, L=77.50m .A'



5区19号ピット A-A'

1 褐色土 7.5YR4/4 灰褐色土を少量、明黄褐色土・焼土・白色軽石を微量含む。

5区20号ピット

A, L=77.50m .A'



5区20号ピット A-A'

1 褐色土 7.5YR4/4 灰褐色土を多量、焼土・白色軽石を微量含む。

5区21号ピット

A, L=77.50m .A'



5区21号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰褐色土を多量、焼土を少量、浅黄色土を微量含む。

5区22号ピット

A, L=77.40m .A'



5区22号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 灰褐色土を少量、黒褐色土・浅黄色土を微量含む。

5区23号ピット

A, L=77.40m .A'



5区23号ピット A-A'

1 灰褐色土 7.5YR4/2 褐灰色土・明黄褐色土・黒褐色土を少量含む。

5区24号・25号ピット

L=77.40m 24P 25P .A'



5区24号・25号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土を少量、灰黄褐色土・白色軽石を微量含む。(24P)
2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 明黄褐色土を少量、黒褐色土・焼土を微量含む。(25P)

5区26号ピット

A, L=77.20m .A'



5区26号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土・焼土・白色軽石を少量含む。

5区27号ピット

A, L=77.20m .A'



5区27号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土・白色軽石を少量、焼土を微量含む。

5区28号ピット

A, L=77.30m .A'



5区28号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土を多量、白色軽石・焼土を少量、炭化物を微量含む。

5区29号ピット

A, L=77.30m .A'



5区29号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土・焼土・白色軽石を少量、浅黄色土を微量含む。

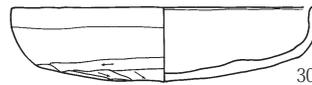
5区30号ピット

A, L=77.30m .A'



5区30号ピット A-A'

1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土を少量、焼土・白色軽石を微量含む。



30ピット 1 (1/3)

5区31号・32号ピット

L=77.30m 31P 32P .A'



0 1:40 1m

第193図 5区1号～32号ピット土層断面と30号ピット出土遺物

9. 遺物集中地点

3区と5区でそれぞれ1か所検出された。これらの遺物集中地点は竪穴住居と遺構検出面が同じである。しかし、規模や遺物出土状況が全く異なり、その形成過程は同一ではないと推定される。3区では、比較的広い範囲から、おびただしい量の遺物が集中して出土した。大部分は土器の破片である。5区では、1㎡に満たない比較的狭い範囲から、土師器杯を中心として重なったような状態で出土した。完形または完形に近い杯が多かった。

3区遺物集中地点(第194～197図 PL.102・121・122)

位置 3区北西部西壁寄り

X=38,415～38,423 Y=-55,767～-55,775

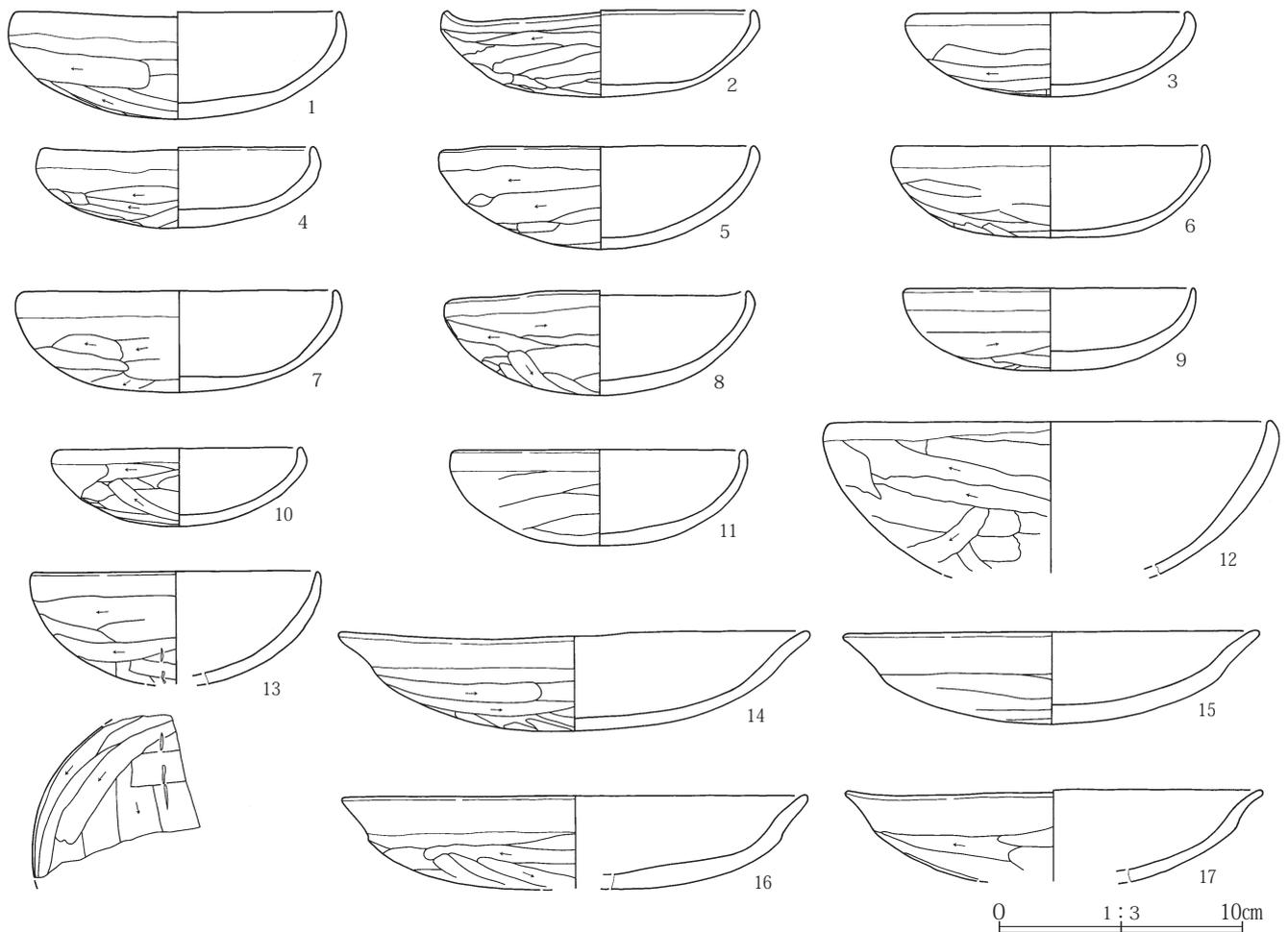
重複 10号住居および23号土坑、37号～41号ピットと重複する。遺構検出時の観察から、23号土坑、37号～

41号ピットの方が古い。10号住居との新旧関係は不明である。

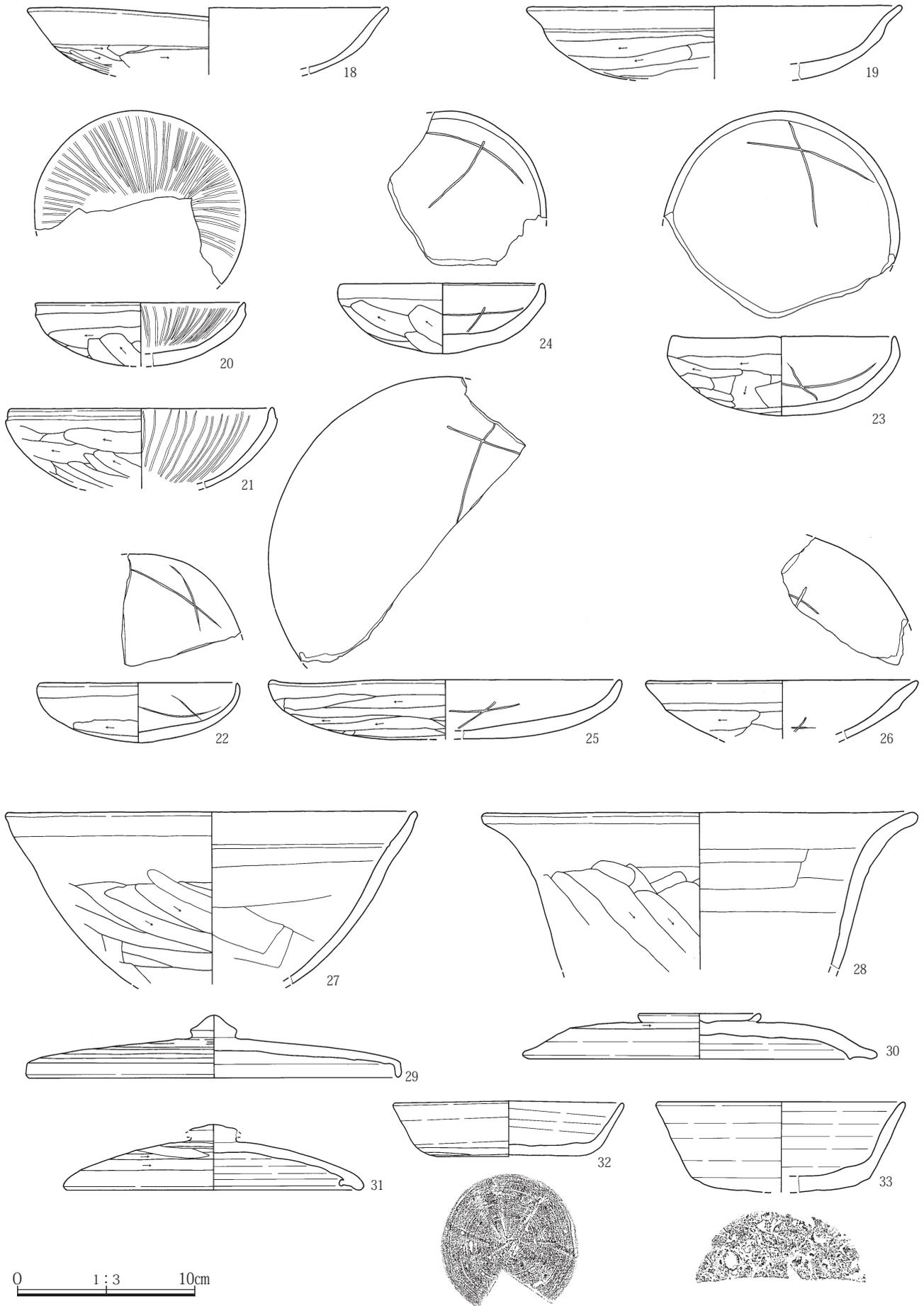
遺物出土状況 約8m×6mの範囲で土師器を中心とした多量の遺物が出土した。大部分は破片で、形状を保った状態のものは少なかった。竪穴住居などの遺構との関連を想定して検出に努めたが、確認することが出来なかったため、遺物集中地点として扱った。土層断面の観察を欠いているため、詳細は不明である。

遺物 土師器5,859点、須恵器76点、近世土器1点、石製品1点出土し、このうち64点を図示した。これらは灰褐色砂質土の中から出土し、土器片が大部分で完形のものはほとんどなかった。出土土器の時期は7世紀後半～8世紀で、8世紀の土器が主体である。

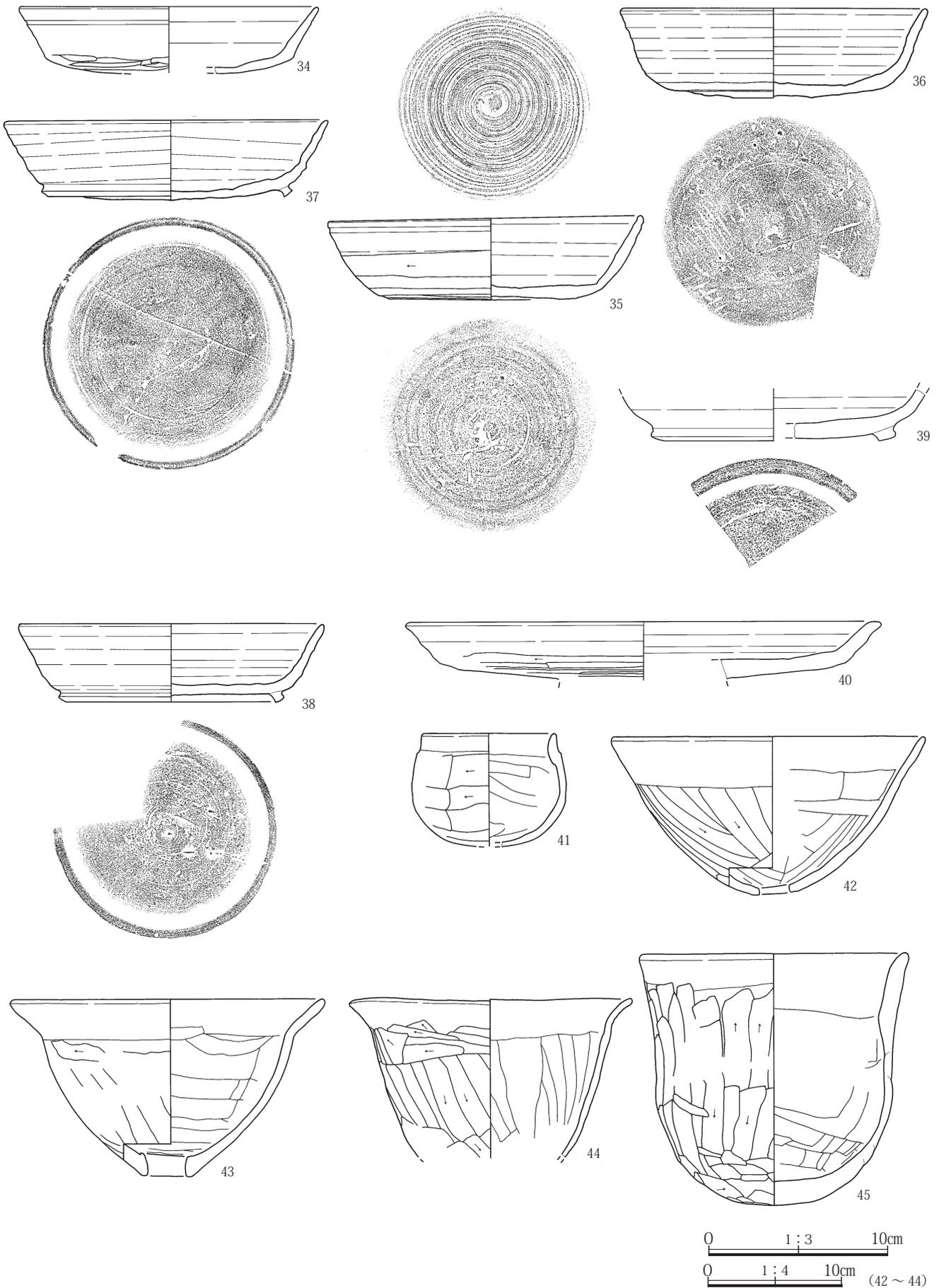
所見 非常に多量の遺物が出土し特徴的である。しかし、土層断面などの記録を欠き、これらの形成過程を明らかにすることができなかった。



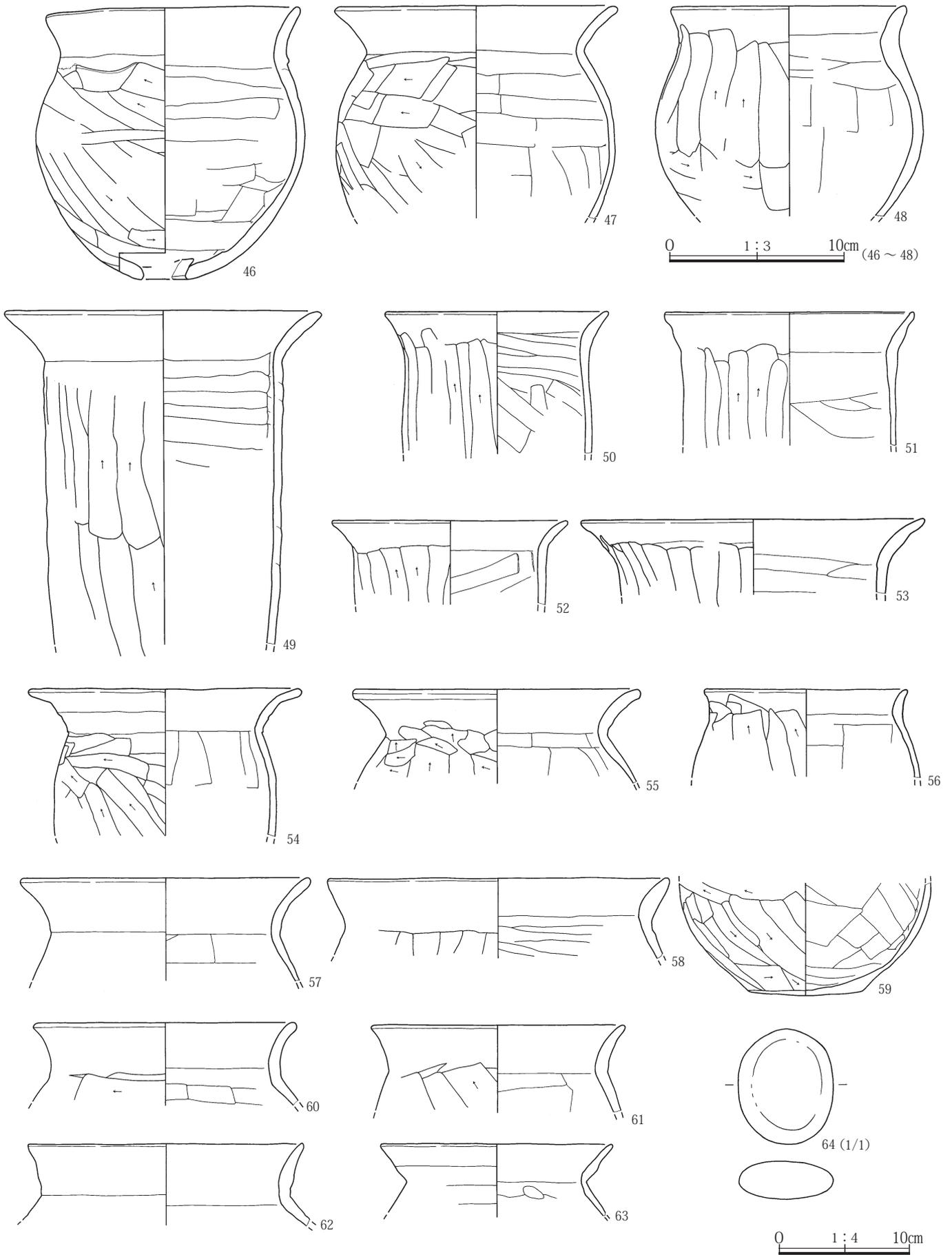
第194図 3区遺物集中地点出土遺物(1)



第195図 3区遺物集中地点出土遺物(2)



第196図 3区遺物集中地点出土遺物(3)



第197図 3区遺物集中地点出土遺物(4)

5区遺物集中地点(第198図 PL.103・123)

位置 5区中央部

X=38,327 ~ 38,329 Y=-55,807 ~ -55,809

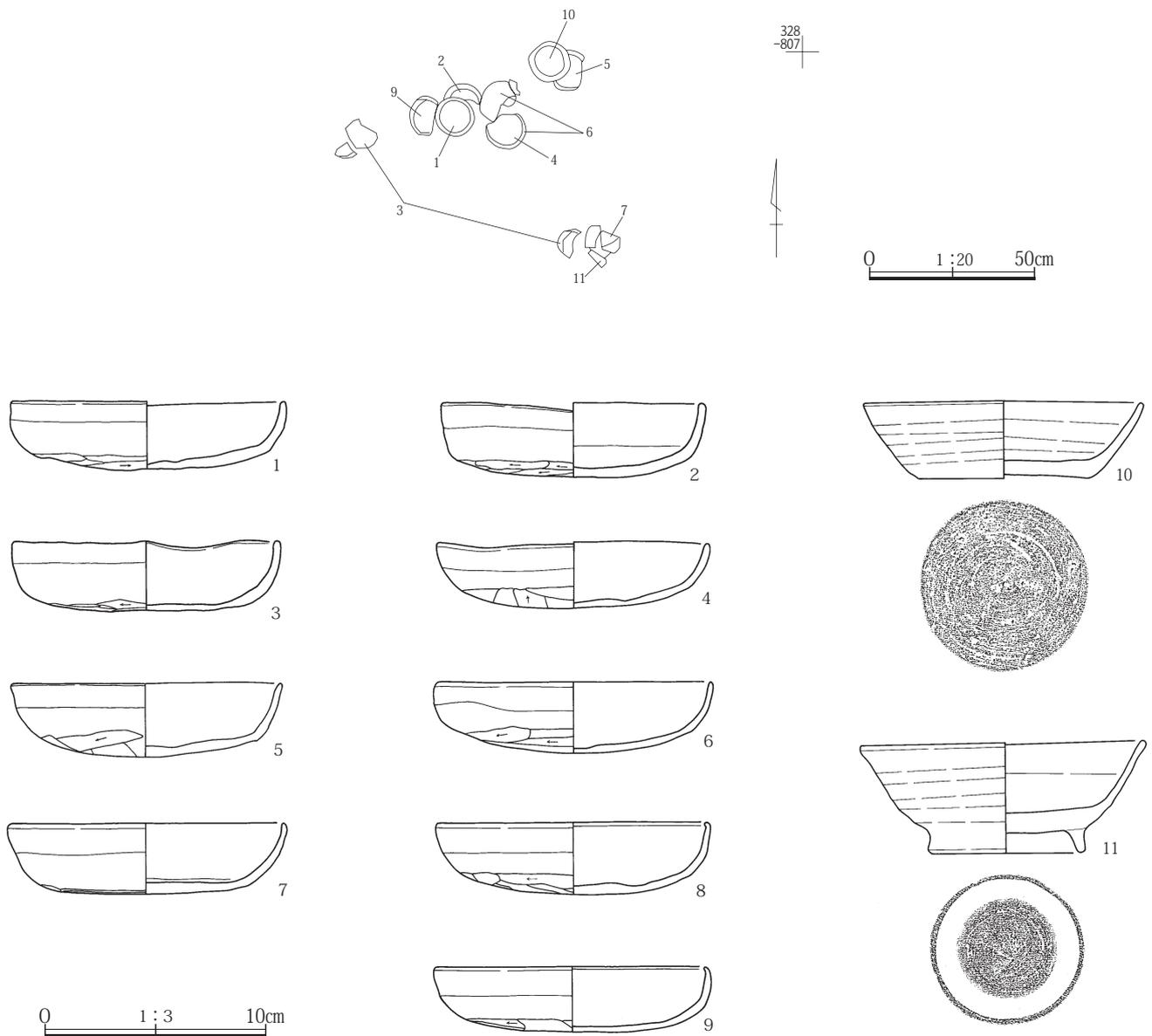
重複 なし

遺物出土状況 約95cm×70cmの範囲に完形や完形に近い土師器杯・須恵器杯が出土した。中には、複数枚の土師器杯が重なった状態で出土したものもある。平面形はほぼ円形で、長径は0.98m、短径0.94mである。竪穴住居等の遺構を想定して検出に努めたが、確認することが出

来なかったため、遺物集中地点として扱った。土層断面の記録を欠いているが、発掘調査時の所見によれば、遺物はAs-C混入黒色土の直上で出土しているという。

遺物と出土状態 土師器33点、須恵器4点が出土し、このうち11点を図示した。これらは灰黄褐色土から出土し、ほぼ完形の土師器杯が多かった。1と2、5と10は重ねられたような状態で出土した。出土土器は8世紀中頃の時期にまとまっている。

所見 遺物の出土状況から祭祀などを予想するが、根拠が乏しく不明である。



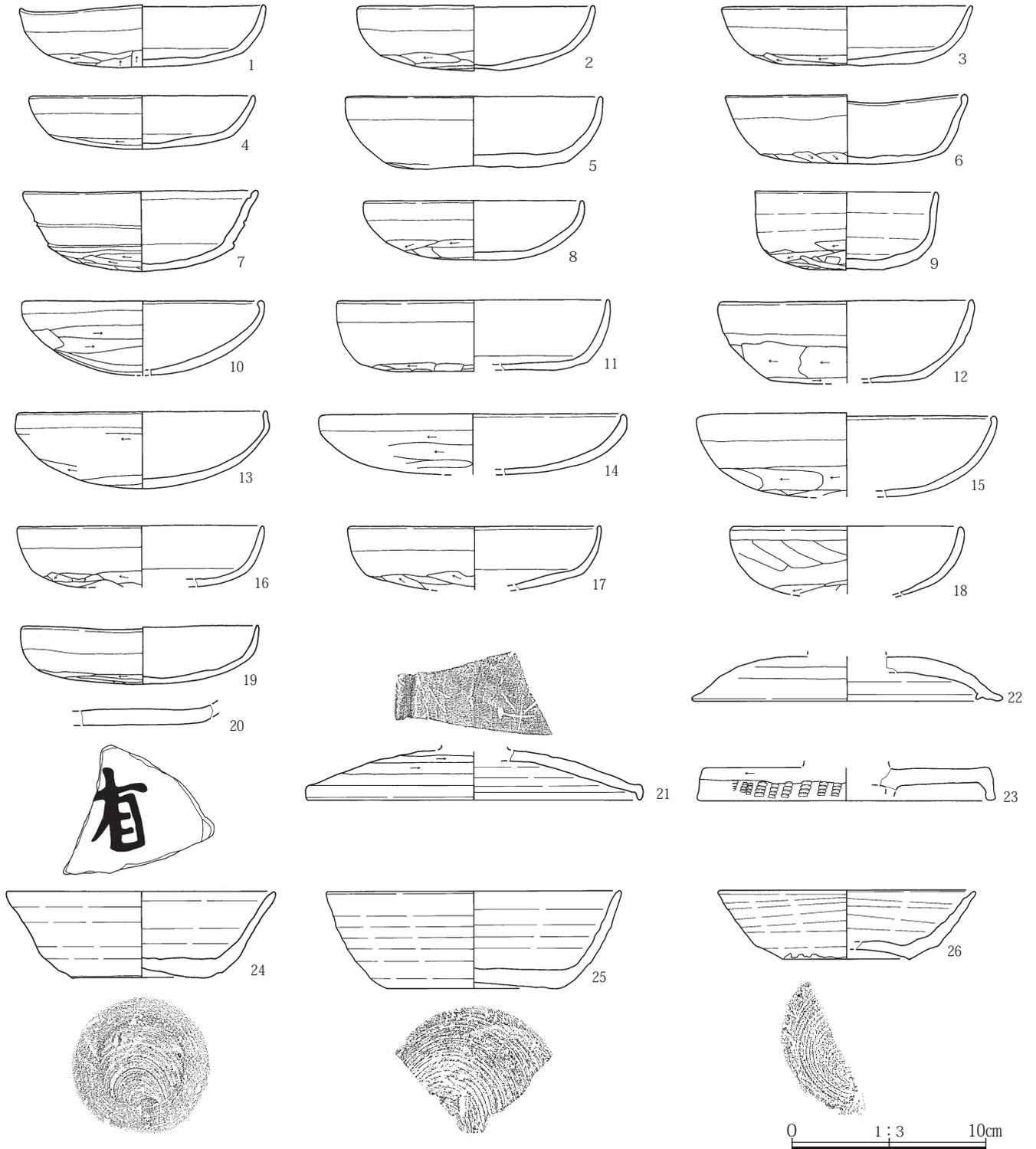
第198図 5区遺物集中地点出土遺物

10. 遺構外から出土した遺物

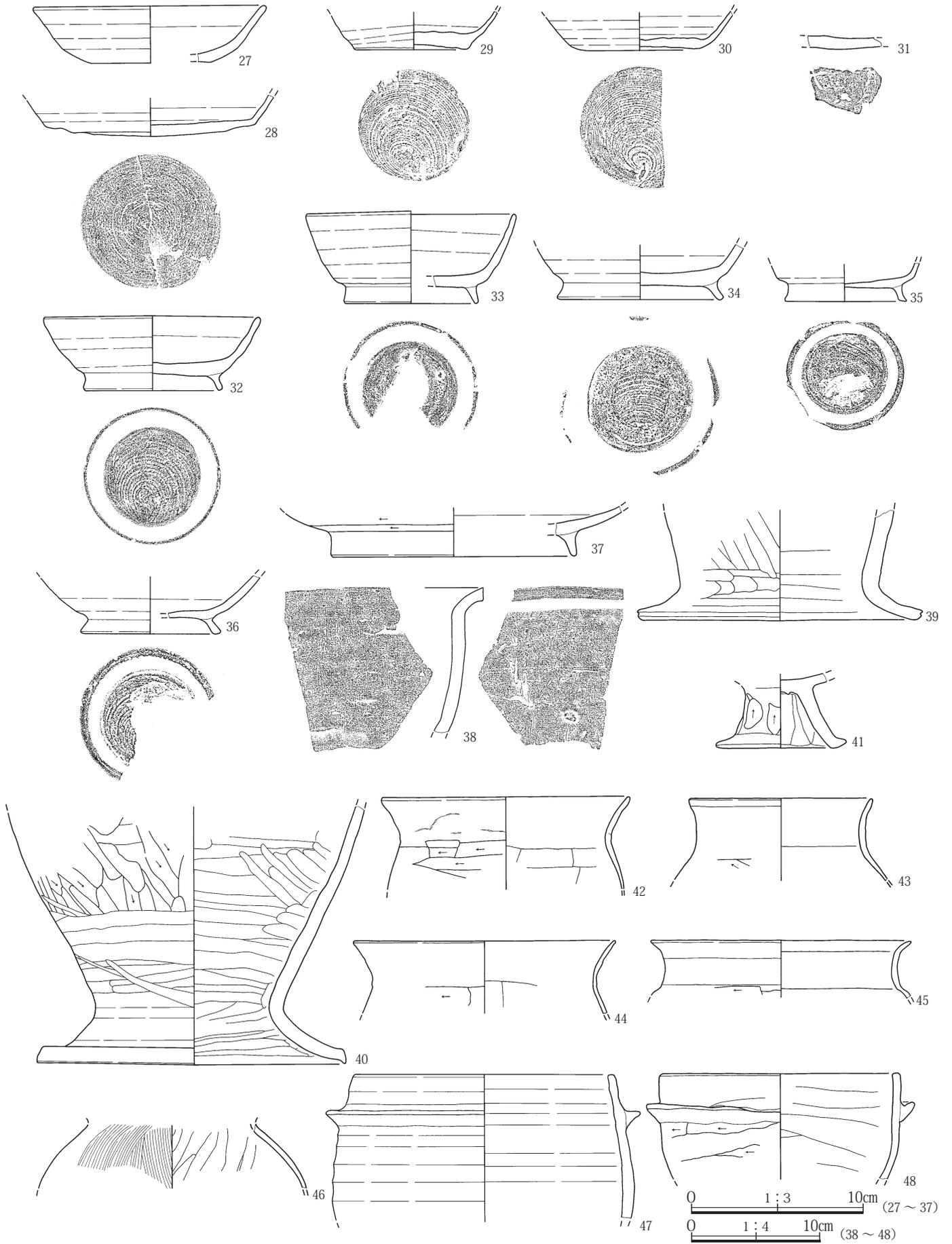
(第199～202図 PL.123・124)

土師器、須恵器、埴輪、土製品、石器、石製品、金属製品が出土し、76点を図示した。2区東部の落ち込みで遺物が多く出土した。土器は6世紀後半から10世紀のも

のが出土しているが、8～9世紀の土器が多く見られる。石器は縄文時代の打製石斧や凹石をはじめ、砥石などが出土した。銚帯鉈尾(65)は第2面の遺構検出作業中に出土したもので、銅製の表金具と鉄製の裏金具が合わさった状態で出土した。表金具と裏金具の間には、土砂を巻き込んだ錆が認められるが、内容物については不明である。



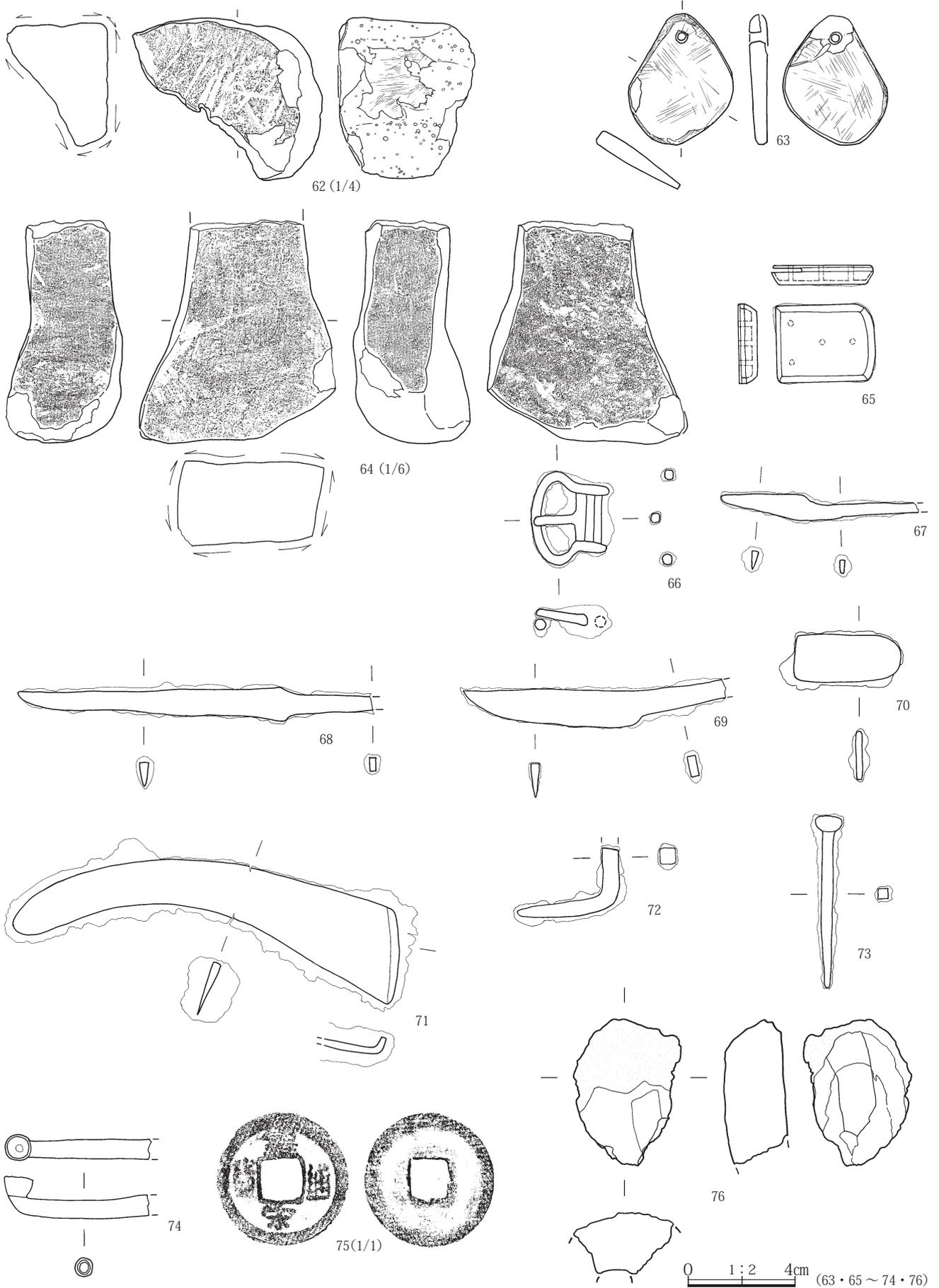
第199図 遺構外出土遺物(1)



第200図 遺構外出土遺物(2)



第201図 遺構外出土遺物(3)



第202図 遺構外出土遺物(4)

第4節 中近世の遺構と遺物(第1面)

1. 概要

中近世の遺構(第1面)は、畑、溝1条、土坑5基、焼土2か所を検出した。畑は一部を除き、ほぼ調査区全体で検出された。これらの畑は畝間の方向や間隔などから、17のまとまりに分けることができた。

2. 畑(付図2)

4区北半および5区中央部から南部を除き調査区全面で検出された。いずれの調査区でも、表土を30～45cm除去し、遺構検出作業を行った際に確認された。畝間の長さや方向・間隔などから、いくつかのまとまりに分けることができる。ここでは、これらのまとまりごとに1号畑、・・・と名称を付けて報告する。2区および4区では畝間の重複を確認し、両区とも3時期に分けられることがわかった。また、出土遺物は区ごとに取り上げているため、どの畑から出土した遺物が特定できない。出土遺物は220頁とPL.124に区ごとにまとめて掲載した。

1区1号畑(第203図 PL.103)

1区南半分で、東西方向の畝間をおよそ16条検出した。1区中央部では散漫だが、南端付近では畝間が概ね等間隔で分布している。東側は調査区外に向かって急に落ち込んでいるため不明であるが、西側はさらに調査区外へ延びる可能性がある。表土を除去した後、遺構検出作業を行った際に、溝状の土色の違いを確認し畑と判断した。土の変色部分はほとんど深さがなく、畝間の底面付近なのか上面の影響を受けた土質の違いなのか判断が困難である。

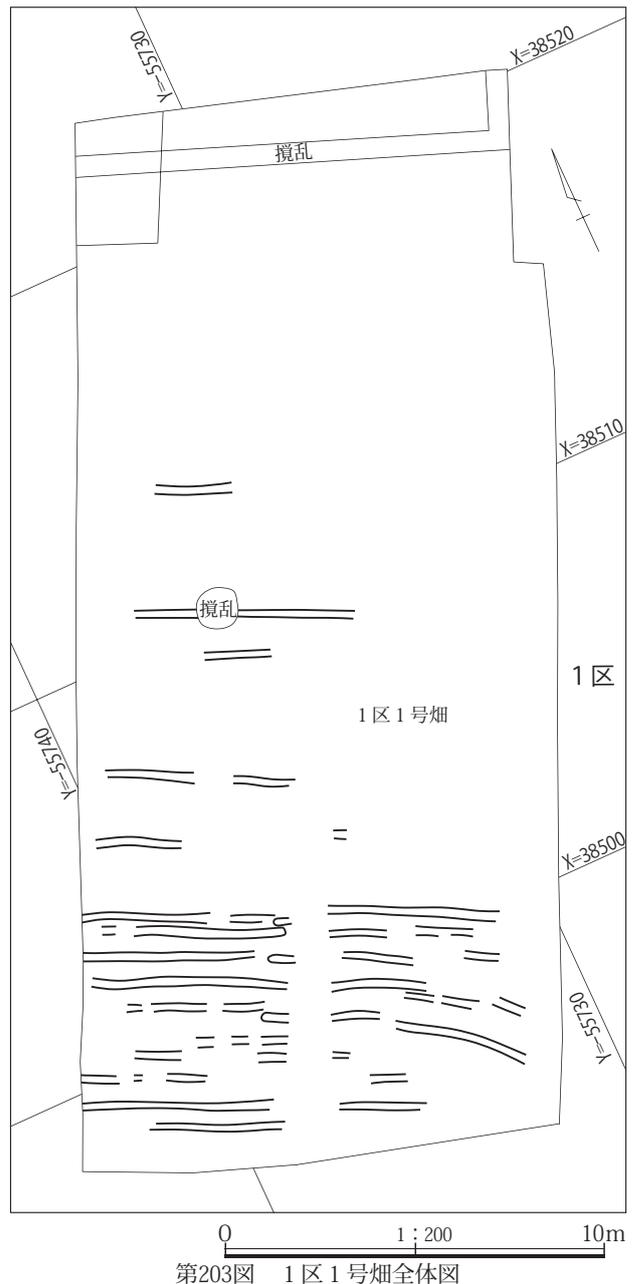
位置 X=38,495～38,515 Y=-55,730～-55,744

重複 なし

規模 残存部分で南北17.3m、東西11.9mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-66°-W

畝間 畝間は途切れた部分が多いが、検出した畝間で最も長いものは約5.0mである。畝間幅は12～27cmで、畝



第203図 1区1号畑全体図

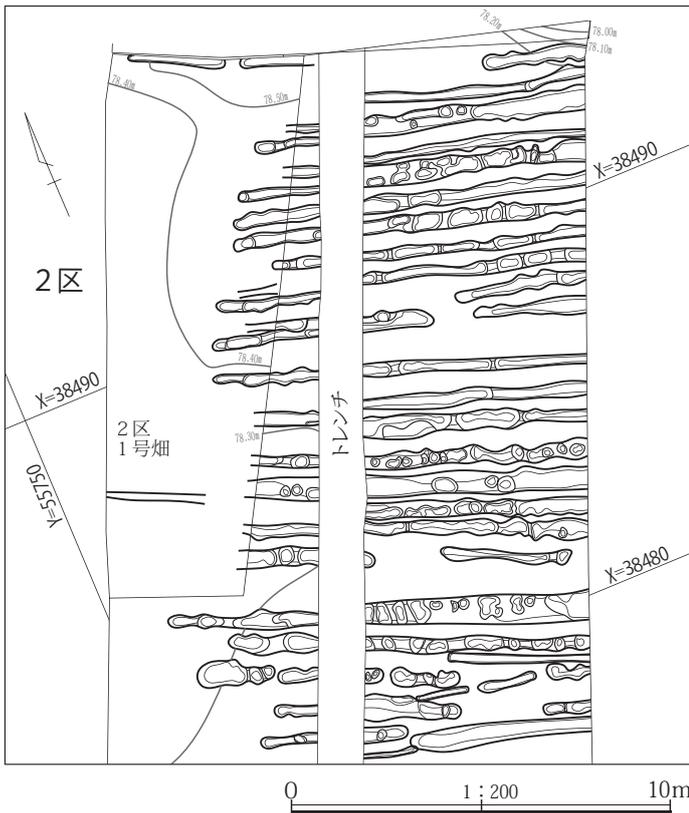
幅は最も密集した南端部で約50～60cmである。埋没土は灰色砂質土である。

所見 発掘調査時の所見によれば、As-B軽石の二次堆積が部分的に検出されている。また、畑確認面で寛永通宝が出土したことなどから、畑の時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

2区1号畑(第204・214図 PL.103)

2区北部で、東西方向の畝間を26条あまり検出した。西側に延びると推定されるが、2区北西部は調査時期が異なり、明らかにすることができなかった。

位置 X=38,476～38,495 Y=-55,732～-55,749



第204図 2区1号畑全体図

重複 なし

規模 残存部分で南北19.7m、東西11.2mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-71°-W

畝間 確認できた最も長い畝間は約11mである。畝間幅は15～79cmである。遺構検出面から畝間底面までの深さは4～40cmである。畝幅は32～150cmであるが、70cm前後のものがほとんどである。

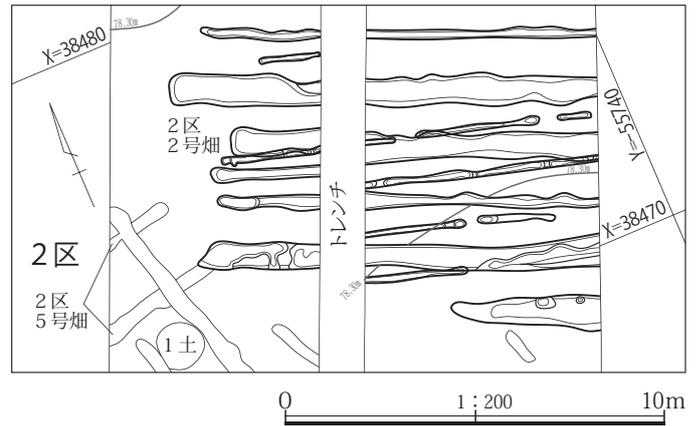
所見 時期を判断する資料が乏しいが、遺構検出面が1区1号畑と同じであることから、同時期中世から近世の畑と考えられる。

2区2号畑(第205・214図)

2区中央部北寄りに位置し、東西方向の畝間を9条あまり検出した。東側は調査区外にさらに延びると推定される。畝間の方向が2区1号畑とほぼ同じであるが、2号畑の方が畝間幅にまとまりがなく、幅をもっていたため、ここでは分けて報告する。

位置 X=38,467～38,479 Y=-55,739～-55,753

重複 2区5号畑と重複するが、切り合っている部分が小さいため新旧関係は不明である。



第205図 2区2号畑全体図

規模 残存部分で南北8.1m、東西11.3mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-68°-W

畝間 確認できた最も長い畝間は11.3mである。畝間幅は幅広のものと幅狭のもの2種類あり、幅広では約80cm、幅狭では20cm前後である。畝間の深さは幅広で10cm以下で、幅狭では10～20cmと幅狭の方が深い傾向にある。畝幅は幅広同士では約1.5m、幅狭同士では1.2mで、両者で異なっている。

所見 畝間幅が広いものと狭いもので、畝間の深さや畝幅が異なることから、これらは時期が異なる可能性が高い。両者の新旧関係は不明である。

2区3号畑(第206・214図 PL.103・104)

2区中央部で東西方向(2区3号畑)、南北方向(2区4号畑)、北東から南西方向(2区5号畑)と方向が異なる3種類の畝間を検出した。これらは重複し、遺構検出時の観察から、古い順に5号畑→4号畑→3号畑である。

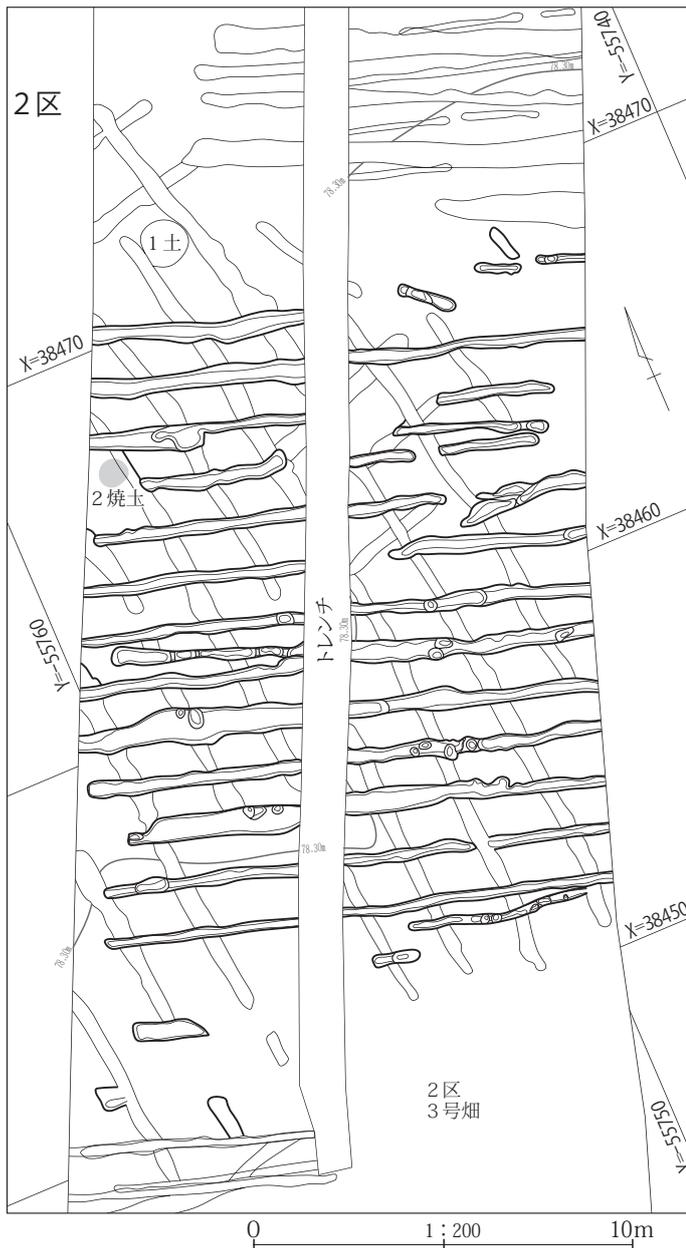
位置 X=38,451～38,471 Y=-55,743～-55,764

重複 2区4号・5号畑と重複し、3号畑が最も新しい。

規模 残存部分で南北21.0m、東西13.5mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-73°-W

畝間 ほぼ東西方向で、さらに調査区外に延びると考えられる。検出した最も長い畝間は13.1mである。畝間幅は30～40cmが大半である。畝間の深さは6～43cmで、10cm程度のものが多い。部分的だが、底面に15～20cmのピット状の落ち込みが認められる。畝幅は120～130cmで、比較的等間隔である。



第206図 2区3号畑全体図

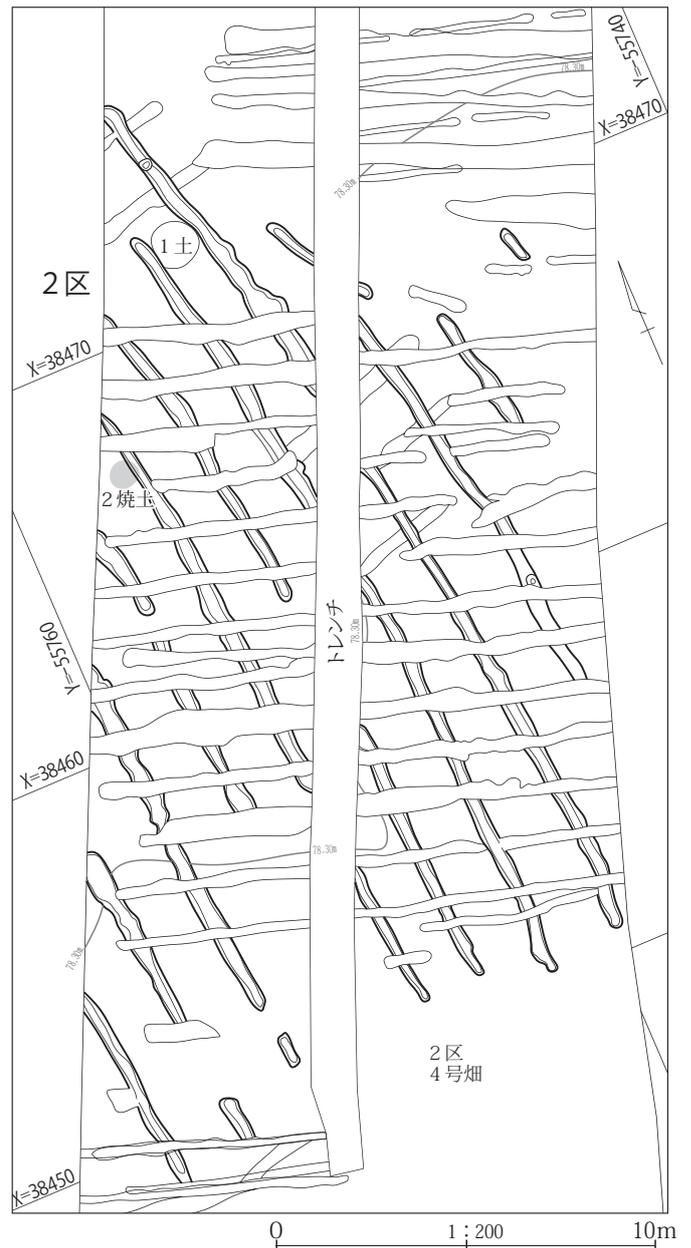
所見 遺存状況が比較的良好で、畝間の方向、幅、深さ、間隔が揃っている。2区3号～5号畑の中で、最も新しい時期の畑である。遺構検出面が他の畑と同じであることから、時期は中世から近世と推定されるが、詳細は不明である。

2区4号畑(第207・214図 PL.103・104)

位置 X=38,448～38,477 Y=-55,744～-55,764

重複 2区3号・5号畑、1号土坑、2号焼土と重複する。3号畑よりも古く、5号畑よりも新しい。1号土坑および2号焼土との新旧関係は不明である。

規模 残存部分で南北25.8m、東西21.7mの範囲で畝間



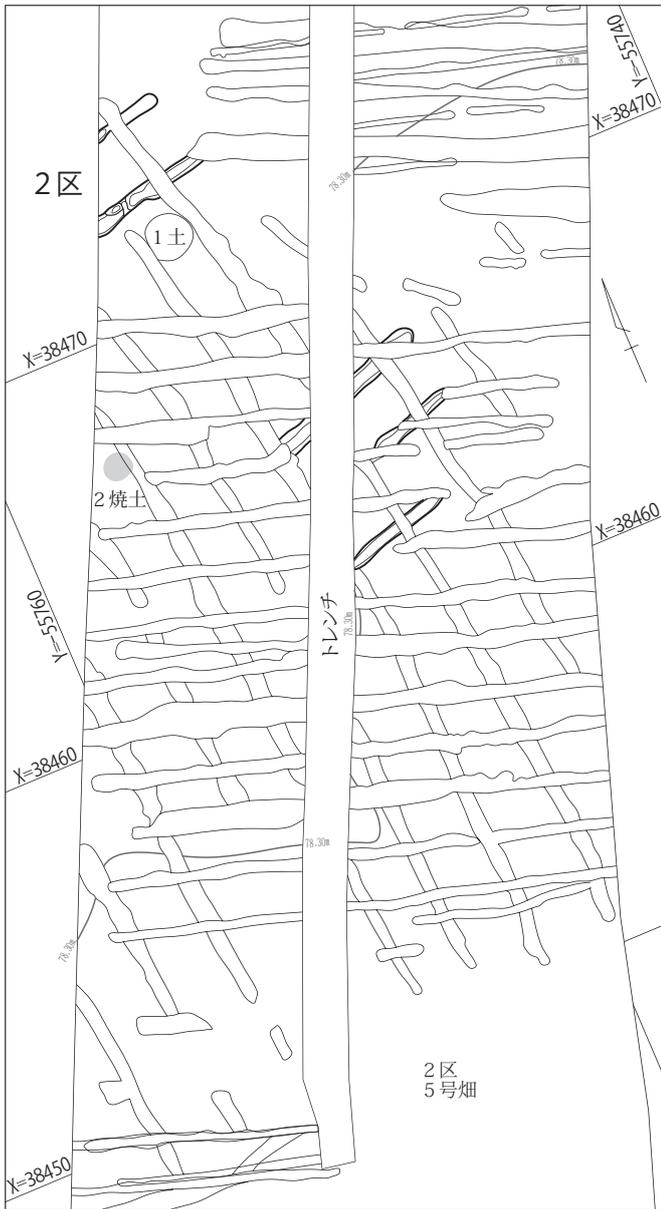
第207図 2区4号畑全体図

を検出。

畝間方向 N-12°-W

畝間 南北方向の畝間で、北部および西部はさらに調査区外に延びると推定される。検出した最も長い畝間はトレンチを挟んで51.6mである。畝間幅は30cm前後が多く、畝間の深さは15cm程度である。畝間は180～200cmで、ほぼ等間隔である。

所見 遺存状況が比較的良好で、畝間の方向、幅、深さ、間隔が揃っている。2区3号～5号畑の中で、3号畑の次に新しい。他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。



第208図 2区5号畑全体図

2区5号畑(第208・214図 PL.104)

位置 X=38,461～38,476 Y=-55,748～-55,755

重複 2区2号～4号畑と重複する。2号畑との新旧関係は不明であるが、3号・4号畑よりも古い。

規模 残存部分で南北13.5m、東西4.5mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-71°-E

畝間 北東から南西方向に延びる畝間5条を検出した。3号・4号畑に切れ、遺存状況は良好ではない。検出した最も長い畝間は4.1mである。畝間幅は30cmで、畝間の深さは10cm程度である。畝幅は180～190cmで、ほぼ等間隔である。



第209図 2区6号畑全体図

所見 2区3号～5号畑の中で、最も古い。遺構検出面が他の畑と同じことから、時期は中世から近世と推定されるが、詳細は不明である。

2区6号畑(第209・214図 PL.104)

2区南部で、東西方向の畝間を10条あまり検出した。西側はさらに調査区外に延びると推定される。

位置 X=38,437～38,451 Y=-55,755～-55,771

重複 2区4号畑と重複するが、新旧関係は不明である。

規模 残存部分で南北12.5m、東西13.7mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-71°-W

畝間 検出した最も長い畝間は12.35mである。畝間幅は20cmが多く、畝間の深さは10～20cmである。底面に15～20cmのピット状の落ち込みが見られるものもある。畝幅は130cmがほとんどで、南端の畝間を除きほぼ等間隔である。

所見 2区3号畑と畝間方向や形状、規模が共通することから、3号畑と同時期の可能性が高い。

3区1号畑(第210・214図 PL.104)

2区南端および3区北部～中部にかけて位置する。2区6号畑および3区2号畑とは畝間方向や間隔がやや異なるため分けた。東側はさらに調査区外に延びると推定される。

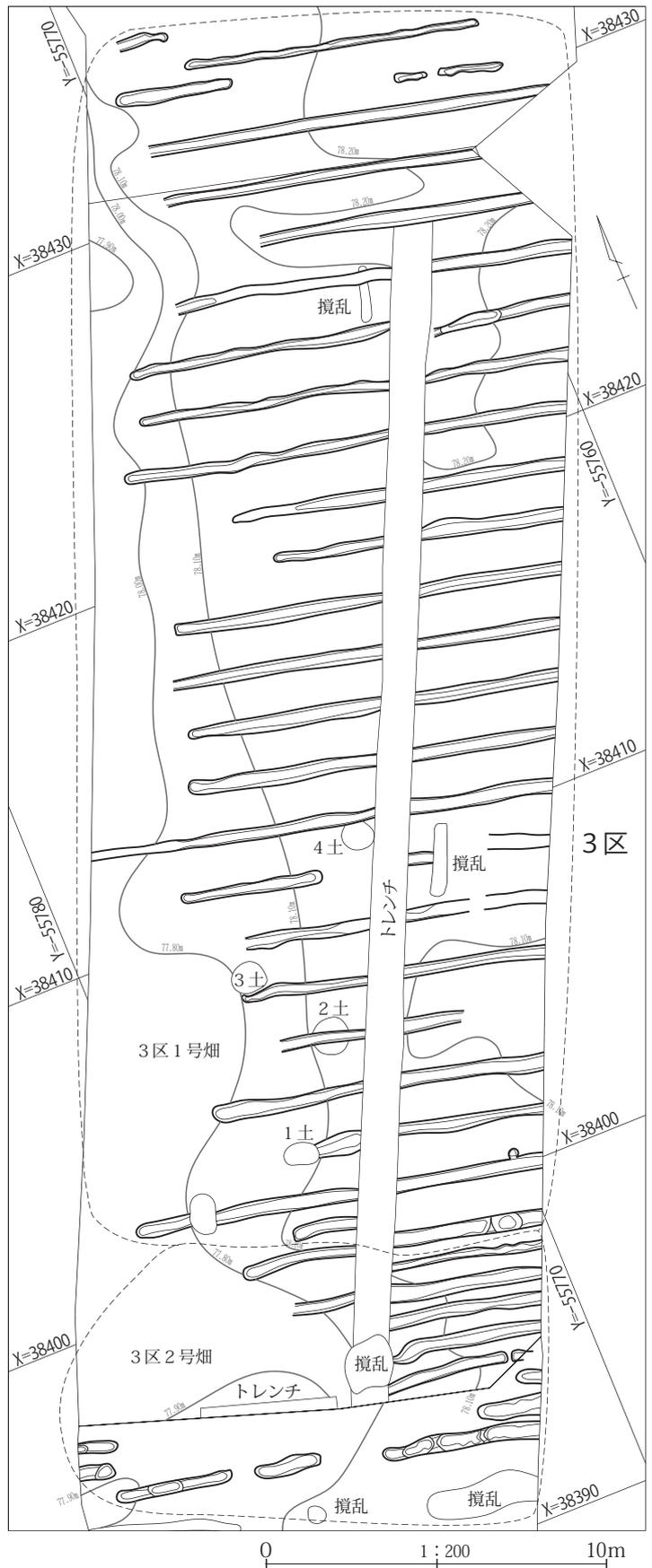
位置 X=38,398～38,436 Y=-55,757～-55,782
重複 3区1号～4号土坑と重複し、3区2号～4号土坑よりも新しい。3区1号土坑との新旧関係は不明である。
規模 南北36.4m、東西13.2mの範囲で畝間を検出。
畝間方向 N-77°-W
畝間 検出した最も長い畝間は13.6mである。畝間幅は40cm前後がほとんどで、畝間の深さは10～20cmである。畝幅は150～160cmでほぼ等間隔である。
所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

3区2号畑(第210・214図 PL.104)

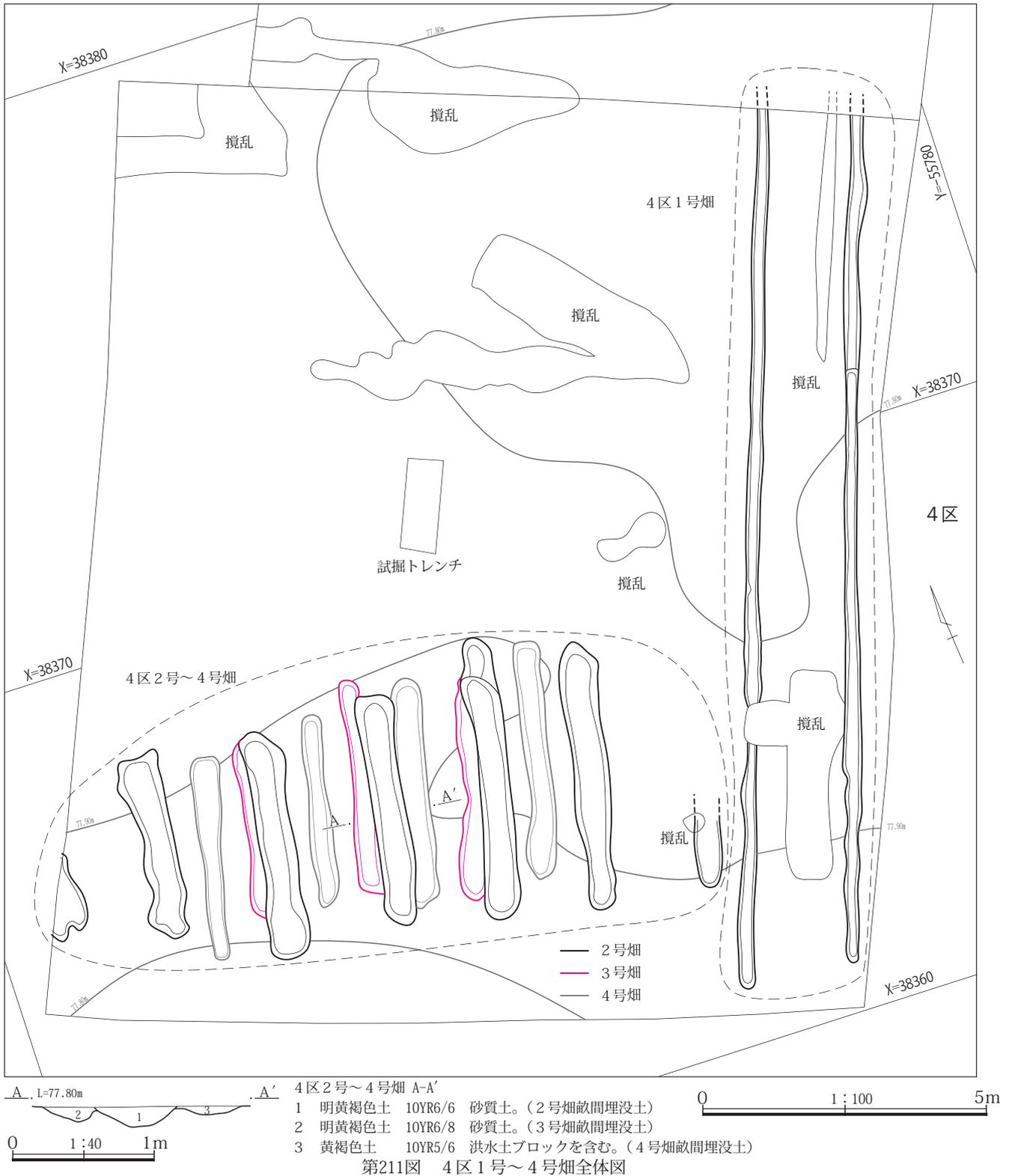
3区南端から4区北端にかけて位置する。3区1号畑と畝間方向が同じであるが、畝幅が異なるため便宜的に分けた。東側はさらに調査区外に延びると推定される。
位置 X=38,392～38,401 Y=-55,770～-55,786
重複 なし
規模 南北6.3m、東西12.8mの範囲で畝間を検出。
畝間方向 N-78°-W
畝間 検出した最も長い畝間は7.3mである。畝間幅は40cm前後がほとんどで、畝間の深さは20～30cmである。畝幅は70～97cmである。
所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

4区1号畑(第211図 PL.105)

4区南東部で、南北方向に畝間が2条検出された。東側はさらに調査区外に延びる可能性がある。
位置 X=38,360～38,375 Y=-55,781～-55,788
重複 なし
規模 南北17.7m、東西2.1mの範囲で畝間を検出。
畝間方向 N-17°-E
畝間 2条の畝間は非常によく並行している。検出した最も長い畝間は17.7mである。畝間幅は20～30cmで、畝間の深さは10～16cmである。畝幅は163～183cmである。
所見 道跡のようにも見えるが、6区1号畑でも同様の畝間が検出されていることから、ここでは畑として扱った。他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。



第210図 3区1号・2号畑全体図



4区2号畑(第211図 PL.105)

4区南部で、南北方向の畝間が検出された。土層断面の観察から、これらは3期に分けられ、2号~4号畑と呼称する。新旧関係は新しい方から、2号畑→3号畑・4号畑である。3号畑と4号畑は畝間が切り合っていないため、新旧関係は不明である。2号~4号畑は、畝間

方向を変えずに少しずつ畝間の位置がずれていることから、短期間に畝を作り替えたと考えられる。

位置 X=38,363~38,369 Y=-55,787~-55,799

重複 3号・4号畑と重複し、いずれの畑よりも新しい。

規模 南北5.0m、東西12.0mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-10°-E

畝間 南北方向に7条の畝間を確認した。検出した最も長い畝間は4.9mである。畝間幅は40～50cmで、畝間の深さは5～14cmである。畝幅は2m前後である。埋没土は砂質の明黄褐色土である。

所見 2号～4号畑の中で、最も新しい。他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

4区3号畑(第211図 PL.105)

4区南部で、南北方向の畝間が3条検出された。

位置 X=38,363～38,369 Y=-55,790～-55,796

重複 2号・4号畑と重複し、土層断面の観察から、2号畑より古く、4号畑との新旧関係は不明である。

規模 南北3.7m、東西4.3mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-10°-E

畝間 検出した最も長い畝間は4.0mである。2号畑に切られているものの、畝間幅は40cm前後と推定される。畝間の深さは9～20cmである。畝幅は約2mである。埋没土は砂質の明黄褐色土である。

所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

4区4号畑(第211図 PL.105)

4区南部で、南北方向の畝間が4条検出された。

位置 X=38,363～38,369 Y=-55,789～-55,799

重複 2号・3号畑と重複し、土層断面の観察から、2号畑より古く、3号畑との新旧関係は不明である。

規模 南北4.3m、東西6.5mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-15°-E

畝間 検出した最も長い畝間は4.3mである。畝間幅は30～40cmである。畝間の深さは3～9cmである。畝幅は約2mである。埋没土は黄褐色土である。

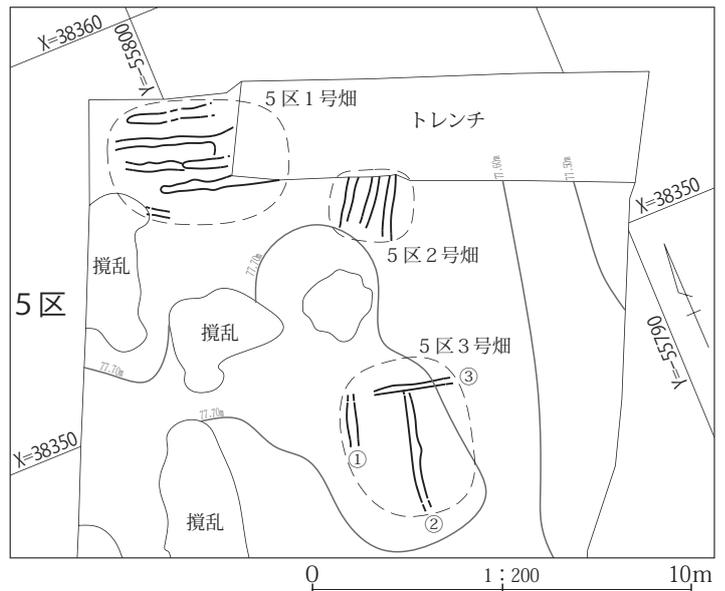
所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

5区1号畑(第212図 PL.105)

5区北西部で、東西方向の畝間が5条検出された。畝間は深さがほとんどなく、遺存状況は良好ではなかった。

位置 X=38,354～38,358 Y=-55,798～-55,802

重複 なし



第212図 5区1号～3号畑全体図

規模 南北2.1m、東西4.6mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-74°-W

畝間 検出した最も長い畝間は3.1mである。畝間幅は20～30cmである。畝間の深さは1～4cmである。畝幅は50～60cmである。

所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

5区2号畑(第212図 PL.105)

5区北部で、南北方向の畝間が3条検出された。畝間は深さがほとんどなく、遺存状況は良好ではなかった。

位置 X=38,352～38,354 Y=-55,795～-55,797

重複 なし

規模 南北1.8m、東西1.3mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-40°-E

畝間 検出した最も長い畝間は1.8mである。畝間幅は17～25cmである。畝間の深さは1cmである。畝幅は50～60cmである。

所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

5区3号畑(第212図 PL.105)

5区北部で、南北方向が2条、東西方向が1条の畝間が検出された。畝間方向が異なるため、別の畑の可能性が高いが、近接していることから、ここでは一緒に記述

する。畝間は深さがほとんどなく、遺存状況は良好ではなかった。

位置 X=38,345 ~ 38,349 Y=-55,795 ~ -55,799

重複 なし

規模 南北3.1m、東西2.9mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-13°-E(①、②)、N-79°-W(③)

畝間 検出した最も長い畝間は3.0mである。畝間幅は20cm前後で、畝間の深さは約3cmである。畝幅は南北方向が1.6mである。

所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と考えられるが、詳細は不明である。

6区1号畑(第213図 PL.105)

6区全体で、南北方向の畝間が10条検出された。

位置 X=38,275 ~ 38,304 Y=-55,816 ~ -55,835

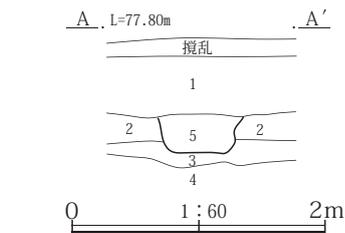
重複 なし

規模 南北28.3m、東西13.9mの範囲で畝間を検出。

畝間方向 N-12°-E

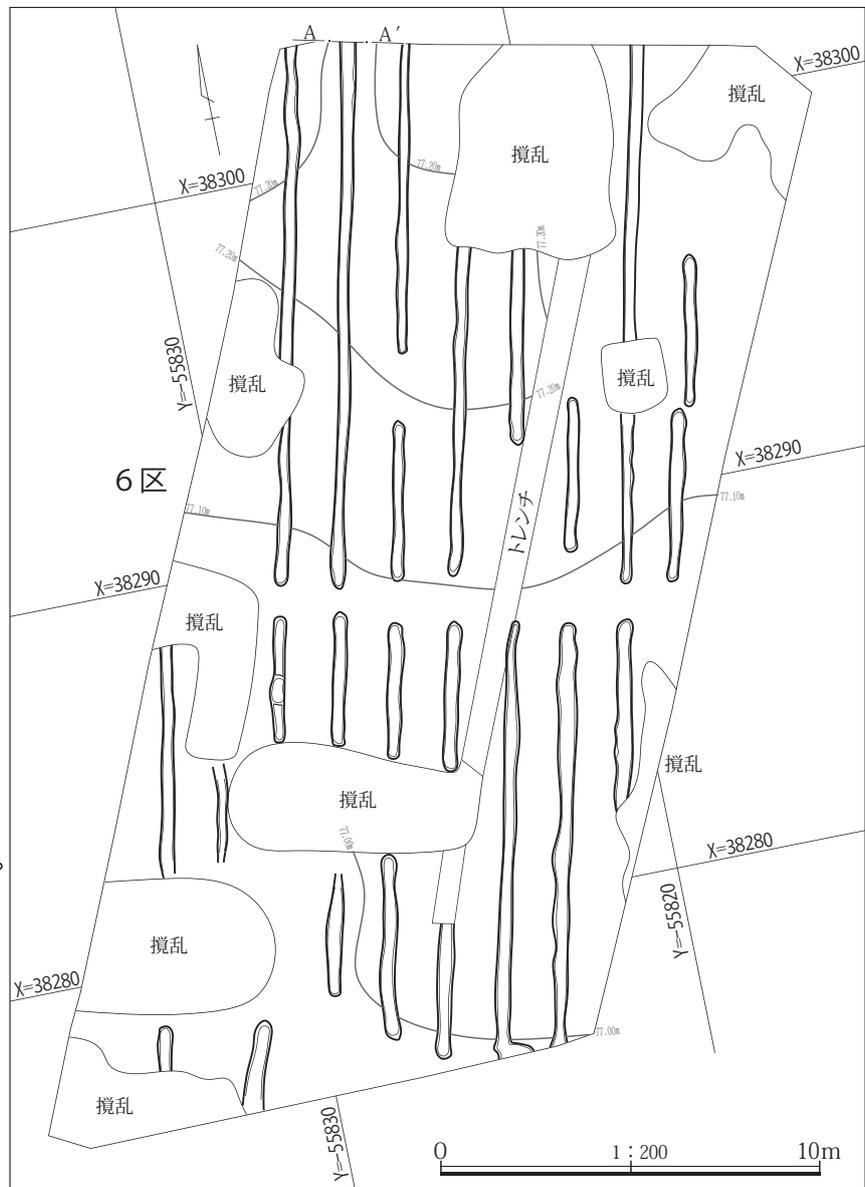
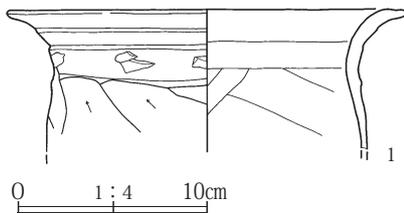
畝間 検出した最も長い畝間は3.1mである。畝間幅は30~40cmで、畝間の深さは2~25cmである。畝幅は1.5mで等間隔である。埋没土は明褐色砂質土である。

所見 他の畑と遺構検出面が同じことから、時期は中世から近世と推定されるが、詳細は不明である。

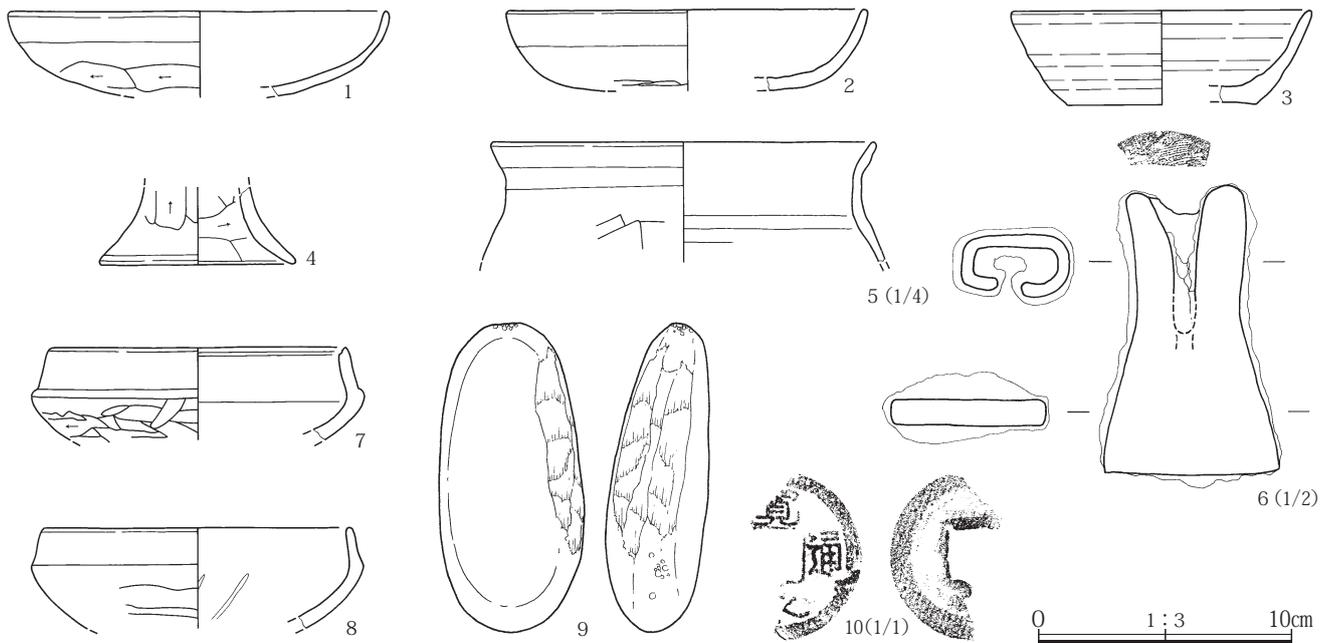


6区1号畑 A-A'

- 1 褐色土 7.5YR4/6 白色軽石を含む。
- 2 暗褐色土 7.5YR3/3 1層の褐色土ブロックを含む。
- 3 黒色土 7.5YR2/1 As-C混入黒色土主体。
- 4 黒褐色土 7.5YR3/1 黒色粘質土と洪水層由来の黄色土の混土。赤城産の安山岩を多量に含む。
- 5 明褐色土 7.5YR5/8 砂質土。(畑畝間の埋没土)



第213図 6区1号畑全体図と出土遺物



第214図 2区・3区畑出土遺物

3. 溝

4区3号溝(第216図 PL.105)

位置 4区中央部

X=38,381 ~ 38,386 Y=-55,777 ~ -55,789

重複 なし

形状と規模 東西に延びる溝である。東西両端は調査区外へ延びている。検出された長さは11.84m、幅は0.54m、遺構検出面から底面までの深さは19~34cmである。底面は平坦ではなく、緩やかなV字状を呈する。

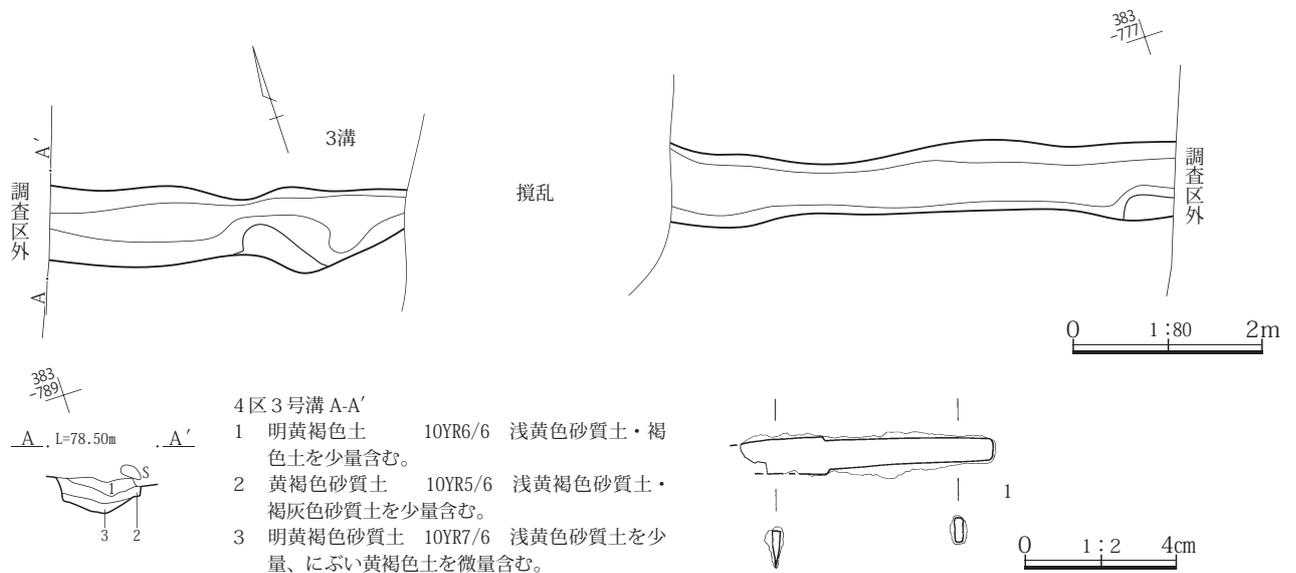
方向 N-75°-W

底面比高 東端が西端より6cm低い。

埋没土 3層確認した。2層・3層は砂質土である。

遺物と出土状態 土師器27点、須恵器8点、陶磁器2点、時期不明土器1点、古代瓦3点、瓦塔1点、石製品3点、鉄製品1点が出土し、このうち1点を図示した。1は埋没土中から出土した。

所見 埋没土の観察から、水が流れていた可能性がある。遺物は幅広い時期にわたって出土し、時期を判断するのが難しい。



第215図 4区3号溝と出土遺物

4. 土坑

2区で1基、3区で4基検出した。いずれも畑の検出作業中に確認した。3区の土坑は4基とも中央部南寄りに位置する。3区2号土坑と3号土坑は形状や規模、埋没土が共通し、同時期のものと推定される。畑と重複する土坑のうち、3区4号土坑は畑より古い、それ以外は畑との新旧関係は不明である。

2区1号土坑(第216図 PL.105)

位置 2区中央部西寄り

X=38,471～38,473 Y=-55,752～-55,754

重複 5号畑と重複するが、新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、直径は1.27m、遺構検出面から底面までの深さは0.4mである。断面形は逆台形を呈する。

埋没土 にぶい褐色土1層を確認した。底面にはAs-B軽石が堆積していた。

遺物と出土状況 埋没土から、土師器11点、須恵器1点が出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 時期について判断する資料がなく、不明である。性格も不明である。

3区1号土坑(第216図 PL.106)

位置 3区中央部南寄り

X=38,402～38,404 Y=-55,775～-55,777

重複 1号畑および5号住居と重複する。遺構検出時の観察から、本土坑は5号住居より新しい。畑との新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形は楕円形で、長径は1.05m、短径0.65m、遺構検出面から底面までの深さは0.34mである。断面形は2つのピットが接したような形状だが、柱痕は認められなかった。

埋没土 暗褐色土およびにぶい黄褐色土で、埋没土1層～3層は特徴が類似している。

遺物と出土状況 土師器2点が出土したが、細片のため図示しなかった。いずれも埋没土中から出土した。

所見 遺構の重複から、時期は10世紀後半と推定される5号住居より新しいと考えられるが、詳細は不明である。

3区2号土坑(第216図 PL.106)

位置 3区中央部南寄り

X=38,405～38,407 Y=-55,773～-55,775

重複 1号畑と重複するが、新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径1.14m、短径1.07m、遺構検出面から底面までの深さは0.28mである。断面形は逆台形である。

埋没土 焼土粒を微量含む暗褐色土を確認した。

遺物と出土状況 埋没土から、土師器18点、須恵器1点が出土したが、細片のため図示しなかった。

所見 時期および性格は不明である。

3区3号土坑(第216図 PL.106)

位置 3区中央部南寄り

X=38,407～38,409 Y=-55,774～-55,776

重複 17号土坑および18号ピットと重複する。遺構検出時の観察から、本土坑は17号土坑および18号ピットより新しい。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径1.03m、短径0.95m、遺構検出面から底面までの深さは0.15mである。断面形は逆台形で、底面は平坦である。

埋没土 にぶい褐色土1層を確認した。

遺物と出土状況 土師器4点、須恵器1点が出土したが、細片のため図示しなかった。いずれも埋没土中から出土した。

所見 南東3mに位置する2号土坑と形状、規模、埋没土が類似し、同時期の可能性がある。詳細な時期および性格は不明である。

3区4号土坑(第216図 PL.106・124)

位置 3区中央部南寄り

X=38,410～38,412 Y=-55,770～-55,772

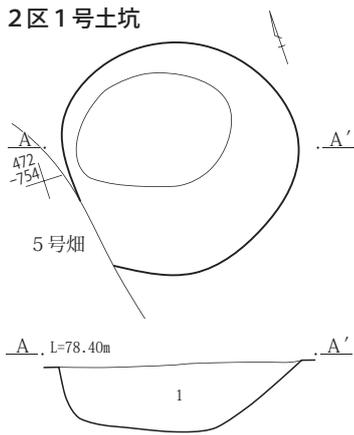
重複 1号畑および7号住居と重複し、遺構検出時の観察から、本土坑は7号住居より新しく、畑より古い。

形状と規模 平面形はほぼ円形で、長径0.95m、短径0.89m、遺構検出面から底面までの深さは0.37mである。断面形は逆台形に近い。

埋没土 暗褐色土およびにぶい黄褐色土を確認した。1層には長径13～15cm大の礫が含まれていた。

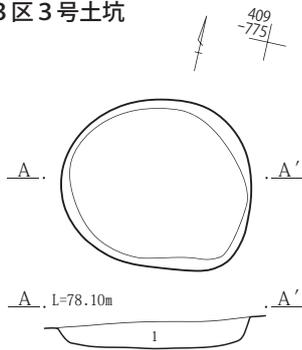
遺物と出土状況 埋没土から、土師器3点、須恵器1点、

2区 1号土坑



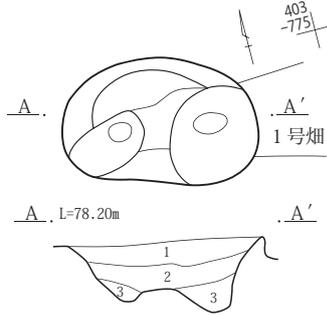
2区 1号土坑A-A'
1 灰褐色土 7.5YR4/2 灰褐色土を多量、黒褐色粘質土ブロックを少量含む。

3区 3号土坑



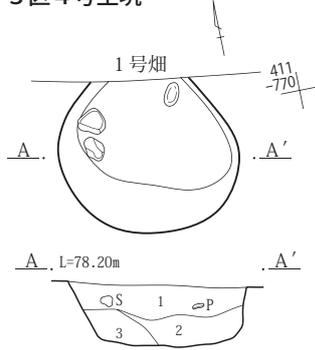
3区 3号土坑A-A'
1 にぶい褐色土 7.5YR5/4 焼土を微量に含む。

3区 1号土坑



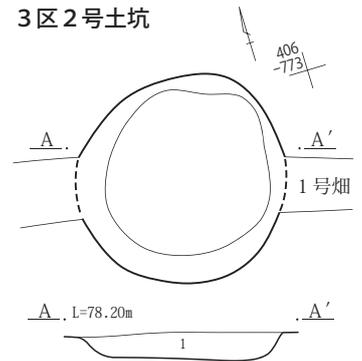
3区 1号土坑A-A'
1 暗褐色土 7.5YR3/4 砂質土。
2 にぶい褐色土 7.5YR5/4 焼土を微量に含む。
3 暗褐色土 7.5YR3/4

3区 4号土坑

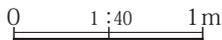
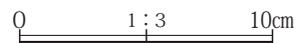
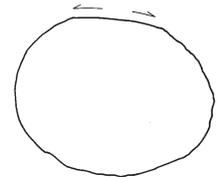
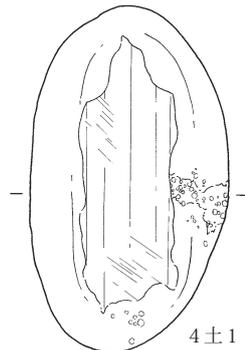


3区 4号土坑A-A'
1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を微量に含む。
2 にぶい黄褐色土 10YR5/4
3 黒褐色土 10YR2/2 焼土を微量に含む。

3区 2号土坑



3区 2号土坑A-A'
1 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土を微量に含む。



第216図 2区1号・3区1号～4号土坑と4号土坑出土遺物

砥石1点が出土し、このうち1点を図示した。

所見 遺構の重複から、時期は7世紀後半と推定される7号住居より新しく、畑より古いと考えられる。性格は不明である。

5. 焼土

2区で2か所検出した。どちらも焼土ブロックまたは焼土粒が集中し、住居に伴うカマド等でないことから焼土とした。土層の観察から、焼土は一次的に形成されたものではなく、別の場所で焼成されたものが運ばれてまるとまって廃棄されたものと考えられる。

2区 1号焼土(第218図 PL.106)

位置 2区南東部

X=38,433～38,435 Y=-55,758～-55,760

重複 なし

規模と埋没土 1.2m×1.1mの範囲に焼土ブロックまたは焼土粒が集中して認められた。1層・2層は焼土を多く含んでいた。

遺物と出土状況 土師器51点、須恵器7点、埴輪3点が出土し、このうち3点を図示した。いずれも1層・2層から出土した。

所見 土層の観察から、焼土は一次的なものではなく、焼土と土器片を含んだ土を当地点に廃棄したものと考えている。時期は不明である。

2区 2号焼土(第218図 PL.106)

位置 2区北西部西寄り

X=38,466～38,468 Y=-55,756～-55,758

重複 4号畑および9号・14号住居と重複するが、新旧関係は不明である。

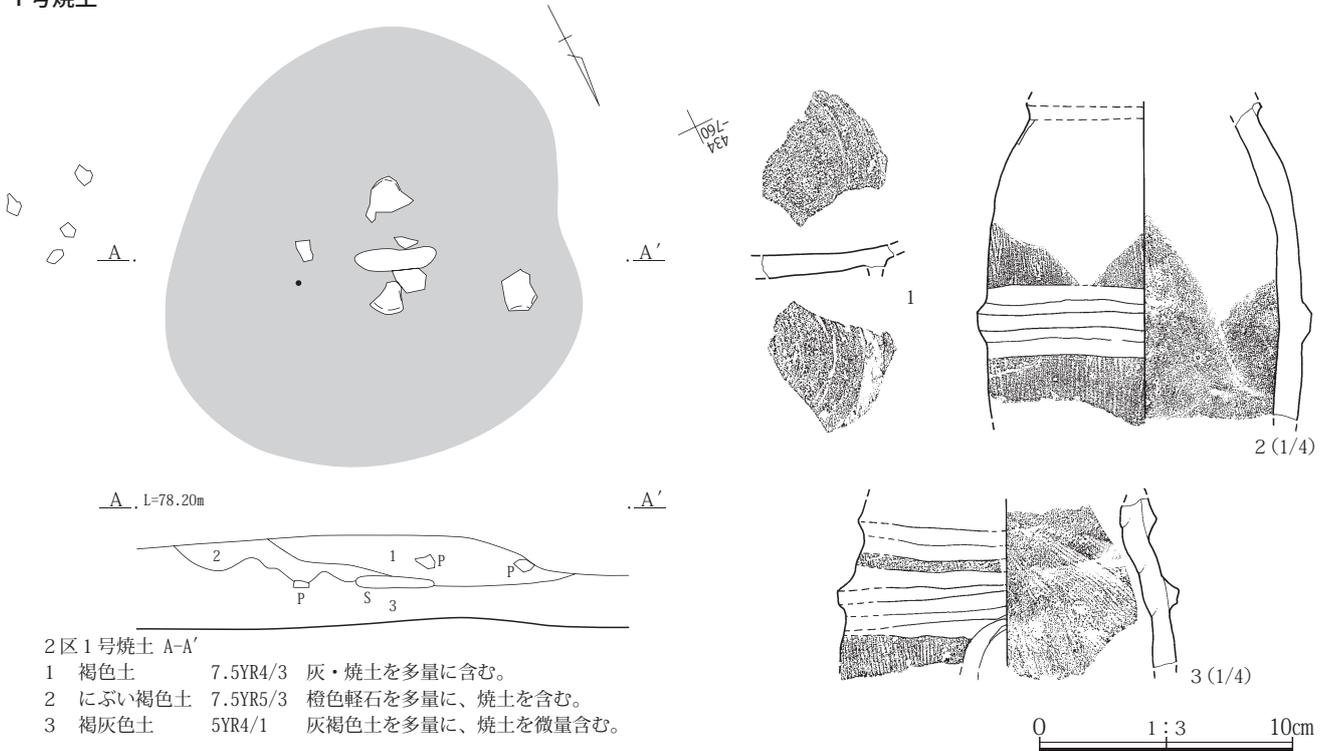
規模と埋没土 45cm×40cmの範囲に焼土ブロックが集中して検出された。焼土ブロックを多量に含む土層(1層)

の厚さは8～9cmである。

遺物と出土状況 土師器13点、須恵器4点が出土し、このうち1点を図示した。焼土の直上または周囲から、土器片や長径23cm大の礫が出土した。

所見 土層の観察から、これらの焼土は一次的に形成されたものではなく、土器片や礫とともに廃棄されたものと判断した。時期は不明である。

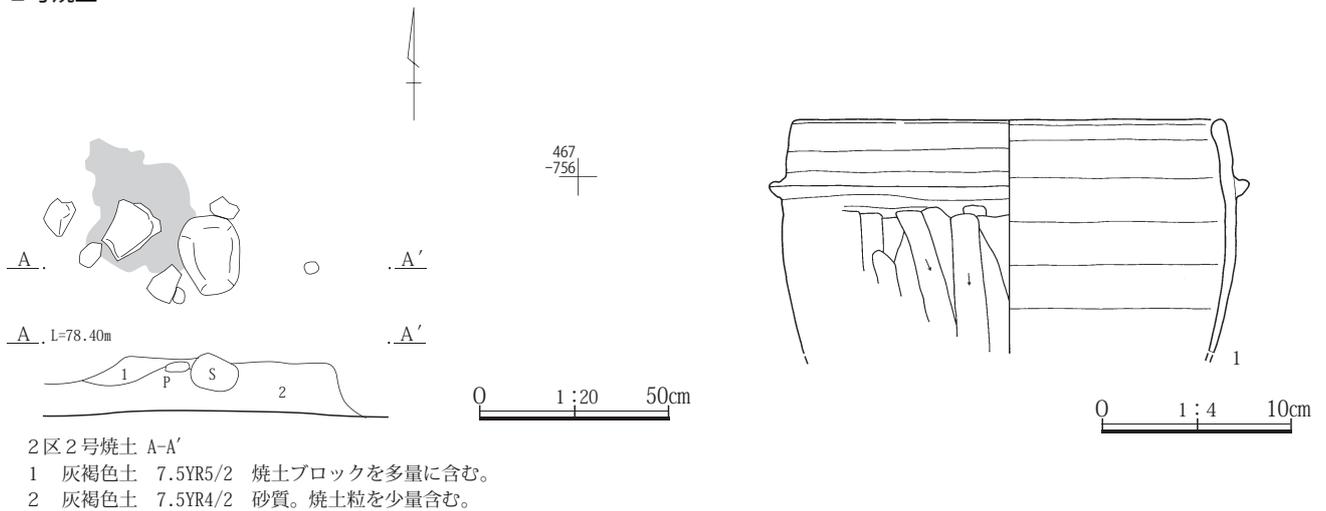
1号焼土



2区1号焼土 A-A'

- 1 褐色土 7.5YR4/3 灰・焼土を多量に含む。
- 2 にぶい褐色土 7.5YR5/3 橙色軽石を多量に、焼土を含む。
- 3 褐灰色土 5YR4/1 灰褐色土を多量に、焼土を微量含む。

2号焼土



2区2号焼土 A-A'

- 1 灰褐色土 7.5YR5/2 焼土ブロックを多量に含む。
- 2 灰褐色土 7.5YR4/2 砂質。焼土粒を少量含む。

第217図 2区1号・2号焼土と出土遺物

第5章 自然科学分析

関遺跡では、下記目的のため、①テフラ検出分析と②プラント・オパール分析の2種類の自然科学分析を行い、業務を株式会社火山灰考古学研究所に委託した。

①発掘調査で検出したテフラの種類を明らかにし、水田の年代を推定する資料とする。

②発掘調査で検出した水田土壌を確認する。

結果は以下の通りである。

第1節 関遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

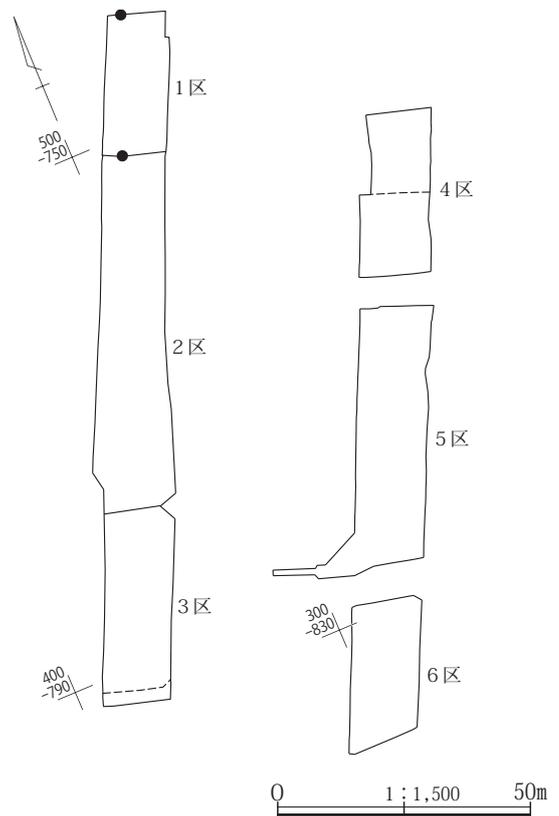
関東地方北西部に位置する伊勢崎市とその周辺には、赤城、浅間、榛名、八ヶ岳火山列など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方、中国地方、九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログなどに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

伊勢崎市関遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な水田遺構や土層が認められたことから、土地利用に関するプラント・オパール分析に先立って地質調査を実施して、土層の層序やテフラの層相および岩相の記載を行うとともに、高純度のプラント・オパール分析試料の採取を行った。調査分析の対象地点は、1区南壁および1区北壁の2地点である(第218図)。

2. 土層の層序

(1) 1区南壁

1区南壁では、下位より灰色シルト層(層厚20cm以上, 14層)、黒灰色泥層(層厚20cm, 13層)、灰白色軽石に富む暗灰色土(層厚3cm, 軽石の最大径4mm)、灰白色軽石に富む暗灰色土(層厚10cm, 軽石の最大径5mm, 以上5



第218図 テフラ検出分析およびプラント・オパール分析の試料採取地点

層)が認められる(第219図)。発掘調査では、その上面で水田跡が検出されている。また、その下面では、擬似畦畔と推定される痕跡が認められている。

水田跡には浅い溝状遺構があって、それは下位より灰色砂層(層厚0.5cm)、暗灰色泥層(層厚4cm)、黄灰色シルト層(層厚0.3cm)、灰色シルト層(層厚10cm)で埋没している。一方、水田面の上位には、下位より黄灰色シルト層(層厚0.3cm)、灰色砂層(層厚3cm)、粒径が揃ったやや細粒の灰色砂層(層厚5cm, 以上4層)、灰色砂層(層厚5cm, 20層)、黄灰色砂層(層厚5cm, レンズ状)、灰褐色土(層厚13cm, 3層)、灰褐色砂質土(層厚24cm, 2層)が認められる。

(2) 1区北壁

1区北壁では、下位より暗灰褐色泥層(層厚5cm以上, 18層)、黄灰色シルト層(層厚16cm, 14層)、黒灰色シルト層(層厚24cm, 13層)、灰白色軽石を多く含む暗灰色土(層厚6cm, 軽石の最大径6mm, 5層)、灰色砂質シルト層(層厚2cm)、礫混じり灰色砂層(層厚16cm, 礫の最大径6mm, 以上4-2層)、砂混じり黄灰色シルト層(層厚10cm以上, 8層)が認められる(第220図)。

3. テフラ検出分析

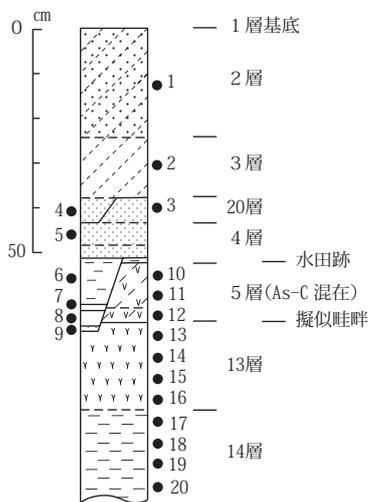
(1) 分析試料と分析方法

水田の層位や年代を求めるために、テフラ粒子の産状や特徴を定性的に明らかにするテフラ検出分析を行った。分析対象は、1区南壁の5点と1区北壁の1点の合計6試料である。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子を観察。

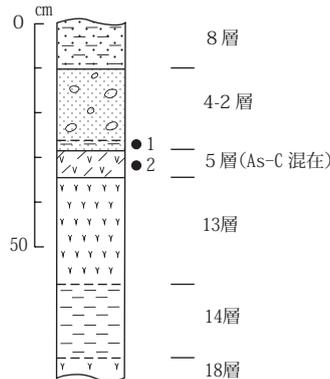
(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第16表に示す。1区南壁では、試料14をのぞくいずれの試料にも、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石(最大径6.9mm)やその細粒物である灰白色軽石型ガラスが含まれている。この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。これらのテフラ粒子は試料12や試料10に多い。ほかに、試料8には、スポンジ状に細かく発泡した白色の軽石型ガラスや、角閃石が少量ながら認められる。一方、1区北壁の試料2にも、スポンジ状に良く発泡した灰白色の軽石(最大径4.0mm)や軽石型ガラスが多く含まれている。



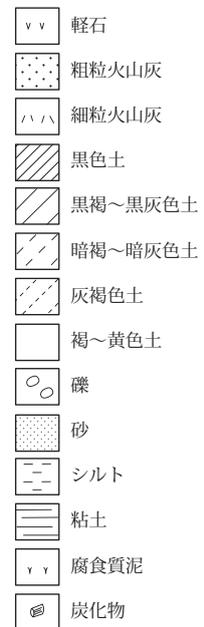
第219図 1区南壁の土層柱状図

●：テフラ分析試料の層位
数字：資料番号



第220図 1区北壁の土層柱状図

●：テフラ分析試料の層位
数字：資料番号



第16表 テフラ検出分析結果

地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
1区南壁	5				*	pm	灰白
	8				*	pm	灰白, 白
	10	**	灰白	3.9	***	pm	灰白
	12	**	灰白	6.9	***	pm	灰白
	14						
1区北壁	2	***	灰白	4.0	**	pm	灰白

****：とくに多い, ***：多い, **：中程度, *：少ない。最大径の単位は、mm。

bw：バブル型, pm：軽石型, md：中間型。

4. 考察

テフラ検出分析によって検出された灰白色の軽石や軽石型ガラスは、岩相から3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に由来すると考えられる。その産状から、1区南壁では試料12(5層下部)付近、1区北壁では試料2(5層)付近にその降灰層準があると推定される。また、1区南壁の試料8(21層)に含まれる白色の火山ガラスは、同試料から角閃石が検出されることも合わせると、5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬テフラ(Hr-AA, 町田ほか, 1984)起源の可能性がある。したがって、21層に関しては、その大部分がHr-AA降灰後に形成されたように思われる。本遺跡周辺にも降灰している6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2003など)であれば、より粗粒で比較的多くの白色の軽石や火山ガラスが検出されるはずであろう。

以上のことから、発掘調査で検出された水田跡の層位はAs-Cより上位で、Hr-FAより下位にあると考えられる。そして、Hr-AAより下位の可能性も考えられる。また、擬似畦畔の上位の土層はAs-Cを多く含む土層で、本来の耕作はやはりAs-C降灰後で、Hr-FA降灰前に行われていたと推定される。

5. まとめ

関遺跡において、地質調査を実施し土層を観察して層序記載を行った。そして、採取された試料を対象にテフラ検出分析を行った結果、浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)に由来するテフラ粒子を検出することができた。その濃集層準との関係から、発掘調査で検出された水田跡やその下位から検出された擬似畦畔の本来の耕作層準は、As-Cより上位で、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)より下位にあると考えられる。

文献

- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地函研専報, no.45, 65p.
- 町田 洋・新井房夫(1992)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究に關係するテフラのカタログ. 古文化財編集委員会編「古文化財に關する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」, p.865-928.
- 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との關係—. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.
- 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.

第2節 関遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である(藤原・杉山, 1984, 杉山, 2000)。

2. 試料

分析試料は、1区南壁と1区北壁の2地点から採取された計4点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す(第221図)。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法(藤原, 1976)を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)。
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)。
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散。
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cm

あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。

4. 分析結果

プラント・オパール分析では、イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第17表および第221図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第222図に示す。

5. 考察

(1) 水田跡(稲作跡)の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 1区南壁

5層(試料1)と13層(試料2)について分析を行った。その結果、5層(試料1)からイネが検出された。密度は7,600個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。一方、13層(試料2)からイネが検出されないことから、水田作土より下位の土層と推定される。

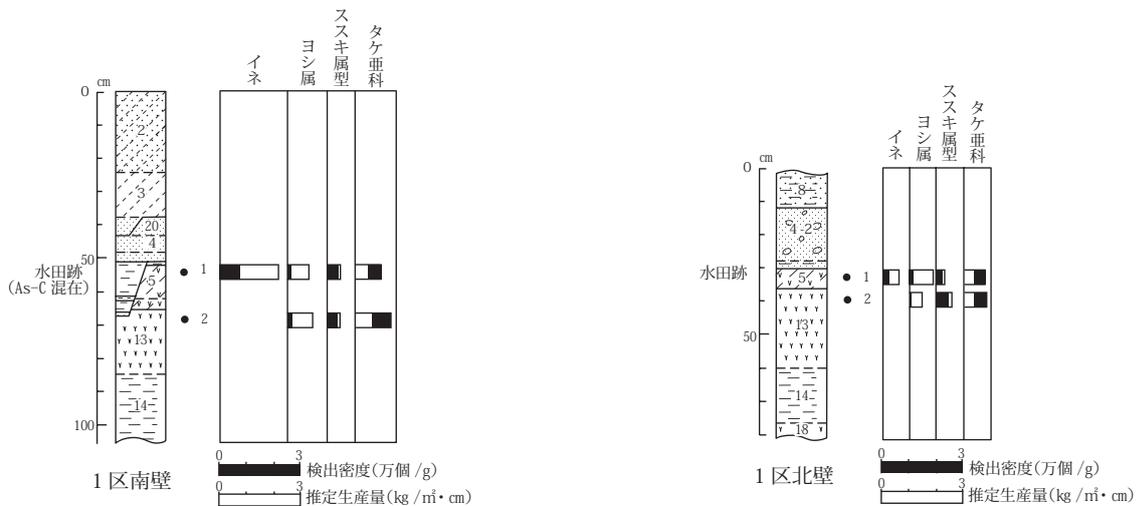
2) 1区北壁

5層(試料1)と13層(試料2)について分析を行った。その結果、5層(試料1)からイネが検出された。密度は2,000個/gと比較的低い値であるが、同層は直上を砂層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

		検出密度(単位: ×100個/g)			
地点・試料		1区南壁		1区北壁	
分類群	学名	1	2	1	2
イネ	<i>Oryza sativa</i>	76		20	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	13	15	14	7
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	38	37	20	44
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	76	134	82	88

推定生産量(単位: kg / m ² ・cm): 試料の仮比重を1.0と仮定して算出					
イネ	<i>Oryza sativa</i>	2.24		0.60	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.80	0.94	0.86	0.46
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.47	0.46	0.25	0.55
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	0.37	0.64	0.39	0.42

第17表 関遺跡におけるプラント・オパール分析結果



第221図 関遺跡におけるプラント・オパール分析結果

一方、13層(試料2)からイネが検出されないことから、水田作土より下位の土層と推定される。

(2)イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型(ヒエが含まれる)、ジュズダマ属(ハトムギが含まれる)などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、1区南壁の5層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、1区北壁の5層でも比較的少量ながらイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。

文献

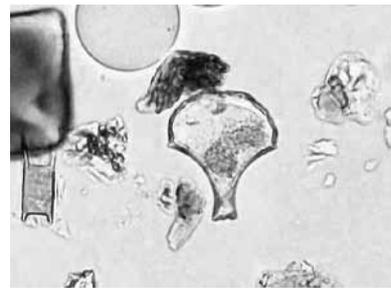
杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
 杉山真二・松田隆二・藤原宏志(1988)機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—. 考古学と自然科学, 20, p.81-92.
 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.



イネ



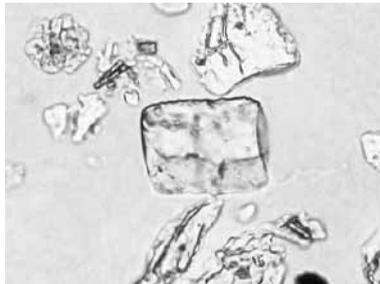
イネ



イネ



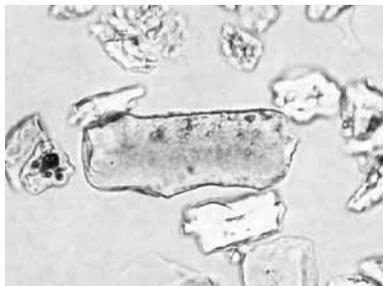
イネ (側面)



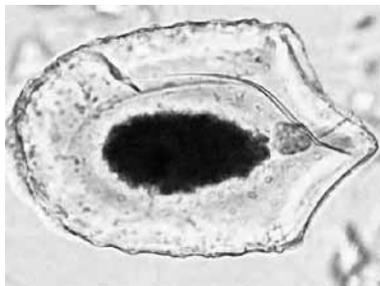
イネ (側面)



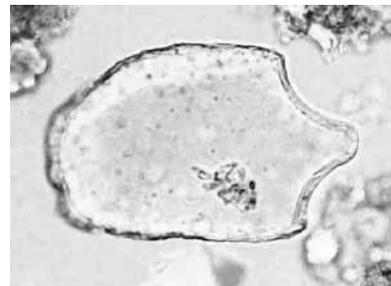
キビ族型



キビ族型



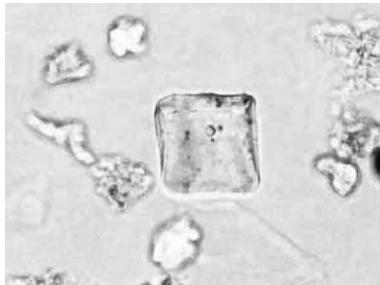
ヨシ属



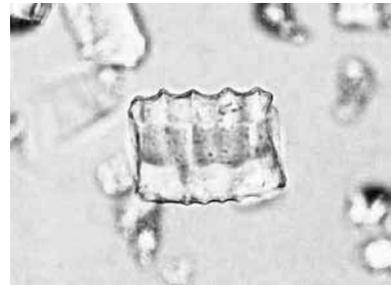
ヨシ属



ススキ属型



ウシクサ族 A



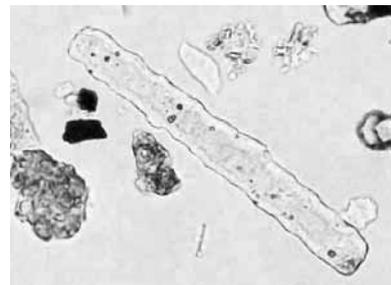
ネザサ節型



ネザサ節型



表皮毛起源



棒状珪酸体

50 μm

第222図 植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

第6章 総括

第1節 伊勢崎市関遺跡出土刻書 紡錘車

〈釈文〉

(側面) 「佐位」(倒位)

「郡」(倒位)

「作カ」(倒位)

「有」(倒位)

「木」(正位)

「丈」(正位)

(上面・下面) 文字の記載無し

〈大きさ〉: 上面最大径4.4cm、下面最大径2.7cm、

厚さ1.5cm、中央孔径8mm、

上面及び側面孔径3～4mm、重さ39.1g

1. 関遺跡出土刻書紡錘車の概要

(第117図6 PL.115)

刻書紡錘車は、4区5号住居跡の床面に食い込むような状態で出土したと言う。共伴して出土した遺物の年代観は8世紀後半であるということである。

文字は側面に記され、上面・下面には記されていない。側面には「丈」と「木」の2文字のみが正位で、「佐位」「郡」「作カ」「有」の4文字が倒位で記されている。

側面に正位で記された「丈」は「丈部」氏の氏族名を示すと考えられる。丈部氏は出雲、美濃、尾張、遠江、駿河、相模、武蔵、下総、上総、常陸、上野、下野、越中、越前、佐渡、越後、陸奥各国に分布が確認できる古代氏族で、出雲国をのぞいて東国に多く、墨書土器など出土文字資料にも多く見られる氏族名である。臣・連・造・直・史などの姓を称するが、このうち丈部臣氏は出雲国と京都にのみみえる。東国の丈部氏は、史料上、下総国印幡郡司を相伝した丈部直氏、武蔵国足立郡司を相伝し武蔵国造にも任じられ、後に武蔵宿祢姓を下賜された丈部直氏などがみえる。「丈」の文字は、祭祀を執り行った人物が「丈部」氏の人物であったことを示していると考えられる。

る。

正位で記された「丈」「木」と、倒位で記された「佐位」「郡」「有」と、さらに「作カ」とでは筆致が明らかに異なっており、それぞれ別人の記載である可能性が指摘できる。側面に倒位で記されたものは、「作カ」以外、非常に達筆である。

「佐位」「郡」は側面に倒位で2行にわたって記されているが、「佐位郡」の郡名を表記したものである。ただし、郡名のみを表記であり、一般的に郡・郷・戸主姓名が記される調庸墨書銘や貢進物付札木簡のような書式にはならない。「佐位郡」と、記された他の文字との有機的な関連も見出し難い。しかしながら、「佐位郡」の郡名は、祭祀を執り行った人物の居住地を示していると考えられる。

いずれにしても記された文字は、現状では個々の意味は不明であっても、祭祀に当たった人物たちの「住所・氏名」に関わる文字と考えて良いだろう。

2. 刻書紡錘車の全般的傾向、特徴

文字が記された古代の紡錘車は、現在までのところ、全国的に見ても出土範囲が非常に限定されており^{註1}、京都府長岡京市長岡京跡右京6条2坊7町出土の資料^{註2}、岩手県奥州市伯濟寺遺跡出土の資料^{註3}(第223図1)、佐賀県小城市丁永遺跡出土の資料^{註4}、長崎県大村市竹松遺跡出土の資料^{註5}の4点以外は、いずれも関東地方にのみ限られ、とりわけ上野国南西部から武蔵国北西中部にかけての地域を中心に集中して出土する極めて局部分布を呈する遺物であることを指摘した^{註6}。

旧稿を發表して以来、その後も継続して資料の集成に努めてきたが、近年では埼玉県内での出土が顕著であり、かつては上野国内出土の資料の方が多数であったが、近年では東京都内出土の資料を加えた武蔵国内出土資料の総数の方が、上野国内出土資料数をごく僅かながらも上回ったような状況にある。この点は、近年における開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査件数の多寡とも連動するところであり、また、そうは言っても、依然として上野国南西部から武蔵国北西中部の地域に、ほぼ局所的に分

布しているということに相違はない。

坂東以外の地域から出土した墨書・刻書紡錘車は、いずれも都城、東北の城柵、九州北部という、坂東の民が運脚、衛士・兵士、防人などとして赴任していたことが歴史的に明らかな地域からの出土であり、祭祀等にあたって紡錘車に文字を記す風習を持った坂東の民からの直接・間接の影響によってそれらの地に存在するものと考えることが出来よう。それらが局部的分布が顕著な遺物であるだけに、一般的に出土する地域以外からの出土例の発見によって、各地域への坂東の民の移動を具体的に証明する好個の物的資料となりうるのである。

旧稿でも述べたとおり、この極めて特徴的な出土文字資料である墨書・刻書紡錘車は、集落遺跡出土の墨書・刻書土器と同様、古代村落におけるある種の祭祀・儀礼等の行為に伴うものと考えられるが、出土範囲がかなり限定されている遺物だけに、それを手がかりとして、出土地域の特色やその地域に特有な何らかの信仰形態や、祭祀や儀礼行為の実相を明らかにすることが可能であると考えられる。

なお、以下で取り上げる文字が記された紡錘車は、すべて刻書紡錘車である。

墨書・刻書紡錘車全般にみられる年代的あるいは形態的な特徴は、文字が記されていない他の一般的な紡錘車の全体的な傾向とほぼ一致している。このことは言い換えれば、特段、大型重量あるいはその逆で小型軽量のものや、特殊な材質のものなど、特徴的な紡錘車が選ばれて文字が記されたのではなく、ごく一般的な、日常使用されている紡錘車に、ある時点で何らかの必要があって文字が記されていたということを示している。

文字が記された面や部位・位置・方向などはまちまちであり、記載内容からみて書式として完備していたわけではないようである。この点は墨書・刻書土器の文字の記載方法と共通している。

しかしながら、記された文字数については、墨書・刻書土器に多い1文字のみ記載のものは却って少なく、複数の文字が記されたものがほとんどであり、この点は、墨書・刻書土器の様相と大いに異なる特徴である。また、同じ遺跡から出土した墨書・刻書土器に記された文字と、墨書・刻書紡錘車に記された文字とが共通している例も現在までのところ非常に少ない。この点は、同じ遺跡か

ら出土した焼印の印面の文字や焼印が押された木製品に見られる焼印の印影の文字と、墨書・刻書土器に記された文字とが共通するケースが非常に多いことは異なる特色である^{註7}。

同じ集落遺跡出土文字資料と言っても、記された文字数、共通の文字が存在しないことから見れば、墨書・刻書土器と墨書・刻書紡錘車とは、祭祀・儀礼の主体や、祭祀・儀礼の中における用途・機能において、全く異なる次元に存在する遺物である可能性がある。

記された文字のうち、内容が明らかなものをみると、人名が記されたものや、地名が記されたものが目立つ。また、単語の羅列のような表現のものがある一方で、明らかに文章の意をなしているような例もある。

墨書・刻書紡錘車に記載された文言に、人名や地名が多いという点は、すでに早く井上唯雄氏が指摘しておられるが^{註8}、井上氏の研究が発表された後、資料が増加した状況でみると、井上氏が指摘しておられるように、地名の中でも郷名が特に多いということは、必ずしも指摘はできないようである。また、井上氏が言われるように、郷戸主や郷単位で貢進された調庸布の生産・管理に関わる文字だとすると、文字が記されているものの比率が全紡錘車の1割程度に過ぎない点が問題であり、調庸布の生産・管理に関わって記された文字とは考えにくいように思われる。

墨書・刻書紡錘車が集落内における何らかの祭祀・儀礼等の行為に際して使用されたとみて良いのであれば、記された人名や地名は祭祀や儀礼の行為の主体者・願主に関わるものと考えられることができる。

本貫地名から書き出すような事例としては、埼玉県本庄市南大通り線内遺跡からは上面に「武蔵国児玉郡草田郷戸主太田マ身万呂」と刻書されたもの(第223図2)が、また埼玉県本庄市東五十子田端屋敷遺跡からは上面に「大里郡太古郷□直奉」と刻書されたもの(第223図3)が、東京都国立市の仮屋上遺跡からは下面に「武蔵国多磨」、側面に「羊」と刻書されたものが、千葉県大網白里町南麦台遺跡からは上下面両面に「下総国千葉郡千葉郷」と刻書されたものが^{註9}(第223図4)、茨城県水戸市二の沢B遺跡(古墳群)からは側面に「幡田郷戸主君子部大倡麻呂」と刻書された資料がそれぞれ出土しており^{註10}(第223図5)、これらも祭祀・儀礼等の行為の中で、

祭祀・儀礼等の行為の主体者たちが祭祀・儀礼等を執り行ったのがどこに住む誰であるということを鬼神や疫神・崇神・悪霊を含むところの神仏に対して明示したものと考えられるだろう。

記載内容がそれぞれにややまちまちではあるが、逆にそのことはこれらの紡錘車が、律令制によって公的に規定された負担体系のために記されたものではなく、あくまでも祭祀・儀礼等の行為に伴って記されたものであることを物語っていると言えるのではないだろうか。ただ、いずれも基本的に、国一郡一郷という律令制によって制定された地方行政機構に基づいた表記法がとられており、地名+人名記載の墨書・刻書土器同様、貢進物付札木簡や調庸布墨書銘に類した書式で祭祀・儀礼を執り行った人物や集団を神仏に対して明示することによって、祈願事の成就や利益の取得、悪霊・疫神・崇神などからの不利益の回避が確実になされるよう願ったためと考えられよう^{註11}。

その一方で、明らかに人名しか記されないものも存在している。このような事例は墨書・刻書土器の事例でもままたに見受けられることであり、墨書・刻書土器の場合でも人名が記される場合は、居住する国・郡・郷名などから記された事例より名前だけが記されたものの方が圧倒的に多い。墨書・刻書土器における記載方法の相違と同様、人名だけが記されたものは、居住する国・郡・郷名から記されたものの省略形と解釈することが可能であり、祭祀・儀礼等の行為を執り行った主体者、あるいはその集団の代表と解釈できよう。

このように祭祀・儀礼等の行為を執り行った人もしくは集団を律令地方行政機構の名称を用いて本貫地名から書き出すような事例のみならず、吉井町矢田遺跡出土のもののように郷名だけ記すような例もある(第223図6・7)。これらでは、祭祀・儀礼等の行為を執り行った集団を郷単位と考えればよいだろう。

このほか、記載内容の点から注目されるのが前橋市前田遺跡から出土した刻書紡錘車で、側面に横位で「福道志万家都无」と刻書されている。「都无」とは「紡む」すなわち紡錘車そのものことであり、紡錘車そのものであることを示す文言が記された唯一の資料である^{註12}(第223図8)。

3. 墨書・刻書紡錘車の用途と機能

さて、これら墨書・刻書紡錘車が、何らかの祭祀・儀礼等の行為に際して使用された可能性が高いことを明確に示している例としては、例えば、群馬県内出土の例では、太田市尾島工業団地遺跡出土の「矢田□人即万呂矢田公子家守状」^{註13}(第223図9)、同じく太田市東長岡戸井口遺跡出土「太綾神奉奉」のような願文様の文言が記された資料(第223図10)や、沼田市戸神諏訪Ⅱ遺跡出土の仏堂の絵が線刻された資料(第223図11)、群馬県高崎市吉井町大字神保字北高原採集の「真佛」の語とその下に蓮弁の線刻画が描かれた資料(第223図12)、太田市稲荷宮遺跡の9世紀代竪穴建物跡出土の土製紡錘車の上面に「法師尼」と刻書された僧と尼僧の存在を示唆する文言が記された資料(第223図13)などがあげられる。

また、埼玉県出土の資料では、宮瀧交二氏が先に集成された仏教信仰を物語る内容の文字や絵画が記された紡錘車の例として^{註14}、菩薩形仏像頭部・供花2箇所・須弥山様の絵画が線刻された本庄市大久保山遺跡出土資料(第223図14)、蓮華紋が線刻された熊谷市北島遺跡出土の資料(第223図15)、上面に「大仏□□□□□(布カ)」下面に「卍 卍 卍 卍」と記された吉見町西吉見条里遺跡出土の資料(第223図16)、如来形仏像面相・施無畏印相の絵画が線刻された北本市下宿遺跡出土資料(第223図17)、「祥」という吉祥文字を何箇所にも記した上に人物画と蓮弁状の文様が記された川越市弁天西遺跡出土資料(第223図18)、「奉念随佛道足」という仏教的な願文様の文言が記された春日部市八木崎遺跡出土資料(第223図19)などの類例がある。

このような仏教信仰を如実に示すような絵画、文言が記載された紡錘車は、現在のところ、とくに埼玉県からの出土例に多いが、千葉県千葉市ムコアラク遺跡出土の紡錘車に記された「南無 界 秋 林 如 申 神 ◎ 為」という文言は^{註15}(第223図20)、意味はあまりよく解釈できないものの「南無」の文字から仏教信仰による何らかの願文とみられ、また、栃木県河内郡上三川町多功南原遺跡の9世紀第3四半期の竪穴建物跡SI70からは「多心」「善」「菩」「経」など、仏教的な文言が記された紡錘車が出土している^{註16}(第223図21)。

本来的に糸に撚りをかける道具である紡錘の部品にす

ぎない紡錘車に、仏教思想を反映した文字や絵画が記される理由については、現在のところ、まだ明確にはしがない。しかしながら、宮瀧氏が、紡錘車本来の用途とは全く異なる用いられ方をした可能性も想定されている点は甚だ示唆に富む見解と言えよう。また、紡錘車が本来的に有する「回転」の機能が、仏教信仰における輪廻の思想、あるいは寺院における輪蔵^{註17}などと結びついて、仏教信仰の場における法具として受け入れやすかったという可能性もあるのではないか。

また、従来までの織物生産史研究の成果によれば、織物生産、とくに「糸紡ぎ」は女性労働とされてきたにもかかわらず、刻書紡錘車に記された人名には、これまでのところ女性名は全く見いだしがたい。この点は、長野県千曲市屋代遺跡群出土の木簡にも「布手」として男性名が列挙された記録木簡(10号木簡)があり^{註18}、実際に労働に従事した者と言うよりも調庸布の貢進主体としての戸主である男性名が記されたと解釈することが可能であり、また、それらの遺物が、家父長制が成立し、様々なレベルにおける祭祀・儀礼等の行為の主催者・執行者が男性に集中していく時期である8～9世紀の社会の様相を反映していると解釈することもまた可能であろう。

群馬県太田市尾島工業団地遺跡出土の刻書紡錘車には「矢田□人即万呂矢田公子家守状」という文言が記されている。「矢田□人即万呂」と「矢田公子家守」とが何者かに対して「状す」(申し上げる)ことを意味している。「申し上げる」行為の対象は、神仏と考えて間違いないだろう。

また、群馬県太田市東長岡戸井口遺跡出土の刻書紡錘車の側面には「太綾神奉奉上」と記されていて、「太綾神」に奉納されたことを物語る。この紡錘車自体を「太綾神」に奉納したのか、それともこの紡錘車は願文の表示だけの機能であったのかは、資料それ自体やこの紡錘車の出土状況からは明確にはしがないが、いずれにしても神仏に供献する儀式・祭祀に際して使用されたものであることが記された文面から明白である。上面に記された「中村田□盛長□」は、一部に判読不可能な文字があるため全体の文意は明確にはしがないが、「太綾神」に奉納する行為の主体者であり、祭祀・儀礼を執り行った人物かあるいは祭祀・儀礼を主宰した集団の代表人物の名と考えられる。記されている文言が2人分の名であるのか、あるいは居住地などの地名+人名の表記であるのかは、現

段階では定かではない。「太綾神」なる神についても詳細は不明であり、「太綾」がその神が鎮座するあるいは守護する場所の地名を指すのか、あるいは文字通り繊維製品としての「太綾」を意味するのもも現段階では不明とせざるを得ない。ただ、「太綾」の語が繊維製品を意味しており、「太綾神」が紡織・織物生産に関わる神であれば、紡錘車という糸紡の道具に記された内容としては甚だ整合性に富むことになろう。あくまでも可能性の一つに過ぎないが、紡錘車に刻書された神名としては示唆的な名称と言える。

このような神仏への願文、あるいは神仏への供献などの文言が記された紡錘車の例は、群馬県内出土のこれらの資料に限らない。

埼玉県内出土の資料では、上面に「大里郡太古郷□直奉」、側面に「締カ国細□□」、下面に「有大有路直奉」と記された埼玉県本庄市東五十子田端屋敷遺跡出土資料、埼玉県深谷市熊野遺跡から出土した、下面に「道乙朋道具伏状」と祈願文が記された資料(第223図22)があり、さらに仏像とは考えにくい、埼玉県児玉町枇杷橋遺跡出土の石製紡錘車(第223図23)のように、文字とともに、人面墨書・刻書土器に描かれているのによく似た人面が刻画された資料も出土している。人面墨書・刻書土器との関連を考えれば、この紡錘車に刻画された人面も祭祀に関わるものと考えられる^{註19}。

このような祭祀・信仰に関わるとみられる文言や絵画が記されたり描かれたりしている紡錘車の存在からも、それらが呪術・祭祀・信仰等に関わるものであり、祭祀・儀礼等の行為に際して使用されたことが明白である。

具体的な祭祀・儀礼の内容については、紡織という紡錘車本来の用途に関わるものであるのか否か、明確にしがないものがほとんどである。群馬県内出土の資料では、「太綾神奉奉上」と刻書された太田市東長岡戸井口遺跡出土の資料が、わずかに紡織との関わりを類推できる程度に過ぎない。

しかしながら、宗像・沖の島の出土例に見られるように^{註20}、紡錘車そのものがその他の紡織具・織機具とならんで祭具として奉納されている事例もあり、また、『肥前国風土記』基肄郡条に引かれた伝承には、「臥機」「絡土朶」が女神に関わる祭具の存在として見える点^{註21}や、神話等の記載に女神のシンボルとして紡織具が多く見ら

第6章 総括

れる点からみても^{註22}、紡錘車それ自体が祭祀と密接に結びつくものであったわけである。

千葉県市川市下総国分寺跡出土の石製紡錘車(SI008竪穴建物跡出土、8世紀代)のように、上面に文字と併せて紡錘車で糸を紡ぐ様を表現した絵画が刻画された例も存在する^{註23}(第223図24)。

以上のような点をもみても、墨書・刻書紡錘車が紡織に関わる祭祀・儀礼等の行為に際して使用される場合があったことは、それらの用途の一例としては間違いないところであろう。それは、日常的な紡織行為の中で、あるいはまた神衣を織るなど特別な繊維製品の紡織に伴う祭祀・儀礼の場での使用、あるいはさらに、その一方で、紡錘車本来の用途を離れた祭祀・儀礼の場で使用されるような場合すら存在しえた可能性も全く否定することはできない^{註24}。

おわりに

年号が記された刻書紡錘車の類例が増加したことで、それらが呪術・祭祀・儀礼等の行為に伴って使用されたことがより明確に出来たと思う。

このような、在地における集落遺跡から出土した文字資料を検討すること、それらがある特定の地域にかなり限定して存在している資料であればこそ、それら資料そのものについて検討することが、直接的にその地域における特異な祭祀・信仰の実態、ひいてはそれらを生み出した古代村落社会の解明につながってくるわけであり、そこにこそこれらの資料が有する歴史的な意義が存在する。

註

註1 拙稿「第二部第二章 古代の墨書・刻書紡錘車—上野国域内出土資料の検討を中心に—」(拙著『古代東国地域史と出土文字資料』東京堂出版2006)

なお、当該資料については、これまで「線刻紡錘車」あるいは「刻字紡錘車」などと言われることが多かったが、文字が記された紡錘車の総称として本稿では「墨書・刻書紡錘車」の語を使用することにしたい。ただし、これまで、墨書された紡錘車の類例は極めて僅少であり、圧倒的多数が刻書紡錘車である。

「線刻紡錘車」という概念の中には、当然、文字ばかりでなく記号や絵画が記されたものもあり、中には放射状や鋸歯状など明らかに紋様と考えられるものが記されているものもあるので、そのような資料と文字が記された資料とを明確に区別する必要があると考えられること、また、墨書・刻書土器に対応する言葉として「墨書・刻書紡錘車」の語が成り立つことなどの理由による。

註2 長岡京跡右京6条2坊7町出土の墨書紡錘車の初出は、渡辺晃宏「2000年度出土の木簡」(木簡学会第23回研究集会、2001年12月1日、於：奈良文

化財研究所)口頭報告による。須恵器杯底部を転用した土製の紡錘車で、上面に「石上朝」の文字が墨書されている。その後、2001年12月に財団法人長岡京市埋蔵文化財センター小田桐淳・中島皆夫両氏のご厚意で実見・調査することができた。吉井町(当時)多胡碑記念館特別展図録『紡む』2009に写真掲載。

註3 岩手県奥州市水沢区佐倉河の伯濟寺遺跡は、胆沢城跡の南約500mに位置する。胆沢城とほぼ同時期の古代集落遺跡で、石製の紡錘車の上面に「金見長秋女」と人名が刻書されたものが出土している。関東地方以北では今のところ唯一の墨書・刻書紡錘車の事例であり、調査者も坂東から移配された人物が関わった可能性を想定している(水沢市埋蔵文化財調査センター編『水沢市佐倉河伯濟寺遺跡現地説明会資料』2002、なお、吉井町(当時)多胡碑記念館特別展図録『紡む』2009に写真掲載)。2007年11月24日～25日に奥州市埋蔵文化財調査センターで開催された第5回東北文字資料研究会岩手大会において、同センター所長(当時)伊藤博幸氏のご厚意で実見・調査することが出来た。

註4 小城市教育委員会『北小路遺跡1・2区丁永遺跡1・2・4・5区市道永岡1号線・永岡小路線改良工事および代替地造成工事、市道北小路～市民病院線拡幅工事、小城市立小城中学校全面改築工事に係る埋蔵文化財調査報告書』2010。

註5 長崎新聞ほか2013年6月8日付記事。「都」「木」の字がそれぞれ逆方向に刻書。上下面ほぼ同一の大きさで滑石製。直径約4.5cm、厚さ約1cm。10世紀後半～11世紀中ごろとみられるという。発表した長崎県教委は、「木」は当該郡である彼杵郡の郡名の一部を、「都」は「津」=港を意味し、港は役所近くに置かれた事例が多いことから、竹松遺跡周辺に官衙が存在した可能性を指摘しているが、郡名の一部を表記する際に、二文字目で表現する方法は考えにくく、また、「津」を「都」と言う文字で記した類例も寡聞にして聞かないので、報道の通りの発表があったとすれば、その想定は当たらないと考えられる。

註6 墨書・刻書紡錘車が関東地方のごく一部の地域に集中して出土していることや関東地方以外の地域からの出土が、僅か4点のみであることを考慮すれば、坂東地域からの移配者との関わりを想定することの蓋然性は高いように思われる。

なお、南関東地域では相模国内で2点、甲斐国内で1点と非常に少なく、また、北関東地域でも下野国内では8点、常陸国内では17点と、上野・武蔵北西部～中部以外での類例は少ない(2013年9月末現在、管見の限り)。

註7 大沢末男・茂木由行「吉井町黒熊第4遺跡出土の刻字ある紡錘車について」(『群馬文化』196 1983)、内木真琴・中沢悟・鬼形芳夫「吉井町矢田遺跡出土の文字資料について」(『群馬文化』209 1987)、井上唯雄「線刻をもつ紡錘車について」(『古代学研究』115 1987)、中沢悟・春山秀幸・関口功一「古代布生産と在地社会—矢田遺跡出土紡錘車の分析を通して—」(『群馬の考古学—創立十周年記念論集』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1988)、関和彦「物部郷長」の世界」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡』II 1991)、同「矢田遺跡と養蚕」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡』III 1992)、宮瀧交二「日本古代の民衆と「村堂」」(野田嶺志編『村のなかの古代史』岩田書院2000)、松岡真帆「集落と紡錘車—埼玉県将監塚・古井戸遺跡における紡錘車の出土状況について—」(『東京考古』19 2001)、鈴木孝之・若松良一「信仰資料としての紡錘車—呪文や宗教絵画を刻んだ石製紡錘車—」(財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』16 2001)、山添春苗「線刻入り紡錘車の性格と変遷—常総地域を中心に—」(『祭祀考古』20 祭祀考古学会2001)、同「線刻入り紡錘車から見た古代の地域社会—関東地方出土の事例から—」(『土壁』6 考古学を楽しむ会2002)、黒澤秀雄「水戸市二の沢B遺跡(古墳群)出土刻書紡錘車について」(『婆良岐考古』25 婆良岐考古同人会2003)、

岡野秀典「山梨県出土の紡錘車」(山梨県考古学協会編『山梨県考古学論集』V 山梨県考古学協会25周年論文集 2004)、宮瀧交二「遺跡出土文字資料」(歴史科学協議会ほか編『歴史をよむ』東京大学出版会 2004)、同「刻書紡錘車からみた日本古代の民衆意識」(須田勉編『古代の信仰を考える』第71回日本考古学協会総会国土館大学実行委員会 2005)、門田誠「東国古代の出土文字資料にみる仏教語—集落における経典と信仰の実相」(『佛教学大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』1 2005)、同「古代東国出土の線刻文字資料に関する一解釈—古代集落における経典読誦の実態」(『佛教学大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』2 2006)、同「古代東国出土紡錘車刻書の仏教的願文—埼玉県泉樹原遺跡出土資料の釈義」(『佛教学大学論集』9 2007)、同「古代東国の出土文字資料にみる仏教の普及」(第20回春日井シンポジウム—第2部「文字の受容と創造—古代からの日本人の識字率」2012)など。

なお、紡錘車そのものについての近年における体系的な研究としては、中沢悟「紡錘車の基礎研究」1(『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』13 1996)、同「紡錘車の基礎研究」2(『専修考古学』6 1996)、同「矢田遺跡における紡錘車の所有形態について」(『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』矢田遺跡Ⅶ 1997)、同「紡錘車について」(山梨県考古学協会編『山梨県考古学協会2012研究集会：紡織の考古学—紡ぐ・織る・縫う—資料集』2013)がある。

註8 井上唯雄氏註7前掲論文。

註9 (財)山武郡市文化財センター『南麦台遺跡』1994。

註10 (財)茨城県教育財団『二の沢A遺跡・二の沢B遺跡(古墳群)・ニガサワ古墳群』2003、黒澤秀雄「水戸市二の沢B遺跡(古墳群)出土刻書紡錘車について」(『婆良岐考古』25 2003)

註11 疫神や鬼神・崇神などを含んだ意味における神仏に対して自分の名前を居住地から明記するのは招福除災を確実に得るための所作であるということは、平川南氏が指摘されている。示唆に富む見解と言えるだろう(同「墨書人面土器と文字」『藤沢市史研究』24 1991、のち同氏著『墨書土器の研究』吉川弘文館 2000に収録)。

註12 拙稿「前田遺跡出土の文字資料」(『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』前田遺跡』2004)。なお、この資料に記された「福道」「志万」あるいは「福道志万」「福道志万呂」という人名が、三上喜孝氏が指摘されるように実名ではなく、嘉名である可能性も存在しないではないと言える(同「墨書土器研究の可能性」『山形大学人文学部年報』創刊号 山形大学人文学部 2004、同「古代地域社会における祭祀・儀礼と人名」須田勉編『古代の信仰を考える』第71回日本考古学協会総会国土館大学実行委員会 2005、のち同氏著『日本古代の文字資料と地域社会』吉川弘文館 2013に収録)。

註13 尾島町編『尾島町誌』通史編(上) 1993では、「矢田人即世矢田公子家字弔」と釈読し、「矢田衆人という人が亡くなり、それを矢田公の子家字という人が弔った」と解釈しているが、2000年8月に宮瀧交二氏と私とが、当時尾島町教育委員会に在勤されていた須永光一氏(現在、太田市教育委員会教育部文化財課長)のご厚意で実見・調査させていただいたところ、本文で示したように釈読できたので、私の責任に於いて、私見として、旧稿以来、この釈文を提示する。

註14 宮瀧交二氏註7前掲論文。なお、関東地方出土の仏教信仰に関わる内容を有する刻書・刻画紡錘車については、門田誠一氏註7前掲論文も併せて参照のこと。

註15 (財)千葉県文化財センター『千葉東南部ニュータウン ムコアラク遺跡』1979。文字は上面に9文字及び二重楕円形状の記号が中心部を上にした位置で記されている。2002年2月に宮瀧交二氏と私とが(財)千葉県文化財センターにうかがって実見させて頂いたが、実物を観察すると二段にわたって記されている様子がわかるものの、どのような方向から読んでも、

文意はとりにくい。

鈴木孝之・若松良一両氏は、「林」と「秋」の字が重なっているところからこれを文末とみて、2つの文がそれぞれ異なる方向に配列されていると解釈し、一方を「◎神申如林」(「目の神は林の如く饒舌に申す」の意)、いま一方を「為南無界秋」(「尊い収穫の為に」の意)と読まれ(鈴木孝之・若松良一註7前掲論文)、全体の文意を「目の神は尊い収穫のために林のように饒舌に申す」という文意を採っておられるが、宮瀧氏と私とが実物を検討した際にはそのように読みとめることは困難であった。

註16 (財)とちぎ県生涯学習文化財団埋蔵文化財センター『多功南原遺跡(奈良・平安時代編)』1999、山口耕一「多功南原遺跡出土の文字資料について」(『財団法人とちぎ県生涯学習文化財団埋蔵文化財センター研究紀要』9 2001)。

註17 経蔵の中央に、中心軸に沿って回転することができるよう経文を収納する書架を円形状に近い形に設置した回転式書架で、俗に、経蔵を回転させると、それだけで経典を読誦したのと同様の御利益が得られるものと信じられ、その起源については、中国・南北朝時代(5世紀)、梁の学者であった傅大士による発明と伝えられている。後世、主にチベット仏教で用いられる仏具であるマニ車の機能とも共通する。

マニ車は円筒形で、側面にはマントラが刻まれており、内部にはローリング状の経文が納められている。大きさは様々で、手に持てる大きさのものがあれば、寺院などでは数十cm、大きいものでは数mにも及ぶものが設置されているところもある。

輪蔵と同様、回転させた数だけ経を唱えるのと同じ功德があるとされているが、輪蔵のような建築物に作り付けられた調度ではなく、携帯を前提とした小型のものが主であることが特徴である。

マニ車の初源は不明であり、わが国で出土する奈良・平安時代における墨書・刻書・刻画紡錘車との前後関係や、あるいは直接の影響などについては全く不明であり、それらを直接結び付けようなどとは全く思わない。しかしながら、墨書・刻書・刻画紡錘車には、墨書・刻書土器の類例よりも仏教信仰に関わる絵画や文言が格段に多く見られるという事実と、紡錘車が本来的に有する「回転」という機能からみれば、寺院や仏教信仰の場における、この種の回転機能を有する法具の存在は示唆的である。

註18 (財)長野県埋蔵文化財センター『屋代遺跡出土木簡』1999

註19 2002年1月、宮瀧交二氏と私とが埼玉県埋蔵文化財調査センターにおいて実見調査したおり、この枇杷橋遺跡出土の紡錘車に刻画された人面の上から傷を付けて抹消しようとしたような痕跡が看取できた。

人面墨書土器を含む祭祀関連墨書土器で、祭祀に際して使用した後に明らかに粉砕して廃棄している事例がまま見受けられることがあるが、紡錘車に刻画された人面上から傷を付けて抹消する行為は、人面墨書土器における祭祀終了後の粉砕廃棄に相当する祭祀終了後の行為とみなすことが出来よう。このことは、この刻書紡錘車を祭祀関連の資料と考える上での有力な傍証の一つであり、この紡錘車が祭祀に際して使用されたものであることの蓋然性が高い。

註20 宗像大社復興期成会『沖の島』1958、同『続沖の島』1961。

註21 其夜、夢見三臥機絡土朶一、舞遊出来、墜二驚珂是古一、於レ是、亦識二女神一即立レ社祭之。

註22 関和彦『風土記』社会の諸様相—その3—(『風土記研究』8 1989)。

註23 市立市川考古博物館『下総国分寺跡—平成元～5年度発掘調査報告書』1994。

註24 ただし、墨書・刻書紡錘車が、紡錘車本来の用途・機能である紡織作業と全く無関係な祭祀・儀礼等の行為に使用されたであろうことが確かな事例は、現在までのところ皆無である。

第6章 総括

第18表 上野国域内出土古代刻書紡錘車

番号	所在地	遺跡名	出土遺構	材質	形状	上径 (cm)	下径 (cm)	厚み (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形状	年代	墨書・刻書 部位	釈文
1	群馬県みなかみ町	後田遺跡	79号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.5	3.6	1.4	0.9	70.1	完形	8世紀後半	上、下面	「手哀」4か所
2	群馬県沼田市	大釜遺跡	26号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.7	3	1.4	0.7	43.4	完形	9世紀前半	上面	判読不能
3	群馬県沼田市	戸神諏訪遺跡	58号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.8	4.1	1.4	0.7	30.4	約1/2	9世紀後半	下面	「十」
4	群馬県沼田市	戸神諏訪遺跡	129号竪穴建物跡	流紋岩	薄台形	4.8	3.5	1.7	0.7	59.1	完形	9世紀前半	側面	判読不能
5	群馬県沼田市	戸神諏訪遺跡	136号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.9	3.9	1.6	0.7	67	完形	9世紀後半	側面	「十」
6	群馬県沼田市	戸神諏訪Ⅱ遺跡	A-47号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.9	2.8	1.7	0.9	61	完形	9世紀前半	側面	寺院仏堂線刻・「有馬酒麻呂」
7	群馬県渋川市	有馬条里遺跡	1号竪穴建物跡	滑石片岩	厚台形	4.7	3.5	1.9	0.7	50	完形	9世紀前半	上、下面	(上)「有馬公方」 (下)「有」「有」
8	群馬県前橋市	見眼遺跡	5号竪穴建物跡	滑石片岩	厚台形	4.2	1.8	1.8	0.8	—	完形	9世紀前半	側面	「見」「見」「利」「利」「利」
9	群馬県前橋市	荒砥天之宮遺跡	C-21号竪穴建物跡	滑石	薄台形	4.8	3.4	1.5	0.6	52	完形	6世紀後半	側面	「八十」
10	群馬県前橋市	荒子小学校Ⅱ・Ⅲ遺跡	20号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.5	3	1.5	0.9	57	完形	8世紀後半		「下」
11	群馬県前橋市	荒子小学校Ⅱ・Ⅲ遺跡	20号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.6	3.5	1.4	0.8	48	完形	8世紀後半		「□□若代□□去勢女」
12	群馬県前橋市	柳久保遺跡Ⅵ	65号竪穴建物跡	滑石	薄台形	4.8	3.2	1.6	0.9	—	完形	8世紀後半		判読不能
13	群馬県前橋市	芳賀東部団地Ⅰ遺跡	H383号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.1	3	1.2	0.9	—	完形	9世紀後半	側面・逆位	「有」「有」「有」「合」「木」「□」
14	群馬県前橋市	芳賀東部団地Ⅱ遺跡	H-81号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	3.7	2.7	1.5	0.9	—	完形	9世紀後半	側面	「勢多郡楊口五百口都口」
15	群馬県前橋市	芳賀東部団地Ⅱ遺跡	H-77号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.6	4.5	1.4	0.9	—	完形	9世紀後半	上、下面	(上)「春日マ」「春日」「春日」「上上」 (下)「磨春日マ国磨」
16	群馬県前橋市	芳賀東部団地Ⅱ遺跡	K-113竪立柱建物跡	石製	薄台形	3.8	2.6	1.4	0.6	—	完形	不明	下面・側面	(下)「山」 (側)「×」
17	群馬県前橋市	芳賀東部団地Ⅱ遺跡	H-140号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.7	3.1	1.6	0.7	—	完形	8世紀前半	側面	「祀」
18	群馬県前橋市	荒砥北部遺跡	H-43号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.8	3.6	1.2	0.9	—	完形	不明	下面	「大田部□岡子」
19	群馬県前橋市	鶴谷Ⅱ遺跡	30号竪穴建物跡	滑石	厚台形	4.4	2.7	1.8	0.8	—	完形	8世紀後半	側面	「八田」
20	群馬県前橋市	上西原遺跡	72号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.4	4.2	1.2	0.9	—	完形	9世紀後半	下面	「是有食月有見」
21	群馬県前橋市	上西原遺跡	85号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	4.2	2.6	1.8	0.8	—	完形	9世紀中葉	側面・下面	(側)「大井」 (下)「□」「□」
22	群馬県前橋市	前田遺跡	A-31号竪穴立建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.7	3.4	1.4	0.8	50.4	完形	9世紀前半	側面	「福道志万家都无」
23	群馬県前橋市	前田遺跡	A-62号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.4	3.4	1.3	0.8	31.3	完形	9世紀前半	上面・下面	(上)「有有有有本本本」 (下)「大用」
24	群馬県吉岡町	熊野・辺玉遺跡	2区19号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.1	2.9	1.5	0.7	40.4	完形	6世紀後半	上面	「#」
25	群馬県高崎市	熊野堂遺跡	81号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.8	3.1	1.6	0.8	56.4	完形	9世紀後半	側面・正位	「万」「大大大大」
26	群馬県高崎市	熊野堂遺跡	81号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.1	3	1.2	0.8	35.3	完形	9世紀後半	側面・正位	「上」
27	群馬県高崎市	融通寺遺跡	4区21号竪穴建物跡	蛇紋岩	長方形	4.7	4.7	1.4	0.8	55.6	完形	9世紀前半	側面	判読不能
28	群馬県高崎市	大八木屋敷遺跡	89号竪穴建物跡	土製	薄台形	4	2.8	1.2	0.5	—	3/4	9世紀後半	上、下両面	「加口」・「加口」
29	群馬県高崎市	下佐野遺跡	4区14号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.8	3	1.8	0.8	66.7	完形	9世紀後半	下面	判読不能
30	群馬県高崎市	生原佐藤遺跡	竪穴建物跡	泥岩	薄台形	3.5	5.3	1.8	—	—	完形	不明	側面・下面	(側)「田口」(下)「田口」
31	群馬県高崎市	棟高遺跡	表採	不明	不明	—	—	—	—	—	完形	不明	側面	「車」
32	群馬県高崎市	黒熊遺跡	4区24号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	7.5	6.6	2.2	0.8	66.2	完形	7世紀末	上面・側面	(上)「下家」「下家車車」 (側)「福」「下家」
33	群馬県高崎市	矢田遺跡	50号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	4.6	2.3	1.9	0.7	49.2	完形	11世紀前半	側面	「八田郷」「八田郷」「八田郷」「家郷」
34	群馬県高崎市	矢田遺跡	79号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	4.7	2.3	1.9	0.7	52.3	完形	11世紀前半	側面	「八田郷」「八田郷」「八田郷」「大」
35	群馬県高崎市	矢田遺跡	83号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	7.1	5	1.8	0.8	145.9	完形	8世紀後半	上面	「牝馬馬手為嶋名」
36	群馬県高崎市	矢田遺跡	189号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.1	3.1	1.6	0.8	54.8	完形	8世紀前半	上面・側面	(上)「×、田」 (側)「×」
37	群馬県高崎市	矢田遺跡	12号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.6	3.4	1.4	0.9	51.5	完形	10世紀前半	側面	「物部郷長」
38	群馬県高崎市	矢田遺跡	679号竪穴建物跡	滑石片岩	薄台形	5.2	3.6	1.7	0.8	44.1	完形	9世紀後半	上、下面	(上)「物P」「八田」 (下)「万」
39	群馬県高崎市	矢田遺跡	61号竪穴建物跡	滑石	薄台形	4.4	2.6	1.6	1	41.5	完形	8世紀後半	下面	「土」
40	群馬県高崎市	矢田遺跡	88号竪穴建物跡	滑石	長方形	5.4	5.2	1	0.9	55.6	完形	8世紀前半	上か下面 (上下区別難)	「万」「万」「万」「八」
41	群馬県高崎市	矢田遺跡	496号竪穴建物跡	滑石	厚台形	4.9	2.6	2	0.7	65	完形	8世紀前半	下面	「八」
42	群馬県高崎市	矢田遺跡	728号竪穴建物跡	滑石	薄台形	5	2.7	1.8	0.7	62.1	完形	8世紀後半	側面	「八田」
43	群馬県高崎市	矢田遺跡	526号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.6	3.1	1.7	0.9	70.5	完形	9世紀後半	上面	「万」
44	群馬県高崎市大字神保字北高原	表採	滑石	厚台形	4.85	2.35	2	0.9	60	完形	不明	上面	「真佛」(蓮弁様の絵画的表現)	
45	群馬県玉村町	福島曲戸遺跡	遺物包含層	蛇紋岩	厚台形	4.8	3.4	1.5	0.9	52	完形	9世紀	側面	(側)「村長解申□□口□」
46	群馬県玉村町	福島曲戸遺跡	遺物包含層	蛇紋岩	厚台形	4.8	3.1	1.5	0.8	36	完形	9世紀	側面	「上野国迎路銅路路」
47	群馬県玉村町	福島曲戸遺跡	遺物包含層	蛇紋岩	薄台形	4.8	3.4	0.9	0.8	16	完形	9世紀	下面	「虫尼」
48	群馬県伊勢崎市	書上原之城遺跡	43号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.1	3.6	1.5	0.8	66.3	完形	9世紀後半	側面・上面	(側)「福」「美」「□」「□」
49	群馬県伊勢崎市	上植木老町田遺跡	地下式土坑跡	蛇紋岩	厚台形	3.6	2	1.8	0.6	30.6	完形	不明	側面・下面	判読不能
50	群馬県伊勢崎市	上植木光仙房遺跡	36号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.2	3.6	1.5	0.9	67.4	完形	9世紀後半	側面	「王」
51	群馬県伊勢崎市	上植木光仙房遺跡	37号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5	3.6	1.5	0.9	56.7	完形	9世紀後半	側面	「天」「矢」「未」「天」「夫」
52	群馬県伊勢崎市	上植木光仙房遺跡	91号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.4	4	1.5	0.9	68.3	完形	10世紀後半	側面	「山毛」
53	群馬県伊勢崎市三和町	表採	角閃石安山岩	薄台形	—	—	—	—	—	—	完形	不明	側面	「生」「玉」
54	群馬県伊勢崎市	十三宝塚遺跡	10号竪穴建物跡	滑石	薄台形	2.6	3.8	1.6	—	—	完形	不明	側面逆位、 上面	(側)「萬眼目□□朝周家」 (下)「東」「妙」

第1節 伊勢崎市関遺跡出土刻書紡錘車

番号	所在地	遺跡名	出土遺構	材質	形状	上径 (cm)	下径 (cm)	厚み (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形状	年代	墨書・刻書 部位	釈文
55	群馬県伊勢崎市	上武士・堀北遺跡	Ⅱ区2号溝跡	蛇紋岩	薄台形	5.5	5	1.5	0.8	37.6	上面 1/2欠	9世紀前半	上面・下面・ 側面	(上)九(側)犬甘・人麻呂 (下)中臣
56	群馬県伊勢崎市	関遺跡	4区5号住居跡	蛇紋岩	薄台形	4.4	2.7	1.5	0.8	39.1	完形	8世紀後半	側面	(側)「丈」「木」(正位)「佐位」「郡」 「作」カ「有」(倒位)
57	群馬県太田市	尾島工業団地遺跡	竪穴建物跡	滑石	薄台形	5.5	4	1.6	—	—	完形	9世紀中葉	上面	「矢田□人即万呂矢田公子家守状」
58	群馬県太田市	台遺跡	62区2号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5	3.4	1.5	1	—	完形	9世紀後半	上下面	(上)「越中国」 (下)「甲」「人」
59	群馬県太田市	稲荷宮遺跡	1号竪穴建物跡	土製	薄台形	4.1	5.7	1.4	—	—	完形	9世紀中葉	上面	「法師尼」
60	群馬県太田市	東長岡戸井口遺跡	110号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.5	3	1.4	0.8	46	完形	8世紀末	上面・側面 横位	(上)「中村田□盛長□」 (側)「太綾神奉奉」上
61	群馬県太田市	向矢部遺跡	21号竪穴建物跡	滑石	薄台形	4.5					完形	9世紀前半	上面	「米」「毛」
62	群馬県太田市	間之原遺跡	小ピット	蛇紋岩	薄台形	4.05	3.3	1.18	0.95	33.9	完形	9世紀前半	上面・下面 側面	(上)「日奉部」 (側)「川」カ「三」カ (下)「天長七年一月三日」(=西 曆830年)
63	群馬県太田市	築前遺跡	3区5号竪穴建物	蛇紋岩	薄台形	5.2	4.2	1.4	0.7	69.7	完形	9世紀前半	上面	「大林」
64	群馬県太田市	築前遺跡	4区表土	蛇紋岩	厚台形	5.2	3.2	1.8	1	75.5	完形	9世紀前半	側面	「富寿」

文献(数字は第18表の番号と一致する)

- 1 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『後田遺跡』Ⅱ 1988
- 2 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『大釜遺跡・金山古墳群』 1983
- 3～5 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『戸神諏訪遺跡』 1990
- 6 沼田市教育委員会『戸神諏訪Ⅱ遺跡』 1992
- 7 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『有馬条里遺跡』Ⅱ 1991
- 8 富士見村教育委員会(当時)『富士見遺跡群一田中田遺跡・窪谷戸遺跡・見眼遺跡一』 1986
- 9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『荒砥天之宮遺跡』 1988
- 10～11 前橋市教育委員会『荒子小学校校庭Ⅱ・Ⅲ遺跡』 1989
- 12 前橋市教育委員会『柳久保遺跡群』Ⅵ 1988
- 13 前橋市教育委員会『芳賀東部団地』Ⅰ 1984
- 14～17 前橋市教育委員会『芳賀東部団地』Ⅱ 1988
- 18 群馬県教育委員会『荒砥北部遺跡群』 1984
- 19 前橋市教育委員会『鶴谷遺跡群』Ⅱ 1982
- 20～21 群馬県教育委員会『上西原遺跡』 1999
- 22～23 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『前田遺跡』 2004
- 24 吉岡町教育委員会『熊野・辺玉遺跡』 1995
- 25～26 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『熊野堂遺跡』2 1990
- 27 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『融通寺遺跡』 1991
- 28 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『大八木屋敷遺跡』 1996
- 29 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『下佐野遺跡Ⅱ地区』 1989
- 30 井上唯雄「線刻をもつ紡錘車一群馬県における事例を中心に一」(『古代学研究』115 1987)
- 31 かみつけの里博物館『ゲンマはクルマからはじまった』 2001
- 32 吉井町教育委員会(当時)『黒熊遺跡群発掘調査報告書』3 1984
- 33～43 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡』Ⅰ～Ⅷ 1990～1997
- 44 拙稿「群馬県多野郡吉井町大字神保字北高原出土の刻書紡錘車について」(『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』22 2004)
- 45～47 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』 2002
- 48～49 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壺町田遺跡』 1988
- 50～52 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『上植木光仙房遺跡』 1989
- 53～54 井上唯雄「線刻をもつ紡錘車一群馬県における事例を中心に一」(『古代学研究』115 1987)
- 55 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『上武士・堀北遺跡』 2013
- 56 本報告書
- 57 尾島町(当時)『尾島町誌 通史編』上 1994
- 58 新田町教育委員会(当時)『台遺跡』 1988
- 59 群馬県教育委員会『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』 1985
- 60 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『東長岡戸井口遺跡』 1999
- 61 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『向矢部遺跡』 2012
- 62 新倉明彦・中沢悟・高島英之「間之原遺跡出土の刻書紡錘車について」(『財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『埋文群馬』52) 2010
- 63～64 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『築前遺跡』Ⅰ 2009

第6章 総括

第19表 武蔵国域内出土古代刻書紡錘車

番号	所在地	遺跡名	出土遺構	材質	形状	上径 (cm)	下径 (cm)	厚み (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形状	年代	墨書・刻書 部位	釈文
1	埼玉県上里町	田通遺跡	22号竪穴建物跡	土製	薄長方形	—	—	—	—	—	完形	—	下面	「長井長長井」
2	埼玉県上里町	中堀遺跡	6号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.8	3.6	0.9	0.8	—	完形	10世紀後半	側面・横位	「荒馬□(令方・今方)」
3	埼玉県上里町	中堀遺跡	18号竪穴建物跡	石製	薄台形	5.4	3.8	1.1	0.8	—	完形	9世紀後半	側面・横位	「榎下□器具」
4	埼玉県上里町	若宮台遺跡	44号竪穴建物跡	滑石	薄台形	5.2	3.8	1.2	0.8	—	完形	9世紀(856)	上面	「天安二年十二月廿八日□ (黒カカ)」
5	埼玉県上里町	若宮台遺跡	46号竪穴建物跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「天」
6	埼玉県上里町	若宮台遺跡	46号竪穴建物跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「大大大大□」
7	埼玉県上里町	若宮台遺跡	46号竪穴建物跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	下面	「井」
8	埼玉県上里町	臺遺跡	35号竪穴建物跡	不明	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「」(判読不能)
9	埼玉県上里町	楡下遺跡北部地区	40-147Gr.	緑泥片岩	薄台形	4.2	2.8	1.3	0.8	—	完形	8世紀後半	上面・側面	(上)「秋戌」 (側)「秋秋」
10	埼玉県上里町	楡下遺跡中部地区	H-267号竪穴建物跡	黒色頁岩	薄台形	4.2	—	2	0.7	5.5	完形	9世紀初頭	側面	「+++++」
11	埼玉県神川町	皂樹原遺跡中部地区	162号竪穴建物跡	黒色頁岩	薄台形	5	3.7	1.4	0.6	56	完形	8世紀後半	側面・正位 /上面	(側)「目臣申申」 (上)「目臣」
12	埼玉県神川町	皂樹原遺跡中部地区	78-130G	硬砂岩	厚台形	4.3	3.1	2	0.7	64	完形	9世紀	側面・横位	「観□天郷刀称具□□□」
13	埼玉県神川町	皂樹原遺跡中部地区	SB46	石製	薄台形	—	—	—	—	—	完形	9世紀後半	側面・倒位	「大伴」
16	埼玉県神川町	皂樹原遺跡南部地区	113号竪穴建物跡	石墨片岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	8世紀前半	側面・正位	「大□」
17	埼玉県神川町	中原遺跡		石製	薄台形	—	—	—	—	—	完形	9世紀か?	上面	「武蔵」
18	埼玉県神川町	中原遺跡2区	H-53号竪穴建物跡	石墨片岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上面	「十十」
19	埼玉県本庄市	大久保山遺跡	123号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	4.1	2.5	1.8	0.7	42.2	完形	8世紀前半	側面・正位	(菩薩形仏像頭部、供花2か所、 須弥山様絵画線刻)
20	埼玉県本庄市	大久保山遺跡	12号竪穴建物跡	石製	薄台形	5.3	—	—	—	—	1/2	9世紀後半	側面	「□」
21	埼玉県本庄市	大久保山遺跡	不明	滑石	厚台形	—	—	—	—	—	完形	不明	側面	「#」
22	埼玉県本庄市	大久保山遺跡	75号竪穴建物跡	滑石	薄台形	4.8	—	—	—	—	完形	9世紀後半	側面・横位	「大下大井□」
23	埼玉県本庄市	南大通り線内遺跡	51号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.07	2.8	1.4	0.8	—	完形	9世紀前半	上面	「武蔵国児玉郡草田郷太田マ身麻呂」
24	埼玉県本庄市	東五十子田端屋敷遺跡	60号竪穴建物跡	蛇紋岩か?	薄台形	4.4	3.8	0.8	0.8	—	完形	9世紀中～ 後半	上面・下面・ 側面	(上)「大里郡太古郷□直奉」 (下)「有大有路直奉」 (側)「縮カ国細□□」
25	埼玉県本庄市	阿知越遺跡A地点	12号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	下面・側面	(下)「大大大」 (側)「大」
26	埼玉県本庄市	将監塚・古井戸遺跡	H-141号竪穴建物跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「上上」
27	埼玉県本庄市	東五十子遺跡	60号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上面・下面・ 側面	(上)「君志直身生木有薊大里有佃 工工」 (下)「去マ古郡之丞集身様□大里 戸主」 (側)「□」
28	埼玉県本庄市	東五十子遺跡	N-14GGr.	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	下面	「大大大大大大□(淵カ)」
29	埼玉県本庄市	地神遺跡	18号竪穴建物跡	土製	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	下面・側面	(下)「王」 (側)「王」
30	埼玉県本庄市	枇杷橋遺跡	16号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	5.2	2.8	1.8	0.8	—	完形	9世紀前半	側面・正位	「(人面)児玉武蔵蔵蔵児玉□□□ □」
31	埼玉県深谷市	熊野遺跡	9号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	3.9	3.4	1	0.7	—	完形	8世紀後半	上面/下面	(上)「良大朋首風朋□刀見観見」 (下)「道乙朋道具伏状」
32	埼玉県深谷市	熊野遺跡	C区18号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	5.2	4	1.3	0.8	—	完形	9世紀初頭	上面	「弓(符録カ?)成」
33	埼玉県深谷市	台耕地遺跡	49号竪穴建物跡	緑泥片岩	薄台形	5.3	—	—	—	—	完形	9世紀後半	下面・側面	(下)「□」 (側)「□□」
34	埼玉県深谷市	台耕地遺跡	60号竪穴建物跡	凝灰質砂岩	薄台形	4.6	—	—	—	—	完形	9世紀中葉	上面	「大大」
35	埼玉県深谷市	宮ヶ谷戸遺跡	19号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	5.2	3.6	1.6	1.8	74.6	完形	9世紀後半	上面	「原郡□」
36	埼玉県深谷市	宮ヶ谷戸遺跡	44号竪穴建物跡	滑石	厚台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「田」
36	埼玉県深谷市	宮西遺跡	162号竪穴建物跡	滑石	厚台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「米」
37	埼玉県深谷市	北阪遺跡	13号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「□□□□□」
38	埼玉県深谷市	大寄遺跡	60号竪穴建物跡	石製	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上面	「山山山山」
39	埼玉県熊谷市	北島遺跡	28号竪穴建物跡	須恵器転用	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上下面判断 不能	「□」
40	埼玉県熊谷市	北島遺跡	46号竪穴建物跡	滑石	薄台形	4.3	3.2	1.2	0.7	37.1	完形	9世紀中葉	上面/側面・ 横位/下面	(蓮華紋絵画線刻)
41	埼玉県熊谷市	北島遺跡	59号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「□」
42	埼玉県熊谷市	下田町遺跡	412号土坑	安山岩	厚台形	4.4	3.3	2.2	0.9	—	完形	9世紀	上面	「古部豊川」
43	埼玉県熊谷市	大林遺跡	3号竪穴建物跡	石製	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「□」
44	埼玉県行田市	小針遺跡	23号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.6	3.6	—	0.8	—	完形	9世紀中葉	上面/側面	(上)「私物私物」 (側)「私物(水鳥の絵画)」
45	埼玉県行田市	小針遺跡	54号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「支部鳥麻呂」
46	埼玉県行田市	原遺跡	2号竪穴建物跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「有」
47	埼玉県嵐山町	六丁遺跡	3号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上面	「有有有」
48	埼玉県吉見町	西吉見条里遺跡	遺構外	石製	薄台形	4.6	—	—	—	—	完形	9世紀	上面/下面	(上)「大仏□□□□□(布カ)」 (下)「世世世世」
49	埼玉県本本市	下宿遺跡	189号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	4.51	3.14	1.49	0.7	47.6	完形	9世紀前半	上面	「牛甘」「百」(如來形佛像面相、 施無畏印相、絵画線刻)
50	埼玉県坂戸市	若葉台遺跡	15号竪穴建物跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「井□」
51	埼玉県坂戸市	若葉台遺跡	表探	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	下面	「山継カ」
52	埼玉県坂戸市	御門遺跡	2号竪穴建物跡	石製	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	側面	「キ」

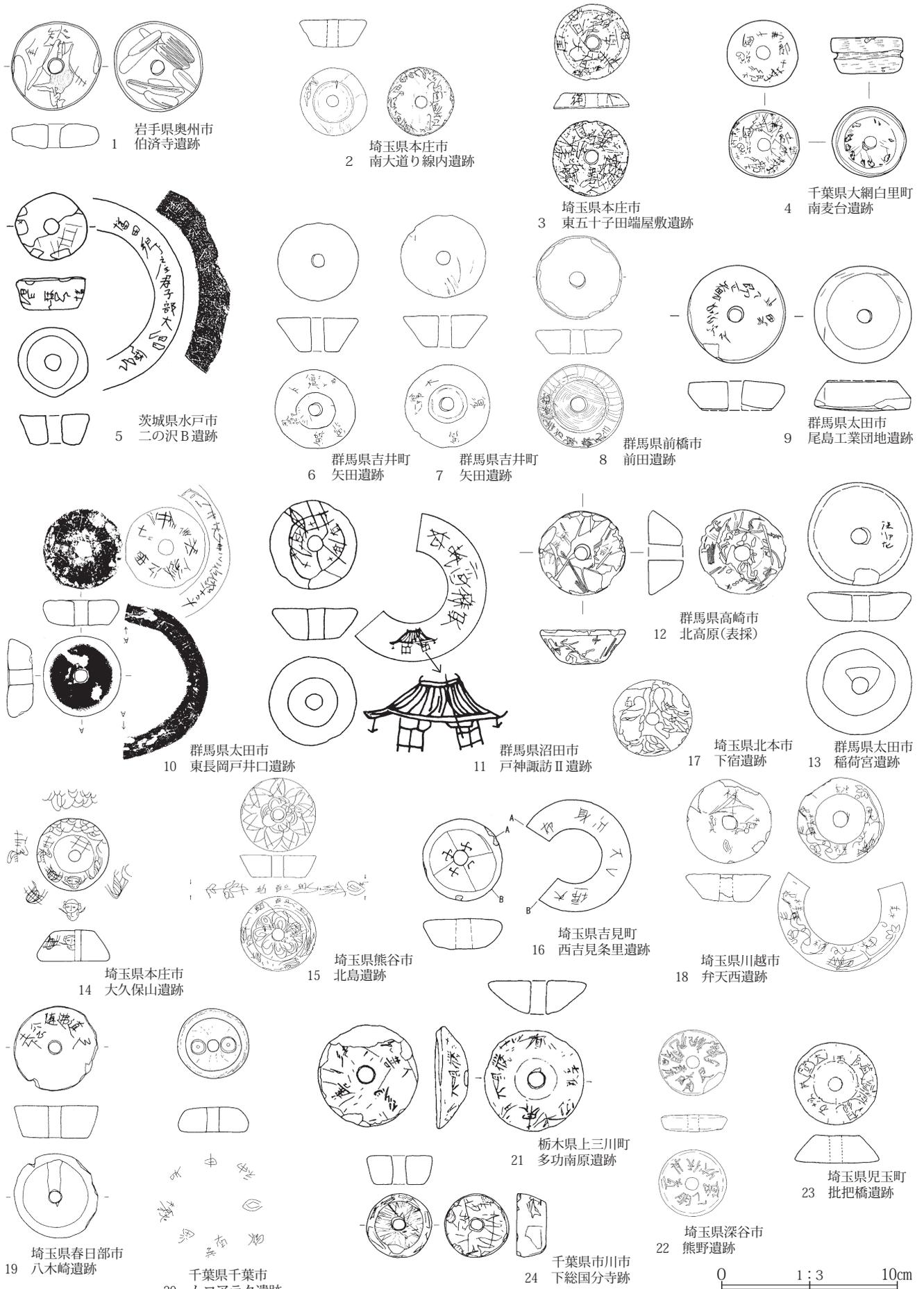
第1節 伊勢崎市関遺跡出土刻書紡錘車

番号	所在地	遺跡名	出土遺構	材質	形状	上径 (cm)	下径 (cm)	厚み (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形状	年代	墨書・刻書 部位	釈文
53	埼玉県鶴ヶ島市	富士見一丁目遺跡	1号竪穴建物跡	絹雲母片岩	厚台形	4.5	—	—	—	—	完形	9世紀前半	上面・下面	(上)「大田大部」 (下)「大」
54	埼玉県東松山市	下山遺跡A区	3号竪穴建物跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上面・下面	(上)「麻」 (下)「里」
55	埼玉県東松山市	沢口遺跡	12号土坑跡	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上面	「佐太人」
56	埼玉県川越市	仲遺跡	表採	滑石	薄台形	—	—	—	—	—	完形	9世紀初頭 (806)	上面	「大同元年七〇(月カ)十四日」
57	埼玉県川越市	弁天西遺跡	15次調査4号竪穴建物跡	滑石	厚台形	4.8	2.8	1.4	0.8	—	完形	9世紀後半	上面・側面	(上)「祥(人物線刻画)」 (側)「祥祥祥祥(間に蓮弁線刻画)」
58	埼玉県川越市	龍光・新田屋敷遺跡	4号竪穴建物跡	蛇紋岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	上面・側面	(上)「□□」 (側)「□」
59	埼玉県春日部市	八木崎遺跡	6号竪穴建物跡	石製	薄台形	4.85	—	—	—	—	完形	9世紀前半	上面	「奉念随佛道足」
60	埼玉県加須市	水深遺跡	8号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	4.8	2.6	1.8	1	—	完形	9世紀中葉	側面・横位	「生」
61	埼玉県蓮田市	御林遺跡	1号竪穴建物跡	絹雲母片岩	薄台形	—	—	—	—	—	完形	—	下面	「武蔵」
62	東京都板橋区	前野田向遺跡第4地点	27号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形						完形		上面	「□」
63	東京都府中市	武蔵国府関連日鋼地区	M24-51号竪穴建物跡	滑石	厚台形	4.2	3.2	1.9	0.7	62.3	完形	8世紀後半	上面/側面・ 正位	(上)「高高邊大□□」 (側)「壬人」
64	東京都府中市	武蔵国府関連ヴェルレージュ府中けやき通り地区	51号竪穴建物跡	須恵器転用	薄長方形								上面	「□」
65	東京都国分寺市	武蔵国分寺跡	55号掘立柱建物跡	石製	厚台形								側面	「□代」
66	東京都日野市	落川遺跡	36号竪穴建物跡	輝緑岩	厚台形	4.2	2.7	1.8	0.7	54.6	完形	8世紀初頭 (714)	上面	「和銅七年十一月二日鳥撮部直六手纏」
67	東京都国立市	仮屋上遺跡	IV-2号竪穴建物跡	蛇紋岩	厚台形	4.3	3.3	1.3	0.9	43	完形	8世紀後半	上面/側面・ 正位	(上)「武蔵国多磨」 (側)「羊」

文献(数字は第19表の番号と一致する)

- 1 上里町教育委員会『田通遺跡』 1997
- 2～3 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『中堀遺跡』 1997
- 4～7 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『若宮台』 1983
- 8 上里町教育委員会『臺遺跡』 1980
- 9～10 臼樹原・檜下遺跡調査会『臼樹原・檜下遺跡』Ⅳ 1992
- 11～16 臼樹原・檜下遺跡調査会『臼樹原・檜下遺跡』Ⅲ・Ⅳ 1991・1992
- 17 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『沼下・平原・新堀・中山・お金塚・中井丘・鶴巻・大久保・猪久保遺跡』 1982
- 18 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『中原・金屎・久保宿・観音院南・光権寺・北原遺跡・大蔵塚』 1999
- 19～22 早稲田大学本庄校地文化財調査室『大久保山』Ⅰ～Ⅷ 1980～2000
- 23 本庄市教育委員会『埼玉県本庄市南大通り線内遺跡発掘調査報告書』 1987
- 24 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『下田町遺跡』Ⅱ 2005
- 25 児玉町遺跡調査会(当時)『阿知越遺跡』Ⅰ 1983
- 26 本庄市教育委員会『将監塚・古井戸 歴史時代編』2 1988
- 27～28 東五十子遺跡調査会『東五十子・川原町 児玉郡市広域市町村圏組合小山川クリーンセンター・湯かっこ建設工事関係発掘調査報告』 2002
- 29 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『地神・塔頭』 1988
- 30 埼玉県遺跡調査会『枇杷橋遺跡発掘調査報告書』 1973
- 31～32 岡部町教育委員会(当時)『熊野遺跡発掘調査概要報告書』 1997
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『熊野遺跡』 2002
- 33～34 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『台耕地』Ⅱ 1984
- 35～36 深谷市教育委員会『砂田・天神・宮ヶ谷遺跡』Ⅱ 1995
- 37 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『清水谷・安光寺・北坂』 1981
- 38 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『大寄遺跡』Ⅰ 2000
- 39～41 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『熊谷市北島遺跡』Ⅳ 1998
- 42 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『下田町遺跡』Ⅱ 2005
- 43 埼玉県史編纂室編『新編埼玉県史資料編 古代Ⅰ奈良・平安』 埼玉県 1984
- 44～45 行田市教育委員会『小針遺跡発掘調査報告書—B地区』 1980
- 46 行田市教育委員会『原遺跡発掘調査報告書 第3次調査』 1984
- 47 嵐山町遺跡調査会『六丁遺跡』 1995
- 48 吉見町教育委員会『西吉見条里遺跡』 2005
- 49 吉見昭『仏像を刻んだ紡錘車—北本市下宿遺跡の調査—』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『埋文さいたま』32 1990)
- 50～51 坂戸市教育委員会『若葉台遺跡発掘調査報告書』4・6 1997・2005
- 52 坂戸市教育委員会『坂戸市遺跡群発掘調査報告書第3集』 1991
- 53 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『鶴ヶ島市富士見一丁目遺跡』 1998
- 54～55 埼玉県史編纂室編『新編埼玉県史資料編 古代Ⅰ奈良・平安』 埼玉県 1984
- 56 田中稔『田中伝次郎氏採集紡錘車銘文の真偽鑑定書』(私家本、宮瀧交二氏のご教示により管見に入る) 1980
大川原竜一・黒済玉恵「資料紹介：川越市仲遺跡出土刻書紡錘車の調査」(『明治大学古代学研究所紀要』10 2009)
- 57 川越市遺跡調査会『弁天西遺跡第15次調査』 2002
- 58 川越市遺跡調査会『天王・山王久保遺跡第2次調査 龍光・新田屋敷遺跡第5次調査』 1999
- 59 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団『春日部市八木崎遺跡』 2002
- 60 埼玉県教育委員会『水深』 1972
- 61 埼玉県教育委員会『宿上貝塚・御林遺跡・里浜貝塚群』 1987
- 62 板橋区教育委員会『前野田向遺跡第4地点発掘調査報告書』 2002
- 63 府中市遺跡調査会『武蔵国府関連遺跡調査報告』26 1999
- 64 府中市遺跡調査会『武蔵国府の調査』21 2002
- 65 国分寺市教育委員会『武蔵国分寺跡発掘調査報告書』
- 66 日野市落川土地区画整理組合『おちかわ』 1998
- 67 国立市教育委員会『仮屋上遺跡第4次発掘調査報告書』 1985

第6章 総括



第223図 刻書紡錘車

(3・13・17・23は吉井町多胡碑記念館『紡む』(2008)より、12は群馬県埋蔵文化財調査事業団『研究紀要』22(2004)より転載。それ以外は各報告書より転載。)

第2節 関遺跡の竪穴住居

1. 洪水層と竪穴住居

関遺跡の今回の発掘調査では、竪穴住居が78棟検出された。そのうち、埋没土に明瞭な洪水層が確認されたのは4区3号竪穴住居、5区14号竪穴住居、5区16号竪穴住居の3棟である。いずれも今回の調査区の中では南側に位置する。北側の1区～3区では、埋没土の中に洪水層が認められた竪穴住居はなかった。より粕川に近い関遺跡1区および2区で発見されなかった理由は不明である。なお、洪水層は砂質またはシルト質で、混入物が少なく一次堆積と判断できる土層に限定した。

竪穴住居に埋没した洪水層の堆積状況には大きく3つのパターンがある。①洪水層が床面直上まで達しているもの、②洪水層が埋没土中位に認められるもの、③洪水層が上層にのみ堆積するものである。このうち、洪水層の時期を推定する上で、洪水に見舞われた時と住居が機能していた時期の時間的隔たりが小さいと考えられる①が重要である。洪水層が埋没土上位または中位のみで確認された②と③は検討外とする。

埋没土に洪水層が認められた3棟の竪穴住居のうち、①に含まれるのは4区3号住居と5区16号住居である。5区14号住居は③にあたり対象外とする。竪穴住居の時期と洪水層との関係を第224図に示した。

4区3号住居では、一部側壁際に暗褐色土の堆積が認められたが、洪水層が床面から埋没土上位まで約50cmの厚さで堆積していた。床面西部は凹凸し、大きく落ち込み、洪水による影響と考えられる。また、出土遺物は少なかった。遺構の重複および出土遺物から、この住居の時期は9世紀前半と推定される。一方、5区16号住居では、洪水層が床面から埋没土中位まで30～40cmの厚さで検出された。ほぼ完形の土師器杯や台付甕などが南壁付近の床面や壁際から多数出土し、洪水により遺物が壁際に寄せられたようにも見える。遺構の重複および出土遺物から、住居の時期は9世紀前半と考えている。

これら2棟の竪穴住居の年代と洪水層の関係から、洪水の時期は9世紀前半と推定できる。4区3号住居と5区16号住居で見つかった洪水層が同一なのか9世紀前半

の別の時期なのかは明らかにできないが、洪水堆積物の厚さや床面の落ち込みから、かなりの規模の洪水と推測されるため、同一時期の可能性が高いと考えている。

洪水時の竪穴住居の状況について、4区3号住居では床面まで洪水層が達しているものの、住居西壁際およびカマドに暗褐色土の堆積が一部認められることから(PL.61-2)、住居は使用中ではなく、廃絶後間もない時期に洪水に見舞われたと考えられる。竪穴住居の部材などが残っていないため、洪水時の上屋の状況などについては不明である。一方、5区16号住居では使用面と洪水層との間に別の間層を挟まないことや遺物の出土状況から、住居使用時に洪水被害に遭っている可能性が高い。

南に隣接する関遺跡7区および上西根遺跡でも、竪穴住居の床面まで入り込んでいる洪水層を検出している。出土遺物や重複関係から推定した竪穴住居の年代から、竪穴住居に厚く洪水層を堆積させる規模の洪水は少なくとも3回で、時期は8世紀前半、8世紀後半、9世紀と推定した(群埋文 2013)。今回の調査区では、検出された洪水層の時期を9世紀前半と推定した。9世紀代の洪水が全て同じ時期かどうかは不明であるが、少なくとも1回は9世紀前半に大規模な洪水があったと言える。9世紀前半の洪水は、これまでの発掘調査の成果から、遺跡周辺を含めた赤城山南麓地域で大きな被害をもたらしたことが明らかになっている弘仁9(818)年の地震に伴って発生した洪水の可能性が高いと考えている。

2. 竪穴住居の変遷

関遺跡の今回の調査で、竪穴住居は78棟確認された。このうち、6世紀後半の住居が4棟、7世紀のものが9棟、8世紀のものが28棟、9世紀のものが24棟、10世紀のものが4棟、11世紀のものが1棟、時期不明が8棟である(第20表)。竪穴住居の時期は、遺構の重複、出土遺物および遺物の出土状況などから総合的に判断して推定した。

今回の調査区では、竪穴住居が最初に作られるのは6世紀後半である。この時期の住居は5区1号・4号・6号住居、6区6号住居の4棟が検出され、その分布は調査区南部にまとまっている。7世紀になると住居数はやや増加し、調査区内では、より北側の3区にも分布が認

第6章 総括

められる。8世紀に入ると、8世紀前半で17棟、後半で11棟と住居数は急増し、比較的高い密度で調査区全体に分布が認められる。9世紀前半も17棟と住居数が多い傾向は続くが、9世紀後半になると住居数は急速に減少する。10世紀から11世紀にかけても住居が次第に減少し、今回の調査区内で最後の竪穴住居は11世紀代のものである。

今回発掘調査したのは遺跡の一部で、南北に細長い調査区という限定された範囲の中であるが、集落の変遷について概観してみた。今回の調査区では、集落は6世紀後半から営まれはじめ、8世紀前半に住居数が急増し、9世紀前半まで住居数が多い傾向が続いている。その後、9世紀後半に住居数が急速に減り、10～11世紀にかけ

て次第に住居数が減少するという盛衰が見て取れた。また、時期により住居が偏在している様子も窺えた。

関遺跡では、縄文時代の洪水層が厚く堆積しているため、それ以前の状況は確認できなかった。今のところ、本遺跡の最初の人々の痕跡は縄文時代である。本格的に活動したのは古墳時代からで、粕川によって形成された微高地上に水田を営むことから始まった。生産域としての水田は古墳時代後期には集落へと変化し、9世紀前半には大規模な洪水被害に遭っているが、集落は放棄されずに11世紀まで継続している。さらに、中世から近世には、再び畑耕作地として、土地利用を生産域へと変化させている。

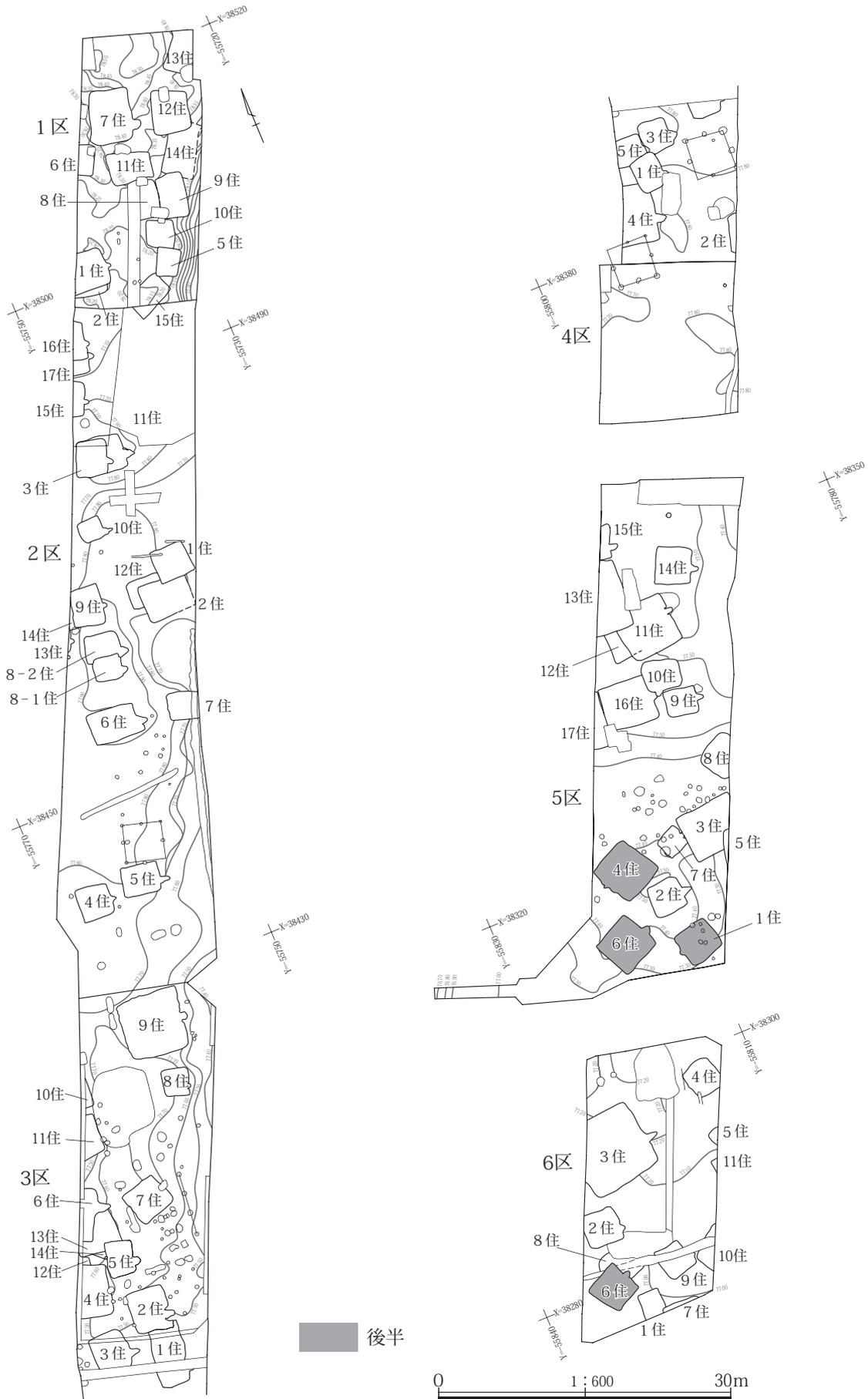
第20表 時期別住居数一覧表

時期		住居数	計
6世紀	後半	4	4
7世紀	前半	5	9
	後半	4	
8世紀	前半	17	28
	後半	11	
9世紀	前半	17	24
	後半	6	
	不明	1	
10世紀	前半	2	4
	後半	2	
11世紀	不明	1	1
時期不明		8	8
計			78

区・住居		4区3号竪穴住居	5区16号竪穴住居	5区14号竪穴住居
6～8世紀				
9世紀	前半	 9世紀前半 床面直上～ 埋没土上位	 9世紀前半 床面直上～埋没土中位	
	後半			 9世紀後半 埋没土上位
10・11世紀				

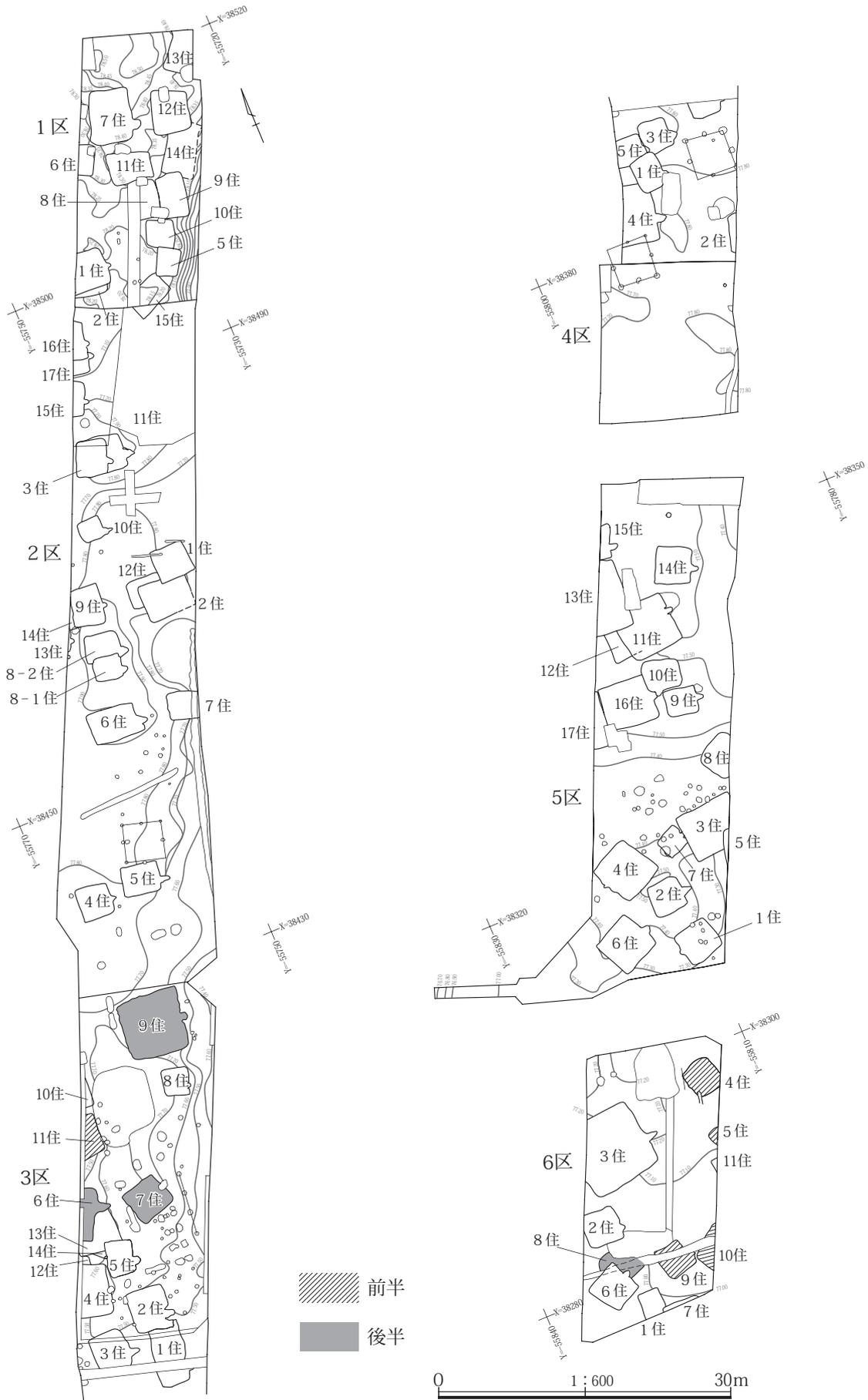
第224図 関遺跡 洪水層と竪穴住居の時期

6世紀



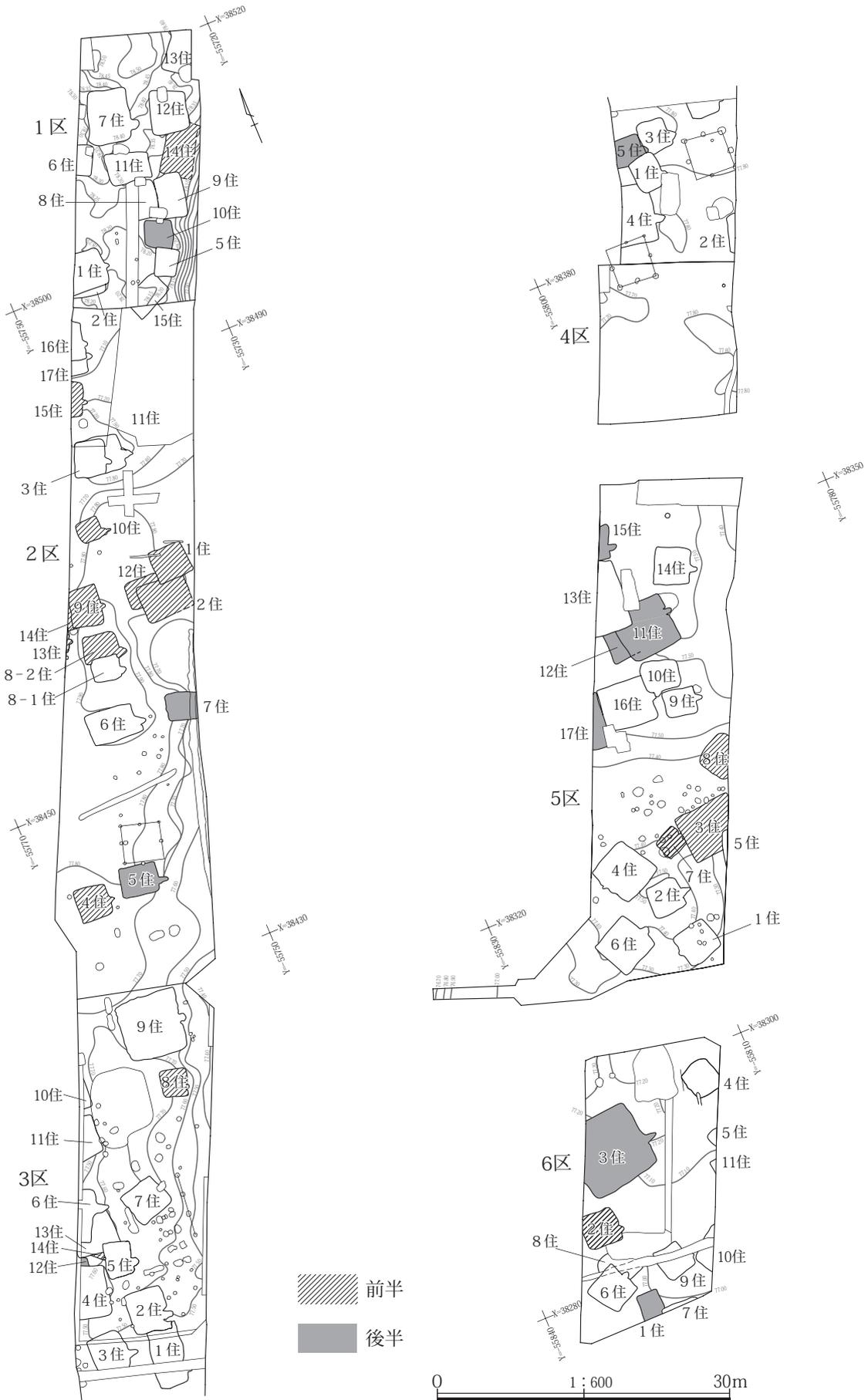
第225図 竪穴住居時期別変遷(6世紀)

7世紀



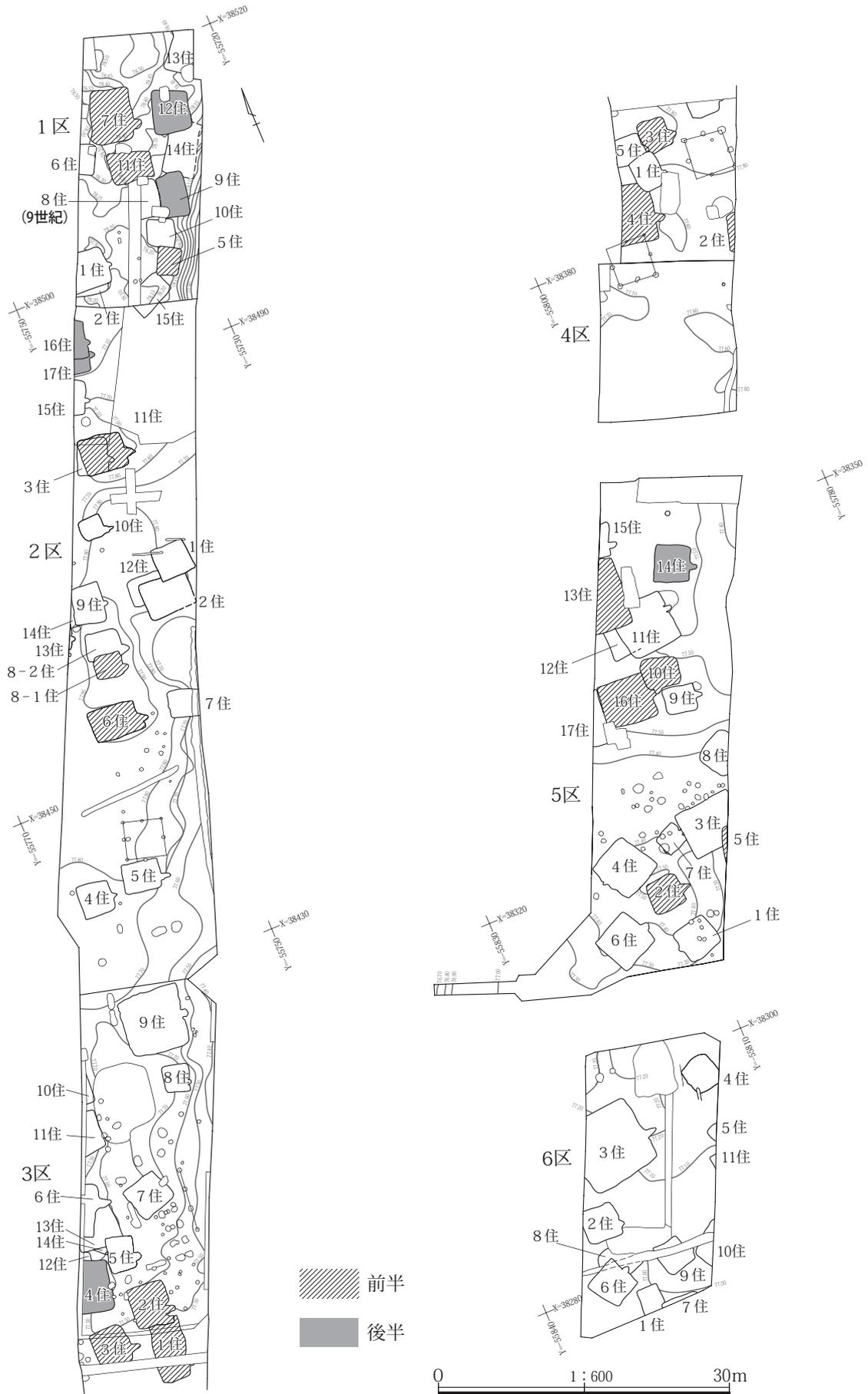
第226図 竪穴住居時期別変遷(7世紀)

8世紀



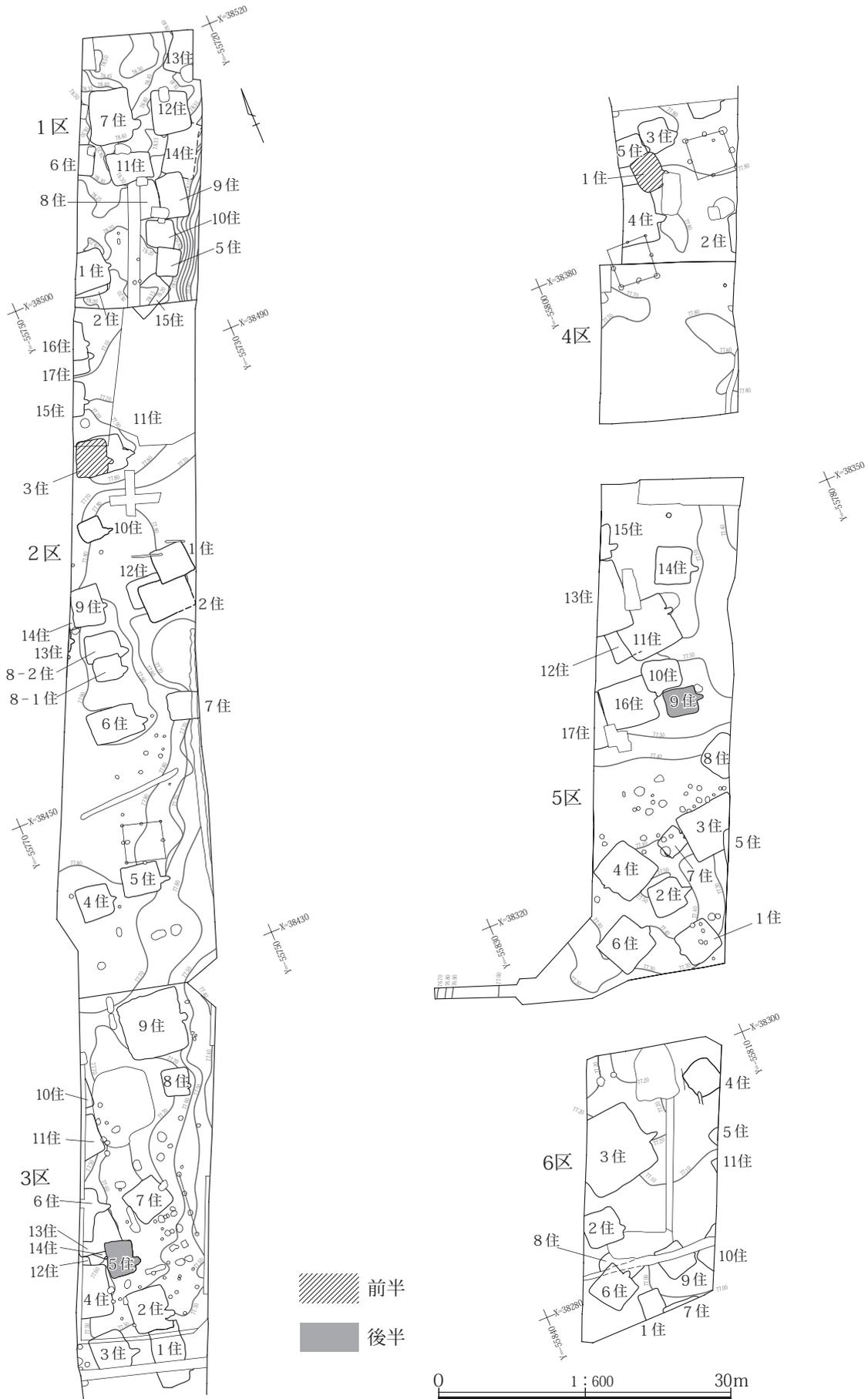
第227図 竪穴住居時期別変遷(8世紀)

9世紀



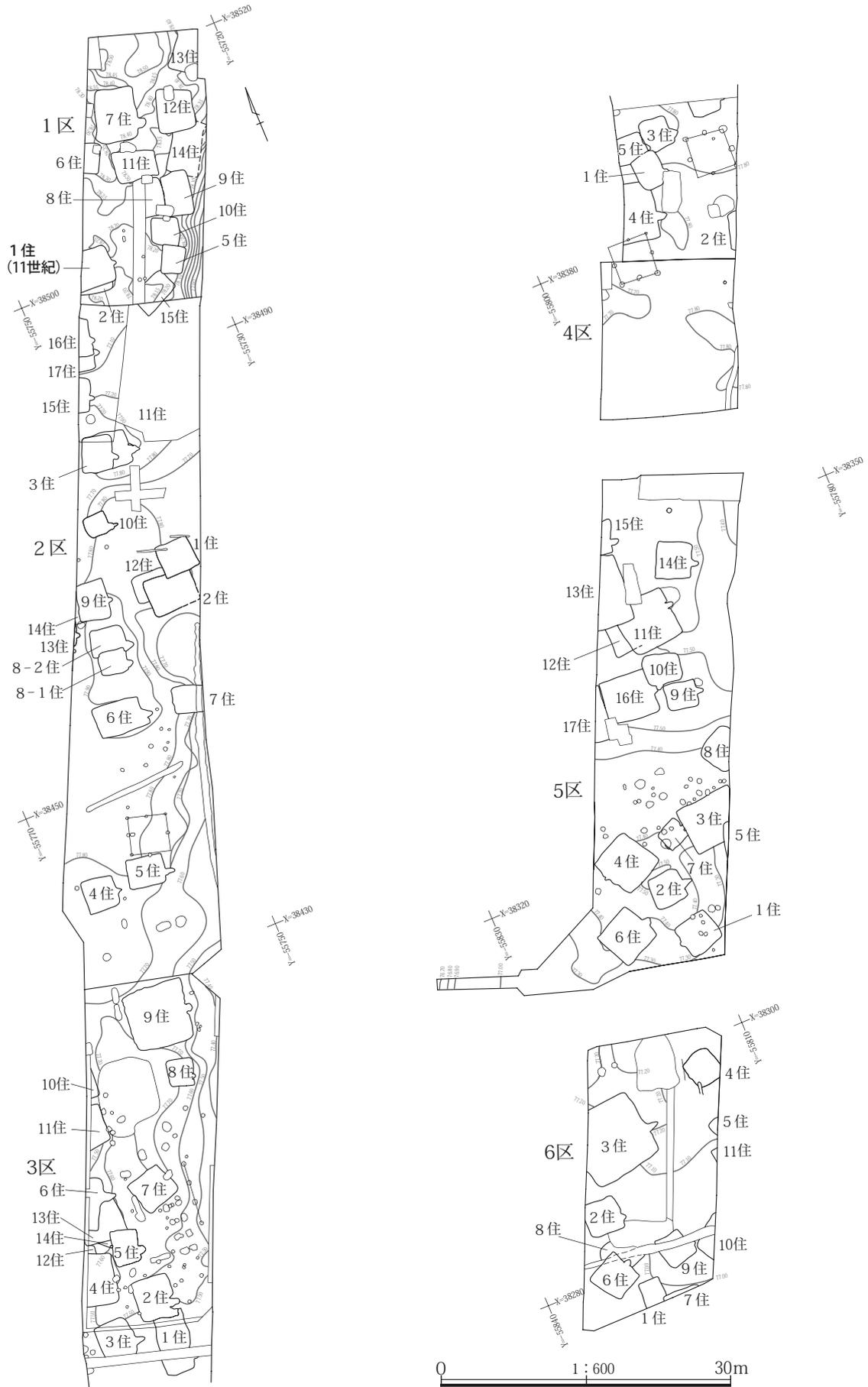
第228図 竪穴住居時期別変遷(9世紀)

10世紀



第229図 竪穴住居時期別変遷(10世紀)

11世紀



第230図 竪穴住居時期別変遷(11世紀)

第3節 伊勢崎市・本関町古墳群の成立背景 -湧水点から河川への進出-

1. はじめに

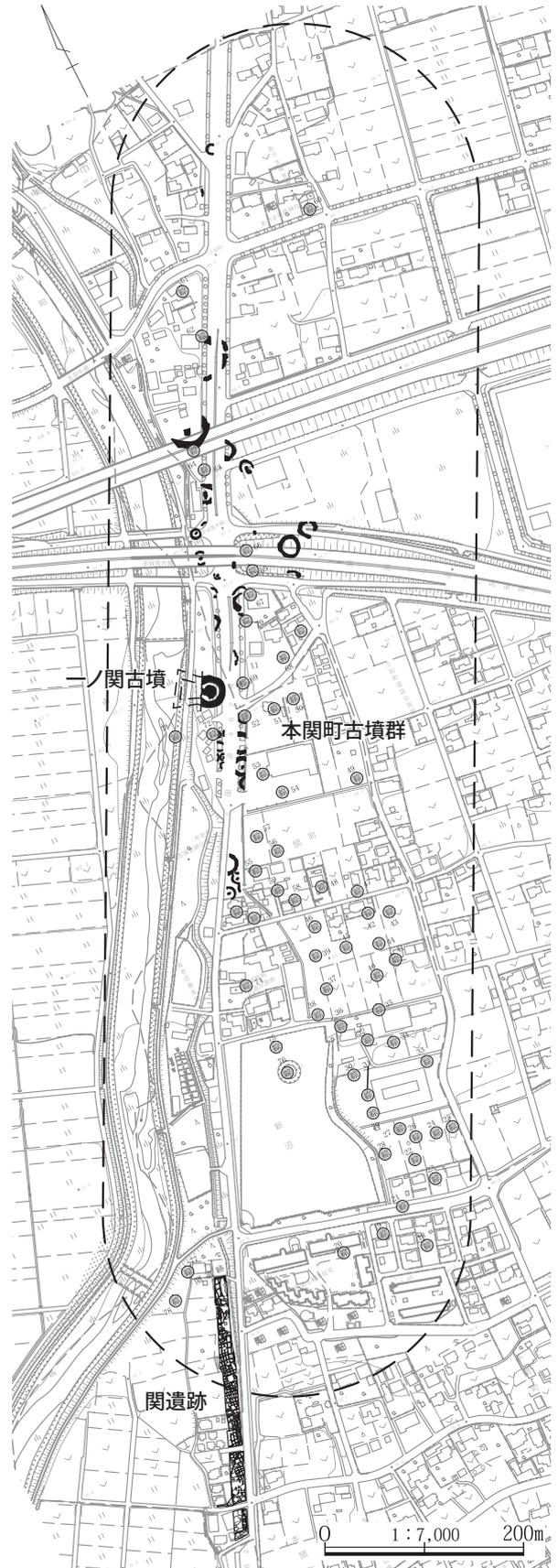
伊勢崎市本関町に所在する本関町古墳群は、赤城山の南麓に接する大間々扇状地Ⅰ面(桐原面)に立地し、総数約百数十基に及ぶ古墳時代後・終末期の古墳群である(第231図)。一方、この古墳群の東側では上武道路、北関東自動車道、三和工業団地などに伴う発掘調査で、東西800m、南北600m、面積約50万㎡の調査範囲において、古墳時代から平安時代にかけて1,000棟以上の竪穴住居が発掘調査され(第232・233図)、このうち古墳時代の住居は約400棟にも達している。

ところで、筆者はかつて本関町古墳群に対応する集落をその東側に展開する遺跡群の集落に位置付け、その変遷の要因のひとつに、集落内に点在する湧水点が深く関係している旨の検討を行った(坂口 2008)。しかし、平成24年度にはこの古墳群に隣接する関遺跡(本報告書)において、古墳時代の水田(第231・239図)と同後期から平安時代にかけて継続する竪穴住居78棟(第243図)が発掘調査されたことから、この古墳群を取り巻く状況にまた新たな資料が追加されることとなった。

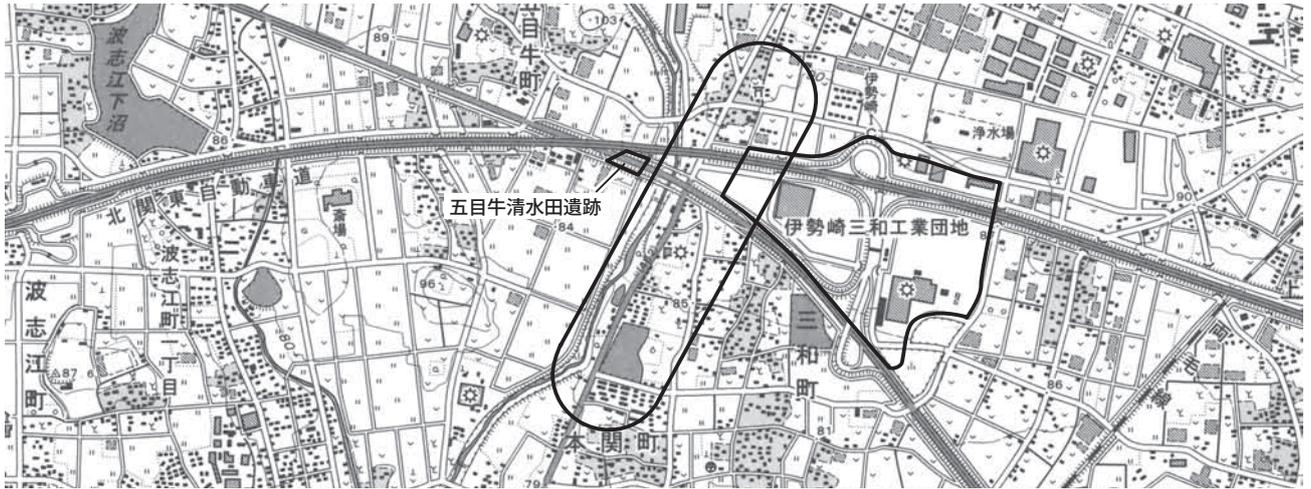
さて、関遺跡の水田及び竪穴住居群は、本関町古墳群に西側で接する粕川の低地部に立地するが、これらもその位置と継続年代からこの古墳群に対応するものと考えられ、とりわけ水田については、この古墳群の成立に深く関わるものとの解釈が可能である。したがって、ここでは関遺跡の水田・集落及び、本関町古墳群の東側に展開する集落内の湧水点などから、この古墳群の成立の背景を検討してみたい。

2. 本関町古墳群と東側周辺集落の概要

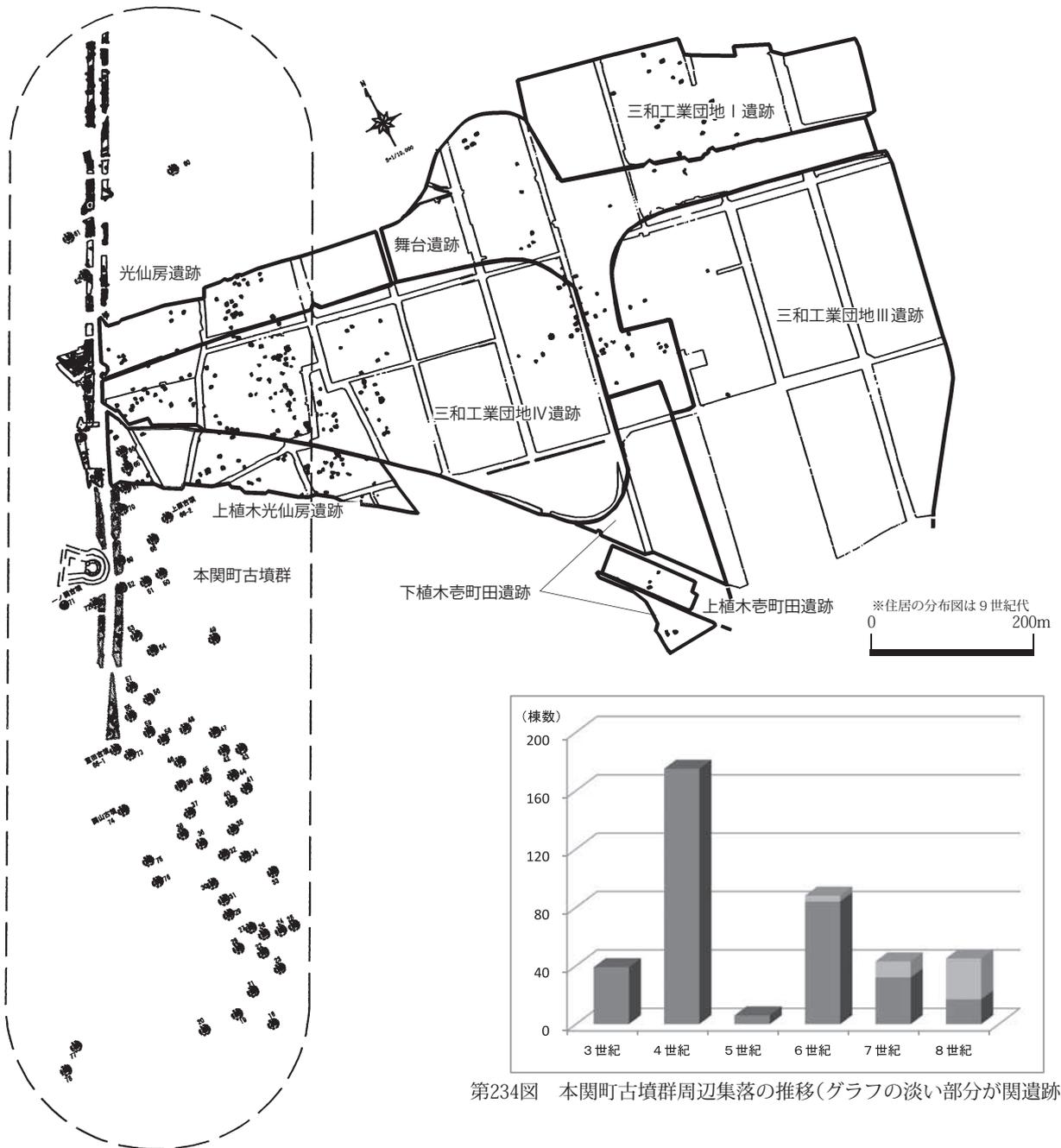
本関町古墳群は大間々扇状地Ⅰ面の西端部で、扇状地の西端部を画す粕川左岸のローム台地上に立地している。東西約300m、南北約1,200mの範囲を占地し、古墳時代後・終末期にあたる6・7世紀を主体とする古墳群である(注1)。この古墳群には本関町古墳群(群埋文事業団 2008)及び本報告書に掲載された古墳の他、関山遺跡(伊勢崎市教委 2005)、上植木光仙房遺跡(群埋



第231図 本関町古墳群と関遺跡(S=1:7,000)



第232図 本関町古墳群と周辺集落の位置図(S=1:25,000、国土地理院地形図『大胡』)



第234図 本関町古墳群周辺集落の推移(グラフの淡い部分が関遺跡)

第233図 本関町古墳群と周辺集落(S=1:8000)

文事業団 1989・2007)、光仙房遺跡(群埋文事業団 2003)、三和工業団地IV遺跡(伊勢崎市教委 2004)などの諸遺跡が含まれ、これらの遺跡群では45基の古墳が発掘調査されている。また、昭和10年における県下一斉古墳分布調査の『上毛古墳綜覧』殖蓮村には63基の古墳が記載され、さらに本関町古墳群の報告書に記載された古墳の大半は『上毛古墳綜覧』に該当するものが見当たらないことから、おそらくこの周辺には記載漏れの古墳が10基以上は存在するものと予想される。したがって、発掘調査された45基に『上毛古墳綜覧』に記載された63基を加え、さらに記載漏れがあることを考慮すると、この古墳群はその総数がおそらく百数十基に及ぶものと考えられる。

古墳群は墳丘長が50m級と推定される3基の前方後円墳を除くと、中小の円墳が大半を占めている。発掘調査された円墳は竪穴系の石槨を伴うものがほとんどで、推定する周堀の内径規模は最小が4.8m、最大が25.0mで、10～15mのものが最も多い。周堀からの出土遺物は概して少なく、その詳細な年代を判定することが難しい。また、埴輪を樹立していたと考えられる古墳はごく一部で、C区2号墳の竪穴系主体部から出土した「赤玉」は、今のところ周辺の古墳群では類例がない。

さて、この古墳群が占地する範囲には、今回発掘調査された粕川の低地部に立地する関遺跡を除くと、台地上には古墳時代の住居がまったく存在せず、古墳群の占地範囲が墓域として画された範囲であったことが伺える。一方、この古墳群に対応する居住域の主たる場所は、その距離的な位置関係と継続年代から、古墳群の東側に展開する集落の可能性が高い(第232図・第233図)。すなわち、光仙房遺跡(群埋文事業団 2003)、上植木光仙房遺跡(群埋文事業団 1989・2007)、舞台遺跡(群埋文事業団 2004)、三和工業団地遺跡(群埋文事業団 1999・伊勢崎市教委 2004)、上植木壱町田遺跡(群埋文事業団 1988)、下植木壱町田遺跡(群埋文事業団 1999)である。さらに、これらの諸遺跡の他に本報告書の関遺跡が加わるが、列記した諸遺跡が古墳群の東側のローム台地上にあるのに対して、関遺跡は粕川の低地部に展開する特異な立地状況を示している。

先述のように、これらの諸遺跡では合計で50万㎡以上の調査区域から、1,000棟以上にも及ぶ古墳時代から平安時代の竪穴住居が発掘調査されている。これらの集落

は、渡良瀬川によって形成された大間々扇状地I面(桐原面)の扇中央部に立地している。扇状地I面の扇中央部には、標高約90mの等高線に沿うようにいくつかの湧水点が点在し、これらの湧水点の下流には湧水点を谷頭とする小谷が形成されて、台地をいく筋かの低地が刻んでいる。この低地内で水田遺構の確認例はないが、プラント・オパール分析から古墳時代にこの低地内で水田耕作が行われたことは確実で、この周辺では主要な生産域であったものと考えられる。なお、代表的な湧水点のひとつである「^お井戸」は、三和工業団地の公園内に復原されて、現在でも湧水の噴出をみることができる。

発掘調査された古墳時代の住居のうち、伴出遺物から年代の判明した住居は約350棟で、これらを年代別に集計すると、極めて特徴的な住居数の推移を示していることが分かる(第234図)。すなわち、3世紀代に出現して4世紀代で急激に拡大した集落は、5世紀代において急激にその数を減じるが、6世紀になると再びその数を一気に増加させていることである。

これらの推移を、湧水点を谷頭とする低地との関係で平面的にみると、これもまた特徴的な分布を示している。すなわち、3・4世紀代においては住居群が湧水点を谷頭とする低地と低地の間の台地上に広く展開していたにもかかわらず(第235図)、5世紀代のほぼ空白期を経た6世紀代においては、西側の湧水点を谷頭とする低地(谷B)の東側の台地縁辺部のみに、占地を限定して新たに出現していることである(第237図)。この6世紀代における新たな住居群の立地は、その数を減じながらも7世紀代に継続してゆく(第238図)。

さて、本関町古墳群の東側に展開する集落の推移をみてきたが、このうちの6世紀代に新たに出現して7世紀代まで継続する住居群こそが、本関町古墳群に対応する主たる住居群ではないかと想定している。この6世紀代に出現する住居群は、僅かに立地することを考慮すると(第236図)、基本的には5世紀代からの継続性が認められず、この周辺一帯に新たに出現した集落であるという点が特に注目されることである。いずれにしてもこの古墳群に対応する集落の主なものが、古墳群の東側に広がる台地上に立地した住居群であるとの想定は無理がないものと言えよう。



第235図 東側周辺集落の竪穴住居分布図(3・4世紀)



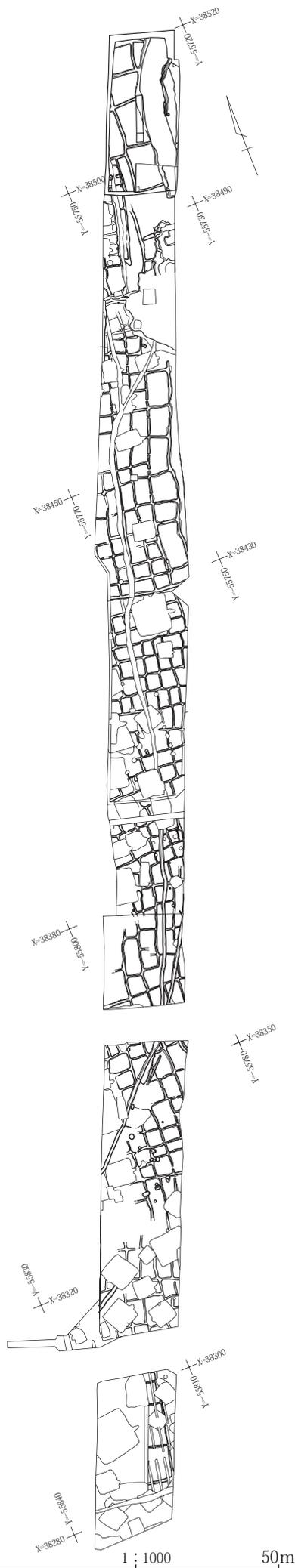
第236図 東側周辺集落の竪穴住居分布図(5世紀)



第237図 東側周辺集落の竪穴住居分布図(6世紀)



第238図 東側周辺集落の竪穴住居分布図(7世紀)



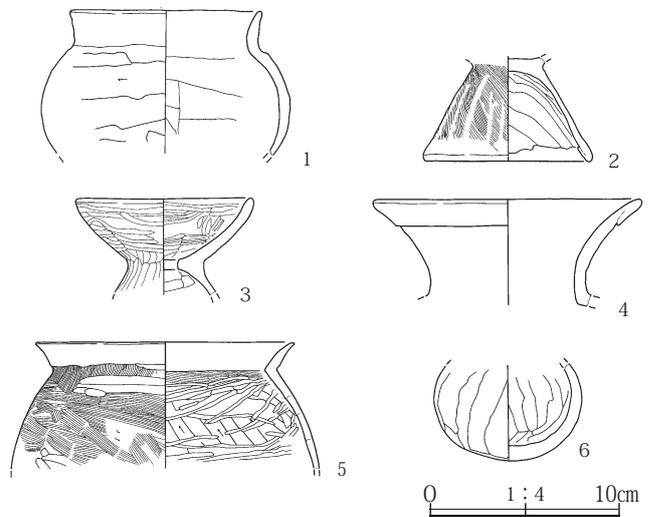
254 0 1 : 1,000 50m

第239図 関遺跡水田 (S=1:1,000)

3. 関遺跡水田の年代的位置付け

先述のように、関遺跡は本関町古墳群の西側に隣接する粕川の低地内に立地している(第231図)。この部分は関遺跡の北端部において、古墳群が立地する台地との比高差が2~3mで、古墳群の東側に展開する住居群とは明らかにその立地の地形を異にしている。水田は調査対象地の幅が約13m前後と狭いためにその全容は明らかではないが、おそらく現粕川が流下する方向である北から南の方向に縦畦を通して、これに直行する横畦で区切り、縦畦に平行する方向に用水を掛け流す配水構造にあるものと考えられる。したがって、立地する地形に制約されて区画の定型化の度合いは低い、基本的には群馬県下で一般的に検出される古墳時代水田と同様の極小区画水田と共通した構造をもつ(第239図)。

さて、この水田は洪水の一次堆積層(4層)に覆われた、旧地表面としての水田である。但し、この洪水層は県下で一般的に認識されている年代の判明した洪水層ではなく、したがって年代の判定を必要とする。この年代であるが、層位的にはこの水田の耕作土(5層)に3世紀後半に降下した浅間C軽石(As-C)を含んでいる。また、この洪水層の上位には、洪水層を掘り込む竪穴住居78棟が確認されているが、これらの中で最も古い住居の年代は6世紀後半に比定できる。したがって、層位から考えられるこの洪水層の年代は3世紀後半以降で、6世紀後半以前に位置付けられることになる。さらに、この洪水層中にはいくつかの土器が出土していることから(第240図)、これらから洪水層の年代を検討してみよう。



第240図 関遺跡水田被覆洪水層内出土土器(S=1:4)

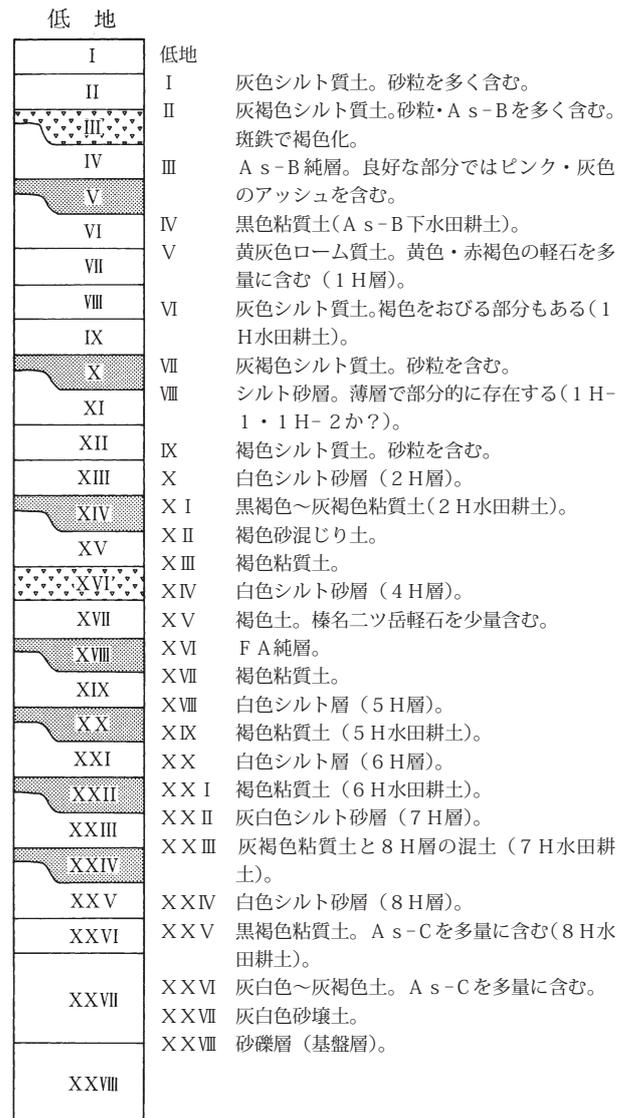
洪水層中の出土遺物はいずれも土師器である。このうち2のS字状口縁台付甕(以下S字甕)は、東海地方におけるS字甕編年(赤塚1986・1988)のB類に比定できることから3世紀後半代に位置付けられ、3～5もおそらく2に平行する年代のものと思われる。また、6は小片のために詳細は不明だが、おそらく4世紀代の可能性が高い。注目されるのは1である。これは土師器の小型甕で、この形状のものは古墳時代中期以前には存在せず、おそらく同後期の6世紀前半の所産と考えられる。したがって、洪水層中の出土土器は3世紀後半～6世紀前半の年代幅をもつことになり、層位から検討した年代に近似している。

さて、当然のことながら洪水はその発生時まで存在していた遺物を含んでいる。この洪水層中の土器に年代幅があるのはこのためである。このことを考慮すると、洪水層の年代はこれらの土器のうちの最も新しいものがその年代に最も近いことになる。つまり、洪水層の年代は6世紀前半以降である。一方、先に記した層位からの検討からは6世紀後半以前という結論が得られていることから、この洪水層の年代は1の年代である6世紀前半の可能性が高いことになる。したがって、この洪水層が被覆した関遺跡の水田も、6世紀前半の可能性が高いものと考えられるのである。

なお、この水田では土層断面において榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 以下「FA」)が検出されておらず、FAとの層位的な関係は不明である。

ところで、関遺跡の北側約800mの地点では、上武道路建設に伴う五目牛清水水田遺跡が発掘調査されている(第232図)。このうち粕川の低地内では洪水層などに被覆された複数面の水田が検出され、また低地縁辺部の微高地からは古墳時代以降の竪穴住居48棟が発掘調査されている(群埋文事業団 1993)。調査報告書によれば、この遺跡では弥生時代後期から平安時代までの、9面の水田が発掘調査されている(第241図、注2)。このなかで注目されるのは、低地部ではFAの一次堆積層(XVI層)下面に水田が存在せず、微高地上でもこの年代の住居が存在していないことである。

なお、関遺跡にFAの一次堆積層が認められないことから、両者の水田の対応関係は不明である。しかし、五目牛清水水田遺跡の7H水田(XXIII層)からは5世紀終末



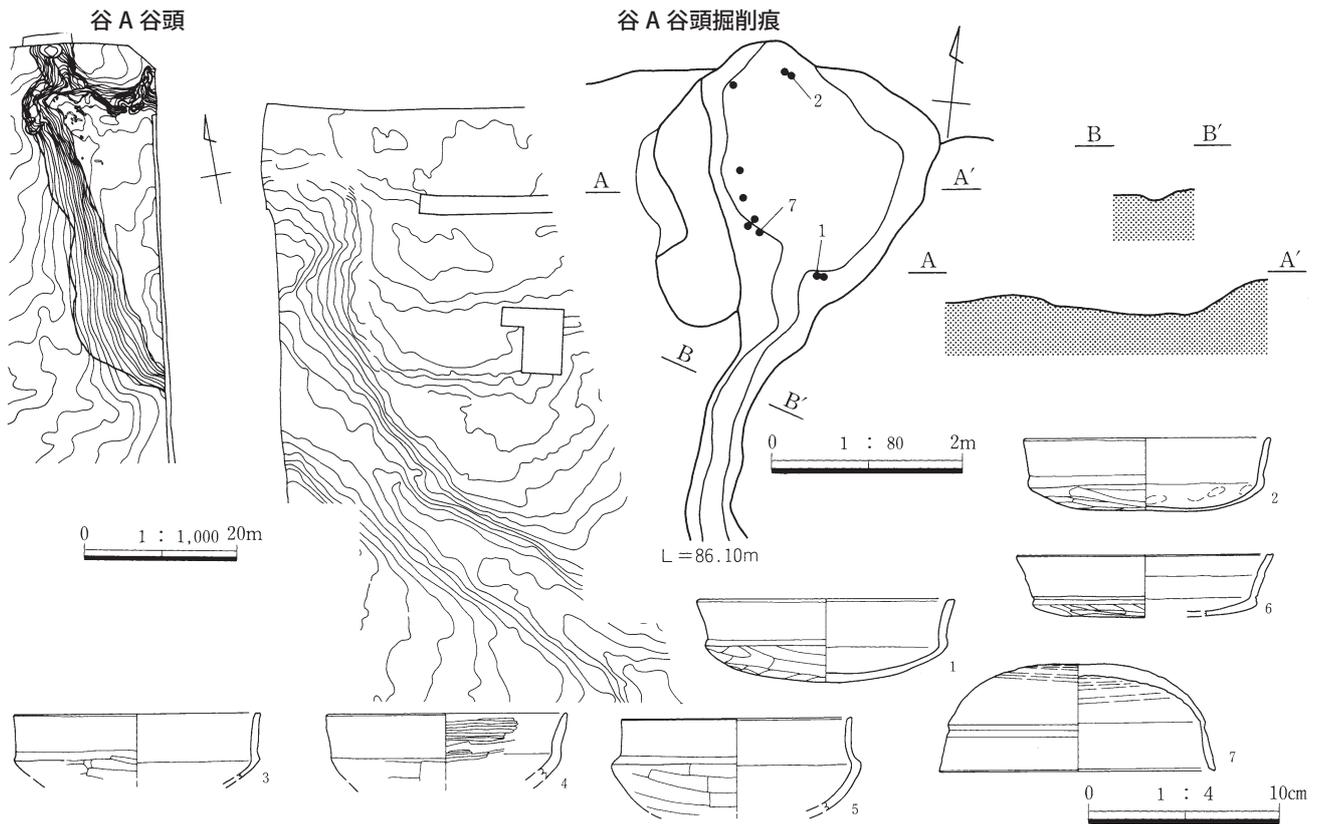
第241図 五目牛清水水田遺跡 低地部基本土層模式図

に比定できる土師器が出土していることから、それより上位の6H水田(XXI層)か5H水田(XX層)が、関遺跡の水田に近似した年代の可能性がある。

4. 三和工業団地I遺跡の湧水点の掘削と放棄

本関町古墳群の東側に広がるローム台地上には、かつていくつかの湧水点が存在し、これらの湧水点の下流には湧水点を起源とする低地が形成されている。その代表的なものは「^{おいど}男井戸」、「^{かくやしみず}角弥清水」、「^{やししみず}谷地清水」と呼ばれた湧水点である。このうち「男井戸」湧水及びこの支流については、三和工業団地I遺跡の調査対象地内であったために発掘調査でほぼその全容が把握されており(群埋文事業団 1999)、この調査資料のなかに関遺跡水田との関連を暗示する示唆的な資料が含まれている。

すなわち、「男井戸」湧水の支流である谷Aでは(注3)、



第242図 三和工業団地I遺跡谷A谷頭掘削痕・出土遺物

3～4世紀代においてその谷頭付近の湧水量を増やすための掘削痕と、木材による導水施設が確認されているが、5世紀の空白期を挟んだ6世紀代においても、3～4世紀代とほぼ同様な谷頭付近の掘削痕が検出されている(第242図)。この掘削痕の周辺からは陶邑古窯址群編年(田辺 1981)のMT-15型式に比定できる須恵器蓋と、これと平行する土師器坏がFAの直下から出土していることから、この掘削痕は6世紀初頭に位置付けられる。但し、この掘削痕はFAで覆われて出土し、このテフラの堆積以降には谷頭を掘削した痕跡がない。なぜならば、堆積したFAがそのままの状態でも遺存し、掘削によって攪拌された痕跡が認められないからである。つまり、FAの直前の段階にこの谷頭の掘削が行われたもののそれは短期間に終わり、それ以降にこの谷頭は放棄されているものとの解釈ができよう。

一方、この現象は谷頭周辺の住居の分布からも伺うことができる。3～4世紀代はこの谷頭周辺に多くの住居が分布するが(第235図)、空白期の5世紀を挟んだ6世紀代においてはこの谷頭周辺に住居がほとんど分布せず、西側の谷Bの縁辺部に移動している(第237図)。また、この住居の分布域は7世紀代においても同様な位置を占

めている(第238図)。つまり、谷A谷頭の掘削状況と住居の分布状況は、連動した現象を示していることになる。これらのことから、集落の再開時期である6世紀初頭にこの谷頭の掘削を試みたものの、おそらく湧水の増量を図ることができなかったために、この谷頭を放棄したものとの想定ができるのである(注4)。

5. 本関町古墳群の成立の背景

前章までに本関町古墳群の東側周辺集落遺跡の推移、粕川の低地内の水田、集落内における湧水点の状況など、この古墳群を取り巻くいくつかの特徴的な現象について述べてきた。すなわち①古墳群の東側に展開する集落はこの古墳群の造営開始と軌を一にして、6世紀に谷Bの東側の縁辺部に新たに展開し、また②古墳群の西側に接する粕川の低地内においては、同じく6世紀前半の水田が造られ、さらに③三和工業団地I遺跡の谷頭湧水点は、6世紀初頭において開始された掘削の試みが、その後継続することなく放棄されていることである。

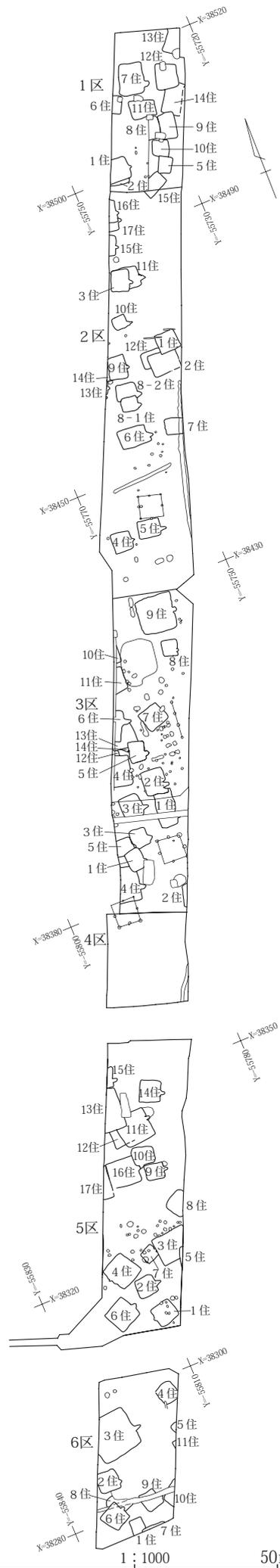
これらを総合的に判断すると、本関町古墳群が成立する背景には次のような想定が可能になるものと考えられる。すなわち、6世紀前半の時期に谷Bを生産域とする

集落が出現した。一方、この集落は谷Aをも生産域とすべく谷頭の掘削を試みたが、必要な水量が得られなかったためにこの低地での水田化を諦め、粕川の低地に新たな水田域を求めた。これが、関遺跡の6世紀前半の水田と考えられ、こうした集落の出現と新たな水田域の開発が、本関町古墳群の成立の背景と考えられる。つまり、6世紀においてこの集落は水田耕作地を、台地上の湧水点を起源とする低地のみではなく、河川へも求めることでその拡大を図ったものと考えられる。したがって、進出した粕川低地内の微高地上か、あるいはこの水田域に接する東側の台地上には、先述した湧水点を起源とする低地の縁辺部に再開した集落とは占地を異にする、新たな6・7世紀代の集落が存在する可能性が高い。

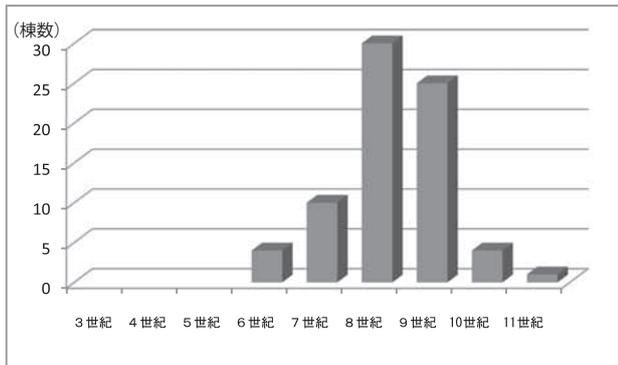
なお、関遺跡の水田の上位には、洪水層に被覆された後に6世紀後半以降の竪穴住居が立地するが(第243図)、これはこの水田部分が洪水層によって被覆されることで微高地化したため、おそらくこの時期以降の水田域は粕川の低地内のいずれかに存在した可能性が高い。このことは、3項で記した五目牛清水田遺跡において、F A降下以降の水田が存在することをその傍証とすることができよう。

さて、この周辺地域において粕川の低地内に水田化を目的として進出したのは、関遺跡における6世紀の水田が最初ではない。先に記した近接する五目牛清水田遺跡では、既に古墳時代前期からこの低地部における水田化が図られている。しかし、この五目牛清水田遺跡ではF Aの下面に水田が存在せず、低地に沿った微高地上でもこの年代の住居は立地していない。一方、三和工業団地I遺跡では、このF Aの直下に近い時期において谷Aの谷頭が放棄されている。つまり、F Aの下面の段階に、この周辺からは何らかの理由で集落がほぼ撤退し、粕川の低地内においても水田耕作が中断しているのである。

この中断の要因は明らかではないが、関遺跡の水田はこうした中断を経た後に新たに再開することが特徴である。また、この再開は東側周辺集落の再開時期であるとともに、本関町古墳群の造営が開始される時期でもある。つまり、本関町古墳群はこうした粕川の低地内における、新たな水田域の拡大を背景に成立したものと考えられるのである。



第243図 関遺跡 水田上位の6世紀後半以降の竪穴住居分布



第244図 関遺跡 竪穴住居数の推移

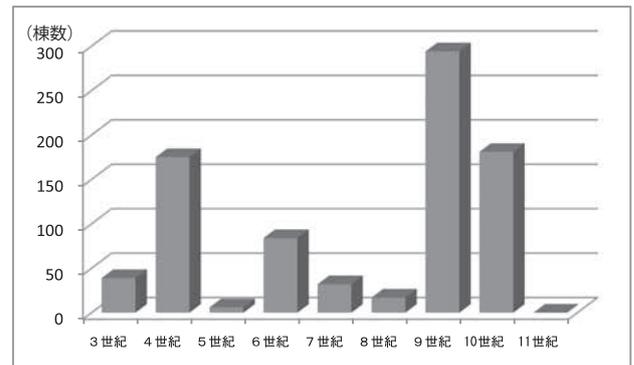
6. おわりに

以上、本関町古墳群を取り巻く集落域、水田域及び湧水点の状況から、この古墳群の成立の背景を検討してきた。前述のように、粕川の低地部に進出した関遺跡の水田が洪水層によって埋没した後は、6世紀後半からこの部分には竪穴住居が進出し(第243図)、この付近には『上毛古墳総覧』に記載された古墳2基も存在する。この古墳の年代は不明であるが、低地に進出した住居の推移をみると、本関町古墳群の造営が終了した8世紀代において、急激な住居数の増加が認められる(第244図)。

ところで、本関町古墳群の南方約2kmには7世紀後半に成立した古代佐位郡の郡衙である三軒屋遺跡が立地しており、右島和夫氏は本関町古墳群のなかの前方後円墳は、三軒屋遺跡の範囲まで影響下にいた勢力であるとの指摘をされている(右島 2013)。このことは、関遺跡における集落の動向と、本関町古墳群の東側に展開する集落の動向との比較からも、その影響を垣間見ることができるものと考えられる。

本関町古墳群の東側に広く展開する集落の全体は、この古墳群が造営を終了する7世紀代において住居数の相当な減少がある一方で、10世紀代においても多くの住居が分布している(第245図)。一方、関遺跡は7世紀代においても住居は増加している一方で、10世紀代には住居が激減している(第244図)。したがって、関遺跡は三軒屋遺跡における郡衙の存続期間である7世紀から9世紀の間に住居の増加がみられるのに対して、本関町古墳群の東側に展開する集落はこの動向とは必ずしも連動していないことになる。

つまり、関遺跡における7世紀代から9世紀代にかけての住居の動向は、大きくは三軒屋遺跡における郡衙の成立から終焉を反映している可能性があり、この初源は



第245図 本関町古墳群 東側周辺集落の推移

粕川の低地に住居が進出する6世紀代まで遡るものと考えられる。したがって、今後三軒屋遺跡の周辺において、7世紀を前後する時期にそれまでの居住域とは占地を異にして出現する集落の動向が注目されることである。

本稿の作成にあたって、右島和夫氏(当事業団理事)には有益な指導と助言を賜った。記して深甚なる感謝の意を表す次第である。

注

- (1)古墳群の主体は6・7世紀であるが、古墳の一部は5世紀後半まで遡るものが存在する(伊勢崎市教育委員会『本関町古墳群』2011)。
- (2)調査報告書で弥生時代後期とする出土遺物は、浅間C軽石(As-C)を多量に含む層から出土していることと、古墳時代まで残存した樽式系土器の可能性が高いことから、おそらく古墳時代のなかに収まるものと思われる。
- (3)本稿の三和工業団地Ⅰ遺跡「谷A」は、調査報告書の「谷B」を指している。
- (4)湧水点の湧水量は必ずしも一定ではなく、減少や枯渇をすることがあり、湧水を水源とする地域ではこれが結果的に集落変遷の要因のひとつとなっている(坂口 一(2008)『群馬県伊勢崎市・本関町古墳群と周辺集落の動向』—集落変遷と湧水点との因果関係—『本関町古墳群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団)。

引用・参考文献

- 赤塚次郎(1986)「『S字甕』覚書'85」『年報昭和60年度』愛知県埋蔵文化財センター
- 赤塚次郎(1988)「最後の台付甕」『古代』第86号 早稲田大学考古学会
- 伊勢崎市教育委員会(2004)『三和工業団地Ⅱ遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会(2004)『三和工業団地Ⅲ遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会(2004)『三和工業団地Ⅳ遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会(2005)『関山遺跡Ⅱ』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1988)『書上下吉祥寺・書上上原之城・上植木老町田遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1989)『上植木光仙房遺跡』一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1993)『五目牛清水田遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1999)『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1999)『下植木老町田遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2003)『光仙房遺跡』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2004)『舞台遺跡(2)』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『上植木光仙房遺跡』主要地方道伊勢崎大間々線単独特別道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2008)『本関町古墳群』
- 坂口 一(2008)『群馬県伊勢崎市・本関町古墳群と周辺集落の動向』—集落変遷と湧水点との因果関係—『本関町古墳群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 pp.87-92
- 田辺昭三(1981)『須恵器大成』角川書店
- 右島和夫(2013)「V 古代佐位郡の様相と佐位郡衙」『三軒屋遺跡』—総括編— 伊勢崎市教育委員会 pp.116-119

本文参考文献(五十音順)

- 伊勢崎市 1987 『伊勢崎市史通史編1』
- 伊勢崎市 2013 『新屋敷遺跡2』伊勢崎市文化財調査報告書第108集
- 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅱ遺跡』伊勢崎市文化財調査報告書第53集
- 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅲ遺跡』伊勢崎市文化財調査報告書第54集
- 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅳ遺跡』伊勢崎市文化財調査報告書第55集
- 伊勢崎市教育委員会 2004 『上西根遺跡Ⅱ』伊勢崎市文化財調査報告書第56集
- 伊勢崎市教育委員会 2007 『三軒屋遺跡Ⅰ—上野国佐位郡衛正倉跡の調査—』伊勢崎市文化財調査報告書第79集
- 伊勢崎市教育委員会 2007 『釜ノ口遺跡Ⅳ』伊勢崎市文化財調査報告書第81集
- 伊勢崎市教育委員会 2008 『一ノ関古墳』伊勢崎市文化財調査報告書第85集
- 伊勢崎市教育委員会 2008 『喜多町遺跡』伊勢崎市文化財調査報告書第86集
- 伊勢崎市教育委員会 2011 『本関町古墳群』
- 伊勢崎市教育委員会 2011 『釜ノ口遺跡3—赤堀茶白山古墳の埴輪工房跡の調査—』伊勢崎市文化財調査報告書第100集
- 伊勢崎市教育委員会 2012 『伊勢崎市遺跡分布地図』
- 伊勢崎市教育委員会 2013 『三軒屋遺跡—総括編—上野国佐位郡衛正倉院発掘調査報告書』伊勢崎市文化財調査報告書第106集
- 井上唯雄 1987 「線刻をもつ紡錘車について」『古代学研究』115 pp. 1-13
- 内木真琴・中沢悟・鬼形芳夫 1987 「吉井町矢田遺跡出土の文字資料について」『群馬文化』209 pp.64-66
- 大木紳一郎 1984 「紡錘車の使用痕に関する一考察」『上毛野』1 p.14
- 笠懸村 1987 『笠懸村史』
- 木崎善雄・野村哲・中島啓治 1977 『群馬のおいたちをたずねて』上下 上毛新聞社
- 群馬県 1990 『群馬県史通史編1』
- 群馬県 1991 『群馬県史通史編2』
- 群馬県新里村教育委員会 1991 『資料集赤城山麓の歴史地震—弘仁9年に発生した地震とその被害—』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993 『五日牛清水田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第144集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『矢田遺跡Ⅶ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第220集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第251集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『舞台遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第331集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『本関町古墳群』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第452集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『西野原遺跡(3)(4)・島谷戸遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第447集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『峯山遺跡Ⅱ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第485集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011 『喜多町遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第519集
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013 『新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡(1)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第565集
- 澤口宏 1984 「第1章第2節地形・地質」『伊勢崎市史自然編』pp.21-105
- 澤口宏 1991 「第1章第1節・第2節」『境町史第1巻自然編』pp.1-38
- 澤口宏 2010 「大間々扇状地—社会基盤としての自然環境—」『群馬県大間々扇状地の地域と景観』pp.7-17
- 高島英之・宮瀧交二 2002 「群馬県出土の刻書紡錘車についての基礎的研究」『群馬県立歴史博物館紀要』23 pp.31-53
- 高島英之 2004 「群馬県多野郡吉井町大字神保字北高原出土の刻書紡錘車について」『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』22 pp.353-362
- 高島英之 2006 「第2章 古代の墨書・刻書の紡錘車—上野国域内出土資料の検討を中心に—」『古代東国地域史と出土文字資料』pp.212-259
- 中沢悟・春山秀幸・関口功一 1988 「古代布生産と在地社会—矢田遺跡出土紡錘車の分析を通して—」『群馬の考古学 創立十周年記念論集』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 中沢悟 1996a 「紡錘車の基礎研究(1)」『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』13 pp.83-126
- 中沢悟 1996b 「紡錘車の基礎研究(2)」『専修考古学』6 pp.67-95
- 前橋市教育委員会 1988 『芳賀東部団地遺跡Ⅱ—古墳～平安時代編 その2—』芳賀団地遺跡群第2巻
- 吉井町多胡碑記念館 2008 『第32回企画展 紡む 紡錘車が語る多胡郡』

遺構計測表

凡例

1. 土坑・ピット計測表は、遺跡ごとに作成し、遺構番号順に並べた。
2. 位置のX、Yの数値は国家座標値の下3桁を用いて示した。
3. 規模の()は残存値である。

出土遺物一覧表

凡例

1. 土坑・ピット出土遺物一覧表は、遺跡ごとに作成し、遺構番号順に並べた。
2. 出土遺物数の掲載がない遺構は、遺物が出土しなかったものである。

遺物観察表

凡例

1. 遺物観察表は、本文第3・4章の遺物掲載順に並べた。
2. 法量の()は残存値である。
3. 計測値では口径→口、底径→底、器高→高、高台径→台、稜径→稜、甕・壺などで胴部最大径→胴、内湾する杯などで最大径→最、蓋の摘み最大径→摘、紡輪軸孔→孔と略している。
4. 土器および土製品の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠した。
5. 鉄製品・鉄滓のメタルおよび磁性については、「胎土／焼成／色調 石材・素材等」欄に記載した。

目次

1. 本関町古墳群 土坑計測表	261
2. 関遺跡 土坑計測表	261
3. 本関町古墳群 ピット計測表	263
4. 関遺跡 ピット計測表	263
5. 本関町古墳群 土坑・ピット出土遺物一覧表	267
6. 関遺跡 土坑・ピット出土遺物一覧表	267
7. 本関町古墳群 遺物観察表	269
8. 関遺跡 遺物観察表	272

1. 本関町古墳群 土坑計測表

区	土坑番号	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	重複	備考	本文頁	挿図番号	写真図版
F	1	X=902～903 Y=-533～-534	不明	(0.56)×0.85	1.14	N-60°-W			38	29	
H	1	X=813～815 Y=-552～-554	楕円形	1.04×0.92	1.25	N-6°-E	1墳周堀	縄文時代	19	11	3・107
H	2	X=820～823 Y=-562～-565	不明	(1.75)×1.99	1.47	N-64°-W		縄文時代	19	11	3
H	3	欠番									
H	4	X=815～817 Y=-566～-568	楕円形	1.15×1.02	1.25	N-24°-W		縄文時代	19	11	3
H	5	X=815～818 Y=-560～-563	不定形	2.37×0.88	0.29	N-51°-E			38	29	11
H	6	X=818～820 Y=-551～-553	不定形	1.17×0.83	0.44	N-84°-E			38	29	11
H	7	X=815～817 Y=-557～-559	楕円形	1.06×0.88	0.33	N-13°-W		縄文時代	19	11	3
H	8	X=815～817 Y=-556～-557	楕円形	0.61×0.57	0.32	N-76°-W			38	29	
H	9	X=818～820 Y=-560～-561	楕円形	0.83×0.46	0.24	N-16°-E			38	29	
H	10	X=809～811 Y=-557～-559	長方形	0.8×0.62	0.35	N-68°-W			38	29	
H	11	欠番									
H	12	X=808～810 Y=-558～-560	楕円形	1.10×(0.78)	0.14	N-49°-W	13土		38・39	29	
H	13	X=808～810 Y=-557～-560	楕円形	1.16×(0.38)	0.07	N-55°-W	12土		39	29	
H	14	X=806～808 Y=-562～-564	円形	1.41×1.3	0.33	N-57°-W			39	29	11
H	15	X=809～811 Y=-552～-555	楕円形	1.26×1.14	1.56	N-83°-W		縄文時代	21	12	3
J	1	X=744～747 Y=-591～-595	長方形	3.04×1.77	0.72	N-5°-W			39	30	11
J	2	X=738～741 Y=-592～-595	不定形	2.13×(1.77)	0.46	N-75°-W	1墳周堀		39	30	11
J	3	X=741～743 Y=-594～-596	楕円形	0.79×0.71	0.75	N-60°-W	1墳周堀	縄文時代	21	12	3

2. 関遺跡 土坑計測表

区	土坑番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	分類	重複	本文頁	挿図番号	写真図版
2	1	1	X=471～473 Y=-752～-754	円形	1.27×1.27	0.40	-		5畑	221	216	105
2	2	2	X=433～434 Y=-767～-769	楕円形	0.84×0.79	0.49	N-47°-E	⑤		189	181	97
2	3	2	X=435～437 Y=-764～-765	楕円形	0.97×0.53	0.20	N-14°-E	⑤		189	181	97
2	4	2	X=433～435 Y=-760～-762	隅丸長方形	1.57×0.83	0.25	N-89°-W	②		189	180	97
3	1	1	X=402～404 Y=-775～-777	楕円形	1.05×0.65	0.34	N-70°-W		5住、1畑	221	216	106
3	2	1	X=405～407 Y=-773～-775	円形	1.14×1.07	0.28	N-40°-E		1畑	221	216	106
3	3	1	X=407～409 Y=-774～-776	円形	1.03×0.95	0.15	N-55°-W		17土、18ピット	221	216	106
3	4	1	X=410～412 Y=-770～-772	円形	0.95×0.89	0.37	N-48°-W		7住、1畑	221・222	216	106・124
3	5	2	X=424～426 Y=-772～-774	長方形	1.27×(0.87)	0.21	N-8°-E	③		189	180	97
3	6	2	X=401～402 Y=-770～-772	不定形	(0.55)×0.70	0.44	N-47°-W	⑥	8ピット	189・190	182	97
3	7	2	X=401～402 Y=-771～-773	不定形	1.01×0.74	0.38	N-69°-W	⑥		189・190	182	97
3	8	2	X=402～404 Y=-770～-771	長方形	0.72×0.60	0.44	N-4°-W	③		189	180	98
3	9	2	X=402～404 Y=-771～-773	長方形	(0.25)×(0.61)	0.21	N-76°-W	③	28ピット	189	180	98
3	10	2	X=404～406 Y=-770～-771	楕円形	0.89×0.61	0.63	N-10°-E	⑤		189	181	98
3	11	2	X=404～406 Y=-771～-773	不定形	0.61×(0.55)	0.09	N-10°-W	⑥	25ピット	189・190	182	98
3	12	2	X=406～407 Y=-770～-771	楕円形	0.69×0.53	0.48	N-74°-E	⑤		189	181	98
3	13	2	X=406～407 Y=-771～-773	楕円形	0.82×0.66	0.45	N-18°-W	⑤		189	181	98

遺構計測表

区	土坑 番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	分類	重複	本文頁	挿図番号	写真図版
3	14	2	X=401 ~ 402 Y=-777 ~ -779	楕円形	0.95×0.64	0.35	N-43°-E	⑤		189	181	98
3	15	2	X=399 ~ 401 Y=-778 ~ -779	楕円形	0.87×0.49	0.18	N-32°-E	⑤	2住	189	181	98
3	16	2	X=401 ~ 402 Y=-779 ~ -780	不定形	0.78×0.70	0.46	N-34°-E	⑥	4住	189・190	182	99
3	17	2	X=406 ~ 409 Y=-774 ~ -776	細長形	2.84×0.91	0.25	N-1°-E	①		189	180	99
3	18	2	X=411 ~ 412 Y=-774 ~ -776	隅丸長方形	1.10×0.72	0.22	N-72°-W	②		189	180	99
3	19	2	X=409 ~ 411 Y=-769 ~ -771	不定形	1.21×0.72	0.22	N-53°-E	⑥	7住	189・190	182	99
3	20	2	X=412 ~ 414 Y=-771 ~ -773	楕円形	1.11×0.81	0.29	N-9°-E	⑤		189	181	99
3	21	2	X=412 ~ 413 Y=-769 ~ -770	楕円形	0.85×0.78	0.43	N-87°-E	⑤		189	181	99
3	22	2	X=413 ~ 415 Y=-768 ~ -770	楕円形	1.08×0.92	0.58	N-6°-W	⑤		189	181	99
3	23	2	X=416 ~ 418 Y=-772 ~ -774	楕円形	0.93×0.62	0.15	N-80°-E	⑤		189	181	100
3	24	2	X=426 ~ 429 Y=-768 ~ -770	隅丸長方形	1.69×0.69	0.32	N-8°-E	②		189	180	100
3	25	2	X=428 ~ 431 Y=-768 ~ -769	隅丸長方形	1.69×0.69	0.34	N-8°-E	②		189	180	100
3	26	2	X=401 ~ 403 Y=-773 ~ -776	細長形	2.16×0.55	0.22	N-5°-E	①	11ピット	189	180	100
3	27	2	X=395 ~ 396 Y=-785 ~ -786	不明	(0.31)×(0.36)	0.64	N-21°-E	⑥		189・190	182	100
3	28	2	X=395 ~ 396 Y=-784 ~ -786	不定形	0.54×0.51	0.65	N-69°-E	⑥		189・190	182	100
3	29	2	X=395 ~ 397 Y=-785 ~ -786	不明	(0.50)×(0.91)	0.55	N-72°-W	⑥		189・190	182	100
3	30	2	X=397 ~ 398 Y=-784 ~ -786	円形	0.52×0.48	0.22	N-22°-E	④		189	180	100
4	1		欠番									
4	2		欠番									
4	3		欠番									
4	4	2	X=393 ~ 395 Y=-785 ~ -787	不明	(0.74)×(0.69)	0.60	N-42°-W	⑥		189・190	182	100
5	1	2	X=319 ~ 321 Y=-809 ~ -811	円形	1.06×1.04	0.60	N-28°-W	④	7住	189	180	100・101
5	2	2	X=322 ~ 323 Y=-811 ~ -813	楕円形	0.68×0.57	0.27	N-66°-W	⑤		189	181	101
5	3	2	X=324 ~ 326 Y=-809 ~ -811	楕円形	0.81×0.66	0.43	N-90°	⑤		189	182	101
5	4	2	X=324 ~ 326 Y=-808 ~ -809	楕円形	0.83×0.74	0.47	N-75°-W	⑤		189	181	101
5	5	2	X=326 ~ 328 Y=-809 ~ -811	楕円形	1.10×0.96	0.20	N-76°-W	⑤		189	182	101
5	6	3	X=337 ~ 339 Y=-800 ~ -802	隅丸長方形	0.90×0.70	0.23	N-41°-W			61	47	17
5	7	3	X=338 ~ 340 Y=-802 ~ -804	円形	0.49×0.45	0.27	N-64°-W			61	47	17
5	8	3	X=335 ~ 337 Y=-801 ~ -802	楕円形	(0.49)×0.48	0.16	N-25°-W		17土	61	47	18
5	9		欠番									
5	10	3	X=335 ~ 337 Y=-800 ~ -802	不定形	0.86×0.70	0.14	N-11°-E			61	47	18
5	11	3	X=331 ~ 333 Y=-802 ~ -804	円形	0.53×0.52	0.43	N-6°-E		12土	61	47	18
5	12	3	X=331 ~ 332 Y=-802 ~ -804	長方形	1.09×0.82	0.38	N-53°-E		11土	61・62	47	18
5	13	3	X=331 ~ 333 Y=-800 ~ -801	不定形	1.15×0.74	0.47	N-20°-E			62	47	18・19
5	14	3	X=329 ~ 300 Y=-803 ~ -805	円形	0.45×0.44	0.09	—			62	47	19
5	15	3	X=346 ~ 347 Y=-801 ~ -802	楕円形	0.81×0.45	0.20	N-37°-E		1竪穴	62	47	19
5	16	3	X=341 ~ 342 Y=-803 ~ -805	円形	1.00×0.94	0.32	N-15°-E			62	47	19
5	17	3	X=336 ~ 337 Y=-801 ~ -803	楕円形	0.75×0.51	0.39	N-62°-E		8土	62	47	19

区	土坑 番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	分類	重複	本文頁	挿図番号	写真図版
5	18	3	X=330 ~ 332 Y=-804 ~ -806	長方形	1.33×0.78	0.24	N-86°-E			62	47	19
6	1	2	X=300 ~ 302 Y=-825 ~ -826	不定形	0.97×0.79	0.41	N-22°-E	⑤		189	182	101
6	2	2	X=300 ~ 302 Y=-823 ~ -825	不定形	0.60×0.55	0.26	N-85°-E	⑥		189・190	182	101

3. 本関町古墳群 ピット計測表

区	ピット 番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	重複	本文頁	挿図 番号	写真 図版
G	1		X=844 ~ 845 Y=-552 ~ -555	不定形	0.65×0.48	0.42	N-34°-E		41	31	
G	2		X=385 ~ 846 Y=-549 ~ -551	楕円形	0.44×0.4	0.14	N-54°-W		41	31	
G	3		X=848 ~ 849 Y=-546 ~ -547	不定形	0.5×0.37	0.80	N-68°-E		41	31	
G	4		X=843 ~ 845 Y=-539 ~ -541	円形	0.44×0.39	0.18	N-89°-W		41	31	
G	5		X=843 ~ 845 Y=-538 ~ -540	不定形	0.64×0.44	0.32	N-5°-W		41	31	
G	6		X=843 ~ 845 Y=-538 ~ -541	不定形	0.70×0.46	0.32	N-6°-E		41	31	
G	7		X=842 ~ 845 Y=-537 ~ -539	不定形	(0.87)×0.46	0.42	N-15°-E		41	31	
G	8		X=841 ~ 843 Y=-539 ~ -541	楕円形	0.44×0.38	0.23	N-34°-W		41	31	
G	9		X=841 ~ 842 Y=-539 ~ -540	円形	0.27×0.26	0.20	N-55°-E		41	31	
G	10		X=840 ~ 841 Y=-540 ~ -541	楕円形	0.49×0.37	0.26	N-8°-E		41	31	
G	11		X=840 ~ 842 Y=-538 ~ -539	楕円形	0.45×0.31	0.18	N-50°-E		41	31	
G	12		X=842 ~ 844 Y=-542 ~ -543	楕円形	0.52×0.37	0.20	N-45°-E		41	31	
G	13		X=839 ~ 841 Y=-543 ~ -544	不定形	0.47×0.35	0.24	N-28°-W		41	31	
G	14		X=835 ~ 836 Y=-542 ~ -543	不定形	0.74×0.38	0.14	N-18°-W		41	31	
G	15		X=836 ~ 837 Y=-543 ~ -545	不定形	0.43×0.30	0.11	N-60°-W		41	31	
H	1		X=816 ~ 817 Y=-556 ~ -558	円形	0.25×0.24	0.15	N-12°-E		41	32	
H	2		X=813 ~ 814 Y=-560 ~ -561	楕円形	0.45×0.39	0.14	N-45°-E		41	32	
J	1		X=750 ~ 751 Y=-598 ~ -600	楕円形	0.23×0.21	0.07	N-37°-E		41	33	
J	2		X=748 ~ 749 Y=-597 ~ -598	楕円形	0.35×0.33	0.17	N-4°-E		41	33	

4. 関遺跡 ピット計測表

区	ピット 番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	重複	本文頁	挿図 番号	写真 図版
1	1	2	X=497 ~ 499 Y=-737 ~ -738	円形	0.40×0.38	0.16	N-33°-E		193	183	
1	2	2	X=497 ~ 499 Y=-736 ~ -738	円形	0.31×0.27	0.18	N-90°		193	183	
1	3	2	X=500 ~ 501 Y=-736 ~ -737	円形	0.31×0.26	0.16	N-49°-W		193	183	
1	4	2	X=502 ~ 503 Y=-737 ~ -738	楕円形	0.58×0.28	0.32	N-16°-E		193	183	
1	5	2	X=503 ~ 504 Y=-736 ~ -738	円形	0.27×0.24	0.19	N-4°-W		193	183	
1	6	2	X=498 ~ 499 Y=-740 ~ -741	円形	0.34×0.29	0.19	N-16°-W	2住	193	183	
1	7	2	X=498 ~ 499 Y=-739 ~ -740	円形	0.29×0.26	0.14	N-13°-E		193	183	
1	8	2	X=499 ~ 500 Y=-739 ~ -740	円形	0.35×0.33	0.27	N-18°-W		193	183	
1	9	2	X=500 ~ 501 Y=-737 ~ -738	円形	0.23×0.22	0.16	N-15°-E		193	183	
1	10	2	X=500 ~ 501 Y=-739 ~ -740	円形	0.40×0.36	0.20	N-40°-E	1住	193	183	
1	11	2	X=502 ~ 503 Y=-739 ~ -740	円形	0.30×0.29	0.13	N-84°-W		193	183	
1	12	2	X=504 ~ 505 Y=-740 ~ -741	円形	0.28×0.26	0.17	N-48°-E		193	183	

遺構計測表

区	ピット 番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	重複	本文頁	挿図 番号	写真 図版
1	13	2	X=503 ~ 504 Y=-739 ~ -740	円形	0.30×0.30	0.13	—		193	183	
1	14	2	X=504 ~ 505 Y=-738 ~ -739	円形	0.35×0.30	0.27	N-65°-W		193	183	
1	15	2	X=504 ~ 505 Y=-737 ~ -738	円形	0.35×0.30	0.25	N-48°-E		193	183	
2	1	2	X=441 ~ 442 Y=-767 ~ -769	円形	0.44×0.43	0.23	N-15°-W		193	185・186	
2	2		欠番								
2	3		欠番								
2	4	2	X=444 ~ 445 Y=-760 ~ -761	不定形	0.49×0.39	0.38	N-81°-E		193	185・186	
2	5	2	X=447 ~ 448 Y=-759 ~ -760	円形	0.31×0.28	0.34	N-85°-W		193	185・186	
2	6	2	X=450 ~ 452 Y=-758 ~ -759	円形	0.41×0.34	0.20	N-31°-W		193	185・186	
2	7	2	X=450 ~ 451 Y=-756 ~ -757	円形	0.44×0.37	0.25	N-70°-W		193	185・186	
2	8	2	X=451 ~ 453 Y=-754 ~ -756	円形	0.48×0.45	0.21	N-75°-E		193	185・186	
2	9	2	X=452 ~ 454 Y=-752 ~ -753	楕円形	0.28×0.22	0.28	N-70°-W		193	185・186	
2	10	2	X=453 ~ 454 Y=-753 ~ -754	円形	0.35×0.32	0.19	N-44°-E		193	185・186	
2	11	2	X=455 ~ 456 Y=-752 ~ -754	円形	0.32×0.28	0.55	N-67°-W		193	185・186	
2	12	2	X=438 ~ 439 Y=-763 ~ -764	円形	0.32×0.28	0.05	N-84°-W		193	185・186	
2	13	2	X=473 ~ 474 Y=-751 ~ -752	円形	0.41×0.38	0.49	N-50°-E		193	184	
2	14	2	X=473 ~ 474 Y=-754 ~ -755	円形	0.32×0.29	0.85	N-84°-W		193	184	
2	15	2	X=448 ~ 449 Y=-753 ~ -755	楕円形	0.22×0.18	0.28	N-75°-E		193	185・186	
2	16	2	X=451 ~ 452 Y=-753 ~ -754	円形	0.46×0.44	0.12	N-17°-E		193	185・186	
2	17	2	X=451 ~ 452 Y=-753 ~ -754	楕円形	0.26×0.19	0.13	N-86°-E		193	185・186	
2	18		欠番								
2	19		欠番								
2	20		欠番								
2	21		欠番								
2	22		欠番								
2	23		欠番								
2	24	2	X=464 ~ 465 Y=-758 ~ -759	不明	(0.28)×(0.25)	0.32	N-10°-W		193	184	
2	25	3	X=487 ~ 489 Y=-747 ~ -748	円形	0.26×0.23	0.20	N-61°-W	15住	64	48	
3	1	2	X=396 ~ 397 Y=-773 ~ -774	円形	0.35×0.35	0.29	—		193	188・189	
3	2	2	X=398 ~ 399 Y=-773 ~ -775	円形	0.38×0.37	0.31	N-83°-E		193	188・189	
3	3	2	X=398 ~ 400 Y=-773 ~ -774	円形	0.37×0.34	0.20	N-52°-W		193	188・189	
3	4	2	X=398 ~ 399 Y=-771 ~ -772	円形	0.40×0.40	0.29	—		193	188・189	
3	5	2	X=399 ~ 401 Y=-772 ~ -773	楕円形	0.32×0.26	0.24	N-34°-W		193	188・189	
3	6	2	X=400 ~ 401 Y=-772 ~ -773	円形	0.29×0.28	0.15	N-41°-E		193	188・189	
3	7	2	X=400 ~ 401 Y=-770 ~ -772	楕円形	0.32×0.26	0.44	N-42°-E		193	188・189	
3	8	2	X=401 ~ 402 Y=-771 ~ -772	円形	0.39×0.31	0.18	N-6°-W	6土	193	188・189	97
3	9	2	X=401 ~ 403 Y=-772 ~ -774	円形	0.35×0.32	0.23	N-18°-W		193	188・189	
3	10	2	X=400 ~ 401 Y=-773 ~ -775	楕円形	0.35×0.28	0.16	N-32°-W		193	188・189	

区	ピット 番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	重複	本文頁	挿図 番号	写真 図版
3	11	2	X=401 ~ 402 Y=-774 ~ -776	円形	0.46×0.39	0.25	N-75°-W	26土	193	188・189	
3	12	2	X=400 ~ 401 Y=-776 ~ -777	円形	0.31×0.28	0.18	N-78°-W		193	188・189	
3	13	2	X=400 ~ 401 Y=-778 ~ -780	不定形	0.37×0.30	0.17	N-82°-W		193	188・189	
3	14	2	X=400 ~ 401 Y=-779 ~ -781	円形	0.41×0.34	0.25	N-59°-W	4住	193	188・189	
3	15	2	X=398 ~ 399 Y=-779 ~ -780	円形	0.29×0.26	0.21	N-13°-E		193	188・189	
3	16	2	X=397 ~ 398 Y=-778 ~ -779	円形	0.34×0.31	0.15	N-46°-W	2住	193	188・189	
3	17	2	X=404 ~ 406 Y=-778 ~ -779	楕円形	0.33×0.23	0.22	N-80°-E	5住、14住	193	188・189	
3	18	2	X=407 ~ 408 Y=-775 ~ -776	楕円形	0.31×0.25	0.03	N-10°-E		193	188・189	
3	19	2	X=406 ~ 407 Y=-772 ~ -773	円形	0.33×0.32	0.23	N-56°-W		193	188・189	
3	20	2	X=406 ~ 407 Y=-771 ~ -772	円形	0.38×0.35	0.18	N-35°-W		193	188・189	
3	21	2	X=406 ~ 407 Y=-771 ~ -772	楕円形	0.39×0.26	0.04	N-9°-W		193	188・189	
3	22	2	X=406 ~ 408 Y=-770 ~ -771	楕円形	0.55×0.43	0.49	N-50°-W		193	188・189	
3	23		欠番								
3	24		欠番								
3	25	2	X=404 ~ 406 Y=-771 ~ -772	円形	0.48×0.44	0.14	N-50°-W	11土	193	188・189	
3	26	2	X=405 ~ 406 Y=-772 ~ -773	円形	0.27×0.25	0.04	N-25°-E		193	188・189	
3	27	2	X=404 ~ 405 Y=-772 ~ -773	円形	0.28×0.27	0.12	N-34°-E		193	188・189	
3	28	2	X=403 ~ 404 Y=-771 ~ -773	不定形	0.72×0.39	0.20	N-73°-W	9土	193	188・189	
3	29		欠番								
3	30	2	X=410 ~ 412 Y=-774 ~ -775	楕円形	0.29×0.22	0.26	N-69°-W		193	188・189	
3	31		欠番								
3	32	2	X=410 ~ 411 Y=-767 ~ -769	円形	0.31×0.27	0.37	N-64°-E		193	188・189	
3	33	2	X=413 ~ 414 Y=-767 ~ -769	円形	0.49×0.42	0.29	N-63°-E		193	188・189	
3	34	2	X=415 ~ 416 Y=-765 ~ -767	円形	0.49×0.48	0.36	N-37°-E		193	188・189	
3	35	2	X=413 ~ 415 Y=-764 ~ -765	円形	0.39×0.38	0.41	N-69°-W		193	188・189	
3	36	2	X=414 ~ 416 Y=-774 ~ -775	円形	0.59×0.52	0.20	N-30°-W		193	188・189	
3	37	2	X=415 ~ 417 Y=-773 ~ -775	楕円形	0.55×0.45	0.16	N-82°-W		193	188・189	
3	38	2	X=416 ~ 417 Y=-774 ~ -775	楕円形	0.62×0.58	0.40	N-62°-W	11住	193	188・189	
3	39	2	X=417 ~ 419 Y=-773 ~ -774	円形	0.35×0.30	0.32	N-33°-W		193	188・189	
3	40	2	X=418 ~ 419 Y=-773 ~ -775	楕円形	0.64×0.49	0.35	N-21°-E		193	188・189	
3	41	2	X=419 ~ 421 Y=-773 ~ -774	円形	0.50×0.48	0.23	N-7°-W		193	188・189	
3	42	2	X=422 ~ 423 Y=-761 ~ -762	楕円形	0.37×0.30	0.26	N-7°-E		193	187	
3	43	2	X=422 ~ 423 Y=-761 ~ -762	楕円形	0.25×0.20	0.21	N-49°-E		193	187	
3	44	2	X=423 ~ 424 Y=-761 ~ -762	円形	0.38×0.32	0.47	N-77°-E		193	187	
3	45	2	X=426 ~ 427 Y=-760 ~ -762	楕円形	0.47×0.32	0.22	N-82°-W		193	187	
3	46		欠番								
3	47	3	X=403 ~ 405 Y=-774 ~ -776	楕円形	1.10×0.52	0.47	N-0°		64	49	
3	48		欠番								

遺構計測表

区	ピット 番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	重複	本文頁	挿図 番号	写真 図版
3	49		欠番								
3	50		欠番								
3	51	3	X=409 ~ 411 Y=-774 ~ -776	円形	0.24×0.24	0.20	—		64	49	
4	1		欠番								
4	2		欠番								
4	3		欠番								
4	4	2	X=472 ~ 473 Y=-781 ~ -783	円形	0.30×0.30	0.56	—		193	190	
4	5		欠番								
4	6	2	X=387 ~ 388 Y=-777 ~ -778	不定形	0.28×0.25	0.64	N-82°-W		193	190	
5	1	2	X=308 ~ 309 Y=-809 ~ -810	円形	0.27×0.27	0.29	—		193	192・193	
5	2	2	X=310 ~ 311 Y=-810 ~ -811	楕円形	0.50×0.38	0.28	N-26°-W	1住	193	192・193	
5	3	2	X=309 ~ 311 Y=-809 ~ -811	楕円形	0.42×0.34	0.36	N-34°-E	1住	193	192・193	
5	4	2	X=301 ~ 302 Y=-809 ~ -810	楕円形	0.39×0.31	0.38	N-0°	1住	193	192・193	
5	5	2	X=302 ~ 303 Y=-810 ~ -811	円形	0.50×0.47	0.24	N-75°-E	1住	193	192・193	
5	6	2	X=301 ~ 303 Y=-809 ~ -810	円形	0.34×0.31	0.32	N-21°-W	1住	193	192・193	
5	7	2	X=301 ~ 303 Y=-808 ~ -809	円形	0.77×0.74	0.35	N-29°-E		193	192・193	
5	8	2	X=301 ~ 303 Y=-807 ~ -808	円形	0.57×0.49	0.35	N-19°-W		193	192・193	
5	9	2	X=321 ~ 322 Y=-812 ~ -813	円形	0.42×0.42	0.34	—		193	192・193	
5	10	2	X=318 ~ 319 Y=-818 ~ -819	楕円形	0.64×0.53	0.52	N-31°-E		193	192・193	
5	11	2	X=323 ~ 324 Y=-815 ~ -816	楕円形	0.55×0.43	0.33	N-61°-W		193	192・193	
5	12	2	X=324 ~ 325 Y=-815 ~ -816	円形	0.52×0.45	0.63	N-24°-W		193	192・193	
5	13	2	X=322 ~ 323 Y=-810 ~ -811	円形	0.37×0.34	0.52	N-57°-E		193	192・193	
5	14	2	X=321 ~ 322 Y=-809 ~ -811	円形	0.54×0.53	0.78	N-21°-E	7住	193	192・193	
5	15	2	X=321 ~ 322 Y=-808 ~ -810	楕円形	0.44×0.39	0.51	N-68°-W	7住	193	192・193	
5	16	2	X=325 ~ 326 Y=-811 ~ -812	円形	0.40×0.38	0.38	N-2°-E		193	192・193	
5	17	2	X=325 ~ 326 Y=-810 ~ -812	円形	0.42×0.40	0.38	N-55°-W		193	192・193	
5	18	2	X=325 ~ 326 Y=-809 ~ -810	円形	0.41×0.40	0.39	N-35°-E		193	192・193	
5	19	2	X=323 ~ 325 Y=-806 ~ -808	円形	0.64×0.53	0.33	N-27°-W		193	192・193	
5	20	2	X=323 ~ 325 Y=-804 ~ -806	楕円形	0.68×0.54	0.34	N-20°-W		193	192・193	
5	21	2	X=324 ~ 326 Y=-804 ~ -805	円形	0.54×0.53	0.42	N-0°		193	192・193	
5	22	2	X=323 ~ 325 Y=-803 ~ -805	楕円形	0.61×0.47	0.43	N-27°-E	3住	193	192・193	
5	23	2	X=323 ~ 325 Y=-803 ~ -804	円形	0.29×0.24	0.40	N-62°-W		193	192・193	
5	24	2	X=324 ~ 325 Y=-802 ~ -803	円形	0.35×0.35	0.31	—		193	192・193	
5	25	2	X=324 ~ 325 Y=-801 ~ -803	円形	0.40×0.39	0.27	N-72°-W		193	192・193	
5	26	2	X=323 ~ 324 Y=-806 ~ -807	不明	(0.32)×0.47	0.35	N-16°-E	3住	193	192・193	
5	27	2	X=323 ~ 324 Y=-805 ~ -806	円形	0.30×0.27	0.38	N-52°-W		193	192・193	
5	28	2	X=325 ~ 326 Y=-805 ~ -807	楕円形	0.43×0.34	0.47	N-83°-E		193	192・193	
5	29	2	X=325 ~ 326 Y=-805 ~ -806	円形	0.45×0.38	0.45	N-14°-W		193	192・193	

区	ピット番号	面	位置	上面形態	規模(m) [長軸×短軸]	深さ(m)	主軸方向	重複	本文頁	挿図番号	写真図版
5	30	2	X=326 ~ 327 Y=-809 ~ -810	楕円形	0.29×0.23	0.25	N-68°-E		193	192・193	121
5	31	2	X=327 ~ 328 Y=-811 ~ -813	円形	0.30×(0.29)	0.38	N-65°-W	32ピット	193	192・193	
5	32	2	X=327 ~ 328 Y=-811 ~ -813	円形	0.25×(0.25)	0.35	-	31ピット	193	192・193	
5	33	2	X=352 ~ 354 Y=-796 ~ -797	円形	0.50×0.50	0.13	-		193	191	
5	34	2	X=334 ~ 336 Y=-800 ~ -801	不定形	0.95×0.77	0.65	N-26°-W		193	191	
5	35	3	X=355 ~ 357 Y=-797 ~ -799	円形	0.58×0.56	0.72	N-22°-E		65	50	
5	36	3	X=341 ~ 342 Y=-797 ~ -798	円形	0.31×0.27	0.26	N-44°-W		65	50	

5. 本関町古墳群 土坑・ピット出土遺物一覧表

区	番号	遺構名	縄文土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	中世土器	近世土器	近現代陶器	時期不明土器	埴輪	古代瓦	中世瓦	近世瓦	近現代瓦	時期不明瓦	石器・石製品	金属製品	その他	合計	掲載数
H	1	土坑	15																	15	1
H	2	土坑	1																	1	
H	4	土坑	8																	8	
H	5	土坑	2																	2	
H	7	土坑	2																	2	
H	15	土坑	2																	3	
G	1	ピット		1																1	
G	13	ピット		1																1	

6. 関遺跡 土坑・ピット出土遺物一覧表

区	番号	遺構名	縄文土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	中世土器	近世土器	近現代陶器	時期不明土器	埴輪	古代瓦	中世瓦	近世瓦	近現代瓦	時期不明瓦	石器・石製品	金属製品	その他	合計	掲載数
2	1	土坑		11	1															12	
2	2	土坑		5																5	
2	4	土坑		3																3	
3	1	土坑		2																2	
3	2	土坑		18	1															19	
3	3	土坑		4	1															5	
3	4	土坑		3	1											1				5	1
3	5	土坑		5	1															6	
3	6	土坑		7	1															8	
3	7	土坑		6																6	1
3	8	土坑		7																7	1
3	10	土坑		6																6	
3	12	土坑		2	1															3	
3	13	土坑		7																7	
3	15	土坑		5																5	
3	16	土坑		4																4	
3	17	土坑		6	1															7	
3	19	土坑		8																8	
3	20	土坑		9																9	
3	21	土坑		12																12	2
3	22	土坑	2	46																48	
3	24	土坑			1															1	
3	25	土坑		5													1			6	1
3	26	土坑		11																11	
3	27	土坑		2																2	
3	28	土坑		9	1															10	1
3	29	土坑		10																10	1
5	1	土坑		4																4	
5	2	土坑		36																36	
5	3	土坑		51	3												1			55	1
5	4	土坑		67	5															72	
5	5	土坑		4	3															7	
1	2	ピット		2																2	
1	3	ピット		1																1	
1	4	ピット		5																5	
1	5	ピット			1															1	

遺構計測表

区	番号	遺構名	縄文土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	中世土器	近世土器	近現代陶器	時期不明土器	埴輪	古代瓦	中世瓦	近世瓦	近現代瓦	時期不明瓦	石器・石製品	金属製品	その他	合計	掲載数
1	6	ピット		7																7	
1	8	ピット		6																6	
1	10	ピット		1																1	
1	11	ピット		18	2															20	
1	13	ピット		1																1	
1	14	ピット		2	1															3	
2	13	ピット		3																3	
2	14	ピット		2																2	
2	16	ピット			1															1	
3	4	ピット		3																3	
3	7	ピット		1																1	
3	8	ピット		3																3	
3	9	ピット		1																1	
3	18	ピット		11																11	
3	19	ピット		3																3	
3	20	ピット		1																1	
3	22	ピット		1																1	
3	25	ピット		1																1	
3	33	ピット		2																2	
3	36	ピット		3																3	
3	37	ピット		5																5	
3	39	ピット		10	2															12	
3	40	ピット		11																11	
3	41	ピット		11																11	
3	43	ピット		3																3	
3	44	ピット		1																1	
3	47	ピット		2																2	
5	3	ピット		11	3															14	
5	4	ピット		10	2															12	
5	5	ピット		24	4															28	
5	6	ピット		21	2															23	
5	7	ピット		17	3															20	
5	8	ピット		16																16	
5	9	ピット		11	1															12	
5	10	ピット		23	9															32	
5	11	ピット			3															3	
5	12	ピット		5																5	
5	13	ピット		5																5	
5	14	ピット		16	4															20	
5	15	ピット		87	13															100	
5	16	ピット		2																2	
5	17	ピット		2																2	
5	18	ピット		19	4															23	
5	19	ピット		13	4															17	
5	20	ピット		1																1	
5	21	ピット		12																12	
5	26	ピット		2																2	
5	27	ピット		1																1	
5	28	ピット		1																1	
5	29	ピット		18	3															21	
5	30	ピット		11	1															12	1
5	31	ピット		9	4															13	
5	32	ピット		3	6															9	
5	33	ピット		112	23															135	
5	34	ピット		102	16															118	
5	35	ピット		67	10	1														78	
5	36	ピット		15	2															17	
5	37	ピット		1																1	
5	39	ピット		26	8															34	
5	40	ピット		40	10															50	

7. 本関町古墳群 遺物観察表

J区1号トレンチ

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	5.5 厚 重	1.4 9.6			
第10図 PL.107	1	剥片石器 剥片	1層 完形				黒曜石	小形剥片。背面側剥離面と剥片の剥離方向は直交する関係にあるほか、剥片の左側縁・剥片端部には異なる石核作業面が取りこまれており、これが多面体石核から剥離されたものであることが分かる。	旧石器時代調査でAs-YP上のローム層から出土。

H区1号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	5.5 厚 重	1.4 9.6			
第11図 PL.107	1	縄文土器 深鉢	埋没土 胴部片				粗砂	胴部に沈線で文様を描き、文様内にR Lの縄文を充填する。	称名寺式

縄文時代の遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	5.5 厚 重	1.4 9.6			
第13図 PL.107	1	縄文土器 深鉢	G区1号墳周堀 埋没土 口縁部片				粗砂、細礫	平口縁の口縁下に沈線を巡らせ、以下に沈線で文様を描く。	称名寺式
第13図 PL.107	2	縄文土器 深鉢	G区2号溝埋没土 口縁部片				細砂	平口縁の口縁部が有段となり、以下の胴部に沈線で文様を描く。	称名寺式
第13図 PL.107	3	縄文土器 深鉢	H区2号墳周堀 埋没土・表採 口縁部片				細砂	緩い波状口縁の波頂部口唇に刺突をもち、口縁下に沈線を巡らせ、以下に沈線でJ字状等の文様を描く。	称名寺式
第13図 PL.107	4	縄文土器 深鉢	F区1号墳周堀 埋没土 口縁部片				粗砂	平口縁の口縁下に沈線で文様を描き、文様内に刺突を施す。	称名寺式
第13図 PL.107	5	縄文土器 深鉢	- 口縁部片				細砂	平口縁の口縁部が有段となり、以下の胴部に沈線で曲線的な文様を描き、文様内に刺突を施す。裏面の口縁下には、円形刺突をもつ円形状の貼付と隆線で文様を描く。	称名寺式
第13図 PL.107	6	縄文土器 深鉢	H区1トレンチ 口縁部片				細砂	緩い波状口縁の波頂部口唇に一对の円形刺突をもつ円形状の貼付をもち、口縁下は無文帯となる。	称名寺式
第13図 PL.107	7	縄文土器 深鉢	H区1号墳周堀 埋没土 口縁部片				細砂	平口縁の口縁下に沈線で文様を描き、文様内にL Rの縄文を施す。	称名寺式
第13図 PL.107	8	縄文土器 深鉢	H区1号墳周堀 埋没土 口縁部片				細砂	平口縁の口縁下に沈線で文様を描き、文様内にLの縄文を施す。	称名寺式
第13図 PL.107	9	縄文土器 深鉢	H区4号土坑埋没土 口縁部片				細砂	平口縁の口縁下に沈線で文様を描き、文様内にR Lの縄文を施す。	称名寺式
第13図 PL.107	10	縄文土器 深鉢	H区1号墳周堀 埋没土 口縁部片				細砂	平口縁の口縁下に沈線を巡らせ、以下に沈線でV字状等の文様を描き、文様内にL Rの縄文を充填する。	称名寺式
第13図 PL.107	11	縄文土器 深鉢	G区4トレンチ 口縁部片				細砂	平口縁の口縁に環状の突起をもち、突起の上端に刺突をもつ沈線、裏面に刺突と弧状の沈線を有する。	称名寺式
第13図 PL.107	12	縄文土器 深鉢	H区7号土坑埋没土 口縁部片				粗砂	平口縁の口縁下に沈線を巡らせ、以下に条線を縦位・斜位に施す。	称名寺式
第13図 PL.107	13	縄文土器 深鉢	H区表採 口縁部片				細砂	平口縁の口縁以下に条線を縦位に施す。	称名寺式
第13図 PL.107	14	縄文土器 鉢	F区1号墳周堀 埋没土 胴部片				細砂	頸部下の膨れる胴部に沈線で曲線的な文様を描く。	堀之内式
第13図 PL.107	15	縄文土器 深鉢	H区1号・2号 墳周堀埋没土 胴部片				粗砂	胴部に沈線を縦位・斜位に施す。	称名寺式
第13図 PL.107	16	縄文土器 深鉢	H区1トレンチ 胴部片				粗砂	胴部に沈線で文様を描く。	称名寺式
第13図 PL.107	17	縄文土器 深鉢	H区2号墳周堀 埋没土 胴部片				粗砂、小礫	胴部に沈線で文様を描く。	称名寺式
第13図 PL.107	18	縄文土器 深鉢	G区遺構確認面 胴部片				粗砂	胴部に沈線を縦位・斜位に施す。	称名寺式
第14図 PL.107	19	縄文土器 深鉢	J区1号墳周堀 埋没土 胴部片				細砂	胴部に横位矢羽根状の沈線を施す。	称名寺式
第14図 PL.107	20	縄文土器 深鉢	G区1号墳周堀 埋没土 胴部片				粗砂	口縁下に沈線を巡らせ、以下に沈線で文様を描き、文様内に刺突を施す。	称名寺式
第14図 PL.107	21	縄文土器 深鉢	F区1号墳周堀 埋没土 胴部片				粗砂	胴部に沈線で文様を描き、文様内に刺突を施す。	称名寺式
第14図 PL.107	22	縄文土器 深鉢	G区遺構確認面 胴部片				粗砂	胴部に沈線でJ字状等の文様を描き、文様内に刺突を施す。	称名寺式
第14図 PL.107	23	縄文土器 深鉢	H区1号墳周堀 埋没土 胴部片				粗砂	胴部に沈線でJ字状等の文様を描き、文様内に刺突を施す。	称名寺式
第14図 PL.107	24	縄文土器 深鉢	G区4トレンチ 胴部片				粗砂	胴部に沈線で文様を描き、文様内に刺突を施す。	称名寺式

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第14図 PL.107	25	縄文土器 深鉢	G区1号溝埋没土 胴部片					粗砂	胴部に沈線でV字状等の文様を描き、文様内にR Lの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	26	縄文土器 深鉢	H区2号墳周堀埋没土 胴部片					細砂	胴部上半に沈線で曲線的な文様を描き、文様内にR Lの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	27	縄文土器 深鉢	G区1号墳周堀埋没土 胴部片					粗砂	胴部に沈線でJ字状等の文様を描き、文様間にL Rの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	28	縄文土器 深鉢	H区1号土坑埋没土 胴部片					粗砂	胴部に沈線で文様を描き、文様内にR Lの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	29	縄文土器 深鉢	H区1号墳周堀埋没土 胴部片					細砂	胴部上半に沈線でV字状等の曲線的な文様を描き、文様内にL Rの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	30	縄文土器 深鉢	H区2号墳周堀埋没土 胴部片					細砂	胴部に沈線で曲線的な文様を描き、文様内にR Lの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	31	縄文土器 深鉢	H区3トレンチ 胴部片					細砂	胴部下半に沈線で文様を描き、文様内にR Lの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	32	縄文土器 深鉢	H区1号墳周堀埋没土 胴部片					細砂	胴部に沈線で文様を描き、文様内にL Rの縄文を充填する。	称名寺式
第14図 PL.107	33	縄文土器 深鉢	G区2号墳周堀埋没土 胴部片					粗砂	胴部に条線を縦位に施す。	称名寺式
第14図 PL.107	34	縄文土器 深鉢	G区2号墳周堀埋没土 胴部片					粗砂	胴部に条線を縦位に施す。	称名寺式
第14図 PL.107	35	縄文土器 深鉢	H区2号墳周堀埋没土 胴部片					粗砂	胴部に条線を縦位に施す。	称名寺式
第14図 PL.107	36	縄文土器 深鉢	G区表採 胴部片					粗砂	胴部に条線を縦位に施す。	称名寺式
第14図 PL.107	37	縄文土器 壺	H区1号土坑埋没土 口縁部片					細砂	口縁部が屈曲する平口縁で、くびれる頸部裏面が受け口状に巡る。頸部には沈線が巡り、沈線と円形刺突をもつV字状の隆帯を配し、膨らむ胴部上半に沈線で文様等を描く。	称名寺式
第14図 PL.107	38	縄文土器 壺	F区1号墳周堀埋没土 口縁部片					粗砂	短く外反する平口縁で、裏面に沈線を巡らせ、円形刺突をもつ円形状の貼付を配する。表面頸部には沈線が巡り、8字状の貼付を配する。	称名寺式
第14図 PL.107	39	縄文土器 深鉢	H区3トレンチ 頸部片					粗砂	くびれる頸部に円形刺突をもつ隆帯を縦位に配し、沈線を巡らせる。	称名寺式
第14図 PL.107	40	縄文土器 壺?	G区4トレンチ 胴部片					細砂	胴部に沈線で曲線的な文様を描き、円形刺突をもつ円形状の貼付と隆帯を配する。	称名寺式
第14図 PL.107	41	縄文土器 壺?	G区4トレンチ 胴部片					細砂	膨らむ胴部に沈線をもつ隆帯で曲線的な文様を描き、その端部に円形刺突をもつ円形状の貼付を配する。	称名寺式
第15図 PL.107	42	縄文土器 壺?	G区2号墳周堀埋没土 胴部片					細砂	くびれる頸部に円形刺突をもつ円形状の貼付を配し、沈線を巡らせる。以下の膨らむ胴部に沈線で曲線的な文様を描く。	称名寺式
第15図 PL.108	43	縄文土器 壺	H区4号土坑埋没土 胴部片					細砂	頸部が屈曲する様にくびれ、以下の膨らむ胴部に沈線で曲線的な文様を描き、文様内にR Lの縄文を充填する。	称名寺式
第15図 PL.108	44	縄文土器 浅鉢	G区1号墳周堀埋没土 胴部片					粗砂	胴部が屈曲し、屈曲部に円形刺突をもつ円形状の貼付を配する。胴部上半には沈線で文様を描き、下半は無文。	称名寺式
第15図 PL.108	45	縄文土器 深鉢	H区15号土坑埋没土 胴下半~底部					粗砂	胴部下半は無文。	称名寺式
第15図 PL.108	46	縄文土器 深鉢	H区表採 胴下半~底部					細砂	胴部に沈線で曲線的な文様を描く。	称名寺式
第15図 PL.108	47	縄文土器 深鉢	G区4トレンチ 底部					粗砂	胴部に沈線で文様を描く。	称名寺式
第15図 PL.108	48	縄文土器 蓋	G区1号溝埋没土 一部欠損	径高 6.3 (1.5)				粗砂	径6.3cmほどの円形の蓋で、表面は無文。中央付近に2か所の剥落痕があり、環状の摘みが想定される。	縄文時代後期
第15図	49	剥片石器 石鏃	G区3トレンチ 略完形	長幅 3.0 (1.6)	厚重 0.4 1.3			黒曜石	完成状態。全面を押圧剥離が覆う。背面側左辺の「返し部」を欠損する。	
第15図 PL.108	50	剥片石器 剥片	H区1号墳周堀埋没土 完形	長幅 2.7 1.9	厚重 0.9 3.7			黒曜石	角礫状を呈す小形石核から剥離された小形剥片。上面側の打面・右側縁に礫面を残す。	
第15図	51	剥片石器 石核	H区表採 完形	長幅 3.0 3.1	厚重 1.8 15.2			チャート	やや厚手の小形剥片を用い、表裏面で小形幅広剥片を剥離する。背面側の剥離は求心的だが、上下両端の剥離が右辺側の剥離に先行する。	
第15図	52	剥片石器 打製石斧	G区4トレンチ 3/4	長幅 (15.2) (5.4)	厚重 2.9 226.1			黒色頁岩	完成状態。くびれ部縁辺は摩滅が著しく、捲縛痕と考えられる。上下両端を破損する。被熱してヒビ割れるほか、表面の剥落も目立つ。	G区1溝と接合
第15図	53	礫石器 凹石	H区1トレンチ 1/2	長幅 (7.2) 6.5	厚重 4.2 190.5			粗粒輝石安山岩	断面漏斗状の孔が背面側2か所、裏面側1か所に残るほか、両側縁に著しい敲打が残る。上半部を欠損する。	

F区1号墳

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第19図 PL.108	1	土師器 甕	周堀底面上55cm 胴部一部欠	口 底	20.4 9.2	高	28.2	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/浅黄	器形は歪み平面形は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。胴部は上位から中位が縦位に3回に分けてヘラ削り。下位は斜位のヘラ削り。底部は周縁部が輪状に厚さを増す。ヘラ削り。内面は大部分が摩滅。横位のナデ。

G区1号墳

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第21図 PL.108	1	須恵器 甕	周堀埋没土 口縁部片	口	24.0			白色・黒色鈹物粒/ 還元焰・顕緻/灰黄	口縁部は先端近くで外面に段をなした後、短く外反。外方に平坦面を向ける。
第21図	2	埴輪 円筒 (朝顔形)	周堀埋没土 口縁部中位片					粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部突帯周辺の破片。外面縦ハケ(15本/2cm)後、突帯貼付。その後、周縁部に横ナデ。突帯は断面三角形に近い下稜の低い台形。内面は指ナデ。
第21図	3	埴輪 円筒	周堀埋没土 口縁部下位～胴 部上位片					粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい赤 褐	外面は縦ハケ(6本/2cm)後、突帯貼付。その後、周縁部に横ナデ。突帯はナデにより上稜が上方に反り返っている。胴部に円形と考えられる透孔の一部が残存する。

G区2号墳

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第23図	1	埴輪 円筒	周堀埋没土 口縁部片					粗砂粒/良好/明赤 褐	先端は平坦面をなす。外面は縦ハケ(6本/2cm)後、横ナデを施し、ハケ目を消そうとしている。内面は縦ハケ、ナデ後、横ナデ。内面に「X」のヘラ記号。
第23図	2	埴輪 円筒	周堀埋没土 胴部片					粗砂粒/良好/赤褐	外面は縦ハケ(7本/2cm)後、断面三角形の突帯貼付。その後、周縁部に横ナデを施す。内面は斜方向にハケ目、一部に指押さえ、ナデ。

J区1号墳

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第26図 PL.108	1	土師器 杯	周堀底面上23cm 完形	口	12.9	高	4.3	粗砂粒/良好/黒褐	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。一部にナデ。内面はナデ。
第26図 PL.108	2	土師器 杯	周堀底面直上 1/2	口	12.7	高	3.8	粗砂粒少/良好/黄 灰	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部はナデに近い手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第26図 PL.108	3	埴輪 円筒	周堀埋没土 口縁部～胴部片					粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は先端が大きく外反して立ち上がる。先端は平坦面をなす。外面は縦位のヘラナデ後、口縁部先端に横ナデ。突帯は断面台形。貼付後、周縁部に横ナデを施す。内面は斜位のヘラナデ、指押さえ。胴部の突帯寄りに円形と考えられる透孔の一部が残存する。口縁部外面にヘラ記号の一部残存。
第27図 PL.108	4	埴輪 円筒	周堀底面上17～ 31cm 基底部下位欠損 1/4	口	22.6			小礫・粗砂粒多/良 好/にぶい黄橙	2条3段構成と考えられる。外面は縦位のヘラナデ。その後、口縁部先端に横ナデ。突帯は断面台形で突出度は低い。貼付後周縁部に横ナデ。透孔は一部残存、円形と考えられる。内面は縦位のナデ。
第27図	5	埴輪 円筒 (朝顔形)	周堀埋没土 口縁部中位片					小礫・粗砂粒・チャ ート/良好/橙	斜め上方に向かって立ち上がる。外面は縦位のヘラナデ。残存中位に断面台形の突帯を貼付。その後、周縁部に横ナデを施す。内面は斜位のヘラナデ。
第27図	6	埴輪 円筒 (朝顔形)	周堀埋没土 破片					粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は縦ハケ(6本/2cm)後、下稜の低い断面台形の突帯を貼付。その後、周縁部に横ナデを施す。内面は指ナデ。
第27図	7	埴輪 円筒	周堀埋没土 口縁部～胴部片					粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は縦位のヘラナデ。突帯は低く断面台形を呈する。貼付後、周縁部横ナデを施す。内面は斜位のヘラナデ。一部指押さえの痕跡を残す。胴部には突帯近くに円形と考えられる透孔の一部を残す。内面にヘラ記号の一部が認められる。
第27図 PL.108	8	埴輪 円筒	周堀底面上17～ 28cm 口縁部～胴部片					粗砂粒多/良好/橙	突帯を2条残す。外面は縦位のヘラナデ。突帯は下稜の低い断面台形を呈する。貼付後、周縁部にヘラナデ。内面は縦・斜横にナデ。段間に円形と考えられる透孔の一部が残存する。
第27図	9	埴輪 円筒	周堀底面上17～ 24cm 破片					粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	突帯を2条残す。外面は縦位のヘラナデ。突帯は発達のない断面台形を呈する。内面はナデ、指押さえ。段間中央に円形と考えられる透孔の一部が残存する。切開後、指ナデが加えられている。朝顔形の可能性が高い。
第27図	10	埴輪 円筒	周堀埋没土 胴部片					粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は縦位のヘラナデ後、断面三角形の突帯貼付。内面はヘラナデ、指押さえ。胴部に円形透孔の一部を残す。
第27図 PL.108	11	埴輪 円筒	周堀埋没土 基底部片	底	11.4			粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は縦位のヘラナデ。内面は縦位のヘラナデ。底部近くには基部粘土板作成時の製作板の木目を残す。粘土板の高さは8.5cm。
第27図	12	埴輪 円筒	周堀底面上25～ 27cm 基底部片	底	11.0			粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面・内面は縦位のヘラナデ。

遺物観察表

8. 関遺跡 遺物観察表

縄文時代の遺物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35図 PL.109	1	縄文土器 深鉢	1区 口縁部片				粗砂	平口縁の口縁直下に刺突を巡らせ、縦位の貼付文を配し、口縁部文様に横位の集合沈線を施す。	諸磯式
第35図 PL.109	2	縄文土器 深鉢	1区 胴部片				粗砂	胴部下に横位沈線と隆帯を巡らせて文様帯区画し、区画内に沈線で文様を描き、刺突や印刻を施す。摩滅がひどく、詳細は不明。	勝坂式
第35図 PL.109	3	縄文土器 深鉢	1区 胴部片				粗砂	胴部に沈線で直線的な懸垂文を描き、縄文を縦位に施す。摩滅がひどく、詳細は不明。	加曾利E式
第35図 PL.109	4	縄文土器 深鉢	2区 口縁部片				粗砂	内反する平口縁の口縁下に隆線を巡らせる。摩滅がひどく、詳細は不明。	加曾利E式
第35図 PL.109	5	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 口縁部片				細砂	内反ぎみの平口縁の口縁下に隆線を巡らせ、以下にLRの縄文を施す。	加曾利E式
第35図 PL.109	6	縄文土器 深鉢	2区トレンチ 口縁部片				粗砂	内反する平口縁の口縁下に沈線を巡らせ、以下にRLの縄文を横位・縦位に施す。	加曾利E式
第35図 PL.109	7	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 口縁部片				細砂	内反ぎみの波状口縁の口縁下に隆線を横位に巡らせ、以下にLRの縄文を施す。	加曾利E式
第35図 PL.109	8	縄文土器 深鉢	1区2トレンチ 胴部片				粗砂	胴部に沈線で直線的な懸垂文を描き、0段多条のRLの縄文を横位に施す。	加曾利E式
第35図 PL.109	9	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 胴部片				細砂	胴部にRLの縄文を縦位に施す。	加曾利E式
第35図 PL.109	10	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 胴部片				細砂	胴部にRLの縄文を縦位に施す。	加曾利E式
第35図 PL.109	11	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 胴部片				細砂	胴部にRLの縄文を縦位に施す。	加曾利E式
第35図 PL.109	12	縄文土器 深鉢	2区遺構確認面 胴部片				粗砂	胴部に縄文を施す。摩滅がひどく、詳細は不明。	加曾利E式
第35図 PL.109	13	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 胴部片				細砂	胴部にRLの縄文を縦位に施す。胴部下端は無文。	加曾利E式
第35図 PL.109	14	縄文土器 深鉢	6区3トレンチ 口縁部片				細砂	14・15は同一個体。波状口縁の波頂部表面に沈線をもつ隆帯を添付し、裏面に凹形刺突をもつ。口縁部文様は無文帯と2条の隆線で区画され、隆線間に2列の刺突列を施す。以下の胴部に沈線で曲線的な文様を描き、文様内に縄文を充填する。	称名寺式
第35図 PL.109	15	縄文土器 深鉢	6区3トレンチ 口縁部片				細砂	14・15は同一個体。波状口縁の波頂部表面に沈線をもつ隆帯を添付し、裏面に凹形刺突をもつ。口縁部文様は無文帯と2条の隆線で区画され、隆線間に2列の刺突列を施す。以下の胴部に沈線で曲線的な文様を描き、文様内に縄文を充填する。	称名寺式
第35図 PL.109	16	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 胴部片				粗砂	胴部に沈線で浅く文様を描く。	称名寺式
第35図 PL.109	17	縄文土器 深鉢	3区3号住居埋 没土 胴部片				粗砂	胴部に沈線を斜位に施す。	称名寺式
第35図 PL.109	18	縄文土器 鉢	1区 胴部片				粗砂	頸部下に沈線を数条巡らせ、以下の胴部に4本の沈線で曲線的な文様を描く。	堀之内式
第35図 PL.109	19	縄文土器 深鉢	2区15トレンチ 胴下半～底部				粗砂	胴部下方に沈線で区画されたLRの縄文帯を巡らせ、以下は無文。	堀之内式
第35図 PL.109	20	縄文土器 深鉢	1区第3面 口縁部片				粗砂	波状口縁の波頂下に縦位の瘤状の貼付をもち、口縁下に沈線と刺突を巡らせる。	高井東式
第35図 PL.109	21	縄文土器 深鉢	3区6号住居埋 没土 口縁部片				細砂	平口縁の口縁部が有段となり、口縁下に太い沈線を横位に施す。	高井東式
第35図 PL.109	22	縄文土器 深鉢	4区3号住居掘 方土 口縁部片				粗砂	波状口縁の波頂部に角状の突起をもち、口縁下に沈線を巡らせ、波頂下に縦位の刺突と沈線を施す。	高井東式
第35図 PL.109	23	縄文土器 深鉢	1区2トレンチ 口縁部片				粗砂	平口縁の口縁下に沈線で文様を描く。	高井東式
第35図 PL.109	24	縄文土器 深鉢	1区2トレンチ 口縁部片				細砂	波状口縁の波頂部に沈線をもつ突起をもち、以下は無文。	高井東式
第35図 PL.109	25	縄文土器 鉢	5区7・10トレンチ 口縁部片				細砂	内反ぎみの平口縁の口縁下に3本の太い沈線を巡らせる。	高井東式
第35図 PL.109	26	縄文土器 深鉢	1区2トレンチ 口縁部片				粗砂	平口縁の口縁部が数段の段状となる。	高井東式?
第35図 PL.109	27	縄文土器 深鉢	5区 胴部片				細砂	胴部のくびれ部に刺突をもつ隆帯を巡らせ、胴部に斜位の沈線を施す。	曾谷式
第35図 PL.109	28	縄文土器 深鉢	1区 口縁部片				細砂	波状口縁の波頂部に縦位の沈線を施し、その下に瘤状の貼付をもち、摩滅がひどく、詳細は不明。	安行式
第35図 PL.109	29	縄文土器 深鉢	6区1・2トレンチ 口縁部片				粗砂	僅かに内反ぎみの平口縁で、無文。	縄文時代後期
第35図 PL.109	30	縄文土器 深鉢	1区2トレンチ 底部片				粗砂	無文の底部。	縄文時代後期
第35図 PL.109	31	縄文土器 鉢	2区10トレンチ 口縁部片				粗砂	平口縁の無文で、内面に赤彩がある。	縄文時代後期
第36図 PL.109	32	縄文土器 深鉢	1区3トレンチ 口縁～底部				粗砂	1か所の緩い波状口縁で、波頂部が段違いとなり、口縁以下は無文。	縄文時代後期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第36図 PL.109	33	縄文土器 深鉢	1区2トレンチ 口縁～胴部				粗砂	1対の波頂部をもつ小波状口縁で、口縁以下は無文。	縄文時代後期
第36図 PL.109	34	剥片石器 石鏃	1区2トレンチ 略完形	長幅 (2.0)	3.6 厚 2.0	0.5	黒色安山岩	完成状態。右辺「返し部」を大きく欠損。破損は珪晶が原因したものと考えられ、形状作出の最終段階で破損した可能性がある。左辺「返し部」は調査時の欠損。	凹基無茎鏃
第36図 PL.109	35	剥片石器 石鏃	3区14トレンチ 完形	長幅 (1.4)	2.2 厚 1.0	0.5	チャート	側縁は直線的に外反、これに厚手の小さな基部が付く。加工が概して丁寧である。	有茎鏃
第36図 PL.109	36	剥片石器 石鏃	5区7トレンチ 先端・基部欠損	長幅 (1.3)	1.8 厚 0.9	0.5	黒曜石	側縁は直線的に外反、厚手の基部が伸びる。背面側縁に粗い剥離面が残されているが、加工が概して丁寧である。	有茎鏃
第36図 PL.109	37	剥片石器 打製石斧	2区9トレンチ 完形	長幅 (6.2)	8.6 厚 6.2	1.8	黒色頁岩	完成状態。刃部摩耗が著しい。着柄部から刃部間が短く、相当量の刃部再生が行われたことが分かる。	分銅形
第36図 PL.109	38	剥片石器 打製石斧	2区17トレンチ 完形	長幅 (7.0)	9.9 厚 105.7	1.6	黒色頁岩	完成状態。下端側の刃部摩耗が著しい。上端側にも摩耗痕があり、両端が刃部として使われたことが明らかである。	分銅形
第36図 PL.109	39	剥片石器 打製石斧	1区2トレンチ 1/2	長幅 (6.3)	4.9 厚 63.6	1.5	細粒輝石安山岩	完成状態。裏表面とも刃部摩耗が著しい。上半部を欠損する。	短冊形
第36図 PL.109	40	剥片石器 打製石斧	2区16トレンチ 完形	長幅 (8.2)	18.4 厚 703.2	3.6	細粒輝石安山岩	完成状態。両側縁は形状を整える程度に大きく剥離、刃部加工は粗く階段状剥離に近い。刃部摩耗が部分的にあるほか、裏面側平坦面には著しい摩耗面が残る、刃部再生を大きく受けていることが明らかである。	短冊形
第36図 PL.109	41	礫石器 多孔石	2区トレンチ 略完形	長幅 (12.5)	12.6 厚 914.9	6.2	粗粒輝石安山岩	背面側中央付近に断面漏斗状の孔2か所があるほか、集合打痕が著しい。被熱して礫端部を欠損するほか、側縁が煤ける。	楕円礫
第36図 PL.109	42	石製品 石錘	2区10トレンチ 完形	長幅 (2.3)	4.8 厚 16.5	1.0	砂岩	扁平礫の小口部両端を切り込む。	切目石錘

1区水田被覆砂層

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図	1	土師器 小型甕	口縁部～胴部中 位片	口	9.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。	
第44図	2	土師器 台付甕	脚部1/4	底	11.4		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい褐	外面は右下にハケ目(8本/1cm)後、縦位に指ナデ。裾部は指ナデ。内面は斜位のナデ。胴部内面と脚部天井部に砂目粘土を補填。	外面裾部と内面黒色。
第44図 PL.109	3	土師器 器台	受け部～脚部上半	口	9.0		粗砂粒少・黒色鈹 物粒/良好/橙	受け部外面はヘラ磨き。内面はナデの上に一部ヘラ磨き。胴部はヘラ磨き。内面はナデ。	
第44図	4	土師器 壺か	口縁部片	口	13.8		細砂粒/良好/橙	口縁部の先端は外側に折り返したように肥厚する。内外面はハケ目調整後ナデ、ヘラ磨きを加えていると考えられる。	黒色の付着物。
第44図	5	土師器 甕	口縁部～胴部上 位1/4	口	17.9		細砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。頸部から胴部上位は縦位のハケ目(8本/1cm)。以下の胴部は横位のハケ目。内面はヘラ削り後、斜横位のヘラナデ。頸部直下にハケ目を残す。	
第44図	6	土師器 埴	体部～底部1/2				細砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は丁寧なナデ。型肌の痕跡を残す。内面は縦位に指ナデ。	器面黒色の付着物。

1区大溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第44図 PL.109	7	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底部 片	底	4.0		粗砂粒/良好/にぶ い橙	底部に焼成前穿孔の直径0.6cmの小孔がある。胴部外面は最下位に横位のヘラ削り。これより上はヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。底部はヘラ削り。胴部残存部上端は二次調整を施している可能性あり。	内面に黒色の付着物。

1区1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.0		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面摩滅。
第51図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.0		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部はヘラ削りと考えられるが器面摩滅。内面はナデ。	
第51図	3	須恵器 蓋	掘方土 1/4	口	15.0		黒色鈹物粒少/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	内面摩滅。
第51図 PL.110	4	須恵器 杯	床面直上・掘方土 1/4	口底	13.8 8.0	高 3.6	粗砂粒/酸化焰/に ぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離した後、回転ヘラ削り。	炭素吸着。
第51図 PL.110	5	黒色土器 椀	カマド使用面上 7cm 1/4	口底	10.8 6.0	高台 3.8 6.4	粗砂粒・赤黒色粘 土粒少/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。内面は口縁部が横位に、底部は一定方向にヘラ磨き。	内面黒色処理。
第51図	6	黒色土器 椀	カマド使用面直上 底部～高台部	底	6.1	台 6.3	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形(右回転か)。高台部は付け高台。底部内面は格子目状にヘラ磨き。口縁部を打ち欠き、割れ口を微調整し皿状に再利用。	内面黒色処理。
第51図 PL.110	7	土師器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部～胴部上 位1/4	口	18.6		粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	胴部は強く彎曲して伸びる。口縁部は横ナデ。罌部貼付後、胴部はその直下に横位のヘラ削り。以下は斜・斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第51図 PL.110	8	土製品 不明	カマド掘方土 口縁部	長幅 (6.4)	(4.2) 厚 46.4	1.7	灰白	器状を呈すると推定され、口縁部は生きている。胎土に1mm程度の礫が混入され、表面には礫の脱落痕が多数見られる。外面ヘラ削り。内面調整不明。	器面摩滅顕著。
第51図 PL.110	9	土製品 不明	カマド掘方土 口縁部	長幅 (4.8)	(5.0) 厚 41.0	1.2	灰	器状土製品の口縁部片。内面全面と外面の一部に黒色の滓が付着し、内面の方が顕著。胎土には1mm大の砂粒や礫が混入されている。外面ヘラ削り。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
						重			
PL.110	10	鉄滓	埋没土			38.1	メタルあり/磁性 2.0cm	放射割れが著しく、鉄部が大きい。	写真のみ掲載

1区2号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第53図 PL.110	1	土師器 杯	掘方土 3/4	口	12.4	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面に黒色の付着物。やや摩滅。
第53図 PL.110	2	土師器 杯	床上7cm 1/3	口	12.8	高	2.7	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に黒色の付着物。
第53図	3	土師器 杯	床上8cm 1/4	口	12.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第53図 PL.110	4	須恵器 杯	床面付近 口縁部1/2欠	口 底	13.8 10.2	高	3.9	白色鈹物粒少/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転系切り後、周縁部をヘラ削り。	底部外面摩滅。
第53図 PL.110	5	土師器 甕	床上3cm・埋没土 口縁部～肩部片	口	16.3			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のハケ状工具に近いヘラ削り。	被熱。
第53図	6	土師器 甕	カマド使用面直上・カマド使用 面上14cm・掘方土 胴部中位～底部 1/3	底	4.0			粗砂・細砂粒/良 好/暗褐	胴部は斜縦位にヘラ削り。底部もヘラ削り。内面は斜横位にヘラ削り。	外面被熱。煤 付着。
第53図 PL.110	7	石製品 砥石	埋没土 頭部破片	長 幅	(4.0) (3.7)	厚 重	3.9 66.9	砥沢石	四面使用。表裏面とも著しく研ぎ減り、浅い刃ならし傷を伴う。左側面に径7mmの孔を穿つ。上端小口部は折り取り後、磨き整形されている。	切り砥石
第53図	8	鉄製品 角釘	掘方土 破片	長 幅	4.6 2.0	厚 重	1.1 6.7	メタルなし/磁性 1.0cm	土砂を巻き込んで錆化し脆弱。角釘と見られるが詳細構造は不明。	
第53図 PL.110	9	土製品 羽口	埋没土 体部	長 幅	(6.6) (7.1)	厚 重	3.7 89.6	浅黄橙	炉壁の中の通風部分。胎土に1～2mmの礫と0.5～1mmの砂粒が多量に混入されている。	

1区5号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第54図	1	土師器 杯	掘方土 破片	口	11.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に黒色の付着物。
第54図	2	土師器 甕	掘方土 胴部片					粗砂・細砂粒/やや 軟質/淡橙	外面は縦位・横位にヘラ削り。内面は斜横位にヘラナデ。	
第54図	3	須恵器 甕	掘方土 頸部片					粗砂粒・白色鈹物 粒少/還元焰/灰	口縁部残存最上位に沈線が見られる。紐作り後口縁部はロクロ整形。胴部は叩き整形。	内外面に自然 釉付着。
第54図	4	鉄製品 角釘	掘方土 先端部	長 幅	8.8 0.8	厚 重	0.7 53.7	メタルなし/磁性 1.2cm	小石を巻き込んで錆化。断面5mm程の角で先端が三角形に尖る形状が見られるが、詳細構造は不明。	
第55図 PL.110	5	土製品 羽口	掘方土 先端部	長 幅	(15.3) (10.8)	厚 重	4.9 425.6	浅黄橙	内径5.2cm。大型の羽口で、先端部が一部生きている。胎土に1～2mm大の砂粒と3～5mm大の礫が多量に混入されている。内面にはスサの痕跡が多く見られる。	

1区6号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第56図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口	14.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第56図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	12.0			精選・細砂粒少/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられるが器面摩滅。	
第56図 PL.110	3	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～肩部1/4	口	13.8			粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第56図	4	鉄製品 釘	埋没土 頭部～体部	長 幅	4.2 0.8	厚 重	0.6 1.9	メタルあり/磁性 1.0cm	角釘。頭部は僅かに折り曲げられ、先端は破損する。	

1区7号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第57図 PL.110	1	土師器 杯	埋没土 体部～底部片	底	10.4			粗砂粒/良好/橙	体部はヘラ削り。底部も手持ちヘラ削り。内面はナデ後、口縁部に放射状のヘラ磨き。	
第57図	2	須恵器 杯	床上10cm 1/4	口 底	15.2 7.4	高	3.5	粗砂粒/還元焰・酸 化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転系切り後、無調整。口縁部上位に帯状に煤付着。	内外面とも摩 耗。
第57図	3	須恵器 椀	床面直上 底部～高台部	底	8.3	台	8.5	細砂粒/還元焰・酸 化焰/にぶい 黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転系切り後の付け高台。	内外面とも炭 素吸着。黒色 処理か。
第57図	4	須恵器 椀	床面直上 底部～高台部	底	6.7	台	7.5	白色・黒色鈹物粒/ 還元焰・やや軟質/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部はハの字状にやや長く伸びる。底部回転系切り後の付け高台。	
第57図 PL.110	5	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下 位1/2	口	19.2			粗砂・細砂粒/良 好/ 灰褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は上位に横位の、中位は斜位の、下位は斜縦位のヘラ削り。内面の上位・中位は横位の、下位は斜縦位のヘラナデ。	外面被熱。中 位、下位に煤 付着。内面は 変色。
第57図 PL.110	6	石製品 紡輪	埋没土 略完形	径 孔	4.7 0.7	厚 重	0.7 27.1	蛇紋岩	表面の摩耗が著しい。下面側の軸孔周辺には穿孔時に弾け飛んだ痕跡が残る。径7mmの孔を片側穿孔する。	円盤状

1区8号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第58図	1	須恵器 蓋	掘方土 摘み部			摘	2.8 細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形(回転方向不明)。宝珠状をした摘み部分のみ残存。	
第58図	2	須恵器 杯	埋没土 底部片	底	7.2		細砂粒/酸化焰/明 赤褐	口クロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第58図	3	土師器 甕か	掘方土 口縁部~胴部上 位	口	24.0		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	口縁部外面に 煤付着。
第58図	4	土師器 甕か	掘方土 口縁部~胴部上 位片	口	16.6		粗砂粒/良好/暗褐	口縁部は外傾弱く立ち上がる。口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	口縁部外面に 煤付着。

1区9号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第58図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.8		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は指ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第58図	2	須恵器 杯	埋没土 底部片				細砂粒/酸化焰/黒 褐	口クロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内外面とも炭 素吸着。
第58図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	16.8		細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ。	

1区10号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第59図	1	土師器 杯	掘方土 破片	口	11.6		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第59図	2	須恵器 杯	床面直上 底部片	底	7.8		粗砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。口縁部最下位も回転ヘラ削り。	
第59図	3	須恵器 杯	掘方土 底部1/3	底	7.2		粗砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。口縁部最下位も回転ヘラ削り。	
第59図	4	土師器 甕	掘方土 口縁部片	口	21.4		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。	
第59図 PL.110	5	土製品 羽口	埋没土 体部	長 幅	(7.1) (8.4)	厚 重	3.6 136.9 浅黄橙	内径6.0cm。胎土に1~2mm大の砂粒と3mm程度の礫が多量に混入されている。内面および断面でスサの痕跡が見られる。	

1区11号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第60図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	9.8		細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第60図	2	須恵器 杯	掘方土 体部下位~底部 片	底	7.4		白色鈹物粒/還元 焰/灰	口クロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	
第60図	3	須恵器 杯	掘方土 底部片				精選/還元焰/灰白	口クロ整形(右回転か)。底部回転ヘラ削り。	
第60図	4	須恵器 椀	掘方土 底部片				粗砂粒/還元焰/灰	口クロ整形(右回転か)。高台部は付け高台。	
第60図	5	須恵器 椀	掘方土 底部~高台部 1/4	底	6.6	台	6.8 白色鈹物粒少/還 元焰/灰オリーブ	口クロ整形(右回転か)。高台部は付け高台。	
第60図	6	土師器 甕	掘方土 口縁部片	口	21.4		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。	
第60図 PL.110	7	石製品 敲石	掘方土 完形	長 幅	13.4 5.7	厚 重	4.9 503.4 変質安山岩	小口部両端に著しい敲打痕がある。礫面には部分的に被熱による剥落痕が生じている。	棒状礫

1区12号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第61図	1	土師器 杯	掘方土 破片	口	11.8		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第61図	2	土師器 杯	掘方土 口縁部~体部中 位片	口	9.8		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	小破片からの 器形復元。
第61図 PL.111	3	須恵器 杯	埋没土 破片	口 底	13.2 8.4	高	3.3 粗砂粒少/還元焰/ 灰黄	口クロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	外面は炭素吸 着。燻状。
第61図	4	土師器 小型甕か	掘方土 口縁部~胴部上 位片	口	9.8		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は横位のナデ。	

1区14号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第62図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.2		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第62図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	16.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第62図 PL.111	3	須恵器 椀	埋没土 底部～高台部	底	6.2	台	6.9	粗砂粒/還元焰・軟質/にぶい橙	ロクロ整形(右回転か)。高台部は底部切り離し後の付け高台。 やや炭素吸着。

1区15号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図 PL.111	1	土師器 甕か	床面直上 胴部下位					細砂粒多/良好/浅黄	外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。 被熱。

2区1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.6			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 をわずかに残す。内面はナデ。

2区2号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第64図 PL.111	1	土師器 杯	床面付近 1/3	口	12.1	高	4.5	粗砂粒/良好/橙	軽量。口縁部は横ナデ。底部は丸底で手持ちヘラ削り。間に ナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第64図	2	須恵器 甕	掘方土 口縁部片					白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐づくり整形。内外面とも横ナデ。	内面に自然釉 付着。
第64図	3	鉄製品 刀子	掘方土 破片	長 幅	6.4 1.2	厚 重	0.5 11.7	メタルなし/磁性 1.2cm	棟・刃側ともに明確な関を持つ刀子破片で、両端とも劣化 後破損する。茎に木質が錆化残存し、柄装着状態で錆化し た様子がうかがえる。	
第64図	4	鉄製品 鎌	掘方土 先端部	長 幅	8.0 2.6	厚 重	0.5 33.1	メタルなし/磁性 1.2cm	鎌先部分の破片で、柄装着部分を欠く。硬い錆に覆われ本 体は空洞化して脆弱。	

2区3号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第65図 PL.111	1	須恵器 杯	掘方土・11住カ マド埋没土 1/3	口 底	11.5 6.4	高	3.8	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面やや摩耗。
第65図 PL.111	2	須恵器 椀	埋没土 口縁部下半～高 台部片	底	8.2			粗砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。	
第65図 PL.111	3	須恵器 羽釜	床上5cm・掘方 土 口縁部～胴部中 位片	口	18.6			粗砂粒多/酸化焰/ にぶい黄褐	紐作り後、ロクロ整形。口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘ ラ削り。鏝部は成・整形後の貼付。	
第65図	4	土師器 羽釜	カマド使用面直 上・カマド埋没土 口縁部～胴部中 位片	口	19.0			粗砂粒/良好/にぶ い褐	鏝部は成・整形後の貼付。口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位 のヘラ削り。内面は横位・斜横位のヘラナデ。	被熱。やや煤 付着。変色。
第65図	5	土師器 羽釜	カマド使用面直 上口縁部～胴部上 位片	口	18.0			粗砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ。鏝部は成・整形後の貼付。胴部は縦位に 弱いヘラ削り。内面横位のナデ。	
第65図	6	鉄製品 釘	掘方土 破片	長 幅	5.4 0.5	厚 重	0.5 7.0	メタルなし/磁性 1.2cm	断面5mm程の角釘で先端部は劣化破損。頭はやや斜めに加 工されているが劣化が著しく、錆化が進んでいる。鑄造鉄製品の一部 とみられる。	写真のみ掲載
PL.111	7	鉄滓	埋没土			重	15.2	メタルなし/磁性 1.2cm		

2区4号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第66図 PL.111	1	土師器 杯	床面付近 口縁一部欠	口	13.2	高	3.4	粗砂粒/良好/にぶ い橙	底部の中心からややずれた位置に焼成後の穿孔あり。直径 1.1cm。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナ デの部分を残す。内面はナデ。	
第66図 PL.111	2	土師器 杯	床面直上 完形	口	12.2	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面やや摩滅。
第66図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部下 位片	口	15.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第66図 PL.111	4	土師器 杯	床面直上・埋没 土 1/4	口	11.4	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	器面に黒色の 付着物。
第66図	5	須恵器 椀	埋没土 体部下位～高台 部片	底	10.8	台	10.6	黒色鈹物粒少/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。高台部は低く断面台形。底部回転 ヘラ削り後の付け高台。	

2区5号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第68図 PL.111	1	土師器 杯	床面直上・掘方 土 口縁一部欠	口	11.8	高	3.7	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	底部の中央に焼成前の穿孔あり。直径1.8cm。口縁部は横 ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内 面に細かな削痕多数あり。いつの時点のものかは判別困難。	
第68図 PL.111	2	土師器 杯	床面直上 完形	口	12.8	高	4.5	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第68図	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.0		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は全体に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第68図	4	須恵器 蓋	床上23cm 天井部中位～口 縁部片	口	14.4		白色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りには回転ヘラ削り。	
第68図	5	鉄製品 鎌か	埋没土 先端部	長 幅	3.5 1.1	厚 重	0.5 2.2	メタルあり/磁性 1.5cm	先端は片刃の形状で、他端は劣化破損。断面長方形で長頸 鎌の先端部破片と見られる。
第68図 PL.111	6	鉄製品 紡錘車	埋没土 破片	長 幅	10.9 3.5	厚 重	3.5 29.26	メタルなし/磁性 1.0cm	紡錘の端にやや斜めに直径3.5cmの円形の紡輪が付いている。 厚く土砂を巻き込んだ錆に覆われ本体は脆弱。紡錘の 端部は破損後錆化した可能性が有る。7と一緒に出土。
第68図 PL.111	7	鉄製品 紡錘車	埋没土 破片	長 幅	7.5 0.3	厚 重	0.3 5.0	メタルなし/磁性 1.0cm	紡錘車の紡錘とみられる棒状の鉄製品で、6と一緒に出土 している。土砂を巻き込んだ錆に覆われ本体脆弱なため詳 細は不明。

2区6号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第70図 PL.111	1	土師器 杯	床上8～9cm 3/4	口	12.2	高	2.8	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。器面摩滅。炭 素吸着。
第70図 PL.111	2	土師器 杯	床面直上 3/4	口	12.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデと考えられるが器面摩滅のためナデの部分 との境が不明。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。摩滅。
第70図 PL.111	3	土師器 杯	カマド使用面上 4～12cm・カ マド埋没土 1/2	口	16.4	高	5.2	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。体部は横位にヘラ削り。上位にナデの部 分を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内外面炭素吸 着。煤か。
第70図 PL.111	4	土師器 杯	床上7cm 3/4	口	12.2	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。
第70図 PL.111	5	土師器 杯	床上17cm・カ マド使用面上11cm ・埋没土・カ マド埋没土 1/3	口	14.6	高	4.4	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ、下半は横位のヘラ削り。 底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内面に黒色の 付着物。
第70図	6	土師器 杯	掘方土 口縁部～体部下 位片	口	14.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。
第70図	7	土師器 杯	カマド埋没土 1/4	口	12.2			粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。体部(底部上位)はヘラ削り。底部(下位) は手持ちヘラ削り。内面はナデ。器面に黒色の 付着物。漆か。
第70図	8	土師器 杯	カマド埋没土 口縁部～体部下 位片	口	14.6			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部の先端は内側に彎曲。先端直下は沈線状に窪む。口 縁部は横ナデ。体部下半から底部は手持ちヘラ削り。体部 上半はナデ。内面はナデ。内面の一部に 黒色の付着物。
第70図	9	須恵器 椀	床上12cm 1/4	口 底	12.0 8.2	高 台	4.3 8.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付け高台。 内面やや摩耗。
第70図 PL.111	10	土師器 甕	床上22～25cm・ カマド埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	18.6			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。
第70図	11	土師器 甕	カマド使用面上 7～13cm・カ マド埋没土 胴部～底部1/2	底	5.0			粗砂・細砂粒/良好 /橙	胴部上位は斜位、それ以下は斜縦位のヘラ削りを数回に分 けて施す。上位一部はヘラ削りの上にナデを重ねる。底部 はヘラ削り。内面は上半が横位、下半が斜位のヘラナデ。 外面被熱。煤 付着。
第70図	12	須恵器 甕	埋没土 胴部片					白色鈹物粒少/還 元焰/灰	紐づくり整形。外面は擬似格子目状の叩き目痕。内面は同 心円文状の当て具痕。

2区7号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第71図 PL.111	1	土師器 杯	掘方土 底部一部欠	口	13.5			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。口縁部の2か 所に油煙の付 着あり。
第71図 PL.111	2	須恵器 蓋	掘方土 口縁部～天井部 下位3/4	口	15.8			粗砂粒/還元焰や や軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。 器面摩滅。一 部に炭素吸着。

2区8-1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第72図	1	土師器 杯	埋没土・カマド 埋没土 口縁部～体部下 位片	口	13.2	高	2.9	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部はナデ。
第72図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.8			粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。体部はナデ。
第72図	3	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位～底 部片	底	9.2			黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部回転糸切り後、調整。切り離 しは粗雑で2回糸切りを行っているか。
第72図	4	鉄製品 ノコギリ	埋没土 破片	長 幅	4.5 1.6	厚 重	0.3 6.5	メタルなし/磁性 1.2cm	ノコギリ破片。劣化脆弱でX線写真により刃の並びを確認 。両端欠損後錆化していると思われる。

遺物観察表

2区8-2号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第73図 PL.111	1	土師器 杯	床面付近 完形	口	12.3	高	3.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第73図 PL.111	2	土師器 杯	床面付近 完形	口	13.8	高	3.8	粗砂粒/良好/橙	形状は歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第73図	3	土師器 杯	埋没土 破片	口	14.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。小破片からの器形復元の為、法量変わる可能性あり。	器面摩滅。
第73図	4	須恵器 壺	床面直上 肩部片					黒色鈹物粒少/還元焰/灰白	ロクロ整形(回転方向不明)。沈線が2条廻る。	
第73図 PL.111	5	須恵器 杯	床上7cm 1/3	口 底	15.0 9.0	高	3.6	白色鈹物粒/還元焰/やや軟質/灰白	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がるが、下位に変換点を有する。ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	
第73図 PL.111	6	土師器 甕	掘方土 完形	口	15.4	高	14.9	粗砂・細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部上半部は横位のヘラ削り。胴部下半部から底部は斜位のヘラ削り。内面はナデ。	胴部外面被熱。煤付着。内面頸部から胴部は黒色の付着物。

2区9号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第75図 PL.111	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.8	高	4.0	粗砂粒・赤黒色粘土粒少/良好/橙	軽量。口縁部は横ナデ。底部は丸底で手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第75図 PL.111	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口	13.6	高	3.9	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	軽量。口縁部は横ナデ。底部は丸底で手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面炭素吸着。被熱の為か。摩滅。
第75図	3	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.4	高	2.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。底部外面に炭素吸着。
第75図	4	土師器 杯	掘方土 1/3	口	10.4	高	3.5	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	内外面に炭素吸着。
第75図 PL.111	5	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.6			粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第75図 PL.111	6	土師器 杯	埋没土 1/4	口	11.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(底部上半の広い範囲)にナデ。型肌を残す。以下底部にヘラ削り。内面はナデ。	
第75図	7	土師器 杯	床面直上 1/3	口	15.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。底部は、ほぼ全体に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面摩滅。
第75図 PL.111	8	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部下 位1/2	口	22.6			粗砂・細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は数回に分けて横ナデ。胴部は横位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内面は炭素吸着。
第75図	9	土師器 甕	床面付近 胴部~底部片	底	4.8			粗砂粒/良好/にぶい赤褐	胴部は斜位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面は斜位のヘラナデ。	被熱。内外面とも炭素吸着。
第75図	10	須恵器 甕	床面付近 胴部片					白色鈹物粒少/還元焰/灰	紐づくり整形。外面は擬似格子目状叩き目痕に一部カキ目を重ねる。内面は青海波文状の当て具痕。	
第75図 PL.111	11	鉄製品 不明	埋没土 破片	長 幅	6.3 2.0	厚 重	0.3 13.6	メタルなし/磁性 1.2cm	板状の鉄製品。一端は丸みを持ち、他の端部はほぼ直角に破断し錆化する。	

2区10号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第77図 PL.112	1	土師器 杯	床上4cm 口縁一部欠	口	12.7	高	4.0	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第77図	2	土師器 甕	床面直上 頸部~胴部下 位					粗砂粒/良好/橙	外面は斜位のヘラ削り。最下位は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。口縁部と底部欠損後も二次利用か。	
第77図 PL.112	3	土師器 甕	床上4~10cm・ カマド使用面上 7・8cm・カマ ド掘方土 口縁部~胴部下 位3/4	口	21.8			粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部は一部最上位に横位のヘラ削り。他は斜縦位のヘラ削り。頸部直下の器面に工具の強く当たった痕跡が段差として残る。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面の広い範囲に煤付着。粘土も付着。
第77図 PL.112	4	土師器 甕	カマド使用面上 4~15cm 底部欠損	口	21.5			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部の上位は斜横位の、中位・下位は斜縦位の、下位は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面口縁部、胴部に煤付着。
第77図	5	土師器 甕	カマド使用面上 1~16cm 胴部中位~下 位					粗砂・細砂粒/良好/明赤褐	外面は斜位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。外面の広い範囲で器面が剥落しているため観察不能。	外面被熱。変質。
第77図	6	土師器 甕	カマド使用面上 4cm・埋没土 胴部~底部	底	8.6			粗砂粒/良好/黄褐 灰	胴部は斜位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。内外面とも変色。

2区11号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第79図 PL.112	1	土師器 杯	カマド使用面上 3cm 完形	口	12.1	高	3.8	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部(口縁部下 半)ナデ。底部は手持ちへ ら削り。底部内面に「十」 の刻書。	内面口縁部下 半に炭素吸着。 煤か。
第79図 PL.112	2	土師器 杯	掘方土 口縁一部欠	口	12.7	高	3.1	粗砂粒・雲母粒/ 良好/明赤褐	平面形・長円形。底部中央は わずかに凹む。口縁部は横 ナデ。体部はナデ。底部は 手持ちへら削り。内面はナ デ。	内面に黒色の 付着物。
第79図 PL.112	3	土師器 杯	掘方土 3/4	口	12.0	高	3.2	粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナ デ。底部は手持ちへら削り 。内面はナデ。	器面に黒色の 付着物。
第79図	4	土師器 杯	カマド使用面上 12~14cm 1/2	口	12.8	高	3.2	粗砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。体部はナ デ。底部は手持ちへら削り 。内面はナデ。	
第79図 PL.112	5	須恵器 杯	カマド使用面直 上 完形	口 底	13.0 7.5	高	4.1	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部 回転糸切り後、周縁部をへ ら削り。	
第79図	6	黒色土器 杯	床上5cm 口縁部片	口	12.7			細砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。内面 は横位にへら磨き。	
第79図 PL.112	7	須恵器 杯	掘方土 一部欠	口 底	12.2 6.4	高	4.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部 回転糸切り後、無調整。	
第79図 PL.112	8	土師器 小型台付甗	掘方土 口縁部~胴部下 位1/3	口	9.6			粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ。胴部上位 ・中位は横位・斜横位の、 下位は斜位のへら削り。内 面は横位のへらナデ。	器面炭素吸着。
第79図 PL.112	9	土師器 甗	カマド使用面上 15cm・2区3住 埋没土 口縁部~胴部上位片	口	21.4			粗砂・細砂粒・赤色 粘土粒少/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部は横 位・斜横位にへら削り。内 面は横位のへらナデ。	
第79図	10	土師器 甗	床上5cm・カマ ド埋没土 口縁部~胴部上 位片	口	19.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。外面胴部 は横位の横ナデ。内面は横 位のへらナデ。	
第79図	11	土師器 甗	床面直上 口縁部~胴部上 位片	口	15.0			細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は2回以上に分けて 横ナデ。先端弱く起伏する 。胴部は横位のへら削り。 内面は横位のへらナデ。	やや炭素吸着。
第79図	12	須恵器 甗	床面直上 口縁部~胴部上 位片	口	15.0			白色鈹物粒少/還 元焰/灰	ロクロ整形か。口縁部は短 いが強く彎曲して立ち上り 。先端が外側に肥厚。内外 面とも横ナデ。	外面に自然釉 付着。
第79図	13	鉄製品 鎌	埋没土 先端部	長 幅	11.0 3.0	厚 重	0.3 47.9	メタルなし/磁性 1.0cm	鎌先部分の破片で、柄装着 部分を欠く。硬い錆に覆わ れ本体は空洞化して脆弱。 刃先端部分で強く曲がる。	
第79図	14	鉄製品 刀子	埋没土 破片	長 幅	9.2 2.3	厚 重	0.5 37.4	メタルなし/磁性 1.0cm	刃先部は劣化破損。明確な 関を持たず断面長方形の茎 に移り4cm程で終わる。そ の形状から破損後錆化した 可能性が有る。刃先側は劣 化後破損、狭三角形の断面 内側は劣化・空洞化してい る。	

2区12号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第80図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	14.8			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手 持ちへら削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。 内面はナデ後、放射状にへ ら磨き。	
第80図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手 持ちへら削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	
第80図	3	土師器 杯	埋没土 破片	口	13.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手 持ちへら削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	
第80図	4	土師器 甗	埋没土 口縁部	口	23.6			粗砂粒・雲母粒/良 好/にぶい橙	口縁部は2回に分けて横ナ デ。胴部はへら削り。内面 は横位のへらナデ。	

2区13号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第81図	1	土師器 杯	カマド埋没土 破片	口	12.0			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手 持ちへら削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	
第81図	2	須恵器 蓋	カマド埋没土 口縁部片	口	14.6			黒色鈹物粒少/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井 部に回転へら削り。	

2区14号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第81図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	14.0			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手 持ちへら削り。内面はナデ。	

2区15号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第82図 PL.112	1	土師器 甗	埋没土 口縁部~胴部上 位1/2	口	21.8			粗砂・細砂粒・赤色 粘土粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は2回以上に分けて 横ナデ。胴部最上位に斜横 位のへら削り。以下は斜縦 位のへらナデ。内面は横位 のへらナデ。	被熱。変色。 一部に炭素吸 着。粘土付着。
第82図 PL.112	2	土師器 甗	埋没土・カマ ド埋没土 口縁部~胴部上 位1/3	口	22.2			粗砂粒・赤色粘土 粒少/良好/橙	口縁部は3回に分けて横ナ デ。胴部に斜横位のへら削 り。内面は横位のへらナデ。	被熱。内外面 に粘土付着。 内面は灰黒色。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82図	3	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	19.6		粗砂粒・赤色粘土 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部に斜横位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。変色。
第83図 PL.112	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部中 位1/3	口	21.8		粗砂粒・赤色粘土 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部に斜縦位のヘラ削り。内面は斜横位 のヘラナデ。	被熱。内外面に 粘土付着。
第83図	5	土師器 甕	埋没土・カマド 埋没土 胴部上位～下位 1/3				粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	胴部径大くなる可能性あり。外面上位は横位、中位以下 は斜縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	内外面は被熱 のため変色。 外面に粘土付 着。

2区16号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.112	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.4	高 3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第85図	2	須恵器 杯	カマド埋没土 1/4	口 底	12.0 7.0	高 3.8	白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第85図 PL.112	3	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部～胴部中 位片	口	20.6		粗砂・細砂粒/良好 /褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部上位は横位の、中位は 斜縦のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。	外面は炭素吸 着。煤付着か。
第85図	4	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口	18.0		細砂粒/良好/橙	口縁部先端直下に凹線がめぐる。口縁部は横ナデ。胴部は 横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に 炭素吸着。
第85図	5	土師器 甕	カマド使用面直 上 口縁部～胴部上 位片	口	23.0		細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	
第85図	6	土師器 甕	床上7cm・埋没 土 胴部下位～底部 片	底	4.4		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい褐	胴部は斜位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面煤付着。

2区17号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図	1	須恵器 蓋	埋没土 口縁部～天井部 片	口	15.0		黒色鈹物粒/還元 焰/灰	軽量。ロクロ整形(右回転)。	
第85図 PL.112	2	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部上 位片	口	20.5		粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内 面は横位のヘラナデ。	

3区1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第87図 PL.112	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.9	高 3.6	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部・底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に黒色の 付着物。
第87図 PL.112	2	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.0	高 3.4	細砂粒/良好/にぶ い橙	他に比して軽量。口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手 持ちヘラ削り。	器面やや摩滅。
第87図 PL.112	3	土師器 杯	掘方土 1/2	口 底	14.5 11.9	高 2.8	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	器面やや摩滅。
第87図 PL.112	4	土師器 杯	床上8cm 破片	口	12.8		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	小破片から器 形復元。
第87図	5	土師器 杯	掘方土 口縁部～底部片	口	13.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第87図	6	土師器 杯	掘方土 破片	口	11.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第87図	7	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	13.0		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第87図	8	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位～底 部1/4	底	8.0		黒色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ち ヘラ削り。	
第87図 PL.112	9	土師器 小型甕	カマド埋没土 口縁部～胴部上 半	口	13.6		粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位の ヘラナデ。	被熱。外面摩 滅。
第87図 PL.112	10	土師器 甕	床上11cm 口縁部片	口	17.2		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	
第87図 PL.112	11	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部上半	口	20.6		粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は3回に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内 面は横位のヘラナデ。	被熱。
第87図	12	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	21.0		粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	外面炭素吸着。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第87図	13	須恵器 瓶	埋没土 口縁部片	口	10.0			精選/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面中位の交換点に凹線が1条めぐ る。	器面に自然釉 付着。
第87図 PL.112	14	礫石器 敲石	床面直上 3/4	長 幅	(9.8) 6.5	厚 重	4.5 305.1	粗粒輝石安山岩	左右両側縁に敲打・摩耗痕がある。	楕円礫

3区2号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第89図 PL.113	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口 底	12.2 8.2	高	3.1	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。指押さえの痕跡を残す。底 部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第89図 PL.113	2	土師器 杯	床上15cm 1/2	口 底	12.4 9.6	高	3.2	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第89図 PL.113	3	土師器 杯	床面直上 1/3	口 底	12.6 10.2	高	2.7	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	器形は大きく歪み平面形は長円形を呈する。口縁部は横ナ デ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面炭素吸着。
第89図	4	土師器 杯	掘方土 1/4	口 底	12.0 9.4	高	3.2	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。	器面に炭素吸 着。
第89図	5	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.8			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。	器面に炭素吸 着。
第89図	6	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	口	15.0			粗砂粒/還元焰/に ぶい橙	ロクロ整形(右回転)。外面天井部に回転ヘラ削り。	
第89図	7	須恵器 薬壺か	埋没土 口縁部～胴部片	口	7.0			白色鈹物粒/還元 焰/灰	弱く張った肩の上に短い口縁部が直立気味に立ち上がる。 ロクロ整形(右回転)。胴部は丁寧なヘラ削り。ヘラナデか。 内面に丁寧にナデを施す。	
第89図	8	須恵器 椀	埋没土 高台部	底	9.2	台	10.0	精選・白色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け 高台。ハの字状に外反、端部に平坦面。	
第89図	9	土師器 甌か	床上11cm 口縁部～胴部上 位片	口	25.6			粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位のヘラ削り。内面は口縁部、 胴部ともに横位のヘラ磨きを充填。	
第89図 PL.113	10	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 半片	口	17.6			粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	
第89図 PL.113	11	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 半片	口	26.2			細砂粒・赤色粘土 粒少/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面は 横位のヘラナデ。	
第89図	12	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	23.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は2回以上に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	
第89図	13	土師器 甕	カマド使用面直 上・カマド埋没 土 胴部片					粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部上位・中位は横位・斜横位のヘラ削り。下位は斜縦位 のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面の一部に 煤付着。内面 炭素吸着。
第89図	14	須恵器 甕	埋没土 胴部下位～底部 片	底	25.0			白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐づくり整形。胴部は残存部上位に平行叩き目痕。下位に は横位のヘラ削り。平坦の底部もヘラ削りか。胴部内面は ナデ。	内外面とも自 然釉厚く付着。
第89図 PL.113	15	礫石器 敲石	埋没土 完形	長 幅	19.2 5.6	厚 重	4.5 682.0	粗粒輝石安山岩	小口部両端に敲打痕がある。器体中央付近で破損、上端側 破損面には微細な剝離痕が連続する。	棒状礫
第89図	16	鉄製品 不明	床面直上 破片	長 幅	7.5 0.4	厚 重	0.4 4.9	メタルなし/磁性 1.0cm	断面は3mm角で細長く、端部でやや細くなるが尖らない。 他の端部は劣化破損。	

3区3号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第90図 PL.113	1	土師器 杯	カマド使用面上 7cm 3/4	口	12.3	高	3.6	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に型肌を残す。底部は 手持ちヘラ削り。内面はナデ。	割れた後、被 熱。炭素吸着 か。
第90図 PL.113	2	土師器 杯	カマド使用面上 37cm 1/2	口 底	12.0 8.6	高	3.0	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	器面摩滅。
第90図 PL.113	3	土師器 杯	床面直上 1/3	口 底	11.6 8.4	高	3.0	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は粗雑な手持ちヘラ削 り。内面はナデ。	
第90図	4	土師器 杯	掘方土 破片	口 底	12.8 8.0			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。	
第90図 PL.113	5	須恵器 杯	床面付近 3/4	口 底	11.7 6.8	高	4.5	細砂粒・赤黒色粘 土粒少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面口縁部に 炭素吸着。底 部周縁部摩耗。
第90図	6	須恵器 杯	カマド埋没土 1/3	口 底	11.0 6.4	高	3.1	白色鈹物粒多・黒 色鈹物粒少/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第91図 PL.113	7	土師器 甕	カマド使用面上 5～11cm・カ マド埋没土 口縁部～底部 3/4	口 底	20.4 4.1	高	26.7	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位のヘラ削り。中位以下は 斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	胴部外面は被 熱。ほぼ全面 に煤付着。
第91図 PL.113	8	土師器 甕	床上22cm・カ マド使用面上5 cm・埋没土 2/3	口 底	21.6 5.0			粗砂・細砂粒・赤黒 色粘土粒少/良好/ にぶい橙	口縁部上位は斜横位の、中位は斜位の、下位は斜縦位のヘ ラ削り。内面上位は横位のヘラナデ。中位に接合痕を明瞭 に残す。被熱、ほぼ前面にわたり煤付着。	口縁部～胴部 上位と中位以 下の残存部分 2点から図上 復元。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第91図 PL.113	9	土師器 甕	床上17cm 口縁部～胴部上 半片	口	19.6		粗砂・細砂粒・赤色 粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位の ヘラナデ。	被熱。
第91図	10	土師器 甕	カマド使用面上 37cm 口縁部～胴部片	口	19.5		細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、輪積み痕を残す。胴部上位は横位・斜横 位のヘラ削り。以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラ ナデ。	
第91図	11	土師器 甕	床上20cm・カマ ド埋没土 胴部下位～底部	底	4.6		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい黄褐	胴部は斜縦位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面はヘラナ デ。	外面被熱。炭 素吸着。
第91図 PL.113	12	鉄製品 鉸具	床上27cm 完形	長 幅	5.7 4.9	厚 重	1.3 49.1 メタルあり/磁性 2.0cm	U・T・I字形の3パーツを組み合わせた鉸具と見られる。 表面を硬い錆が覆い、内部・本体は空洞化するため詳細構 造は不明。	

3区4号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第93図 PL.113	1	土師器 杯	掘方土 完形	口	12.1	高	3.2	粗砂粒少量/良好/ にぶい赤褐	口縁部は強く横ナデ。体部はナデ、一部に型肌を残す。底 部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第93図 PL.113	2	土師器 杯	掘方土 3/4	口 底	12.6 9.8	高	3.2	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	器面に炭素吸 着。煤か。
第93図 PL.113	3	土師器 杯	掘方土 1/4	口	12.4			粗砂粒/良好/黒褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	外面の一部に 炭素吸着。
第93図	4	土師器 杯	掘方土 1/4	口	12.4			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第93図	5	土師器 杯	掘方土 1/4	口	12.8			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ、ヘラナデの痕跡を残す。	
第93図 PL.113	6	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部片	口	20.8			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面は 横位のヘラナデ。	被熱。外面に 煤付着。
第93図	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	19.0			粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	被熱。
第93図	8	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	16.5			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。内面は横位の弱 いヘラ削り。	内外面炭素吸 着。
第93図	9	土師器 甕	掘方土 胴部中位～底部					粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	外面は斜位のヘラ削り。一部その上にヘラナデ。底部はヘ ラ削り。内面はヘラナデ。接合部分はヘラ削り。	
第93図	10	土師器 羽釜か	掘方土 底部片	底	7.6			粗砂粒/良好/赤褐	胴部最下位にヘラ削り。それ以外はヘラナデ。底部に木葉 痕。内面はヘラナデ。	
第93図	11	須恵器 甕	埋没土 胴部下位～底部 1/4	底	13.7			白色鈹物粒/還元 焰/灰	底部は平底であるが中央が凹む。紐作り整形。胴部外面は 平行叩き。最下位はヘラ削り。底部周縁部はヘラ削り。中 央部はナデ。内面残存部上半は当て具痕の上に縦位のナデ。 下半は横位のナデ。	

3区5号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第94図 PL.113	1	灰釉陶器 皿	埋没土 1/3	口 底	12.8 7.3	高 台	2.4 6.7	精選/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転系切り後、断面三角形の低 い高台部を貼付。周縁部にナデ調整。内面に施釉、ハケ掛 けか。	内面摩耗。
第94図	2	須恵器 羽釜	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	20.0			白色・黒色鈹物粒 /酸化焰/橙	ロクロ整形。口縁部は横ナデ。	

3区6号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第96図 PL.113	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口	13.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第96図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	16.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第96図	3	土師器 杯	埋没土 破片	口	16.0			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第96図 PL.113	4	土師器 杯	掘方土 1/3	口	18.0			粗砂粒・赤黒色粘 土粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。最上位にナデの 部分がわずかに残る。内面はナデ。	
第96図	5	土師器 杯	掘方土 破片					粗砂粒/良好/黄灰	口縁部は中位にも弱い稜を有する横ナデ。底部は手持ちヘ ラ削り。内面はナデ。	内外面とも炭 素吸着。黒色 処理か。
第96図	6	須恵器 盤	埋没土 口縁部～底部片	口	19.4			黒色鈹物粒少/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。口縁部は横ナデ。受部(底部)は回転 ヘラ削り。内面中央はナデ調整。	内面に煤付着。
第96図	7	須恵器 (高台付)杯	埋没土 1/4	口 底	17.9 14.0	高 台	3.6 13.4	黒色鈹物粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は低く断面台形。底部回転ヘ ラ削り後の付け高台。	
第96図 PL.113	8	土師器 甕	カマド使用面直 上・床面直上 口縁部～胴部上 位1/3	口	22.0			粗砂粒・軽石粒/良 好/にぶい橙	口縁上半部は横ナデ、下半部はナデ。胴部は縦位のヘラ削 り。内面は横位・斜横位の幅狭い単位のヘラナデ。	被熱。変質。 変色。
第96図	9	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部上 位	口	20.8			粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	

3区7号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第97図 PL.113	1	土師器 杯	床面直上 1/3	□	9.4	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	底部の成形は粗雑。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に黒色の付着物。
第97図	2	土師器 杯	埋没土 破片	□	12.0			粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜をなした後、内傾ぎみに立ち上がる。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面の一部に炭素吸着。
第97図	3	土師器 杯	掘方土 口縁部～底部片	□	11.4			粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は内傾して立ち上がり、先端は尖る。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部内外面に漆塗り。
第97図	4	土師器 杯	掘方土 破片	□	11.0			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第97図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	□	14.0			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は中位に弱い稜をなし外反して立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面炭素吸着。燻状。
第97図	6	土師器 杯	埋没土 破片	□	12.4			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は細かく手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第97図	7	土師器 杯	床面直上 破片	□	14.0			粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は内傾して立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第97図	8	土師器 杯	埋没土 破片	□	16.4			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第97図 PL.113	9	石製品 白玉	埋没土 略完形	長幅	1.4 1.2	厚 重	0.8 2.5	滑石	上下両面とも雑な磨き整形、下面には折り取り面が残る。体部側面は縦位の粗い線条痕が顕著。径3mmの孔を両側穿孔する。	

3区8号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第98図	1	土師器 杯	埋没土 破片	□	10.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分がわずかに残る。	底部に炭素吸着。
第98図	2	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部片	□	12.6			粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面やや摩滅。

3区9号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第100図 PL.113	1	土師器 杯	埋没土 完形	□	11.0	高	3.4	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。底部外面炭素吸着。黒斑。
第100図 PL.113	2	土師器 杯	床上10cm・埋没 土 完形	□	10.6	高	3.3	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第100図 PL.113	3	土師器 杯	埋没土 完形	□	10.5			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第100図 PL.113	4	土師器 杯	床上43cm・埋没 土 1/2	□	10.6	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分をわずかに残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。底部外面炭素吸着。黒斑。
第100図 PL.113	5	土師器 杯	埋没土 1/2	□	13.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分をわずかに残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第100図	6	土師器 杯	埋没土 1/3	□	11.8	高	3.4	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面摩滅。
第100図	7	土師器 杯	床面直上 1/4	□	12.0	高	3.0	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部全体に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第100図	8	土師器 杯	埋没土 1/4	□	11.0			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部全体に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第100図	9	土師器 杯	埋没土 1/4	□	13.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部全体に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第100図	10	土師器 杯	埋没土 破片	□	11.2			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部に手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面炭素吸着。
第100図 PL.113	11	土師器 杯	埋没土 1/3	□	18.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第100図	12	土師器 杯	床面直上 破片	□	19.8			粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第100図	13	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	□	22.0			粗砂粒/良好/橙	口径は大きく、盤状を呈する。口縁部は横ナデ。底部全体に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第101図	14	須恵器 蓋	床上46cm 口縁部片	□	19.8			黒色鈹物粒少/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	外面に自然釉付着。
第101図	15	須恵器 蓋	埋没土 口縁部片	□	18.0			黒色鈹物粒少/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	
第101図	16	須恵器 杯	埋没土 破片	□ 底	13.0 8.6			白色鈹物粒少/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部ヘラ切り後、粗雑なナデ。	
第101図	17	須恵器 盤	床面直上 口縁部片	□	23.4			白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。口縁部は横ナデ。以下カキ目が施される。器高は高くなる可能性あり。	
第101図 PL.113	18	須恵器 杯	床面直上 1/3	□ 底	19.0 13.0	高	4.5	粗砂粒・灰色粘土 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転)。高台部は低く華奢。底部回転ヘラ削り後の付け高台。	内面摩耗。
第101図 PL.114	19	須恵器 高杯	埋没土 脚部片	□ 台			11.2	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。裾部は下位に至り横方向に大きく広がった後、屈曲、端部をなす。中位に沈線2条がめぐる。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第101図 PL.114	20	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部上 半1/2	口	21.6		粗砂粒・軽石粒多/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位に幅 狭い単位のヘラナデ。	被熱。変質。	
第101図 PL.114	21	土師器 甕	カマド使用面上 直上・床面直上 口縁部～胴部上 位1/2	口	21.0		粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	器面やや摩滅。 被熱。	
第101図	22	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	22.6		粗砂粒・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。		
第101図	23	土師器 小型甕	床面直上・カマ ド使用面上42cm 口縁部片	口	14.8		粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面は 横位のヘラナデ。		
第101図 PL.114	24	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部上 半1/2	口	20.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。整形粗雑。胴部は斜横位のヘラ削り。内 面は横位のヘラナデ。	器面やや摩滅。	
第101図	25	須恵器 甕	床上15cm 口縁部下位～胴 部中位片				黒色鈹物粒少/還 元焰/黄灰	紐作り整形。胴部下半は外面に擬似格子目状の叩き目を、 内面に同心円文状の当て具痕を残す。胴部上半以上はロク ロ整形に器面調整を施す。	接点の無い2 片から図上復 元。	
第101図 PL.114	26	石製品 紡輪	床面直上 完形	径 孔	4.2 0.9	厚 重	2.2 50.7	砥沢石	稜は比較的新鮮で、その使用頻度は低い。径9mmの孔を両 側から穿孔する。	厚型台形
第101図 PL.114	27	鉄製品 鑿か	埋没土 破片	長 幅	9.5 1.3	厚 重	1.0 15.1	メタルなし/磁性 1.0cm	先端鑿形だが、錆化により刃の構造は不明。茎に接し直角 からX字状に植物痕が見られ、その上に柄と見られる広葉 樹材が残る。茎の境部分に幅4mm程の鉄板を巻き付けてい る。	
第101図 PL.114	28	鉄製品 鏃	埋没土 先端部	長 幅	8.2 2.2	厚 重	0.4 11.1	メタルなし/磁性 1.6cm	先端五角形の鉄鏃。片方の腸削り部分は破損のためか欠損 する。棘をもち茎に移行し、端部は劣化破損する。	

3区11号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第103図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.9			粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜をなす。中位にも弱い段がみられ る。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面炭素吸着。 黒色。
第103図 PL.114	2	土師器 杯	掘方土 口縁一部欠	口	11.8	高	4.0	粗砂粒/やや軟質/ 浅黄	口縁部は横ナデ。中位にナデの単位が弱い段となる。底部 は口縁部との間に稜をなす。手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第103図 PL.114	3	土師器 杯	掘方土 1/3	口	11.8			粗砂・細砂粒/良好 /褐	口縁部はやや内傾ぎみに立ち上がる。底部との間に稜を有 する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面炭素吸着。
第103図	4	須恵器 杯か	埋没土 口縁部片	口	12.0			白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰	杯身として、ロクロ整形(右回転)。口縁部は横ナデ。底部 回転ヘラ削り。	
第103図 PL.114	5	石製品 砥石	埋没土 完形	長 幅	7.4 4.3	厚 重	3.6 156.1	砥沢石	四面使用。各面ともよく使い込まれ、特に右側面の研ぎ減 りが著しい。上端小口部は敲打整形、下端小口部は欠損し た後に、粗く磨き整形されている。	切り砥石

3区12号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第105図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	12.0			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面底部に炭 素吸着。
第105図 PL.114	2	須恵器 盤	床上3cm 3/4	口	16.3			白色鈹物粒・雲母/ 還元焰・軟質/黒	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け 高台。高台部欠損後も二次利用か。	内外面とも炭 素吸着。黒色 味。

3区13号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第106図 PL.114	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口	20.8	高	3.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第106図 PL.114	2	須恵器 杯	床上17cm 完形	口 底	11.9 5.9	高	3.2	小礫・粗砂大の白 色鈹物粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面、底部周 縁部摩耗。
第106図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は2回以上に分けて横ナデ。輪積み痕を残す。	
第106図 PL.114	4	石製品 紡輪	埋没土 1/2	径 孔	(5.4) (0.9)	厚 重	1.7 25.7	粗粒輝石安山岩	石材が粗く、整形痕等是不明瞭である。推定径9mmの孔を 両側から穿孔する。	円盤状
第106図 PL.114	5	石製品 砥石	埋没土 完形	長 幅	5.5 4.3	厚 重	2.1 74.5	流紋岩	四面使用。表裏面とも弱く研ぎ減る。上端小口部は平ノミ 状の工具により整形。頭部側で破損後、破損面を磨き整形 する。	切り砥石

3区14号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第106図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	15.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部全体に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に黒色の 付着物。煤か。

4区1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第109図 PL.114	1	須恵器 椀	カマド掘方土 1/2	口 底	13.0 7.0	高	5.2	白色・黒色鈹物粒 多/還元焰・軟質/ 灰白	軽量。ロクロ整形(右回転)。整形は粗雑。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	器面の一部に 炭素吸着。
第109図 PL.114	2	須恵器 椀	掘方土 1/2	口 底	12.4 7.0	高	4.8	白色・黒色鈹物粒 多/還元焰・軟質/ 灰白	軽量。ロクロ整形(右回転)。整形は粗雑。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	器面の一部に 炭素吸着。
第109図 PL.114	3	土師器 椀	埋没土 1/4	口 底	13.4 6.4			細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は整形後、器面にナデ。その後中位以下にヘラ削り。高台部は付け高台。貼付後、周縁部に横ナデ。口縁部外面に墨書「□」。	
第109図	4	須恵器 椀	カマド使用面直上 口縁部下位～高 台部片	底	7.3	台	7.4	粗砂粒・黒色鈹物 粒/酸化焰/にぶ い橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
第109図	5	須恵器 羽釜	カマド使用面直上 口縁部～胴部片	口	25.0			粗砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形。罅部は断面三角形。成・整形後の貼付。	外面炭素吸着。 内面摩滅。
第109図 PL.114	6	土師器 甕	カマド使用面直上 口縁部～胴部下 位1/4	口	19.5			粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。調整は粗雑で器面調整時のナデの部分を残す。内面は横位のナデ。胴部内面上位は整形時に生じたひび割れに粘土を貼付、撫でて補修している。	

4区2号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第110図 PL.114	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.2	高	2.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第110図 PL.114	2	土製品 羽口	埋没土 先端部	長 幅	(4.0) (4.5)	厚 重	2.5 33.2	浅黄橙	先端部の一部は生きている。胎土に1mm大の砂粒および3～5mm大の礫が多量に混入されている。	

4区3号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第112図	1	黒色土器 杯	埋没土 口縁部下半～底 部片	底	6.2			粗砂粒少/酸化焰/ 明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、手持ちヘラ削り。	内面全面にヘ ラ磨き。黒色 処理。

4区4号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第115図 PL.114	1	土師器 杯	掘方土 口縁一部欠	口	11.9	高	3.3	粗砂粒・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第115図 PL.114	2	土師器 杯	掘方土 完形	口	12.0	高	3.0	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第115図 PL.114	3	土師器 杯	掘方土 3/4	口	12.0	高	2.9	粗砂粒少/良好/橙	器形の歪み大きい。口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第115図	4	須恵器 蓋	掘方土 摘み周辺の破片			摘	3.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。天井部中央にボタン状の摘みを貼付。周縁部に回転ヘラ削り。	
第115図	5	須恵器 蓋	掘方土 1/2	口	14.4			白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。整形後、天井部中央に扁平なボタン状の摘みを貼付。摘みの上端はわずかに欠損する。周縁部に回転ヘラ削り。	内面摩耗。
第115図	6	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	18.6			粗砂・細砂粒/還元 焰・やや軟質/にぶ い黄	ロクロ整形(右回転)。天井部は切り離し後、摘み部貼付。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	
第115図 PL.114	7	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	13.0 7.8	高	3.5	赤黒色粘土粒/還 元焰やや酸化ざみ /灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	外面に炭素吸 着。黒色。
第115図 PL.114	8	須恵器 杯	掘方土 口縁一部欠	口 底	13.0 8.4	高	4.0	粗砂粒/還元焰か/ にぶい黄	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。口縁部先端の剥離、旧事か。また先端に油煙状の煤付着。	内外面炭素吸 着黒色。
第115図	9	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位～底 部1/2	底	7.4			白色鈹物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に粗雑なヘラ削り。ナデ。	内面摩耗。
第115図	10	須恵器 椀	床面直上 1/2	口 底	11.8 7.8			黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り。回転ヘラ削り後の付け高台。全て剥落している。	内面摩耗。
第115図	11	須恵器 杯	掘方土 高台部1/2	底	12.4	台	12.4	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	底部やや摩耗。
第115図 PL.115	12	須恵器 壺	掘方土 2/3			台	10.1	白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐作り後、ロクロ整形か(右回転)。胴部内面上位には指押さの痕跡を残す。高台部は付け高台。肩部に自然釉が厚く付着。胴部下半から底部は焼成不良のため器面が発泡、荒れている。	
第115図 PL.114	13	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部下 半1/4	口	20.8			粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は数回に分けてヘラナデ。胴部上半部は横位の、下半部は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第115図 PL.115	14	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部下 半1/2	口	21.2			粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。先端のみ分けて横ナデ。胴部最上位はナデ。上位は横位・斜横位の、中位以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第115図 PL.114	15	土師器 甕	床面直上 口縁部～胴部下 位片	口	18.9			粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部最上位のみ横位の、以下は斜位のヘラ削り。内面はヘラナデ。丁寧に器面調整。	被熱。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第115図	16	土師器 甕	カマド掘方土 口縁部～胴部片	口	20.7		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位または斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に粘土付着。
第115図	17	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部上 位片	口	18.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	

4区5号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117図 PL.115	1	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.1	高 2.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第117図 PL.115	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口	12.8		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第117図	3	須恵器 杯	埋没土 破片	口 底	12.4 7.0	高 3.4	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部はヘラ削り調整と考えられる。	炭素吸着。
第117図	4	須恵器 杯	掘方土 口縁部～底部片	口 底	11.2 8.0	高 3.2	赤黒色粘土粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は手持ちヘラ削り。	
第117図	5	土師器 台付甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	15.4		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部左下にハケ目(8本/1cm)。頸部内面は横ナデ。胴部内面はヘラナデと指ナデ。	炭素吸着。
第117図 PL.115	6	石製品 紡輪	床面付近 完形	径 孔	4.4 0.8	厚 1.5 重 39.1	蛇紋岩	側面に「佐位郡」「有」「木」などの文字を刻む。上面に径3mmの穴4を、体部側面に径4mm弱の穴5を穿つ。上面の機能部は平坦に研磨され、周辺部にさまざまなタイプの線条痕が生じている。線刻文字の存在も可能性としてあるだろうが、判読は難しい。側面は強く光沢を帯びているが、下面平坦部の研摩は弱い。径8mmの軸孔を両側から穿孔する。	薄型台形

5区1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図 PL.115	1	土師器 杯	カマド使用面上16cm 完形	口	9.8	高 6.3	粗砂粒/良好/黒	口縁部は中位に弱い変換点を持って内傾して立ち上がる。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面黒色処理。
第118図 PL.115	2	土師器 杯	床上3cm・掘方土 3/4	口	11.3	高 4.4	粗砂粒少/良好/黒 褐	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面漆塗りか。
第118図	3	土師器 杯	床上3cm・埋没土 1/3	口	11.2	高 4.0	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも黒色。炭素吸着か。
第118図	4	土師器 破片	埋没土 破片	口	11.0		細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第118図	5	土師器 杯	床上7cm・掘方土 1/4	口	12.2		粗砂粒少/良好/黄 灰	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。先端内面は弱く削げるように窪む。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面漆塗りか。

5区2号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第120図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	10.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	
第120図	2	須恵器 椀	埋没土 体部～高台部片	底	11.0	台 10.7	粗砂粒少/還元焰/ 浅黄	ロクロ整形。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。高台部はハの字状に長い付け高台。貼付時、高台の内側底面に粘土を貼り足している。	内面摩耗。炭素吸着。
第120図 PL.115	3	土師器 甕	埋没土・カマド 埋没土 口縁部～胴部 3/4	口	19.8		粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部上位は横位・斜横位のヘラ削り。中位・下位は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面被熱。内面も変色。
第120図	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位	口	16.3		粗砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第120図	5	鉄製品 釘	埋没土 頭部	長 幅	4.5 1.5	厚 0.5 重 8.6	メタルなし/磁性 2.0cm	角釘頭部分の破片。頭部分をやや広げ45°程に曲げる。先端側は破損後錆化と考えられる。	
第120図	6	鉄製品 鏃	埋没土 先端部	長 幅	3.0 0.6	厚 0.4 重 2.3	メタルなし/磁性 1.8cm	先端は柳葉形で、先端から3cm程で破損する。	

5区3号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第122図 PL.115	1	土師器 杯	掘方土 完形	口	11.6	高 3.6	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第122図 PL.115	2	土師器 杯	掘方土 口縁一部欠	口	11.6	高 3.7	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第122図	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口	14.0	高 3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(口縁部下)ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第122図 PL.115	4	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	11.0 8.2	高 3.2	白色鈹物粒多/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部手持ちヘラ削り。	
第122図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位	口	15.7		粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は強く外反して立ち上がる。中位に弱い段を有する。横ナデ。胴部には横位のヘラ削り。内面は口縁部と胴部の接合は粗雑。胴部はナデ。	口縁部内面は炭素吸着。
第122図 PL.115	6	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	22.6		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は中位に弱い稜を有する。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	

5区4号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第124図 PL.115	1	土師器 杯	床上9cm 完形	口	12.2	高	3.9	細砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に黒色の付着物。
第124図 PL.115	2	土師器 杯	床面直上 口縁一部欠	口	11.1	高	3.8	粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第124図 PL.115	3	土師器 杯	床上16cm 3/4	口	10.3	高	4.1	赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第124図 PL.115	4	土師器 杯	埋没土 4/5	口	13.2	高	4.5	粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は底部との間に稜をなす。中位にも段をなし、大きく外反して立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや炭素吸着。
第124図 PL.115	5	土師器 杯	床上23cm 2/3	口	12.0	高	4.3	粗砂粒少・赤黒色粘土粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削りの上にヘラ磨き状のナデ。内面はナデ。	
第124図 PL.115	6	土師器 杯	床面直上・掘方土・埋没土 3/4	口	12.4	高	4.7	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は底部との間に稜をなす。中位にも段を有し、大きく外反して立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。黒色処理か。
第124図 PL.115	7	土師器 杯	埋没土 2/3	口	13.6	高	5.0	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は2回に分けて横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。平滑に仕上げている。	器面に炭素吸着。黒色処理か。
第124図	8	土師器 杯	埋没土 1/2	口	11.8	高	4.8	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面炭素吸着。
第124図 PL.115	9	土師器 杯	埋没土 1/2	口	13.7	高	6.0	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面炭素吸着。
第124図	10	土師器 鉢	埋没土 1/4	口	15.8			粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部上位は横位の、中位以下は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面摩滅。炭素吸着。
第124図	11	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部上位片	口	17.8			粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	器面の一部剝離。炭素吸着。
第124図 PL.115	12	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部中位1/2	口	12.7			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。中位に小さな段をなす。胴部はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面摩滅。
第124図 PL.115	13	土師器 甕	床上6cm 口縁部～胴部下位1/2	口	20.6			粗砂粒・白色軽石粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。胴部は縦位に3回以上に分けてヘラ削り。内面も最上位が横位の他は斜縦位・斜位のヘラナデ。	被熱。外面炭素吸着。変色。内面も変色。
第124図	14	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口	8.2			粗砂粒多・赤色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第124図 PL.115	15	石製品 砥石	床面直上 完形	長幅	14.4	厚	5.0	粗粒輝石安山岩	背面側稜面の中央付近が弱く摩耗するほか、横位・縦位の深い刃ならし傷が残る。	楕円礫

5区5号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第125図 PL.115	1	須恵器 杯	掘方土 3/4	口底	12.8	高	3.7	粗砂粒・白色軽石粒/還元焰内面不良/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面炭素吸着。重ね焼きの痕跡。

5区6号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第127図 PL.116	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口	12.4	高	4.8	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部先端は内側が削れ、面をなす。また、中位に弱い段をなす。横ナデ。底部との間に稜を有する。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第127図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.1			粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。外面中位にも小さな段を作る。先端直下内面には凹線がめぐる。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面炭素吸着。
第127図	3	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.1			粗砂粒・赤色粘土粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面炭素吸着か。
第127図	4	土師器 杯	カマド埋没土 破片	口	12.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有し内傾。斜め上方向に向かって立ち上がる。中位に2か所、強い段をなす。横ナデ。先端直下の内側は凹線がめぐる。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。	外面の一部に炭素吸着。
第127図	5	土師器 鉢	埋没土・カマド埋没土 口縁部～体部片	口	23.8			粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部は斜位のヘラ削りと考えられる。内面は横位のナデ。	器面摩滅。
第127図 PL.116	6	土師器 台付甕	埋没土・カマド埋没土 台部1/2	底	14.8			粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	外面はナデの上に縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面上半は横位にヘラ削り。下半は横ナデ。天井部にはヘラ状工具の当たった痕跡を残す。	被熱。
第127図 PL.116	7	土師器 甕	埋没土・カマド埋没土 口縁部～肩部	口	18.2			粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面炭素吸着。
第127図 PL.116	8	礫石器 敲石	床面直上 完形	長幅	12.2	厚	3.3	粗粒輝石安山岩	左右両側縁に著しい敲打・摩耗痕がある。表裏面には摩耗が広がるようだが、石材が粗く不明瞭。	扁平棒状礫

遺物観察表

5区7号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第128図 PL.116	1	土師器 杯	床面付近 完形	□	11.6	高	3.5	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第128図 PL.116	2	土師器 杯	床面付近 完形	□	13.5	高	4.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第128図 PL.116	3	土師器 杯	床面付近 完形	□	11.8	高	3.6	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第128図 PL.116	4	土師器 杯	埋没土 1/4	□	12.0			精選・細砂粒少/良 好/橙	口縁部と底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部は手持 ちヘラ削り。内面はナデ。	
第128図	5	土師器 杯	埋没土 破片	□	11.1			粗砂粒/良好/明褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部は手持ち ヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に 炭素吸着。
第128図	6	土師器 杯	掘方土 1/4	□	11.3			粗砂粒・石英粒/良 好/淡黄	底部はじめ器肉は全体に厚い。口縁部先端は外側が丸く肥 厚する。口縁部は数回に分け粗雑な横ナデ。底部は粗雑な ヘラ削り。内面は強い調子のヘラナデ。	

5区8号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第129図 PL.116	1	土師器 杯	掘方土 口縁一部欠	□	9.8	高	3.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面炭素 吸着。黒斑。
第129図 PL.116	2	土師器 杯	床上6cm・埋没土 4/5	□	11.1	高	3.2	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面炭素 吸着。
第129図 PL.116	3	土師器 杯	床上16cm・埋没土 口縁一部欠	□	11.9	高	3.8	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に黒色の 付着物。
第129図 PL.116	4	土師器 杯	埋没土 3/4	□	10.2	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第129図 PL.116	5	土師器 杯	埋没土 3/4	□	10.6	高	2.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部は横ナデ。底部上半はナデ。下半は手持ちヘラ削り。 内面はナデ。	内面に黒色の 付着物。
第129図 PL.116	6	土師器 杯	床上3~8cm・埋没土 1/2	□	9.4			粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部上半はナデ。下半は手持ちヘラ削り。 内面はナデ。	器面やや摩滅。 炭素吸着。
第129図	7	土師器 杯	床面直上 1/4	□	17.0	高	2.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 をわずかに残す。内面はナデ。	
第130図	8	土師器 甕	床上8cm 口縁部片	□	21.2			粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位の ヘラナデ。	被熱。
第130図 PL.116	9	土師器 甕	床上13cm・掘方 土・埋没土 口縁部~胴部下 位1/4	□	17.0			粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部上位は斜横位の、以下 は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面下位炭素 吸着。黒斑。
第130図	10	須恵器 甕	床上10cm 胴部下半片					白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕 の上にナデを重ねる。	

5区9号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第131図	1	須恵器 杯	カマド使用面上 3cm 1/2	□ 底	10.6 5.8	高	2.9	粗砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面やや摩耗。
第131図	2	須恵器 杯	掘方土 1/4	□ 底	18.8 9.8	高	5.5	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	
第131図 PL.116	3	灰釉陶器 碗	床面直上 1/2	□ 底	15.2 8.0	高 台	6.3 7.6	精選/還元焰/灰白	ロクロ整形(左回転か)。口縁部の先端は外側にわずかに丸 く肥厚する。高台部断面は三日月形。底部回転糸切り後の 付け高台。施釉は漬け掛け。	外面に粗粒が 混入している か。
第131図	4	灰釉陶器 皿	カマド埋没土 口縁部下位~高 台部片	□ 底	9.2	台	9.0	白色鈹物粒少/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は断面三日月形。底部切り離 し後の付け高台。	底部に釉。重 ね焼きの痕跡 あり。
第131図	5	土師器 羽釜	カマド掘方土 口縁部~胴部上 位片	□	19.0			粗砂粒多/酸化焰/ 灰白	口縁部は横ナデ。鏝部は断面三角形。成・整形後の貼付。 胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ、斜位のヘラナ デ。	外面被熱。炭 素吸着。
第131図 PL.116	6	土師器 羽釜	カマド埋没土・ 32号ビット埋没 土 口縁部~胴部上 位片	□	20.2			粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面上位は横位 のハケ目。以下は横位のナデ。鏝部は成・整形後の貼付。	被熱。

5区10号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第134図 PL.116	1	土師器 杯	床面直上・掘方 土・埋没土 1/3	□	13.0	高	3.3	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	器面摩滅。
第134図 PL.116	2	土師器 杯	床上4cm・埋没 土・掘方土 1/2	□	13.0	高	3.4	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第134図	3	土師器 杯	床上5cm・掘方 土 1/4	□	13.8	高	3.2	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第134図 PL.116	4	須恵器 蓋	掘方土 1/2	口	15.6	高 摘	3.4 2.8	粗砂粒少/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部は切り離し後、摘み貼付。外面中心寄りに回転ヘラ削り。	内面摩耗。
第134図 PL.116	5	須恵器 椀	床上9cm 底部～高台部	底	8.2	台	8.2	赤黒色粘土粒/酸 化焙ぎみ/にぶい 黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。底部外面にヘラによる刻書「木」。	
第134図	6	須恵器 高杯か	カマド埋没土 脚部中位片					白色・黒色鋳物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。中位に円形の透孔を配す。	
第134図 PL.116	7	土師器 甕	床上8cm・埋没 土 口縁部～胴部上 位片	口	22.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部の内面先端直下に凹線がめぐる。横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	口縁部の外反強く、口径大きくなる可能性。
第134図	8	須恵器 甕	床面直上・掘方 土 胴部片					白色鋳物粒/還元 焰/灰	紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文の当て具痕を残す。	
第134図 PL.116	9	石製品 不明	掘方土 完形	長 幅	2.0 1.5	厚 重	0.8 3.7	石英	使用法を推定させるような痕跡は見られない。	
第134図 PL.116	10	礫石器 敲石	掘方土 1/2	長 幅	(8.0) 9.4	厚 重	4.6 368.5	粗粒輝石安山岩	小口部上端が敲打され、これに伴う衝撃剝離痕が生じている。	扁平棒状礫

5区11号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第136図 PL.116	1	土師器 杯	掘方土・埋没土 3/4	口	13.2	高	3.7	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第136図 PL.116	2	土師器 杯	掘方土 3/4	口	13.9	高	4.0	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや炭素吸着。
第136図 PL.116	3	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.9	高	3.8	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第136図 PL.116	4	土師器 杯	床面直上・掘方 土 2/3	口	13.0	高	3.5	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第136図 PL.116	5	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.8	高	3.7	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	口縁部外面の一部に炭素吸着。
第136図	6	土師器 杯	掘方土 1/2	口	11.8	高	3.0	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。	
第136図	7	土師器 杯	埋没土 3/5	口	13.4	高	4.1	粗砂粒多・黒色鋳 物粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。成形時に生じた損傷部に外側から粘土塊を貼って補修を行っている。	一部に炭素吸着。
第136図	8	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口	12.8	高		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。	口縁部の先端を中心に内外面に煤付着。
第136図 PL.116	9	須恵器 蓋	掘方土 1/4	口	16.0	高 摘	3.6 4.4	粗砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰・やや軟 質/灰白	ロクロ整形(左回転)。天井部は切り離し後、摘み貼付。外面中心寄りに回転ヘラ削り。	内面摩耗。
第136図 PL.116	10	須恵器 杯	床面直上 3/4	口 底	13.5 6.9	高	3.9	粗砂粒多/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	器面やや摩滅。
第136図	11	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	13.0 8.0	高	3.2	白色・黒色鋳物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。口縁部は底部から横に張った後屈曲。斜上方に立ち上がる。	内面やや摩耗。
第136図 PL.116	12	須恵器 杯	床上10cm 1/3	口 底	14.6 8.6	高	3.7	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。底部外面中央にヘラ書き「十」か。	外面炭素吸着。
第137図	13	須恵器 杯	掘方土・埋没土 底部片	底	9.2			粗砂粒少/還元焰・ やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	内外面とも摩耗顕著。
第137図	14	須恵器 杯	掘方土 口縁部下位～底 部片	底	9.1			粗砂粒多/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離し後、手持ちヘラ削り。	内面は摩耗顕著。
第137図 PL.116	15	須恵器 杯	掘方土 2/3	口 底	12.0 7.0	高	3.5	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
第137図	16	須恵器 椀	埋没土 体部下位～高台 部片	底	10.5	台	10.8	白色鋳物粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(左回転)。底部糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。その後、高台部を貼付。	
第137図 PL.116	17	須恵器 短頸壺	床面直上・掘方 土 口縁部～胴部上 位片	口	11.6			白色・黒色鋳物粒 少/還元焰/灰	口縁部は短く直立ぎみに立ち上がる。ロクロ整形(左回転か)。	外面に自然釉付着。
第137図 PL.117	18	土師器 甕	掘方土・埋没土 口縁部～胴部上 位1/4	口	25.8			粗砂・細砂粒/良好 /にぶい橙	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第137図 PL.117	19	土師器 甕	掘方土・埋没土 口縁部～胴部上 半	口	22.2			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、中位は幅広い単位で斜縦位のヘラ削り。内面胴部上位は横位の、中位以下は縦位のヘラナデ。	被熱。煤やや付着。
第137図	20	土師器 甕	床上7cm・掘方 土・埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	22.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は3回に分けて横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内面摩滅。
第137図	21	須恵器 甕	床面直上 口縁部片	口	33.3			白色鋳物粒/還元 焰/灰	頸部に補強帯がめぐる。紐作り後、ロクロ整形。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第137図 PL.117	22	石製品 不明	埋没土 1/2	長幅 (8.4) (9.3)	厚 重 339.4	5.3	ニツ岳石	背面側面が面取り様に研磨整形され、広い平坦面が形成されている。整形意図は明らかでない。	楕円形
第137図	23	鉄製品 刀子	床上4cm 破片	長幅	7.8 1.2	厚 重 0.3 7.2	メタルなし/磁性 1.5cm	棟側の関を持つ刀子で刃の先端は破損。現存する刃部分は短く端部はカーブし研ぎ減りと考えられる。柄の木質は見られない。	

5区12号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第137図 PL.117	1	土師器 杯	掘方土 1/2	口	14.4	高 3.3	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面摩耗。外 面摩滅。
第137図 PL.117	2	土師器 杯	掘方土 1/3	口	13.8	高 3.4	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第137図 PL.117	3	土師器 杯	掘方土 口縁一部欠	口	12.0	高 3.5	粗砂粒/良好/橙	器内厚く重量は他と比較して重い。口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	口縁部内面の 一部に煤付着。 器面摩滅。
第137図	4	土師器 杯	掘方土 1/3	口	12.8	高 3.3	粗砂・細砂粒/良好 /明褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面やや摩滅。
第137図	5	土師器 杯	掘方土 1/2	口	12.6	高 3.4	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第137図	6	土師器 杯	掘方土 1/3	口	13.4		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第137図 PL.117	7	土師器 杯	掘方土 3/4	口	12.1	高 3.3	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい赤 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第137図 PL.117	8	土師器 杯	床上3~6cm・ 埋没土 3/4	口	13.2	高 3.6	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第137図 PL.117	9	土師器 杯	掘方土 1/2	口	15.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は上位を除いてへら削り。底部も手持ちへら削り。内面はナデ。	
第137図 PL.117	10	土師器 杯	床面直上 1/2	口	13.0	高 2.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第137図 PL.117	11	土師器 杯	掘方土 1/3	口	13.6	高 2.6	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面の一部に 炭素吸着。
第137図	12	土師器 杯	掘方土 1/2	口	12.9	高 3.0	粗砂粒・黒色鈹物 粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。	口縁部の内外 面に炭素吸着。
第138図 PL.117	13	土師器 杯 底部片	掘方土 底部片				粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面は手持ちへら削り。一部ナデを重ねる。内面はナデ。螺旋状にへら磨きを重ねる。	
第138図 PL.117	14	須恵器 蓋	掘方土 口縁部~摘み部 片	口	15.8	高 摘 2.9 4.6	黒色鈹物粒多・白 色鈹物粒/還元焰・ やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りに回転へら削り。	内面摩耗。
第138図 PL.117	15	須恵器 杯	掘方土 3/4	口 底	14.0 8.4	高 3.4	粗砂粒/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	内面摩耗。
第138図 PL.117	16	須恵器 杯	床面直上・床上 3cm・埋没土 3/4	口 底	12.8 8.6	高 3.4	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	器面やや摩耗。
第138図 PL.117	17	須恵器 杯	掘方土 1/3	口 底	14.0 9.2	高 3.8	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。口縁部(体部下位)も回転へら削り。	内外面に自然 釉付着。
第138図 PL.117	18	須恵器 杯	掘方土 3/4	口 底	13.2 6.6	高 4.0	粗砂粒多・結晶片 岩/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。
第138図 PL.117	19	須恵器 椀	掘方土 3/4	口 底	11.3 7.6	高 台 4.6 7.6	白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
第138図 PL.117	20	須恵器 椀	掘方土 3/4	口 底	13.3 9.5	高 台 4.3 9.5	粗砂粒・赤黒色粘 土粒少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転へら削り後の付け高台。	外面やや摩滅。
第138図 PL.117	21	土師器 高杯	掘方土 脚部中位1/2				粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	裾部は外反して延びると考えられる。外面は縦位のへら削り。内面は横位のナデ。	外面に赤色顔 料を塗布する と考えられる。
第138図 PL.117	22	土師器 甕	掘方土 口縁部~胴部下 位片	口	19.0		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、中位以下は縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱のため変 色。
第138図	23	須恵器 甕	掘方土 口縁部~胴部上 位片	口	26.6		粗砂粒多/還元焰/ 灰	軽量。ロクロ整形(右回転か)。	
第138図	24	須恵器 瓶	掘方土 胴部下位~高台 部片	底	12.0	台 12.6	白色鈹物粒少/還 元焰/オリーブ黒	ロクロ整形(右回転か)。胴部下位は回転へら削り。	外面に自然釉 付着。
第138図	25	須恵器 甕	掘方土 口縁部片				白色・黒色鈹物粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形。	
第138図	26	須恵器 甕	掘方土 胴部片				白色鈹物粒少/還 元焰/灰白	紐作り整形。平行叩き目に一部粗雑なカキ目を重ねる。内面は同心円文状、青海波文状の2種類の当て具痕を残す。一部ナデを重ねる。	

5区13号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第140図 PL.117	1	土師器 杯	床上30cm 3/4	口	12.5	高	3.0	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面に黒色の付着物。煤か。	
第140図 PL.117	2	土師器 杯	床上28cm・埋没 土 2/3	口	14.0	高	4.4	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部及び底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第140図 PL.117	3	土師器 杯	床上33cm・埋没 土 3/4	口 底	12.1 9.2	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第140図 PL.117	4	土師器 杯	床上31cm・埋没 土 1/2	口	11.8	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は中心寄りを手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデ。型肌の部分を広く残す。	
第140図	5	土師器 杯	床上35cm・埋没 土 1/2	口	12.4	高	3.6	粗砂・細砂粒/良好/明赤褐	口縁部の先端は内彎強く内側を向く。横ナデ。体部はナデ、一部にヘラナデ。底部は幅狭く、細かい単位の手持ちヘラ削り。	内面一部に黒色の付着物。
第140図	6	土師器 杯	床面直上 2/5	口	14.7			粗砂・細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ後、その大半を横位にヘラ削り。平滑な面を作る。底部は手持ちヘラ削り。	外面炭素吸着。
第140図 PL.117	7	須恵器 蓋	掘方土 完形	口	14.3	高 摘	3.9 4.3	黒色・白色鈹物粒多/還元焰/灰白	器形やや歪む。ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後、摘み部を貼付。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。	
第140図 PL.117	8	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.2 7.6	高	3.6	赤黒色粘土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第140図 PL.117	9	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	12.4 8.4	高	4.0	粗砂粒・黒色鈹物粒/還元焰・やや軟質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩擦、摩滅。内面に黒色の付着物。軽量。
第140図 PL.117	10	須恵器 杯	掘方土 1/2	口 底	12.4 7.4	高	3.4	粗砂粒・赤黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	器面摩擦顕著。
第140図 PL.117	11	須恵器 杯	埋没土 底部片					粗砂粒/還元焰・酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。外面にヘラによる刻書「木」。	
第140図 PL.117	12	須恵器 杯	掘方土 1/2	口	13.0			粗砂粒/還元焰・やや軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩擦。
第140図 PL.117	13	須恵器 碗か	埋没土 口縁部片	口	20.0			粗砂粒・黒色鈹物粒/酸化焰/明黄褐	ロクロ整形(右回転)。外面中位に断面三角形の突帯が貼付される。	
第140図 PL.117	14	土師器 甕	床面直上・埋没 土 口縁部～胴部上 位片	口	23.2			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は斜横位の、以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第140図	15	土師器 甕	掘方土・埋没土 胴部中位～底部 1/2	底	4.2			細砂粒/良好/明赤褐	器内全体に薄い。胴部は3回ほどに分けて斜縦位のヘラ削り。底部もヘラ削り。内面は斜位・横位のヘラナデ。上半と下半の接合痕を消しきれず残す。	外面被熱。炭素吸着。
第141図	16	灰釉陶器 瓶	埋没土 肩部片					白色鈹物粒少/還元焰/オリブ灰	ロクロ整形(左回転か)。	外面に厚く釉が掛かる。
第141図	17	須恵器 甕	床上39cm 胴部片					白色鈹物粒少/還元焰/灰	紐作り整形。外面は平行叩き目。内面は同心円文状の当て具痕を残す。	
第141図 PL.118	18	須恵器 横瓶	埋没土 口縁部～胴部上 半2/3	口	12.4			白色・黒色鈹物粒少/還元焰/灰白	胴部を俵状に仕上げた後、その側面を切開し口縁部を接合している。口縁部は先端が外側に肥厚するように段をなす。歪みは著しく波を打つ。ロクロ整形。胴部は紐作り後、叩き整形。外面は平行叩き目をナデ消す。内面は青海波状の当て具痕。	外面に自然釉厚く付着。
第141図 PL.117	19	灰釉陶器 瓶	床面直上 胴部下位～底部 片	底	13.0			精選/還元焰/灰白	ロクロ整形か(左回転)。胴部外面は回転ヘラ削り。内面はナデ。底部外面は周縁部に回転ヘラ削り。	外面に施釉。
第141図 PL.117	20	石製品 砥石	床上10cm 完形	長 幅	6.2 3.6	厚 重	1.9 57.3	砥沢石	四面使用。砥面は使い込まれ、研ぎ減る。小口部上端は粗く磨き整形、下端は平坦に整形される。表裏面に同形の文字と見られる線刻があるが、判読できない。本来的には糸巻状を呈する砥石が中央付近で破損、これを利用して提げ砥石としたものだろう。	提げ砥石
第141図	21	鉄製品 釘	埋没土 破片	長 幅	6.5 0.5	厚 重	0.3 8.6	メタルあり/磁性 2.0cm	断面四角形の鉄製品で、両端とも劣化破損する。一端へ向かい徐々に細くなり、角釘破片と考えられる。木質等は見られない。	
第141図 PL.117	22	鉄製品 釘	床上4cm 破片	長 幅	3.5 1.5	厚 重	1.3 9.1	メタルなし/磁性 1.6cm	土砂を巻き込み錆化、本体は空洞化し脆弱。断面5mm程の角釘。頭部の形状は不明瞭だが、X線写真観察から丸い笠状と見られる。先端部分は劣化後破損する。	
第141図	23	鉄製品 不明	床上4cm 頭部	長 幅	5.8 1.8	厚 重	0.5 12.0	メタルなし/磁性 1.2cm	鉄釘の頭部部分を輪状に加工した鉄製品。	
第141図	24	鉄製品 釘か	掘方土 破片	長 幅	6.8 0.8	厚 重	0.5 12.6	メタルなし/磁性 1.2cm	土砂を巻き込み錆化し、X線写真観察により角釘と見られる。詳細な形状は不明。	

5区14号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第143図 PL.118	1	土師器 杯	床面直上 口縁一部欠	口	11.8	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	器形の歪み大きい。口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。
第143図 PL.118	2	土師器 杯	床面直上 3/4	口	12.0	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
				口底	高さ	口径					
第143図 PL.118	3	土師器 杯	床上3~5cm・埋没土 2/3	口底	12.4 9.7	高	3.2	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第143図 PL.118	4	土師器 杯	床面直上 3/4	口底	12.0	高	3.5	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第143図 PL.118	5	土師器 杯	床上18cm・埋没土 3/4	口底	12.2 9.3	高	3.4	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第143図	6	土師器 杯	床面直上・掘方土 3/4	口底	11.8	高	3.7	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第143図	7	土師器 杯	床面直上 1/2	口底	12.0	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第143図	8	須恵器 椀	床面直上 1/4	口底	14.0 7.0	高台	4.5 6.6	粗砂粒・黒色鈹物粒/還元焰・軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台。	外面やや炭素吸着。	
第143図	9	土師器 甕	カマド使用面上 23cm 口縁部~胴部上位	口底	20.0			粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は中位に弱い段をなす。横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。	
第143図 PL.118	10	土師器 甕	床面直上・床上 5cm・カマド使用 面上6cm・掘方土 口縁部・胴部一部欠	口底	20.2 4.4	高	28.4	粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁上半部は横ナデ。下半部にナデ。指押さえ痕を残す。胴部は上位に横位の、中位から下位は縦位の、最下位は斜位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は上位・中位が横位のヘラナデ。以下は丁寧なナデ。	胴部下位から底部に炭素吸着。黒斑。	
第143図	11	須恵器 甕	床上8cm 胴部片					白色鈹物粒/還元焰/灰	紐作り整形。外面は平行叩き目痕。内面は同心円文状の当て具痕を残す。		
第143図 PL.118	12	鉄製品 刀子	掘方土 破片	長幅	10.8 1.6	厚重	0.4 19.4	0.4 1.0cm	メタルなし/磁性	棟・刃側ともに明確な関を持つ刀子破片で、両端とも劣化後破損する。茎に木質は見られない。	
第143図 PL.118	13	鉄製品 鎌か	床上4cm 破片	長幅	10.5 0.5	厚重	0.5 10.9	0.5 1.4cm	メタルあり/磁性	先端は片刃で、長い鉄製品。他端は破損後錆化したとみられる。鉄鎌の破片と考えられる。	

5区15号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	口径				
第144図	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	13.4	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間(体部)にナデの部分を残す。	器面摩滅。
第144図 PL.118	2	須恵器 杯	埋没土 1/2	口底	13.2 9.2	高	3.6	粗砂粒/還元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。口縁部(体部)への移行部分にも回転ヘラ削り。	
第144図 PL.118	3	灰釉陶器 椀	床上3cm・掘方土 1/2	口底	14.2 7.0	高台	5.1 6.2	白色・黒色鈹物粒 微少/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は低い三日月高台。底部回転糸切り後の付け高台。釉は漬け掛け。	

5区16号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
				口底	高さ	口径					
第146図 PL.118	1	土師器 杯	床面直上・掘方土 口縁部~底部一部欠	口底	11.9	高	3.4	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部内面に炭素吸着。	
第146図 PL.118	2	土師器 杯	床上13cm 3/4	口底	12.0	高	3.4	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の一部に炭素吸着。黒斑。	
第146図	3	土師器 杯	床面直上 2/3	口底	12.3 9.5	高	3.4	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第146図	4	土師器 杯	床上23cm 3/5	口底	11.8 9.4	高	3.0	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。指頭痕を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。		
第146図 PL.118	5	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	14.0	高	4.5	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部は横位にヘラ削り。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ後、口縁部に放射状、底部に螺旋状にヘラ磨き。		
第146図 PL.119	6	土師器 杯	床面直上 1/2	口底	13.2	高	4.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部上半はナデ。型肌を残す。下半は手持ちヘラ削り。底部も手持ちヘラ削り。内面はナデ後、口縁部に放射状の、底部に螺旋状のヘラ磨き。底部内面に墨書「井」。		
第146図 PL.118	7	土師器 杯	埋没土 底部片					粗砂粒少/良好/橙	外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内面に墨書「井」か。		
第148図 PL.118	8	須恵器 蓋	掘方土 完形	口底	17.2	高摘	4.8 4.8	粗砂粒/還元焰・酸化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、摘み部を貼付。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。		
第148図 PL.118	9	須恵器 蓋	床上2~6cm・埋没土 完形	口底	16.9	高摘	4.0 2.8	4.0 2.8	結晶片岩粒多/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部を回転糸切り後、摘み部を貼付。切り離し痕を残す。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。	器形の歪み顕著。
第148図 PL.118	10	須恵器 蓋	床面直上 1/3			摘	4.4	粗砂粒/還元焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、摘み部を貼付。天井部の平坦部分は回転ヘラ削り。	内面摩耗。	
第148図 PL.119	11	須恵器 杯	床上15cm 完形	口底	12.5 7.9	高	3.6	粗砂粒・赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切りか、周縁部は回転ヘラ削り。		

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第148図 PL.119	12	須恵器 杯	床上13cm・掘方 土 口縁部1/4欠	口 底	12.2 7.3	高	3.5	粗砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第148図 PL.119	13	須恵器 杯	掘方土 3/4	口 底	12.5 7.2	高	3.8	白色・黒色鋳物粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第148図 PL.119	14	須恵器 杯	掘方土 3/4	口 底	12.2 6.6	高	3.6	黒色鋳物粒・白色 軽石粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	
第148図 PL.119	15	須恵器 杯	床面直上 2/3	口 底	11.7 6.5	高	3.4	黒色鋳物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面やや摩耗。
第148図 PL.119	16	須恵器 杯	カマド掘方土 3/4	口 底	12.0 7.4	高	3.9	粗砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩耗。
第148図	17	土師器 甌か	埋没土 底部片					粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	直径0.3mmの焼成前穿孔が3か所見られる。外面へら削り。内面はへらナデ。	
第148図 PL.119	18	土師器 小型台付甕	掘方土 口縁部・台部一 部欠	口 底	11.7 4.5	高 台	15.3 8.0	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位のへら削り。中位・下位は斜縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。台部内外面とも横ナデ。胴部外面の広い範囲に煤付着。被熱。内面の口縁部から胴部上位に黒の付着物。	
第148図	19	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	26.0			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。小破片からの器形復元を行っているため法量に誤差が生じる可能性あり。	
第148図	20	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	13.0			細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。内面胴部は横位のナデ。	外面摩滅。
第148図	21	須恵器 甕	掘方土 胴部片					白色鋳物粒/還元 焰/灰	紐作り整形。外面は平行叩き目痕。内面は同心円文状の当て具痕を残す。	
第148図 PL.119	22	鉄製品 釘	埋没土 破片	長 幅	7.0 0.5	厚 重	0.5 6.9	メタルなし/磁性 2.0cm	断面5mm程の角釘で、先端に向かいなだらかに細くなる。頭側はやや平たくなるが、錆化により詳細は不明。	

5区17号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第149図 PL.119	1	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.5	高	3.5	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第149図	2	土師器 杯	掘方土 1/4	口	12.6	高	3.4	粗砂粒・粗砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	内面摩耗。
第149図 PL.119	3	須恵器 蓋	埋没土 2/3	口	19.8	高 摘	4.0	黒色鋳物粒/還元 焰やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。天井部は切り離した後、摘み部を貼付。周縁部にナデ調整。天井部の中心寄りに回転へら削り。	器面やや摩耗。
第149図 PL.119	4	須恵器 蓋	掘方土 1/4	口	13.7	高 摘	4.0	黒色鋳物粒多/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。天井部は切り離した後、摘み部を貼付。天井部の中心寄りに回転へら削り。	
第149図 PL.119	5	須恵器 杯	埋没土・掘方土 3/4	口 底	13.6 8.0	高	3.3	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰・外面 酸化焰ぎみ。/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削り。	器面摩耗、摩滅。
第149図 PL.119	6	須恵器 杯	埋没土・掘方土 1/3	口 底	14.0 7.0	高	3.7	白色鋳物粒多/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転へら削りか。口縁部最下位にも回転へら削り。	
第149図 PL.119	7	須恵器 杯	埋没土・掘方土 3/4	口 底	14.2 8.0	高	3.8	粗砂粒・黒色鋳物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離した後、回転へら削り。	器面摩耗、摩滅。
第149図 PL.119	8	須恵器 杯	埋没土・掘方土 1/4	口 底	17.0 10.0	高	4.4	白色鋳物粒・黒色 鋳物粒少/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部は切り離した後、手持ちへら削り。口縁部最下位にはへら削り後ナデ。	内面摩耗。
第149図	9	須恵器 椀	掘方土 底部～高台部片			台	11.8	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。高台部は底部回転へら削り後の付け高台。	高台部端部は摩耗。
第149図	10	土師器 台付甕	掘方土 胴部下位～台部			台	10.8	粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	胴部はへらナデ。内面もへらナデ。台部は横ナデ。内面も横ナデ。	台部の裾部炭素吸着。

6区1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第150図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	14.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	底部外面は炭素吸着。
第150図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	

6区2号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第152図 PL.119	1	土師器 杯	埋没土・掘方土 3/4	口	12.0	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。へら状の工具痕を残す。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面摩滅。
第152図 PL.119	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口	13.8	高	4.7	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	内面摩耗。
第152図	3	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちへら削り。内面はナデ。	
第152図 PL.119	4	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部～胴部上 半	口	22.7			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜位のへら削り。内面は斜横位のへらナデ。	被熱。外面やや摩滅。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第152図 PL.119	5	土師器 甕	カマド埋没土・ 埋没土 口縁部～胴部上 位2/3	口	24.2		粗砂・細砂粒/良好 にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。変色。
第152図	6	土師器 甕	床面直上・カマ ド埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	22.8		粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位・斜横位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。	被熱。
第152図 PL.119	7	鉄製品 釘	埋没土 破片	長幅	9.3 1.1	厚重	0.4 12.4 1.8cm	メタルなし/磁性	断面長方形の角釘で先端は尖る。頭部分はやや曲がり、破損後錆化したと思われる。
第152図	8	鉄製品 不明	埋没土 破片	長幅	3.8 0.6	厚重	0.3 2.6 1.2cm	メタルなし/磁性	断面長方形で両端部とも劣化破損する。角棒状で木質等の付着も見られない。

6区3号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第153図 PL.119	1	土師器 杯	埋没土・掘方土 口縁部一部欠	口	11.6	高	3.5	粗砂粒・赤黒色粘 土粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第153図 PL.119	2	土師器 杯	床上18cm・埋没 土 底部一部欠	口	12.6	高	3.5	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。	
第153図 PL.119	3	土師器 杯	掘方土・埋没土 3/4	口	12.4	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間(体部)にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第153図	4	土師器 杯	掘方土 1/4	口	13.4	高	3.6	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。底部との間に弱い稜をなす。内面はナデの上に全面、規則性の薄いヘラ磨きを重ねる。口径が大きくなる可能性があるか。	内面やや炭素吸着。
第153図 PL.119	5	土師器 鉢か	掘方土 1/4	口	16.8	高	6.3	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。口縁部から段をもって底部へ移行する。	外面炭素吸着。 黒斑。
第153図 PL.119	6	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	14.8	高 摘	2.8 3.6	粗砂粒/還元焰/灰 黄	器形の歪み大きい。ロクロ整形(右回転)。天井部は切り離し後、摘み部を貼付。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	器面炭素吸着。 黒色。
第155図 PL.119	7	須恵器 杯	床面付近 完形	口底	12.8 7.7	高	3.8	白色鈹物粒・赤黒 色鈹物粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	
第155図	8	須恵器 杯	床上6cm 1/2	口底	12.8 8.4	高	3.1	黒色鈹物粒/還元 焰やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	外面は炭素吸着。
第155図 PL.119	9	須恵器 椀	埋没土 1/2	口底	14.2 10.8	高 台	4.8 10.6	粗砂粒多/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は付け高台。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	内面、口縁部 先端、高台部 端部、摩耗。
第156図 PL.120	10	須恵器 鉢	床面直上・床上 17cm 1/2	口底	19.4 10.8	高	8.0	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	外面炭素吸着。 重ね焼きの痕 跡。
第156図	11	土師器 甕	埋没土・カマド 掘方土 口縁部～胴部上 位1/2	口	20.2			粗砂・細砂粒・赤黒 色粘土粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面やや摩滅。
第156図 PL.120	12	土師器 甕	床面直上・床面 7cm・埋没土 口縁部～胴部上 半	口	20.0			粗砂・細砂粒/良好 /にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部最上位は横位・以下は斜横位・斜位のヘラ削り。内面は横位・斜位のヘラナデ。	外面被熱。炭 素吸着。
第156図	13	土師器 甕	カマド使用面上 8cm・カマド埋 没土 口縁部～胴部上 位1/3	口	19.8			粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位のヘラ削り。一部はナデ状を呈する。内面は横位のヘラナデ。	被熱。煤付着。
第156図 PL.119	14	土師器 甕	掘方土・埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	20.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は2回以上に分けて横ナデ。外面はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面炭素吸着。
第156図 PL.120	15	土師器 甕	床面直上・掘方 土 口縁部～胴部上 位3/4	口	20.2			粗砂・細砂粒/良好 /明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第156図	16	土師器 甕	掘方土・埋没土 口縁部～胴部中 位片	口	17.0			粗砂・細砂粒・赤黒 色粘土粒少/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は斜横位の、中位は斜位のヘラ削り。	被熱。
第157図	17	須恵器 甕	床面直上・埋没 土 口縁部片					白色鈹物粒/還元 焰/灰	紐作り整形。横ナデ調整後、外面に4条1単位の波状文を3段以上めぐらせる。	
第157図	18	鉄製品 不明	床上21cm 破片	長幅	8.5 1.6	厚重	1.3 47.2 2.8cm	メタルあり/磁性	断面0.4cm×1cmの長方形の角棒状鉄製品。両端部ともに特別な形状は見られない。	
第157図	19	鉄製品 不明	埋没土 破片	長幅	3.1 0.3	厚重	0.3 2.6 1.3cm	メタルなし/磁性	断面四角形の鉄製品で、くの字に曲がり両端とも劣化破損する。	
第157図	20	鉄製品 釘	埋没土 先端部	長幅	3.7 0.5	厚重	0.5 2.3 1.2cm	メタルなし/磁性	断面4mm角の釘破片で、先端部で細く尖る。他の端部は尖り気味に破損する。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重				
第157図 PL.120	21	鉄製品 釘	埋没土 完形	10.0	0.8	0.9 16.0	メタルあり/磁性 2.2cm	断面5mm程の角釘で先端は細く尖る。頭部分は叩いて薄くした上で折り曲げていると見られるが、硬い錆に覆われ詳細は不明。	
第157図	22	鉄製品 釘	床上1cm 先端部～体部	8.0	2.6	1.8 64.2	メタルあり/磁性 2.0cm	断面0.8cm×1cm角で、頭部は円形に広げ折り返している。他端は尖らずに終わる。劣化前の破損の可能性が有る。	

6区4号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第158図 PL.120	1	土師器 杯	カマド掘方土・ 埋没土 3/4	10.8		3.6	精選・赤色粘土粒 少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第158図	2	土師器 杯	埋没土 破片	16.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から底部の移行には稜をなす。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第158図 PL.120	3	土師器 甕	埋没土・カマド 埋没土 1/2	17.5			粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜位の幅広いヘラ削り。内面横位のヘラナデ。	被熱。炭素吸着。変色。
第158図 PL.120	4	石製品 紡輪	床上3cm 完形	4.2 0.4	厚 重	1.2 23.2	二ツ岳石	石材が粗く、整形痕等不明瞭だが、各稜ともエッジが立ち、新鮮である。未使用か。孔は上面で径1cmほどで、断面漏斗状を呈する。	薄型台形
第159図 PL.120	5	土師器 甕	カマド使用面直上・ 埋没土 2/3	16.8 7.0	高	27.7	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	器肉厚い。口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部上位、中位は縦位のヘラ削り。下位はヘラ削りの上に磨き状のヘラナデ。底部はヘラナデ。内面は一部を除き横位のヘラナデ。上位・中位は幅広く下位は幅が狭い。	被熱。炭素吸着。やや摩滅。
第159図 PL.120	6	土師器 甕	カマド使用面直上・ 埋没土・畑 埋没土 胴部～底部2/3			3.6	粗砂粒多/良好/明 赤褐	成形が粗雑なため、中位と下位の接合部分で器形が乱れている。胴部は4回に分けて斜位・斜縦位にヘラ削り。底部はヘラ削り。内面上半部は斜横位の、下半部は斜縦位のヘラナデ。	被熱。

6区5号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第160図	1	土師器 杯	埋没土 破片	11.0			粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は中位に弱い稜をなして外反して立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面炭素吸着。黒色処理か。

6区6号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第160図 PL.120	1	土師器 杯	埋没土 2/3	12.4	高	4.7	粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位にも弱い段をもつ。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面黒色処理か。
第160図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	11.8			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は中位に弱い稜をなして外反する。横ナデ。底部はヘラ削りと考えられるが摩滅。内面はナデ。	内外面炭素吸着。黒色処理か。
第160図	3	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底部 片		底	3.4	粗砂粒多/良好/暗 灰黄	胴部は斜位にヘラ削り。内面は斜位にヘラナデ。	外面炭素吸着。

6区8号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第163図	1	土師器 杯	埋没土 破片	12.0			赤色粘土粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第163図 PL.120	2	土師器 台付甕	床面直上 胴部下～脚部	12.2	底		粗砂・細砂粒/良好/ 灰黄褐	胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。脚部上位は縦位のヘラ削り。以下は横位のナデ。内面は横位のナデ。	外面と脚部内面は被熱。煤付着。胴部内面に黒色の付着物。
第163図 PL.120	3	土師器 甕	床上9cm 口縁部～胴部上 位1/3	21.6			粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部上位は斜横位のヘラ削り。以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	被熱。炭素吸着。
第163図 PL.120	4	土師器 甕	床上9cm・埋没土 口縁部～胴部下 位	23.3			粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は3回に分けて横ナデ。胴部上位は斜横位、以下は斜縦位のヘラ削り。内面は各位とも横位のヘラナデ。	外面は被熱の為、炭素吸着。

6区9号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高				
第165図 PL.121	1	土師器 杯	掘方土 破片	11.0			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第165図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部中 位片	10.8			精選/良好/橙	口縁部は底部との間に小さな稜をなす。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第165図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部中 位片	11.0			粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜をなす。中位には小さな段を有する。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面やや摩滅。
第165図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部片	13.8			粗砂粒少/良好/灰 白	横ナデ。	小破片から器形復元。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第165図	5	土師器 杯	カマド使用面上 13cm・埋没土 口縁部～底部中 位片	口	18.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第165図 PL.121	6	須恵器 瓶	埋没土・掘方土 胴部1/3				細砂粒・黒色鈹物 粒/還元焰/灰	胴部を成形後、側面を切開。ここに口縁部を接合する形状と考えられる。紐作り後、ロクロ整形か。整形時の底部には指押さえの痕跡を残す。胴部は底部寄りに回転ヘラ削りを施す。	
第165図	7	須恵器 小型甕か	床面付近 胴部下半～底部				黒色鈹物粒少/還 元焰/灰	紐作り整形。胴部残存上位に沈線あるいはカキ目をめぐらす。外面は平行叩き目。底部はヘラ削りを重ね叩き目を消す。内面同心円文状の当て具痕。	
第165図	8	鉄製品 刀子	床上10cm 先端部	長 幅	6.9 1.3	厚 重	0.3 6.5 1.2cm	メタルなし/磁性	先端部破片。先に向かい徐々に刃幅は狭くなり、切っ先で急に尖る。茎側は劣化破損する。

6区10号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第166図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	10.0		粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面被熱か。	
第166図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.0		粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも黒色。漆塗布か。	
第166図 PL.120	3	土師器 小型甕	掘方土 1/3	口	6.8	高	8.6	粗砂粒少/良好/暗 灰黄	口縁部は横ナデ。胴部から底部は横位のヘラ削り。一部その上にヘラ磨きを重ねる。内面は横位のナデ。	器面炭素吸着。
第166図	4	土師器 小型甕	掘方土 口縁部～胴部上 位片	口	11.4		粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部最上位は横位、以下は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第166図 PL.120	5	土師器 小型壺	掘方土 口縁部～肩部片	口	10.4		細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り後、斜横位にヘラ磨き。内面は指ナデ。頸部直下は斜縦位。		
第166図 PL.120	6	土師器 甕	埋没土・1溝埋 没土 口縁部～胴部上 位1/3	口	20.4		粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に煤付着。	

5区1号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第168図 PL.121	1	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	14.0	高 摘	3.5 4.8	粗砂粒/還元焰/灰 褐	ロクロ整形(右回転)。天井部切り離し後に摘み部を貼付。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。肩部は後から粘土を貼付して整形。水平に突出する。	内外面の一部に自然剥着。
第168図 PL.121	2	礫石器 凹石	底面直上 完形	長 幅	15.9 6.0	厚 重	3.6 462.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも漏斗状の孔2か所を穿つ。このほか、同型の孔が右側縁1か所にある。礫形状が影響してそれぞれの孔は礫の小口側に偏る傾向がある。	扁平棒状礫

4区2号掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第171図 PL.121	1	土師器 甕	掘方土 口縁部～胴部上 半	口	19.5			粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部先端外側に弱い稜をなす。2、3回に分けて横ナデ。中位には指押さえの痕跡を残す。胴部は横位にヘラ削り。内面は横位にヘラナデ。

2区1号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第173図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.0		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第173図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.6		粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第173図	3	土師器 高杯	床上11cm 杯部下位～脚部 中位2/3				粗砂粒/良好/にぶ い橙	成形は粗雑。杯部内面はヘラ磨き。脚部上半は縦位のヘラナデ。裾部は縦位にヘラ磨き。内面は横位のナデ。裾部内面も横ナデ。	

2区3号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第174図	1	須恵器 杯か	埋没土 口縁部片	口	16.0			黒色鈹物粒/還元 焰/灰	碗の可能性もあるか?ロクロ整形(右回転)。

2区6号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第174図	1	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口	13.0			白色鈹物粒少・赤 黒色粘土粒/還元 焰/灰オリーブ	ロクロ整形(右回転)。	器面やや摩滅。
第174図	2	須恵器 碗	埋没土 口縁部下半～高 台部1/2	底	7.0	台	6.4	粗砂粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転さ切り後の付け高台。	器面やや摩滅。

2区～5区4号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第175図	1	土師器 破片	埋没土	口	12.8		細砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第175図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	13.4		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第175図 PL.121	3	土師器 杯	床上25cm 3/4	口	13.8	高 3.6	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。	
第175図 PL.121	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.7		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	
第175図	5	土師器 杯	床上19cm 1/4	口	14.2		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	
第175図	6	土師器 杯	埋没土 破片	口	9.5		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	小破片からの 器形復元。
第175図	7	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.4		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	外面摩滅。
第175図	8	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.8		粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	内面に黒色の 付着物。
第175図	9	黒色土器 碗か	埋没土 破片	口	15.0		精選・細砂粒少/酸 化焰/にぶい橙	ロクロ整形か。外面は横位にヘラ磨き。内面の上位は横位 に、以下は斜横位にヘラ磨きを充填する。	内面は黒色処 理。
第175図 PL.121	10	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.2 7.2	高 3.7	黒色鈹物粒多/還元 焰/灰オリーブ	軽量。ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩滅。
第175図	11	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	12.0 5.6	高 3.8	粗砂粒・白色鈹物 粒少/還元焰やや 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。
第175図 PL.121	12	須恵器 杯	埋没土 破片	口 底	11.7 5.3	高 3.6	粗砂粒少/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転か)。底部は回転糸切り後、周縁部に手 持ちヘラ削り。口縁部最下位にもヘラ削り。	内面摩耗。外 面炭素吸着。
第175図	13	須恵器 杯	埋没土 1/2	底	5.8		白色・黒色鈹物粒 多/還元焰/灰	ロクロ整形。底部回転糸切り後、無調整。	器面炭素吸着。 内面やや摩滅。
第175図	14	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	14.0		粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第175図	15	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	20.0		粗砂粒少/良好/明 黄褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部には横位のヘラ削り。 内面は横位のヘラナデ。	

6区1号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第178図 PL.121	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.0	高 3.0	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間のわずかな部 分にナデを残す。内面はナデ。	
第178図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	20.0		細砂・粗砂粒/良好 /橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内 面は横位のヘラナデ。	被熱。外面摩 滅。

2区1号井戸

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第179図 PL.121	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口	12.4	高 3.3	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第179図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	8.8		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	

4区1号井戸

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第179図 PL.121	1	土師器 杯	埋没土 3/4	口	11.7	高 3.2	粗砂粒・赤色粘土 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	外面やや摩滅。
第179図 PL.121	2	須恵器 杯	埋没土 1/2	口 底	11.0 6.4	高 3.3	白色鈹物粒多・黒 色鈹物粒少/還元 焰/黄灰	ロクロ整形。底部回転糸切り。切り離しはやや粗雑。	

3区8号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第180図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	13.2		粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部は全体に手持ちヘラ削り。内面はナ デ。小破片からの器形復元の為、口径が小さくなる可能性 あり。	

3区25号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	重			
第180図	1	鉄製品 刀子	埋没土 先端部～体部	長 幅	3.8 1.2	厚 重 0.3 3.8	メタルあり/磁性 1.2cm	先端部破片で、他の端部は劣化後破損。先端は丸みを持ち、 先端より1.5cm程で横に曲がる。	

遺物観察表

3区21号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第181図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第181図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	18.2		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。

5区3号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第182図	1	鉄製品 釘	埋没土 先端部	長 幅	6.2 0.5	厚 重	0.5 4.3 1.0cm	メタルなし/磁性	断面3mm程の角釘。土砂を巻き込み錆化し、詳細形状は不明。	

3区7号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	10.0		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。

3区28号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	12.2		粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。

3区29号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部~底部片	口	11.4		精選・赤色粘土粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。

5区30号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第193図 PL.121	1	土師器 杯	埋没土 完形	口	11.7	高	2.9	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部(底部上位)はナデ。型肌を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。

3区遺物集中地点

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第194図 PL.121	1	土師器 杯	埋没土 3/4	口	13.2	高	4.4	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第194図 PL.121	2	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.4	高	3.5	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は歪んでいる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第194図 PL.121	3	土師器 杯	埋没土 3/4	口	11.1	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部は短いが強く内彎して立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。	底部外面にヘラの当たった痕跡2条あり。
第194図 PL.121	4	土師器 杯	埋没土 2/3	口	11.0	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。一部に型肌が見られる。内面はナデ。	
第194図 PL.121	5	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.7	高	4.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第194図 PL.121	6	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.6			粗砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第194図 PL.121	7	土師器 杯	埋没土 2/3	口	12.9	高	4.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第194図 PL.121	8	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.2	高	4.3	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	平面形は長円形を呈する。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第194図	9	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.8	高	3.4	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面摩滅。
第194図 PL.121	10	土師器 杯	埋没土 1/3	口	9.9	高	3.2	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	平面形、歪んでいる。口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。	底部炭素吸着。黒斑。
第194図	11	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.8	高	3.9	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第194図	12	土師器 杯	埋没土 1/4	口	17.8			粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第194図	13	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.5			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部外面にヘラ記号か。	
第194図 PL.121	14	土師器 杯	埋没土 完形	口	19.0	高	4.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は最上位にナデの部分を残すが以下は手持ちヘラ削り。	器面摩滅。
第194図	15	土師器 杯	埋没土 1/3	口	16.6	高	3.8	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。
第194図	16	土師器 杯	埋没土 1/4	口	18.8			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第194図	17	土師器 杯	埋没土 1/3	口	16.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面摩滅。
第195図 PL.121	18	土師器 杯	埋没土 1/2	口	20.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。一部にナデ。内面はナデ。	器面やや摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第195図	19	土師器 杯	埋没土 口縁部～体部中 位片	口	20.8		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に黒色の 付着物。	
第195図 PL.121	20	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.6	高	3.6	粗砂粒・チャート 粒か/良好/明赤褐	口縁部は屈曲して短く立ち上がる。横ナデ。底部は手持ち ヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ後、放射状 にヘラ磨き。	口縁部の先端 と器面やや摩 減。
第195図	21	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部下 位片	口	14.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 をわずかに残す。内面はナデ後、放射状にヘラ磨きを施す。	外面摩減。
第195図	22	土師器 杯	埋没土 破片	口	11.0	高	3.3	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。内面にヘラ記号「×」。	
第195図 PL.121	23	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.5	高	4.4	粗砂・細砂粒・赤黒 色粘土粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内 面に「×」のヘラ刻み。	
第195図	24	土師器 杯	埋没土 1/3	口	11.2	高	3.9	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。一部ナデの部分 を残す。内面はナデ。内面にヘラ記号「十」。	
第195図 PL.122	25	土師器 杯	埋没土 1/3	口	19.4			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。粗雑な成形な ため一部ナデの部分を残す。内面はナデ。内面に「×」のヘ ラ刻み。	
第195図	26	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口	15.0			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。内 面にヘラ記号「十」。	摩耗。
第195図	27	土師器 鉢	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	22.8			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位にも横ナデ。以下は斜横位のヘ ラ削り。一部にナデ。内面は横位のヘラナデ。	外面やや摩減。
第195図	28	土師器 鉢か	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	24.0			粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	内面炭素吸着。
第195図 PL.121	29	須恵器 蓋	埋没土 1/2	口	20.6	高 摘	3.5 2.6	黒色鉾物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。整形後、天井部中央に宝珠状の摘み を貼付。天井部全体に回転ヘラ削り。	外面に自然釉 付着。
第195図 PL.121	30	須恵器 蓋	埋没土 1/3	口	19.2	高 摘	2.5 6.8	黒色鉾物(粘土)粒 /還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。整形後、天井部に環状の摘みを貼付。 周縁には回転ヘラ削り。	
第195図 PL.121	31	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口	16.4	高	3.6	黒色鉾物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。整形後、天井部中央に宝珠状の摘み を貼付。天井部は中心寄りに回転ヘラ削り。その後ヘラナ デ。内面は中央寄りに不定方向にヘラナデ。	
第195図 PL.121	32	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.8 9.0	高	3.1	粗砂粒/還元焰/黄 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。口縁部最下位も 回転ヘラ削り。	内面に自然釉 付着。
第195図	33	須恵器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.8 10.0			黒色鉾物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部ヘラ切り後、粗雑なナデ。	内外面とも自 然釉付着。
第196図	34	須恵器 杯	埋没土 口縁部～体部下 位片	口	16.4			粗砂粒・灰黒色鉾 物粒少/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。口縁部中位に沈線がめぐる。底部は 手持ちヘラ削り。	
第196図 PL.121	35	須恵器 盤	埋没土 3/4	口 底	17.3 7.9	高	4.7	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。口縁部下半は回転ヘラ削り。底部も 回転ヘラ削り。内面は底部にカキ目を残す。	
第196図 PL.122	36	須恵器 盤	埋没土 3/4	口 底	16.6 8.7	高	5.0	黒色鉾物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(左回転)。底部は回転ヘラ切り後、弱い手持ち ヘラ削り。口縁部最下位には回転ヘラ削り。	内面やや摩耗。
第196図 PL.122	37	須恵器 盤	埋没土 5/6	口 底	17.8 13.7	高 台	4.4 13.1	粗砂粒・黒色鉾物 粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り後、高台部を貼付。 高台部は断面台形で低く、直接接地していない。	内面やや摩耗。
第196図 PL.122	38	須恵器 盤	埋没土 1/2	口 底	16.7 12.2	高 台	4.3 11.6	黒色鉾物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は断面台形で低く、内縁が接 地。底部回転ヘラ削り後の付け高台。内面底部はナデ。	外面に自然釉 付着。
第196図	39	須恵器 盤か	埋没土 体部下位～底部 片	底	13.4	台	12.0	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(左回転か)。高台部は低く断面台形。底部回転 ヘラ削り後の付け高台。	
第196図	40	須恵器 盤	埋没土 口縁部～体部下 位片	口	26.0			粗砂粒・白色鉾物 粒少/還元焰/灰白	脚台部が付くと考えられる。ロクロ整形(右回転)。底部(受 け部)は回転ヘラ削り。	
第196図 PL.121	41	土師器 埴	埋没土 口縁部～底部片 1/2	口	7.2			粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	
第196図 PL.122	42	土師器 甌	埋没土 3/4	口 底	22.8 3.3	高 孔	11.8 2.4	粗砂・細砂粒/良好 /にぶい黄橙	底部に直径2.4mmの孔。口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘ ラ削り。下位は横位、内面上半は横位のヘラナデ。下半は 斜縦位の丁寧なヘラナデ。	外面摩減。口 縁部寄りに炭 素吸着。黒斑。
第196図 PL.122	43	土師器 甌	埋没土 1/3	口 底	23.0 3.8	高 孔	13.2 3.3	粗砂粒・赤黒色粘 土粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部最上位に横位のヘラ削り。以下は斜 位のヘラ削りと考えられる。内面は横位にヘラナデ。	外面摩減。炭 素吸着。黒斑。
第196図 PL.122	44	土師器 甌	埋没土 口縁部～胴部上 半	口	20.7			粗砂・細砂粒/良好 /にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位・斜位、中位以下は斜縦 位のヘラ削り。内面は斜縦位のヘラナデ。磨きは施されな い。	
第196図 PL.122	45	土師器 小型甕か	埋没土 1/2	口	14.6	高	14.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位・中位は縦位の、下位は横位の ヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面下半部は 炭素吸着。黒 斑。
第197図 PL.122	46	土師器 小型甕	埋没土 1/2	口 底	14.3 3.4	高 孔	15.5 2.5	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部上半部は横位・斜横位の、下半部は 斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部に焼成後の 穿孔。直径2.5cm。甕に転用か。	胴部外面に炭 素吸着。黒斑。
第197図 PL.122	47	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部上 半1/3	口	15.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部上位は横位の、中位は斜位のヘラ削 り。内面は横位のヘラナデ。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第197図 PL.122	48	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部上 半1/3	口	13.1		粗砂粒多・赤黒色 粘土粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	被熱。器面摩 滅。	
第197図 PL.122	49	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 半1/2	口	23.6		粗砂粒多・赤黒色 粘土粒・軽石粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位にヘラ削り。内面は横位にヘ ラナデ。	被熱。	
第197図 PL.122	50	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 半1/3	口	16.8		粗砂粒多・軽石粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位・斜 位のヘラナデ。	被熱。外面に 煤付着。	
第197図	51	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部片	口	18.8		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。		
第197図	52	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	17.8		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	被熱。変色。	
第197図 PL.122	53	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	25.8		粗砂粒多・赤黒色 粘土粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	被熱。炭素付 着。	
第197図 PL.122	54	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 半1/3	口	20.2		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は大きく外反して立ち上がる。胴部は横位、或いは 斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面一 部に炭素吸着。	
第197図 PL.122	55	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	21.4		粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は2、3回に分けて横ナデ。胴部はヘラ削り。内面 は横位のヘラナデ。		
第197図 PL.122	56	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	15.1		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は短く外反して弱く立ち上がる。胴部は斜縦位にヘ ラ削り。内面は横位のヘラナデ。		
第197図	57	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口	21.6		粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は器面摩滅。内面は横位のヘラナデ。		
第197図	58	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	25.6		粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。		
第197図	59	土師器 甕	埋没土 胴部中位～底部 1/3	底	8.8		粗砂・細砂粒/良好 /にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部中位は横位、以下は斜位のヘラ削り。 底部はヘラ削り。内面は斜位・横位のヘラナデ。	外面に煤付着。 内面変色。	
第197図	60	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	19.6		粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。		
第197図	61	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	19.0		粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘ ラナデ。	摩滅。	
第197図	62	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	20.6		粗砂粒/良好/にぶ い橙	外面は摩滅のため、観察不可能。口縁部の内面は横ナデ。 胴部内面は横位のヘラナデ。		
第197図	63	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	17.4		粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は横位のヘラナデ。内 面は横位のナデ。		
第197図 PL.122	64	石製品 不明	埋没土 完形	長 幅	2.2 1.8	厚 重	0.7 4.6	砂岩	表裏面とも弱い線条痕を伴い摩耗しているように見える。 これが使用法を示唆するものか詳細は不明。	小形扁平礫。

5区遺物集中地点

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第198図 PL.123	1	土師器 杯	埋没土 口縁一部欠	口	12.1	高	3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	器面やや摩滅。
第198図 PL.123	2	土師器 杯	埋没土 完形	口	11.7	高	3.3	粗砂粒/良好/橙	器形は歪んでいる。口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は 手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第198図 PL.123	3	土師器 杯	埋没土 完形	口	11.8	高	3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第198図 PL.123	4	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.0	高	3.0	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	
第198図 PL.123	5	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.0	高	3.3	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第198図	6	土師器 杯	埋没土 口縁一部欠	口	12.3	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。一部に型肌が見られる。内面はナデ。	
第198図	7	土師器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.3 9.3	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内 面はナデ。	
第198図	8	土師器 杯	埋没土 3/4	口	12.1	高	3.2	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	
第198図	9	土師器 杯	埋没土 1/2	口	12.0	高	2.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分 を残す。内面はナデ。	内面摩耗。
第198図 PL.123	10	須恵器 杯	埋没土 3/4	口 底	12.4 7.6	高	3.5	粗砂粒/還元焰・酸 化焰/ぎみ/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ切り。	器面摩耗、摩 滅。
第198図 PL.123	11	須恵器 椀	埋没土 口縁一部欠	口 底	12.6 7.1	高 台	5.0 6.6	白色鉱物粒多・赤 黒色粘土粒少/還 元焰・内面酸化焰 /ぎみ/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転切り離し後の付け高台。	器面摩耗。

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	底				
第199図 PL.123	1	土師器 杯	2区 口縁一部欠	口	12.5	高	3.2	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第199図 PL.123	2	土師器 杯	2区 3/4	口	12.0	高	3.4	粗砂粒/良好/橙	底部の成形は粗雑。器肉が薄くなってしまった所に粘土を貼り足して指で押さえている。口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第199図 PL.123	3	土師器 杯	2区 1/2	口	12.6	高	3.0	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第199図 PL.123	4	土師器 杯	2区 1/2	口	11.4	高	2.7	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第199図 PL.123	5	土師器 杯	2区 1/3	口	13.0	高	3.7	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。	器面摩滅。
第199図 PL.123	6	土師器 杯	3区 底部一部欠	口	12.1	高	3.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第199図 PL.123	7	土師器 杯	6区1・2トレン チ 1/2	口	11.8	高	4.1	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には小さな段をなす。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面摩滅。黒色の付着物。
第199図	8	土師器 杯	3区表土 3/4	口	11.1	高	3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。底部に炭素吸着。黒斑。
第199図 PL.123	9	須恵器 杯	5区表採 1/2	口	9.2	高	4.0	黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は手持ちヘラ削り。	
第199図 PL.123	10	土師器 杯	2区 1/2	口	12.2	高	3.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面摩滅。
第199図	11	土師器 杯	3区 1/4	口	13.8			粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第199図 PL.123	12	土師器 杯	3区 1/4	口	12.8			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部は横位にヘラ削り。底部は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はヘラナデ。	
第199図 PL.123	13	土師器 杯	1区 1/4	口	12.6	高	3.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第199図 PL.123	14	土師器 杯	3区 破片	口	15.4	高	3.1	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口径が小さくなる可能性あり。
第199図 PL.123	15	土師器 杯	2区 1/2	口	15.2			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部上半部ナデ、下半部は横位にヘラ削り。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第199図	16	土師器 杯	2区 破片	口	12.4			粗砂粒・雲母粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面に黒色の付着物。
第199図 PL.123	17	土師器 杯	2区 1/4	口	12.8			粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。体部はナデ。型肌を残す。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	
第199図	18	土師器 杯	2区 破片	口	11.6			粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間に指ナデの部分を残す。	
第199図	19	土師器 杯	3区 口縁部-体部中 位1/4	口	11.8			粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面やや摩滅。
第199図 PL.123	20	須恵器 杯	2区トレンチ 底部片					粗砂粒/還元焰・軟 質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。底部外面に墨書「有」か。	
第199図 PL.123	21	須恵器 蓋	5区1面 口縁部~体部片	口	17.0			細砂粒/還元焰・や や軟質/にぶい黄 橙	ロクロ整形(右回転)。天井部の中心寄りに回転ヘラ削り。及びヘラによる刻書「木」。	器面に炭素吸着。
第199図	22	須恵器 蓋	4区表土 天井部~口縁部 片	口	15.6			黒色鈹物粒多/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。天井部中心寄りに回転ヘラ削り。	外面に自然釉厚く堆積。
第199図	23	須恵器 蓋	2区 口縁部片	口 底	15.2			黒色鈹物粒少/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転か)。天井部は平坦。口縁部は屈曲、垂直に下がる。外面に4本1単位の櫛状工具による刺突文が連続する。天井部外面は回転ヘラ削り。内面は中央寄りに環状の突出部があったか。	
第199図	24	須恵器 杯	5区2面 2/3	口 底	13.6 6.5	高	4.3	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	内外面とも摩耗。
第199図	25	須恵器 杯	3区 1/4	口 底	15.0 9.4	高	5.0	白色軽石粒・黒色 鈹物粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面摩耗。
第199図 PL.123	26	須恵器 杯	3区 1/4	口 底	13.2 6.6	高	3.5	小礫・粗砂大の白 色鈹物粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面やや摩耗。
第200図	27	須恵器 杯	1区 1/4	口 底	13.4 7.0	高	3.3	粗砂粒/還元焰・や や軟質/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面炭素吸着。
第200図	28	須恵器 杯	2区 底部	底	12.2			黒色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ削り。	内面摩耗顕著。
第200図	29	須恵器 杯	2区 口縁部下半~底 部	底	6.2			白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	
第200図	30	須恵器 杯	2区 底部1/2	底	6.3			粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転糸切り後、無調整。	外面に炭素吸着。黒色。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第200図 PL.123	31	須恵器 杯	5区1面 底部片				粗砂粒/還元焰・酸化焰 ぎみ/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部は回転ヘラ切り。外面にヘラによる刻書「口」(「木」か)。		
第200図 PL.123	32	須恵器 椀	2区 1/3	口底	12.4 8.0	高台	4.4 7.6	粗砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内外面に炭素吸着。黒色処理か。内面摩耗。
第200図 PL.123	33	須恵器 椀	2区 1/3	口底	12.0 7.6	高台	5.4 7.4	白色鈹物粒と少量の 黒色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
第200図	34	須恵器 椀	4区表土 体部下位~高台部 3/4	底	8.8	台	9.2	白色鈹物粒多/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り。周縁部を回転ヘラ削り後の付け高台。	高台部端部摩耗。
第200図	35	須恵器 椀	1区 口縁部下位~高台部 片	底	6.6	台	6.9	白色鈹物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	
第200図	36	須恵器 椀	1区 口縁部下位~高台部 片	底	7.2	台	7.8	白色鈹物粒/還元焰・やや軟質/灰 オリーブ	軽量。ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。	内面摩耗。
第200図	37	須恵器 椀	2区 口縁部下半~高台部 片	底	14.6	台	13.8	粗砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。口縁部は回転ヘラ削り。高台部は付け高台。	器面割れ口摩滅。
第200図	38	須恵器 鉢か	2区 口縁部~胴部上 位片					粗砂粒/還元焰/灰	紐作り整形。口縁部は短く屈曲して外反。先端は平坦面をなし外方に向く。口縁部は横ナデ。胴部は内外面とも横位のナデ。	
第200図	39	土師器 甌	3区 胴部~底部片	底	21.0			粗砂粒/良好/浅黄橙	下端は屈曲。大きく外反して裾部を作る。胴部は斜縦位のヘラナデ。くびれ部から裾部は横位のナデ。横ナデ。内面は横位のナデ。	
第200図 PL.123	40	須恵器 甌	3区 胴部下半~受け部	底	23.6			粗砂粒・赤黒色粘土粒少・軽石粒少/還元焰/灰	紐作り後、ロクロ整形。胴部は残存上半が斜縦位のヘラ削り。下半は横ナデ。受部も同様。内面は胴部が横位・斜位のナデ。受部は横位のナデ。	胴部内面は灰黒色に変色。
第200図 PL.123	41	土師器 台付甕	3区 台部			台	10.1	粗砂粒少/良好/にぶい 橙	基部は太い。裾部に至り大きく外反する。上位・中位はナデ後、部分的に縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は横位にヘラ削りに近いヘラナデ。	
第200図	42	土師器 甕	2区 口縁部~胴部上 位片	口	19.0			粗砂粒少・白色鈹物粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。輪積み痕を残す。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。小片から器形復元。口径は大きくなる可能性あり。	
第200図	43	土師器 甕	2区 口縁部~胴部上 位片	口	14.0			粗砂粒少/良好/明赤褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。小片から器形復元。口径は大きくなる可能性あり。	
第200図	44	土師器 甕	2区 口縁部~胴部上 位片	口	20.0			粗砂粒少・白色鈹物粒少/良好/橙	器肉薄い。口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	
第200図	45	土師器 甕	1区 口縁部~胴部上 位片	口	19.8			粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部は横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	
第200図	46	土師器 台付甕	2区3面 胴部上位片					粗砂粒・雲母粒/良好/にぶい 黄橙	外面の左下位にハケ目(5本/1cm)。内面に縦位の指ナデ。	
第200図 PL.123	47	須恵器 羽釜	3区 口縁部~胴部上 半片	口	19.8			粗砂粒・石英粒/酸化焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。鏝部は成・整形後の貼付。	内外面被熱。炭素吸着。
第200図	48	土師器 羽釜	3区 口縁部~胴部上 位片	口	18.2			粗砂粒多・白色鈹物粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部はナデの上に部分的に横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。鏝部の貼付は粗雑。断面三角形の稜は上方に反り返る。	被熱。
第201図	49	須恵器 甕	3区 口縁部片	口	19.8			白色鈹物粒・海綿骨針/還元焰/暗灰	紐づくり整形。内外面とも横ナデ。	内面に自然釉付着。
第201図	50	須恵器 甕	4区表土 口縁部片	口	47.0			粗砂粒・海綿骨針/還元焰/暗灰	紐づくり整形。内外面とも横ナデ。	内面に自然釉付着。
第201図	51	須恵器 甕	2区7号住居埋 没土 胴部片					白色鈹物粒/還元焰/灰	紐づくり整形。外面は平行叩き目痕。内面は同心円文状の当て具痕を残す。	
第201図	52	埴輪 円筒	1区2面 胴部片					結晶片岩・海綿骨針/良好・窖窯焼成/明褐	円形と考えられる透孔の下位残存。突帯は断面M字状。外面は縦ハケ(12本/2cm)。内面は縦方向のヘラナデ、一部にハケ目を残す。	
第201図	53	埴輪 円筒	3区 基底部破片					粗砂粒/酸化焰/橙	外面は縦ハケ(10本/2cm)。内面は指ナデ。底部はヘラナデ。	
第201図	54	瓦 丸瓦	1区 破片					粗砂粒・白色鈹物粒/酸化焰/にぶい 橙	丸瓦の一部か。ヘラ切りされた小口部の端面と側端面の一部が残る。外面はヘラナデ。内面は布目痕。	
第201図 PL.123	55	剥片石器 加工痕ある 剥片	5区1面 破片	長幅	(1.7) 2.2	厚重	0.6 2.8	黒曜石	全面を押し剥離が覆う。尖頭器様の器体が中央付近で破損、破損面に剥離を施す。上下両端の破損面では風化状態が異なり、両者には時間差が想定される。	尖頭器?

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	厚 重					
第201図 PL.123	56	剥片石器 打製石斧	4区4号住居掘 方土 完形	長 幅	7.0 4.3	厚 重	1.1 35.4	黒色頁岩	完成状態。側縁は弱く開き、左縁辺に摩耗痕がある。刃部は破損した状態にあり、剥離面の稜は比較的シャープである。	撥形
第201図 PL.123	57	礫石器 凹石	5区 完形	長 幅	10.8 8.3	厚 重	3.8 360.1	粗粒輝石安山岩	表裏面と中央付近に浅い断面漏斗状の孔1がある。石材が粗く礫面の摩耗については不明瞭。	扁平礫
第201図 PL.123	58	礫石器 凹石	5区 4/5	長 幅	(10.7) 9.0	厚 重	5.7 645.9	粗粒輝石安山岩	背面側に断面漏斗状の孔1を穿つほか、裏面側に集合打痕が著しい。剝落部分が多く、被熱破損したものとみられる。	楕円礫
第201図 PL.123	59	石製品 不明	6区表土 完形	長 幅	15.8 13.6	厚 重	8.3 2190.1	粗粒輝石安山岩	背面側礫面の中央付近に長軸9.9cm・短軸9.1cm・深さ3.4cmの孔を穿つ。孔内面は良く研磨されている。	楕円礫
第201図 PL.123	60	石製品 砥石	2区 1/2?	長 幅	(14.1) 11.7	厚 重	8.4 1443.1	粗粒輝石安山岩	六面に砥面が形成され、各面ともよく使い込まれている。小口部に礫面を残す。	礫砥石
第201図 PL.123	61	石製品 砥石	3区 1/2	長 幅	(8.2) 4.7	厚 重	3.0 136.1	砥沢石	裏面側を除く各面を使用。両側面が著しく研ぎ減る。裏面側は折り取り面に近く、これを粗く磨き整形する。下端側の小口部は面取り後に磨き整形されている。	切り砥石
第202図 PL.124	62	石製品 砥石	2区表採 略完形	長 幅	12.2 14.0	厚 重	10.0 726.6	粗粒輝石安山岩	表裏面・上面・右側面に幅1~4mmの刃ならし傷を伴う研磨面が形成されている。	楕円礫
第202図 PL.124	63	石製品 不明	3区2面 完形	長 幅	4.8 3.9	厚 重	0.6 16.4	黒色頁岩	表裏面とも丁寧に全面研磨するほか、周縁のエッジを研磨整形する。径4mmの孔を両側から穿孔する。裏面側の孔周辺域を破損。	
第202図 PL.124	64	石製品 砥石	2区 1/2?	長 幅	(25.2) 21.9	厚 重	9.3 6500.0	粗粒輝石安山岩	四面使用。左右の両側面が特に使い込まれ、大きく研ぎ減る。小口部に礫面を残す。	礫砥石
第202図 PL.124	65	銅・鉄製品 蛇尾	5区2面 完形	長 幅	3.7 3.0	厚 重	0.8 18.5	メタルあり/磁性 1.4cm	銅製の表金具に鉄製の裏金具が付いた状態で出土。裏金具と表金具の間には内容物が残るが、不明である。表面は黒色で炭化物の付着が有るが、鍍金等の痕跡は見られない。	
第202図 PL.124	66	鉄製品 鉸具	3区14トレンチ 略完形	長 幅	3.1 3.6	厚 重	0.9 14.0	メタルなし/磁性 1.8cm	小型の鉸具でU・T・I型のパーツを組み合わせたとみられる。表面は硬い錆に覆われ、本体は脆弱なため、詳細は不明。	
第202図 PL.124	67	鉄製品 刀子	2区トレンチ 破片	長 幅	7.4 1.1	厚 重	0.3 7.9	メタルなし/磁性 1.6cm	棟側に明瞭な関を持つ刀子で、茎に比し刃部が極端に短く研ぎ減りと考えられる。柄の木質等は確認できない。	
第202図 PL.124	68	鉄製品 刀子	2区 完形	長 幅	13.2 1.5	厚 重	0.7 15.7	メタルなし/磁性 1.0cm	錆化が著しく、本体は空洞化し、脆弱で形状は不明瞭。茎に木質等の痕跡は見られない。	
第202図 PL.124	69	鉄製品 刀子	5区2面 破片	長 幅	9.9 1.5	厚 重	0.4 19.2	メタルあり/磁性 2.2cm	刃側に緩やかな関を持つ。茎は短く破損の可能性があるが、端部は錆に覆われ、木質の痕跡は見られない。	
第202図 PL.124	70	鉄製品 不明	4区表土 破片	長 幅	4.4 2.1	厚 重	0.3 12.0	メタルなし/磁性 1.6cm	幅2cm、厚さ3mm程の薄い板状鉄製品。一端は丸く、他端は角張り一部錆瘤により膨れている。	
第202図 PL.124	71	鉄製品 鎌	2区 完形	長 幅	15.2 4.2	厚 重	2.0 120.5	メタルなし/磁性 0.6cm	小石を巻き込み錆化する鎌で、右端部分を折り曲げ柄装着部分を形成。刃は細長く先端は丸みを持ち、研ぎ減りと考えられる。	
第202図 PL.124	72	鉄製品 釘	5区1面 先端部	長 幅	4.2 0.7	厚 重	0.7 11.9	メタルあり/磁性 2.0cm	断面6mmの角釘でほぼ直角に曲がる。先端はやや尖り、他端は劣化破損し、頭部分は欠損し不明。	
第202図 PL.124	73	鉄製品 釘	6区2号住居ト レンチ 完形	長 幅	6.5 1.2	厚 重	0.9 6.6	メタルなし/磁性 1.4cm	断面5mm程の角釘で短く先端は細く尖る。頭部分は叩いて薄くしたうえで折り曲げていると見られるが、硬い錆に覆われ、本体は脆弱のため、詳細は不明。	
第202図 PL.124	74	銅製品 煙管・雁首	1区 完形	長 幅	5.3 0.7	厚 重	1.3 8.2	メタルあり/磁性 なし	小型の火皿で細長い胴部の雁首。内部にろうの一部が残存する。	
第202図 PL.124	75	銅製品 銭貨	1区 完形	長 幅	2.4 2.4	厚 重	0.1 43.53	メタルあり/磁性 なし	「皇宗通宝」。表面は外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は平坦で外縁・郭とも不明瞭。	
第202図 PL.124	76	土製品 羽口	2区 先端部	長 幅	(5.5) (4.0)	厚 重	2.4 39.1	橙	内径1.1cm。胎土に2~3mmの礫とスサ、白色粒子が混入されている。外面には、幅1cmの直線状のナデが縦位に施されている。	
PL.124	77	炉壁	2区			重	70.6	暗青灰	製鉄炉の炉壁の一部。胎土に2~3mm大の砂粒および礫が多量に混入されている。スサの痕跡が見られる。	写真のみ掲載

6区畑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第213図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上 位1/3	口	20.6			粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は3回に分けてヘラナデ。中位に2か所小さな段が付く。工具の当たった痕跡を残す。胴部は斜位の荒いヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	被熱。

2・3区畑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第214図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口	14.8			粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	
第214図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口	14.0			粗砂粒・雲母粒/良好/にぶい 褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はヘラナデ。小片から復元、口径小さくなる可能性あり。	
第214図	3	須恵器 杯	埋没土 破片	口 底	11.6 7.4	高	3.7	粗砂粒少/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転系切り後、周縁部にナデ調整か。	
第214図	4	土師器 台付甕	埋没土 台部片				10.0	粗砂粒/良好/明赤 褐	外面は横ナデ後、上半部に縦位のヘラ削り。内面も上半部にヘラ削り。下半部に横ナデ。	
第214図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上 位片	口	20.0			粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は中位に弱い変換点がある。3回に分けて横ナデ。胴部は横位にヘラ削り。内面はヘラナデ。	

遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				長 幅	厚 重	2.0 113.5				
第214図 PL.124	6	鉄製品 斧	埋没土 完形	8.1 4.7	厚 重	2.0 113.5	メタルあり/磁性 1.4cm	袋状鉄斧で、柄装着部内に広葉樹材の木質が一部残存する。硬い錆に厚く覆われ、刃先は不明瞭だがやや片刃傾向を示す。		
第214図	7	土師器 杯	埋没土 破片	口 11.6			粗砂粒/良好/褐灰	口縁部は内傾して立ち上がる。先端は内面直下に凹線がめぐる。底部は手持ちヘラ削り。	内外面とも炭素吸着。黒色処理か。	
第214図	8	土師器 杯	埋没土 破片	口 12.0			粗砂粒・雲母粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は内傾して立ち上がる。横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデ。放射状にヘラ磨きを重ねる。	外面炭素吸着。	
第214図 PL.124	9	石製品 砥石	埋没土 完形	長 幅	12.1 5.7	厚 重	4.0 342.2	粗粒輝石安山岩	右側縁に著しい研磨痕が広がり、研磨により稜が生じている。	扁平棒状礫
第214図 PL.124	10	銅製品 銭貨	埋没土 1/2	長 幅	1.5 2.2	厚 重	0.1 51.04	メタルあり/磁性 なし	「寛永通宝」。左半分を欠損する。「寛」の字部分は劣化破損だが、「永」の字部分の端部は丸みを持ち銹欠け部分の可能性あり。	
PL.124	11	鉄滓	埋没土			重	25.1 1.0cm	メタルあり/磁性	放射割れが著しく、錆化が進んでいる。	写真のみ掲載

4区3号溝

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	高 重	0.3 8.3			
第215図	1	鉄製品 刀子	埋没土 破片	6.7 1.2	高 重	0.3 8.3	メタルなし/磁性 1.6cm	棟・刃側ともに僅かに関を持つ。刃部分は劣化破損する。茎は硬い錆に覆われ脆弱で、木質等は確認できない。	

3区4号土坑

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	厚 重	6.4 822.8			
第216図 PL.124	1	石製品 砥石	埋没土 完形	13.7 7.7	厚 重	6.4 822.8	粗粒輝石安山岩	背面側中央に著しい研磨痕が広がるほか、右側縁・裏面側に著しい敲打痕がある。	楕円礫

2区1号焼土

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	厚 重	6.4 822.8			
第217図	1	須恵器 杯	埋没土 底部片				白色鈹物粒・赤黒色粘土粒/還元焰・やや軟質/灰黄	小破片。ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付け高台であるが、殆ど欠損。	
第217図	2	埴輪 円筒 (朝顔形)	埋没土 肩部~胴部1/3				粗砂粒・赤色粘土粒多/良好/橙	直径細く肩部は緩やかに内彎、頸部へと続く。外面は縦ハケ(12本/ 2cm)後、断面台形の突帯貼付。周縁部に横ナデ。	内面摩滅。
第217図	3	埴輪 円筒 (朝顔形)	埋没土 頸部~肩部片				粗砂粒・黒色鈹物粒/良好/橙	外面の縦ハケ(11本/ 2cm)後、突帯を貼付。その後、周縁部に横ナデを施す。突帯の断面形は上段が三角形、下段が台形か。肩部に円形の透孔を配す。内面はハケ目にナデを重ねる。	

2区2号焼土

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 幅	厚 重				
第217図	1	土師器 羽釜	埋没土 口縁部~胴部上位片	口 22.0			粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。鏝部は成・整形後に貼付。胴部は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に鉄分を含む土粒付着。